

SETSUNAN UNIVERSITY  
**SYLLABUS**

2015 理 工 学 部 授業  
計 画  
建 築 学 科

理 工 学 部

(学部略号：T)

Faculty of Science and Engineering

建築学科

(学科略号：A)

Department of Architecture

## 理工学部共通の理念と学習・教育到達目標

2015.4.1

理念	人間性豊かな専門職業人をめざし、科学技術者として必要な基礎知識と実践力を有し、社会の問題を解決できる人材を育成する。	
記号	テーマ	内容
I	科学技術教養	科学技術の幅広い分野に関する基礎知識を身につけ、新しい情報に対して知的好奇心を有する。
II	人文社会教養	わが国と世界の文化、社会、歴史、思想などに関する基礎知識を身につけ、社会問題に対して関心を有する。
III	科学技術者倫理	科学技術者としての誇りと謙虚さを有し、科学技術が社会に与える影響の大きさを理解し、判断することができる。また、社会生活においては、他者の模範として規範やマナーを遵守することができる。
IV	数理能力	数学、科学、情報処理の基礎知識を身につけ、与えられた課題に対しては、定量的に分析し解を求めることができる。
V	専門実践力 (学科独自)	専門分野の基礎知識を有し、実践的な解決ができる。
VI	コミュニケーション力	科学技術者として必要な日本語による記述力、対話力、傾聴力、発表力を身につける。また、国際的コミュニケーションのための基本的な意思疎通ができる能力を有する。
VII	学習習慣	自主的に情報収集を行ったり、自ら学習する習慣を身につける。科学技術的課題の解決、キャリア形成のために計画的に自主学習ができる。
VIII	課題解決能力	科学技術的課題に対して、チームワークを発揮して計画的に解決策を見つけていくことができる。

## 建築学科の理念と学習・教育到達目標

2015.4.1

理念	<p>建築学科は、広範な人間の生活環境に対する的確な問題意識をもち、生活基盤となる建築・都市空間の安全性、機能性、審美性の追及と、社会や環境への適切な配慮のできる包括的な知識と技能、さらには倫理観をもった、建築設計および建築生産など実践的な業務にかかわる専門職業人技術者の育成をめざす学科である。</p>
----	--

記号	テーマ	内容
A	工学技術者としての幅広い視野と教養	工学技術者として求められる幅広い視野と教養を身につけ、社会の抱える問題を説明できる
B	建築・都市工学技術者としての倫理的な判断	技術が人間社会や自然に与える影響、および建築・都市工学技術者の果たすべき役割について学び、倫理的に判断できる
C	建築・都市工学技術者としてのコミュニケーション能力	語学教育により国内外の文献や資料から幅広い知識を獲得でき、また建築・都市工学技術者として日本語および外国語を用いたコミュニケーションができる
D	建築・都市工学技術の理解を深めるための数学・自然科学教育	建築・都市工学技術者として必要な専門知識の理解を深めるために、数学や物理学などの基礎的な考え方が説明でき、それらを応用できる
E	建築・都市工学に必要な空間表現と情報処理技術	建築・都市工学技術者に求められる空間表現と情報処理技術を学び効果的にプレゼンテーションができる
F	建築・都市計画に関する基礎的知識	建築・都市計画に必要な、計画・意匠・歴史・環境に関する基礎的な考え方が説明でき、それらを応用できる
G	チームワーク力を発揮したデザイン提案力	建築・都市の問題点と課題の抽出方法および改善提案に結びつく調査・分析方法を学び、チームワーク力を発揮して社会の問題を解決するためのデザインを提案できる
H	建築構造・施工管理に関する基礎的知識	建築構造設計および施工管理に関する建築材料、構造設計および施工管理の基礎的な考え方が説明でき、それらを応用できる

## 科目履修にあたっての注意事項

科目の内容を理解するためには、授業に出席することがとても重要です。特に、専門科目では、下記のように期末試験だけの成績が良くても単位取得できないことがあります。また、1～7に示した出席管理のルールや成績評価の方法は科目により若干異なるので、シラバスをよく読み、教員のアナウンスや掲示板の掲示に注意してください。

1. 各教室に掲示されている「授業中におけるマナーについて」にマナー違反としてあげられている項目について、このような行為を行い注意に従わない場合は、退室を求め、欠席とします。
2. 講義は、原則として出席率80%を成績評価の対象とします。
3. 演習・ゼミ・製図・実験・実習科目では、原則として出席率100%を成績評価の対象とします。
4. 講義・演習・ゼミ・製図科目では、原則として30分以上の遅刻は欠席扱いとします。
5. 実験・実習科目では、原則として15分以上の遅刻は欠席扱いとします。
6. 遅刻は、原則として2回で欠席1回とみなします。
7. 病欠、クラブなどの欠席では、教員の指示に従って課題等をすみやかに提出してください。



# 授 業 計 画





科目名	担当者	ページ
<b>イ</b>		
インターンシップ I	水野 武	145
インターンシップ II	水野 武	147
インテリア概論	大谷 由紀子	9
<b>エ</b>		
英語基礎会話 a	ジョセフ シウンシ	149
英語基礎会話 b	アイビス ウイリアム	151
英語で学ぶ工学入門 (ものづくり編)	森 脇 俊 道	153
<b>カ</b>		
海外語学研修	齋 藤 安以子	154
解析学	寺 本 惠 昭	10
科学英語	中 道 英美子	155
科学技術教養 C 1	頭 井 洋	157
科学技術教養 C 2	頭 井 洋	159
科学技術教養 E 1	鹿 間 信 介	161
科学技術教養 E 2	鹿 間 信 介	163
科学技術教養 M 1	諏 訪 晴 彦	165
科学技術教養 M 2	岸 本 直 子	167
科学技術教養 R 1	森 山 正 和	169
科学技術教養 R 2	竹 村 明 久	171
科学技術教養 V 1	芳 本 忠	173
科学技術教養 V 2	芳 本 忠	175
<b>キ</b>		
幾何学 I	小 林 俊 公	11
幾何学 II	島 田 伸 一	12
企業経営	北 尾 隆 夫	177
技術英語	中 道 英美子	179
基礎英語 I a	ジェフリー ベル	184
基礎英語 I a	黒 川 尚 彦	188
基礎英語 I a	山 内 浩 充	183
基礎英語 I a	松 井 智 子	186
基礎英語 I a	田 中 健 二	181
基礎英語 I b	三 木 浩 平	198
基礎英語 I b	小 川 一 美	190
基礎英語 I b	松 下 乃 亜	196
基礎英語 I b	東 野 厚 子	192
基礎英語 I b	本 多 善	194
基礎英語 II a	ジェフリー ベル	203
基礎英語 II a	黒 川 尚 彦	207
基礎英語 II a	山 内 浩 充	202
基礎英語 II a	松 井 智 子	205
基礎英語 II a	田 中 健 二	200
基礎英語 II b	三 木 浩 平	217
基礎英語 II b	小 川 一 美	209
基礎英語 II b	松 下 乃 亜	215
基礎英語 II b	東 野 厚 子	211
基礎英語 II b	本 多 善	213
基礎数学演習	小 林 俊 公	13

科目名	担当者	ページ
基礎力学演習	前 田 純一郎	14
北河内学—摂南大学と北河内を知る—	尾 山 廣	219
キャリアデザイン I (BASIC)	水野 武	221
キャリアデザイン II (ADVANCE)	石 井 三 恵	223
教育課程論	大 野 順 子	345
教育経営論	朝 日 素 明	347
教育原理	小 山 裕 樹	349
教育実習 I	林 茂 樹	351
教育実習 II	吉 田 佐治子	352
教育実習 III	吉 田 佐治子	354
教職実践演習 (中・高)	吉 田 佐治子	356
教育社会学	大 野 順 子	358
教育心理学	吉 田 佐治子	360
教育相談	吉 田 佐治子	361
教育方法論	林 茂 樹	362
教師論	朝 日 素 明	364
近代建築史	竹 内 正 明	15
近代文学から学ぶ	細 川 知佐子	224
<b>ク</b>		
空間表現論	山 本 一 貴	17
<b>ケ</b>		
健康科学	藤 林 真 美	225
健康論	内 部 昭 彦	227
現代作品論	竹 内 正 明	18
現代と地理学	笠 原 俊 則	229
建築環境工学 I	宮 本 征 一	20
建築環境工学 II	宮 本 征 一	22
建築環境工学 III	原 直 也	24
建築環境工学演習	宮 本 征 一	25
建築関連法規	笠 井 精 二	27
建築企画	生 川 慶 一 郎	29
建築計画各論	木 多 彩 子	30
建築計画基礎	小 林 健 治	31
建築材料 I	柳 沢 学	32
建築材料 II	高 木 恭 子	33
建築情報処理応用	宮 本 征 一	34
建築情報処理基礎	木 多 彩 子	35
建築施工 I	林 浩 二	36
建築施工 II	林 浩 二	37
建築設備学	宮 本 征 一	38
建築ゼミ I	柳 沢 学	40
建築ゼミ II	柳 沢 学	41
建築ゼミ III	柳 沢 学	43
建築法規	寺 西 興 一	44
建築倫理	飯 田 匡	45
<b>コ</b>		
工業科教育法	福 岡 優	366
工業科教育法 I	福 岡 優	368
工業科教育法 II	福 岡 優	369

科目名	担当者	ページ
工業数学Ⅰ	小 泉 耕 蔵	47
工業数学Ⅱ	小 泉 耕 蔵	48
鋼構造Ⅰ	谷 口 与史也	49
鋼構造Ⅱ	上 谷 宏 二	50
構造実験	柳 沢 学	52
構造力学・構造基礎	池 内 淳 子	54
構造力学Ⅰ	池 内 淳 子	56
構造力学Ⅰ a	池 内 淳 子	58
構造力学Ⅰ b	池 内 淳 子	60
構造力学Ⅱ	上 谷 宏 二	62
構造力学Ⅲ	上 谷 宏 二	63
国際理解概論	田 添 篤 史	230
古典文学から学ぶ	細 川 知佐子	232
コミュニケーションⅠ	櫻 井 清 華	233
コミュニケーションⅡ	櫻 井 清 華	234

## サ

材料デザイン	伊 熊 昌 治	64
産業技術史	照 元 弘 行	235
産業社会と知的財産	関 堂 幸 輔	237

## シ

実践英語上級	後 藤 一 章	239
実践英語初級	栢 木 敦 子	245
実践英語初級	高 橋 章 夫	249
実践英語初級	大 江 麻里子	243
実践英語初級	谷 脇 康 子	241
実践英語初級	田 村 康 子	248
実践英語中級	吉 村 征 洋	260
実践英語中級	住 吉 誠	258
実践英語中級	松 浦 茂 寿	255
実践英語中級	西 美都子	256
実践英語中級	西 谷 継 治	252
実践英語中級	中 島 直 嗣	253
実践英語中級	中 野 華 子	250
実践英語入門	松 浦 茂 寿	266
実践英語入門	西 美都子	268
実践英語入門	西 谷 継 治	263
実践英語入門	中 島 直 嗣	264
実践英語入門	中 野 華 子	261
実践の思想	柿 本 佳 美	270
実践の思想	島 田 喜 行	272
地盤工学	細 野 久 幸	66
社会と人権	有 馬 善 一	273
	林 田 敏 子	
	松 島 裕 一	
社会の仕組み	金 政 芸	275
社会の仕組み	谷 口 裕 久	276
就職実践基礎	亀 田 峻 宣	278
就職実践基礎	亀 田 峻 宣	283
就職実践基礎	橋 本 朗 子	280
就職実践基礎	松 田 剛 典	281

科目名	担当者	ページ
就職実践基礎	西 座 由 紀	279
就職実践基礎	西 座 由 紀	282
生涯スポーツ実習	河 瀬 泰 治	284
生涯スポーツ実習	河 瀬 泰 治	285
生涯スポーツ実習	近 藤 潤	286
情報リテラシーⅠ	藤 原 稔 久	68
情報リテラシーⅡ	藤 原 稔 久	69
職業指導	水 野 武	370
職業指導Ⅰ	水 野 武	372
職業指導Ⅱ	水 野 武	373
心理と社会	牧 野 幸 志	287

## ス

数学科教育法Ⅰ	寺 本 惠 昭	374
数学科教育法Ⅱ	小 林 俊 公	376
数学科教育法Ⅲ	大 西 慶 一	378
数学科教育法Ⅳ	大 西 慶 一	380
図学Ⅰ	木 多 彩 子	288
図学Ⅱ	小 林 健 治	289
スポーツ科学実習Ⅰ	河 瀬 泰 治	290
スポーツ科学実習Ⅱ	河 瀬 泰 治	291

## セ

青少年育成ファシリテーター養成講座	浅 野 英 一	292
生徒指導論	朝 日 素 明	382
西洋建築史	加 嶋 章 博	70
設計演習Ⅰ	加 嶋 章 博	72
設計演習Ⅱ a	大 谷 由紀子	73
設計演習Ⅱ b	木 多 彩 子	74
設計演習Ⅲ a	竹 原 義 二	75
設計演習Ⅲ b	小 林 健 治	76
線形代数Ⅰ	黒 木 和 雄	78
線形代数Ⅰ	西 脇 純 一	77
線形代数Ⅱ	黒 木 和 雄	79
線形代数Ⅱ	西 脇 純 一	80
専門日本語 FⅠ	中 岡 樹 里	129
専門日本語 FⅡ	中 岡 樹 里	130

## ソ

造形演習Ⅰ	井 村 良 裕	81
造形演習Ⅱ	井 村 良 裕	83
測量	長 岡 弘 隆	85
卒業研究	加 嶋 章 博	90
卒業研究	宮 本 征 一	89
卒業研究	小 林 健 治	95
卒業研究	上 谷 宏 二	91
卒業研究	大 谷 由紀子	93
卒業研究	池 内 淳 子	94
卒業研究	竹 原 義 二	92
卒業研究	木 多 彩 子	87
卒業研究	柳 沢 学	86
卒業研究	柳 沢 学	88

科目名	担当者	ページ
<b>タ</b>		
耐震工学	足立博之	96
代数学	中津了勇	97
ダイバーシティとコミュニケーション	石井三恵	293
<b>チ</b>		
地域連携教育活動Ⅰ	浅野英一	294
地域連携教育活動Ⅱ	浅野英一	295
チームビルディング	水野武	296
地球環境論	宮本征一	98
<b>テ</b>		
哲学から学ぶ	柿本佳美	297
哲学から学ぶ	島田喜行	299
鉄筋コンクリート構造Ⅰ	柳沢学	100
鉄筋コンクリート構造Ⅱ	柳沢学	101
<b>ト</b>		
統計学	中津了勇	102
道徳教育の研究	小山裕樹	383
特別活動の理論と方法	林茂樹	385
都市・地域計画	加嶋章博	103
<b>ニ</b>		
日本建築史	中川等	104
日本語会話FⅠ	高井美穂	131
日本語会話FⅡ	高井美穂	132
日本国憲法	大仲淳介	300
日本語上級会話FⅠ	高井美穂	302
日本語上級会話FⅡ	高井美穂	303
日本語上級作文FⅠ	中岡樹里	304
日本語上級作文FⅡ	中岡樹里	305
日本語上級読解FⅠ	古川由理子	306
日本語上級読解FⅡ	古川由理子	307
日本語総合FⅠ	古川由理子	133
日本語総合FⅡ	古川由理子	134
日本語読解	松尾佳津子	310
日本語読解	濱中祐子	308
日本語読解FⅠ	中岡樹里	135
日本語読解FⅡ	中岡樹里	136
日本語表現	松繁弘之	312
日本語表現作文FⅠ	中岡樹里	137
日本語表現作文FⅡ	中岡樹里	138
日本語文法FⅠ	中岡樹里	139
日本語文法FⅡ	中岡樹里	140
日本事情FⅠ	門脇薫	141
日本事情FⅡ	門脇薫	142
日本の政治	中沼丈晃	313
人間力と心理	毛新華	315

科目名	担当者	ページ
<b>ハ</b>		
犯罪被害者と法的救済	小野晃正	317
<b>ヒ</b>		
ビジネスマナー	石井三恵	340
微積分Ⅰ	寺本恵昭	105
微積分Ⅰ	中津了勇	106
微積分Ⅰ	田畑謙二	107
微積分Ⅱ	島田伸一	108
微積分Ⅱ	東武大	109
<b>フ</b>		
物理学Ⅰ	長島健	111
物理学Ⅱ	前田純一郎	112
物理学実験	東谷篤志	113
武道論	横山喬之	319
<b>ホ</b>		
法学入門	大仲淳介	320
保存再生論	加藤俊明	115
<b>マ</b>		
マーケティング	鶴坂貴恵	322
マーケティングと歴史	武居奈緒子	324
マクロ経済学入門	伊藤正純	325
マクロ経済学入門	久保廣正	327
<b>ミ</b>		
身近な犯罪から自分、家族、まちを守る	中沼丈晃	328
<b>モ</b>		
ものづくりインターンシップ基礎	奥野竜平	330
ものづくりインターンシップ基礎	川野常夫	332
ものづくりインターンシップ実践	奥野竜平	333
ものづくり海外インターンシップ	川野常夫	335
<b>ヤ</b>		
役立つ金融知力	陸川富盛	336
<b>ユ</b>		
ユニバーサルデザイン	大谷由紀子	117
<b>リ</b>		
力学Ⅰ	松尾純子	118
力学Ⅰ	東谷篤志	120
力学Ⅱ	松尾純子	122
力学Ⅱ	前田純一郎	123
理工学基礎実験	池内淳子	124
緑地計画	吉永規夫	125

レ

歴史に学ぶ	佐伯智広	338
歴史に学ぶ	村上司樹	339

# 專 門 科 目



科目名	インテリア概論	科目名(英文)	Introduction to Interior Design
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	大谷 由紀子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	[授業概要・目的] 建築空間を身体、生活、行動、心理、環境などの視点から考える講義である。建築計画におけるインテリアという考え方、および基礎的知識について解説し、具体的事例を参照しながら計画手法を講義する。
到達目標	[到達目標] 建築の内部計画に必要な基礎的知識を習得する。具体的には 1) インテリアという考え方の理解、2) インテリアの基礎知識の習得、3) インテリアを構成する要素の理解 学科の学習・教育目標との対応：[G]
授業方法と留意点	板書のほかに、スライドや写真、DVDなどで事例を紹介する。 授業時間内で予習・復習課題を課す。 上記以外に、雑誌をみたり話題の建築を見学し、多くの建築空間を体験してほしい。
科目学習の効果(資格)	設計演習Ⅲa、Ⅲb、および、一級・二級建築士資格試験取得のための重要な科目である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	インテリアという考え方	インテリアの歴史と建築の考え方	予習課題
	2	行動・心理	人の動き、心理と空間	復習・予習課題
	3	ライフスタイル	暮らし方、コミュニケーションと空間	復習・予習課題
	4	インテリアの構成要素1	床・壁・天井のかたち	復習・予習課題
	5	インテリアの構成要素2	階段、スロープ、フロアの接続とかたち	復習・予習課題
	6	インテリアの構成要素3	開口部、窓の役割とかたち	復習・予習課題
	7	ケーススタディ	住宅の内部空間	復習・予習課題
	8	空間の見え方1	色の効果と見え方	復習・予習課題
	9	空間の見え方2	自然光と人工照明	復習・予習課題
	10	空間の見え方3	仕上げの役割と種類	復習・予習課題
	11	家具	家具から建築へ	復習・予習課題
	12	ケーススタディ	集合住宅の内部空間	復習・予習課題
	13	ケーススタディ	商業施設の内部空間	復習・予習課題
	14	ケーススタディ	オフィスの内部空間	復習・予習課題
	15	ケーススタディ	コンバージョン、リノベーションの動向	—

関連科目	専門科目全般、特に、建築計画各論・設計演習Ⅱa、Ⅱb、Ⅲa、Ⅲb、建築環境工学
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	世界で一番美しい建築デザインの教科書	鈴木敏彦ほか	エクスナレッジ
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	コンパクト建築資料集成	日本建築学会	丸善
	2			
	3			

評価方法(基準)	期末試験(70%)、レポートおよび復習課題(30%)
学生へのメッセージ	様々な建築空間を体験し、そこでの人々のふるまいを観察することが重要です。また、空間の印象、特徴、居心地のよさ、問題点などが何に依るのか、空間を読み取った結果を、課題を通じて発表の機会を設けます。
担当者の研究室等	8号館3階 大谷准教授室
備考	見学可能な良好な事例があれば、建築や展覧会などの見学を催すこともある。詳細は授業で伝達する。 事前学習：授業のテーマに即して、毎回0.5時間程度、文献や事例を調べておく。 事後学習：授業内容について、毎回0.5時間以上確認、または、課題を行う。

科目名	解析学	科目名(英文)	Analysis
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	寺本 恵昭
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教科に関する科目(中学校・高等学校 数学) 【施行規則に定める科目区分】解析学 【教員免許状取得のための履修区分】必修	

授業概要・目的	微積分学の厳密な展開を目標にする。理工学部初年度の微積分では計算技法の習得に主眼がおかれ、その基礎となる実数についての理解は直感にたよっている。この授業では、実数を厳密に構成しそれに基づいて連続、収束の概念の明確な理解をめざす。そして連続関数、微分可能関数のもつ重要な性質の理解、また関数の集合が与えられたときの関数族としてもつ性質についての理解を目標にする。
到達目標	関数の収束概念、各点収束と一様収束の違いを理解する。微分方程式や積分方程式などの解の存在定理および解の定性的性質を示すために一様収束の概念がどのように有効に働いているのかを理解し、数理工学に現れる諸問題の数値計算や近似計算ができる。 学習到達目標：A科E科[D]、R科[B]、M科[C1]、工学部C科[C]、理工学部C科[IV]
授業方法と留意点	授業は以下の科目を履修していることを前提にして進める： 線形代数 I、線形代数 II、微積分 I、微積分 II 講義を基本とし理解度をみるため適宜演習をおこなう。また他者に説明できるまで授業内容を把握しているかもみるので出席を重視する。
科目学習の効果(資格)	数学教職免許取得に不可欠。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	実数の構成と性質(1)	論証の用語、和集合、共通部分 有理数と実数	課題レポート
2	実数の構成と性質(2)	無限集合、濃度の比較、 有理数の可算性と実数の非可算性	課題レポート
3	実数の構成と性質(3)	実数の連続性、実数の作る集合の性質 限・下限、上極限・下極限、 数列の極限、 $\epsilon$ - $N$ 論法	課題レポート
4	実数の構成と性質(4)	コーシー列、実数の完備性、 ボルツァーノ・ワイエルシュトラスの定理	課題レポート
5	関数の性質(1)	関数の定義、関数の極限、 関数の連続性と $\epsilon$ - $\delta$ 論法、	課題レポート
6	関数の性質(2)	中間値の定理、最大値・最小値の存在	課題レポート
7	連続関数	逆関数の定義、合成関数の連続性、 一様連続性、 リプシッツ・ヘルダー連続性	課題レポート
8	微分と積分(1)	微分係数の定義、導関数の定義 微分可能な関数の作る空間	課題レポート
9	微分と積分(2)	リーマン積分可能性と定積分、 微積分の基本定理	課題レポート
10	平均値の定理とテーラー展開(1)	ロルの定理、コーシーの平均値の定理、 有限増分の公式	課題レポート
11	平均値の定理とテーラー展開(2)	べき級数の収束と収束半径 多項式近似定理	課題レポート
12	関数列	数列の収束と関数列の収束 一様収束と各点収束、	課題レポート
13	関数空間	関数の作る空間、ノルム区間と完備性、 アスコリ・アルツェラの定理、	課題レポート
14	関数方程式と関数空間(1)	関数方程式と関数空間 縮小写像の原理と不動点定理	課題レポート
15	関数方程式と関数空間(2)	色々な関数方程式と解の存在	課題レポート

関連科目 微積分 I・II、線形代数 I・II、力学、物理学など。特に微積分 I・II の修得は不可欠。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	適宜プリント教材を配布する。		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	レポート30%、定期テスト(期末)70%で判定し評価する。
学生へのメッセージ	講義内容に関することはどんな事でも遠慮なく質問すること。いつでも親切に答えるようにしています。参考書を貸し出しますので相談に来て下さい。また、チューデントアワー(月-金の5限目)には3号館3階準備室に数学教員がいますので数学、自然科学に関するどんな質問でも気楽においで下さい。
担当者の研究室等	3号館3階 数学研究室
備考	事前事後学習は、毎回1時間以上かけること。



科目名	幾何学 I	科目名 (英文)	Geometry I
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小林 俊公
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目 (中学校 数学)【施行規則に定める科目区分】「幾何学」【教員免許状取得のための履修区分】必修【科目】教科に関する科目 (高等学校 数学)【施行規則に定める科目区分】「幾何学」【教員免許状取得のための履修区分】必修		

授業概要・目的	幾何学は、公理と公準から正しい推論により導かれる命題の体系として確立された最初の学問である。三角形、四辺形、円などの図形の性質を学ぶとともに、古典幾何の形成をたどりながら、論理的に述べられた文章を理解し、論理的に考え、論理的に記述することができるようになることを目的とする。																																																																
到達目標	(1) 命題に関する基本的な事柄について理解している。 (2) 命題の基本的な証明方法を使うことができる。 (3) 線分、角、三角形、四辺形、円などの図形に関する基本的な事柄について理解している。 (4) 平行線の公理について理解している。 (5) 三角形、四辺形、円などの図形に関する基本的な命題を、定義や公理を用いて証明することができる。  学科の学習・教育到達目標との対応：A科, E科[D], R科[B], M科[C1], 工学部C科[C], 理工学部C科[IV]																																																																
授業方法と留意点	講義を中心に行います。授業中は集中して、論理的な文章の理解の仕方、記述の仕方等を揃んでいってください。また毎回の課題レポートは、時間をかけて取り組むようにしましょう。論理的な文章が書けるように、練習を積んでください。																																																																
科目学習の効果 (資格)	数学における論理を平面幾何を通じて学ぶことは、内容の異なる代数学や解析学の理解にもつながる。																																																																
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>推論と証明(1)</td><td>命題、三段論法、背理法</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>2</td><td>推論と証明(2)</td><td>命題の逆、対偶、必要十分条件</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>3</td><td>平面幾何の諸定理(1)</td><td>合同の概念、線分と角の合同</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>4</td><td>平面幾何の諸定理(2)</td><td>三角形の合同定理</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>5</td><td>平面幾何の諸定理(3)</td><td>直角の存在、垂線の存在</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>6</td><td>平面幾何の諸定理(4)</td><td>三角不等式、線分の中点、角の2等分線</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>7</td><td>平面幾何の諸定理(5)</td><td>三角形の外心、内心、重心、垂心</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>8</td><td>平面幾何の諸定理(6)</td><td>円に内接する4角形</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>9</td><td>平行線の公理(1)</td><td>三角形の内角の和</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>10</td><td>平行線の公理(2)</td><td>平行4角形の性質、長方形の存在</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>11</td><td>平面幾何学の公理系(1)</td><td>点と直線、無定義の用語、公理</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>12</td><td>平面幾何学の公理系(2)</td><td>あらためて平行線の公理、直角仮説</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>13</td><td>平面幾何学の公理系(3)</td><td>非ユークリッド幾何</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>14</td><td>平面上の曲線</td><td>2次曲線、媒介変数表示</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>15</td><td>複素数平面</td><td>複素数による図形表示、ド・モアブルの定理</td><td>課題レポート</td></tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	推論と証明(1)	命題、三段論法、背理法	課題レポート	2	推論と証明(2)	命題の逆、対偶、必要十分条件	課題レポート	3	平面幾何の諸定理(1)	合同の概念、線分と角の合同	課題レポート	4	平面幾何の諸定理(2)	三角形の合同定理	課題レポート	5	平面幾何の諸定理(3)	直角の存在、垂線の存在	課題レポート	6	平面幾何の諸定理(4)	三角不等式、線分の中点、角の2等分線	課題レポート	7	平面幾何の諸定理(5)	三角形の外心、内心、重心、垂心	課題レポート	8	平面幾何の諸定理(6)	円に内接する4角形	課題レポート	9	平行線の公理(1)	三角形の内角の和	課題レポート	10	平行線の公理(2)	平行4角形の性質、長方形の存在	課題レポート	11	平面幾何学の公理系(1)	点と直線、無定義の用語、公理	課題レポート	12	平面幾何学の公理系(2)	あらためて平行線の公理、直角仮説	課題レポート	13	平面幾何学の公理系(3)	非ユークリッド幾何	課題レポート	14	平面上の曲線	2次曲線、媒介変数表示	課題レポート	15	複素数平面	複素数による図形表示、ド・モアブルの定理	課題レポート
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																														
1	推論と証明(1)	命題、三段論法、背理法	課題レポート																																																														
2	推論と証明(2)	命題の逆、対偶、必要十分条件	課題レポート																																																														
3	平面幾何の諸定理(1)	合同の概念、線分と角の合同	課題レポート																																																														
4	平面幾何の諸定理(2)	三角形の合同定理	課題レポート																																																														
5	平面幾何の諸定理(3)	直角の存在、垂線の存在	課題レポート																																																														
6	平面幾何の諸定理(4)	三角不等式、線分の中点、角の2等分線	課題レポート																																																														
7	平面幾何の諸定理(5)	三角形の外心、内心、重心、垂心	課題レポート																																																														
8	平面幾何の諸定理(6)	円に内接する4角形	課題レポート																																																														
9	平行線の公理(1)	三角形の内角の和	課題レポート																																																														
10	平行線の公理(2)	平行4角形の性質、長方形の存在	課題レポート																																																														
11	平面幾何学の公理系(1)	点と直線、無定義の用語、公理	課題レポート																																																														
12	平面幾何学の公理系(2)	あらためて平行線の公理、直角仮説	課題レポート																																																														
13	平面幾何学の公理系(3)	非ユークリッド幾何	課題レポート																																																														
14	平面上の曲線	2次曲線、媒介変数表示	課題レポート																																																														
15	複素数平面	複素数による図形表示、ド・モアブルの定理	課題レポート																																																														
関連科目	微積分 I・II、線形代数 I・II など。																																																																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																														
1																																																																	
2																																																																	
3																																																																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>幾何入門</td><td>砂田利一</td><td>岩波書店</td></tr> <tr><td>2</td><td>幾何への誘い</td><td>小平邦彦</td><td>岩波書店</td></tr> <tr><td>3</td><td>幾何のおもしろさ</td><td>小平邦彦</td><td>岩波書店</td></tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	幾何入門	砂田利一	岩波書店	2	幾何への誘い	小平邦彦	岩波書店	3	幾何のおもしろさ	小平邦彦	岩波書店																																																
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																														
1	幾何入門	砂田利一	岩波書店																																																														
2	幾何への誘い	小平邦彦	岩波書店																																																														
3	幾何のおもしろさ	小平邦彦	岩波書店																																																														
評価方法 (基準)	レポート、演習、小テストで30%、定期テストで70%の割合で判定し評価する。																																																																
学生へのメッセージ	授業の中でわからないことがあれば遠慮なく質問してください。また、毎回の課題レポートでは難しいものもあるかもしれませんが、まずは「考えることに意義がある」と思って、じっくり取り組んでください。そしてできるだけ欠かさず提出することを心がけましょう。																																																																
担当者の研究室等	3号館3階 数学研究室																																																																
備考	事前事後学習は、毎回1時間以上かけること。																																																																

科目名	幾何学Ⅱ	科目名(英文)	Geometry II
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	島田 伸一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目(中学校 数学)【施行規則に定める科目区分】「幾何学」【教員免許状取得のための履修区分】選択【科目】教科に関する科目(高等学校 数学)【施行規則に定める科目区分】「幾何学」【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	微分幾何学の見地から、日常によくみる曲面、曲線がいかに分類されているのか、その理解を目標とする。																																																																		
到達目標	<p>基礎知識を身につけ、課題に対して定量的な解を求めることができる基礎的能力を有する：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 2次曲線の焦点・準線・極形式を理解する</li> <li>2) 焦点の性質と微分方程式を用いた解析を理解する</li> <li>3) 2次曲線を座標軸の回転により標準形に直す</li> <li>4) 平面曲線の弧長・曲率を理解する</li> <li>5) 曲面の接平面を理解する</li> <li>6) 曲面積分と曲面の重心が計算できる。</li> </ol> <p>学科の学習・教育到達目標との対応：A科, E科[D], R科[B], M科[C1]、工学部C科[C]、理工学部C科[IV]</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>授業は以下の科目を履修していることを前提に進める： 線形代数Ⅰ、線形代数Ⅱ、微積分Ⅰ、微積分Ⅱ</p> <p>講義を基本とし理解度をみるため適宜演習をおこなう。また他者に説明できるまで授業内容を把握しているかもみるので出席を重視する。</p>																																																																		
科目学習の効果(資格)	<p>教職科目なので教員の資格を得るためには取る事が望ましい。空間の理解に役に立ち、線形代数・微積分のみごとな応用を見る事ができる。</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>2次曲線(1)</td><td>放物線、グラフ、標準形、準線、焦点、極形式</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>2</td><td>2次曲線(2)</td><td>放物線の焦点の性質、接線(接空間)、微分方程式を立てて解く。</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>3</td><td>2次曲線(3)</td><td>楕円、標準形、準線、焦点、極形式</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>4</td><td>2次曲線(4)</td><td>楕円の焦点の性質、接線(接空間)、パラメータ表示、面積</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>5</td><td>2次曲線(5)</td><td>双曲線、標準形、準線、焦点、極形式</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>6</td><td>2次曲線(6)</td><td>双曲線の焦点の性質、接線(接空間)、パラメータ表示、微分方程式を立てて解く。</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>7</td><td>2次曲線(7)</td><td>座標軸の回転と固有値</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>8</td><td>2次曲線(8)</td><td>固有値による2次曲線の分類</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>9</td><td>平面の曲線(1)</td><td>弧長、曲率</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>10</td><td>平面の曲線(2)</td><td>曲率円</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>11</td><td>平面曲線(3)</td><td>曲率と平面曲線の特徴付け、フルネセレーの公式</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>12</td><td>空間内の曲面(1)</td><td>陰関数表示、パラメータ表示、接平面</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>13</td><td>空間内の曲面(2)</td><td>曲面積分、曲面積、重心</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>14</td><td>空間内の曲面(3)</td><td>平均曲率、ガウス曲率(1)</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>15</td><td>空間内の曲面(4)</td><td>平均曲率、ガウス曲率(2)</td><td>課題レポート</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	2次曲線(1)	放物線、グラフ、標準形、準線、焦点、極形式	課題レポート	2	2次曲線(2)	放物線の焦点の性質、接線(接空間)、微分方程式を立てて解く。	課題レポート	3	2次曲線(3)	楕円、標準形、準線、焦点、極形式	課題レポート	4	2次曲線(4)	楕円の焦点の性質、接線(接空間)、パラメータ表示、面積	課題レポート	5	2次曲線(5)	双曲線、標準形、準線、焦点、極形式	課題レポート	6	2次曲線(6)	双曲線の焦点の性質、接線(接空間)、パラメータ表示、微分方程式を立てて解く。	課題レポート	7	2次曲線(7)	座標軸の回転と固有値	課題レポート	8	2次曲線(8)	固有値による2次曲線の分類	課題レポート	9	平面の曲線(1)	弧長、曲率	課題レポート	10	平面の曲線(2)	曲率円	課題レポート	11	平面曲線(3)	曲率と平面曲線の特徴付け、フルネセレーの公式	課題レポート	12	空間内の曲面(1)	陰関数表示、パラメータ表示、接平面	課題レポート	13	空間内の曲面(2)	曲面積分、曲面積、重心	課題レポート	14	空間内の曲面(3)	平均曲率、ガウス曲率(1)	課題レポート	15	空間内の曲面(4)	平均曲率、ガウス曲率(2)	課題レポート
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	2次曲線(1)	放物線、グラフ、標準形、準線、焦点、極形式	課題レポート																																																																
2	2次曲線(2)	放物線の焦点の性質、接線(接空間)、微分方程式を立てて解く。	課題レポート																																																																
3	2次曲線(3)	楕円、標準形、準線、焦点、極形式	課題レポート																																																																
4	2次曲線(4)	楕円の焦点の性質、接線(接空間)、パラメータ表示、面積	課題レポート																																																																
5	2次曲線(5)	双曲線、標準形、準線、焦点、極形式	課題レポート																																																																
6	2次曲線(6)	双曲線の焦点の性質、接線(接空間)、パラメータ表示、微分方程式を立てて解く。	課題レポート																																																																
7	2次曲線(7)	座標軸の回転と固有値	課題レポート																																																																
8	2次曲線(8)	固有値による2次曲線の分類	課題レポート																																																																
9	平面の曲線(1)	弧長、曲率	課題レポート																																																																
10	平面の曲線(2)	曲率円	課題レポート																																																																
11	平面曲線(3)	曲率と平面曲線の特徴付け、フルネセレーの公式	課題レポート																																																																
12	空間内の曲面(1)	陰関数表示、パラメータ表示、接平面	課題レポート																																																																
13	空間内の曲面(2)	曲面積分、曲面積、重心	課題レポート																																																																
14	空間内の曲面(3)	平均曲率、ガウス曲率(1)	課題レポート																																																																
15	空間内の曲面(4)	平均曲率、ガウス曲率(2)	課題レポート																																																																
関連科目	微積分Ⅰ・Ⅱ、線形代数Ⅰ・Ⅱ、幾何学Ⅰ、解析学、代数学																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	レポート(宿題)で45%、期末試験55%で評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	講義内容に関することはどんな事でも遠慮なく質問すること。いつでも親切に答えるようにしています。参考書を貸し出しますので相談に来て下さい。また、スチューデントアワー(月-金の5限目)には3号館3階準備室に数学教員がいますので数学、自然科学に関するどんな質問でも気楽なおいで下さい。																																																																		
担当者の研究室等	3号館3階 数学研究室																																																																		
備考	毎回プリントを配布し講義する。 事前事後学習は、毎回1時間以上かけること。																																																																		

科目名	基礎数学演習	科目名 (英文)	Exercises in Basic Mathematics
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	ハ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小林 俊公
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教科に関する科目 (中学校 数学)【施行規則に定める科目区分】「解析学」【教員免許取得のための履修区分】選択【科目】教科に関する科目 (高等学校 数学)【施行規則に定める科目区分】「解析学」【教員免許取得のための履修区分】選択	

授業概要・目的	この講義は微積分学への準備となるように意図されている。微積分の講義では説明が省略されるか簡単に済まされるものに対して詳しい説明と演習を行う。微積分学は瞬間の変化を記述し、微小なものを足し合わせる方法を教えている。その動機付けとなるような問題も扱いたいと思っている。そのため物理からの簡単な応用問題も取り上げたいと思っている。																																																																																																																												
到達目標	<p>主な目標は</p> <p>(1) 種々の量を文字式で表現できる。  (2) 初等関数の性質を利用した計算ができる。  (3) 平行移動、対称移動を利用して関数のグラフが描ける。</p> <p>学科の学習・教育到達目標との対応：[D]</p>																																																																																																																												
授業方法と留意点	教科書に基づく講義と演習を中心に進める。これと並行して、各単元の内容の演習を演習教材(ワークブック)を用いて次のサイクルで実施する： (1) 授業で指定された演習問題に解答し、(2) 教員の評価を受けること。正解するまでやり直し、(3) その単元の問題に正答した時点で、教員から検印を貰う。																																																																																																																												
科目学習の効果(資格)	微積分、線形代数のための基礎を身につけて、専門科目で用いられる数式理解に役立てる。																																																																																																																												
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>整数・有理数・無理数</td><td>・オリエンテーション ・整数・有理数・無理数の諸性質</td><td>演習テキスト 第1.1~1.4章、レポート課題</td></tr> <tr><td>2</td><td>複素数・無理数</td><td>・複素数の四則演算</td><td>演習テキスト 第1.5~1.6章、レポート課題</td></tr> <tr><td>3</td><td>複素平面と極形式</td><td>・複素数の極形式表示</td><td>演習テキスト 第1.7章、レポート課題</td></tr> <tr><td>4</td><td>文字式</td><td>・文字式の展開・因数分解</td><td>演習テキスト 第2.1~2.3章、レポート課題</td></tr> <tr><td>5</td><td>2次方程式</td><td>・解の公式等による2次方程式の解法</td><td>演習テキスト 第2.4章、レポート課題</td></tr> <tr><td>6</td><td>高次方程式</td><td>・因数定理を用いた高次方程式の解法</td><td>演習テキスト 第2.4章、レポート課題</td></tr> <tr><td>7</td><td>1次関数(1)</td><td>・直線の式、直交条件</td><td>演習テキスト 第3.1章、レポート課題</td></tr> <tr><td>8</td><td>1次関数(2)</td><td>・1次関数の応用</td><td>演習テキスト 第3.1章、レポート課題</td></tr> <tr><td>9</td><td>2次関数</td><td>・グラフ</td><td>演習テキスト 第3.2章、レポート課題</td></tr> <tr><td>10</td><td>無理関数</td><td>・グラフ</td><td>演習テキスト 第3.2章、レポート課題</td></tr> <tr><td>11</td><td>分数式</td><td>・計算・部分分数分解</td><td>演習テキスト 第4.1-4.2章、レポート課題</td></tr> <tr><td>12</td><td>分数式</td><td>・グラフ</td><td>演習テキスト 第4.2章</td></tr> <tr><td>13</td><td>三角比(1)</td><td>・一般角、三平方の定理とその応用</td><td>演習テキスト 第5.1章、レポート課題</td></tr> <tr><td>14</td><td>三角比(2)</td><td>・三角関数の定義、グラフ</td><td>演習テキスト 第5.2章、レポート課題</td></tr> <tr><td>15</td><td>三角比(3)</td><td>・三角比の計算、余弦定理</td><td>演習テキスト 第5.2~5.3章、レポート課題</td></tr> <tr><td>16</td><td>絶対値(1)</td><td>・絶対値の基本的性質</td><td>演習テキスト 第6.1章、レポート課題</td></tr> <tr><td>17</td><td>絶対値(2)</td><td>・絶対値付きの方程式の解法、グラフ</td><td>演習テキスト 第6.2~6.3章、レポート課題</td></tr> <tr><td>18</td><td>指数関数(1)</td><td>・指数法則</td><td>演習テキスト 第7.1章、レポート課題</td></tr> <tr><td>19</td><td>指数関数(2)</td><td>・指数関数のグラフ、方程式の解法</td><td>演習テキスト 第7.1章、レポート課題</td></tr> <tr><td>20</td><td>対数関数(1)</td><td>・対数の定義、底の変換公式</td><td>演習テキスト 第7.2章、レポート課題</td></tr> <tr><td>21</td><td>対数関数(2)</td><td>・対数関数を含む方程式</td><td>演習テキスト 第7.2章、レポート課題</td></tr> <tr><td>22</td><td>対数関数(3)</td><td>・対数関数のグラフ</td><td>演習テキスト 第7.2章、レポート課題</td></tr> <tr><td>23</td><td>三角関数(1)</td><td>・加法定理</td><td>演習テキスト 第8.1章、レポート課題</td></tr> <tr><td>24</td><td>三角関数(2)</td><td>・加法定理を用いた計算問題</td><td>演習テキスト 第8.1章、レポート課題</td></tr> <tr><td>25</td><td>三角関数(3)</td><td>・加法定理から導かれる種々の公式</td><td>演習テキスト 第8.2章、レポート課題</td></tr> <tr><td>26</td><td>三角関数(4)</td><td>・加法定理を用いた三角関数のグラフの描き方</td><td>演習テキスト 第8.3章、レポート課題</td></tr> <tr><td>27</td><td>数列</td><td>・等差数列、等比数列</td><td>演習テキスト 第9.1~9.3章、レポート課題</td></tr> <tr><td>28</td><td>和の公式</td><td>・等差数列、等比数列の和、シグマ記号に慣れる</td><td>演習テキスト 第9.2~9.4章、レポート課題</td></tr> <tr><td>29</td><td>数学的帰納法</td><td>・数学的帰納法を用いた証明</td><td>演習テキスト 第9.5章、レポート課題</td></tr> <tr><td>30</td><td>総合演習</td><td>・応用問題</td><td>レポート課題</td></tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	整数・有理数・無理数	・オリエンテーション ・整数・有理数・無理数の諸性質	演習テキスト 第1.1~1.4章、レポート課題	2	複素数・無理数	・複素数の四則演算	演習テキスト 第1.5~1.6章、レポート課題	3	複素平面と極形式	・複素数の極形式表示	演習テキスト 第1.7章、レポート課題	4	文字式	・文字式の展開・因数分解	演習テキスト 第2.1~2.3章、レポート課題	5	2次方程式	・解の公式等による2次方程式の解法	演習テキスト 第2.4章、レポート課題	6	高次方程式	・因数定理を用いた高次方程式の解法	演習テキスト 第2.4章、レポート課題	7	1次関数(1)	・直線の式、直交条件	演習テキスト 第3.1章、レポート課題	8	1次関数(2)	・1次関数の応用	演習テキスト 第3.1章、レポート課題	9	2次関数	・グラフ	演習テキスト 第3.2章、レポート課題	10	無理関数	・グラフ	演習テキスト 第3.2章、レポート課題	11	分数式	・計算・部分分数分解	演習テキスト 第4.1-4.2章、レポート課題	12	分数式	・グラフ	演習テキスト 第4.2章	13	三角比(1)	・一般角、三平方の定理とその応用	演習テキスト 第5.1章、レポート課題	14	三角比(2)	・三角関数の定義、グラフ	演習テキスト 第5.2章、レポート課題	15	三角比(3)	・三角比の計算、余弦定理	演習テキスト 第5.2~5.3章、レポート課題	16	絶対値(1)	・絶対値の基本的性質	演習テキスト 第6.1章、レポート課題	17	絶対値(2)	・絶対値付きの方程式の解法、グラフ	演習テキスト 第6.2~6.3章、レポート課題	18	指数関数(1)	・指数法則	演習テキスト 第7.1章、レポート課題	19	指数関数(2)	・指数関数のグラフ、方程式の解法	演習テキスト 第7.1章、レポート課題	20	対数関数(1)	・対数の定義、底の変換公式	演習テキスト 第7.2章、レポート課題	21	対数関数(2)	・対数関数を含む方程式	演習テキスト 第7.2章、レポート課題	22	対数関数(3)	・対数関数のグラフ	演習テキスト 第7.2章、レポート課題	23	三角関数(1)	・加法定理	演習テキスト 第8.1章、レポート課題	24	三角関数(2)	・加法定理を用いた計算問題	演習テキスト 第8.1章、レポート課題	25	三角関数(3)	・加法定理から導かれる種々の公式	演習テキスト 第8.2章、レポート課題	26	三角関数(4)	・加法定理を用いた三角関数のグラフの描き方	演習テキスト 第8.3章、レポート課題	27	数列	・等差数列、等比数列	演習テキスト 第9.1~9.3章、レポート課題	28	和の公式	・等差数列、等比数列の和、シグマ記号に慣れる	演習テキスト 第9.2~9.4章、レポート課題	29	数学的帰納法	・数学的帰納法を用いた証明	演習テキスト 第9.5章、レポート課題	30	総合演習	・応用問題	レポート課題
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																																																																										
1	整数・有理数・無理数	・オリエンテーション ・整数・有理数・無理数の諸性質	演習テキスト 第1.1~1.4章、レポート課題																																																																																																																										
2	複素数・無理数	・複素数の四則演算	演習テキスト 第1.5~1.6章、レポート課題																																																																																																																										
3	複素平面と極形式	・複素数の極形式表示	演習テキスト 第1.7章、レポート課題																																																																																																																										
4	文字式	・文字式の展開・因数分解	演習テキスト 第2.1~2.3章、レポート課題																																																																																																																										
5	2次方程式	・解の公式等による2次方程式の解法	演習テキスト 第2.4章、レポート課題																																																																																																																										
6	高次方程式	・因数定理を用いた高次方程式の解法	演習テキスト 第2.4章、レポート課題																																																																																																																										
7	1次関数(1)	・直線の式、直交条件	演習テキスト 第3.1章、レポート課題																																																																																																																										
8	1次関数(2)	・1次関数の応用	演習テキスト 第3.1章、レポート課題																																																																																																																										
9	2次関数	・グラフ	演習テキスト 第3.2章、レポート課題																																																																																																																										
10	無理関数	・グラフ	演習テキスト 第3.2章、レポート課題																																																																																																																										
11	分数式	・計算・部分分数分解	演習テキスト 第4.1-4.2章、レポート課題																																																																																																																										
12	分数式	・グラフ	演習テキスト 第4.2章																																																																																																																										
13	三角比(1)	・一般角、三平方の定理とその応用	演習テキスト 第5.1章、レポート課題																																																																																																																										
14	三角比(2)	・三角関数の定義、グラフ	演習テキスト 第5.2章、レポート課題																																																																																																																										
15	三角比(3)	・三角比の計算、余弦定理	演習テキスト 第5.2~5.3章、レポート課題																																																																																																																										
16	絶対値(1)	・絶対値の基本的性質	演習テキスト 第6.1章、レポート課題																																																																																																																										
17	絶対値(2)	・絶対値付きの方程式の解法、グラフ	演習テキスト 第6.2~6.3章、レポート課題																																																																																																																										
18	指数関数(1)	・指数法則	演習テキスト 第7.1章、レポート課題																																																																																																																										
19	指数関数(2)	・指数関数のグラフ、方程式の解法	演習テキスト 第7.1章、レポート課題																																																																																																																										
20	対数関数(1)	・対数の定義、底の変換公式	演習テキスト 第7.2章、レポート課題																																																																																																																										
21	対数関数(2)	・対数関数を含む方程式	演習テキスト 第7.2章、レポート課題																																																																																																																										
22	対数関数(3)	・対数関数のグラフ	演習テキスト 第7.2章、レポート課題																																																																																																																										
23	三角関数(1)	・加法定理	演習テキスト 第8.1章、レポート課題																																																																																																																										
24	三角関数(2)	・加法定理を用いた計算問題	演習テキスト 第8.1章、レポート課題																																																																																																																										
25	三角関数(3)	・加法定理から導かれる種々の公式	演習テキスト 第8.2章、レポート課題																																																																																																																										
26	三角関数(4)	・加法定理を用いた三角関数のグラフの描き方	演習テキスト 第8.3章、レポート課題																																																																																																																										
27	数列	・等差数列、等比数列	演習テキスト 第9.1~9.3章、レポート課題																																																																																																																										
28	和の公式	・等差数列、等比数列の和、シグマ記号に慣れる	演習テキスト 第9.2~9.4章、レポート課題																																																																																																																										
29	数学的帰納法	・数学的帰納法を用いた証明	演習テキスト 第9.5章、レポート課題																																																																																																																										
30	総合演習	・応用問題	レポート課題																																																																																																																										
関連科目	数式を用いるすべての科目、特に微積分。																																																																																																																												
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>数学の基礎</td> <td>基礎理工学機構編</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>日々の演習</td> <td>基礎理工学機構編</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	数学の基礎	基礎理工学機構編		2	日々の演習	基礎理工学機構編																																																																																																																	
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																																																																										
1	数学の基礎	基礎理工学機構編																																																																																																																											
2	日々の演習	基礎理工学機構編																																																																																																																											
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1																																																																																																																							
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																																																																										
1																																																																																																																													
評価方法(基準)	全単元の検印を受けて演習教材(ワークブック)を完遂した者のみを成績評価の対象とし、演習、小テスト、演習教材(ワークブック)で30%、中間35%、期末35%の割合で判定し評価する。																																																																																																																												
学生へのメッセージ	教科書の問題を自分で何度も解いて数式を扱う経験を十分に積むよう努力してください。演習は必ず自分で解こうと努力し、わからないところは質問する積極的な姿勢を望みます。																																																																																																																												
担当者の研究室等	3号館3階 数学研究室																																																																																																																												
備考	事前事後学習は、毎回1時間以上かけること。																																																																																																																												

科目名	基礎力学演習	科目名(英文)	Exercises in Basic Mechanics
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	Y
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	前田 純一郎
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	物理学は近代の科学技術の基礎となっており、力学はこの物理学の基礎柱の一つである。力学はものづくりにも必要な日常的な現象をとらえることのできる学問であり、理工学部専門科目を理解する上で必要不可欠である。基礎力学演習では、日常において経験している力学現象の表し方や取り扱い方を学ぶ。
到達目標	建築・都市工学技術者として必要な専門知識の理解を深めるために、数学や物理学などの基礎的な考え方が説明でき、それらに応用できる。 学科の学習・教育到達目標：A科 [D]
授業方法と留意点	30分の講義と1時間の演習にて行う。演習問題は友達と相談して解いてもよいので勉強の仲間作りのきっかけにしよう。
科目学習の効果(資格)	理工学の基礎として必要不可欠な力学や物理学の理解に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	力学と自然現象	自然科学とは何だろうかを身近な例をとって分かりやすく説明する。	_____
2	重力	質量と重力加速度	予習・復習課題1 質量と重量の違い
3	質点のつりあい(1)	1質点にかかる力の合力	予習・復習課題2 運動方程式とつり合いの条件を求める1
4	質点のつりあい(2)	力の合成と分解	予習・復習課題3 運動方程式とつり合いの条件を求める2
5	質点のつり合い(3)	質点のつり合いの総合問題に取り組む。	予習・復習課題4 運動方程式とつり合いの条件を求める3
6	剛体のつり合い(1)	重心について	予習・復習課題5 様々な図形での重心点を求める
7	剛体のつり合い(2)	天秤、シーソー	予習・復習課題6 力のモーメント
8	剛体のつり合い(3)	棒のつり合い	予習・復習課題7 剛体が回転しないための条件を求める
9	運動する物体(1)	等速直線運動	予習・復習課題8 位置と速度との関係
10	運動する物体(2)	等加速度運動	予習・復習課題9 速度と加速度との関係
11	運動する物体(3)	円運動	予習・復習課題10 角度の時間に関する変化
12	作用・反作用	作用と反作用	予習・復習課題11 物体の衝突問題
13	エネルギー	仕事とエネルギー	予習・復習課題12 力学的エネルギー保存則
14	さまざまな力学現象	さまざまな力学現象の解法	予習・復習課題13 運動方程式から、物体の速度と位置を求める
15	基礎力学演習のまとめ	総合問題に取り組む。	_____

関連科目 微積分I, 線形代数I, 力学I, 物理学実験

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	やさしい基礎物理	潮秀樹, 上村洗	森北出版
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準) 期末試験(60%)と演習問題の解答・取り組みに関する授業態度(40%)の割合で評価する。

学生へのメッセージ 物理は試験問題と考えると難しく思われがちですが、自然現象や自らの経験をもとに考えると取り組みやすい学問です。この授業を通して、1つ1つみなさんが体験している現象の原因を突き止めてみましょう。

担当者の研究室等 8号館2階 物理準備室

備考 教科書や授業当日の配布されるプリントを1時間以上かけて丁寧に読み直すこと。理解出来なかった点を洗い出し、可能な限り次の授業にて質問したうえで、さらなる知識を積み上げること。

科目名	近代建築史	科目名(英文)	History of Modern Architecture
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	竹内 正明
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教科に関する科目(高等学校 工業)【施行規則に定める科目区分】「工業の関係科目」【教員免許状取得のための履修区分】選択	

授業概要・目的	近代建築は社会の変革と共に発展してきたもので、その一連の流れを解説する。産業革命がもたらした社会の変革は、都市建築の風景をも大きく変えていくことになった。激動の世紀末を迎え、20世紀に入ると現代建築の基礎となる概念が形成されていく。「近代建築」と我々が呼んでいるものとそれを取り巻く環境の変遷を通じて、巨匠たちの建築作品がどのような歴史的意義を持ち得たのかを考え、今日の建築につながる問題を考える。
到達目標	(1) 建築が今日に至るまでどのような展開をなしたか、(2) どのような建築家がモダニズムの必要な位置を占め、どのような建築を生み出したか、(3) 現代建築のデザインにどのような課題がみえるかを理解すること。 学科の学習・教育目標との対応: [F]
授業方法と留意点	パワーポイントによる画像を多用し、視覚的理解に重点をおく。講義は教科書に概ね対応して進めるので、受講前に必ず該当箇所を読んでおくこと。
科目学習の効果(資格)	建築に携わる者としての基礎的知識ならびに建築に対する評価眼を養い、設計思想に役立てる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	近代化への布石 近代建築の萌芽	19世紀の工学、理想社会、様式へのまなざしについて解説する。	教科書の該当箇所を通読し、特に作品や思想の特徴について解釈を試みる。
2	近代建築の曙光 伝統性と近代性の相克	アーツ・アンド・クラフツ運動、グラスゴー・スタイル、郊外住宅地、近代都市計画を通して19世紀の建築と都市の変遷を概観する。	教科書の該当箇所を通読し、特に作品や思想の特徴について解釈を試みる。
3	近代への多様な道のり 世紀末ヨーロッパの建築	アール・ヌーヴォー、ウィーン分離派など世紀転換期の動向や鉄筋コンクリートなどの新素材による建築・都市の新たな視点について解説する。	教科書の該当箇所を通読し、特に作品や思想の特徴について解釈を試みる。
4	切断される「過去」 建築のアヴァンギャルド	20世紀初頭の革新的な建築思潮について解説する。	教科書の該当箇所を通読し、特に作品や思想の特徴について解釈を試みる。
5	大量生産社会の建築へ 近代建築の実験場としてのドイツ	ドイツ工作連盟、表現主義建築、バウハウス、ジードルンクなど、ドイツにおける建築の近代化について解説する。	教科書の該当箇所を通読し、特に作品や思想の特徴について解釈を試みる。
6	摩天楼と郊外住宅 アメリカにおける近代建築の形成	建築の高層化、アメリカの古典主義、フランク・ロイド・ライトの建築など、アメリカにおける建築の近代化について解説する。	教科書の該当箇所を通読し、特に作品や思想の特徴について解釈を試みる。
7	ル・コルビュジエ 偏在する身体(1)	ル・コルビュジエの建築・都市に対する考え方を理解する。	教科書の該当箇所を通読し、特に作品や思想の特徴について解釈を試みる。
8	ル・コルビュジエ 偏在する身体(2) 中間試験	ル・コルビュジエの建築・都市に対する考え方について理解を深める。中間試験を含む。	教科書の該当箇所を通読し、特に作品や思想の特徴について解釈を試みる。
9	ミース・ファン・デル・ローエ ユートピアなきモダニズム	ミース・ファン・デル・ローエの設計手法および作品の分析を行う。	教科書の該当箇所を通読し、特に作品や思想の特徴について解釈を試みる。
10	教義としての近代建築 近代建築の成立と成熟	建築における規格化、機能的都市、インターナショナル・スタイル、建築における空間という視点について解説する。	教科書の該当箇所を通読し、特に作品や思想の特徴について解釈を試みる。
11	合理性と固有性 近代建築のひろがりと変容	アメリカ近代建築の展開、規格化と構造の表現、風土のなかの建築、イデオロギーと建築について解説する。	教科書の該当箇所を通読し、特に作品や思想の特徴について解釈を試みる。
12	経験の多様性に向けて 近代建築への懐疑と超克	CIAMとチーム10、都市の再発見、場所の力、多様性について、近代建築への評価について解説する。	教科書の該当箇所を通読し、特に作品や思想の特徴について解釈を試みる。
13	建築のポスト・モダン 領域の拡張	モダニズムの相対化、ポスト・モダン建築の多義性、都市のコンテクスト、テクノロジーへの視点、ポスト・モダニズムへの懐疑、建築のディスプレイ・プログラミングについて解説する。	教科書の該当箇所を通読し、特に作品や思想の特徴について解釈を試みる。
14	テーマ化するモダニティ 21世紀へ	次の建築家たちによる設計姿勢を分析する。レム・コールハース、ヘルツォーク・アンド・ド・ムロン、フランク・O・ゲーリー、妹島和世、西沢立衛。	教科書の該当箇所を通読し、特に作品や思想の特徴について解釈を試みる。
15	まとめ	20世紀の建築家の作品分析および模型による再現について解説する。	教科書の該当箇所を通読し、特に作品や思想の特徴について解釈を試みる。

関連科目	西洋建築史、設計演習、卒業研究
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	テキスト 建築の20世紀	本田昌昭・末包伸吾(編)	学芸出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	近代建築史図集	日本建築学会編	彰国社
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への積極的な関与やレポート等の提出物 (25%)、中間試験 (30%)、期末試験 (45%) を総合的に判断する。
学生への メッセージ	近代の建築・都市・デザインを理解することは、これから自分が創り出そうとする建築のコンセプトや空間そのものに大きなヒントを与えてくれます。単なる歴史の暗記ということではなく、自分が評価したい対象を模索するきっかけとなるはずです。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	事前学習：事後学習欄に示した内容について、毎回1.5時間以上かけて取り組む



科目名	空間表現論	科目名(英文)	Spatial Design
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	山本 一貴
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	本講義は、空間デザインを単なる形態操作の問題として捉えるのではなく、その形態を生み出している社会的、経済的、文化的背景との関係から理解することを目的とする。また、講義では、具体的な事例を通して空間デザインの理論と方法論を学び、情報化や環境に配慮した空間デザインなど現代社会特有の試みも合わせて紹介し、今後の可能性を展望する。
到達目標	空間デザインを社会的、経済的、文化的背景との関係から考察し、論理的に説明することができる。 学科の学習・教育目標との対応：[F]
授業方法と留意点	スライドを用いる。適宜プリントを配布する。
科目学習の効果(資格)	建築・都市デザインに対する発想力を培うことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	機能と形態(1)	機能と形態との関係を軸に空間デザインのあり方を考察する	受講前には教科書 p.72-73 を通読し、テーマの輪郭の把握を試みておくこと
3	機能と形態(2)	機械をモチーフとした空間デザインのあり方を考察する	受講前には教科書 p.66-67 を通読し、テーマの輪郭の把握を試みておくこと
4	機能と形態(3)	生物をモチーフとした空間デザインのあり方を考察する	受講前には教科書 p.140-141 を通読し、テーマの輪郭の把握を試みておくこと
5	時間と場所(1)	時間との関わりから空間デザインのあり方を考察する	受講前には教科書 p.182-183 を通読し、テーマの輪郭の把握を試みておくこと
6	時間と場所(2)	場所との関わりから空間デザインのあり方を考察する	受講前には教科書 p.202-203 を通読し、テーマの輪郭の把握を試みておくこと
7	参加と協働(1)	参加と協働を軸に空間デザインのあり方を考察する	受講前には教科書 p.178-179 を通読し、テーマの輪郭の把握を試みておくこと
8	参加と協働(2)	中間まとめとレポート・プレゼンテーション	受講時にレポート課題1(書評)を提出すること。受講前にはそのプレゼンテーションの準備も進めておくこと
9	近代建築の解体と継承(1)	「レス・イズ・モア」から「モア・イズ・モア」までを手がかりに、空間デザインのあり方を考察する	受講前には教科書 p.220-221 を通読し、テーマの輪郭の把握を試みておくこと
10	近代建築の解体と継承(2)	現代建築に潜むモダニズムとの相同性から空間デザインのあり方を考察する	受講前には教科書 p.204-205 を通読し、テーマの輪郭の把握を試みておくこと
11	近代建築の解体と継承(3)	脱構築主義とその現在から空間デザインのあり方を考察する	受講前には教科書 p.186-187 を通読し、テーマの輪郭の把握を試みておくこと
12	持続可能な社会に向けて(1)	近現代建築の保存・再生の理論と手法から空間デザインのあり方を考察する	受講前には教科書 p.222-223 を通読し、テーマの輪郭の把握を試みておくこと
13	持続可能な社会に向けて(2)	環境意識の変化との関係から空間デザインのあり方を考察する	受講前には教科書 p.216-217 を通読し、テーマの輪郭の把握を試みておくこと
14	持続可能な社会に向けて(3)	情報技術の発達との関係から空間デザインのあり方を考察する	受講前には教科書 p.212-213 を通読し、テーマの輪郭の把握を試みておくこと
15	まとめ	全体のまとめとレポート・プレゼンテーション、今後の展望を考察する	受講時にレポート課題2(建築論)を提出すること。受講前にはそのプレゼンテーションの準備も進めておくこと

関連科目 西洋建築史、日本建築史、近代建築史

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2	テキスト建築意匠	平尾和洋、末包伸吾編著	学芸出版社
3			

評価方法(基準) レポート課題1(30%)、レポート課題2(40%)、各回の授業中に行うワークシート(30%)の合計点により評価する。レポートを2つとも提出しなければ単位は認定しない。レポートの評価基準は、授業内容の理解度、レポートの完成度、文章表現力とする。なお、公欠などの正当な理由が示されることなく、欠席4回あるいは未提出のワークシート4つとなった者は、その時点で単位不認定となる。

学生へのメッセージ デザインに対する理解を高めた人、将来デザインに関わる仕事を目指す人に向けた講義です。

担当者の研究室等 7号館2階 非常勤講師室

備考 質問等は授業時間中に、または、配付するワークシートを用いて対応する。  
事前学習：事後学習欄に示した内容について、毎回1.5時間以上かけて取り組む

科目名	現代作品論	科目名(英文)	Issues in Modern Architecture
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	竹内 正明
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教科に関する科目(高等学校 工業)【施行規則に定める科目区分】「工業の関係科目」【教員免許状取得のための履修区分】選択	

授業概要・目的	建築を取り巻く状況は常に大きく変貌し続けている。戦後の日本においても、目まぐるしい社会変動に翻弄されるかのように建築は移り変わってきた。そのなかで建築家たちは、テクノロジーの発展、ライフスタイルの変化など、人びとの価値観を揺るがす「時代の意思」を鋭敏に読み取り、それを建築作品に反映させようと多くの試みをおこなってきた。そして、このような先達の試みは現在第一線で活躍している建築家たちに多くの示唆を与えてきた。 本授業では、現代建築の潮流のなかでターニングポイントとなった作品やプロジェクト案、コンペティション案を振り返りつつ議論することで現代における建築と建築家のあり方を学ぶ、ということを目指す。
---------	---

到達目標	1. 建築を取り巻く状況を把握するために必要な基礎知識を習得すること 2. 自らの視点で建築について評価し、それを言語化できるようになること 学習・教育目標との対応:【G】
------	--

授業方法と留意点	現代建築のターニングポイントとなったトピックスを取り上げ、その象徴となる建築作品について図面や写真などを用いて解説する。また、建築作品について自分で考える能力を養うために、図面を読み込みながらのディスカッションを授業内に随時おこなう。 活発な議論を展開するために、授業で扱う各トピックスに関連する内容を参考書などで事前に調べてから受講すること。
----------	---

科目学習の効果(資格)	現代社会における建築や建築家の役割についての理解力を高めるとともに、建築や都市空間に対する批評力を培う。
-------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	モダニズム建築の継承	モダニズム建築の巨匠であるル・コルブジエと彼を師事した日本人建築家たち。彼らの建築作品を検証し、日本におけるモダニズム建築の継承とその意味について学ぶ。	トピックスに関連する建築家や時代背景について、参考書などを活用して基本的事項を受講前に調べておくこと。
2	日本の伝統性と建築表現	1950年代後半に起こった伝統論争なかで注目された丹下健三や白井晟一。彼らの建築作品を検証し、日本の伝統性がどのように捉えられ、どのような建築表現として結実していったのかを学ぶ。	トピックスに関連する建築家や時代背景について、参考書などを活用して基本的事項を受講前に調べておくこと。
3	モダンリビングという住まい	清家清、増沢旬らによって模索された戦後日本の小住宅。その革新性の中心となった建築作品を検証し、現代住宅に多大な影響をもたらすモダンリビングという概念について学ぶ。	トピックスに関連する建築家や時代背景について、参考書などを活用して基本的事項を受講前に調べておくこと。
4	モダニズム建築と地域主義	モダニズム建築の新たな地平として出現した地域主義の建築。その中心となった建築作品を検証し、モダニズム建築にどのような形で地域性が加味されていたのかを学ぶ。	トピックスに関連する建築家や時代背景について、参考書などを活用して基本的事項を受講前に調べておくこと。
5	未来都市のイメージ	1960年代に一世を風靡した建築グループであるメタボリズムやアーキグラム。彼らが描いたプロジェクト案を検証し、未来都市を提起するという可能性とその限界について学ぶ。	トピックスに関連する建築家や時代背景について、参考書などを活用して基本的事項を受講前に調べておくこと。
6	建築の解体という手法	磯崎新が提言した「建築の解体」という概念を手がかりに1970年代の建築作品を検証し、近代主義建築の枠を超える新しい試みとして実践された建築手法について学ぶ。	トピックスに関連する建築家や時代背景について、参考書などを活用して基本的事項を受講前に調べておくこと。
7	野武士と称された建築家たち	1970年代に頭角を現した安藤忠雄や伊東豊雄といった革新的な若手建築家たち。「平和な時代の野武士たち」と称された彼らの初期作品を検証し、現代の日本建築界をリードする建築家たちが若き日に描いた建築について学ぶ。	トピックスに関連する建築家や時代背景について、参考書などを活用して基本的事項を受講前に調べておくこと。
8	機械のオマージュとしてのハイテク建築	1970年代後半から80年代前半にかけて流行したハイテク建築。この検証を通して、時代を越えて繰り返し現れるテクノロジーの建築表現について学ぶ。	トピックスに関連する建築家や時代背景について、参考書などを活用して基本的事項を受講前に調べておくこと。
9	モダンからポストモダン、そして現代へ	これまでの講義で採り上げた建築作品を再検証し、現代建築の礎となった建築の流れについて整理する。中間試験を含む。	トピックスに関連する建築家や時代背景について、参考書などを活用して基本的事項を受講前に調べておくこと。
10	脱構築からプログラム論へ	1980年代には脱構築の理論が、1990年代にはプログラム論が建築界を席巻した。これらの理論に基づく建築作品を検証し、既成のプログラムを組み直すことの建築的意義について学ぶ。	トピックスに関連する建築家や時代背景について、参考書などを活用して基本的事項を受講前に調べておくこと。
11	建築表現としてのミニマム	極限まで研ぎすまされたミニマムな建築表現。1990年代に注目を集めた建築作品を検証し、建築表現としてのミニマムについて学ぶ。	トピックスに関連する建築家や時代背景について、参考書などを活用して基本的事項を受講前に調べておくこと。
12	表層の建築表現	環境との関係性のなかで表層的な意匠を重視した建築が生み出された。このような建築作品を検証し、環境のなかでの建築のあり方について学ぶ。	トピックスに関連する建築家や時代背景について、参考書などを活用して基本的事項を受講前に調べておくこと。



	13	風景としての建築	ランドスケープにおけるひとつの要素として風景に溶け込む建築。場所の特性を活かした建築作品を検証し、建築における場所性のあり方について学ぶ。	トピックスに関連する建築家や時代背景について、参考書などを活用して基本的事項を受講前に調べておくこと。
	14	建築のスーパーフラット	現代美術の領域から広がったスーパーフラットという概念。この概念を踏まえた建築作品を検証し、建築におけるスーパーフラットの捉え方について学ぶ。	トピックスに関連する建築家や時代背景について、参考書などを活用して基本的事項を受講前に調べておくこと。
	15	リノベーションという方法	建築に新たな役割を与えて生まれ変わらせるリノベーションという手法。リノベーションによる建築作品を検証し、建築ストックの活用という現代社会の大命題に対する建築的アプローチについて学ぶ。	トピックスに関連する建築家や時代背景について、参考書などを活用して基本的事項を受講前に調べておくこと。
関連科目	西洋建築史、近代建築史、設計演習など			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	テキスト 建築の20世紀	本田昌昭・末包伸吾（編）	学芸出版社
	2	図説 建築の歴史	西田雅嗣・矢ヶ崎善太郎（編）	学芸出版社
	3	図解ニッポン住宅建築	尾上亮介・竹内正明・小池志保子	学芸出版社
評価方法 (基準)	中間試験(30%)、期末試験(45%)、授業内での発表内容(25%)によって総合的に評価する。			
学生への メッセージ	図面を読み込み、各時代のエッセンスを感じてください。建築家たちの鋭敏な感性は、今という時代を読み解くうえでのヒントになります。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	事前学習：事後学習欄に示した内容について、毎回1.5時間以上かけて取り組む			

科目名	建築環境工学 I	科目名 (英文)	Architectural Environmental Engineering I
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	宮本 征一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教科に関する科目 (高等学校 工業)【施行規則に定める科目区分】「工業の関係科目」【教員免許状取得のための履修区分】選択	

授業概要・目的	快適な建築空間を構築するには、熱環境・光環境・空気環境・音環境の概略を理解し、知識を深める必要がある。具体的には、日照の問題、伝熱・結露、換気の必要性、通風計画、照明計画、音響計画と騒音対策などについて学習する。
到達目標	人体や建物を取り巻く多くの環境について考えることで、建築環境に関する理解を深め、建築環境工学に関する基礎知識を身につける。 学科の学習・教育目標との対応：[G]
授業方法と留意点	授業テーマに関して、日頃から問題意識を持って生活することが望ましい。授業中に課題を課すため、毎回出席すること。
科目学習の効果 (資格)	一級・二級建築士資格取得のために必須である。その他、カラーコーディネーター、色彩検定、インテリアコーディネーターなど。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	熱環境 気候	都市や建築室内の熱環境を左右する気候 (気温、湿度、風、雨と雪) について理解を深める。	事前学習は、授業テーマの教科書の範囲に記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
3	熱環境 室内気候	人体の生理心理反応と温熱要素、温熱環境指標について理解を深める。	事前学習は、授業テーマの教科書の範囲に記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
4	熱環境 伝熱	伝熱の基礎を理解して、熱貫流、断熱性能、蓄熱性能などと温熱環境との関係を理解する。	事前学習は、授業テーマの教科書の範囲に記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
5	熱環境 結露	結露の発生とその害について理解して、結露防止の対策を考える。	事前学習は、授業テーマの教科書の範囲に記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
6	空気環境 室内空気質	室内空気質を左右する汚染物質について理解を深める。	事前学習は、授業テーマの教科書の範囲に記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
7	空気環境 換気と通風	室内空気環境を改善するための換気や温熱環境を改善するための通風について理解を深める。	事前学習は、授業テーマの教科書の範囲に記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
8	熱・光環境 日照と日射と建築計画	日照の効果を理解して、太陽の位置 (高度・方位) について理解を深める。	事前学習は、授業テーマの教科書の範囲に記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
9	熱・光環境 日影の検討と日照の調整	日影曲線、日照図表、太陽位置図などの使用方法を理解して、日射・日照の調整について理解を深める。	事前学習は、授業テーマの教科書の範囲に記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
10	光環境 採光	測光量と見やすさについて理解を深めて、採光計画について理解する。	事前学習は、授業テーマの教科書の範囲に記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
11	光環境 照明	人工光源の種類と照度基準について把握して、光束法による照明計算による照明計画を理解する。	事前学習は、授業テーマの教科書の範囲に記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
12	光環境 色彩	色彩について建築空間に対する心理的・生理的效果などを理解する。	事前学習は、授業テーマの教科書の範囲に記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
13	音環境 音の性質	音の基本的な性質について理解して、遮音と吸音について理解する。	事前学習は、授業テーマの教科書の範囲に記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
14	音環境 音響計画	騒音と振動、音響について理解を深める。	事前学習は、授業テーマの教科書の範囲に記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
15	復習	復習問題を実施し、理解不十分な箇所の補足解説を行う。	復習問題で解けなかった問題が理解できるように、授業ノートで復習すること。

関連科目	建築環境工学 II・建築環境工学 III・建築環境工学演習
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	期末試験 (60%) の成績と授業中の課題 (40%) とで総合的に評価する。
学生への	受身の態度でなく、自ら考えながら積極的に授業に参加してください。教科書の図表を参照したりしますので持参し、予習・復習を心がけてく

メッセージ	ださい。
担当者の 研究室等	宮本教授室
備考	事前学習（授業テーマの内容が記述している部分を教科書で探して読む）は、30分以上してください。 事後学習（授業で示した教科書の部分を読み、理解を深める）は、60分以上してください。

科目名	建築環境工学 II	科目名 (英文)	Architectural Environmental Engineering II
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	宮本 征一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教科に関する科目 (高等学校 工業) 【施行規則に定める科目区分】「工業の関係科目」【教員免許状取得のための履修区分】選択	

授業概要・目的	熱環境分野、および空気環境分野の専門的内容を学習する。いずれも人間の生理的・心理的反応に着目しながら、建築計画に際して知っておくべき基本的要件と、解析法・測定法や評価法について理解を深める。
到達目標	熱環境と空気環境に関して、問題点とそれに対する改善策や設計計画への応用が考えられる知識を得ることとする。 学科の学習・教育目標との対応：[G]
授業方法と留意点	教科書に沿った授業を行うため、教科書は必ず持参すること。
科目学習の効果 (資格)	一級・二級建築士資格取得のために必須である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等		事前・事後学習課題
		内容	方法	
1	風土と暮らしと建築環境	南北に長い日本の風土を知り、その風土に適し建築物が、どのように造られてきたのかを把握する。		事前学習は、授業テーマが記述している教科書の部分の図表を見てくること。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
2	建築環境制御と地球・都市環境との関係	建築環境を快適に保つための建築部材や建築環境の制御についてを把握し、地球・都市環境との関わりについて大まかに把握する。		事前学習は、授業テーマが記述している教科書の部分の図表を見てくること。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
3	温度と熱の移動 (1)	熱移動の基本原理である熱伝導と熱対流についての基本的な知識を身につける。		事前学習は、授業テーマが記述している教科書の部分の図表を見てくること。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
4	温度と熱の移動 (2)	熱移動の基本原理である熱放射と熱貫流についての基本的な知識を身につける。		事前学習は、授業テーマが記述している教科書の部分の図表を見てくること。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
5	熱貫流・熱負荷の演習	一級建築士レベルの熱貫流や熱負荷についての計算問題を解きながら、知識を身につける。		事前学習は、授業テーマが記述している教科書の部分の図表を見てくること。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
6	断熱・気密と結露/人間の生理心理反応	結露のメカニズムについての基本的な知識を身につける。また、人間の生理・心理反応について把握する。		事前学習は、授業テーマが記述している教科書の部分の図表を見てくること。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
7	温熱環境 (1)	人間の体温調節機能と熱環境、熱環境を評価するための測定法を把握する。		事前学習は、授業テーマが記述している教科書の部分の図表を見てくること。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
8	温熱環境 (2)	人間の体温調節機能と熱環境、熱環境を評価するための温熱環境指標について専門知識を身につける。		事前学習は、授業テーマが記述している教科書の部分の図表を見てくること。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
9	太陽の動き	日射・日照についての基礎知識を身につけて、熱環境の視点からの日射の利用と遮蔽について理解する。		事前学習は、授業テーマが記述している教科書の部分の図表を見てくること。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
10	換気と汚染質濃度	流体力学の基礎式及び換気力学についての基本的な知識を身につける。		事前学習は、授業テーマが記述している教科書の部分の図表を見てくること。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
11	重力換気・風力換気	重力換気と風力換気の原理について理解するとともに、換気計算手法についての知識を身につける。		事前学習は、授業テーマが記述している教科書の部分の図表を見てくること。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
12	室内の温度分布と換気計画	気流の流れについて大まかに把握して、温度分布をイメージする。換気設備について基本的な知識を身につける。		事前学習は、授業テーマが記述している教科書の部分の図表を見てくること。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
13	通風計画/気密性能と換気	通風による温熱環境の改善について基礎的な知識を身につける。また、気密性能などについて基礎的な知識を身につける。		事前学習は、授業テーマが記述している教科書の部分の図表を見てくること。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
14	重力換気・風力換気の演習	一級建築士レベルの熱貫流や熱負荷についての計算問題を解きながら、知識を身につける。		事前学習は、授業テーマが記述している教科書の部分の図表を見てくること。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
15	復習	復習問題を実施し、理解不十分な箇所を補足解説を行う。		解けない復習問題があれば、教科書を見るなどをして、解けるようにすること。

関連科目 建築環境工学 I ・ 建築環境工学演習

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	環境工学教科書	環境工学教科書研究会編著	彰国社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 期末試験 (70%) と授業中に実施する演習など (30%) とで総合的に評価する。

学生への メッセージ	講義には毎回必ず教科書を持参し、自宅学習でも教科書を用いて予習・復習を心がけてください。
担当者の 研究室等	宮本教授室
備考	事前学習は、30分以上してください。事後学習は、60分以上してください。暗記をするのではなく、理解するようにしてください。

科目名	建築環境工学Ⅲ	科目名(英文)	Architectural Environmental Engineering III
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	原直也
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教科に関する科目(高等学校 工業)【施行規則に定める科目区分】「工業の関係科目」【教員免許状取得のための履修区分】選択	

授業概要・目的	[授業概要・目的]健康で快適な生活を営む上で、重要な役割を果たす様々な環境要因の中で、日照・日射、光環境と音環境に着目して、それらと人間の生理的・心理的反応との関係を理解するとともに、建築計画や設計に際して、承知しておくべき基本的要因と、計画・設計の結果として得られる状況の解析法や評価法についての理解を深める。
到達目標	日照、光環境と音環境について、建築計画や設計において必要な基礎知識を身につける。 学科の学習・教育到達目標との対応：[G]
授業方法と留意点	講義による授業を行う。講義のストーリーは教科書とは異なり、一部教科書に無い内容を含む。教科書との参照を付記しながら講義を進める。日常生活で経験する日照・日射、光環境と音環境に関する種々の事柄に関心を持つように心掛ける。
科目学習の効果(資格)	一級、二級建築士の学科試験の受験において、必要不可欠な最低限の知識を習得できる。インテリアコーディネーター、インテリアプランナー、照明士などの資格取得に有効である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	太陽の動きと日照	居住環境における太陽エネルギーの効果、太陽の運行と位置の表示と算定法、時刻の表現	指定教科書(II7, II8)を参考にした予習と、講義内容の復習を行なうこと
2	太陽放射と昼光光源	日照検討の項目・内容、日影曲線・太陽位置図・日照図表による検討	指定教科書(II10.1, III2.1)を参考にした予習と、講義内容の復習を行なうこと
3	視覚と表色、色彩の効果	視環境の構成、目の構造・機能、表色系、色彩、色彩の効果	指定教科書(III1.1, III3)を参考にした予習と、講義内容の復習を行なうこと
4	測光量と視環境要件	光の量、基本測光量、見やすさ、明るさ・視野の輝度分布	指定教科書(III2.2, 1.3)を参考にした予習と、講義内容の復習を行なうこと
5	視環境要件と照明基準	グレア、光色と演色、光の方向性と立体感、照明基準	指定教科書(III1.3)を参考に知った予習と、講義内容の復習を行なうこと
6	測光量の相互関係	点光源による照度、物体表面での光の反射、輝度の算定	指定教科書(III2.2, 2.4)を参考にした予習と、講義内容の復習を行なうこと
7	照明計算	面光源による照度、立体角投射率の算定、間接照度の算定	指定教科書(III.2.4)を参考にした予習と、講義内容の復習を行なうこと
8	室内視環境設計	照明の変遷、光源の特性、発光原理とランプ、照明用光源の特性、人工照明設計の方法、昼光光源の種類と特徴、昼光照度、昼光率、採光計画	指定教科書(III1.4-6, 2.1, 2.3)を参考にした予習と、講義内容の復習を行なうこと
9	聴覚と音環境	聴覚生理、聴覚心理、音環境計画の構成、建物の用途と着眼点	指定教科書(V1, V3.1)を参考にした予習と、講義内容の復習を行なうこと
10	音波と音響レベル	音波とその性質、音の実用単位	指定教科書(V2)を参考にした予習と、講義内容の復習を行なうこと
11	騒音レベルと音の伝播	音響レベルの合成と、等ラウドネス曲線、周波数補正、音の伝搬過程	指定教科書(V9)を参考にした予習と、講義内容の復習を行なうこと
12	音響エネルギーの伝播	距離減衰、回折減衰、空気の吸収減衰、音響エネルギーの反射、吸収、透過と吸音	指定教科書(V4)を参考にした予習と、講義内容の復習を行なうこと
13	騒音制御と遮音	遮音の性能表示、遮音の機構と特性、二重構造の遮音性能	指定教科書(V7)を参考にした予習と、講義内容の復習を行なうこと
14	室内音響と吸音	室内音場の特徴、吸音の機構と吸音特性、拡散音場、残響時間	指定教科書(V5, 6)を参考にした予習と、講義内容の復習を行なうこと
15	音響の評価と設計	最適残響時間、室内音響指標	指定教科書(V.8)を参考にした予習と、講義内容の復習を行なうこと

関連科目 建築環境工学Ⅰ、建築環境工学演習

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	建築環境工学教科書第二版	建築環境工学教科書研究会編著	彰国社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	期末試験(100%)
学生へのメッセージ	日常的な生活環境で観察可能な現象を科学的に取り扱う学問である。講義内容を知識として修得するだけでなく、生活環境の工学的な取り扱うための考え方を身につけてもらいたい。
担当者の研究室等	なし
備考	事前学習・事後学習欄に示した内容について、毎回1.5時間以上かけて取り組む



科目名	建築環境工学演習	科目名(英文)	Exercises in Architectural Environmental Engineering
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	宮本 征一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	建築環境工学Ⅰ、建築環境工学Ⅱ、建築環境工学Ⅲで学んだ知識を基に、実務に沿った状況を想定した課題に取り組むことによって、理論と知識の理解を深める。具体的な数値を用いた演算処理を通して、各種の演算式の意味内容の理解や処理結果の考察などの実務対応能力の向上を図ることを目的とする。
到達目標	演習を通して、適正な建築環境の実現、ひいては、合理的な建築計画の実施に資する素養を身に着ける。 学科の学習・教育目標との対応：[G]
授業方法と留意点	毎回、課題と資料を配布し、課題の要点を解説を行った後、課題に取り組み、授業終了時に成果物を提出する。各課題におけるキーワードについての予習と復習を欠かさぬこと。
科目学習の効果(資格)	建築の環境工学、建築設備の実務において、処理すべきさまざまな課題に対する解決能力が身につく。また、一級、二級建築士の学科試験の取り組みにおいて、学習契機の形成や学習意欲の向上を図ることができる。

	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	授業計画	1	日照検討の準備	特定地点の冬至の日の太陽位置および、単位長さの棒の先端の日影の座標を算定し、その結果に基づいて、日影曲線および、天球上の太陽軌道を描く。
2		日照の検討	日影曲線図を活用して、検討建物の日影図を描き、日影の面積を算定する。また、検討建物の天球上の射影図を描き、太陽位置図を活用して、日影となる時間帯を求めらる。	キーワード 【日影の範囲、日影の時間帯】 の理解を深める
3		熱移動の基礎	伝導、対流、放射による熱移動形態の違いを理解し、壁体の各部位および、壁体全体を流れる熱量の算定式を誘導する。この算定式を活用して、断熱処理の効果を検討する。	キーワード 【伝導、対流、放射、熱伝導率、熱伝達率、熱貫流率】 の理解を深める
4		熱負荷の算定	集合住宅の住戸を対象として、屋根、壁 etc. 部位ごとの貫流熱負荷を冬季(暖房負荷)と夏季(冷房負荷)のそれぞれについて算定する。冷房負荷においては、日射の効果を加味する。	キーワード 【暖房負荷、冷房負荷、日射の等価気温】 の理解を深める
5		湿り空気線図の使い方	湿り空気線図に記載されている各種変量を理解し、空気の加熱・冷却、加湿・除湿、混合などの諸現象を図中に表現する。これらの現象における、エンタルピー、顕熱、潜熱を求めらる。	キーワード 【気温、相対湿度、絶対湿度、エンタルピー、比容積、顕熱、潜熱、顕熱比】 の理解を深める
6		結露の検討	多層壁体内部の温度および、絶対湿度(水蒸気分圧)の分布を求め、表面結露、内部結露の判定を試みる。また、断熱材、防湿材の位置と結露の発生との関係を考察する。	キーワード 【飽和水蒸気分圧、露点温度、表面結露、内部結露】 の理解を深める
7		日光率分布の検討	矩形の高窓を持つ室の床面上の検討点における直接日光率(立体角放射率)を、計算式及び、計算図表により算定し、床面の格子点の値に基づいて日光率の分布図を作成する。	キーワード 【立体角放射率、日光率】 の理解を深める
8		人工照明の設計	光の量を表現する諸量の関係を理解した上で、点光源で照らされた紙面の輝度を算定する。また、製図室を蛍光灯器具で照度基準を充足するように照明する場合の器具配置計画を試みる。	キーワード 【光束、光度、照度、輝度、照度基準、照明率、保守率、室指数】 の理解を深める
9		換気の検討の基礎	室内汚染質の発生量と換気量を各種の組み合わせた場合の、汚染質濃度の変化過程を算定する。また、ベルヌーイの式を理解し、開口部の圧力損失と流量の関係を誘導する。	キーワード 【汚染質濃度、換気量、換気回数、ベルヌーイの式、圧力損失】 の理解を深める
10		換気量の検討	空気流量の算定式に基づいて、複数開口を持つ室の相当開口面積を算定する。また、重力換気と風力換気が複合する場合について、2つの開口を持つ室の換気量を算定する。	キーワード 【開口部流量、流量係数、圧力差、重力換気、風力換気】 の理解を深める
11		騒音レベルの検討	周波数特性が既知の電車騒音の距離減衰と回折減衰を考慮して、住居の窓前における騒音レベルを予測する。	キーワード 【音圧レベル、周波数帯域、距離減衰、回折減衰、聴感補正、騒音レベル】 の理解を深める
12		室内音場の設計	電車による窓前騒音の周波数特性を条件として、目標の室内騒音レベルを充足する、外壁と窓の遮音性能および室内の吸音性能を決定する。	キーワード 【透過率、吸音率、透過損失、吸音力、遮音、吸音】 の理解を深める
13		残響時間の検討	内装仕上げの面積と吸音率が既知である、簡単な舞台と平土間の客席を持つ集会室の残響時間を予測する。	キーワード 【残響時間、吸音率、吸音力】 の理解を深める
14		総合問題①	二級建築士試験の過去問から抽出した、環境工学及び設備に関する基本問題の解答を試みる。	これまでの講義、演習の内容の理解を深める
15		総合問題②	一級建築士試験の過去問から抽出した、	これまでの講義、演習の内容の理解を深める

		環境工学及び設備に関する基本問題の解答を試みる。	
関連科目	建築環境工学Ⅰ、建築環境工学Ⅱ、建築環境工学Ⅲ		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	各課題に対する成果物を総合的に評価する。定期試験は実施しない。3回以上欠席の場合は不合格とする。10分以上の遅刻は欠席と扱う。		
学生への メッセージ	受講に際して準備するもの：建築環境工学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの授業における教科書、配布資料、ノート、関数機能付き電卓、20cm程度の三角定規1組、A4判レポート用紙		
担当者の 研究室等	宮本教授室		
備考	事前学習は、建築環境工学で使用した教科書やノートを見直すことを30分以上してください。 事後学習は、演習で解いた内容の理解を深めることを60分以上してください。		



科目名	建築関連法規	科目名 (英文)	Architectural Regulations and Policy
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	笠井 精二
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	<p>建築を志した者が、建築業界で活躍するためには建築関係業界の実態を知ることが大変重要である。そのため最新の建築社会情勢を建築の業界毎に整理し、最新情報を提供する。そのため最新の建築社会情勢を建築の業界毎に整理し、最新情報を提供する。</p> <p>講義内容としては、建築社会のルールである「建築に関連する法律」の説明を中心に、その解説及び運用について勉強する。</p> <p>また、将来 取得を目指す『一級建築士』の資格試験での「法規」を中心に勉強し、早期の取得を目指す。</p>																																																																		
到達目標	<p>まず実社会に出て体験する「建築業界」について、各々の業界の概要を理解できる。</p> <p>また、「建築関連の法規」を中心に、「建築法規」とは、どのようなものであるか理解し、各種の建築関係資 試験で問われる知識の習得ができる。</p> <p>学科の学習・教育目標：[B]</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>主に、講義で配布するテキスト(資料等)を用いた講義方式とし、法律の背景や内容の解釈を中心に、実社会において、どのように運用されているか、できるだけ具体的な事例を通じて理解・習得する。</p> <p>なお授業終了後に小テスト(理解度テスト)と簡単なレポートの提出を求める。</p>																																																																		
科目学習の効果(資格)	<p>まずは「二級建築士」及び「宅地建物取引士(旧 宅地建物取引主任)」の資格の取得を目指す、その後、実務経験を積んで「一級建築士」の資格の取得を目指す。</p> <p>また建築関連業務で活躍できる基礎的な法律の知識を得ることにより、社会人としての常識の幅を広げる。</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> <td>授業の進め方、総合的に見た建築業界の最近の動向について</td> <td>レポートと小テスト (授業へのアンケートや理解度チェック)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>各種の建築業界について</td> <td>建築設計業界 建設業界 不動産業界 住宅業界 建築構造業界 建築設備業界 確認検査業界の実態等</td> <td>レポートと小テスト</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>耐震改修促進法</td> <td>耐震基準、耐震診断、耐震改修などについて 「建築物の耐震改修の促進に関する法律」などの概要について</td> <td>レポートと小テスト</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>バリアフリー法</td> <td>高齢者、障害者等の移動等の円滑化に関する法律の概要について</td> <td>レポートと小テスト</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>省エネルギー法</td> <td>住宅・建築物関係における省エネ措置を行う省エネルギー関連法の概要について</td> <td>レポートと小テスト</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>建築士法</td> <td>建築物の設計、工事監理等を行うことのできる資格の建築士法について</td> <td>レポートと小テスト</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>建設業法</td> <td>建築物の耐震改修の促進に関する法律などの概要について</td> <td>レポートと小テスト</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>都市計画法</td> <td>都市計画法設立の経緯及び概要及び都市計画の各種事業手及び各種手続きについて</td> <td>レポートと小テスト</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>宅地・道路関係法</td> <td>宅地造成等規制法、道路法等の概要および技術的基準について</td> <td>レポートと小テスト</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>景観行政について</td> <td>良好な景観を形成するための「景観緑3法」などの概要について</td> <td>レポートと小テスト</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>宅建業法</td> <td>不動産業界における宅地建物取引業法の概要について</td> <td>レポートと小テスト</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>住宅品質確保法</td> <td>住宅業界の実態と住宅の品質確保の促進に関する法律の概要について</td> <td>レポートと小テスト</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>長期優良住宅普及促進法などストック対策について</td> <td>ストック重視の長期優良住宅の普及の促進に関する法律などの概要について</td> <td>レポートと小テスト</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>消防法</td> <td>消防法に関する留意事項及び事例紹介について</td> <td>レポートと小テスト</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>講義全体のまとめと定期試験、建築士試験について</td> <td>講義全体のまとめとして、最も重要な点についての再確認 定期視点、建築士受験のこれから行うべき対策について</td> <td>レポート (アンケート調査)</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	授業の進め方、総合的に見た建築業界の最近の動向について	レポートと小テスト (授業へのアンケートや理解度チェック)	2	各種の建築業界について	建築設計業界 建設業界 不動産業界 住宅業界 建築構造業界 建築設備業界 確認検査業界の実態等	レポートと小テスト	3	耐震改修促進法	耐震基準、耐震診断、耐震改修などについて 「建築物の耐震改修の促進に関する法律」などの概要について	レポートと小テスト	4	バリアフリー法	高齢者、障害者等の移動等の円滑化に関する法律の概要について	レポートと小テスト	5	省エネルギー法	住宅・建築物関係における省エネ措置を行う省エネルギー関連法の概要について	レポートと小テスト	6	建築士法	建築物の設計、工事監理等を行うことのできる資格の建築士法について	レポートと小テスト	7	建設業法	建築物の耐震改修の促進に関する法律などの概要について	レポートと小テスト	8	都市計画法	都市計画法設立の経緯及び概要及び都市計画の各種事業手及び各種手続きについて	レポートと小テスト	9	宅地・道路関係法	宅地造成等規制法、道路法等の概要および技術的基準について	レポートと小テスト	10	景観行政について	良好な景観を形成するための「景観緑3法」などの概要について	レポートと小テスト	11	宅建業法	不動産業界における宅地建物取引業法の概要について	レポートと小テスト	12	住宅品質確保法	住宅業界の実態と住宅の品質確保の促進に関する法律の概要について	レポートと小テスト	13	長期優良住宅普及促進法などストック対策について	ストック重視の長期優良住宅の普及の促進に関する法律などの概要について	レポートと小テスト	14	消防法	消防法に関する留意事項及び事例紹介について	レポートと小テスト	15	講義全体のまとめと定期試験、建築士試験について	講義全体のまとめとして、最も重要な点についての再確認 定期視点、建築士受験のこれから行うべき対策について	レポート (アンケート調査)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	授業の進め方、総合的に見た建築業界の最近の動向について	レポートと小テスト (授業へのアンケートや理解度チェック)																																																																
2	各種の建築業界について	建築設計業界 建設業界 不動産業界 住宅業界 建築構造業界 建築設備業界 確認検査業界の実態等	レポートと小テスト																																																																
3	耐震改修促進法	耐震基準、耐震診断、耐震改修などについて 「建築物の耐震改修の促進に関する法律」などの概要について	レポートと小テスト																																																																
4	バリアフリー法	高齢者、障害者等の移動等の円滑化に関する法律の概要について	レポートと小テスト																																																																
5	省エネルギー法	住宅・建築物関係における省エネ措置を行う省エネルギー関連法の概要について	レポートと小テスト																																																																
6	建築士法	建築物の設計、工事監理等を行うことのできる資格の建築士法について	レポートと小テスト																																																																
7	建設業法	建築物の耐震改修の促進に関する法律などの概要について	レポートと小テスト																																																																
8	都市計画法	都市計画法設立の経緯及び概要及び都市計画の各種事業手及び各種手続きについて	レポートと小テスト																																																																
9	宅地・道路関係法	宅地造成等規制法、道路法等の概要および技術的基準について	レポートと小テスト																																																																
10	景観行政について	良好な景観を形成するための「景観緑3法」などの概要について	レポートと小テスト																																																																
11	宅建業法	不動産業界における宅地建物取引業法の概要について	レポートと小テスト																																																																
12	住宅品質確保法	住宅業界の実態と住宅の品質確保の促進に関する法律の概要について	レポートと小テスト																																																																
13	長期優良住宅普及促進法などストック対策について	ストック重視の長期優良住宅の普及の促進に関する法律などの概要について	レポートと小テスト																																																																
14	消防法	消防法に関する留意事項及び事例紹介について	レポートと小テスト																																																																
15	講義全体のまとめと定期試験、建築士試験について	講義全体のまとめとして、最も重要な点についての再確認 定期視点、建築士受験のこれから行うべき対策について	レポート (アンケート調査)																																																																
関連科目	<p>・建築基準法を中心とした『建築法規』 また、幅広い知識を得るため、『自然科学関連科目』ほもちろん『社会科学関連科目』での学習を通じ、社会の動き、経済の動きを知る。</p>																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>建築関係 法令集 平成 27 年度版</td> <td>総合資格学院 編</td> <td>総合資格学院</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	建築関係 法令集 平成 27 年度版	総合資格学院 編	総合資格学院	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	建築関係 法令集 平成 27 年度版	総合資格学院 編	総合資格学院																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	<p>定期試験 50%、毎回 授業の最後に行う小テスト30%、レポート20%の割合で総合的に評価する。</p>																																																																		

学生への メッセージ	建築関係法規は、建築物を建てる際の絶対条件であり、設計する際にも、その道筋を示すものでもある。しかし、法律は、その正確さを期すことから一読しても理解できないものであるが、その根本を知れば、常識的なものである。そこまでの道筋を知ってほしい。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	事前学習：事後学習欄に示した内容について、毎回1.5時間以上かけて取り組む

科目名	建築企画	科目名(英文)	Management of Architectural Projects
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	生川 慶一郎
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	<p>「建築企画」とは「建築に関する事業において、なすべき仕事のイメージを描き、全体的または細部にわたる構想を練って取りまとめた提案およびそれに至る過程」と定義される(出典:建築企画事典)。近年、建築に関する事業は、その計画敷地で完結することなく、周辺地域や都市と関係性が問われており、さまざまな経済活動、まちづくりとの連携も重要となっている。</p> <p>本講義では、「建築企画」に伴う事業主体のあり方に始まり、継続的な協議体制の確立や多様な財源の確保、事業・取り組みの優先順位やその決定プロセスなど、都市が抱えている課題の解決に資する知見について学習する。</p>																																																																		
到達目標	<p>①都市が抱えている多岐にわたる課題に関する包括的な理解を深める。</p> <p>②具体的な「建築企画」の提案発表を通じて、事業実施に関する実践的な理論・手法・技能について習得する。</p> <p>学科の学習・教育目標との対応:[F]</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>①景観まちづくり、②地域まちづくり、③空家の利活用促進、④防災・減災まちづくり、⑤まちなか観光、⑥里山再生、⑦繁華街の安全・安心、⑧地域福祉、⑨団地マネジメント、⑩市街地住宅の再生、⑪地域住宅計画、以上11テーマを取り上げ、実例を通じた課題解説とそれに対する「建築企画」の提案発表を行う。また、参加型のワークショップを2回実施し、議論を深化させる実践的なアプローチを試みる。</p>																																																																		
科目学習の効果(資格)	特になし																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>都市再生分野で求められる建築企画</td> <td>都市再生・まちづくりの経緯と現状</td> <td>都市・住宅政策</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>テーマ1 京都の景観まちづくり</td> <td>保全再生される京町家、地域で取り組む景観づくり</td> <td>京町家再生プラン 21</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>テーマ2 地域まちづくり</td> <td>地域コミュニティの再生</td> <td>パートナーシップ</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>テーマ3 空家の利活用流通促進</td> <td>六原学区における空家活用まちづくり</td> <td>都市部において急増する空家の現状とその発生要因</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>テーマ4 防災・減災まちづくり</td> <td>災害後応急対策と事前対策</td> <td>3・3・3の原則、住まいの耐震化</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>ワークショップ【ディベート】</td> <td>京都市における新景観政策の是非を問う、賛成派・反対派に分かれて参加型ディベート</td> <td>新景観政策</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>テーマ5 まちづくり観光</td> <td>長崎さるく博、歩いて暮らせるまちづくり、くらしそ京都の取組</td> <td>まちなか交通戦略、まちづくり観光</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>テーマ6 農ある暮らし</td> <td>木津中央地区におけるニュータウン開発、中間組織による地域コミュニティ育成</td> <td>里山再生の現状、</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>テーマ7 繁華街の安全・安心まちづくり</td> <td>廃校小学校を活用した文化・交流</td> <td>繁華街の抱える課題</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>ワークショップ【ロールプレイ】</td> <td>地域資産の有効活用を提案</td> <td>まちづくり主体とその果たす役割</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>テーマ8 地域福祉</td> <td>地域包括ケアシステム、終の棲家</td> <td>少子高齢化で破綻する社会保障</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>テーマ9 団地マネジメント</td> <td>武庫川団地における団地マネジメント、行列ができる公的住宅団地</td> <td>公的住宅の現状と課題</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>テーマ10 市街地住宅の再生</td> <td>京都府住宅供給公社堀川団地の再生ビジョン</td> <td>団地再生の現状</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>テーマ11 地域住宅</td> <td>京都まちなかこだわり住宅、平成の京町家、震災復興住宅プロジェクト</td> <td>HOPE計画</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>最終試験</td> <td>記述式筆記試験(60分)</td> <td>全11テーマを対象</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	都市再生分野で求められる建築企画	都市再生・まちづくりの経緯と現状	都市・住宅政策	2	テーマ1 京都の景観まちづくり	保全再生される京町家、地域で取り組む景観づくり	京町家再生プラン 21	3	テーマ2 地域まちづくり	地域コミュニティの再生	パートナーシップ	4	テーマ3 空家の利活用流通促進	六原学区における空家活用まちづくり	都市部において急増する空家の現状とその発生要因	5	テーマ4 防災・減災まちづくり	災害後応急対策と事前対策	3・3・3の原則、住まいの耐震化	6	ワークショップ【ディベート】	京都市における新景観政策の是非を問う、賛成派・反対派に分かれて参加型ディベート	新景観政策	7	テーマ5 まちづくり観光	長崎さるく博、歩いて暮らせるまちづくり、くらしそ京都の取組	まちなか交通戦略、まちづくり観光	8	テーマ6 農ある暮らし	木津中央地区におけるニュータウン開発、中間組織による地域コミュニティ育成	里山再生の現状、	9	テーマ7 繁華街の安全・安心まちづくり	廃校小学校を活用した文化・交流	繁華街の抱える課題	10	ワークショップ【ロールプレイ】	地域資産の有効活用を提案	まちづくり主体とその果たす役割	11	テーマ8 地域福祉	地域包括ケアシステム、終の棲家	少子高齢化で破綻する社会保障	12	テーマ9 団地マネジメント	武庫川団地における団地マネジメント、行列ができる公的住宅団地	公的住宅の現状と課題	13	テーマ10 市街地住宅の再生	京都府住宅供給公社堀川団地の再生ビジョン	団地再生の現状	14	テーマ11 地域住宅	京都まちなかこだわり住宅、平成の京町家、震災復興住宅プロジェクト	HOPE計画	15	最終試験	記述式筆記試験(60分)	全11テーマを対象
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	都市再生分野で求められる建築企画	都市再生・まちづくりの経緯と現状	都市・住宅政策																																																																
2	テーマ1 京都の景観まちづくり	保全再生される京町家、地域で取り組む景観づくり	京町家再生プラン 21																																																																
3	テーマ2 地域まちづくり	地域コミュニティの再生	パートナーシップ																																																																
4	テーマ3 空家の利活用流通促進	六原学区における空家活用まちづくり	都市部において急増する空家の現状とその発生要因																																																																
5	テーマ4 防災・減災まちづくり	災害後応急対策と事前対策	3・3・3の原則、住まいの耐震化																																																																
6	ワークショップ【ディベート】	京都市における新景観政策の是非を問う、賛成派・反対派に分かれて参加型ディベート	新景観政策																																																																
7	テーマ5 まちづくり観光	長崎さるく博、歩いて暮らせるまちづくり、くらしそ京都の取組	まちなか交通戦略、まちづくり観光																																																																
8	テーマ6 農ある暮らし	木津中央地区におけるニュータウン開発、中間組織による地域コミュニティ育成	里山再生の現状、																																																																
9	テーマ7 繁華街の安全・安心まちづくり	廃校小学校を活用した文化・交流	繁華街の抱える課題																																																																
10	ワークショップ【ロールプレイ】	地域資産の有効活用を提案	まちづくり主体とその果たす役割																																																																
11	テーマ8 地域福祉	地域包括ケアシステム、終の棲家	少子高齢化で破綻する社会保障																																																																
12	テーマ9 団地マネジメント	武庫川団地における団地マネジメント、行列ができる公的住宅団地	公的住宅の現状と課題																																																																
13	テーマ10 市街地住宅の再生	京都府住宅供給公社堀川団地の再生ビジョン	団地再生の現状																																																																
14	テーマ11 地域住宅	京都まちなかこだわり住宅、平成の京町家、震災復興住宅プロジェクト	HOPE計画																																																																
15	最終試験	記述式筆記試験(60分)	全11テーマを対象																																																																
関連科目	特になし																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	小テスト(適宜)30%、2回のワークショップに関する提案内容20%、および最終試験(記述式筆記試験)50%により評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	都市再生・まちづくり分野に興味を持ち、積極的な議論を望む学生を求めます。																																																																		
担当者の研究室等	特になし																																																																		
備考	特になし 事前学習:事後学習欄に示した内容について、毎回1.5時間以上かけて取り組む																																																																		

科目名	建築計画各論	科目名(英文)	Architectural planning and Building Types
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	木多 彩子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教科に関する科目(高等学校 工業)【施行規則に定める科目区分】「工業の関係科目」【教員免許状取得のための履修区分】必修	

授業概要・目的	[授業概要・目的] 建築計画各論は、人間の活動の受け皿としての空間を、その空間の使われ方(ビルディングタイプ)に応じて知見を整理する講義である。具体的には、利用者と使用者という二つの視点からみた「建物の使われ方」、文化的背景を踏まえた「規模計画」、近年注目されている具体的な実例などをとりあげる。
到達目標	[到達目標] 1)各種ビルディングタイプの特徴の理解 2)規模計画の基本的事項の把握 3)代表的事例とプランタイプの理解 学科の学習到達目標との対応:[F]
授業方法と留意点	講義全般において建築計画上の要点をおさえつつ、近年注目される建築事例を紹介し、学生の皆さんも積極的に外に出て、講義で習った事項を実際の場所や空間で実体験するようにしてください。
科目学習の効果(資格)	設計演習Ⅱa、Ⅱb、Ⅲa、Ⅲb、および卒業設計、さらに建築士試験において必要な基礎的知識を得られる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
			1
2	居住施設の計画 1	独立住宅の計画と実例	予習課題(2)
3	居住施設の計画 2	集合住宅の計画(かたち、関係、しくみ)と実例	予習課題(3)
4	居住施設の計画 3	集合住宅の計画(住宅地、住宅関連産業)と実例	予習課題(4)
5	商業・業務施設の計画 1	店舗・SCの計画と実例	予習課題(5)
6	商業・業務施設の計画 2	オフィス・駐車場の計画と実例	予習課題(6)
7	商業・業務施設の計画 3	ホテル・宿泊研修施設の計画と実例	予習課題(7)
8	中間テスト	第1回から第7回の学習内容習得状況の確認	試験対策
9	学校・教育施設の計画	幼稚園・小学校の計画と実例	予習課題(8)
10	社会・文化施設の計画 1	ホール・劇場の設計と実例	予習課題(9)
11	社会・文化施設の計画 2	図書館の設計と実例	予習課題(10)
12	社会・文化施設の計画 3	美術館の設計と実例	予習課題(11)
13	医療・福祉施設の計画 1	病院の設計と実例	予習課題(12)
14	医療・福祉施設の計画 2	高齢者居住施設の設計と実例	予習課題(13)
15	多様化するデザイン概念	建物再生、人々によるデザイン、未完成のデザイン	-----

関連科目 「建築計画基礎」、「構造力学・構造基礎」をあらかじめ修得しておくこと。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	建築空間計画	積田 洋 他	彰国社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準) 学期末試験成績(30%)、中間試験(30%)、復習・予習課題(40%)

学生へのメッセージ 色々な建物や街の環境を体験し、その場所の良さや価値(問題も含めて)が、空間・人・社会・使い方・歴史などによって、どのように成立しているかを考えることが重要です。建築計画で得た知識を元に、各自が体験し、読みとった場所を、復習・予習課題を通じて報告する機会を設けます。

担当者の研究室等 8号館3階 木多教授室

備考 事前学習：事前事後学習課題欄に示した内容について、毎回0.5時間以上かけて取り組み、授業開始時に課題を提出する

科目名	建築計画基礎	科目名(英文)	Introduction to Architectural Planning
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小林 健治
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教科に関する科目(高等学校 工業)【施行規則に定める科目区分】「工業の関係科目」【教員免許状取得のための履修区分】必修	

授業概要・目的	建築の設計・計画の基礎知識と基本的技法等を実例を紹介しながら、講義する。建築士資格相当の設計・計画の基礎知識を修得することを目的とする。
到達目標	1) 建築計画に関する基礎知識の修得、2) 各種単位空間の計画知識の修得、3) 社会や時代に対応した人間的な建築を計画する基礎の理解、4) 建築と人間の関わりに関する重要な概念の理解、5) 建築を計画する上で必要なボキャブラリーを組み立てる基礎の理解、6) 建築計画に関する基本的技法の理解。 学科の学習・教育目標との対応：[F]
授業方法と留意点	配布資料を用いたノート講義形式です。スライドや板書等の資料を積極的にメモすることで知識の修得を行ってください。知識は建築や空間を実体験することでさらに理解が深まるので、積極的に建築や空間を体験してもらう復習課題を課します。順番、内容は変更される場合があります。
科目学習の効果(資格)	設計演習Ⅰ、Ⅱa、Ⅱb、Ⅲa、Ⅲb、及び卒業設計、さらに建築士資格取得のための基礎知識を修得することができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス「建築」の範囲	授業概要・目的・到達目標、専門関連科目との関係、講義の進め方、建築が扱う範囲及び基本ボキャブラリー	予習課題
2	身近な環境における建築計画 1	住宅における単位空間	復習または予習課題
3	身近な環境における建築計画 2	公共施設における単位空間	復習または予習課題
4	日常生活を支える建築計画 1	建築の機能性、快適性、経済性	復習または予習課題
5	日常生活を支える建築計画 2	建築の安全性、耐久性、更新性	復習または予習課題
6	人間と建築の関係からみた建築計画 1	空間の知覚と認知、形態とスケール	復習または予習課題
7	人間と建築の関係からみた建築計画 2	パーソナルスペース、テリトリー、人間の属性	復習または予習課題
8	中間試験	前半の学習内容のまとめ、および、修得状況の確認	復習または予習課題
9	屋外空間の生活とデザイン	人の居方とアクティビティ	復習または予習課題
10	都市のイメージ	都市の風景と役割	復習または予習課題
11	都市と建築のパブリックスペース	パブリックスペースのデザイン	復習または予習課題
12	建築計画の技法 1	敷地、計画目標、イメージ、フィールドサーヴェイ	復習または予習課題
13	建築計画の技法 2	平面計画、断面計画、ファサードデザイン	復習または予習課題
14	建築計画の技法 3	屋外空間、ランドスケープデザイン	復習または予習課題
15	建築計画の技法 4	計画を伝えるための技法や手法	復習または予習課題

関連科目 設計演習Ⅰ、Ⅱa、Ⅱb、Ⅲa、Ⅲb、建築計画各論、構造力学・構造基礎など

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	コンパクト建築設計資料集成	日本建築学会編	丸善株式会社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	建築計画	長澤泰編著、在塚礼子、西出和彦著	市ヶ谷出版会
2	(新版) 建築計画Ⅰ	岡田光正、柏原士郎、森田孝夫、鈴木克彦著	鹿島出版会
3	初めての建築設計ステップ・バイ・ステップ	川北健雄、三上晴久、倉知徹、水島あかね、花田佳明著	彰国社

評価方法(基準) 中間試験(30%)、期末試験(50%)、予習・復習課題(20%)とする。

学生へのメッセージ 建築を学ぶためには、自分が経験、体験することが必要です。講義で紹介した視点を思い出しながら、その場所で建築が生み出している場所の質を観察してください。また幅広く本を読み、各種メディアにアンテナを張るようにしてください。

担当者の研究室等 8号館3階 小林講師室

備考 事前学習：内容に記載した事柄について毎回0.5時間以上取り組む。  
事後学習：講義した事柄について身近な環境におきかえて毎回0.5時間以上取り組む。

科目名	建築材料 I	科目名 (英文)	Building Materials I
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	柳沢 学
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教科に関する科目 (高等学校 工業)【施行規則に定める科目区分】「工業の関係科目」【教員免許状取得のための履修区分】必修	

授業概要・目的	[授業概要・目的]建築材料には、建物の柱、梁、床、耐力壁、基礎など建物の骨組を構成する構造材料がある。これらの材料を使用して建築物を設計する時、あらかじめ材料の長所、短所あるいは材質など基礎的知識と応用を熟知し適材を適所に用いる方法を間違えないことが大切である。
到達目標	[到達目標] 1)建築材料で用いる用語を理解し利用できる 2)フレッシュコンクリートの性能を理解し調査設計ができる 3)硬化コンクリートの性能を理解し構造設計に適用できる 4)鋼材の種類および性能を理解し利用できる 学科の学習・教育到達目標との対応：[H]
授業方法と留意点	教科書を中心とした講義とするが、関連する重要な、あるいは最新の情報をプリントにまとめて講義する場合もある。グループで課題をまとめて発表することもある。
科目学習の効果 (資格)	一級建築士および二級建築士学科試験の「構造」および「材料・施工」部門に関係する。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	授業内容これから学ぶ建築材料 建築材料の基本的性質	スケジュール、注意事項、評価方法 建築材料学の概説 建築材料学を学ぶ目的 建築材料の分類、性能、性質 物理的性質 力学的性質 機械的性質	シラバス熟読
2	コンクリート1 概説 セメント	コンクリートの種類 コンクリートの性質 セメントの分類 諸性質	教科書 p 57～p 70
3	コンクリート2 骨材	種類 品質 アルカリ骨材反応 粒度分布 実積率 含水状態と比重	教科書 p 70～p 77
4	コンクリート3 軽量コンクリート 混和材料	軽量コンクリートの種類、強度、耐久性 AE剤 減水剤 AE減水剤 混和材	教科書 p 77～p 80
5	コンクリート4 コンクリートの調合	調合強度 スランプ値 水セメント比 単位水量 単位セメント量 細骨材率 空気量 混和材料 計画調合の表し方	教科書 p 82～p 91
6	コンクリート5 フレッシュコンクリートの性質	ワーカビリティ 分離 プリージング レイタンス	教科書 p 92～p 95
7	コンクリート6 硬化コンクリートの性質	強度に影響する因子 水セメント比 空隙 混練時間 骨材 セメント 養生方法	教科書 p 96～p 100
8	コンクリート7 コンクリート強度	強度試験方法と各種強度 力学的性質	教科書 p 101～p 104
9	コンクリート8 強度以外の諸性質	重量 体積変化 火・熱に対する性質 水密性 耐久性	教科書 p 104～p 108
10	コンクリート9 コンクリート製品	コンクリートブロック プレファブコンクリート プレキャストコンクリート プレストレストコンクリート その他の製品	教科書 p 146～p 148 教科書 p 203 教科書にない情報を提供
11	金属1 鉄、鋼類	鉄鉄と鋼 製造 製鋼 鋼材の性質	教科書 p 113～p 120
12	金属2 鉄・鋼	鋼材の品質 普通鋼 高張力鋼 調質鋼 ステンレス鋼 鋳鉄と鋳鋼	教科書 p 120～p 121
13	金属3 非鉄金属	銅とその合金 アルミニウムとその合金 金属の腐食と防食	教科書 p 127～p 130 教科書 p 121～p 122
14	金属4 金属製品	圧延鋼材、準構造用鋼材 種類と製品	教科書 p 122～p 127
15	全体 まとめ	全体的なまとめ	1回～14回プリント

関連科目	鉄筋コンクリート構造 I, II 鋼構造 I, II
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	建築材料 (第7版)	菊池雅史、小山明男	オーム社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	受講態度 (20%) と、演習・小テスト・レポートなど (30%) 定期試験 (50%) の割合で評価する。60%以上を合格とする。受講態度では授業への積極的な参加態度や事前・事後学習状況を評価する。
-----------	--

学生へのメッセージ	多くの建築材料の特性を知り、その使用用途や使用適箇所への判断を誤らないような知識の習得が重要である。主に構造材料に時間を割いている。はば広く知識を得ることを希望する。 授業中は私語を慎み、集中して授業内容の理解に努めて下さい。
-----------	--

担当者の研究室等	8号館3階 柳沢教室
----------	------------

備考	教科書や配布プリントの見直しなど、事前・事後学習には1回あたり1.5時間以上かけること。
----	--



科目名	建築材料Ⅱ	科目名(英文)	Building Materials II
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	高木 恭子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教科に関する科目(高等学校 工業)【施行規則に定める科目区分】「工業の関係科目」【教員免許状取得のための履修区分】選択	

授業概要・目的	建築物を基礎、柱、梁、床、壁等の部位ごとにその構成を理解すると共に、各部が要求する性能に応じた材料の長所・短所について学び、建物の設計、積算、施工といった過程を縦断する基礎的知識を得る。
到達目標	①建築物を構成する部位ごとの材料特性、要求性能を理解する。 ②木構造の構成と各部位における木材の長所・短所を理解する。 ③建築物を構成する材料について数量から把握する。  ※学科の学習・教育到達目標との対応：[H]
授業方法と留意点	教科書を用い、併せて各講義に関連する資料を配布する。
科目学習の効果(資格)	一級・二級建築士資格取得のために必須である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	授業の目的と概要、評価基準と注意事項。建物各部の構成概要の説明。	建築工程から使用材料の概要を紹介する
	2	木構造①：木材の概要	木材の種類と特徴	住宅事例の使用木材をリストアップする
	3	木構造②：木構造の構成	構造部材の名称と形状	住宅事例から柱、梁をリストアップする
	4	木構造③：下地材の構成	部位ごとの特徴と要求性能	住宅事例から床、屋根、壁の下地材をリストアップする
	5	木構造に関するまとめ	構造部材の種類と数量のまとめ	木構造に関するレポートの作成
	6	建築物の各部位について(外装と内装)	建物を構成する部位と工事種目	住宅事例から工事種目別材料をリストアップする
	7	外装材①：屋根材料(防水材)	屋根の機能と要求性能、屋根葺き材、屋根勾配、防水材	住宅事例から屋根の仕上げ材をリストアップする
	8	外装材②：外壁材料	外壁の機能と要求性能	住宅事例から外装材をリストアップする
	9	外装材③：開口部と接合材料(外部の開口部)	ガラス、枠材、シーリング材の要求性能	住宅事例から外部開口部材をリストアップする
	10	部位別建築材料に関するまとめ1(外装材)	外装材の種類と数量のまとめ	外装材に関するレポートをまとめる
	11	内装材①：床材料	床の機能と要求性能	住宅事例から床材をリストアップする
	12	内装材②：内壁・天井材料	内壁・天井の機能と要求性能	住宅事例から内壁材、天井材をリストアップする
	13	内装材③：開口部と接合材料(内部の開口部)	内部建具の要求性能	住宅事例から内部建具をリストアップする
	14	部位別建築材料に関するまとめ2(内装材)	内装材の種類と数量のまとめ	内装材に関するレポートをまとめる
	15	総括(各材料の再利用と廃棄)	建物を構成する要素のまとめ	レポートのまとめ

関連科目 設計演習関連科目、建築材料Ⅱ、鉄筋コンクリート構造、鉄筋コンクリート構造Ⅱ、鋼構造Ⅰ、鋼構造Ⅱ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	建築材料第7版	菊池雅史・小山明男	オーム社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	初学者の建築講座 建築材料	橘高義典・小山明男・中村成春	市ヶ谷出版社
	2	構造用教材	日本建築学会	丸善株式会社
	3	積算ポケット手帳 建築編	建築資料研究社	建築資料研究社

評価方法(基準)	授業態度(15%)、ミニレポート(40%)、まとめレポート(45%)により総合的に判断する。
学生へのメッセージ	建築物には多くの建築材料が使用されています。それらを建物を構成する部材として理解していくことは、建物の設計、積算、施工といった過程の具体的な把握へとつながることと考えます。授業を通し、一つの建物を完成させていく過程の把握を目指します。主に木造と仕上げ材料に関して学ぶので、建築材料Ⅰの学習内容はよく理解しておいて下さい。
担当者の研究室等	8号館3階 建築学科共通準備室
備考	事前事後学習欄に示した内容について、毎回0.5時間以上調べて、授業内容を思い出して1時間以上かけて課題を作成する

科目名	建築情報処理応用	科目名(英文)	Architectural Computer Science
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	宮本 征一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目(中学校 数学)【施行規則に定める科目区分】「コンピュータ」【教員免許状取得のための履修区分】選択【科目】教科に関する科目(高等学校 数学)【施行規則に定める科目区分】「コンピュータ」【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	企画、設計、施工という建設業務の多くでは、文書作成、表計算、プレゼンテーション能力が必要とされている。そのため、Excel、Photoshop、Illustrator を用いて、報告書の作成、簡易な表計算、プレゼンテーションの手法について実習を中心に学ぶ。そのために必要なデータの統計処理等の数学的手法について学ぶ。 昨今の建築実務業界における BIM に関する基礎的な知見を得る。 学科の学習・教育目標との対応：[E]
到達目標	1) Excel を用いて図表の作成と表計算ができること、2) Word を用いて報告書を作成できること、3) Photoshop および Illustrator を用いて計画のダイアグラムやプレゼンテーションボードが作成できること。
授業方法及び留意点	始めに簡単な説明をしますが、講義の基本は自発的な演習と質問に対する回答という方法で行います。
科目学習の効果(資格)	将来の実務・現場でのデータ処理やプレゼンテーション能力の基礎となる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	基本事項の説明	この講義では、Windows と Excel、Word、Photoshop、Illustrator を使って講義を進めるので、Excel、Word、Photoshop、Illustrator の基本事項を述べる。	シラバスを熟読してくる
2	建築写真・パース・図面の加工 1	色の補正、明るさの補正	本日の課題を予習してくる
3	建築写真・パース・図面の加工 2	修復、形状の補正	本日の課題を予習してくる
4	建築写真・パース・図面の加工 3	背景・人物の合成	本日の課題を予習してくる
5	建築写真・パース・図面の加工 4	光と影の表現	本日の課題を予習してくる
6	建築写真・パース・図面の加工 5	図面の着色	本日の課題を予習してくる
7	プレゼンテーションボードの作成 1	画像の取り込み、テキスト構成	本日の課題を予習してくる
8	プレゼンテーションボードの作成 2	ダイアグラムの作図	本日の課題を予習してくる
9	プレゼンテーションボードの作成 3	全体レイアウトの構成と出力	本日の課題を予習してくる
10	プレゼンテーションボードの作成 4	発表と講評	本日の課題を予習してくる
11	Excel 1	統計学の基礎を学び、Excel 関数などを使用して、表計算を行えるようになる。	本日の課題を予習してくる
12	Excel 2	環境工学で得られた実験データを用いて、図表を作成する。	本日の課題を予習してくる
13	Excel 3	図表を Word 上に貼り付けるなどの報告書のスキルを身につける。	本日の課題を予習してくる
14	Excel 4	Excel・Word の使い方についての試験	これまでの内容の復習
15	BIM (Building Information Modeling)	建築実務業界における BIM の現状や今後の可能性について学ぶ。	レポート課題の作成

関連科目	卒業研究
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	建築とインテリアのための Photoshop+Illustrator テクニック	長嶋竜一	エクスナレッジ
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	Excel と Word の基礎的な使い方を理解しているかについて中間試験(30%)およびプレゼンテーションボード成果品および発表態度(50%)で達成度を判定し、平常作業点(10%)とレポート(10%)と合わせて評価する。
----------	---

学生へのメッセージ	講義に対して積極的に取り組んでください。教科書や参考書の指定はしませんが、個々に合った本を購入して利用するようにしてください。
-----------	---

担当者の研究室等	8号館3階 宮本教授室・小林講師室
----------	-------------------

備考	事前・事後学習：事前事後学習欄に記載した内容を毎回1時間以上取り組むこと。
----	---------------------------------------



科目名	建築情報処理基礎	科目名 (英文)	Introduction to Architectural Computer Science
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	木多 彩子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目 (中学校 数学)【施行規則に定める科目区分】「コンピュータ」【教員免許状取得のための履修区分】選択【科目】教科に関する科目 (高等学校 数学)【施行規則に定める科目区分】「コンピュータ」【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	[授業概要・目的] 建築の設計・施行に際して必要となるコンピュータを用いた製図技術 (CAD : Computer Aided Design)の修得を目的とする。本講義では2次元CADはAutoCADを利用し、3次元CADはSketchUpを用いる。本講義は情報処理室で行うが、パソコン台数と作業時間に限りがあるので、3年次学生の履修を優先する。
到達目標	[到達目標] 1)AutoCADで基本的な操作を覚える。2)AutoCADで一般図が作成できる。3)SketchUpでプレゼンテーション図面が作成できる。学科の学習到達目標との対応:[E]
授業方法と留意点	授業時間内に作業を進め、完了するためには、無遅刻、無欠席が必須である
科目学習の効果 (資格)	CADを用いた製図は、とりわけ透視図作成時に活用度が高い。また他のCAD・CGソフト習得時の理解が速まる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	AutoCAD 平面図作成 1	通り芯、寸法の作図 柱、壁の作図	配布プリント (参考書 p.90 から p.140)
3	AutoCAD 平面図作成 2	建具、設備の作図 文字入力、印刷出力	配布プリント (参考書 p.141 から p.186)
4	中間作業確認	AutoCAD操作修得の確認	配布プリント
5	SketchUpの概要 基本操作	SketchUpの基本コマンド、基本操作、練習問題	教科書 (p.27 から p.70)
6	SketchUpによるプロダクトモデリング 1	マグカップのデザインと作成	教科書 (p.72 から p.90)
7	SketchUpによるプロダクトモデリング 2	椅子のデザインと作成	配布資料
8	SketchUpによる住宅のモデリング 1	平面図の作成と立体化	教科書 (p.92 から p.114)
9	SketchUpによる住宅のモデリング 2	外部建具の作成と配置	教科書 (p.115 から p.136)
10	SketchUpによる住宅のモデリング 3	外装/内装の作成と仕上げ	教科書 (p.137 から p.155)
11	SketchUpによる住宅のモデリング 4	画像の出力/アニメーションの作成 DXFデータの読み込みと利用	教科書 (p.156 から p.194)
12	SketchUpと3Dプリンタ	3Dプリントサービスの概要 模型用データの作成	教科書 (p.213 から p.242)
13	SketchUpによる建物のモデリング 1	形態作成 マテリアルの表現	配布資料
14	SketchUpによる建物のモデリング 2	見せ方の工夫 プレゼンテーションの作成	配布資料
15	期末作業確認	SketchUp操作修得の確認	配布資料

関連科目 設計演習 I・IIa・IIb

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	SketchUp パーフェクト作図実践編	阿部秀之	X-Knowledge
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	やさしく学ぶAutoCAD LT	芳賀百合	X-Knowledge
2				
3				

評価方法 (基準)	課題点 (40%)、中間作業確認 (30%)、期末作業確認 (30%)
学生へのメッセージ	私語を慎み熱心に取り組めば、授業時間内に作業を完了させることが充分にできます。もし、自宅で復習や自習をする場合には windows のコンピュータが必要です。
担当者の研究室等	8号館3階 木多教授室
備考	事後学習：事前・事後学習課題欄に示した内容について、毎回0.5時間以上かけて作業手順を確認する。

科目名	建築施工 I	科目名 (英文)	Construction Method of Buildings I
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	林 浩二
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	企画計画から設計・施工・維持管理までの各プロセスの概要及び管理のポイントをわかりやすく講義する。適時グループ討議や発表をしてもらうことで理解を深めてもらう。																																																																		
到達目標	「建築施工」は設計図書に基づき建物を建てることであるが、企画から維持管理までの流れの中で、施工とは何かを理解し、各プロセスの概要と管理のポイントを理解し、施工管理技術者としての基礎知識を得る。  建築学科の学習・教育到達目標との対応：[H]																																																																		
授業方法と留意点	配布資料を中心に授業を進め、講義内容に関連した「資料」を示して講義する。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	一級建築士、及び一級建築施工管理技士の資格取得に関連する学科試験「施工」部門の学力を身につけることができる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> <td>授業内容、授業の進め方、評価基準等に関して説明する</td> <td>—————</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>建築施工概論</td> <td>建物の一生について、設計と施工の関連から説明する</td> <td>次回授業の予習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>施工者の選定</td> <td>施工形態や施工者の選定方法について説明する。工事請負契約の概略について説明する。</td> <td>次回授業の予習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>工事着手</td> <td>工事の流れを説明する。工程管理の初歩を説明する。</td> <td>次回授業の予習 工程管理の練習問題</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>仮設工事</td> <td>準備工事及び仮設工事の概要を説明する。現場測量の概要を説明する。</td> <td>次回授業の予習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>土工事</td> <td>地盤調査、土工事、山留工事の概要を説明する。</td> <td>次回授業の予習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>鉄筋コンクリート工事 1</td> <td>鉄筋工事について説明する</td> <td>次回授業の予習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>鉄筋コンクリート工事 2</td> <td>型枠工事・コンクリート工事について説明する。</td> <td>次回授業の予習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>鉄骨工事</td> <td>鉄骨の建方、接合部の処理方法について説明する。</td> <td>次回授業の予習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>屋根・防水工事</td> <td>屋根工事・防水工事・シーリング工事について説明する</td> <td>次回授業の予習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>外装工事</td> <td>左官工事・タイル石工事・建具ガラス工事・金属工事について説明する</td> <td>次回授業の予習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>内装工事</td> <td>内装工事・塗装吹付工事・ユニット工事・断熱工事について説明する</td> <td>次回授業の予習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>設備工事</td> <td>電気・給排水・空調・昇降機設備について説明する</td> <td>次回授業の予習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>完成引き渡し・アフターケア</td> <td>建物の完成・引き渡し・アフターケアについて説明する。</td> <td>次回授業の予習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td>授業全体のまとめ 建築施工管理方法についてのディスカッションを行う</td> <td>—————</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	授業内容、授業の進め方、評価基準等に関して説明する	—————	2	建築施工概論	建物の一生について、設計と施工の関連から説明する	次回授業の予習	3	施工者の選定	施工形態や施工者の選定方法について説明する。工事請負契約の概略について説明する。	次回授業の予習	4	工事着手	工事の流れを説明する。工程管理の初歩を説明する。	次回授業の予習 工程管理の練習問題	5	仮設工事	準備工事及び仮設工事の概要を説明する。現場測量の概要を説明する。	次回授業の予習	6	土工事	地盤調査、土工事、山留工事の概要を説明する。	次回授業の予習	7	鉄筋コンクリート工事 1	鉄筋工事について説明する	次回授業の予習	8	鉄筋コンクリート工事 2	型枠工事・コンクリート工事について説明する。	次回授業の予習	9	鉄骨工事	鉄骨の建方、接合部の処理方法について説明する。	次回授業の予習	10	屋根・防水工事	屋根工事・防水工事・シーリング工事について説明する	次回授業の予習	11	外装工事	左官工事・タイル石工事・建具ガラス工事・金属工事について説明する	次回授業の予習	12	内装工事	内装工事・塗装吹付工事・ユニット工事・断熱工事について説明する	次回授業の予習	13	設備工事	電気・給排水・空調・昇降機設備について説明する	次回授業の予習	14	完成引き渡し・アフターケア	建物の完成・引き渡し・アフターケアについて説明する。	次回授業の予習	15	まとめ	授業全体のまとめ 建築施工管理方法についてのディスカッションを行う	—————
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	授業内容、授業の進め方、評価基準等に関して説明する	—————																																																																
2	建築施工概論	建物の一生について、設計と施工の関連から説明する	次回授業の予習																																																																
3	施工者の選定	施工形態や施工者の選定方法について説明する。工事請負契約の概略について説明する。	次回授業の予習																																																																
4	工事着手	工事の流れを説明する。工程管理の初歩を説明する。	次回授業の予習 工程管理の練習問題																																																																
5	仮設工事	準備工事及び仮設工事の概要を説明する。現場測量の概要を説明する。	次回授業の予習																																																																
6	土工事	地盤調査、土工事、山留工事の概要を説明する。	次回授業の予習																																																																
7	鉄筋コンクリート工事 1	鉄筋工事について説明する	次回授業の予習																																																																
8	鉄筋コンクリート工事 2	型枠工事・コンクリート工事について説明する。	次回授業の予習																																																																
9	鉄骨工事	鉄骨の建方、接合部の処理方法について説明する。	次回授業の予習																																																																
10	屋根・防水工事	屋根工事・防水工事・シーリング工事について説明する	次回授業の予習																																																																
11	外装工事	左官工事・タイル石工事・建具ガラス工事・金属工事について説明する	次回授業の予習																																																																
12	内装工事	内装工事・塗装吹付工事・ユニット工事・断熱工事について説明する	次回授業の予習																																																																
13	設備工事	電気・給排水・空調・昇降機設備について説明する	次回授業の予習																																																																
14	完成引き渡し・アフターケア	建物の完成・引き渡し・アフターケアについて説明する。	次回授業の予習																																																																
15	まとめ	授業全体のまとめ 建築施工管理方法についてのディスカッションを行う	—————																																																																
関連科目	建築施工Ⅱ 建築材料 その他構造関連科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>初学者のための建築講座 建築施工</td> <td>中澤明夫・角田誠</td> <td>市ヶ谷出版社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	初学者のための建築講座 建築施工	中澤明夫・角田誠	市ヶ谷出版社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	初学者のための建築講座 建築施工	中澤明夫・角田誠	市ヶ谷出版社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業参加状況レポート内容と期末試験の成績を評価対象とする。(授業参加状況及びレポートの内容50%、期末試験50%を目安とする)																																																																		
学生へのメッセージ	建築施工は業界の特殊用語が多いため、事前の予習により理解を深めておくことが重要。授業を通じ建築の面白さや施工の重要性を体得し、資格取得を目指してほしい。自ら行動する積極的な姿勢が特に望まれる。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室																																																																		
備考	授業にかかわる予習・復習には1回あたり1.5時間以上かけるようにする。																																																																		

科目名	建築施工Ⅱ	科目名(英文)	Construction Method of Buildings II
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	林 浩二
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	「建築施工Ⅰ」で学んだことをベースに複合的に施工を学ぶ。コンクリートのひび割れ防止や水密ラインの設定といった実務的な内容を学ぶ。
到達目標	適時、作業を行うことで、実務に近いことを体得することを目標とする。 建築学科の学習・教育到達目標との対応：[H]
授業方法と留意点	配布資料を中心に授業を進め、講義内容に関連した「資料」を示して講義する。
科目学習の効果(資格)	一級建築士、一級建築施工管理技士の資格取得に関連する学科試験「施工」部門の学力を身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の目的と概要説明 評価基準の説明	—
2	工程管理1	ネットワーク工程表の理解	次回授業の予習
3	工程管理2	ネットワーク工程の演習	次回授業の予習。ネットワーク工程の課題提出。
4	マネジメント技術1	品質管理手法の解説と実地作業	次回授業の予習
5	マネジメント技術2	新しいマネジメント技術を学ぶ	次回授業の予習
6	施工図について	施工図の重要性と位置づけを学び、簡単な作業を行う。	次回授業の予習
7	鉄筋コンクリート工事全般	鉄筋工事・型枠工事・コンクリート工事の要点を再認識する。	次回授業の予習 施工図の課題提出
8	コンクリートのひび割れ防止1	コンクリートの宿命ともいえる「ひび割れ」をいかに防止するか、その全体像を学ぶ。	次回授業の予習
9	コンクリートのひび割れ防止2	壁や土間などの部位ごとにひび割れ防止の工夫を学ぶ	次回授業の予習
10	カーテンウォールの挙動とファスナー	地震時の躯体の挙動と外装材の挙動を学び、取り付け金物がどのようになっているかを学ぶ	次回授業の予習
11	雨水排水・止水ラインの設定	雨漏りを防ぐために躯体とサッシがいかに防水機構を備えているかを学ぶ	次回授業の予習
12	建築と設備の取り合い	建築と設備の調整がうまくいって初めて美しい建物ができることを学ぶ	次回授業の予習
13	BIM概論	BIMの概要を説明し、フロントローディングの重要性を学ぶ	次回授業の予習
14	施工管理の要点	施工管理の要点を一覧にまとめ、全体像を再確認する。	次回授業の予習
15	まとめ	授業全般のまとめと建築施工管理に関するディスカッションを行う	—

関連科目 建築施工Ⅰ 建築材料Ⅰ・Ⅱ その他構造関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	初学者のための建築講座 建築施工	中澤明夫・角田誠	市ヶ谷出版社
2			
3			

評価方法(基準)	授業参加状況、レポート内容と期末試験の成績を評価対象とする。(授業参加状況及びレポートの内容50%、期末試験50%を目安とする)
学生へのメッセージ	事前予習が重要。授業を通じ建築の面白さや施工の重要性を体得し、資格取得を目指してほしい。自ら行動する積極的な姿勢が特に望まれる。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	事前学習・事後学習には1回あたり1.5時間以上をかけるようにする。

科目名	建築設備学	科目名(英文)	Building Services
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	宮本 征一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	建築物における建築設備の役割を説明する。空気調和設備・給排水衛生設備とそれらに関する電気設備などの内容を説明する。地球環境負荷の低減に向けての建築設備設計の役割について説明する。 建築環境工学で学んだ知識を基に、地球環境への配慮した設備計画を提案できる能力を身につけること、またはそれらを理解したうえで建築計画を行なう能力を身につけることを目的とする。
到達目標	空気調和設備・給排水衛生設備とそれらにかかわる電気設備などの内容を理解し、一級建築士の資格試験に出題される用語を理解して、概略の設備計画をまとめることを到達目標とする。 学習・教育目標との対応：[G]
授業方法と留意点	教科書に沿った講義を行うため、第2回の授業までに、教科書を購入して、必ず持参すること。
科目学習の効果(資格)	建築設備士、一級建築士、一級管工事施工管理技士、などの資格を取得するために重要な科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	空気調和・給排水衛生設備の概要	建築設備の必要性について説明する。	事前学習は、授業テーマの教科書の範囲に j 記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
2	空気調和設備 1	空気調和設備の概要、室内の温熱環境・空気環境について説明する。	事前学習は、授業テーマの教科書の範囲に j 記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
3	空気調和設備 2	空気調和の負荷について説明する。	事前学習は、授業テーマの教科書の範囲に j 記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
4	空気調和設備 3	熱源システムについて説明する。	事前学習は、授業テーマの教科書の範囲に j 記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
5	空気調和設備 4	空気調和システムについて説明する。	事前学習は、授業テーマの教科書の範囲に j 記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
6	空気調和設備 5	暖房方式、排煙設備、空気調和設備にかかわる省エネルギー技術、空気調和設備のマネージメントについて説明する。	事前学習は、授業テーマの教科書の範囲に j 記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
7	空気調和設備に関する演習	一級建築士レベルの空気調和設備に関する問題を解答してもらい、解説する。	事後学習は、授業で解いた問題の理解を深めること。関連する内容を復習すること。
8	給排水衛生設備 1	給排水衛生設備の概要、給水設備について説明する。	事前学習は、授業テーマの教科書の範囲に j 記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
9	給排水衛生設備 2	給湯設備、衛生器具設備について説明する。	事前学習は、授業テーマの教科書の範囲に j 記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
10	給排水衛生設備 3	排水通気設備、排水処理・雨水利用設備について説明する。	事前学習は、授業テーマの教科書の範囲に j 記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
11	給排水衛生設備 4	消火設備、ガス設備について説明する。	事前学習は、授業テーマの教科書の範囲に j 記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
12	給排水衛生設備に関する演習	一級建築士レベルの給排水衛生設備に関する問題を解答してもらい、解説する。	事後学習は、授業で解いた問題の理解を深めること。関連する内容を復習すること。
13	空気調和・衛生設備に関する電気設備	電気設備の概要、電力設備の概要、通信・情報・防災・中央監視制御設備の概要、搬送設備の概要について説明する。	事前学習は、授業テーマの教科書の範囲に j 記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
14	電気設備に関する演習	一級建築士レベルの電気設備に関する問題を解答してもらい、解説する。	事後学習は、授業で解いた問題の理解を深めること。関連する内容を復習すること。
15	建築設備学総論	いままでの講義内容を復習するとともに、建築設備計画の進め方について説明する。	事後学習は、授業で解いた問題の理解を深めること。関連する内容を復習すること。

関連科目	建築環境工学をはじめとする建築に関する専門知識が必要である。
------	--------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	空気調和・衛生設備の知識	空気調和・衛生設備工学会編	オーム社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	演習(30%)および期末試験(70%)で評価する。
学生への	建築設備の基本的知識を身につけるために、復習すること。教科書の図表を使用して講義を行うため、教科書を必ず持参すること。

メッセージ	
担当者の 研究室等	宮本教授室
備考	事前学習は、30分以上してください。事後学習は、60分以上してください。暗記するのではなく、建築環境工学の知識と関連付けて理解すること。

科目名	建築ゼミ I	科目名 (英文)	Seminar in Architecture I
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	柳沢 学
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	建築学は計画環境系・構造物生産系の広い分野からなり、専任教員の専門分野も多岐にわたる。早期に各教員と身近に接し、各分野をどのように学べばよいか、建築学の概要を学び、大学での勉学・調査・研究の仕方と倫理を具体例を通して体験する。建築全般について、また学生生活全般にわたって、教員に相談が出来る機会でもある。		
到達目標	[到達目標] 1) 建築学の各分野の概要把握、2) 大学での勉学の仕方を身につける。 学科の学習・教育目標との対応: [A]		
授業方法と留意点	建築ゼミ I では、各教員に同人数となるようにゼミ分けをする。ここでのゼミ担当者が3年次前期までの担任であり、日常的な質問や相談の窓口になる。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>以下の流れに沿って、各回教員毎の9グループに分かれ、建築・都市に関する課題を模擬的に体験する。</p> <p>〈第1回〉建築学科で学ぶ姿勢について (ファーストイヤーガイドを用いて研究不正の防止や ISO14000 の取り組みなどを知る)</p> <p>〈第2回〉自分たちの図書館を活用しよう</p> <p>〈第3回〉PC環境を活用しよう (成績管理システム入力)</p> <p>〈第4回〉PC環境を活用しよう (ppt 応用)</p> <p>〈第5回〉紙を使って立体を考えよう①</p> <p>〈第6回〉紙を使って立体を考えよう②</p> <p>〈第7回〉地域を歩こう① (フィールド調査)</p> <p>〈第8回〉地域を歩こう② (グループ発表)</p> <p>〈第9回〉模型で考えよう①</p> <p>〈第10回〉模型で考えよう② (グループ制作)</p> <p>〈第11回〉ストローで建築の構造を考えよう①</p> <p>〈第12回〉ストローで建築の構造を考えよう②</p> <p>〈第13回〉発泡スチロールを用いて梁の性質を考えよう① (制作・実験)</p> <p>〈第14回〉発泡スチロールを用いて梁の性質を考えよう② (グループ実験)</p> <p>〈第15回〉発泡スチロールを用いて梁の性質を考えよう③ (グループ発表)</p>		
関連科目	専門科目全般		
教科書	番号	書籍名	著者名 出版社名
	1	教科書・教材は毎回プリントを配布する。その他必要なものは、各教員の指示に従って用意すること。 参考書・授業で紹介	
参考書	番号	書籍名	著者名 出版社名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	受講態度 (75%)、作品・設計・計算書・レポート等の提出物 (25%) により判定する。		
学生へのメッセージ	建築をはじめて学ぶ諸君に幅広い専門分野を紹介し、これから学ぶ建築学に導きます。まずは建築に興味を抱き、将来の職業イメージをもつことは日々の学習意欲を高めます。また、社会に貢献する建築家、建築技術者を目指すには、広範に、深く学び、時間をかけて思索する姿勢、さらに様々な人とコミュニケーションを図り協力する姿勢を培うことが大切です。そのきっかけの場になるものとして、このゼミを位置付けて欲しいと思います。 建築ゼミにおいて、担任とのつながりを再確認し、学習方法や態度を反省するとともにアドバイスなどを受けることも大切です。		
担当者の研究室等	8号館3階 各教員の研究室		
備考	今年度はガウディ展が開催されており、期間中の授業を展覧会および美術館見学に振りかえる可能性がある。詳細は授業で伝達する。 事前・事後学習：授業テーマに即してさまざまな課題が提示される。事前・事後併せて4.5時間程度、これらの課題に取り組み成果を振り返ること。		



科目名	建築ゼミⅡ	科目名(英文)	Seminar in Architecture II
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	柳沢 学
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	建築学は計画・環境・構造・生産など広い分野からなる。各専任教員が各専門分野の概要などを示し、建築学の分野の領域を把握する。分野に関連する課題を通して、社会が抱える問題を理解し、調査内容を編集し、プレゼン能力を高めることを目的とする。共同で課題に取り組むことで、多面的価値観を育成し、コミュニケーション力の向上を図るとともに、キャリアデザインを考える一助とする。演習課題は、計画・役割分担・考察・発表といった協働作業を少人数グループで取り組むことで、担任との、また学生間の交流促進をはかる。
到達目標	到達目標 1) 建築学の概要を把握する。 2) 課題を探索し、解決のプロセスを考え、発表する能力を高める。 3) 建築分野における就業イメージを持つ。建築ゼミⅡでは特に協働作業に積極的に参加することで、自身の役割を見極め、チームワーク力を高める力を培う。 学科の学習・教育目標との対応：(F)
授業方法と留意点	当該担当教員による講義と演習がある。また共通課題を与えられ、各グループで課題や解決プロセスを探索する。
科目学習の効果(資格)	幅広い分野を持つ建築学の各分野に関連付けながら社会が抱える課題を理解できるようになる。同時に、建築の社会がいかなるものか、キャリアデザインの一助になる。一級建築士、二級建築士

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・キャリアデザイン	ガイダンス/建築のキャリア	講義を踏まえ、日常生活においてキャリアに対する意識を高めていってください。
2	建築意匠・デザイン系1	図学における透視図法の基本を踏まえて、キャンパス内の指定された建物(正門)、また各自が選んだ建物をスケッチする。またスケッチをしながら、独自案も考える。なおスケッチ対象の建物、および課題数は変更されることがある。	事前にキャンパスの建物を観察し、描きたい建物や空間のベストアングルとなる場面などを探しておく。 【事後学習】 配布資料を再読し、理解を深める。
3	建築意匠・デザイン系2	グループ作業の成果を発表し、課題と取り組み方を共有する。	事前にキャンパスの建物を観察し、描きたい建物や空間のベストアングルとなる場面などを探しておく。
4	建築住宅計画系1	建築計画は、人間・集団の活動の受け皿としての空間を設計する場合の基礎となる考え方で、デザイン(意匠)や構造・設備と密接な関係にある。よって全ての建築学専門職と、かわりが深いことを解説する。また産業界における最新動向についても理解する。	日常的に利用している空間で使いやすさ使いにくさを意識する。
5	建築住宅計画系2	グループ作業の成果を発表し、課題と取り組み方を共有する。	日常的に利用している空間で使いやすさ使いにくさを意識する。
6	建築熱環境1	建築および周囲環境で用いられている建築材料の表面温度を測定することと、その建築材料に触れた時の温冷感を把握することを行い、温冷感に影響を及ぼす物理要因は何であるのか。また、感覚知覚の個人差はどの程度であるのかを明らかにする。	身近な建築物を構成している材料に触れて、どのような感触であるのか、その材料は何であるのかを調べておく。
7	建築熱環境2	グループ作業の成果を発表し、課題と取り組み方を共有する。	身近な建築物を構成している材料に触れて、どのような感触であるのか、その材料は何であるのかを調べておく。
8	一般構造・建築構造系1	キャンパス内建物の調査実習、調査項目は指定箇所を実測調査して、平面図、展開図を作成。また主な寸法、仕上げ材料等を記入する。	建築一般構造に関する本や雑誌に目を通し、図面や仕上げの知識を得ておく。
9	構造実験(1) コンクリート試験体製作	コンクリートの基本をなすモルタルを用いた模型梁を作る。	建築材料Ⅰの「コンクリート」を復習してくること。
10	一般構造・建築構造系2	グループ作業の成果を発表し、課題と取り組み方を共有する。	建築一般構造に関する本や雑誌に目を通し、図面や仕上げの知識を得ておく。
11	建築史・都市史・都市地域計画系1	建築史・都市史・都市計画を学習する行為と建築や都市を創造する行為の関係性について理解を深める。	建築や都市の歴史や計画性について、地域社会における身近な事例に着目しておく。
12	建築史・都市史・都市地域計画系2	グループ作業の成果を発表し、課題と取り組み方を共有する。	建築や都市の歴史や計画性について、地域社会における身近な事例に着目しておく。
13	構造実験(2) コンクリート試験体製作	モルタルで作った模型梁の構造実験を行い、力の大きさと壊れ方の関係を観察する。	構造力学Ⅰaの単純梁の曲げモーメントおよびせん断力を復習してくること。
14	構造実験(3) コンクリート試験体製作 / 成績確認	グループ作業の成果を発表し、課題と取り組み方を共有する / 築学科の(成績)達成度状況確認システムの説明と自己確認	構造力学Ⅰaの単純梁の曲げモーメントおよびせん断力を復習してくること。
15	建築ゼミⅡ全体を総括してプレゼン	建築ゼミⅡの協働作業を振り返り、課題や展望を各ゼミで編集しプレゼンテーションする。	プレゼンテーションの準備をゼミで取り組む

関連科目	専門科目全般
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回の授業に対する積極性およびプレゼンテーションを含む協働作業への取り組み姿勢（75%）と成果物の提出（25%）を総合して評価する。			
学生への メッセージ	建築学のさまざまな専門分野を知り、興味を抱くこと、また将来の職業イメージをもつことは日々の学習意欲を高めることに繋がる。建築ゼミⅡにおいて、担任とのつながりを再確認し、一年間の大学での学習結果などを踏まえて、学習方法や態度を反省するとともにアドバイスなどを受けることも大切である。			
担当者の 研究室等	8号館3階 各教員の研究室			
備考	講義、実習等の順番は変更となる場合がある。その場合は事前に通告するので、掲示等をよく見ること。 事前・事後学習：授業テーマに即してさまざまな課題が提示される。事前・事後併せて4.5時間程度、これらの課題に取り組み成果を振り返ること。			



科目名	建築ゼミⅢ	科目名(英文)	Seminar in Architecture III
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	柳沢 学
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	建築学は、計画・環境・構造系などの分野からなり、9人の専任教員の分野も多岐にわたる。この科目では、4年次の卒業研究を考える第1段階として、専任教員の専門分野に関連する演習にゼミ単位で取り組み、基礎的な知識を修得する。			
到達目標	卒業研究に向けた専門分野選択やテーマ選定を行う上で必要な素養を身につけることを到達目標とする。学科の学習・教育目標との対応：[G]			
授業方法と留意点	専任教員ごとの9グループ(ゼミ)に分かれ、各教員の専門に関連した演習を行う。従って、ゼミ課題は基本的にゼミごとに異なる。ゼミ分けは、およそ各ゼミが同人数とする。その際に本人の希望が優先されるが、1,2年次の成績や修得単位数などを参考に人数調整が行われる場合があるので、日常的な勉学に励むこと。			
科目学習の効果(資格)	卒業研究を行うために重要な科目である			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	各ゼミで課題や指導方針の説明など研究者倫理に関する基礎的な解説	各ゼミの取り組み方法に合わせた学習課題
	2	各ゼミの個別課題	各教員の専門に関連した演習	各ゼミの取り組み方法に合わせた学習課題
	3	各ゼミの個別課題	各教員の専門に関連した演習	各ゼミの取り組み方法に合わせた学習課題
	4	各ゼミの個別課題	各教員の専門に関連した演習	各ゼミの取り組み方法に合わせた学習課題
	5	各ゼミの個別課題	各教員の専門に関連した演習	各ゼミの取り組み方法に合わせた学習課題
	6	卒業研究中間発表会の聴講	4年生の卒業研究中間発表会を聴講し概要を記録する	卒業研究中間発表会の聴講レポート(ゼミ間共通課題)
	7	卒業研究中間発表会の聴講	4年生の卒業研究中間発表会を聴講し概要を記録する	卒業研究中間発表会の聴講レポート(ゼミ間共通課題)
	8	各ゼミの個別課題	各教員の専門に関連した演習	各ゼミの取り組み方法に合わせた学習課題
	9	各ゼミの個別課題	各教員の専門に関連した演習	各ゼミの取り組み方法に合わせた学習課題
	10	各ゼミの個別課題	各教員の専門に関連した演習	各ゼミの取り組み方法に合わせた学習課題
	11	各ゼミの個別課題	各教員の専門に関連した演習	各ゼミの取り組み方法に合わせた学習課題
	12	各ゼミの個別課題	各教員の専門に関連した演習	各ゼミの取り組み方法に合わせた学習課題
	13	各ゼミの個別課題	各教員の専門に関連した演習	各ゼミの取り組み方法に合わせた学習課題
	14	卒業研究審査会の聴講	4年生の卒業研究審査会を聴講し概要を記録する	卒業研究審査会の聴講レポート(ゼミ間共通課題)
	15	卒業研究審査会の聴講	4年生の卒業研究審査会を聴講し概要を記録する	卒業研究審査会の聴講レポート(ゼミ間共通課題)
関連科目	建築専門科目全般、一般教養科目、特に人文系、社会科学系			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	受講態度30点、ゼミ間共通課題30点、ゼミ課題40点			
学生へのメッセージ	4年生の卒業研究を考えていく上で、きっかけとなる重要な科目です。			
担当者の研究室等	8号館3階 建築学科専任教員(9人)の研究室			
備考	4年生の卒業研究中間発表会および卒業研究審査会の日程は、変更の可能性がある。別途、提示する。 事前・事後学習：事前・事後併せて4.5時間程度、課題に取り組み成果を振り返ること。			

科目名	建築法規	科目名(英文)	Building Code
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	寺西 興一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	<p>建築基準法が、昭和25年に制定された当時は、在来木造建築がほとんどであり、しかも、戦後の住宅難を背景としていた。その後、建築材料の多様化、又、建築工法の変化に伴い、建築基準法もその都度、改正が行われ、現在では、その内容も多岐にわたっている。又、難解な法律なので、読んでその内容が理解できる能力を養うこと、又、それぞれの法文については、結果のみが記載されるためその本旨を理解することを目標とする。</p>																																																																		
到達目標	<p>建築基準法という法律の言い回しを理解する。法律は正確性をきずするため、独特の表現法がされているので、その読み方を理解する。建築基準法の概要を理解する。対象とする内容が、法律のどこの章、条、項を見ればいいのかをわかるようにする。一級建築士の試験では、法令集の持ち込みが認められており、内容をすべて覚える必要は、ないが、どこにその内容がかかっているのかを知ることが必要である。 学科の学習・教育目標との対応：[B]</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>法律とテキスト(資料等)を用いた講義方式とし、法律の法文そのものを事例等を通じて理解・習得する。</p>																																																																		
科目学習の効果(資格)	<p>一級建築士等の資格を取得するのに重要な科目であり、その際、建築関係法令集を持ち込めるので、その対応ができるようにする。</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> <td>授業の進め方、法律の制定及び建築法規の変遷について</td> <td>演習問題</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>建築基準法(目的と構成等)</td> <td>法律の構成と目的及び用語の定義等について</td> <td>演習問題</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>建築基準法(単体規定)</td> <td>敷地の安全、居室の採光、換気、遮音等について</td> <td>演習問題</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>建築基準法(防火関係)</td> <td>建築物の不燃化・耐火化について</td> <td>演習問題</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>建築基準法(避難関係等)</td> <td>避難(2方向等)、救助、消火関係について</td> <td>演習問題</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>建築基準法(構造関係)</td> <td>固定荷重、積載荷重、風荷重、地震力等について</td> <td>演習問題</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>建築基準法(構造計算)</td> <td>構造計算(1次設計、2次設計)について</td> <td>演習問題</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>建築基準法(建築設備)</td> <td>電気、避雷針、昇降機、給水、排水等について</td> <td>演習問題</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>建築基準法(集団規定)</td> <td>都市計画区域等、用途地域、防火、準防火地域について</td> <td>演習問題</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>建築基準法(面積関係)</td> <td>面積の定義と建ぺい率、容積率について</td> <td>演習問題</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>建築基準法(高さ関係)</td> <td>高さの定義と道路からの高さ制限について</td> <td>演習問題</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>建築基準法(日影規制等)</td> <td>日影規制及び隣地境界からの高さ制限について</td> <td>演習問題</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>建築基準法(まちづくり)</td> <td>建築協定、地区計画等について</td> <td>演習問題</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>建築基準法(制度規定)</td> <td>確認済証、中間検査、完了検査、用途変更等について</td> <td>演習問題</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>受験対策</td> <td>定期テストと1級建築士の受験対策について</td> <td>なし</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	授業の進め方、法律の制定及び建築法規の変遷について	演習問題	2	建築基準法(目的と構成等)	法律の構成と目的及び用語の定義等について	演習問題	3	建築基準法(単体規定)	敷地の安全、居室の採光、換気、遮音等について	演習問題	4	建築基準法(防火関係)	建築物の不燃化・耐火化について	演習問題	5	建築基準法(避難関係等)	避難(2方向等)、救助、消火関係について	演習問題	6	建築基準法(構造関係)	固定荷重、積載荷重、風荷重、地震力等について	演習問題	7	建築基準法(構造計算)	構造計算(1次設計、2次設計)について	演習問題	8	建築基準法(建築設備)	電気、避雷針、昇降機、給水、排水等について	演習問題	9	建築基準法(集団規定)	都市計画区域等、用途地域、防火、準防火地域について	演習問題	10	建築基準法(面積関係)	面積の定義と建ぺい率、容積率について	演習問題	11	建築基準法(高さ関係)	高さの定義と道路からの高さ制限について	演習問題	12	建築基準法(日影規制等)	日影規制及び隣地境界からの高さ制限について	演習問題	13	建築基準法(まちづくり)	建築協定、地区計画等について	演習問題	14	建築基準法(制度規定)	確認済証、中間検査、完了検査、用途変更等について	演習問題	15	受験対策	定期テストと1級建築士の受験対策について	なし
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	授業の進め方、法律の制定及び建築法規の変遷について	演習問題																																																																
2	建築基準法(目的と構成等)	法律の構成と目的及び用語の定義等について	演習問題																																																																
3	建築基準法(単体規定)	敷地の安全、居室の採光、換気、遮音等について	演習問題																																																																
4	建築基準法(防火関係)	建築物の不燃化・耐火化について	演習問題																																																																
5	建築基準法(避難関係等)	避難(2方向等)、救助、消火関係について	演習問題																																																																
6	建築基準法(構造関係)	固定荷重、積載荷重、風荷重、地震力等について	演習問題																																																																
7	建築基準法(構造計算)	構造計算(1次設計、2次設計)について	演習問題																																																																
8	建築基準法(建築設備)	電気、避雷針、昇降機、給水、排水等について	演習問題																																																																
9	建築基準法(集団規定)	都市計画区域等、用途地域、防火、準防火地域について	演習問題																																																																
10	建築基準法(面積関係)	面積の定義と建ぺい率、容積率について	演習問題																																																																
11	建築基準法(高さ関係)	高さの定義と道路からの高さ制限について	演習問題																																																																
12	建築基準法(日影規制等)	日影規制及び隣地境界からの高さ制限について	演習問題																																																																
13	建築基準法(まちづくり)	建築協定、地区計画等について	演習問題																																																																
14	建築基準法(制度規定)	確認済証、中間検査、完了検査、用途変更等について	演習問題																																																																
15	受験対策	定期テストと1級建築士の受験対策について	なし																																																																
関連科目	<p>建築設計を行うに当たっては、建築設備としての電気工学や機械工学等の習得が必要である。</p>																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>建築関係法令集 法令集 平成27年版</td> <td>総合資格学院 編</td> <td>総合資格学院</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	建築関係法令集 法令集 平成27年版	総合資格学院 編	総合資格学院	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	建築関係法令集 法令集 平成27年版	総合資格学院 編	総合資格学院																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	<p>定期試験の成績(70%)と演習問題・レポートの内容(30%)を用いて評価する。</p>																																																																		
学生へのメッセージ	<p>1970年に大阪府庁に入庁し、35年間建築の技術者として、建築指導行政、再開発事業、住宅の建設・管理の業務に就いた。その後、(財)大阪建築防災センターで建築確認審査業務等の業務や経営に携わった。現在は、文化財建造物の保存と活用に尽力している。</p>																																																																		
担当者の研究室等	<p>7号館2階 非常勤講師室</p>																																																																		
備考	<p>事前学習：事後学習欄に示した内容について、毎回1.5時間以上かけて取り組む</p>																																																																		

科目名	建築倫理	科目名(英文)	Architectural Ethics
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	飯田 匡
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	建築倫理とは、建築技術者が実務の場で直面するであろう諸問題への対処方法を考える際に、その拠り所となる普遍的な規準である。建築を取り巻く社会環境が大きく変化する中、将来を支える優れた建築技術者は、こうした規準、すなわち専門家としての心構えを身につけることが不可欠である。そこで本講義では、リスク、責任、義務、技術等に関する具体的な事例の分析を通して、これからの建築技術者に求められる倫理的責任を学習する。また、事故や失敗を起こさないためには、どのように考え、行動すべきであるのかといった議論を通して、バランス感覚のとれた建築技術者の育成を図る。
到達目標	これまでに技術者の関わる場で生じた倫理的な問題や事故、失敗等の発生した理由、およびその後の対処等を学ぶことにより、技術者がこうした状況でどのように責任を果たすべきかを理解できる。 また、自身がそうした問題に巻き込まれたり、引き起こしたりしないためには、どのような規準を頼りに行動すべきかを知ることができる。  建築学科の学習・教育目標 (B)に対応
授業方法と留意点	建築倫理の基本を学ぶ講義を行うと同時に、建築に限らず様々な工学分野における事故や失敗事例等の紹介を行う。事故・失敗事例に関しては、グループ討議等を通してその原因の分析や対策等について考える。また、さらに理解を深めるために定期的にレポート課題を課す。
科目学習の効果(資格)	建築倫理は、技術的な知識だけではなく、人間の行動や社会状況に関する知識の活用が重要であることを理解し、良識ある建築技術者として、持てる技術を活かし、社会の要求に応えるために必要な普遍的なバランス感覚を身につける。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	建築倫理の概要	イントロダクション：建築倫理とは何か、なぜ建築倫理を学ぶのか。	レポート課題1
2	倫理と倫理学	倫理と倫理学の基礎概念を学び、建築の分野でも増加しつつある国際的な交流のために、日本人の倫理観と欧米の専門家の倫理観の違いを理解する。	復習・予習課題
3	事故事例に学ぶ1	六本木ヒルズ回転扉事故、ジョン・ハンコック・タワーのガラス崩落事故等の事故事例の分析から、事故発生メカニズムを理解する。	復習・予習課題
4	システム・企業の倫理	本来、個人の心の問題である倫理と、個人が所属する組織や建築業界といったシステムにおける倫理との関係について学ぶ。	レポート課題2
5	リスクマネジメントと安全性	リスクを組織的に管理し、最小の費用で危険や損失を効果的に回避するリスクマネジメントに関する基本的な概念を学び、安全性を確保する方法について考える。	復習・予習課題
6	事故事例に学ぶ2	明石花火大会事故ほか、過去に起こった群集事故の事例から、事故発生メカニズムと、取り得る対策を考える。	復習・予習課題
7	ヒューマンエラー	人が介在することによって引き起こされるヒューマンエラーの発生メカニズムと、その対策について具体的な事例を参考に分析する。	レポート課題3
8	設計者の社会的責任とデザイン	建築設計者に求められる倫理および社会的責任と、建築デザインが地域や環境に及ぼす影響について考える。	復習・予習課題
9	失敗事例に学ぶ1	期待された性能を満たさない「がっかり建築」の事例分析から、建築の評価の難しさと建築技術者の立ち位置について考える。	復習・予習課題
10	施工管理と製造物責任	建築は一品生産であり、また多種の材料や多くの人が関わるため、複雑ならざるを得ない施工管理の問題点と、製造物責任について学習する。	レポート課題4
11	知的財産権	特許や著作権といった知的財産権の概要と、建築技術に関連する知的財産権の扱いについて具体的な事例から学習する。	復習・予習課題
12	失敗事例に学ぶ2	手抜き工事による欠陥住宅等の事例分析から、建築における設計・施工・監理のシステムの問題点について考える。	復習・予習課題
13	倫理綱領と法令	建築技術者を対象とする様々な倫理綱領や行動規範を理解し、また、建築の設計・施工時に遵守すべき法律や基準の概要と理念を学ぶ。	レポート課題5
14	保険制度による補完	建築に関連する損害賠償制度の概要と、保険事故事例から設計・監理において失敗を誘発する状況について分析を行う。	復習・予習課題
15	まとめ	本講義の総括として、教訓と戒めをまとめる。	復習・予習課題

関連科目	特になし。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	期末試験 (70%)、レポート (5回) (30%) により評価します。			
学生への メッセージ	授業への主体的な参加を望みます。			
担当者の 研究室等	8号館3階 (建築学科共通準備室)			
備考	事前学習：事後学習欄に示した内容について、毎回1.5時間以上かけて取り組む			

科目名	工業数学 I	科目名 (英文)	Applied Mathematics for Engineers I
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小泉 耕蔵
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目 (中学校 数学)【施行規則に定める科目区分】「解析学」【教員免許状取得のための履修区分】選択【科目】教科に関する科目 (高等学校 数学)【施行規則に定める科目区分】「解析学」【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	工学の分野では、法則は微分方程式で定式化され、解は積分で表現される場合が多い。また積分は種々の物理量の計算に用いられる。この講義では、まずはじめにベクトルの内積・外積等について復習及び工学への応用について学習するとともに、幾何学的な感覚を養う。そして、微分に関する話題を復習しながら、速度、加速度、典型的な物理現象に触れる。また、積分については重心・慣性モーメントを中心にその定義の物理的意味と計算技法を学ぶ。このように、物理の言葉が数学にどのように翻訳されるかを学び、数学の計算から物理現象を理解できるのだという、ささやかな経験を積むことを目標とする。
到達目標	微積分及び線形代数の主要な計算を実行でき、専門基礎で用いられる数学的表現を理解する能力を有すること。 学習教育到達目標：A科[D]、R科[B]、工学部C科[C]、理工学部C科[IV]
授業方法と留意点	比較的平易な内容に限定し容易に理解出来るものであるもので、確実に自分のものとするよう心掛けて頂きたい。 そのためには、第一に欠席をせず、毎回授業の前には復習をしておくこと、第二にどんなに些細でも不明なことは質問すること。
科目学習の効果 (資格)	本講義の内容は、工業数学 II 及び諸々の専門科目の習得に引き継がれる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	関数のグラフ	・微分の図形的意味、増減凹凸表、最大最小値の計算	演習問題
2	最大値、最小値の計算	・微分を用いた最大最小値の計算及び工学への応用	演習問題
3	関数の積分	・種々の関数の積分の計算法	演習問題
4	ベクトル(1)	・ベクトルの内積の図形的意味	演習問題
5	ベクトル(2)	・ベクトルの外積の図形的意味	演習問題
6	行列式の計算	・種々の行列式の計算方法	演習問題
7	行列式の応用	・平行 6 面体の体積の計算	演習問題
8	一次独立、一次従属	・ベクトルの一次独立、一次従属性の判定	演習問題
9	速度・加速度(1)	・微分・積分を用いた速度、加速度の定義、運動方程式の記述	演習問題
10	速度・加速度(2)	・ポテンシャル、エネルギー保存則、単振動と三角関数	演習問題
11	ベクトルを用いた物理量(1)	・直線上の運動、投げ上げ、斜方投射への応用	演習問題
12	ベクトルを用いた物理量(2)	・外積を用いた、角運動量と力のモーメントの記述	演習問題
13	重積分の計算(1)	・重積分の逐次積分法	演習問題
14	重積分の計算(2)	・ヤコビ行列を用いた変数変換	演習問題
15	重心と慣性モーメント	・重積分を用いた定義とその物理的意味	演習問題

関連科目  
授業は以下の科目を履修していることを前提にして進める。  
微積分 I, 微積分 II, 線形代数 I, 線形代数 II

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	工業数学の基礎(2014年度版)	摂南大学 基礎理工学機構編	
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	小テストで 30%、習熟度確認テストで 35%、期末テストで 35%判定し評価する。
学生へのメッセージ	3号館 3階に数学教員がいますので数学、自然科学に関するどんな質問でも気楽においで下さい。
担当者の研究室等	3号館 3階 数学研究室
備考	事前事後学習は、毎回 1 時間以上かけること。

科目名	工業数学Ⅱ	科目名(英文)	Applied Mathematics for Engineers II
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小泉 耕蔵
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目(中学校 数学)【施行規則に定める科目区分】「解析学」【教員免許状取得のための履修区分】選択【科目】教科に関する科目(高等学校 数学)【施行規則に定める科目区分】「解析学」【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	工学の分野では微分方程式はもっとも頻繁に使われている数学の1つである。講義の前半は、1階の常微分方程式の解法及び工学・自然現象への応用について学習する。そして講義の後半では2階の定数係数常微分方程式の解法・応用、及び微分方程式の数値的解法について学習する。
到達目標	主に質点の運動方程式を微分方程式で表して解けるなど、専門科目の学習で出会う微分方程式を理解して解く能力を有すること。 学科の学習・教育目標との対応：A科[D]、R科[B]、工学部C科[C]、理工学部C科[IV]
授業方法と留意点	比較的平易な内容に限定し容易に理解出来るものであるため、確実に自分のものとするよう心掛けて頂きたい。そのためには、第一に欠席をせず、毎回授業の前には復習をしておくこと、第二にどんなに些細でも不明なことは質問すること。
科目学習の効果(資格)	本講義の内容は、諸々の専門科目の習得に引き継がれる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	微分方程式の解	・微分方程式とは何か、原始関数(不定積分)と微分方程式	教科書の演習問題
2	1階常微分方程式(1)	・変数分離形1階常微分方程式の解法	教科書の演習問題
3	1階常微分方程式(2)	・定数変化法による1階線形微分方程式の解法	教科書の演習問題
4	1階常微分方程式(3)	・微分方程式を用いた運動方程式の記述	教科書の演習問題
5	1階常微分方程式(4)	・空気抵抗中の運動など物理への応用	教科書の演習問題
6	2階定数線形微分方程式(1)	・基本解の導出	教科書の演習問題
7	2階定数線形微分方程式(2)	・基本解・解の表示	教科書の演習問題
8	2階定数線形微分方程式(3)	・未定係数法(1) $y''+ay'+by=(\text{多項式})$ の解法	教科書の演習問題
9	習熟度確認試験及び解説講義	第1-7回目までの内容に関する習熟度確認試験、及びその解説講義	
10	2階定数線形微分方程式(4)	・未定係数法(2) $y''+ay'+by=(\text{指数関数})$ の解法	教科書の演習問題
11	2階定数線形微分方程式(5)	・未定係数法(3) $y''+ay'+by=(\text{三角関数})$ の解法	教科書の演習問題
12	2階定数線形微分方程式の応用(2)	・強制振動など物理への応用	教科書の演習問題
13	数値計算(1)	・差分を用いた微分の記述、オイラー法による微分方程式の解法	教科書の演習問題
14	数値計算(2)	・ルンゲ・クッタ法による微分方程式の解法	教科書の演習問題
15	総合演習	・応用問題	教科書の演習問題

関連科目	授業は以下の科目を履修していることを前提にして進める。 微積分Ⅰ, 微積分Ⅱ, 線形代数Ⅰ, 線形代数Ⅱ, 工業数学Ⅰ
------	--

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	微分方程式の基礎	摂南大学 基礎理工学機構編	
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	小テストで30%、習熟度確認テストで35%、期末テストで35%判定し評価する。
学生へのメッセージ	3号館3階に数学教員がいますので数学、自然科学に関するどんな質問でも気楽においで下さい。
担当者の研究室等	3号館3階 数学研究室
備考	事前事後学習は、毎回1時間以上かけること。

科目名	鋼構造 I	科目名 (英文)	Steel Structures I
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	谷口 与史也
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教科に関する科目 (高等学校 工業) 【施行規則に定める科目区分】「工業の関係科目」【教員免許状取得のための履修区分】選択	

授業概要・目的	【授業概要】鋼構造建築物の構造設計をするうえで基礎となる構造解析理論をもとに鋼材の材料、接合法、各構造部材の特性を理解し、鋼構造における設計、施工技術に関連する基本的事項を学習する。
到達目標	【到達目標】鋼構造建築物の設計・施工に関連する基本的な品質管理を行うことができる。 【学科の学習・教育目標との対応】 「H」
授業方法と留意点	教科書、配布資料に沿って要点を板書して説明する。小テストを複数回実施し、レポート課題を適宜出題する。
科目学習の効果 (資格)	一級建築士、構造設計、現場技術者、技術士

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
			教科書 1.1.1・4、配布資料
1	序論	ガイダンス、鋼構造の歴史・種類	
2	材料	鋼構造の特徴、鋼材の性質	教科書 1.1.3、1.2
3	設計の基本	設計の基本事項、構造用鋼材	教科書 1.3、1.4
4	各種製品	構造用鋼材、ボルトの種類	教科書 1.5-1.9、配布資料
5	引張材	有効断面積	教科書 2.1
6	引張材	引張実験結果、演習	教科書 2.1
7	圧縮材	弾性座屈、非弾性座屈、許容圧縮応力度	教科書 2.2
8	圧縮材	有効座屈長さ、演習	教科書 2.2、配布資料
9	中間試験	中間試験のまとめ	配布資料
10	曲げ材	せん断応力度、せん断中心	教科書 2.3
11	曲げ材	横座屈、曲げ材の検定、演習	配布資料、教科書 2.3
12	局部座屈	板要素の局部座屈、幅厚比制限	教科書 2.4、配布資料
13	接合の基本	ファスナー接合	教科書 3.1、3.2
14	接合の基本	溶接接合、仕口の種類	教科書 3.3、配布資料
15	まとめ	地震被害例を通して各部設計の重要性を認識する	配布資料

関連科目	建築材料学、構造力学、鋼構造 2
------	------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	鋼構造【第2版】	嶋津孝之編著	森北出版
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	小テスト・レポート課題 (40%)、中間試験 (30%)、期末試験 (30%)
学生へのメッセージ	建築関連の雑誌などに掲載されている鋼構造に関する設計詳細をよく観ることが講義内容の理解に役立つ。
担当者の研究室等	建築学科共通準備室 (8号館)
備考	事前学習：事後学習欄に示した内容について、毎回 1.5 時間以上かけてとりくむ



科目名	鋼構造Ⅱ	科目名(英文)	Steel Structures II
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	上谷 宏二
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教科に関する科目(高等学校工業)【施行規則に定める科目区分】「工業の関係科目」【教員免許状取得のための履修区分】選択	

授業概要・目的	鋼は重量に比して強度と変形能力に優れた構造材料であり、低層建築から高層建築まで幅広い建物に用いられている。鋼構造の設計において重要な基本事項について学び、その設計に関する具体的手法を演習交えて習得する。
到達目標	[到達目標] 1) 耐震設計法と構造計画の基本的な考え方 2) 梁材・柱材・トラス・プレースの設計法 3) 接合部の設計法 4) 柱脚の設計法 鋼構造の理論と設計上の問題について、実社会に出て困らないような考え方を理解できる。 学科の学習・教育到達目標との対応:[H]
授業方法と留意点	指定教科書「建築鋼構造—その理論と設計—」と配布資料を用い、講義形式で授業を進める。適宜、演習問題を課す。演習では数値の計算も行うので、電卓を持参する。
科目学習の効果(資格)	構造設計、一級建築士

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
1	オリエンテーション	科目の位置付け、内容の概説、授業の進め方	教科書の入手を確認	
2	様々な鋼構造建築、鋼構造の地震被害	パワーポイントを用いて説明	インターネットなどで最近の地震による建物被害を調べる	
3	製鉄技術の歴史	DVD鋼の製造(和鋼風土記、鉄-地球の記憶・地球の未来)	第1部	2章
4	鋼材の性質	DVD(鋼材の材料試験編)、鋼材の応力ひずみ関係	第1部	3章
5	鋼構造骨組の概要(軸組と接合部)	断面性能:断面2次モーメント, 全塑性モーメントなど	第1部	4章
6	部材の耐力と骨組の挙動1	単純トラスの強さ	第1部	5章
7	部材の耐力と骨組の挙動2	静定梁の強さ:片持梁と単純梁	第1部	5章
8	部材の耐力と骨組の挙動3	肘形ラーメン, ロ形ラーメン	第1部	5章
9	中間試験(1)	部材, 骨組の剛性と耐力	ここまでの範囲について、演習課題を含めて良く復習すること。	
10	せん断応力とせん断変形	H形鋼, 箱型鋼管のせん断強さ	第2部	6章
11	接合部パネルのせん断応力と耐力	パネル内のせん断応力	第2部	6章
12	中心圧縮柱の座屈	座屈荷重, 座屈長さ, 塑性の影響	第3部	5~8章
13	薄肉断面材のねじれ	ねじれ剛性	第3部	1章
14	梁の横座屈	H形鋼梁の曲げねじれ座屈, 近似設計式	第3部	5.1, 5.2
15	中間試験(2)	せん断, 座屈の設計	ここまでの範囲について、演習課題を含めて良く復習すること。	
16	鉄骨構造物の設計概論	設計ルート, 設計荷重, 耐震設計	建物区分と設計ルートとの関係をもう一度よく復習しておく	
17	梁の設計1	小梁の設計	第4部	2.3
18	梁の設計2	大梁の設計	第4部	2.3
19	柱の設計1	柱の許容応力度設計	第4部	2.4
20	柱の設計2	柱の終局強度設計	第4部	2.4
21	中間試験(3)	梁と柱の設計	ここまでの範囲について、演習課題を含めて良く復習すること。	
22	接合部の概説	DVD接合部	第4部	3章
23	接合部パネルの設計	接合部パネルに作用する力と設計式の意味	第4部	2.5
24	溶接接合1	隅肉溶接の設計	第4部	3章
25	溶接接合2	溶込み溶接の設計	第4部	3章
26	高力ボルト接合1	摩擦接合, 引張接合	第4部	4章
27	高力ボルト接合2	梁継手の設計	第4部	4章
28	柱脚	柱脚の設計	第4部	5章
29	中間試験(4)	接合部設計	ここまでの範囲について、演習課題を含めて良く復習すること。	
30	復習課題	授業範囲全般	これまでの授業範囲全般を通して、理解が不十分と思うところを、もう一度復習しておくこと。	

関連科目	構造力学Ⅰa, Ⅰb, 構造力学Ⅱの授業内容をよく理解していること。
------	------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	建築鋼構造の理論と設計	井上一朗	鹿島出版会

評価方法(基準)	4回の中間試験成績(60%) および期末試験成績(40%)の総計で評価する。
----------	--

学生への	必ずしも簡単な内容ではありませんが、授業に毎回出席し、講義にしっかりと耳を傾け、演習課題を納得がいくまで繰り返し反芻すれば、将来
------	--



メッセージ	役立つ知識や能力を必ず身につけることができます。
担当者の 研究室等	8号館3階 上谷教授室
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学習：事前学習欄に示した内容について、毎日0.5時間以上調べておく。</li> <li>・事後学習：事後学習欄に示した内容について、毎日0.1時間以上調べて復習する。授業で演習・解答した問題は必ず解きなおす。</li> </ul>

科目名	構造実験	科目名(英文)	Experiments in Structural Elements
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	柳沢 学
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	[授業概要・目的]建築物を構成する主要な構造要素・材料の力学的特性および物理・化学的的特性の試験・実験法とその特性を下記の実験を通じて学ぶ。ただし、天候等によって、順番、内容を一部変更することもある。
到達目標	[到達目標] 1) 毎回出席して実験を肌で感じる。2) 実験で使用する器具や機器を覚える。3) 結果を一般解と比較して考察できる。4) コンクリートの調合設計ができる。 学科の学習・教育到達目標との対応：[H]
授業方法と留意点	班毎にまとまって作業する。毎回、講義室で実験概要を説明し実験室にて実験する。翌日、観察、養生する場合もある。実験後レポートを作成し提出する。
科目学習の効果(資格)	構造実験は建築士受験資格のある指定学科では必要科目となっている。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、班分け	構造実験概要 安全マニュアルの熟読	シラバスを熟読してくること 安全マニュアルの理解
2	セメント比重試験	セメントの比重の計測方法を理解し、その比重を市販品の値と比較して評価する。	教科書 p 8
3	セメント凝結試験	セメントの凝結試験方法を理解し凝結時間を計測し硬化状況を確認する。	教科書 p 9
4	セメント強度試験のための供試体作製	セメント強度試験のための供試体を作製する。	教科書 p 9～p 11
5	骨材比重試験	細骨材および粗骨材の比重を計測し地域別の値と比較する。	教科書 p 18～p 21
6	コンクリート調合設計	コンクリートの調合設計の仕方を理解し、翌週のコンクリート打設のための調合計画を行う。	教科書 p 36～p 45
7	コンクリート強度試験のための供試体作製	コンクリートを構成する、水、セメント、細骨材、粗骨材および混和剤を計量し、練り混ぜ後、スランブ試験の実施と供試体を3本を作製する。	教科書 p 45～p 51
8	骨材粒度分布試験	コンクリートを構成する骨材のふるい分け試験を行い、f. m. 値算出と粒度分布曲線を求め JIS 規格範囲と比較・検討する。	教科書 p 13～p 16
9	セメント強度試験	セメントの強度試験を行い、曲げ強度および圧縮強度を算出し、評価・検討する。	教科書 p 9～p 11
10	細骨材中の有機不純物、塩化物の定量分析	有機不純物試験方法を理解し、実験を行い評価する。塩化物の定量分析を行いコンクリート用骨材として使用できるかを検討する。	教科書 p 25～p 26
11	コンクリート強度試験、鋼材引張試験	コンクリート強度試験(圧縮および割裂)の実施。鋼材の引張試験により、降伏強度、引張強度および伸びを計測し規格値と比較する。	教科書 p 51～p 54 教科書 p 86～p 88
12	鉄骨はりの曲げ実験 試験体製作	鉄骨はりの曲げ実験を理解し、鉄骨はりの曲げ耐力を推定する。また、翌週実験する試験体にひずみゲージを貼付して実験準備をする。	教科書 p 94～p 97
13	鉄骨はりの曲げ実験 実験実施	鉄骨はりの曲げ実験を行い諸荷重等を計算値と比較する。	教科書 p 94～p 97
14	鉄筋コンクリートはりの曲げせん断実験 耐力算定	鉄筋コンクリートはりの曲げせん断実験を理解し、鉄筋コンクリートはりの諸耐力、諸剛性を算出する。	教科書 p 70～p 72
15	鉄筋コンクリートはりの曲げせん断実験 実験実施	鉄筋コンクリートはりの曲げせん断実験を行い諸荷重等を計算値と比較する。	教科書 p 70～p 72

関連科目	鉄筋コンクリート構造Ⅰ、Ⅱ 鋼構造Ⅰ、Ⅱ
------	-------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	建築材料実験用教材	日本建築学会	日本建築学会
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	実験教科であり、100%の出席を前提とする。レポート課題点(60%)および受講態度点(40%)の成績を総合し、到達目標の達成度に応じて合格を判定する。受講態度点は積極的に実験に参加し材料特性や構造性能を理解しようとする態度に基づいて評価する。
----------	---

学生への メッセージ	原則として実験資材は大学で用意するが、作業服・靴は用意しない。作業服・靴を購入する必要はないが、実験の内容により砂・セメント・油などで衣服が汚れる場合、足下が悪い場合がある。 授業中は私語を慎み集中して授業内容の理解に努めること。
担当者の 研究室等	8号館3階 各教授室、准教授室 [共同担当者] 上谷宏二・池内淳子
備考	事前・事後の学習（レポート作成含む）には1回あたり2時間程度を確保する必要がある。

科目名	構造力学・構造基礎	科目名(英文)	Introduction to Structural Mechanics
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	池内 淳子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	建築の空間を自然災害から守り、安全に支えるために必要な要件の概説を行い、構造力学の基礎を学ぶ。また、特に構造力学修得に必要なとなる数学および物理学に対して、高校課程までの学習内容の補足を行うとともに、今後学習する構造系科目との関連付けを学ぶ。			
到達目標	1) 建築における構造の役割と重要性の理解 2) 構造関連科目それぞれが持つ役割の理解 3) 構造力学修得に必要なとなる数学および物理学に関して深く理解する。  学科の学習・教育目標との対応：[F]			
授業方法と留意点	講義と演習を組み合わせる授業を行うため、遅刻・欠席をしないこと。 やむを得ず、欠席をした場合には配布プリントの再配布は行わない。また、欠席した場合の授業内容については自己責任において回復すること。			
科目学習の効果(資格)	構造力学 I a や構造力学 I b など構造力学系科目を学ぶ基礎となる。一級・二級建築士資格取得のために必須である。			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス 建築構造力学とは?	授業の目的と概要、評価基準と注意事項、専門関連科目との関係、建築士試験と構造力学、安全を支える構造力学	(事前) 教科書1章・3章を読む (事後) 配布資料等授業内容を復習する
	2	構造力学に必要な基礎知識	三角比、三角関数、微分・積分、方程式とグラフ、質量と重量等について理解度を確認し、簡単な構造力学の演習を行う。	(事前) 高校課程の復習を行う、教科書付録3および付録4を読む (事後) 配布資料等授業内容を復習する
	3	建物に作用する荷重(1)	固定荷重・積載荷重とそのモデル化について学ぶ	(事前) 教科書1章、3章を読む (事後) 配布プリント等を復習し、講義中に解いた演習問題を再解答する。
	4	建物に作用する荷重(2)	雪荷重とそのモデル化について学ぶ	(事前) 教科書1章、3章を読む (事後) 配布プリント等を復習し、講義中に解いた演習問題を再解答する。
	5	建物に作用する荷重(3)	風荷重とそのモデル化について学ぶ	(事前) 教科書1章、3章を読む (事後) 配布プリント等を復習し、講義中に解いた演習問題を再解答する。
	6	建物に作用する荷重(4)	地震荷重とそのモデル化について学ぶ	(事前) 教科書1章、3章を読む (事後) 配布プリント等を復習し、講義中に解いた演習問題を再解答する。
	7	静力学の基礎(1)	ベクトル、力、合力と分力、力のモーメント	(事前) 高校課程の復習、教科書2章を読む (事後) 講義中に解いた演習問題を再解答する。
	8	静力学の基礎(2)	示力図、連力図	(事前) 高校課程の復習、教科書2章を読む (事後) 講義中に解いた演習問題を再解答する。
	9	梁から学ぶ構造力学(1)	外力・反力・応力について、支点と接点について	(事前) 教科書3章(3.2)、4章(4.1) (事後) 配布プリント等を復習し、講義中に解いた演習問題を再解答する。
	10	梁から学ぶ構造力学(2)	反力算定(1)単純梁・片持梁	(事前) 教科書4章を読む (事後) 配布プリント等を復習し、講義中に解いた演習問題を再解答する。
	11	梁から学ぶ構造力学(3)	反力算定(2)静定ラーメン	(事前) 教科書4章を読む (事後) すべての演習問題を解き直し内容の理解を深める。
	12	静定梁の断面力(1)	断面力・応力とは?	(事前) 教科書5.1の該当箇所を読む (事後) 本日解いた問題を再解答する
	13	静定梁の断面力(2)	単純梁の断面力、断面力図	(事前) 教科書5.2の該当箇所を読む (事後) 本日解いた問題を再解答する
	14	静定梁の断面力(3)	片持梁の断面力、断面力図	(事前) 教科書5.2の該当箇所を読む (事後) 本日解いた問題を再解答する
	15	静定梁の断面力(4)	断面力図の意味と符号の確認=力の流れを意識する=	(事前) 教科書5.2の該当箇所を読む (事後) 本日解いた問題を再解答する
関連科目	専門関連科目(微積分、線形代数、力学、物理等)、 理工学基礎実験、構造力学Ⅰ、構造力学Ⅱ、構造力学実践、その他建築構造関係の全科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	図説 構造力学入門	豊田正敏/島村和夫	東洋書店
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	復習課題の提出(30%)と期末試験(70%)により総合的に判断する。			
学生へのメッセージ	構造力学系科目の修得には、たゆまぬ努力が必要である。本講義は、これら構造力学系科目の導入に位置づけられており、必要に応じて高校課程までで学習した数学や物理等の補足も行う。積極的に取り組み、「理解できた喜び」や「解ける喜び」をいち早く感じる事が構造力学系科目の修得には近道である。			
担当者の	8号館3階 池内准教授室			

研究室等	
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学習：事前事後学習課題欄に示した内容について、毎回 0.5 時間以上の時間をかけること</li> <li>・事後学習：事前事後学習課題欄に示した内容について、毎回 1 時間以上かけて問題を解きなおす。特に授業で解答した問題は必ず解きなおすこと。</li> <li>・理解できなくなったら、早めに質問に来ること。その際は、自分が解いたノートを持参すると、より理解が深まる。また、教育支援センターでも構造力学の質問は受け付けてもらえるため、積極的に活用すること。</li> </ul>

科目名	構造力学 I	科目名 (英文)	Structural Mechanics I
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	3	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	池内 淳子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教科に関する科目 (高等学校 工業)【施行規則に定める科目区分】「工業の関係科目」【教員免許状取得のための履修区分】必修	

授業概要・目的	建築物の構造的安全性を確保するための構造上の基礎的知識を修得する。他の構造関係の科目を学習する上で必要な重要科目である。構造材料の力学的性質、静力学の基礎的事項を述べ、静定骨組構造の力学的解析法について解説する。静定梁、静定ラーメン、静定トラスなど簡単な構造要素について構造物の支点反力や内部に生ずる断面力を正確に求め、断面力図を描くための演習を行う。また、棒材の伸縮変形、静定梁の曲げ変形の解析手法を解説し、そのための演習を行う。
到達目標	1) 静定骨組構造の断面力を求め、断面力図を描くことができる、2) 静定トラス構造の断面力を求めることができる、3) 骨組部材の断面力から応力を求めることができる 【学科の学習・教育目標との対応】: F
授業方法と留意点	講義形式による解説と演習を繰り返しながら進める。よって遅刻・欠席などないようにすること。 欠席した場合のプリントの再配布は行わない。また、欠席した場合の授業内容については、自己責任において回復すること。
科目学習の効果 (資格)	一級建築士・二級建築士資格取得のために必須である。 本講義については、単位修得のために取り組むのではなく、将来の一級建築士・二級建築士受験時をみずえて取り組むこと

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	ガイダンス・反力算定	授業の目的と概要、評価基準と注意事項、専門関連科目との関係、反力算定の確認・復習	(事前) 構造力学・構造基礎で学んだ反力算定の復習	(事後) 本日解いた問題を再解答する
2	静定梁の断面力 (1)	集中荷重の断面力、断面力図	(事前) 教科書 5.2 の該当箇所を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
3	静定梁の断面力 (2)	分布荷重の断面力、断面力図	(事前) 教科書 5.2 の該当箇所を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
4	静定ラーメンの断面力 (1)	静定ラーメン (単純梁) の断面力、断面力図	(事前) 教科書 5.3 の該当箇所を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
5	静定ラーメンの断面力 (2)	静定ラーメン (片持ち梁) の断面力、断面力図	(事前) 教科書 5.3 の該当箇所を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
6	静定ラーメンの断面力 (3)	静定ラーメンの断面力図の意味と符号の確認 =力の流れを意識する=	(事前) 教科書 5.3 の該当箇所を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
7	ヒンジを有する静定梁の断面力	連続梁の断面力、断面力図	(事前) 教科書 5.4 の該当箇所を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
8	ヒンジを有するラーメン構造の断面力	3 ヒンジラーメン・連続梁の断面力と断面力図	(事前) 教科書 5.4 の該当箇所を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
9	断面力算定	断面力算定の確認テスト	(事前) これまで解いた問題を再解答	(事後) テストの振り返り
10	静定トラス (1)	トラスとは?トラスの種類	(事前) 教科書 6.1 の該当箇所を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
11	静定トラス (2)	トラスの解法 (接点でのつり合い)	(事前) 教科書 6.2 の該当箇所を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
12	静定トラス (3)	トラスの解法 (接点法)	(事前) 教科書 6.2 の該当箇所を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
13	静定トラス (4)	トラスの解法 (梁のつり合い)	(事前) 教科書 6.2 の該当箇所を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
14	静定トラス (5)	トラスの解法 (切断法)	(事前) 教科書 6.2 の該当箇所を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
15	静定力学のまとめ	反力算定から断面力算定まで、力の流れ	(事前) これまでの学習内容について総復習する	(事後) 本日解いた問題を再解答する
16	中間テスト	-----	(事前) これまでの学習内容について総復習する	(事後) 本日解いたテスト問題を再解答する
17	断面の性質 (1)	断面 1 次モーメントについて	(事前) 教科書 6.3 の該当箇所を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
18	断面の性質 (2)	断面 2 次モーメントについて	(事前) 教科書 6.3 の該当箇所を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
19	断面の性質 (3)	図心軸からずれる断面 2 次モーメントについて	(事前) 教科書 6.3 の該当箇所を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
20	断面の性質 (4)	断面 2 次モーメントの算定	(事前) 教科書 6.3 の該当箇所を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
21	軸方向力のみを受ける梁要素	軸方向力のみをうける梁要素の応力算定手法	(事前) 教科書 6.2 の該当箇所を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
22	断面力の定義、応力ブロック	断面力と断面力に作用する応力 (応力ブロック)	(事前) 教科書 6.1 の該当箇所を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
23	断面に作用する応力 (1)	軸方向力と曲げモーメントが作用する場合の応力算定	(事前) 教科書 6.3 の該当箇所を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
24	断面に作用する応力 (2)	軸方向力と曲げモーメントが作用する場合のラーメンの応力算定	(事前) 教科書 6.3 の該当箇所を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
25	断面に作用する応力 (3)	軸方向力と曲げモーメントが作用する場合のラーメンの応力算定(解法)	(事前) 教科書 6.3 の該当箇所を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
26	断面に作用する応力 (4)	2 方向の曲げをうける梁要素の応力	(事前) 教科書 6.4 の該当箇所を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
27	断面に作用する応力 (5)	軸方向力と 2 方向の曲げをうける梁要素の応力	(事前) 教科書 6.4 の該当箇所を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
28	許容応力度設計	梁の構造設計法について学び、応力を求めたのち、断面算定を行う。	(事前) 教科書 6.9 の該当箇所を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する

	29	曲げに伴うせん断応力 (1)	曲げに伴う梁のせん断応力を求める。	(事前) 教科書 6.6の該当箇所を読む (事後) 本日解いた問題を再解答する
	30	曲げに伴うせん断応力 (2)	H型鋼のせん断応力と曲げ応力	(事前) 教科書 6.6の該当箇所を読む (事後) 本日解いた問題を再解答する
関連科目	構造力学Ⅱ、構造力学Ⅲ、構造力学実践その他建築構造関係の全科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	図説 構造力学入門	豊田正敏、島村和夫共著	東洋書店
	2			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
評価方法 (基準)	講義内に実施する中間テスト(1回)と期末試験の成績を合計して70%、また、講義内で行う確認テストや確認レポート(合計5回程度)の成績を30%とし、あわせて100%で評価を行い、60%以上を合格とする。			
学生への メッセージ	建築の構造安全性を考える上で、重要な基礎科目である。 この科目を履修するためには、構造力学・構造基礎で履修した知識を必要とする。特に、構造力学・構造基礎で学んだ反力の算定はもう一度復習すること。毎回の講義で行う演習問題を復習していくと、理解が一層進む。			
担当者の 研究室等	8号館3階 池内准教授室			
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学習：事前事後学習課題欄に示した内容について、毎回0.5時間以上の時間をかけること</li> <li>・事後学習：事前事後学習課題欄に示した内容について、毎回1時間以上かけて問題を解きなおす。特に授業で解答した問題は必ず解きなおすこと。</li> <li>・藤井先生・・・火曜5限担当、加藤先生・・・木曜2限担当</li> </ul>			



科目名	構造力学 I a	科目名 (英文)	Structural Mechanics I
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	3	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	池内 淳子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	建築物の構造的安全性を確保するための構造上の基礎的知識を修得する。他の構造関係の科目を学習する上で必要な重要科目である。構造材料の力学的性質、静力学の基礎的事項を述べ、静定骨組構造の力学的解析法について解説する。静定梁、静定ラーメン、静定トラスなど簡単な構造要素について構造物の支点反力や内部に生ずる断面力を正確に求め、断面力図を描くための演習を行う。また、棒材の伸縮変形、静定梁の曲げ変形の解析手法を解説し、そのための演習を行う。
到達目標	1) 静定骨組構造の断面力を求め、断面力図を描くことができる、2) 静定トラス構造の断面力を求めることができる、3) 骨組部材の断面力から応力を求めることができる  【学科の学習・教育目標との対応】: F
授業方法と留意点	講義形式による解説と演習を繰り返しながら進める。よって遅刻・欠席などないようにすること。 欠席した場合のプリントの再配布は行わない。また、欠席した場合の授業内容については、自己責任において回復すること。
科目学習の効果 (資格)	一級建築士・二級建築士資格取得のために必須である。 本講義については、単位修得のために取り組むのではなく、将来の一級建築士・二級建築士受験時をみすえて取り組むこと

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	ガイダンス・反力算定	授業の目的と概要、評価基準と注意事項、専門関連科目との関係、反力算定の確認・復習	(事前) 構造力学・構造基礎で学んだ反力算定の復習	(事後) 本日解いた問題を再解答する
2	静定梁の断面力 (1)	集中荷重の断面力、断面力図	(事前) 教科書 5.2 の該当箇所を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
3	静定梁の断面力 (2)	分布荷重の断面力、断面力図	(事前) 教科書 5.2 の該当箇所を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
4	静定ラーメンの断面力 (1)	静定ラーメン (単純梁) の断面力、断面力図	(事前) 教科書 5.3 の該当箇所を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
5	静定ラーメンの断面力 (2)	静定ラーメン (片持ち梁) の断面力、断面力図	(事前) 教科書 5.3 の該当箇所を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
6	静定ラーメンの断面力 (3)	静定ラーメンの断面力図の意味と符号の確認 = 力の流れを意識する =	(事前) 教科書 5.3 の該当箇所を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
7	ヒンジを有する静定梁の断面力	連続梁の断面力、断面力図	(事前) 教科書 5.4 の該当箇所を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
8	ヒンジを有するラーメン構造の断面力	3 ヒンジラーメン・連続梁の断面力と断面力図	(事前) 教科書 5.4 の該当箇所を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
9	断面力算定	断面力算定の確認テスト	(事前) これまで解いた問題を再解答	(事後) テストの振り返り
10	静定トラス (1)	トラスとは? トラスの種類	(事前) 教科書 6.1 の該当箇所を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
11	静定トラス (2)	トラスの解法 (接点でのつり合い)	(事前) 教科書 6.2 の該当箇所を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
12	静定トラス (3)	トラスの解法 (接点法)	(事前) 教科書 6.2 の該当箇所を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
13	静定トラス (4)	トラスの解法 (梁のつり合い)	(事前) 教科書 6.2 の該当箇所を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
14	静定トラス (5)	トラスの解法 (切断法)	(事前) 教科書 6.2 の該当箇所を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
15	静定力学のまとめ	反力算定から断面力算定まで、力の流れ	(事前) これまでの学習内容について総復習する	(事後) 本日解いた問題を再解答する
16	中間テスト	-----	(事前) これまでの学習内容について総復習する	(事後) 本日解いたテスト問題を再解答する
17	断面の性質 (1)	断面 1 次モーメントについて	(事前) 教科書 6.3 の該当箇所を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
18	断面の性質 (2)	断面 2 次モーメントについて	(事前) 教科書 6.3 の該当箇所を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
19	断面の性質 (3)	図心軸からずれる断面 2 次モーメントについて	(事前) 教科書 6.3 の該当箇所を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
20	断面の性質 (4)	断面 2 次モーメントの算定	(事前) 教科書 6.3 の該当箇所を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
21	軸方向力のみを受ける梁要素	軸方向力のみをうける梁要素の応力算定手法	(事前) 教科書 6.2 の該当箇所を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
22	断面力の定義、応力ブロック	断面力と断面力に作用する応力 (応力ブロック)	(事前) 教科書 6.1 の該当箇所を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
23	断面に作用する応力 (1)	軸方向力と曲げモーメントが作用する場合の応力算定	(事前) 教科書 6.3 の該当箇所を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
24	断面に作用する応力 (2)	軸方向力と曲げモーメントが作用する場合のラーメンの応力算定	(事前) 教科書 6.3 の該当箇所を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
25	断面に作用する応力 (3)	軸方向力と曲げモーメントが作用する場合のラーメンの応力算定 (解法)	(事前) 教科書 6.3 の該当箇所を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
26	断面に作用する応力 (4)	2 方向の曲げをうける梁要素の応力	(事前) 教科書 6.4 の該当箇所を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
27	断面に作用する応力 (5)	軸方向力と 2 方向の曲げをうける梁要素の応力	(事前) 教科書 6.4 の該当箇所を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
28	許容応力度設計	梁の構造設計法について学び、応力を求めたのち、断面算定を行う。	(事前) 教科書 6.9 の該当箇所を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
29	曲げに伴うせん断応力	曲げに伴う梁のせん断応力を求める。	(事前) 教科書 6.6 の該当箇所を読む	



	(1)		(事後) 本日解いた問題を再解答する
30	曲げに伴うせん断応力 (2)	H型鋼のせん断応力と曲げ応力	(事前) 教科書 6.6 の該当箇所を読む (事後) 本日解いた問題を再解答する
関連科目	構造力学Ⅱ、構造力学Ⅲ、構造力学実践その他建築構造関係の全科目		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	図説 構造力学入門	豊田正敏、島村和夫共著
	2		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
評価方法 (基準)	講義内に実施する中間テスト(1回)と期末試験の成績を合計して70%、また、講義内で行う確認テストや確認レポート(合計5回程度)の成績を30%とし、あわせて100%で評価を行い、60%以上を合格とする。		
学生への メッセージ	建築の構造安全性を考える上で、重要な基礎科目である。 この科目を履修するためには、構造力学・構造基礎で履修した知識を必要とする。特に、構造力学・構造基礎で学んだ反力の算定はもう一度復習すること。毎回の講義で行う演習問題を復習していくと、理解が一層進む。		
担当者の 研究室等	8号館3階 池内准教授室		
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学習：事前事後学習課題欄に示した内容について、毎回0.5時間以上の時間をかけること</li> <li>・事後学習：事前事後学習課題欄に示した内容について、毎回1時間以上かけて問題を解きなおす。特に授業で解答した問題は必ず解きなおすこと。</li> <li>・藤井先生・・・火曜5限担当、加藤先生・・・木曜2限担当</li> </ul>		

科目名	構造力学 I b	科目名 (英文)	Structural Mechanics Ib
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	3	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	池内 淳子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	建築物の構造的安全性を確保するための構造上の基礎的知識を修得する。骨組部材の断面力から応力を算定する方法を解説する。また、棒材の伸縮変形、静定梁の曲げ変形の解析手法を解説し、そのための演習を行う。複数部材から構成される静定骨組及び静定トラスの断面力を算定する方法を解説する。不静定骨組の代表的解析法であるたわみ角法について、節点移動のない簡単な場合の解法を解説する。
到達目標	1) 骨組部材の断面力から応力を求める。2) 棒材、静定梁の弾性変形の算定手法を理解する。3) 静定骨組及び静定トラスについて自由体を切り出し、力のつり合い式を立てて支点反力や断面力を求める。4) たわみ角法公式の意味を理解し、節点周りのモーメントのつり合いを表す節点方程式を理解し、節点移動のない場合の解法に習熟する。 学科の学習・教育目標との対応：[F]
授業方法と留意点	講義形式による解説と演習を繰り返しながら進める。よって遅刻・欠席などないようにすること。欠席した場合のプリントの再配布は行わない。また、欠席した場合の授業内容については、自己責任において回復すること。頻繁に課される演習問題を次週までに必ず解答してくる。
科目学習の効果 (資格)	一級建築士・二級建築士資格取得のために必須である。本講義については、単位修得のために取り組むのではなく、将来の一級建築士・二級建築士受験時をみすえて取り組むこと。単に数式や計算手法を学ぶだけではなく、力のつり合いと、変形の様子について感覚的に理解できるよう心がける。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	ガイダンス・断面力算定	授業の目的と概要、評価基準と注意事項、専門関連科目との関係、断面力算定手法の確認・復習	(事前) 構造力学 Ia で学んだ断面力算定の復習	(事後) 本日解いた問題を再解答する
2	許容応力度設計	梁の構造設計法について学び、応力を求めたのち、断面算定を行う。	(事前) 教科書 6.9 の該当箇所を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
3	座標の平行移動 (梁要素)	座標変換について学び、梁要素の応力を求める	(事前) 教科書 6.5 の該当箇所を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
4	曲げを伴うせん断応力	曲げを伴う梁のせん断応力を求める。	(事前) 教科書 6.6 の該当箇所を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
5	モールの応力円と主応力(1)	主応力について学び、モールの応力円について学ぶ	(事前) 教科書 6.8 の該当箇所を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
6	モールの応力円と主応力(2)	主応力を算定する。	(事前) 教科書 6.8 の該当箇所を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
7	部材の弾性変形	部材の弾性変形について学び、軸力のみの場合の変形量を算定する。	(事前) 教科書 7.1 の該当箇所を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
8	弾性部材の曲げ変形とたわみ曲線 (1)	曲げモーメントと曲率の関係・曲率とたわみ曲線の関係	(事前) 教科書 7.2 の該当箇所を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
9	弾性部材の曲げ変形とたわみ曲線 (2)	たわみ曲線を求め、たわみ角とたわみを算出する	(事前) 教科書 7.2 の該当箇所を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
10	モーメント面積定理とモールの定理 (1)	モールの定理を理解する。	(事前) 教科書 7.3 の該当箇所を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
11	モーメント面積定理とモールの定理 (2)	モールの定理を用いて、たわみとたわみ角を求める。	(事前) 教科書 7.3 の該当箇所を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
12	簡単な不静定梁の解法 (1)	支点を未知数とする解法について学び、応力図を描く。	(事前) 教科書 8.1 の該当箇所を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
13	簡単な不静定梁の解法 (2)	断面力を未知数とする解法について学び、応力図を描く。	(事前) 教科書 8.1 の該当箇所を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
14	簡単な不静定梁の解法 (3)	不静定梁の断面力を求める演習	(事前) 27回・28回の内容を再度確認する。	(事後) 本日解いた問題を再解答する
15	中間テスト	-----	(事前) これまでの学習内容について総復習する	(事後) テスト問題の復習
16	単純な静定骨組 (1)	自由体の切り取り方と力の釣合。講義+演習	(事前) 解答した問題のおさらい	(事後) 講義プリントの復習と演習問題の解答
17	単純な静定骨組 (2)	支点反力の計算、断面力の算定。講義+演習	(事前) 解答した問題のおさらい	(事後) 講義プリントの復習と演習問題の解答
18	単純な静定骨組 (3)	支点反力の計算、断面力の算定。講義+演習	(事前) 解答した問題のおさらい	(事後) 講義プリントの復習と演習問題の解答
19	静定トラス (1)	節点での力の釣合。講義+演習。講義+演習	(事前) 解答した問題のおさらい	(事後) 講義プリントの復習と演習問題の解答
20	静定トラス (2)	単純トラス。講義+演習	(事前) 解答した問題のおさらい	(事後) 講義プリントの復習と演習問題の解答
21	静定トラス (3)	静定トラス梁の軸力計算。講義+演習	(事前) 解答した問題のおさらい	(事後) 講義プリントの復習と演習問題の解答
22	講義内テスト	静定骨組、静定トラス	(事前) 静定骨組、静定トラスの学習内容について総復習する	(事後) テスト問題の復習
23	たわみ角法 (1)	基本仮定、たわみ角法公式。講義+演習	(事前) 解答した問題のおさらい	(事後) 講義プリントの復習と演習問題の解答
24	たわみ角法 (2)	剛度と剛比、たわみ角法実用公式。講義+演習	(事前) 解答した問題のおさらい	(事後) 講義プリントの復習と演習問題の解答
25	たわみ角法 (3)	変位の適合条件式、節点方程式。講義+演習	(事前) 解答した問題のおさらい	(事後) 講義プリントの復習と演習問題の解答
26	たわみ角法 (4)	せん断力、軸力の計算。講義+演習	(事前) 解答した問題のおさらい	(事後) 講義プリントの復習と演習問題の解答
27	たわみ角法 (5)	節点移動のない場合の総復習。講義+演習	(事前) 解答した問題のおさらい	(事後) 講義プリントの復習と演習問題の解答
28	講義内テスト	節点移動のない場合のたわみ角法	(事前) 節点移動のない場合のたわみ角法の解法について総復習する	(事後) テスト問題の復習

	29	たわみ角法（6）	中間荷重が作用する場合、講義+演習	(事前)解答した問題のおさらい (事後)講義プリントの復習と演習問題の解答
	30	たわみ角法（7） 総合復習	後半15回の授業内容についての総合復習	(事前)解答した問題のおさらい (事後)期末テストに向けて、これまでの演習問題や中間テストについて復習しておく
関連科目	構造力学 Ia、構造力学 II 他 建築構造関係の全科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	図説 構造力学入門	豊田正敏、島村和夫共著	東洋書店
	2			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
評価方法 (基準)	講義内に実施する中間テスト（1回）と期末試験の成績を合計して60%で評価する。残り40%については、中間テスト前の範囲に関しては、講義内テスト（もしくは確認レポート）の合計を20%、中間テスト後の範囲に関しては、講義内テスト（2回）の合計を20%とする。以上、前半と後半の成績をすべて総合し、100%換算し、60%以上を合格とする。			
学生への メッセージ	建築の構造安全性を考える上で、重要な基礎科目である。この科目を履修するためには、構造力学 Ia で履修した知識を必要とする。構造力学 Ia の演習問題を必ず自分で解答しなおすなどを行い、構造力学 Ib の理解と習熟に努めること。			
担当者の 研究室等	(前半主担当) 8号館3階 池内准教授室 (後半主担当) 8号館3階 上谷教授室			
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学習：事前事後学習課題欄に示した内容について、毎回0.5時間以上の時間をかけること</li> <li>・事後学習：事前事後学習課題欄に示した内容について、毎回1時間以上かけて問題を解きなおす。特に授業で解答した問題は必ず解きなおすこと。</li> </ul>			

科目名	構造力学Ⅱ	科目名(英文)	Structural Mechanics II
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	上谷 宏二
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教科に関する科目(高等学校 工業)【施行規則に定める科目区分】「工業の関係科目」【教員免許状取得のための履修区分】必修	

授業概要・目的	建築骨組は一般に不静定構造として設計される。構造力学Ⅰで学んだ静定構造物は力の釣合式だけを用いて応力(断面力)を算出できた。しかし不静定構造物の応力や変形を計算するには、力の釣合式に加えて変位とひずみに関する適合条件式を用いなければならない。この講義では不静定構造物の代表的な解法である、たわみ角法、変位法(剛性法)、モーメント分配法、応力法について学ぶ。
到達目標	[到達目標]としては、(1)解法の原理の理解、(2)簡単な骨組について、方程式を立て、応力を計算できる能力の習得。不静定構造物の解法について、静定との違いを理解する。不静定構造物の変位法系の解法である「たわみ角法」と「モーメント分配法」を習得し、問題が解けるように修練する。 学科の学習教育・到達目標との対応：[H]
授業方法と留意点	指定教科書「構造力学図説・演習」と配布資料を用い、講義+演習の形式で授業を進める。適宜演習を課す授業なので100%の出席を前提とする。やむを得ず欠席する場合は文書で届け出る。また、欠席した授業内容は自己責任で補充すること。
科目学習の効果(資格)	一級・二級建築士資格取得のための必須科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	静定構造物と不静定構造物	静定構造物の解き方の復習。不静定構造物の解法の要点。力のつり合い、適合条件、材料特性など	構造力学Ⅰで学んだ内容の要点を復習しておく。自由体の概念と力のつり合いなど。
2	梁理論の基礎方程式	梁のつり合い微分方程式。梁のたわみ微分方程式。	構造力学Ⅰで学んだ建築構造力学 図説・演習Ⅰ(7章)の内容を復習しておく。演習課題を次週までに解答する
3	たわみ角法(1)	たわみ角法の基本仮定、たわみ角法公式	講義プリントの要点を復習し、演習課題を次週までに解答する
4	たわみ角法(2)	節点移動のない場合の解法。節点方程式。講義+演習	講義プリントの要点を復習し、演習課題を次週までに解答する
5	たわみ角法(3)	節点移動のある場合の解法。層方程式。講義+演習	講義プリントの要点を復習し、演習課題を次週までに解答する
6	たわみ角法(4)	せん断力、軸力の計算法：節点における力のつり合い	講義プリントの要点を復習し、演習課題を次週までに解答する
7	たわみ角法(5)	中間荷重のある場合。固定端モーメント、固定端せん断力。	講義プリントの要点を復習し、演習課題を次週までに解答する
8	中間テスト1	たわみ角法	中間試験準備：たわみ角法を良く理解し、演習問題を十分に復習しておくこと
9	モーメント分配法(1)	基本仮定、解法の原理、単純な問題の求解。講義+演習	参考書・第2章 全般、講義プリントの要点を復習し、演習課題を次週までに解答する
10	モーメント分配法(2)	節点の回転拘束と単位回転角を与える材端モーメント。講義+演習	参考書・第3章、講義プリントの要点を復習し、演習課題を次週までに解答する
11	モーメント分配法(3)	モーメントの分配則と伝達モーメント。講義+演習	参考書・第3章、講義プリントの要点を復習し、演習課題を次週までに解答する
12	モーメント分配法(4)	複数節点のモーメント解放。講義+演習	参考書・第3章、講義プリントの要点を復習し、演習課題を次週までに解答する
13	モーメント分配法(5)	モーメント分配法の総復習。講義+演習	モーメント分配法の配布資料全般を復習し、中間テストに備えておく。特に、これまでの演習問題を復習する。
14	中間テスト2	モーメント分配法	中間試験準備：モーメント分配法を良く理解し、演習問題を十分に復習しておくこと
15	たわみ角法とモーメント分配法の総復習	たわみ角法とモーメント分配法の要点及び注意点を指摘。講義+演習	たわみ角法とモーメント分配法の配布資料を復習し、期末テストに備える。

関連科目 常に構造力学Ⅰを復習しながら進むこと。構造力学Ⅱの演習では、解析解を得たら必ず構造力学Ⅰで学んだ方法により断面力図と変形の略図を描くこと。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	建築構造力学 図説・演習Ⅱ	中村恒善 編著	丸善株式会社
2			
3			

評価方法(基準) 2回の中間試験成績(60%) および期末試験成績(40%)の総計で評価する。

学生へのメッセージ 必ずしも簡単な内容ではありませんが、授業に毎回出席し、講義にしっかりと耳を傾け、演習課題を納得がいくまで繰返し反芻すれば、将来役立つ知識や能力を必ず身に着けることができます。

担当者の研究室等 8号館3階 上谷教授室

備考 ・事前学習：事前学習欄に示した内容について、毎日0.5時間以上調べておく。  
・事後学習：事後学習欄に示した内容について、毎日0.1時間以上調べて復習する。授業で演習・解答した問題は必ず解きなさい。

科目名	構造力学Ⅲ	科目名(英文)	Structural Mechanics III
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	上谷 宏二
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	<p>【授業概要】建築構造物の耐震安全性は、構成部材の強さ(耐力)のバランスのとれた配置に左右される。部材や構造物の耐力を支配するのは全塑性耐力と座屈耐力である。本講義では、これらの耐力を算出するための基礎的考え方と方法について学ぶ。</p> <p>【目的】以下の項目について理解し、具体的な計算能力を身につける。</p> <p>(1) 梁や柱の弾塑性曲げモーメント-曲率関係と全塑性モーメント (2) 塑性極限解析の上・下界の定理 (3) 簡単なトラスやラーメンの塑性崩壊荷重の計算法 (4) 中心圧縮柱の曲げ座屈、梁の横座屈などの、簡単な骨組の座屈</p>
到達目標	<p>構造設計を行う場合、その構造物が終局的にどのようなふるまいをするかを知っておくことは極めて重要である。建物の終局状態を求めるための重要項目である「塑性極限解析」と「座屈理論」について理論的基礎を理解し、設計上の問題点を習得する。</p> <p>学科の学習・教育目標との対応：[H]</p>
授業方法と留意点	指定教科書「建築鋼構造-その理論と設計-」と配布資料を用い、講義形式で授業を進める。適宜、演習問題を課す。
科目学習の効果(資格)	構造設計者・施工管理技術者を旨とするものにとって必須の教科である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	この授業内容の位置付け、概説、授業の進め方	第2部 2.1.1
2	トラスの塑性崩壊	単純なトラスの強さと変形	配布資料
3	断面の全塑性モーメント(1)	長方形断面、T形断面	第2部 2.2
4	断面の全塑性モーメント(2)	H型断面、箱形断面	第2部 2.2
5	断面の全塑性モーメント(3)	軸力の影響	第2部 2.3
6	中間試験(1)	(範囲)トラスの塑性崩壊、断面の全塑性モーメント	ここまでの範囲について、演習課題を含めて良く復習すること
7	梁の塑性崩壊(1)	静定梁の塑性崩壊；単純梁、片持梁	第2部 3.1
8	梁の塑性崩壊(2)	不静定梁の塑性崩壊；下界定理による方法	第2部 3.2-3.3
9	梁の塑性崩壊(3)	不静定梁の塑性崩壊；上界定理による方法	第2部 3.2-3.3
10	骨組の塑性崩壊(1)	1層1スパンの塑性崩壊	第2部 3.4, 5.1-5.3
11	骨組の塑性崩壊(2)	2層1スパンの塑性崩壊	第2部 5.1-5.3
12	中間試験(2)	(範囲)梁の塑性崩壊、骨組の塑性崩壊	ここまでの範囲について、演習課題を含めて良く復習すること
13	部材の座屈(1)	座屈概説、オイラー座屈	第3部 2.1
14	部材の座屈(2)	境界条件の違い、座屈長さ、横座屈、局部座屈、骨組座屈	第3部 2.2, 3.2-3.3, 5.3
15	復習課題	授業範囲全般	これまでの授業範囲全般を通して、理解が不十分と思うところを、もう一度復習しておくこと。

関連科目 構造力学Ⅰa, Ⅰb 構造力学Ⅱの授業内容をよく理解していること。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	2回の中間試験成績(60%) および期末試験成績(40%)の総計で評価する。
学生へのメッセージ	必ずしも簡単な内容ではありませんが、授業に毎回出席し、講義にしっかりと耳を傾け、演習課題を納得がいくまで繰り返し反芻すれば、将来役立つ知識や能力を必ず身につけることができます。
担当者の研究室等	8号館3階 上谷教授室
備考	事前学習：0.5時間/回, 事後学習：1.5時間/回

科目名	材料デザイン	科目名(英文)	Building Texture and Design
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	伊熊 昌治
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

**授業概要・目的**  
 建築を構成する材料の選択は空間やコンセプトの表現として重要な要素である。  
 また材料の種類と特徴を知り適材適所に材料を選択し劣化を防ぎ快適で安全な居住環境を実現することも重要である。  
 鉄、アルミといった金属・ガラス・木・コンクリートから建築を構成する様々な材料について紹介し、伝統的な材料から近年開発された新素材まで幅広い材料についての知識と使用にあたっての留意点、デザインの実現のための使用方法についての基礎知識を身につけるとともに、どんなデザイン意思が潜んでいるのかを探る。  
 デザイン(意思)を実現する為に材料を選択する(デザインする)プロセスを学び実際の設計演習課題での作品のイメージの多様性の獲得や設計密度をあげることも目指す。

**到達目標**  
 現実の建造物の仕上げあるいは内装についての材料に関する知識を得ることで、町並みデザインや建築デザインへの関心を高めるとともに工業化製品のかかえる問題点や、材料の耐久性や耐火性、設計者の使用意図等についての理解を深める。  
 実際に材料を選択し、実際の設計演習等での計画内容にそったカラースキーム(材料を張合わせた仕上げパネル)を作成することを目指す。  
 学科の学習・教育到達目標との対応:「G」

**授業方法と留意点**  
 「材料を知る」「材料を使う」「材料を活かす」という三部構成で授業を行う。  
 講義時にプリントあるいは資料を配布する。  
 国内外の事例を中心とした紹介を行うが、ミニレポートとして各自で事例を収集調査することも必要となる。

**科目学習の効果(資格)**  
 高効率エネルギーや省エネルギーについて配慮をした建築デザインについて理解を深めることができる。  
 一級建築士資格取得やインテリアコーディネータ取得にも役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス:材料とデザイン	材料を使ってデザインをするのか。デザインを実現する為に材料を使うのか。	工業化にともなう材料の開発と新素材を使用した事例を近代建築史のなかから学び材料(素材)をどのように使用・利用してきたのかの概略を学ぶ
2	「材料を知る」1; 建物を構成する材料の特性	床・天井・屋根に使われる材料と特徴(雨露に強い材料・風に強い材料) 外壁・内壁等に使われる材料と特徴 圧縮に強い材料・引っぱり強い材料・線で構成される構築物・面で構成される構築物 納まり事例 建物の部位別に同じ素材が使われている(床、壁、天井、屋根等)事例とその違いを探す。	国内外の事例について興味のある建築での材料をチェックする。 建物の部位別に同じ素材が使われている(床、壁、天井、屋根等)事例とその違いを列挙する。
3	「材料を知る」2; 建物の特性から材料を知る(劇場・福祉施設の事例から)	耐久性・防滑性 断熱性を高める材料・遮音性と吸音性を高める材料・音を反射する材料・防火材料(劇場の事例から)	国内外の事例について興味のある建築での材料をチェックする。 環境工学における日照・音響・熱の項目参照
4	「材料を使う」1; 材料と透明性	透明性実現の為の材料(事例紹介) ガラスを中心とした透明性・透過材料 虚の透明性と実の透明性 ガラスを床に使う、壁に使う、天井に使う、屋根に使う	透明性を実現している事例をチェックする。
5	「材料を使う」2; 材料と時間	発酵する材料と腐敗する材料 長寿命の為の材料 経年価値と新しさの価値、歴史的価値と保存価値	時間と共に熟成する材料を探す
6	「材料を使う」3; 材料とテクスチャー	材料のテクスチャーと肌理 距離によるテクスチャーの変化 安全な表面仕上げ 呼吸する材料	距離によってテクスチャーが変化する事例を探す 環境に呼応する材料とはどんなものか。
7	「材料を使う」4; システムと材料	オープンシステムとクローズドシステム カーテンウォールと工業化	便利なようで不便なシステムの事例を探す
8	「材料を使う」5; システムと材料	モジュールとデザイン プレファブリケーションとデザイン システムに原則はない システムは変換	規格品を用いた材料デザインについて考える
9	「材料を活かす」1; 材料とイメージ・デザインの表現	イメージ・デザインを表現するための材料 材料とディテール 国内外の事例	国内外の事例でイメージを明確に表現している材料を使用している事例を探す
10	「材料を活かす」2; 意思を実現するための材料デザイン	設計演習での自分のコンセプトをまとめる。 設計演習での自分の作品について自分のコンセプトを表現する材料を選択する。	実際の材料を収集する。
11	「材料を活かす」3; 軽く見せる・重く見せる、暖かくみせる・冷たく見せる(材料デザインと構法)	屋根・庇を軽く見せる 床・壁を薄くする 天井を軽くする	軽くみえる、重くみえる・薄くみえる・厚くみえる事例を探す
12	「材料を活かす」4; 光をいれる・影をつくる・視線を遮る(材料デザインと構法)	天井から光をいれる 壁から光をいれる 床から光をいれる 影をつくる・影を落とす	光をテーマにした空間の実例を探す
13	「材料を活かす」5; 材料と	コンセプトと使用材料との関係	国内外の事例でコンセプトを明確に表現している



		コンセプト	今までと異なる場所に異なる材料を使う 国内外の事例紹介 素材から材料を考えだす。(ある素材を選択し、利用方法を考えてみる。)	材料を使用している事例を探す																
	14	「材料を活かす」6; 意思を実現するための材料デザイン	設計演習での自分の作品について自分のコンセプトを表現する材料を選択する。	実際の材料を収集する。 仕上げ材料表としてパネルにまとめる。																
	15	「材料を活かす」7; 意思を実現するための材料デザイン	設計演習での自分の作品について自分のコンセプトを表現する材料を選択しプレゼンテーションを行う。	実際の設計演習課題での作品について各種仕上げ表を作成する																
関連科目	建築環境工学やデザインと材料は密接な関係にある。 建築基準法でも防火等安全面から多様な材料の指定が記載されている。 国内外の事例から建築家のコンセプトや考えを具現化するための材料の選択についても興味をもつことが必要である。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>2 回生での教科書、建築材料、菊池雅史・小山明男著 (オーム社) 以外の本については適宜紹介をする</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	2 回生での教科書、建築材料、菊池雅史・小山明男著 (オーム社) 以外の本については適宜紹介をする			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	2 回生での教科書、建築材料、菊池雅史・小山明男著 (オーム社) 以外の本については適宜紹介をする																			
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ベーシック建築材料</td> <td>野口貴文他著</td> <td>彰国社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>素材の系譜</td> <td>隈研吾監修/長井宏憲著</td> <td>グラフィック社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>現代建築の造られ方</td> <td>内田祥哉著</td> <td>市ヶ谷出版社</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ベーシック建築材料	野口貴文他著	彰国社	2	素材の系譜	隈研吾監修/長井宏憲著	グラフィック社	3	現代建築の造られ方	内田祥哉著	市ヶ谷出版社
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	ベーシック建築材料	野口貴文他著	彰国社																	
2	素材の系譜	隈研吾監修/長井宏憲著	グラフィック社																	
3	現代建築の造られ方	内田祥哉著	市ヶ谷出版社																	
評価方法 (基準)	授業中でのミニレポート 50% (授業への取り組み含む) 最終レポート 20% 最終レポートへの取り組み評価 30%																			
学生への メッセージ	建築材料の知識を身につけることで実際の設計演習課題への取り組みも具体性を帯び、プレゼンテーションに役立てることができる。 さらに材料から喚起されるデザインからイメージの枠を広げることができる。 新しさと同時に耐久性や耐摩耗性といった観点からも周囲の建築や都市を眺めることができ、視野を広げることができる。																			
担当者の 研究室等	8 号館 3 階 建築学科共通準備室																			
備考	事前学習：事後学習欄に示した内容について、毎回 1.5 時間以上かけて取り組む																			

科目名	地盤工学	科目名(英文)	Geotechnical Engineering
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	細野 久幸
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	建物を地盤の上に安全に支持させるためには、その地盤特性を把握し、上部構造の力学的特性を踏まえて、建物を地盤に適合させていかなければならない。地盤特性を知るために、土の基礎的な力学的性状(土質力学)を理解し、それをもとに、建物の基礎の設計と施工(基礎工学)について応用していき「地盤工学」力を身につける。 授業は地盤の成り立ち、建物と地盤の相性を考え、考えるために必要な基礎的な土質力学、基本的な建物基礎(直接基礎、杭基礎)の設計方法を学ぶ。ある地盤に建設する建物が問題となるのはどこか、考える演習を設計事例、現場事例を踏まえながら行なう。
到達目標	基礎的な土質力学を理解し、敷地の状況から地盤調査すべき項目、建物の特性を踏まえての建物の基礎計画、建物基礎の設計、施工における留意点など、地盤建築基礎工学への応用方法へ展開するための基礎能力を取得する。 地盤と建物の関わりを捉えることのできる設計的視点(マクロ)と、土粒子+水+空気で構成される土の力学的・化学的挙動の細部を捉える細部観察視点(ミクロ)で考えられる力をつける。 学科の学習・教育到達目標との対応:「H」
授業方法と留意点	配布資料をもとにスライド(パワーポイント)を使用して授業を行う。毎回の授業後半に学んだことを理解する即日レポートを実施し、レポート提出を出席とする。 毎回配布するテキストは即日レポート作成と期末テストで使用するので保管しておくこと。
科目学習の効果(資格)	基礎的な土質力学の理解、建物基礎の計画、設計と施工について留意すべき点が理解できる基礎的な「地盤工学」力を身につける。 構造設計者、現場技術者、一級建築士、技術士で必要とされる「地盤工学」の基礎能力を取得する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	地盤工学ガイダンス 概論	ガイダンス 土質工学と基礎工学の概論 地盤の成り立ちと、地盤上に建てることについての概論	当日配布するテキストで講義を行う。授業後半に、物を安定させるためにはどうすればよいかについて演習を行なう。
2	地盤と建物の相性・地盤災害	建物と地盤のマクロな挙動(建物と土の力のやり取り) 静的・動的の建物と地盤の相互作用(沈下問題、地震被害) 過去の地盤災害	前回の講義時に配布したテキストの予習しておくこと。 返却した前回レポートを復習し、回答できなかったところは次回、再提出すること。
3	土の分類と粘土・砂の基本特性	土の分類と基本量、試験方法、粘土と砂の違いは何か、その基本特性を知る	前回の講義時に配布したテキストの予習しておくこと。 返却した前回レポートを復習し、回答できなかったところは次回、再提出すること。
4	土と水、地表荷重と地中応力	地下水と土、有効圧と中立圧、上載圧 災害事例を踏まえた土と水の関係	前回の講義時に配布したテキストの予習しておくこと。 返却した前回レポートを復習し、回答できなかったところは次回、再提出すること。
5	地下水の水理学、土の透水性	地中での水頭差、土の透水係数 砂のボイルング、液状化現象と液状化算定	前回の講義時に配布したテキストの予習しておくこと。 返却した前回レポートを復習し、回答できなかったところは次回、再提出すること。
6	土の圧縮性と圧密	土の圧縮性状、土内の水が排出される圧密理論、絞り出し破壊	前回の講義時に配布したテキストの予習しておくこと。 返却した前回レポートを復習し、回答できなかったところは次回、再提出すること。
7	土のせん断強さ	Coulomb の式と土のせん断破壊 Mohr・Coulomb の破壊規準	前回の講義時に配布したテキストの予習しておくこと。 返却した前回レポートを復習し、回答できなかったところは次回、再提出すること。
8	土圧	建物に作用する受働土圧、主働土圧、静止土圧 隣接する建物から受ける土圧	前回の講義時に配布したテキストの予習しておくこと。 返却した前回レポートを復習し、回答できなかったところは次回、再提出すること。
9	建物の支え方 建物の特性と地盤の性質 基礎の種類	敷地に対する建物の支え方を考える 基礎の種類(地盤改良・異種基礎・パイル ロード・ラフト含む) 基礎形式の選択	前回の講義時に配布したテキストの予習しておくこと。 返却した前回レポートを復習し、回答できなかったところは次回、再提出すること。
10	地盤の調査と試験 基礎の計画	標準貫入試験と土質柱状図、 室内土質試験概要 孔内水平載荷試験 土の動的性質 表層地盤の増幅特性	前回の講義時に配布したテキストの予習しておくこと。 返却した前回レポートを復習し、回答できなかったところは次回、再提出すること。
11	直接基礎の設計(1)鉛直	支持力の考え方(どのように土は上に載った建物を支持しているのか、メカニズムを理解する) 地盤の形状に応じた基礎検討	前回の講義時に配布したテキストの予習しておくこと。 返却した前回レポートを復習し、回答できなかったところは次回、再提出すること。
12	直接基礎の設計(2)鉛直・水平	地盤の沈下と不同沈下 基礎の設計方法 地震時の水平抵抗	前回の講義時に配布したテキストの予習しておくこと。 返却した前回レポートを復習し、回答できなかったところは次回、再提出すること。
13	杭基礎の設計(1)鉛直	杭の種類と工法概要 杭の鉛直支持力(先端支持力、摩擦力) メカニズムの理解 杭の設計(鉛直)	前回の講義時に配布したテキストの予習しておくこと。 返却した前回レポートを復習し、回答できなかったところは次回、再提出すること。
14	杭基礎の設計(2)水平	杭の水平抵抗、引抜き抵抗 杭の設計(水平)	前回の講義時に配布したテキストの予習しておくこと。 返却した前回レポートを復習し、回答できなかった



	15	側面土圧を受ける地下外壁・擁壁・山留め壁の設計	側面土圧を受ける構造物の計画、設計	<p>ところは次回、再提出すること。</p> <p>前回の講義時に配布したテキストの予習をしておくこと。</p> <p>返却した前回レポートを復習し、回答できなかったところは後日、再提出すること。</p>
関連科目	構造力学, 鋼構造, 鉄筋コンクリート構造, 建築施工, 耐震工学			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	平常点 (即日レポート+課題レポート) : 40% 期末試験 : 60%			
学生への メッセージ	<p>斜面に建つ建物, 海を埋め立てたところに建つ建物, どのようにして建っているのだろうか。傾けた板の上に箱を置く, ゼリーの上に箱を置くとき, どうすればその位置に止められるだろうか。</p> <p>地震国である我が国では避けて通ることのできない地震による建物被害, 最近では地盤の特性が大きく影響していることが分かっている。固い物の上に箱, 柔らかい物の上に箱を置き, 下から揺らしてみるとどうなるだろうか。</p> <p>身近な物に置き換えて動きを考え, それは簡単な力学式で表わすことができることを知り, 実際の建物がどのようにして建っているか,</p>			
担当者の 研究室等	建築学科共通準備室			
備考	<p>事前学習 : 事後学習欄に示した内容について, 毎回 1.5 時間以上かけて取り組む</p> <p>配布テキストは期末テストでも用いるので保管すること。</p> <p>講義に関する時間外の質問は, 建築学科共通準備室まで書面で提出するか, e-mail (hosono@leto.eonet.ne.jp) で行ってください。</p>			

科目名	情報リテラシー I	科目名 (英文)	Information Literacy I
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	藤原 稔久
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目 (中学校 数学) 【施行規則に定める科目区分】「コンピュータ」【教員免許状取得のための履修区分】必修【科目】教科に関する科目 (高等学校 数学) 【施行規則に定める科目区分】「コンピュータ」【教員免許状取得のための履修区分】必修		

授業概要・目的	コンピュータと情報通信ネットワークを利用するために必要な基礎的知識と技術を習得する。Windows システムをベースとして、オフィスアプリケーションの基本操作の習得と、電子メールやインターネットの利用技術、さらには数値データの収集・分析に必要な基礎技法を習得する。
到達目標	理工学に関連する情報処理の重要性を認識する。コンピュータの基本操作を習得し、理工学の学習・研究においてコンピュータを有効活用できるようにする。 学科の学習・教育目標との対応：[E]
授業方法と留意点	Word, Excel および PowerPoint を取り上げ、とくに数学的に考察する能力の向上を図ったデータ収集と分析に関する演習課題を提示し、演習を行う。また、コンピュータと情報通信ネットワークの基礎知識を習得するための資料を配付する。
科目学習の効果 (資格)	IT パスポート (国家資格) や Microsoft オフィススペシャリスト (民間資格) の試験に役に立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Windows システム	・Windows の基本操作	ファイル操作と文字入力に慣れる。 (1 章全般)
3	電子文書の作成	・Word の基本操作, レイアウト ・ファイル入出力	Word の起動・終了, 文書ファイルの読込・保存方法を理解する。 (2.1~2.4 の演習課題)
4	電子文書の作成	・罫線と表作成 ・オブジェクト (図) の挿入	罫線の引き方, 表と図の作成方法を整理しておく。 (2.5~2.7 の演習課題)
5	表計算入門	・Excel の基本操作 ・セルの概念	Excel 起動・終了, 表計算ファイルの読込・保存方法を理解する。 (3.1~3.3 の演習課題)
6	表計算とグラフ	・グラフの作成 ・簡単なデータベース	セルの相対参照と絶対参照の違いを整理する。 (3.4~3.5 の演習課題)
7	表計算と関数	・数学関数 ・統計関数	利用する数学関数の使い方を理解する。 (3.6 の演習課題)
8	演習	・表計算のまとめ ・理工学系レポート作成の基本	レポート作成要領を理解する
9	電子メール	・電子メールの配信の仕組み ・課題のメール送信	添付ファイルの送信方法を理解する。 (4.1, 4.2 の練習)
10	ネット技術と情報検索	・情報検索の方法 ・HTML 入門	インターネットの仕組みを理解する。 (4.3 と 5.1 の練習)
11	演習	・情報検索と HTML レポートのまとめ方	レポートのまとめ方を整理する。 (演習課題配布)
12	プレゼンテーションソフト入門	・PowerPoint の基本操作	PowerPoint の起動・終了, ファイルの読込・保存を理解する。 (6 章全般)
13	プレゼンテーション資料の作成	・効果的なデータ提示 (ヒストグラム等) ・資料の作成方法	Word 文書の作成との違いを理解する。 (6 章全般)
14	テクニカル・プレゼンテーション 総合演習 (1)	・プレゼンテーション資料の作成演習 ・発表の仕方	総合演習課題
15	総合演習 (2)	・演習課題とレポート作成	総合演習課題

関連科目 -

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	O f f i c e 2013 で学ぶコンピュータリテラシー	小野目如快	実教出版
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	平常点 (30%) と演習レポート (70%) で評価する。
学生へのメッセージ	学業を遂行していく上で必須となる情報処理の基本技術を身につけることができます。毎回実施する演習課題を着実にこなしていくことが重要です。
担当者の研究室等	8 号館 3 階 A 科共通準備室
備考	事前学習：事後学習欄に示した内容について、毎回 1.5 時間以上かけて取り組む

科目名	情報リテラシーⅡ	科目名(英文)	Information Literacy II
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	藤原 稔久
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目(中学校 数学)【施行規則に定める科目区分】「コンピュータ」【教員免許状取得のための履修区分】必修【科目】教科に関する科目(高等学校 数学)【施行規則に定める科目区分】「コンピュータ」【教員免許状取得のための履修区分】必修		

授業概要・目的	情報技術の有効利用の中でも、科学技術分野においてとりわけ重要であるデータの処理と分析のための種々の数学的処理技法を理解する。表計算ソフトを用いて、その特有のデータ処理・分析の操作・手順を学ぶ。
到達目標	理工学分野で必要となる情報(数値データ)の処理方法と基本的分析方法を習得する。 学科の学習・教育目標との対応:[E]
授業方法と留意点	代表的かつ標準的な表計算ソフトである Excel を対象とする。Excel の多種多様な機能のうち理工系の学生にとって必要なデータの集計・分析に有効利用できる機能に焦点を絞り、表計算を利用した数学的な考察能力の向上を促進するための演習を行う。
科目学習の効果(資格)	ITパスポート(国家資格)やMicrosoft オフィスペシャリスト(民間資格)の試験に役に立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	表計算の基本操作(2) 効果的なグラフ表現	・表の整形、数式入力 ・式のコピーと貼り付け ・グラフの作成	表のレイアウト設定に関する演習課題の配布 (第4~6回の課題)
3	関数の利用	・数式の書き方 ・関数ウィザード	統計基本関数を用いた演習課題の配布 (第7回の課題)
4	データ集計とセルの参照	・セルの相対参照と絶対参照 ・データの並び替え	オートフィルタの演習 (第8回の課題)
5	ヒストグラム	・分析ツールの利用 ・論理関数によるヒストグラムの作成	ヒストグラム作成の演習 (第9回の課題)
6	散布図と回帰分析	・回帰直線とデータの推測	散布図の作成と回帰直線によるデータ分析の演習課題 (第10回の課題)
7	相関係数	・相関係数とは ・相関係数の求め方	相関係数を用いたデータ分析の演習課題 (第11回の課題)
8	統計基礎量(分布の代表値・広がり)	・分布の代表値(平均値/中央値/最頻値) ・分布の広がり(最大最小/分散/標準偏差)	データ集計とデータ分布の割合に関する演習課題 (第12回の課題)
9	正規分布	・正規分布とは/標準正規分布 ・分布データの存在確率	正規分布関数を用いたデータ分析の演習課題 (第13回の課題)
10	データの標準化(平均と標準偏差)	・平均が異なるデータの比較/標準偏差の異なるデータの比較 ・分布の異なるデータの比較/データの標準化	データの標準化と比較の演習課題 (第14回の課題)
11	分析ツールによる単回帰分析	・散布図による回帰分析 ・相関係数と決定係数 ・分析ツールを用いた単回帰分析	分析ツールを用いた単回帰分析の演習課題 (第15回の課題)
12	重回帰分析	・相関行列/重回帰分析の基本 ・判別分析	簡単な判別分析の演習課題 (第16回と第17回の課題)
13	重回帰分析の応用(数量化理論)	・数量化理論の基本 ・数量化理論による分析方法	簡単な数量化理論の演習 (第18回と第19回の課題)
14	乱数とモンテカルロ・シミュレーション	・乱数とは ・乱数の発生方法	乱数を用いたシミュレーションデータの作成
15	総合演習	・まとめ	データ集計・分析の総合的演習課題

関連科目	情報リテラシーⅠ
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	平常点(30%)と演習レポート(70%)で評価する。
----------	----------------------------

学生へのメッセージ	上位学年次の学習や研究で必要となるデータの処理と分析の方法を効率よく学ぶことができます。毎回実施する演習課題にじっくり取り組む姿勢が大事です。
-----------	---

担当者の研究室等	8号館3階 A科共通準備室
----------	---------------

備考	教科書については演習テキストを配付する。参考書については、必要に応じて関連書籍(アスキー出版、インプレス出版等)を各自用意するようお願い。 事前学習:事後学習欄に示した内容について、毎回1.5時間以上かけて取り組む
----	--

科目名	西洋建築史	科目名(英文)	History of European Architecture
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	加嶋 章博
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教科に関する科目(高等学校 工業)【施行規則に定める科目区分】「工業の関係科目」【教員免許状取得のための履修区分】必修	

授業概要・目的	この授業では世界各国の建築を見ながら現代建築のデザインと西洋建築史がどのように関係するかを理解する目を培う。近代の建築の成立に大きな影響を及ぼしたのがヨーロッパ建築であった。また明治以来「西洋化」を試みて来た日本の現代建築のルーツでもあるのがこのヨーロッパ建築であるといえる。「建築」の変遷、そして、現代建築の源泉を辿るという視点から西洋建築史を学習する。同時に、建築設計にも資する計画性や建築論について論じる。
到達目標	この科目の目的は、実は「史」の知識習得ではなく、「表現力」「建築の評価力」をつけることにある。現代は様式建築の時代ではないものの、西洋建築史は今なお建築の領域では世界共通の発想の源となっている知識体系といえる。建築に携わるものの基本知識としてそれを俯瞰できる目を培う。「建築」という言葉自体がギリシアに由来し、2000年以上にわたってこの概念のもとに建造物が営み続けられてきたのが「西洋」であることを多くの事例を通して理解する。建築の基礎学力として西洋建築史に対する「感性」を磨き、現代建築、日本建築との関係も
授業方法と留意点	スライドを多用し、視覚的理解に努める。講義は教科書に概ね対応して進めるので、受講前に必ず該当箇所を読んでおくこと。
科目学習の効果(資格)	世界各国の建築を理解し、それらの価値を大きく捉える眼を養うとともに、設計思想に役立てることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	西洋建築史と旅行	古代から19世紀までのヨーロッパ建築の大きな流れを把握する。また、時代様式(固有の建築的特徴)という見方の意味と限界を考える。	教科書 pp. 17-21.
2	ウェディングケーキと建築	古代オリエント、古代エジプト建築から建築の記念性と象徴性を考える。	教科書 pp. 17-21.
3	チュールリップ畑と建築	神秘性、記念性、秩序性の高い空間を計画するうえで大切な視点を述べる。建築における秩序とは何かを古代ギリシア建築と都市計画から読み取る。	教科書 pp. 22-25.
4	ホイールとローマ建築	古代ローマ建築の変遷と代表的建築について学び、古代ローマ建築がどのように使われていたのかを概観する。拡大していった建築のタイポロジーという見方を理解する。	教科書 pp. 26-30.
5	十字架を大地に刻む建築	バシリカ式と集中堂式の教会堂とは何か。ローマ世界のキリスト教化とローマ帝国の東西分裂と建築様式の特徴を理解し、初期キリスト教建築とビザンチン建築の変遷と代表的建築について学ぶ。	教科書 pp. 32-35.
6	飛行機とロマネスク建築	ロマネスク建築にヨーロッパ中世建築の一つの完成形を見る。構造、形式、表現の諸側面にわたって、知的に極めて洗練された象徴的な聖なる空間の構造とありようを考える。石と光の造形を見る。	教科書 pp. 36-39.
7	ゴシック建築と東京	ゴシック建築にロマネスクとは全く異なる心性で出来たもう一つの聖なる空間の完成形を見る。極めて感覚的に構造化された民衆のための聖なる空間の構造とありようを考える。	教科書 pp. 40-44.
8	中世建築の特質	中世建築を通して建築を言語的に理解する。中間試験を含む。	授業前半を復習する。
9	バッハと建築 ?建築のクラシック?	ルネサンス建築その1)ルネサンス期の建築における特徴について、現代的視点から解釈する。古典主義建築の創始を、ルネサンスの代表的建築家の考えと代表的作品の中に見る。	教科書 pp. 46-51.
10	建築と絵画の技巧	ルネサンス建築その2)様式と手法(マニエラ)による新しい造形原理。建築デザインにおける知的な操作を理解する。	教科書 pp. 46-51.
11	真珠と建築	バロック建築その1)建築が社会状況に反応し、他の芸術と手を組んで一つの政治的、宗教的プロパガンダとして形を変えたバロック建築のありようを理解する。	教科書 pp. 52-57.
12	国家プロジェクトとしての建築?都市スケールの建築と空間演出?	17~18世紀のフランスの建築に、古典主義洗練の諸相を見る。国家の建築として、如何に古典主義建築が体系化、規範化されて行くかを、代表的建築家の作品を通して見て行く。	教科書 pp. 52-57.
13	ベートルズと建築 ~新古典主義建築~	18~19世紀の新古典主義建築において、ますます考古学的になる古典主義的外観の建築の背後にある近代的建築思考を代表的な建築家の考えや作品を通して学ぶ。	教科書 pp. 58-61.
14	歴史主義建築とガラパゴス 携帯	精緻化する歴史主義建築や独自の時代様式を持たずに折衷化する建築表現、そして建築の工業化に伴う様式の崩壊を	教科書 pp. 62-65.

			理解し、近代建築が準備される時代の流れを見る。																	
	15	西洋建築史の学習をどう設計や建築の評価に活かすか	西洋建築・近代建築・日本建築のつながりを理解し、現代建築の可能性を考える。	全体を振り返り、設計表現や建築の評価にどう活かして行くかを述べる。																
関連科目	設計演習、近代建築史、建築計画など、計画系科目の学習に資するよう、専門用語の使い方にも留意してください。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>カラー版 図説 建築の歴史：西洋・日本・近代</td> <td>西田 雅嗣・矢ヶ崎 善太郎（編）</td> <td>学芸出版社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	カラー版 図説 建築の歴史：西洋・日本・近代	西田 雅嗣・矢ヶ崎 善太郎（編）	学芸出版社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	カラー版 図説 建築の歴史：西洋・日本・近代	西田 雅嗣・矢ヶ崎 善太郎（編）	学芸出版社																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>図説 西洋建築史</td> <td>陣内 秀信ほか</td> <td>彰国社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	図説 西洋建築史	陣内 秀信ほか	彰国社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	図説 西洋建築史	陣内 秀信ほか	彰国社																	
2																				
3																				
評価方法 (基準)	授業への積極的な関与やレポート等の提出物 (30%)、中間試験 (30%)、期末試験 (40%) を総合的に判断する。																			
学生への メッセージ	「史」がつく授業ですが、設計に結びつく視点を講義します。建築を志す者として様々な建築を丁寧に見て、その作意を感じ取ってください。歴史の暗記という意識は捨てて、現代的視点で捉えながら建築に対する興味関心はどこにあるのかを模索する材料にしてほしい。																			
担当者の 研究室等	8号館3階 加嶋准教授室																			
備考	<p>【事前学習】 事前事後学習課題欄に示した内容について、毎回0.5時間以上の時間をかけて内容を理解する。</p> <p>【事後学習】 事前事後学習課題欄に示した内容について、毎回1時間以上かけて、教科書以外の資料に目を通す。出来るだけ視覚的資料も探すこと。</p>																			

科目名	設計演習Ⅰ	科目名(英文)	Exercises in Architectural Planning and Drawing I
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	3	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	加嶋 章博
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教科に関する科目(高等学校 工業)【施行規則に定める科目区分】「工業の関係科目」【教員免許状取得のための履修区分】選択	

授業概要・目的	【授業概要・目的】建築設計の学習は、図面の作成を通して行なう。最初に、建築設計図面がどのようなものかを学ぶため、建築の一般図と詳細図を模写し、各図面の意味内容や表記法などを理解する。つづいて、建築を3次的に把握するため、小規模な建築の模型を制作する。さらには小規模建築の設計課題に取り組み、アイデアを如何に表現するのか、設計の方法や表現技法を学習する。
到達目標	この演習では、①図面に関する知識や技能の修得、②設計の基本的な方法の習得、③表現技法の習得、を到達目標とする。 学科の学習・教育到達目標との対応：[F]
授業方法と留意点	第1課題は製図室で模写するので欠席すると提出期限内に完成できなくなる。第2課題・第3課題の設計は時間外においても製図室と自宅で並行して作業をすすめ、担当教員の個別指導を受ける。また、全員に対し、課題ごとに様々な形で発表と講評の機会を設ける。
科目学習の効果(資格)	建築設計はすべての専門科目とかわる大変重要な科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	一般図の模写(第2回)	平面図の作成、各グループでの指導	教科書 pp.12-25
3	一般図の模写(第3回)	立面図と断面図の作成、各グループでの指導	教科書 pp32-49
4	一般図の模写(第4回)	配置図、様々な図面表現、各グループでの指導、次課題の説明	教科書 pp52-67, 102-113
5	モデリング(第1回)	全体講評、敷地模型、建築模型の制作方法、各グループ個別指導	多様な模型に関する情報を収集する
6	モデリング(第2回)	建築も計の制作技法、ポートフォリオ	実際の建築も計を観察する、ポートフォリオに関する情報を収集する
7	モデリング(第3回)	全体講評、デザインサーベイについて理解、次課題の説明	模型と図面を具に比較する
8	小規模な建築の設計(第1回)	デザインサーベイのグループ発表、エスキース・設計方法の説明	敷地観察レポートの作成と事例収集
9	小規模な建築の設計(第2回)	全体平面計画の仕上げ、平面・断面エスキース、各グループでの設計方法の指導	建築の各部位の計測と作図
10	小規模な建築の設計(第3回)	エスキース、ボリューム模型の検討、各グループでの個別指導	スタディ模型の事例を集める
11	小規模な建築の設計(第4回)	スタディ模型、断面計画、外構計画、各グループでの個別指導	断面計画の事例を集める
12	小規模な建築の設計(第5回)	図面清書：配置図、平面図、断面図、各グループでの個別指導	立面計画の事例を集める
13	小規模な建築の設計(第6回)	図面のレイアウト、仕上げの検討、立面図、各グループでの個別指導	ポスターの事例を集める
14	小規模な建築の設計(第7回)	一次提出、講評会、作品講評の視点、模型撮影についての理解	模型写真の事例を集める
15	小規模な建築の設計(第8回)	二次提出、選抜作品の講評会、評価の視点の理解、全体講評	図学との関連を振り返る

関連科目	専門科目全般
------	--------

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法(基準)	完成して提出された各課題ごとに評価を行い、上記達成目標の60%以上を合格とする。
----------	--

学生へのメッセージ	建築設計はすべての専門科目の学習が反映される重要な分野である。特に設計演習Ⅰはその第一歩であるが、初めて製図を学ぶ学生にとっては厳しい科目と感じるかもしれない。しかし欠席せずにまじめに学習すれば、必ず建築設計の楽しさや空間計画の面白さが理解できると思います。
-----------	---

担当者の研究室等	8号館3階
----------	-------

備考	【事前学習】事前事後学習課題欄に示した内容について、毎回1.5時間以上の時間をかけて図面や参考作品の特徴の理解に努めること。 【事後学習】事前事後学習課題欄に示した内容について、毎回3時間以上かけて設計課題やエスキースを再検討するとともに、類似例、とくに視覚的資料を探すこと。
----	---



科目名	設計演習Ⅱ a	科目名(英文)	Exercises in Architectural Planning and Drawing Iia
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	3	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	大谷 由紀子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教科に関する科目(高等学校 工業)【施行規則に定める科目区分】「工業の関係科目」【教員免許状取得のための履修区分】選択	

授業概要・目的	[授業概要・目的] 木造住宅一般図の模写課題により、木構造の基礎的知識と図面表記法を学ぶ。次に木造住宅の設計により住宅計画の基礎知識、設計の進め方、図面と模型による表現等を学ぶ。最後に3階建鉄筋コンクリート造大学交流施設の設計においてテーマづくり、多層建築の計画、躯体計画、特に断面図の表記法などを学ぶ。また、演習をとおして環境問題をはじめとした今日的課題にも触れる。
到達目標	[到達目標] (1) 木造の基本構成と図面表現法の習得 (2) 住宅設計の基礎知識、模型づくりの技法等の修得 (3) 設計条件の設定能力や設計方法の修得、鉄筋コンクリート造の躯体計画技能、断面図の表現法、模型作成や透視図などによる提案方法の習得 学科の学習・教育目標との対応: [F]
授業方法と留意点	少人数グループを一人の担当教員が指導し、課題ごとに担当者が替わっていく。住宅の設計、交流施設の設計では授業時間は担当教員から指導を受ける時間であり、各自の設計作業、特に草案づくりは授業時間外にも行う必要がある。
科目学習の効果(資格)	建築学科での授業内容を総合的に理解することに役立つとともに、将来の建築士試験のために極めて重要である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	木造住宅の一般図の模写(第1回)	・課題説明・グループわけおよび作業方法の説明・図面構成の説明など	事例収集・現地調査・エスキス・作図・模型作成など
2	木造住宅の一般図の模写(第2回)	・図面模写作業・グループ別指導	事例収集・現地調査・エスキス・作図・模型作成など
3	木造住宅の一般図の模写(第3回) 住宅の設計の課題説明	・図面模写作業・グループ別指導・作品提出	事例収集・現地調査・エスキス・作図・模型作成など
4	住宅の設計(第1回)	・課題説明・グループ別指導方針の説明など	事例収集・現地調査・エスキス・作図・模型作成など
5	住宅の設計(第2回)	・グループ別指導など	事例収集・現地調査・エスキス・作図・模型作成など
6	住宅の設計(第3回)	・エスキス提出・グループ別指導など	事例収集・現地調査・エスキス・作図・模型作成など
7	住宅の設計(第4回)	・グループ別指導など	事例収集・現地調査・エスキス・作図・模型作成など
8	住宅の設計講評会(第5回) 課題発表	・作品提出・グループ別講評・全体発表講評など ・課題説明	事例収集・現地調査・エスキス・作図・模型作成など
9	交流会館の設計(第1回)	・設計作業方法の説明・グループ別指導方針説明など	事例収集・現地調査・エスキス・作図・模型作成など
10	交流会館の設計(第2回)	・グループ別個別指導など	事例収集・現地調査・エスキス・作図・模型作成など
11	交流会館の設計(第3回)	・エスキス提出・中間報告・グループ別個別指導	事例収集・現地調査・エスキス・作図・模型作成など
12	交流会館の設計(第4回)	・グループ別個別指導	事例収集・現地調査・エスキス・作図・模型作成など
13	交流会館の設計(第5回)	・グループ別個別指導	事例収集・現地調査・エスキス・作図・模型作成など
14	交流会館の設計	・グループ別指導	事例収集・現地調査・エスキス・作図・模型作成など
15	交流会館発表講評会	・発表と講評	—————

関連科目 建築設計・計画基礎、建築計画各論、設計演習Ⅰ、および専門科目全般

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	初めての建築設計ステップ・バイ・ステップ	川北健雄ほか5名	彰国社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	コンパクト建築資料集成	日本建築学会	丸善
2			
3			

評価方法(基準) それぞれの課題で提示された成果物一式について、到達目標達成度の合計評価60%以上を合格とする。

学生へのメッセージ 設計演習は建築学科での学習の総合化であるから、多くの建築事例や文献を研究、見学して、着実に構想力、提案力をつけてください。教員や仲間とのコミュニケーションや意見交換も重要です。

担当者の研究室等 8号館3階 加嶋教授室、大谷准教授室

備考 事前・事後学習: 設計演習ではほぼ毎回、現地調査、事例収集、エスキス、作図、模型制作などの課題を提示する。よって、事前・事後併せて4.5時間程度、課題に取り組むこと



科目名	設計演習Ⅱb	科目名(英文)	Exercises in Architectural Planning and Drawing Iib
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	3	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	木多 彩子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教科に関する科目(高等学校 工業)【施行規則に定める科目区分】「工業の関係科目」【教員免許状取得のための履修区分】選択	

授業概要・目的	[授業概要・目的] 交流施設の設計では限定された時間内に条件を分析、設計し、それを的確に図面化することを学ぶ。オフィスビルの設計では実際の建物を調査したり、資料を調べることで計画条件を把握し、設計条件を分析して、建築の設計が建物と敷地、および周辺環境を考えることであることを学ぶ。美術館の設計では利用者や職員、展示物などの動線計画と外観や景観のデザインについて学習する。
到達目標	[到達目標] (1) 平面計画の理解と設計技術、および正確な図面表記の習得 (2) 建物と周辺との関係についての設計技術の習得 (3) 保存も含めた外観デザイン技術の習得 学科の学習・到達目標との対応：[F]
授業方法と留意点	少人数グループでの個別指導による。授業時間内は担当教員から指導を受けることを優先し、各自のエスキスや製図作業は時間外にも行う必要がある。また敷地調査や課題に関連する建物の見学や資料(作品集や雑誌など)調査なども積極的に行う。
科目学習の効果(資格)	建築学科での授業内容を総合的に理解することに役立つとともに、将来の建築士試験のために極めて重要である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	美術館の設計	各グループでの個別指導	図面・模型作成
3	美術館の設計	各グループでの個別指導	図面・模型作成
4	美術館の設計	各グループでの個別指導	図面・模型作成
5	美術館の設計	各グループでの個別指導	図面・模型作成
6	美術館の設計	各グループでの個別指導	オフィスビルの設計
7	美術館の設計の講評、およびオフィスビルの課題説明	美術館のプレゼンテーション、講評、およびオフィスビルの課題説明など	図面・模型作成
8	オフィスビルの設計	各グループでの個別指導	図面・模型作成
9	オフィスビルの設計	各グループでの個別指導	図面・模型作成
10	オフィスビルの設計	各グループでの個別指導	図面・模型作成
11	オフィスビルの設計	各グループでの個別指導	図面・模型作成
12	オフィスビルの設計	各グループでの個別指導	図面・模型作成
13	オフィスビルの設計	各グループでの個別指導	図面・模型作成
14	オフィスビルの設計	各グループでの個別指導	図面・模型作成
15	オフィスビルのプレゼンテーション、講評、および総括	課題全体についての講評、および総合的な指導など	———

関連科目	設計演習Ⅰ、設計演習Ⅱa、建築設計・計画基礎、建築計画各論が特に関連するが、専門科目全般が関連科目といえる。
------	--

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	初めての建築設計 ステップ・バイ・ステップ	川北健雄 他	彰国社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	各課題ごとの最終提出作品の評価の総合60%以上を合格とする。
----------	--------------------------------

学生へのメッセージ	本格的な設計課題です。学ぶことはまずはマネルことです。製図室での作業よりは、見学や資料の検索などがより一層重要になります。好きな建築、建築家を見付けることや参考となる作品をどんどん調べて、マネルことから出発し、次第に自分のオリジナリティーを出せばよい。
-----------	--

担当者の研究室等	8号館3階 木多教授室・大谷准教授室
----------	--------------------

備考	事前事後学習：事前事後学習課題欄に示した内容について、毎回4.5時間以上かけて作業を行うこと
----	--

科目名	設計演習Ⅲ a	科目名 (英文)	Exercises in Architectural Planning and Drawing IIIa
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	3	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	竹原 義二
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教科に関する科目 (高等学校 工業) 【施行規則に定める科目区分】「工業の関係科目」【教員免許状取得のための履修区分】選択	

授業概要・目的	これまでの設計演習の成果を基に複合的な設計課題に取り組めます。第一課題は集合住宅の設計です。第二課題は、空間と計画内容と表現方法を一定の時間内にまとめる力をトレーニングします。第三課題は、教育施設の設計です。いずれも、設定された敷地周辺の環境や歴史を読み解いた上で、その場に相応しい建築の有り様を提案します。
到達目標	1) 課題条件に対する読解力の修得、2) 計画内容・アイデア等をわかりやすく美しくプレゼンテーションし技術の修得、3) 計画を成果物として完成させ、第三者に伝える技術の修得、4) 建築士試験 (実技) に関する基礎的な知識の理解。 学科の学習・教育目標との対応: [F]
授業方法と留意点	少人数グループでの個別指導による。演習は製図室でのエスキス、製図に留まらず、見学や調査なども積極的に行う。
科目学習の効果 (資格)	この科目は、建築士2次試験 (実技試験) と大変に関連が深い。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	集合住宅の設計 (第1回)	・課題説明 ・グループ分けおよび作業方法の説明 ・グループ別個別指導	調査・図面・模型作成 集合住宅の事例検討
2	集合住宅の設計 (第2回)	グループ別個別指導	調査・図面・模型作成 集合住宅の事例検討
3	集合住宅の設計 (第3回)	グループ別個別指導	調査・図面・模型作成 集合住宅の事例検討
4	集合住宅の設計 (第4回)	グループ別個別指導	調査・図面・模型作成 集合住宅の事例検討
5	集合住宅の設計 (第5回)	グループ別個別指導	表現手法・図面レイアウトの検討
6	集合住宅の設計 (第6回)	課題作品の発表と講評	プレゼンテーションの方法を検討する。また他者の作品に対する批評を行う。
7	短期設計課題 (第1回)	・課題説明 ・グループ別個別指導	必要な検討事項を整理し、設計からプレゼンテーションまでのプロセスを認識する。
8	短期設計課題 (第2回)	・設計製図 ・仕上作業	調査・図面・模型作成
9	短期設計課題 (第3回)	課題作品の発表と講評	プレゼンテーションの方法を検討する。また他者の作品に対する批評を行う。
10	教育施設の設計 (第1回)	・課題説明 ・作業方法の説明 ・グループ別個別指導	調査・図面・模型作成 教育施設の事例検討
11	教育施設の設計 (第2回)	グループ別個別指導	調査・図面・模型作成 教育施設の事例検討
12	教育施設の設計 (第3回)	グループ別個別指導	調査・図面・模型作成 教育施設の事例検討
13	教育施設の設計 (第4回)	グループ別個別指導	調査・図面・模型作成 教育施設の事例検討
14	教育施設の設計 (第5回)	グループ別個別指導	表現手法・図面レイアウトの検討
15	教育施設の設計 (第6回)	課題作品の発表と講評	プレゼンテーションの方法を検討する。また他者の作品に対する批評を行う。

関連科目 設計演習Ⅰ、Ⅱ a、Ⅱ b、Ⅲ b、建築計画系科目が特に関連するが、専門科目全般が関連科目と言える。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	コンパクト建築設計資料集成	日本建築学会編	丸善株式会社
2	初めての建築設計ステップ・バイ・ステップ	川北健雄、三上晴久、倉知徹、水島あかね、花田佳明著	彰国社	
3				

評価方法 (基準)	各課題ごとに作品の評価を行う。到達目標の60点以上を合格とする。
学生へのメッセージ	単体としての建築物のあり方のみならず、地域社会との関係から、いかにより多くの人々に開かれた環境を創造させるかがポイントとなります。
担当者の研究室等	8号館3階 竹原教授室・小林講師室
備考	事前事後学習: 事前事後学習欄に示した内容について、毎回4.5時間以上取り組むこと。

科目名	設計演習Ⅲb	科目名(英文)	Exercises in Architectural Planning and Drawing IIIB
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	3	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	小林 健治
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	第一課題では、都市的な広場機能を有する図書館を設計し、都市と建築のあり方について提案する。第二課題では、今ある環境を様々な視点でサーヴェイし、その中から自ら課題をみつけだし、その解決策としての斬新なアイデアを発想する。いずれの課題でも、自身の提案を図面や模型で魅力的に表現し、さらにそれを如何にうまくプレゼンテーションするかを学ぶ。
到達目標	1) 図書館の機能・基本構成の修得、2) 大規模で複雑な内容の施設の総合的計画技術の修得、3) 課題分析力とコンセプト創出力の修得、4) デザイン発想力、5) 図面や模型での表現力の修得、6) プレゼンテーション力の修得 学科の学習・教育目標との対応：[F]
授業方法と留意点	少人数グループを一人の担当教員が指導し、課題ごとに担当者が替わっていく。住宅の設計、交流施設の設計では授業時間は担当教員から指導を受ける時間であり、各自の設計作業、特に草案づくりは授業時間外にも行う必要がある。課題の順番、内容は変更されることがある。
科目学習の効果(資格)	建築学科での授業内容を総合的に理解することに役立つとともに、将来の建築士試験のために極めて重要である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	図書館の設計(第1回)	・課題説明・グループわけおよび作業方法の説明、グループ別指導方針説明など	調査・図面・模型作成 図書館の事例検討
2	図書館の設計(第2回)	・グループ別個別指導など	調査・図面・模型作成 図書館の事例検討
3	図書館の設計(第3回)	・グループ別個別指導など	調査・図面・模型作成 図書館の事例検討
4	図書館の設計(第4回)	・グループ別個別指導など	調査・図面・模型作成 図書館の事例検討
5	図書館の設計(第5回)	・グループ別個別指導など	調査・図面・模型作成 図書館の事例検討
6	図書館の設計(第6回)	・グループ別個別指導など	調査・図面・模型作成 図書館の事例検討
7	図書館の設計(第7回)	・グループ別個別指導など	表現手法・図面レイアウトの検討
8	図書館の設計(第8回)	・課題の発表と講評	プレゼンテーションの方法を検討する。また他者の作品に対する批評を行う。
9	自由課題(第1回)	・課題説明・グループわけおよび作業方法の説明、グループ別指導方針説明など	・調査・図面・模型作成
10	自由課題(第2回)	・グループ別個別指導など	・調査・図面・模型作成
11	自由課題(第3回)	・グループ別個別指導など	・調査・図面・模型作成
12	自由課題(第4回)	・グループ別個別指導など	・調査・図面・模型作成
13	自由課題(第5回)	・グループ別個別指導など	・調査・図面・模型作成
14	自由課題(第6回)	・グループ別個別指導など	表現手法・図面レイアウトの検討
15	自由課題(第7回)	・課題の発表と講評	プレゼンテーションの方法を検討する。また他者の作品に対する批評を行う。

関連科目 設計演習Ⅰ、Ⅱa、Ⅱb、Ⅲa、建築計画系科目が特に関連するが、専門科目全般が関連科目と言える。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	コンパクト建築設計資料集成	日本建築学会編	丸善株式会社
2	初めての建築設計ステップ・バイ・ステップ	川北健雄、三上晴久、倉知徹、水島あかね、花田佳明著	彰国社
3			

評価方法(基準)	各課題ごとに作品の評価を行う。到達目標の60点以上を合格とする。
学生へのメッセージ	最後の設計演習です。建築学科での学習の集大成のひとつとして、意匠・構造・設備に関して学んだことをフィードバックして、課題に取り組んでください。また教員や仲間とのコミュニケーションや意見交換も積極的に行ってください。
担当者の研究室等	8号館3階 竹原教授室・宮本教授室・小林講師室
備考	事前事後学習：事前事後学習欄に示した内容について、毎回4.5時間以上取り組むこと。

科目名	線形代数 I	科目名 (英文)	Linear Algebra I
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	イ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西脇 純一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教科に関する科目 (中学校 数学)【施行規則に定める科目区分】「代数学」【教員免許状取得のための履修区分】必修【科目】教科に関する科目 (高等学校 数学)【施行規則に定める科目区分】「代数学」【教員免許状取得のための履修区分】必修	

授業概要・目的	線形代数は、幾何ベクトルや連立1次方程式の取り扱い方を一般化してできた理論で、理工系学生に欠くことのできない数学的教養である。																																																																		
到達目標	1) 行列の計算ができる 2) ベクトルの内積・外積を理解する 3) 基本変形で連立1次方程式を解く 4) 基本変形で逆行列を求める。  学科の学習・教育到達目標：[D]																																																																		
授業方法と留意点	前半60分を講義、後半30分を演習、を基本とするが、進行状況により変更することもある。(1) 演習は前半の講義内容から出題、終了時に回収し次回に返却する。(2) 期末試験の出題内容は授業中の演習問題レベルとする。																																																																		
科目学習の効果(資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>行列の定義(1)</td><td>・和、スカラー倍</td><td>第1章の間、演習問題 レポート</td></tr> <tr><td>2</td><td>行列の定義(2)</td><td>・積の定義・転置行列</td><td>第1章の間、演習問題 レポート</td></tr> <tr><td>3</td><td>正方行列(1)</td><td>・単位行列・正則行列の定義</td><td>第1章の間、演習問題 レポート</td></tr> <tr><td>4</td><td>正方行列(2)</td><td>・正則行列の性質</td><td>第1章の間、演習問題 レポート</td></tr> <tr><td>5</td><td>2次正方行列</td><td>・逆行列の計算</td><td>第1章の間、演習問題 レポート</td></tr> <tr><td>6</td><td>いろいろな行列</td><td>・対称行列・交代行列・ベキ零行列</td><td>第1章の間、演習問題 レポート</td></tr> <tr><td>7</td><td>連立1次方程式(1)</td><td>・消去法</td><td>第2章の間、演習問題 レポート</td></tr> <tr><td>8</td><td>連立1次方程式(2)</td><td>・連立1次方程式の行列表示・基本変形・階数</td><td>第2章の間、演習問題 レポート</td></tr> <tr><td>9</td><td>連立1次方程式(3)</td><td>・基本変形の正則行列表示・掃き出し法による逆行列の求め方</td><td>第2章の間、演習問題 レポート</td></tr> <tr><td>10</td><td>連立1次方程式(4)</td><td>・基本解・特殊解</td><td>第2章の間、演習問題 レポート</td></tr> <tr><td>11</td><td>連立1次方程式(5)</td><td>・同次連立1次方程式・正則行列となる条件</td><td>第2章の間、演習問題 レポート</td></tr> <tr><td>12</td><td>空間のベクトル(1)</td><td>・空間のベクトルの定義・和とスカラー倍</td><td>第3章の間、演習問題 レポート</td></tr> <tr><td>13</td><td>空間のベクトル(2)</td><td>・内積・距離</td><td>第3章の間、演習問題 レポート</td></tr> <tr><td>14</td><td>空間のベクトル(3)</td><td>・外積・スカラー3重積</td><td>第3章の間、演習問題 レポート</td></tr> <tr><td>15</td><td>空間のベクトル(4)</td><td>・直線の方程式・平面の方程式</td><td>第3章の間、演習問題 レポート</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	行列の定義(1)	・和、スカラー倍	第1章の間、演習問題 レポート	2	行列の定義(2)	・積の定義・転置行列	第1章の間、演習問題 レポート	3	正方行列(1)	・単位行列・正則行列の定義	第1章の間、演習問題 レポート	4	正方行列(2)	・正則行列の性質	第1章の間、演習問題 レポート	5	2次正方行列	・逆行列の計算	第1章の間、演習問題 レポート	6	いろいろな行列	・対称行列・交代行列・ベキ零行列	第1章の間、演習問題 レポート	7	連立1次方程式(1)	・消去法	第2章の間、演習問題 レポート	8	連立1次方程式(2)	・連立1次方程式の行列表示・基本変形・階数	第2章の間、演習問題 レポート	9	連立1次方程式(3)	・基本変形の正則行列表示・掃き出し法による逆行列の求め方	第2章の間、演習問題 レポート	10	連立1次方程式(4)	・基本解・特殊解	第2章の間、演習問題 レポート	11	連立1次方程式(5)	・同次連立1次方程式・正則行列となる条件	第2章の間、演習問題 レポート	12	空間のベクトル(1)	・空間のベクトルの定義・和とスカラー倍	第3章の間、演習問題 レポート	13	空間のベクトル(2)	・内積・距離	第3章の間、演習問題 レポート	14	空間のベクトル(3)	・外積・スカラー3重積	第3章の間、演習問題 レポート	15	空間のベクトル(4)	・直線の方程式・平面の方程式	第3章の間、演習問題 レポート
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	行列の定義(1)	・和、スカラー倍	第1章の間、演習問題 レポート																																																																
2	行列の定義(2)	・積の定義・転置行列	第1章の間、演習問題 レポート																																																																
3	正方行列(1)	・単位行列・正則行列の定義	第1章の間、演習問題 レポート																																																																
4	正方行列(2)	・正則行列の性質	第1章の間、演習問題 レポート																																																																
5	2次正方行列	・逆行列の計算	第1章の間、演習問題 レポート																																																																
6	いろいろな行列	・対称行列・交代行列・ベキ零行列	第1章の間、演習問題 レポート																																																																
7	連立1次方程式(1)	・消去法	第2章の間、演習問題 レポート																																																																
8	連立1次方程式(2)	・連立1次方程式の行列表示・基本変形・階数	第2章の間、演習問題 レポート																																																																
9	連立1次方程式(3)	・基本変形の正則行列表示・掃き出し法による逆行列の求め方	第2章の間、演習問題 レポート																																																																
10	連立1次方程式(4)	・基本解・特殊解	第2章の間、演習問題 レポート																																																																
11	連立1次方程式(5)	・同次連立1次方程式・正則行列となる条件	第2章の間、演習問題 レポート																																																																
12	空間のベクトル(1)	・空間のベクトルの定義・和とスカラー倍	第3章の間、演習問題 レポート																																																																
13	空間のベクトル(2)	・内積・距離	第3章の間、演習問題 レポート																																																																
14	空間のベクトル(3)	・外積・スカラー3重積	第3章の間、演習問題 レポート																																																																
15	空間のベクトル(4)	・直線の方程式・平面の方程式	第3章の間、演習問題 レポート																																																																
関連科目	以下の科目の講義は線形代数 I の知識とスキルを前提にして授業が進められます： 工業数学 I, 工業数学 II, 統計学, 代数学, 幾何学 II, 解析学 上記科目を受講する予定の学生は線形代数 I を履修すること。																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	演習, 小テストで約30%, 定期テスト(中間, 期末)で約70%判定し評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	疑問に思ったことがあれば遠慮なく質問してください。いかなる質問も大歓迎です。大学の数学は簡単ではありませんが些細なことにこだわらずに最終目標をいつも頭において勉強してください。																																																																		
担当者の研究室等	3号館3階 数学研究室																																																																		
備考	事前事後学習には毎回1時間以上かけること。																																																																		

科目名	線形代数 I	科目名 (英文)	Linear Algebra I
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	ロ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	黒木 和雄
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目 (中学校 数学)【施行規則に定める科目区分】「代数学」【教員免許状取得のための履修区分】必修【科目】教科に関する科目 (高等学校 数学)【施行規則に定める科目区分】「代数学」【教員免許状取得のための履修区分】必修		

授業概要・目的	線形代数は、幾何ベクトルや連立1次方程式の取り扱い方を一般化してできた理論で、理工系学生に欠くことのできない数学的教養である。																																																																		
到達目標	(1) 行列の計算ができる。 (2) 基本変形で連立1次方程式を解くことができる。 (3) 基本変形で逆行列を求めることができる。 (4) ベクトルの内積・外積を理解する。  学科の学習・教育到達目標との対応：[D]																																																																		
授業方法と留意点	授業ではテーマに掲げた内容を出来るだけ平易に説明する。基本的には授業の前半の60分を講義に充て、後半の30分を演習の時間に充てるが、進行状況により変更することもある。 (1) 演習は前半の講義内容から出題、終了時に回収し次回に返却する。(2) 期末試験の出題内容は授業中の演習問題レベルとする。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>行列の定義(1)</td><td>・和、スカラー倍</td><td>第1章の間、演習問題 レポート</td></tr> <tr><td>2</td><td>行列の定義(2)</td><td>・積の定義・転置行列</td><td>第1章の間、演習問題 レポート</td></tr> <tr><td>3</td><td>正方行列(1)</td><td>・単位行列・正則行列の定義</td><td>第1章の間、演習問題 レポート</td></tr> <tr><td>4</td><td>正方行列(2)</td><td>・正則行列の性質</td><td>第1章の間、演習問題 レポート</td></tr> <tr><td>5</td><td>2次正方行列</td><td>・逆行列の計算</td><td>第1章の間、演習問題 レポート</td></tr> <tr><td>6</td><td>いろいろな行列</td><td>・対称行列・交代行列・べき零行列</td><td>第1章の間、演習問題 レポート</td></tr> <tr><td>7</td><td>連立1次方程式(1)</td><td>・消去法</td><td>第2章の間、演習問題 レポート</td></tr> <tr><td>8</td><td>連立1次方程式(2)</td><td>・連立1次方程式の行列表示・基本変形・階数</td><td>第2章の間、演習問題 レポート</td></tr> <tr><td>9</td><td>連立1次方程式(3)</td><td>・基本変形の正則行列表示・掃き出し法による逆行列の求め方</td><td>第2章の間、演習問題 レポート</td></tr> <tr><td>10</td><td>連立1次方程式(4)</td><td>・基本解・特殊解</td><td>第2章の間、演習問題 レポート</td></tr> <tr><td>11</td><td>連立1次方程式(5)</td><td>・同次連立1次方程式・正則行列となる条件</td><td>第2章の間、演習問題 レポート</td></tr> <tr><td>12</td><td>空間のベクトル(1)</td><td>・空間のベクトルの定義・和とスカラー倍</td><td>第3章の間、演習問題 レポート</td></tr> <tr><td>13</td><td>空間のベクトル(2)</td><td>・内積・距離</td><td>第3章の間、演習問題 レポート</td></tr> <tr><td>14</td><td>空間のベクトル(3)</td><td>・外積・スカラー3重積</td><td>第3章の間、演習問題 レポート</td></tr> <tr><td>15</td><td>空間のベクトル(4)</td><td>・直線の方程式・平面の方程式</td><td>第3章の間、演習問題 レポート</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	行列の定義(1)	・和、スカラー倍	第1章の間、演習問題 レポート	2	行列の定義(2)	・積の定義・転置行列	第1章の間、演習問題 レポート	3	正方行列(1)	・単位行列・正則行列の定義	第1章の間、演習問題 レポート	4	正方行列(2)	・正則行列の性質	第1章の間、演習問題 レポート	5	2次正方行列	・逆行列の計算	第1章の間、演習問題 レポート	6	いろいろな行列	・対称行列・交代行列・べき零行列	第1章の間、演習問題 レポート	7	連立1次方程式(1)	・消去法	第2章の間、演習問題 レポート	8	連立1次方程式(2)	・連立1次方程式の行列表示・基本変形・階数	第2章の間、演習問題 レポート	9	連立1次方程式(3)	・基本変形の正則行列表示・掃き出し法による逆行列の求め方	第2章の間、演習問題 レポート	10	連立1次方程式(4)	・基本解・特殊解	第2章の間、演習問題 レポート	11	連立1次方程式(5)	・同次連立1次方程式・正則行列となる条件	第2章の間、演習問題 レポート	12	空間のベクトル(1)	・空間のベクトルの定義・和とスカラー倍	第3章の間、演習問題 レポート	13	空間のベクトル(2)	・内積・距離	第3章の間、演習問題 レポート	14	空間のベクトル(3)	・外積・スカラー3重積	第3章の間、演習問題 レポート	15	空間のベクトル(4)	・直線の方程式・平面の方程式	第3章の間、演習問題 レポート
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	行列の定義(1)	・和、スカラー倍	第1章の間、演習問題 レポート																																																																
2	行列の定義(2)	・積の定義・転置行列	第1章の間、演習問題 レポート																																																																
3	正方行列(1)	・単位行列・正則行列の定義	第1章の間、演習問題 レポート																																																																
4	正方行列(2)	・正則行列の性質	第1章の間、演習問題 レポート																																																																
5	2次正方行列	・逆行列の計算	第1章の間、演習問題 レポート																																																																
6	いろいろな行列	・対称行列・交代行列・べき零行列	第1章の間、演習問題 レポート																																																																
7	連立1次方程式(1)	・消去法	第2章の間、演習問題 レポート																																																																
8	連立1次方程式(2)	・連立1次方程式の行列表示・基本変形・階数	第2章の間、演習問題 レポート																																																																
9	連立1次方程式(3)	・基本変形の正則行列表示・掃き出し法による逆行列の求め方	第2章の間、演習問題 レポート																																																																
10	連立1次方程式(4)	・基本解・特殊解	第2章の間、演習問題 レポート																																																																
11	連立1次方程式(5)	・同次連立1次方程式・正則行列となる条件	第2章の間、演習問題 レポート																																																																
12	空間のベクトル(1)	・空間のベクトルの定義・和とスカラー倍	第3章の間、演習問題 レポート																																																																
13	空間のベクトル(2)	・内積・距離	第3章の間、演習問題 レポート																																																																
14	空間のベクトル(3)	・外積・スカラー3重積	第3章の間、演習問題 レポート																																																																
15	空間のベクトル(4)	・直線の方程式・平面の方程式	第3章の間、演習問題 レポート																																																																
関連科目	以下の科目の講義は線形代数 I の知識とスキルを前提にして授業が進められます： 工業数学 I, 工業数学 II, 統計学, 代数学, 幾何学 II, 解析学, 統計学 上記科目を受講する予定の学生は線形代数 I を履修すること。																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>線形代数 (摂南大学数学研究室)</td> <td></td> <td>共立出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	線形代数 (摂南大学数学研究室)		共立出版	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	線形代数 (摂南大学数学研究室)		共立出版																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	演習 (20%)・レポート (10%)・期末テスト (70%) で評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	疑問に思ったことがあれば遠慮なく質問してください。いかなる質問も大歓迎です。大学の数学は簡単ではありませんが些細なことにこだわらずに最終目標をいつも頭において勉強してください。																																																																		
担当者の研究室等	3号館3階 数学研究室																																																																		
備考	事前事後学習には毎回1時間以上かけること。																																																																		

科目名	線形代数Ⅱ	科目名(英文)	Linear Algebra II
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	イ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	黒木 和雄
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目(中学校 数学)【施行規則に定める科目区分】「代数学」【教員免許状取得のための履修区分】選択【科目】教科に関する科目(高等学校 数学)【施行規則に定める科目区分】「代数学」【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	行列式の計算ができ、行列の固有値と固有ベクトルが求められ、それらを行列の対角化へ応用できるようになることが本講義の目的である。																																																																		
到達目標	(1) 行列式の計算ができる。 (2) 行列の固有値と固有ベクトルを求めることができる。 (3) 行列の3角化と対角化ができる。  学科の学習・教育到達目標との対応: [D]																																																																		
授業方法と留意点	授業ではテーマに掲げた内容を出来るだけ平易に説明する。基本的には授業の前半の60分を講義に充て、後半の30分を演習の時間に充てるが、進行状況により変更することもある。 (1) 演習問題は授業の前半に講義した内容から出題する。 (2) 期末試験の出題内容は授業中の演習問題レベルとする。																																																																		
科目学習の効果(資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>行列式(1)</td> <td>・置換の定義・置換の積・置換の符号</td> <td>第4章の間, 演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>行列式(2)</td> <td>・行列式の定義・多重線形性・交代性</td> <td>第4章の間, 演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>行列式(3)</td> <td>・2次正方行列の行列式・3次正方行列の行列式</td> <td>第4章の間, 演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>行列式(4)</td> <td>・行列式の余因子展開</td> <td>第4章の間, 演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>行列式(5)</td> <td>・行列の積と行列式・逆行列をもつ条件</td> <td>第4章の間, 演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>行列式(6)</td> <td>・余因子行列・逆行列</td> <td>第4章の間, 演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>行列式(7)</td> <td>・クラメルの公式</td> <td>第4章の間, 演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>固有値と固有ベクトル(1)</td> <td>・固有多項式・固有方程式 ・固有値, 固有ベクトルの計算(1)</td> <td>第5章の間, 演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>固有値と固有ベクトル(2)</td> <td>・固有値, 固有ベクトルの計算(2)</td> <td>第5章の間, 演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>固有値と固有ベクトル(3)</td> <td>・正方行列の3角化</td> <td>第5章の間, 演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>固有値と固有ベクトル(4)</td> <td>・フロベニウスの定理・ハミルトン・ケーリーの定理</td> <td>第5章の間, 演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>固有値と固有ベクトル(5)</td> <td>・正方行列の対角化</td> <td>第6章の間, 演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>固有値と固有ベクトル(6)</td> <td>・実対称行列の対角化・直交行列</td> <td>第6章の間, 演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>固有値と固有ベクトル(7)</td> <td>・2次形式への応用・2次形式の符号</td> <td>第6章の間, 演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>固有値と固有ベクトル(8)</td> <td>・2次曲線, 曲面の例</td> <td>第6章の間, 演習問題 レポート</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	行列式(1)	・置換の定義・置換の積・置換の符号	第4章の間, 演習問題 レポート	2	行列式(2)	・行列式の定義・多重線形性・交代性	第4章の間, 演習問題 レポート	3	行列式(3)	・2次正方行列の行列式・3次正方行列の行列式	第4章の間, 演習問題 レポート	4	行列式(4)	・行列式の余因子展開	第4章の間, 演習問題 レポート	5	行列式(5)	・行列の積と行列式・逆行列をもつ条件	第4章の間, 演習問題 レポート	6	行列式(6)	・余因子行列・逆行列	第4章の間, 演習問題 レポート	7	行列式(7)	・クラメルの公式	第4章の間, 演習問題 レポート	8	固有値と固有ベクトル(1)	・固有多項式・固有方程式 ・固有値, 固有ベクトルの計算(1)	第5章の間, 演習問題 レポート	9	固有値と固有ベクトル(2)	・固有値, 固有ベクトルの計算(2)	第5章の間, 演習問題 レポート	10	固有値と固有ベクトル(3)	・正方行列の3角化	第5章の間, 演習問題 レポート	11	固有値と固有ベクトル(4)	・フロベニウスの定理・ハミルトン・ケーリーの定理	第5章の間, 演習問題 レポート	12	固有値と固有ベクトル(5)	・正方行列の対角化	第6章の間, 演習問題 レポート	13	固有値と固有ベクトル(6)	・実対称行列の対角化・直交行列	第6章の間, 演習問題 レポート	14	固有値と固有ベクトル(7)	・2次形式への応用・2次形式の符号	第6章の間, 演習問題 レポート	15	固有値と固有ベクトル(8)	・2次曲線, 曲面の例	第6章の間, 演習問題 レポート
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	行列式(1)	・置換の定義・置換の積・置換の符号	第4章の間, 演習問題 レポート																																																																
2	行列式(2)	・行列式の定義・多重線形性・交代性	第4章の間, 演習問題 レポート																																																																
3	行列式(3)	・2次正方行列の行列式・3次正方行列の行列式	第4章の間, 演習問題 レポート																																																																
4	行列式(4)	・行列式の余因子展開	第4章の間, 演習問題 レポート																																																																
5	行列式(5)	・行列の積と行列式・逆行列をもつ条件	第4章の間, 演習問題 レポート																																																																
6	行列式(6)	・余因子行列・逆行列	第4章の間, 演習問題 レポート																																																																
7	行列式(7)	・クラメルの公式	第4章の間, 演習問題 レポート																																																																
8	固有値と固有ベクトル(1)	・固有多項式・固有方程式 ・固有値, 固有ベクトルの計算(1)	第5章の間, 演習問題 レポート																																																																
9	固有値と固有ベクトル(2)	・固有値, 固有ベクトルの計算(2)	第5章の間, 演習問題 レポート																																																																
10	固有値と固有ベクトル(3)	・正方行列の3角化	第5章の間, 演習問題 レポート																																																																
11	固有値と固有ベクトル(4)	・フロベニウスの定理・ハミルトン・ケーリーの定理	第5章の間, 演習問題 レポート																																																																
12	固有値と固有ベクトル(5)	・正方行列の対角化	第6章の間, 演習問題 レポート																																																																
13	固有値と固有ベクトル(6)	・実対称行列の対角化・直交行列	第6章の間, 演習問題 レポート																																																																
14	固有値と固有ベクトル(7)	・2次形式への応用・2次形式の符号	第6章の間, 演習問題 レポート																																																																
15	固有値と固有ベクトル(8)	・2次曲線, 曲面の例	第6章の間, 演習問題 レポート																																																																
関連科目	以下の科目の講義は線形代数Ⅱの知識とスキルを前提にして授業が進められます: 工業数学Ⅰ, 工業数学Ⅱ, 統計学, 代数学, 幾何学Ⅱ, 解析学 上記科目を受講する予定の学生は線形代数Ⅱを履修すること。																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>線形代数(摂南大学数学研究室)</td> <td></td> <td>共立出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	線形代数(摂南大学数学研究室)		共立出版	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	線形代数(摂南大学数学研究室)		共立出版																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	演習(20%)・レポート(10%)・期末テスト(70%)で評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	疑問に思ったことがあれば遠慮なく質問してください。いかなる質問も大歓迎です。大学の数学は簡単ではありませんが些細なことにこだわらずに最終目標をいつも頭において勉強してください。																																																																		
担当者の研究室等	3号館3階 数学研究室																																																																		
備考	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																		



科目名	線形代数Ⅱ	科目名(英文)	Linear Algebra II
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	ロ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西脇 純一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目(中学校 数学)【施行規則に定める科目区分】「代数学」【教員免許状取得のための履修区分】選択【科目】教科に関する科目(高等学校 数学)【施行規則に定める科目区分】「代数学」【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	行列式の計算法と行列の固有値と固有ベクトルの求め方が本講義の目的である。																																																																		
到達目標	(1) 行列式の計算 (2) 固有値と固有ベクトル (3) 行列の3角化と対角化  学科の学習・教育到達目標: [D]																																																																		
授業方法と留意点	授業ではテーマに掲げた内容を出来るだけ平易に説明する。基本的には授業の前半の60分を講義に充て、後半の30分を演習の時間に充てる。(1) 演習問題は授業の前半に講義した内容から出題する。(2) 期末試験の出題内容は授業中の演習問題レベルとする。																																																																		
科目学習の効果(資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>行列式(1)</td> <td>・置換の定義・置換の積・置換の符号</td> <td>第4章の間, 演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>行列式(2)</td> <td>・行列式の定義・多重線形性・交代性</td> <td>第4章の間, 演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>行列式(3)</td> <td>・2次正方行列の行列式・3次正方行列の行列式</td> <td>第4章の間, 演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>行列式(4)</td> <td>・行列式の余因子展開</td> <td>第4章の間, 演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>行列式(5)</td> <td>・行列の積と行列式・逆行列をもつ条件</td> <td>第4章の間, 演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>行列式(6)</td> <td>・余因子行列・逆行列</td> <td>第4章の間, 演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>行列式(7)</td> <td>・クラメールの公式</td> <td>第4章の間, 演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>固有値と固有ベクトル(1)</td> <td>・固有多項式・固有方程式 ・固有値, 固有ベクトルの計算(1)</td> <td>第5章の間, 演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>固有値と固有ベクトル(2)</td> <td>・固有値, 固有ベクトルの計算(2)</td> <td>第5章の間, 演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>固有値と固有ベクトル(3)</td> <td>・正方行列の3角化</td> <td>第5章の間, 演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>固有値と固有ベクトル(4)</td> <td>・フロベニウスの定理・ハミルトン・ケーリーの定理</td> <td>第5章の間, 演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>固有値と固有ベクトル(5)</td> <td>・正方行列の対角化</td> <td>第6章の間, 演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>固有値と固有ベクトル(6)</td> <td>・実対称行列の対角化・直交行列</td> <td>第6章の間, 演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>固有値と固有ベクトル(7)</td> <td>・2次形式への応用・2次形式の符号</td> <td>第6章の間, 演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>固有値と固有ベクトル(8)</td> <td>・2次曲線, 曲面の例</td> <td>第6章の間, 演習問題 レポート</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	行列式(1)	・置換の定義・置換の積・置換の符号	第4章の間, 演習問題 レポート	2	行列式(2)	・行列式の定義・多重線形性・交代性	第4章の間, 演習問題 レポート	3	行列式(3)	・2次正方行列の行列式・3次正方行列の行列式	第4章の間, 演習問題 レポート	4	行列式(4)	・行列式の余因子展開	第4章の間, 演習問題 レポート	5	行列式(5)	・行列の積と行列式・逆行列をもつ条件	第4章の間, 演習問題 レポート	6	行列式(6)	・余因子行列・逆行列	第4章の間, 演習問題 レポート	7	行列式(7)	・クラメールの公式	第4章の間, 演習問題 レポート	8	固有値と固有ベクトル(1)	・固有多項式・固有方程式 ・固有値, 固有ベクトルの計算(1)	第5章の間, 演習問題 レポート	9	固有値と固有ベクトル(2)	・固有値, 固有ベクトルの計算(2)	第5章の間, 演習問題 レポート	10	固有値と固有ベクトル(3)	・正方行列の3角化	第5章の間, 演習問題 レポート	11	固有値と固有ベクトル(4)	・フロベニウスの定理・ハミルトン・ケーリーの定理	第5章の間, 演習問題 レポート	12	固有値と固有ベクトル(5)	・正方行列の対角化	第6章の間, 演習問題 レポート	13	固有値と固有ベクトル(6)	・実対称行列の対角化・直交行列	第6章の間, 演習問題 レポート	14	固有値と固有ベクトル(7)	・2次形式への応用・2次形式の符号	第6章の間, 演習問題 レポート	15	固有値と固有ベクトル(8)	・2次曲線, 曲面の例	第6章の間, 演習問題 レポート
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	行列式(1)	・置換の定義・置換の積・置換の符号	第4章の間, 演習問題 レポート																																																																
2	行列式(2)	・行列式の定義・多重線形性・交代性	第4章の間, 演習問題 レポート																																																																
3	行列式(3)	・2次正方行列の行列式・3次正方行列の行列式	第4章の間, 演習問題 レポート																																																																
4	行列式(4)	・行列式の余因子展開	第4章の間, 演習問題 レポート																																																																
5	行列式(5)	・行列の積と行列式・逆行列をもつ条件	第4章の間, 演習問題 レポート																																																																
6	行列式(6)	・余因子行列・逆行列	第4章の間, 演習問題 レポート																																																																
7	行列式(7)	・クラメールの公式	第4章の間, 演習問題 レポート																																																																
8	固有値と固有ベクトル(1)	・固有多項式・固有方程式 ・固有値, 固有ベクトルの計算(1)	第5章の間, 演習問題 レポート																																																																
9	固有値と固有ベクトル(2)	・固有値, 固有ベクトルの計算(2)	第5章の間, 演習問題 レポート																																																																
10	固有値と固有ベクトル(3)	・正方行列の3角化	第5章の間, 演習問題 レポート																																																																
11	固有値と固有ベクトル(4)	・フロベニウスの定理・ハミルトン・ケーリーの定理	第5章の間, 演習問題 レポート																																																																
12	固有値と固有ベクトル(5)	・正方行列の対角化	第6章の間, 演習問題 レポート																																																																
13	固有値と固有ベクトル(6)	・実対称行列の対角化・直交行列	第6章の間, 演習問題 レポート																																																																
14	固有値と固有ベクトル(7)	・2次形式への応用・2次形式の符号	第6章の間, 演習問題 レポート																																																																
15	固有値と固有ベクトル(8)	・2次曲線, 曲面の例	第6章の間, 演習問題 レポート																																																																
関連科目	以下の科目の講義は線形代数Ⅱの知識とスキルを前提にして授業が進められます: 工業数学Ⅰ, 工業数学Ⅱ, 統計学, 代数学, 幾何学Ⅱ, 解析学 上記科目を受講する予定の学生は線形代数Ⅱを履修すること。																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	演習, 小テストで約30%、定期テスト(中間、期末)で約70%判定し評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	疑問に思ったことがあれば遠慮なく質問してください。いかなる質問も大歓迎です。大学の数学は簡単ではありませんが些細なことにこだわらずに最終目標をいつも頭において勉強してください。																																																																		
担当者の研究室等	3号館3階 数学研究室																																																																		
備考	事前事後学習は、毎回1時間以上かけること。																																																																		



科目名	造形演習 I	科目名 (英文)	Exercises in Formative Art and Design I
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	井村 良裕
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教科に関する科目 (高等学校 工業)【施行規則に定める科目区分】「工業の関係科目」【教員免許状取得のための履修区分】選択	

授業概要・目的	<p>建築を始めとする全ゆる造形に対し、美を求めるのは、誰しもが抱く基本的欲求の一つです。本演習では広くファインアート (純粋美術=絵画、彫刻等) に根ざした立場から、美しい形 (特に立体) を具体的にに取り扱います。当面は西洋近代の造形理念を足場にして、個人の感性から生み出される形でのトレーニングが有効です。従って学生諸君はこの演習の中で、近代から現代に至る造形の世界を良く知る事、そして、各個人の中に潜んでいる感性を、鋭く目覚めさせる事が目標となります。良く知って、鋭く蘇らせながら形を作り続けるうちに、徐々に美しい形に対する判断力が身に付いて来るでしょう。</p> <p>又、建築家として必ず求められる素養の一つ、フリーハンドによって正確な形態、明・暗、質感を描く力を身に付ける為、時間の許す限り鉛筆ドローイングも行います。</p>
到達目標	<p>感性を磨き、学問による理性との整合性を保ち、ものを造る事を喜べる学生を目指す。</p> <p>学科の学習・教育目標との対応：[F]</p>
授業方法と留意点	<p>実践的な形の課題に取り組む演習が基本です。平行してスライド、配布資料等を用いた講義により、理論及び知識を伝えます。一連の内容と、マン・ツウ・マンで行う各学生との対話を通じ、総合的に造形を学びます。用具、材料の忘れ物は時に致命的になるので注意する事。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>特別の具体的効果は示し難いが、次第に磨かれる感性と、表現力の向上が期待される。</p> <p>色彩の体系、調和に関しては、建築士試験の計画として出題される事が有る。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	平面・色彩構成 I-2。 20分ドローイング。	「色彩の体系」の講義。小スタディー課題。	事後：復習問題。
3	20分ドローイング。 立体構成 I?1。	面的材料 (スチレンシート) による造形 I-1。 立体に関する講義と課題提示。 スタディー小課題。具体的演習及び指導。	事後：スケッチ及び復習レポート。
4	20分ドローイング。 立体構成 I-2。	面的材料 (スチレンシート) による造形 I-2。 具体的演習及び指導。完成、記録撮影、講評。	事後：スケッチ及び復習レポート。
5	20分ドローイング。 立体構成 II?1 (グループ制作前段階)。	面的材料 (スチレンシート) による造形 II-1。 テーマを持った本課題の呈示。 スライド等を併用した、立体に関する講義。制作及び指導。	事後：スケッチ及び復習レポート。
6	20分ドローイング。 立体構成 II?2 (グループ制作前段階)。	面的材料 (スチレンシート) による造形 II-2。 本課題の制作及び指導、完成。 撮影、記録。	事後：スケッチ及び復習レポート。
7	20分ドローイング。 立体構成 II?3 (グループ制作前段階)。	面的材料 (スチレンシート) による造形 II-3。 グループ作品の選出 (相互コンペ)。 制作計画、作業分担。	事後：スケッチ及び復習レポート。
8	立体構成 III-1 (グループ制作)。	面的材料 (スチレンボード) による造形 III-1。 グループ共同制作。	事後：作業レポート。
9	立体構成 III-2 (グループ制作)。	面的材料 (スチレンボード) による造形 III-2。 グループ共同制作。	事後：作業レポート。
10	立体構成 III-3 (グループ制作)。	・面的材料 (スチレンボード) による造形 III-3。 ・グループ共同制作。	事後：作業レポート。
11	立体構成 III-4 (グループ制作)。	・面的材料 (スチレンボード) による造形 III-4。 ・グループ共同制作。	事後：作業レポート。
12	立体構成 III-5 (グループ制作)。	面的材料 (スチレンボード) による造形 III-5 グループ共同制作。 展覧会場設置。空間と展示物との関係を学ぶ。	事後：作業レポート。
13	展覧会展示物撤去。 石膏デッサン。	人体デッサンに備え、基礎的、基本的描画法を学ぶ。	-----
14	人体デッサン 1。	対象を観察によって表現しようとする時、観察がどのように深められ、表現が厳密化して行くかを学ぶ為、裸婦をデッサンする。	-----
15	人体デッサン 2。	1に引き続き、習熟度、完成度を高める。 講評、提出、記録。	-----

関連科目	設計演習。
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	特に指定しない。		
	2			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	「西洋美術全集」		集英社、小学館等
	2			
	3			
評価方法 (基準)	各演習毎の課題(本課題約70%、補助課題約30%) 提出作品全ての完成度、質によって評価し可否を判定する。なお、演習教科なので、100%の出席及び課題提出を前提とする。			
学生への メッセージ	下手だ、センスが無いと身を引くより、実際の課題制作、ヌードデッサン等我々は共に考え、感じ、工夫しながら常に感性に刺激を与え続けます。素直に受け留め、楽しく続けていくうちに、いつの間にか磨かれている自分に気付くはずです。			
担当者の 研究室等	8号館3階 「建築学科造形演習準備室」			
備考	教材等：メジャー、金属定規、カッターナイフ、接着剤等、約¥1,000程度。 事前学習：事後学習欄に示した内容について、毎回1.5時間以上かけて取り組む			

科目名	造形演習Ⅱ	科目名(英文)	Exercises in Formative Art and Design II
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	井村 良裕
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教科に関する科目(高等学校 工業)【施行規則に定める科目区分】「工業の関係科目」【教員免許状取得のための履修区分】選択	

授業概要・目的	造形演習Ⅰとは一体のものとして完結するように組まれています。Ⅰとは同じ路線上で、同じ目標に至るものですが、現実的な提案、発表(プレゼンテーション)の軸となる平面上での手作業による表現、レイアウト等にもじっくりと取り組む方針です。同時に立体での演習は、課題の提示から、発想、試行、修正、完成までの速度、密度の向上に挑戦してもらい、学生諸君の五感、第六感の、より鋭い覚醒と表現力の熟習を目指します。 また、広く美術に親しむ為、学外での美術展観覧を行います。
到達目標	作業に対する集中力(根気)を養い、平面及び3次元での空間感知力を高める。 学科の学習・教育目標との対応:【F】
授業方法と留意点	基本的には実践的な表現の課題に取り組む。平行してスライド、配布資料等を用いた講義により、理論及び知識を伝え、一連の内容と、マン・ツーマンで行う各学生との対話を通じ、総合的に造形、表現を学ぶ。用具、材料の忘れ物は時に致命的になるので注意する事。
科目学習の効果(資格)	感性の更なる覚醒とともに、形を創造する事に対する厳密な態度や忍耐力の向上が期待される。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス。	授業に対する基本的態度、スケジュールの説明。用具、教材についての解説。2回目以降の作業に備えた準備手順の指導。	事後:必要な材料の手配。演習の基本である線トレース。
	2	彩色演習1。	描写について、透明水彩絵の具の扱い方、「基本色」の調色。彩色の進め方の指導及び実践。	事後:着彩技法の復習(グレースケール)。
	3	彩色演習2。	陰・影の彩色。「基本色」によるうす塗り、重ね塗りの指導及び実践。	指定段階までの着彩完了。
	4	彩色演習3。	陰・影の彩色。「基本色」によるグレージング、グラデーション技法の指導及び実践。完了、中間提出。	事後:未完了者の作業。
	5	彩色演習、プレゼンパースの簡易的着彩技法。	「設計演習」等のプレゼンパースの短時間着彩法。指導及び実践。	事後:練習問題。
	6	立体構成Ⅰ-1	面的材料(スチレンシート)による造形。スタディー小課題の提示、制作及び指導。	事後:スケッチ及び復習レポート。
	7	立体構成Ⅰ-2	面的材料(スチレンシート)による造形。スタディー小課題の制作及び指導。完成、講評。	事後:スケッチ及び復習レポート。
	8	彩色演習4。	「近現代造形、表現概念の変遷史」スライド及び資料による講義。 面的材料(ケント紙)による造形。テーマを持った本課題の提示、制作及び指導。	事後:スケッチ及び復習レポート。
	9	彩色演習5。	面的材料(ケント紙)による造形。テーマを持った本課題の制作及び指導。完成、撮影及び講評。 彩色演習提出物の添削指導返却。	事後:スケッチ及び復習レポート。
	10	彩色演習6。	「固有色」彩色の指導、実践。	事後:指定段階までの彩色完了。
	11	彩色演習7。	「固有色」彩色の指導、実践、完了。	事後:指定段階までの彩色完了。
	12	彩色演習8。	「最暗部」彩色の指導、実践。	事後:指定段階までの彩色完了。
	13	彩色演習9。	「最明部」彩色の指導、実践。完了、提出。	事後:未完了者の作業完了。
	14	平面・色彩構成1。	小課題。課題に基づく「平面の分割と比例」スライド、資料による講義。	事後:小課題。
	15	平面・色彩構成2。	「平面の分割と比例」スライド、資料による講義。 造形演習Ⅱのまとめ。	—————

関連科目	設計演習。
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	特に指定しない。		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	「西洋美術全集」		「集英社」、「小学館」他
	2			
	3			

評価方法(基準)	各演習毎の課題(本課題約70%、補助課題約30%)提出作品全ての完成度、質によって評価し可否を判定する。
----------	--

学生へのメッセージ	下手法、センスが無いと身を引くより、実際の課題制作、ノードデッサン、学外演習等我々は共に考え、感じ、工夫しながら常に感性に刺激を与え続けます。素直に受け留め、楽しく続けていくうちに、いつの間にか磨かれている自分に気付くはずです。
-----------	--

担当者の研究室等	8号館3階「建築学科造形演習準備室」
----------	--------------------

備考	<p>教材：水彩用具（筆、パレット、筆洗等）。透明水彩絵の具5?8色程度。¥1,500程度。          事前学習：事後学習欄に示した内容について、毎回1.5時間以上かけて取り組む</p>
----	---

科目名	測量	科目名(英文)	Surveying
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	長岡 弘隆
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	測量(Surveying)は、地球表面の異なる点の相対的な位置関係を決定する技術であり、測量学は流域計画、都市計画、建築物・道路等の設計や施工に欠くことのできない基礎的学問である。本講義は測量に関する知識、技術、計算方法および実測方法の修得を目的としている。 学科の学習・教育目標との対応：[E]
到達目標	学生が、距離測量、角測量、水準測量を理解し基本事項を説明できること、主な測量器具の原理と構造を理解すること、測量値の情報処理と調整計算ができること、測定結果を効果的に図示および表現できることを到達目標とする。
授業方法と留意点	講義を中心に授業を進める他、実際に測量器具を用いた演習を、土曜日もしくは日曜日に終日かけて行う。また必要に応じてレポート提出を行い、基準に満たない場合は再提出を求められることがある。講義には関数電卓を持参すること。
科目学習の効果(資格)	さらに残された内容を自習することによって、測量士及び測量士補の国家試験の合格が期待される。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	測量の基準	地球の形状、実測点の位置決定法、測定時に生じる誤差について	復習・予習(目安2時間)
3	基準点(骨組)測量における距離測定1	直接距離測定法についての概要、並びに誤差の補正について	復習・予習(目安2時間)
4	基準点(骨組)測量における距離測定2	誤差の精度、光波測定器による直接距離測定について	復習・予習(目安2時間)
5	基準点(骨組)測量における角測定1	測角機器の構造及び種類、原理、水平角の測定法について	復習・予習(目安2時間)
6	基準点(骨組)測量における角測定2	トラバースの概要、種類、作業の進め方について	復習・予習(目安2時間)
7	基準点(骨組)測量における角測定3	トラバース測量の精度、生ずる誤差の処理について。	復習・予習(目安2時間)
8	基準点(骨組)測量における角測定4	緯距・経距の計算、閉合誤差・閉合比について	復習・予習(目安2時間)
9	基準点(骨組)測量における角測定5	閉合誤差の調整、座標展開について	復習・予習(目安2時間)
10	水準測量の方法1	水準儀の種類、それら器機の構造について。	復習・予習(目安2時間)
11	水準測量の方法2	水準測量の方法、精度・誤差の補正について。	復習・予習(目安2時間)
12	測量演習1	踏査選点、造標。	復習・予習(目安2時間)
13	測量演習2	水平距離、土地の高低差の測定。	復習・予習(目安2時間)
14	測量演習3	水平交角、方位角の測定。	復習・予習(目安2時間)
15	測量演習4	座標展開、トラバース完成。	復習・予習(目安2時間)

関連科目	微積分 I
------	-------

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法(基準)	測量演習における計算書・展開図の提出(30%)、授業時の小レポートおよび受講態度(20%)、期末試験(50%)により、評価する。
学生へのメッセージ	地球上の位置を、たとえばあなたが居るその位置を、どのように示すことができるのか、また、どうすれば求められるのかを知ることができます。道で目にする測量器具の扱い方も学ぶことができます。
担当者の研究室等	8号館3階 建築学科共通準備室
備考	事前学習：事後学習欄に示した内容について、毎回1.5時間以上かけて取り組む







科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Thesis
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	6	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	柳沢 学
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	<p>【授業概要・目的】 建築学は、計画・環境・構造系等の分野からなり、専任教員の専攻も多岐にわたる。摂南大学理工学部建築学科で学んできた学習内容を活用し、各々が取り組む課題・テーマを基に研究を行う。</p>																
到達目標	<p>【到達目標】 各専門分野の基礎知識の習得と課題解決能力の向上、および成果を適切に発表する技術の獲得である。 学習教育目標との対応：[C][E][G]</p>																
授業方法と留意点	<p>【授業方法と留意点】 専任教員の指導の下、ゼミ方式および個別指導方式とし、中間発表会および卒業論文発表会を実施する。自分のテーマに対し積極的に取り組み、他人のテーマにも関心を持つことで、分析能力や考察能力を向上することが重要である。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【研究テーマ】 現場生産性向上のための鉄筋コンクリート造建物構成部材（主に、柱、梁、耐震壁）の構造性能に関する実験的研究 【内容】 特に、プレキャスト部材に関する構造性能を確認する実験研究を行う。</p> <p>【研究テーマ】 構造材料に関する材料特性調査研究 【内容】 新しい構造材料の調査を行う基礎的研究。</p> <p>【研究テーマ】 建物の耐震補強方法に関する調査研究 【内容】 できるだけ簡便な耐震補強方法の提案を行い、実験的に構造性能を確認する。</p> <p>【方法】 各自のテーマにあわせた方法にて行う。</p> <p>【事前事後学習課題】 各自のテーマ・取り組み方法にあわせた課題とし、既往の研究の調査から始まり実験計画、試験体製作、実験実施、データ整理、論文作成など、卒業研究には1か月あたり50時間から150時間ほどかける必要がある。</p> <p>【年間の大まかなスケジュール】 4～5月 テーマ選定・実験計画書作成 6～8月 試験体製作・養生 9～11月 実験実施 12～1月 データ整理・論文作成・梗概作成 1月下旬または2月上旬 審査会発表</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1											
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法（基準）	卒業論文および卒業設計の完成度、梗概の完成度、中間発表会および最終発表会に対する評価点を基に総合的に判断する。60点を合格とする。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	8号館3階 柳沢教授室																
備考																	

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Thesis
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	6	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	宮本 征一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	建築学は、計画・環境・構造系等の分野からなり、専任教員の専攻も多岐にわたる。摂南大学理工学部建築学科で学んできた学主内容を活用し、各々が取り組む課題・テーマを基に研究を行う。																
到達目標	各専門分野の基礎知識の習得と課題解決能力の向上、および成果を適切に発表する技術の獲得である。 学習教育目標との対応：[C][E][G]																
授業方法と留意点	専任教員の指導の下、ゼミ方式および個別指導方式とし、中間発表会および卒業論文発表会を実施する。自分のテーマに対し積極的に取り組み、他人のテーマにも関心を持つことで、分析能力や考察能力を向上することが重要である。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【研究テーマ】</b>          有感気流環境下の温熱環境評価にかんする研究          接触部の温冷感が温熱的快適性に及ぼす影響に関する研究          不均一な温熱環境下における温熱的快適感の認知モデルに関する研究          サーマルマネキンによる熱収支の定量化に関する研究          アトリウム空間の温熱環境の把握と対策に関する研究</p> <p><b>【研究内容】</b>          被験者実験や実測などを行い、それぞれの温熱環境下における生理・心理反応を把握する。得られた生理・心理データを伝熱学・生理学・心理学などの幅広い知識を用いて分析し、温熱環境を評価して、快適な温熱環境を提案する。</p> <p><b>【研究方法】</b>          伝熱学・生理学・心理学などの基礎知識を修得するためのゼミを行う。          既往の研究のレビューおよびデータ分析に必要な統計学を修得するためのゼミを行う。          物理・生理・心理データを収集するための実験または実測を行う。</p> <p><b>【事前事後学習課題】</b>          ゼミの予習・復習を行い、ゼミ発表資料を作成すること。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1											
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	卒業論文および卒業設計の完成度、梗概の完成度、中間発表会および最終発表会に対する評価点を基に総合的に判断する。60点を合格とする。																
学生へのメッセージ	卒業研究の指導を通して、社会人力が向上できるように指導します。																
担当者の研究室等																	
備考	<p><b>【前もって履修しておくことが望ましい科目】</b>          計画系・環境系の科目</p> <p><b>【関連する科目】</b>          建築環境工学Ⅰ、建築環境工学Ⅱ、建築環境工学Ⅲ、建築環境工学演習、建築設備学、地球環境論</p>																

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Thesis
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	6	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	加嶋 章博
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	<p>本研究室では、都市建築史、都市文化共生デザインの領域に関する取り組みを行います。建築の歴史やデザイン、また、都市の歴史的建築資源に関する研究からシビックプライドまで、これまでの都市の課題をしっかりと見据えて、これからの都市社会に魅力的な公共空間や建築に関わる提案に取り組みます。卒業後は、主として計画系の分野への就職にあたって必要な基礎力を学生のうちに身につけることを目的とします。</p>																		
到達目標	<p>各専門分野の基礎知識の習得と課題解決能力の向上、および成果を適切に発表する技術の獲得である。 学習教育目標との対応：[C][E][G]</p>																		
授業方法と留意点	<p>ゼミではあらゆることをアウトプットしていただきます。他大学との交流や大学院生との協働作業などの機会も設けながら、自身の力量や技法を客観的に見つめなおし、表現や研究の方法についてスキルを磨いていきます。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【研究フィールド1】都市共生計画に関して 「都市計画遺産」「地域資源」という視点から都市空間や地域の特性を分析します。都市計画遺産・都市計画史・建築遺産・地域資源に関する調査研究に取り組んだり、各自の関心に応じて提案型のプロジェクト（卒業設計など）に取り組みます。</p> <p>【研究フィールド2】都市の歴史に関して 都市史、都市形成史、都市社会史、都市拡張、宅地開発、インフラ整備、観光資源、地域資源等に注目しながら、都市の歴史の変遷や都市の「読み方」を研究します。</p> <p>【研究フィールド3】建築の歴史と建築デザイン 建築・都市に関する歴史的事例や現存する作品の特徴分析を踏まえ、建築や都市の資源活用や新しい価値付けを考察します。空間造形に対する各自のまなざしを整理・表現する訓練を経て、社会との結びつきを考えながら、地域や利用者にとっての新たな場の提案を探ります。課題解決策と表現方法を考察し、図面や模型等によるプレゼンテーションを行います。</p> <p>【研究フィールド4】他大学とのワークショップ 他大学の研究室との交流を通して、協働作業による表現力をつけ、プレゼンテーションに対する感性を高めます。</p> <p>※いずれも、ゼミプロジェクトを積極的に社会に対して公開し、それぞれの取り組みの社会的意義を考えながら取り組みます。</p> <p>※早い段階でポートフォリオの制作も指導します。</p>																		
関連科目	専門科目全般・外国語																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1											
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	卒業論文および卒業設計の完成度、梗概の完成度、中間発表会および最終発表会に対する評価点を基に総合的に判断する。60点を合格とする。																		
学生へのメッセージ	建築、都市、音楽、料理、旅行など、何でも教員に話しかけてください。そこから興味の対象が広がっていくことを期待します。卒業研究を通して何か1つ自信がもてること、強い関心もてることを見つけてください。内に閉じこもるのではなく、ゼミという環境を、考えたこと、生み出したことをどんどん積極的にアウトプットし、完成度をより一層高めて行く場にしてください。ゼミメンバーや教員とできるだけ多くの話し合いをしてください。進路指導は、設計、公務員、コンサル、教職、施工管理、留学などひろく対応します。																		
担当者の研究室等備考	8号館3階 各教員の研究室																		

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Thesis
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	6	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	上谷 宏二
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	下記の項目の中から卒業研究テーマを選び、研究を行って卒業論文を作成する。テーマの選定については、指導教員とよく相談する。																		
到達目標	各専門分野の基礎知識の習得と課題解決能力の向上、および成果を適切に発表する技術の獲得である。 学習教育目標との対応：[C][E][G]																		
授業方法と留意点	研究は自分が主体的に行うものである。指導教官とよく相談し、約束事は必ず守ること。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	研究テーマは下記の反中から見つける。 1. 建築構造物の最適設計法 2. 建築構造物の複合非線形挙動（特に、下層部変形集中現象について） 3. 構造設計プロジェクトを通じての研究 4. 各自、興味をもつ建築構造上の課題																		
関連科目	建築構造系の全ての科目																		
教科書	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1											
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
参考書	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	卒業論文および卒業設計の完成度、梗概の完成度、中間発表会および最終発表会に対する評価点を基に総合的に判断する。60点を合格とする。																		
学生へのメッセージ	素朴に考えて、分からないことが何かを自覚し、表現できること。研究とは、「知られていないことを知ること」、「出来ないことを出来るようにすること」である。目的を明確に意識し、想像力と発想力を駆使して、問題に立ち向かう。																		
担当者の研究室等																			
備考																			

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Thesis
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	6	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	竹原 義二
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	建築学は、計画・環境・構造系等の分野からなし、専任教員の専攻も多岐にわたる。摂南大学理工学部建築学科で学んできた学習内容を活用し、おのおのが取り組む課題・テーマを基に研究を行う。																		
到達目標	各専門分野の基礎知識の習得と課題解決能力の向上、および成果を適切に発表する技術の獲得である。 学習教育目標との対応：[C][E][G]																		
授業方法と留意点	専任教員の指導の下、ゼミ方式および個別指導方式とし、中間発表会および卒業研究審査会を実施する。自分のテーマに対し積極的に取り組み、他人のテーマにも関心を持つことで、分析能力や考察能力を向上することが重要である。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>[分野] 建築設計</p> <p>[テーマ] 建築における「外部空間と内部空間の関係性」についての研究</p> <p>[内容] ・現代建築に関する文献の学習を行う。 ・木造建築に関する文献の学習を行う。 ・住宅設計。</p> <p>[方法] ・設計競技への参加。 ・実物を見て空間を発見する。</p> <p>[事前事後学習課題] 各自のテーマ・取組方法にあわせた課題を提示する。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1											
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	卒業論文および卒業設計の完成度、梗概の完成度、中間発表会および最終発表会に対する評価点を基に総合的に判断する。60点を合格とする。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	8号館3階 竹原教授室																		
備考																			

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Thesis
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	6	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	大谷 由紀子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	建築学は計画環境系・構造施工系等の分野からなり、選任教員の専攻も多岐にわたる。摂南大学理工学部建築学科で学んできた学習内容を活用し、各々が取り組む課題・テーマを基に研究を行う。																
到達目標	到達目標は、各専門分野の基礎知識の習得と課題解決能力の向上、および成果を適切に発表する技術の獲得である。 学習教育目標との対応：[C][E][G]																
授業方法と留意点	専任教員の指導の下、ゼミ方式および個別指導方式とし、中間発表会および卒業論文発表会を実施する。自分のテーマに対し積極的に取り組み、他人のテーマにも関心を持つことで、分析能力や考察能力を向上することが重要である。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【分野】</b> 住環境計画、まちづくり</p> <p><b>【内容】</b> 都市における人々の生活と諸問題について、空間計画の視点から問題を見出し、安心して暮らせる生活圏のあり方を検討する。具体的には下記のキーワードを中心に研究テーマを選定し、調査・分析、あるいは設計をとおして諸問題に対する考察を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 都心居住</li> <li>2. 集合住宅</li> <li>3. こどもと生活空間</li> <li>4. ライフスタイル</li> </ol> <p><b>【内容】</b> 卒業研究は論文、設計、または両方を各自が選択する。</p> <p>近年の卒業論文タイトルより          ○寝屋川市典型5地区の空家実態と活用の可能性に関する調査研究          ○寝屋川市郊外住宅地の空家立地と地区特性に関する研究          ○交通事故現場における大人とこどもの視覚情報の差に関する研究          ○賃貸マンション市場の現状と賃貸価格影響要因の分析          ○地域の視点をもったサッカースタジアムの設置運営に関する研究          ○集合住宅の間取りに対する中国と日本の若い世代の志向性に関する研究          ○空家バンクの利用に関する全国の自治体調査</p> <p><b>【方法】</b> 各自のテーマにあわせた方法にて行う。</p> <p><b>【事前事後学習課題】</b> 各自のテーマ・取り組み方法にあわせた課題を提示する。</p>																
関連科目	3年生までのすべての科目																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>テーマに応じて提示</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	テーマに応じて提示										
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	テーマに応じて提示																
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>テーマに応じて提示</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	テーマに応じて提示			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	テーマに応じて提示																
2																	
3																	
評価方法 (基準)	卒業論文および卒業設計の完成度、梗概の完成度、中間発表会および最終発表会に対する評価点を基に総合的に判断する。60点を合格とする。																
学生へのメッセージ	これまでの学びの集大成です。同時に、卒業研究をとおして多くのスキルが身に付きます。多くの文献を読み、実際の建築に触れ、試行錯誤を繰り返して、答えのない課題にチャレンジしてください。																
担当者の研究室等	8号館3階大谷准教授室																
備考	<b>【前もって履修しておくことが望ましい科目】</b> 建築計画環境系科目、教養科目のうち特に人文・社会関連科目																

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Thesis
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	6	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	池内 淳子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	<p><b>【授業概要・目的】</b> 建築学は、計画・環境・構造系等の分野からなり、専任教員の専攻も多岐にわたる。摂南大学理工学部建築学科で学んできた学習内容を活用し、各々が取り組む課題・テーマを基に研究を行う。</p>																
到達目標	<p><b>【到達目標】</b> 各専門分野の基礎知識の習得と課題解決能力の向上、および成果を適切に発表する技術の獲得である。 学習教育目標との対応：[C][E][G]</p>																
授業方法と留意点	<p>専任教員の指導の下、ゼミ方式および個別指導方式とし、中間発表会および卒業論文発表会を実施する。自分のテーマに対し積極的に取り組み、他人のテーマにも関心を持つことで、分析能力や考察能力を向上することが重要である。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【研究テーマ】</b> 自然災害に対する都市の防災力向上に関する研究 <b>【内容】</b> 自然災害に対する都市の防災力向上を目的とし、被害事例や現在実施されている備えに対する調査・分析を行うことで実践的な対策を提案する。</p> <p><b>【研究テーマ】</b> 防災教育とその実践に関する研究 <b>【内容】</b> 建築防災に対する普及・啓蒙活動の活発化を目的とし、防災プログラムの開発から実践を通じてコンテンツの評価・検証を行う。</p> <p><b>【研究テーマ】</b> 竜巻等突風災害の被害軽減に関する研究 <b>【内容】</b> 過去の竜巻等突風災害に対する人的被害を調査し、その原因追究を通じて被害低減対策を提案する。</p> <p><b>【研究テーマ】</b> 建物周りの流れ場の可視化 <b>【内容】</b> 建物を模擬した模型周りに発生する流れ場の可視化実験を行い、建物形状の違いによる流れ場の違いを明らかにする。</p> <p><b>【方法】</b> 各自のテーマにあわせた方法にて行う。</p> <p><b>【事前事後学習課題】</b> 各自のテーマ・取り組み方法にあわせた課題を提示する。</p>																
関連科目	構造系科目、環境・設備系科目、計画系科目																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1											
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	卒業論文および卒業設計の完成度、梗概の完成度、中間発表会および最終発表会に対する評価点を基に総合的に判断する。60点を合格とする。																
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当研究室の卒業研究は、構造系からマネジメント・調査計画系にまで広く及びます。最低限、基礎事項である必修科目をきちんと理解する事。また、PCによる解析やGISの操作などが必須なので、情報系科目を履修しておくことが望ましい。</li> <li>・当研究室は、学外における地域活動が非常に多く、協調性やコミュニケーション能力が問われます。自信のある人も、ない人も、1年間お互いに切磋琢磨して学武土性が大切です。</li> </ul>																
担当者の研究室等	池内准教授室・・・8号館3階																
備考																	



科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Thesis
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	6	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	小林 健治
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	建築学は、計画・環境・構造系等の分野からなし、専任教員の専攻も多岐にわたる。摂南大学理工学部建築学科で学んできた学習内容を活用し、おのおのが取り組む課題・テーマを基に研究を行う。																		
到達目標	各専門分野の基礎知識の習得と課題解決能力の向上、および成果を適切に発表する技術の獲得である。 学習教育目標との対応：[C][E][G]																		
授業方法と留意点	専任教員の指導の下、ゼミ方式および個別指導方式とし、中間発表会および卒業研究審査会を実施する。自分のテーマに対し積極的に取り組み、他人のテーマにも関心を持つことで、分析能力や考察能力を向上することが重要である。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【分野】</b> 建築計画、建築設計</p> <p><b>【テーマ】</b> 人の居方からの環境デザイン BIMを用いた建築設計</p> <p><b>【内容】</b> ・身近な生活環境の中にある魅力的な場所（いい感じな場所）に関する調査／研究／提案 キーワード：パブリックスペース、郊外住環境、いい感じ ・従来とは異なる用途や使われ方をしている場所に関する調査／研究／提案 キーワード：使いこなし、カスタマイズ、リノベーション ・人の居方からの都市環境記述に関する調査／研究／提案 キーワード：居方、当事者の満足度だけではなく指標での環境の記述</p> <p><b>【方法】</b> ・現地調査に基づく環境特性分析 ・BIMを用いた各テーマに対する提案や設計競技への参加 等</p> <p><b>【事前事後学習課題】</b> 各自のテーマ・取り組み方法にあわせた課題を提示</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、提示</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、提示										
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	別途、提示																		
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、提示</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、提示			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	別途、提示																		
2																			
3																			
評価方法 (基準)	卒業論文および卒業設計の完成度、梗概の完成度、中間発表会および最終発表会に対する評価点を基に総合的に判断する。60点を合格とする。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	8号館3階 小林講師室																		
備考																			

科目名	耐震工学	科目名(英文)	Earthquake-Resistant Structures
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	足立 博之
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	地震国であるわが国では、特に1995年の阪神大震災、2011年の東日本大震災以降、地震に対する社会的関心が増加している。授業では地震時における建物の基礎的な動的挙動を把握し、安全確保に必要な耐震設計手法の概要を学習する。また将来、更に技術を発展・展開させるために基礎となるフーリエ解析などの概要も併せて学習する。
到達目標	地震に関する基礎知識、建築構造物の地震時挙動および耐震設計の概要把握 学科の学習・教育目標との対応：[H]
授業方法と留意点	プリントを主に、教科書と併用して行う。毎回出す宿題では復習に重点をおき、テキスト例題のトレース（自分で理解度を確認しながら作成する）と授業の理解を助けるための課題を行いながら、重要な部分は授業にて補足説明をする。
科目学習の効果（資格）	地震時の建物の挙動を理解することにより、地震に対する建築物の安全性確保の考え方や設計法を理解できる。建築士資格試験での構造分野の一部である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	1自由度系の振動	運動方程式の作成、減衰・非減衰自由振動	テキスト例題のトレース
3	1自由度系の振動	非減衰自由振動・減衰自由振動	テキスト例題のトレース
4	1自由度系の振動	調和外力応答・調和地動応答	課題（演習問題ほか）
5	1自由度系の振動	種々の過渡応答（パルス・任意外乱応答）・応答スペクトル	課題（演習問題ほか）
6	1自由度系の振動	振動とエネルギー	テキスト例題のトレース
7	多自由度系の振動	多自由度系の振動方程式・固有振動の性質	テキスト例題のトレース
8	多自由度系の振動	非減衰系・減衰系の自由振動	テキスト例題のトレース
9	多自由度系の振動	減衰系の強制振動	テキスト例題のトレース
10	多自由度系の振動	多自由度系の例題を通しての確認	課題（演習問題ほか）
11	応答計算手法（数値計算）	モーダルアナリシスと時刻歴応答解析（数値計算）	テキスト例題のトレース
12	フーリエ解析	地震波形とフーリエ解析の概要	テキスト例題のトレース
13	統計と確率	地震発生確率についての概要	課題（演習問題ほか）
14	地盤振動	地震時の地盤挙動	課題（演習問題ほか）
15	耐震設計法とまとめ	耐震設計の現状と今後の課題	課題（レポートほか）

関連科目	構造力学、鋼構造、鉄筋コンクリート構造等の構造系科目および基礎数学
------	-----------------------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法（基準）	期末試験の結果（65%）の他に、宿題の課題やレポート（35%）によって、到達目標の理解度を総合的に判断し可否を判定する。
----------	--

学生へのメッセージ	地震と建物の挙動を、物理・数学を通して工学的に理解し、耐震工学の基礎知識を身につけて、将来、設計や研究に役立てるとともに、さらに、制振・免震などの分野へも発展させる動機となることを願っている。同時に、地震に対して人命・財産を守るという社会的使命の理解にも役立てていただきたい。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	事前学習：事後学習欄に示した内容について、毎回1.5時間以上かけて取り組む
----	---------------------------------------

科目名	代数学	科目名(英文)	Algebra
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中津 了勇
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目(中学校 数学)【施行規則に定める科目区分】「代数学」【教員免許状取得のための履修区分】選択【科目】教科に関する科目(高等学校 数学)【施行規則に定める科目区分】「代数学」【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	抽象代数系である「群」、「環」、「体」の知識は最近の電子社会の発展に伴い、その必要性が増している。抽象代数においては、単純な公理から驚くほどの豊富な理論が展開されるが、そのなかにあつて、「群」は最も基本的な代数的構造であり、自然現象のなかに現れる「対称性」を記述するのに重要な概念である。この講義では、代数的構造がどのようにして捉えられ、記述されるか、その方法を学ぶことを目的とする。																																																																		
到達目標	「群」の定義を理解し、部分群、剰余類、正規部分群、商群、準同型定理、可換群の構造定理、群の表現について説明できる。																																																																		
授業方法と留意点	<p>学科の学習・教育到達目標との対応：A科E科[D]、R科[B]、M科[C1]、工学部C科[C]、理工学部C科[IV]</p> <p>授業は以下の科目を履修していることを前提に進める： 線形代数Ⅰ、線形代数Ⅱ、微積分Ⅰ、微積分Ⅱ</p> <p>毎時間の講義の内容を復習し、自分で納得するまで手と頭を動かすことを習慣づけること。 授業時間の倍以上の自主学習が必要である。 やむを得ず欠席した場合のフォローアップは、各自が責任をもって行うこと。</p>																																																																		
科目学習の効果(資格)	代数的構造がどのようにして捉えられ、記述される方法がわかる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>代数的構造</td><td>講義内容の概略、論理、集合、写像</td><td>教科書の予習</td></tr> <tr><td>2</td><td>群の定義</td><td>群の定義、問題演習</td><td>教科書の予習・授業の復習課題</td></tr> <tr><td>3</td><td>群の例</td><td>対称群、巡回群、2面体群など</td><td>教科書の予習・授業の復習課題</td></tr> <tr><td>4</td><td>部分群</td><td>部分群の定義、問題演習</td><td>教科書の予習・授業の復習課題</td></tr> <tr><td>5</td><td>部分群と剰余類</td><td>剰余の同値律、左剰余類と右剰余類</td><td>教科書の予習・授業の復習課題</td></tr> <tr><td>6</td><td>群の作用と対称性</td><td>2面体群(D4)の部分群と4辺形の種類、問題演習</td><td>教科書の予習・授業の復習課題</td></tr> <tr><td>7</td><td>群の同型</td><td>同型写像、自己同型群、問題演習</td><td>教科書の予習・授業の復習課題</td></tr> <tr><td>8</td><td>群の準同型</td><td>準同型写像、正規部分群、商群、問題演習</td><td>教科書の予習・授業の復習課題</td></tr> <tr><td>9</td><td>準同型定理</td><td>準同型定理</td><td>教科書の予習・授業の復習課題</td></tr> <tr><td>10</td><td>対称群の定義</td><td>対称群の定義、問題演習</td><td>教科書の予習・授業の復習課題</td></tr> <tr><td>11</td><td>対称群の構造</td><td>対称群の共役類、問題演習</td><td>教科書の予習・授業の復習課題</td></tr> <tr><td>12</td><td>可換群の構造</td><td>巡回群の構造、群の直積、問題演習</td><td>教科書の予習・授業の復習課題</td></tr> <tr><td>13</td><td>可換群の構造定理</td><td>可換群の構造定理</td><td>教科書の予習・授業の復習課題</td></tr> <tr><td>14</td><td>同型定理</td><td>同型定理とその応用</td><td>教科書の予習・授業の復習課題</td></tr> <tr><td>15</td><td>群の表現</td><td>表現の指標、指標群、問題演習</td><td>教科書の予習・授業の復習課題</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	代数的構造	講義内容の概略、論理、集合、写像	教科書の予習	2	群の定義	群の定義、問題演習	教科書の予習・授業の復習課題	3	群の例	対称群、巡回群、2面体群など	教科書の予習・授業の復習課題	4	部分群	部分群の定義、問題演習	教科書の予習・授業の復習課題	5	部分群と剰余類	剰余の同値律、左剰余類と右剰余類	教科書の予習・授業の復習課題	6	群の作用と対称性	2面体群(D4)の部分群と4辺形の種類、問題演習	教科書の予習・授業の復習課題	7	群の同型	同型写像、自己同型群、問題演習	教科書の予習・授業の復習課題	8	群の準同型	準同型写像、正規部分群、商群、問題演習	教科書の予習・授業の復習課題	9	準同型定理	準同型定理	教科書の予習・授業の復習課題	10	対称群の定義	対称群の定義、問題演習	教科書の予習・授業の復習課題	11	対称群の構造	対称群の共役類、問題演習	教科書の予習・授業の復習課題	12	可換群の構造	巡回群の構造、群の直積、問題演習	教科書の予習・授業の復習課題	13	可換群の構造定理	可換群の構造定理	教科書の予習・授業の復習課題	14	同型定理	同型定理とその応用	教科書の予習・授業の復習課題	15	群の表現	表現の指標、指標群、問題演習	教科書の予習・授業の復習課題
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	代数的構造	講義内容の概略、論理、集合、写像	教科書の予習																																																																
2	群の定義	群の定義、問題演習	教科書の予習・授業の復習課題																																																																
3	群の例	対称群、巡回群、2面体群など	教科書の予習・授業の復習課題																																																																
4	部分群	部分群の定義、問題演習	教科書の予習・授業の復習課題																																																																
5	部分群と剰余類	剰余の同値律、左剰余類と右剰余類	教科書の予習・授業の復習課題																																																																
6	群の作用と対称性	2面体群(D4)の部分群と4辺形の種類、問題演習	教科書の予習・授業の復習課題																																																																
7	群の同型	同型写像、自己同型群、問題演習	教科書の予習・授業の復習課題																																																																
8	群の準同型	準同型写像、正規部分群、商群、問題演習	教科書の予習・授業の復習課題																																																																
9	準同型定理	準同型定理	教科書の予習・授業の復習課題																																																																
10	対称群の定義	対称群の定義、問題演習	教科書の予習・授業の復習課題																																																																
11	対称群の構造	対称群の共役類、問題演習	教科書の予習・授業の復習課題																																																																
12	可換群の構造	巡回群の構造、群の直積、問題演習	教科書の予習・授業の復習課題																																																																
13	可換群の構造定理	可換群の構造定理	教科書の予習・授業の復習課題																																																																
14	同型定理	同型定理とその応用	教科書の予習・授業の復習課題																																																																
15	群の表現	表現の指標、指標群、問題演習	教科書の予習・授業の復習課題																																																																
関連科目	線形代数Ⅰ、線形代数Ⅱ、微積分Ⅰ、微積分Ⅱ																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>代数的構造</td><td>遠山 啓</td><td>ちくま学芸文庫</td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	代数的構造	遠山 啓	ちくま学芸文庫	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	代数的構造	遠山 啓	ちくま学芸文庫																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>代数学の基礎</td><td>岩永 恭雄</td><td>日評数学選書</td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	代数学の基礎	岩永 恭雄	日評数学選書	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	代数学の基礎	岩永 恭雄	日評数学選書																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	期末試験 60%、小テストとレポート 40% で評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	こまめに考え、調べ、質問して、疑問点を溜めないように心がけること。中途半端な学習では何も身に付きません。「数学」教員を目指す学生は覚悟をして受講してほしいと思います。																																																																		
担当者の研究室等	3号館3階 数学研究室																																																																		
備考	事前事後学習は、毎回1時間以上かけること。																																																																		

科目名	地球環境論	科目名(英文)	Global Environment for Architecture
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	宮本 征一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	かつては地球の規模に対して人類の活動規模は小さく、人類の活動が地球環境やエネルギー・資源問題に及ぼす影響は考えられてこなかった。しかし、近年ではCO2の排出量や資源の浪費については国際的な問題となり、特に、建築業界の非効率性や資源の浪費が問われている。地球環境を考えた上での建築のあり方について、エネルギー・資源問題やライフサイクルという概念について講義を行う。
到達目標	今まで学んできた建築学(環境・計画・構造)の知識を再構築することによって、地球環境と建築との関係を修得する。 学科の学習・教育目標との対応：[F]
授業方法と留意点	教科書に沿った講義を主体とします。授業中にどの程度理解できているのかを把握するための要約などを課します。
科目学習の効果(資格)	一級・二級建築士資格取得のために有用である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	地球環境と建築	授業の概要・持続可能な社会の構築について	事前学習は、授業テーマの教科書の範囲にj記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
2	地球環境建築の基本的視点	地球環境建築の2つの視点について・LCAについての要約	事前学習は、授業テーマの教科書の範囲にj記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
3	地球環境建築の基本的視点	パウビオロジーと地球環境・建築憲章について	事前学習は、授業テーマの教科書の範囲にj記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
4	自然環境と地域・都市	自然(生態系・風土)と都市との融合について	事前学習は、授業テーマの教科書の範囲にj記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
5	地球環境とエネルギー	気候風土に適した建築物と都市化によるヒートアイランド現象について	事前学習は、授業テーマの教科書の範囲にj記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
6	地球環境とエネルギー	住宅省エネルギー基準についての講義・パッシブデザインとアクティブデザインについての要約	事前学習は、授業テーマの教科書の範囲にj記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
7	地球環境と資源	建築物の寿命・SI 建築・資源の循環について	事前学習は、授業テーマの教科書の範囲にj記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
8	安全と健康	建築空間の安全・健康について	事前学習は、授業テーマの教科書の範囲にj記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
9	地球環境と建築環境工学との関係と中間試験	地球環境と建築環境工学との関係 中間試験	事前学習は、授業テーマの教科書の範囲にj記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。中間試験で解答できなかったところを復習すること。
10	世代・文化の継承	良き建築文化の継承について	事前学習は、授業テーマの教科書の範囲にj記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
11	建築・立地環境の評価	気候風土に適した建築計画の評価法について	事前学習は、授業テーマの教科書の範囲にj記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
12	環境計画の評価	建築環境性能の事前評価・事後評価について	事前学習は、授業テーマの教科書の範囲にj記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
13	社会の制度と建築専門家の役割など	建築のLCと環境マネジメントなどについて	事前学習は、授業テーマの教科書の範囲にj記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
14	最近の研究紹介	地球環境に関する研究を紹介し、これから、どのようなことを明らかにしていかなければならないのかを紹介する	建築環境工学の視点からの地球環境に関することのなかで興味があることを調べること。
15	最近の研究紹介	地球環境に関する研究を紹介し、これから、どのようなことを明らかにしていかなければならないのかを紹介する	建築環境工学の視点からの地球環境に関することのなかで興味があることを調べること。

関連科目 建築環境工学・建築計画学・建築構造学

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	地球環境建築のすすめ	日本建築学会編	彰国社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準) レポート(20%)・中間試験(20%)・期末試験(60%)により総合的に評価する。

学生への メッセージ	地球規模の視点からのエネルギー・資源についての概論です。建築環境工学（熱環境）の知識を有しているものとして講義を進めますので、熱環境の基礎的知識は事前に得ておいて下さい。
担当者の 研究室等	宮本教授室
備考	事前学習は、30分以上してください。事後学習は、60分以上してください。中間試験の内容は重要ですので、解けなかった問題は時間をかけて復習すること。

科目名	鉄筋コンクリート構造Ⅰ	科目名(英文)	Reinforced Concrete Structures I
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	柳沢 学
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教科に関する科目(高等学校 工業)【施行規則に定める科目区分】「工業の関係科目」【教員免許状取得のための履修区分】選択	

授業概要・目的	[授業概要・目的] 鉄筋コンクリート構造は、コンクリートの圧縮強さと、コンクリートが引張り力に弱い欠点のところに、引張り力に強い鉄筋を挿入し、そして、鉄筋が防火性、防錆性に弱い欠点をコンクリートが防ぐという、互いの短所を補い長所を活かした複合構造である。このように全くの異質の材料を一体として設計するところに巧妙な設計法が用いられている。
到達目標	[到達目標]以下の項目の理解。1)鉄筋コンクリート構造の基礎知識 2)構造形式の理解 3)許容応力度設計法の基礎知識 4)構造材料と許容応力度の基礎知識 5)梁の曲げ設計の基礎知識 6)柱の曲げ設計の基礎知識 7)梁および柱の実用設計ができる。 学科の学習・教育到達目標との対応：[H]
授業方法と留意点	教科書を中心とした授業です。教科書に出てくる例題や演習をほぼ毎回行います(除中間テスト)。また、授業を受けるにあたり事前の学習をしてください。授業では講義メモ(ノート)をとってもらいます(確認する)。これらをもとに受講態度を考慮します。またグループで課題を解き発表してもらった場合があります。
科目学習の効果(資格)	一級建築士および二級建築士学科試験の「構造」部門に関係する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	鉄筋によるコンクリートの補強 鉄筋とコンクリートの協働作用	鉄筋とコンクリートの付着力など	教科書 p.8~12
3	鉄筋に対するかぶり厚さ	かぶり厚さ、鉄筋間隔・あき	教科書 p.12~14
4	材料の力学的特性 曲げに対する抵抗	部材の受ける力と抵抗 コンクリート、鉄筋の材料特性、定数	教科書 p.16~24
5	曲げと軸力に対する抵抗	曲げひび割れモーメント 曲げ終局耐力	教科書 p.24~29
6	設計法と荷重・外力	許容応力度設計法、地震力	教科書 p.60~78
7	許容応力度設計法に基づく部材の設計 材料の選定と許容応力度	コンクリートと鉄筋の選定、許容応力度	教科書 p.80~86
8	中間試験および解説	第1回から第7回までの内容の確認	試験内容を再度復習すること
9	曲げモーメントに対する設計 軸方向力に対する抵抗	基本仮定、軸力のつり合い式、ヤング係数比、許容軸力の算定	教科書 p.86~89
10	曲げモーメントに対する抵抗	長方形断面梁の許容曲げモーメント	教科書 p.89~93
11	梁の設計(1)	梁の実用設計 構造規定 設計法(設計手順) 断面算定	教科書 p.93~99
12	梁の設計(2)	梁の実用設計、演習	教科書 p.99~101
13	柱の設計(1)	断面内の力のつり合い 中立軸位置(断面内、断面外) 断面算定 存在応力と許容応力度	教科書 p.109~113
14	柱の設計(2)	柱の実用設計 構造規定 設計法(設計手順) 演習	教科書 p.113~117
15	施工を含む全体のまとめ	鉄筋工事 型枠工事 コンクリート工事 全体のまとめ	今までの総復習をしておくこと

関連科目	鉄筋コンクリート構造Ⅱ 建築ゼミⅢ, 卒業研究(構造系), 建築施工Ⅰ, Ⅱ
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	鉄筋コンクリート構造の基本と部材の設計	永坂具也/柳沢 学	彰国社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	鉄筋コンクリート構造設計規準・同解説 2010	日本建築学会	日本建築学会
2				
3				

評価方法(基準)	受講態度点(20%)、演習、レポート等(30%)、中間および期末試験(50%)で評価し60%以上を合格とする。受講態度点では事前学習や講義メモの見直し、授業への積極的な参加態度を評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	現在、身の回りには多くの建物が鉄筋コンクリート構造で建設されており、その構造を知ることが建築の意匠・計画にも重要である。構造系希望者のもとより、計画系を希望する学生も本授業を履修することを薦める。授業中は私語を慎み、授業に集中すること。
-----------	--

担当者の研究室等	8号館3階 柳沢教授室
----------	-------------

備考	事前・事後学習には1回あたり1.5時間以上をかける必要がある。
----	---------------------------------



科目名	鉄筋コンクリート構造Ⅱ	科目名(英文)	Reinforced Concrete Structures II
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	柳沢 学
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教科に関する科目(高等学校 工業)【施行規則に定める科目区分】「工業の関係科目」【教員免許状取得のための履修区分】選択	

授業概要・目的	[授業概要・目的] 鉄筋コンクリート構造は、コンクリートの圧縮強さと、コンクリートが引張り力に弱い欠点のところに、引張り力に強い鉄筋を挿入し、そして、鉄筋が防火性、防錆性に弱い欠点をコンクリートが防ぐという、互いの短所を補い長所を活かした複合構造である。このように全くの異質の材料を一体として設計するところに巧妙な設計法が用いられている。
到達目標	[到達目標]以下の項目の理解。1)鉄筋コンクリート構造せん断設計の基礎知識 2)梁のせん断設計 3)柱のせん断設計 4)鉄筋コンクリート構造基礎の設計 5)床スラブの設計 6)耐震壁の設計 1)のもとに2)～6)ができる  学科の学習・教育到達目標との対応：[H]
授業方法と留意点	教科書を中心とした授業です。教科書に出てくる例題や演習をほぼ毎回行います(除中間テスト)。また、授業を受けるにあたり事前の学習が望まれます。授業では講義メモ(ノート)をとってもらい(返却する)、これを重視して受講態度点を考慮します。
科目学習の効果(資格)	一級建築士および二級建築士学科試験の「構造」部門に関係する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	講義概要 せん断(1) せん断力に対する抵抗	受講注意事項, 評価方法, 耐震設計の履歴, 耐震設計法, 過去の地震被害, 破壊機構, せん断抵抗因子	シラバスを熟読してくること 教科書 p. 29~37
2	せん断(2) せん断力に対する抵抗	せん断補強筋の働き	教科書 p. 29~37
3	せん断(3) 部材のせん断ひび割れ耐力とせん断耐力	せん断ひび割れ耐力とせん断ひび割れ耐力算定式 せん断耐力とせん断耐力算定式	教科書 p. 37~42
4	せん断(4) せん断力に対する設計	梁のせん断設計(あばら筋の算定)	教科書 p. 101~108
5	せん断(5) せん断力に対する設計	柱のせん断設計(帯筋の算定)	教科書 p. 117~124
6	中間試験および解説	せん断設計の意義, 部材のせん断設計など	1~5回までをよく復習して中間試験に臨むこと
7	床スラブ(1)	床スラブに作用する荷重と応力、変形	教科書 p. 124~129
8	床スラブ(2)	スラブの設計	教科書 p. 129~133
9	柱・梁接合部(1)	柱と梁の接合部のせん断抵抗	教科書 p. 42~45
10	柱・梁接合部(2)	許容せん断力、短期設計用せん断力	教科書 p. 150~154
11	耐震壁(1)	耐震壁のせん断抵抗	教科書 p. 45~51
12	耐震壁(2)	耐震壁の設計	教科書 p. 154~163
13	基礎(1)	直接基礎の設計	教科書 p. 164~169
14	基礎(2)	杭基礎の設計	教科書 p. 170~175
15	構造設計 まとめ	構造体に要求されるもの 地震被害よりみた耐震対策 鉄筋の付着、定着 など	今までの総復習をしておくこと

関連科目	鉄筋コンクリート構造Ⅰ 建築ゼミⅢ, 卒業研究(構造系) 建築施工Ⅰ, Ⅱ
------	--

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	鉄筋コンクリート構造の基本と部材の設計	永坂具也/柳沢 学	彰国社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説 2010	日本建築学会	日本建築学会
2			
3			

評価方法(基準)	受講態度点(授業への積極態度: 10%)、演習、レポート等(30%)、中間試験(30%)および期末試験(30%)の割合で評価し、到達目標の理解度を含め判定する。
学生へのメッセージ	現在、身の回りには多くの建物が鉄筋コンクリート構造で建設されており、その構造を知ることが建築の意匠・計画にも重要である。構造系希望者はもとより、計画系を希望する学生も本授業を履修することを薦める。 授業中は私語を慎み、授業に集中すること。
担当者の研究室等	8号館3階 柳沢教授室
備考	教科書の指定ページの熟読や当該演習の見直しなど、事前・事後学習には1回あたり1.5時間以上をかけることが必要である。



科目名	統計学	科目名(英文)	Statistics
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中津 了勇
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目(中学校 数学)【施行規則に定める科目区分】「確率論、統計学」【教員免許状取得のための履修区分】必修【科目】教科に関する科目(高等学校 数学)【施行規則に定める科目区分】「確率論、統計学」【教員免許状取得のための履修区分】必修		

授業概要・目的	統計学は現在の理工学において非常に重要かつ強力な道具になっている。 この講義では、統計の基本的な考え方を紹介し、皆さんの将来に役立てることを目的とする。																																																																		
到達目標	到達目標: 1. 確率論の基礎事項に慣れる。 2. 統計学の推定・検定の考え方を理解し応用できる。 3. 正規母集団に関する統計的推測の手続きに習熟する。 4. 実際にデータが得られたときに、その統計的解析ができるようになる。  学科の学習・教育到達目標との対応: A科[D]、R科[B]																																																																		
授業方法と留意点	確率の基本的な諸概念から出発して、ランダムな現象を捉える確率分布モデルを学ぶ。その上でデータから母集団分布の特性について推論を行う統計的推測の基本的な考え方と、統計的推定、検定を学ぶ。 更に、データの構造や特徴を把握し情報を有効に抽出・分析するための手法として、分散分析、回帰分析の基本を学ぶ。 授業は以下の科目を履修していることを前提にして進める: 微積分 I, 微積分 II, 線形代数 I, 線形代数 II.																																																																		
科目学習の効果(資格)	統計的推定、検定の考え方を理解して、その方法を実践できる。 分散分析、回帰分析の基本を身に付けて、実際に使えるようになる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>データの整理</td><td>講義内容の説明</td><td>1章の問題</td></tr> <tr><td>2</td><td>確率とその基本的な性質 1</td><td>事象と確率、条件付確率と事象の独立性</td><td>2章の問題</td></tr> <tr><td>3</td><td>確率とその基本的な性質 2</td><td>ベイズの定理、演習</td><td>2章の問題</td></tr> <tr><td>4</td><td>離散的確率変数 1</td><td>確率変数と確率分布、二項分布、ポアソン分布</td><td>3章の問題</td></tr> <tr><td>5</td><td>離散的確率変数 2</td><td>ポアソン分布、演習</td><td>3章の問題</td></tr> <tr><td>6</td><td>連続型確率変数 1</td><td>一様分布、指数分布、正規分布の基本的性質</td><td>4章の問題</td></tr> <tr><td>7</td><td>連続型確率変数 2</td><td>正規分布とその関連分布の性質、演習</td><td>4章の問題</td></tr> <tr><td>8</td><td>現象のモデル化</td><td>母集団分布、母平均、母分散、母標準偏差</td><td>5章の問題</td></tr> <tr><td>9</td><td>統計的推定 1</td><td>標本平均、標本分散、点推定、区間推定</td><td>5章の問題</td></tr> <tr><td>10</td><td>統計的推定 2</td><td>標本平均、標本分散、点推定、区間推定</td><td>5章の問題</td></tr> <tr><td>11</td><td>統計的仮説検定 1</td><td>平均の検定</td><td>6章の問題</td></tr> <tr><td>12</td><td>統計的仮説検定 2</td><td>分散の検定</td><td>6章の問題</td></tr> <tr><td>13</td><td>分散分析</td><td>一次元を中心とした分散分析の基本</td><td>7章の問題</td></tr> <tr><td>14</td><td>回帰分析</td><td>線形モデル、相関係数、最小二乗法など回帰分析の基本</td><td>8章の問題</td></tr> <tr><td>15</td><td>演習</td><td>分散・回帰分析の演習</td><td>7, 8章の問題</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	データの整理	講義内容の説明	1章の問題	2	確率とその基本的な性質 1	事象と確率、条件付確率と事象の独立性	2章の問題	3	確率とその基本的な性質 2	ベイズの定理、演習	2章の問題	4	離散的確率変数 1	確率変数と確率分布、二項分布、ポアソン分布	3章の問題	5	離散的確率変数 2	ポアソン分布、演習	3章の問題	6	連続型確率変数 1	一様分布、指数分布、正規分布の基本的性質	4章の問題	7	連続型確率変数 2	正規分布とその関連分布の性質、演習	4章の問題	8	現象のモデル化	母集団分布、母平均、母分散、母標準偏差	5章の問題	9	統計的推定 1	標本平均、標本分散、点推定、区間推定	5章の問題	10	統計的推定 2	標本平均、標本分散、点推定、区間推定	5章の問題	11	統計的仮説検定 1	平均の検定	6章の問題	12	統計的仮説検定 2	分散の検定	6章の問題	13	分散分析	一次元を中心とした分散分析の基本	7章の問題	14	回帰分析	線形モデル、相関係数、最小二乗法など回帰分析の基本	8章の問題	15	演習	分散・回帰分析の演習	7, 8章の問題
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	データの整理	講義内容の説明	1章の問題																																																																
2	確率とその基本的な性質 1	事象と確率、条件付確率と事象の独立性	2章の問題																																																																
3	確率とその基本的な性質 2	ベイズの定理、演習	2章の問題																																																																
4	離散的確率変数 1	確率変数と確率分布、二項分布、ポアソン分布	3章の問題																																																																
5	離散的確率変数 2	ポアソン分布、演習	3章の問題																																																																
6	連続型確率変数 1	一様分布、指数分布、正規分布の基本的性質	4章の問題																																																																
7	連続型確率変数 2	正規分布とその関連分布の性質、演習	4章の問題																																																																
8	現象のモデル化	母集団分布、母平均、母分散、母標準偏差	5章の問題																																																																
9	統計的推定 1	標本平均、標本分散、点推定、区間推定	5章の問題																																																																
10	統計的推定 2	標本平均、標本分散、点推定、区間推定	5章の問題																																																																
11	統計的仮説検定 1	平均の検定	6章の問題																																																																
12	統計的仮説検定 2	分散の検定	6章の問題																																																																
13	分散分析	一次元を中心とした分散分析の基本	7章の問題																																																																
14	回帰分析	線形モデル、相関係数、最小二乗法など回帰分析の基本	8章の問題																																																																
15	演習	分散・回帰分析の演習	7, 8章の問題																																																																
関連科目	微積分 I, 微積分 II, 線形代数 I, 線形代数 II.																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>基礎統計学</td><td>坂田, 高田, 百武</td><td>朝倉書店</td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	基礎統計学	坂田, 高田, 百武	朝倉書店	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	基礎統計学	坂田, 高田, 百武	朝倉書店																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>関連の本が沢山出版されている。図書館に所蔵されている他、数学研究室にも多数あり貸し出し可</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	関連の本が沢山出版されている。図書館に所蔵されている他、数学研究室にも多数あり貸し出し可			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	関連の本が沢山出版されている。図書館に所蔵されている他、数学研究室にも多数あり貸し出し可																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	演習, 小テストで40%、期末試験で60%判定し評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	疑問に思ったことがあれば遠慮なく質問してください。																																																																		
担当者の研究室等	3号館3階数学研究室																																																																		
備考	事前事後学習は、毎回1時間以上かけること。																																																																		

科目名	都市・地域計画	科目名(英文)	Urban and Regional Planning
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	加嶋 章博
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教科に関する科目(高等学校 工業)【施行規則に定める科目区分】「工業の関係科目」【教員免許状取得のための履修区分】選択	

授業概要・目的	都市計画、都市デザイン、地域計画、まちづくりという広い領域をまず理解する。都市とはどのように形成され、どのようにプランニングされてきたのか、計画理論を概観し、「都市の読み方」とは何かを考えていく。都市で起こっている様々な課題に目を向け、都市や地域の良好な環境形成を促すための制度や事業を理解し、これからの計画のあり方や新しい発想を提案するための手掛かりを論じる。出来るだけ身近な都市計画や町づくりの事例に目を向ける。地域資源やシビックプライドといった近年着目されている「町の育て方」にも目を向け、都市づくりに自身がどう関わられるかを考える力を培うことを目的とする。
到達目標	都市計画・まちづくりにおいて重要かつ基本的な概念、制度、歴史、事業、日本と世界の動向等を捉え、都市計画に関わる基礎的事項を把握し、実際の都市計画や都市の課題に当てはめて考える力を培う。都市環境や町並み、生活環境を改善していくうえで重要な基礎知識と視点を養い、都市に対する好奇心を広げることが到達目標とする。学習教育目標：F
授業方法と留意点	都市で起こっている様々な事象に着目しながら、重要概念やトピックスに関連する都市計画や都市デザインの実践事例の理解に努める。毎回、講義テーマに基づいたミニレポートや課題等に取り組む。
科目学習の効果(資格)	1級・2級建築士・宅地建物取引主任者など

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス/ 都市へのイメージ	ガイダンス 都市空間に対するイメージを整理する	身近な都市の評価を考える。
2	なぜ都市ができるのか	都市のモデルと構造について考察する。	都市の構造に関する情報を収集する。
3	現代都市の問題	都市化の実態、スプロールと社会構造について考える。	都市のスプロールに関する情報を収集する。
4	都市の進化とプランニング	プランニングが生み出すもの	様々な都市化の事例に関する情報を集める。
5	計画概念とプランナー	計画という概念、地域という概念、プランナーの役割、上位計画について検討する。	都市計画の考え方について歴史的事例を収集する。
6	暮らしを支える都市	都市計画の観点から生活環境に必要な都市施設を考える。また、中心市街地と郊外の課題を考える。	身近な都市を捉え、都心と郊外の違いについて情報を収集する。
7	豊かな都市空間を考える	風土と歴史、都市デザインと景観、空間の効率的活用、地域に対する愛着と満足度について検討する。	都市の豊かさについての評価項目をつくる。
8	都市計画の歴史と都市の評価軸を検討する(前半振り返り)	中間試験を実施する。都市の評価を都市計画の観点から行う。	評価したい身近な都市を捉え、情報を収集する。
9	持続可能性に取り組む	サステイナビリティと都市の要素/地域資源を考える。	持続可能性、地域資源について情報を収集する。
10	都市計画の基本的な制度(その1)	マスタープランと都市計画区域など、都市計画制度の仕組みについて理解する。	身近な都市のマスタープランを調べる。
11	都市計画の基本的な制度(その2)	マスタープランと都市計画区域など、都市計画制度の仕組みについて理解する。	身近な都市のマスタープランを調べる。
12	シビックプライドについて理解する	都市のプロモーションに関する様々な施策を理解する。	シビックプライドという言葉の意味を理解する。
13	都市の再構築	市街地再開発に関する制度と実践を理解する。	市街地再開発の事例を集める。
14	新しい都市の形を考える	コンパクトシティ、スマートシティについて理解する。	コンパクトシティの事例を集める。
15	合意と担い手	まちづくりの仕組みや決定方法ならびに市民参加について理解する。	市民参加のまちづくりについて、身近な事例を集める。

関連科目 基礎科目、専門科目全般であるが、特に設計演習 IIIb や卒業設計・卒業論文、大学院研究の導入とする。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	入門 都市計画 都市の機能とまちづくりの考え方	谷口守	森北出版
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	都市計画	川上光彦	森北出版
2	初めて学ぶ「都市計画」	饗庭伸ほか	市ヶ谷出版社
3			

評価方法(基準) レポートならびに授業内中間試験(60%)、期末試験(定期試験またはレポート)(40%)を総合し、60%以上を合格とする。

学生へのメッセージ 建築が集まると都市になります。都市の魅力はみなさん自身の魅力とも言えます。どのような分野に進もうとも都市への関心を高めてください。講義の中では、基礎的な事項の理解だけではなく、身近な都市や地域に着目し、現在の状況に見いだせる課題を抽出し、それらを取り巻く多様な要素を踏まえた計画のあり方を一緒に検討したいと思います。卒業研究のテーマを模索する材料にもしてください。

担当者の研究室等 8号館3階

備考 【事前学習】事前事後学習課題欄に示した内容について、毎回0.5時間以上の時間をかけて内容を理解する。  
【事後学習】事前事後学習課題欄に示した内容について、毎回1時間以上かけて、教科書以外の資料に目を通す。出来るだけ視覚的資料も探すと。

科目名	日本建築史	科目名(英文)	Japanese Architectural History
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	中川 等
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教科に関する科目(高等学校 工業)【施行規則に定める科目区分】「工業の関係科目」【教員免許状取得のための履修区分】選択	

授業概要・目的	日本の建築の歴史について、有史以前から古代、中世、近世、近代にいたる形成と展開の過程を講述する。各時代の寺院、神社、住宅など代表的な建築を写真と図面により具体的に紹介し、その空間構成と構造技法、意匠材料の特徴と変遷について通史的に解説する。当時の社会的な背景と生活様式、生産技術についても言及し、幅広い視野で総合的に建築を捉えるようにつとめる。あわせて、都市や集落、町並など集住環境の歴史についても考察を加える。 学習・教育目標 [F]
到達目標	日本の建築と集住環境の歴史及びその背景に関する総合的な理解と、歴史に基づく創造的発想の育成である。 学習・教育目標 [F]
授業方法と留意点	授業では、重要項目を板書して解説を行う。毎回、教科書の写真と図面に基づいて説明するので、必ず教科書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	建築や都市に関わる者の基本素養として、また一級・二級建築士の資格を取得するために、建築史の知識は必要である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	概説	時代区分と基本語彙	説明した基本語彙を習得する。
	2	竪穴住居と高床住居	先史・原史時代を遺跡・遺物から探る	興味をもった遺跡・遺物について写真集等で再確認する。
	3	神社建築の諸相	神社建築の起源と諸形式の特徴	興味をもった神社建築について写真集等で再確認する。
	4	仏教伝来と法隆寺	飛鳥・奈良時代の寺院建築とその展開	興味をもった寺院建築について写真集等で再確認する。
	5	密教と浄土教の建築	平安時代の寺院建築とその展開	興味をもった寺院建築について写真集等で再確認する。
	6	古代の都市と住宅	平城京・平安京の建設と宮殿・住宅	興味をもった遺跡・建築について写真集等で再確認する。
	7	鎌倉仏教と新様式	伝統的な和様と大仏様・禅宗様の展開	興味をもった寺社建築について写真集等で再確認する。
	8	座敷飾りと書院造	寝殿造から書院造が成立した過程	興味をもった住宅建築について写真集等で再確認する。
	9	中世の庶民住宅	中世の都市・農村と庶民の住宅	興味をもった遺跡・絵画・建築について写真集等で再確認する。
	10	城と城下町	近世の寺社・霊廟・城郭建築と城下町	興味をもった建築・都市について写真集等で再確認する。
	11	茶室と数寄屋	茶室と数寄屋の形成とその展開	興味をもった茶室・数寄屋建築について写真集等で再確認する。
	12	近世民家の成立	近世民家の地域分布と成立背景	興味をもった民家建築について写真集等で再確認する。
	13	近代の洋風・和風建築	近代化の進展と洋風・和風建築の展開	興味をもった洋風・和風建築について写真集等で再確認する。
	14	歴史的建造物と都市の現在	文化財保護の現況と課題	歴史的建造物と都市の現況と課題について各自で考察する。
	15	まとめ	日本建築の特質	日本建築の特質について各自で考察する。

関連科目	西洋建築史、近代建築史
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日本建築史図集(新訂第三版)	日本建築学会編	彰国社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	定期試験の結果により判断する(100%)。定期試験は自筆ノート参照可とするので、授業にしっかり出席して充実したノート作成を心がけること。
学生へのメッセージ	日本建築史を理解するためには、歴史的な建築と環境に実際に接してその空間を体験することが大切である。京都、奈良、大阪など大学の周辺は史跡と文化財の宝庫であり、各所に伝統文化がいまづいている。現地に足を運んで自ら感得することが望ましい。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	事前学習：事後学習欄に示した内容について、毎回1.5時間以上かけて取り組む

科目名	微積分 I	科目名 (英文)	Calculus I
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1 年	クラス	ニ
単位数	4	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	寺本 恵昭
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教科に関する科目 (中学校 数学)【施行規則に定める科目区分】「解析学」【教員免許状取得のための履修区分】必修【科目】教科に関する科目 (高等学校 数学)【施行規則に定める科目区分】「解析学」【教員免許状取得のための履修区分】必修	

授業概要・目的	整式、有理式、無理関数、3角、指数、対数関数などの基本的な関数について、微分の計算法、テイラー展開の求め方、不定積分の計算法を習得する。
到達目標	1) 基本的な関数の微分ができる。 2) 関数の挙動を求めグラフが描ける。 3) 基本的な関数の不定積分ができる。  学科の学習・教育到達目標の対応: [D]
授業方法と留意点	進捗の具合により講義と演習を適宜配分。左に挙げた内容を解説し、演習で理解を深める。専門学科で必要とされる微積分の素養、計算能力を身につけるために授業には必ず出席し、予習復習も励行すること。試験は中間、期末の計2回
科目学習の効果 (資格)	次の科目の講義は微積分 I の知識とスキルを前提にして授業が進められます: 微積分 II, 工業数学 I, 工業数学 II, 代数学, 幾何学 II, 解析学, 統計学。 上記科目を受講する予定の学生は微積分 I を履修すること。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	関数とそのグラフ(1)	・座標平面・点の表示・点の移動の表示	第1章の間、問題、課題レポート
2	関数とそのグラフ(2)	・関数に関する用語・簡単な関数のグラフ	第1章の間、問題、課題レポート
3	関数の極限	・実数の性質・極限の定義・極限の計算方法	第1章の間、問題、課題レポート
4	関数の連続性	・連続性の定義・連続関数の性質	第1章の間、問題、課題レポート
5	微分係数	・微分係数の定義・接線の方程式	第2章の間、問題、課題レポート
6	導関数	・導関数の定義・導関数の求め方・整式の導関数	第2章の間、問題、課題レポート
7	導関数の計算方法	・積、商の導関数	第2章の間、問題、課題レポート
8	合成関数の微分高次導関数	・合成の方法・合成関数の微分の計算	第2章の間、問題、課題レポート
9	逆関数の微分	・逆関数の定義・逆関数の微分の計算	第2章の間、問題、課題レポート
10	指数関数	・指数法則・ネピアの数 e・指数関数の定義	第3章の間、問題、課題レポート
11	指数関数の微分	・ $x=0$ での微分係数・指数関数の微分	第3章の間、問題、課題レポート
12	対数関数	・自然対数の定義・対数の性質	第3章の間、問題、課題レポート
13	対数関数の微分	・ $x=1$ での微分係数・導関数の求め方・対数微分法	第3章の間、問題、課題レポート
14	3角関数	・弧度法・3角関数の定義・諸性質と公式	第4章の間、問題、課題レポート
15	3角関数・逆3角関数の微分	・ $\sin x$ の微分・3角関数の微分・逆3角関数の微分	第4章の間、問題、課題レポート
16	高次導関数(1)	・高次導関数の定義・多項式の高次導関数	第5章の間、問題、課題レポート
17	高次導関数(2)	・指数、対数、3角関数の高次導関数・ライプニッツの公式	第5章の間、問題、課題レポート
18	平均値の定理	・ロルの定理・平均値の定理	第6章の間、問題、課題レポート
19	関数の挙動(1)	・関数の増減・極大、極小	第6章の間、問題、課題レポート
20	関数の挙動(2)	・グラフの凹凸・変曲点	第6章の間、問題、課題レポート
21	関数の展開(1)	・テイラー展開・マクローリン展開	第6章の間、問題、課題レポート
22	関数の展開(2)	・指数関数、3角関数、対数関数の展開・2項定理の一般化	第6章の間、問題、課題レポート
23	原始関数(1)	微分の逆演算としての不定積分	第7章の間、問題、課題レポート
24	原始関数(2)	・整式、有理式的不定積分	第7章の間、問題、課題レポート
25	原始関数(3)	・3角関数の不定積分	第7章の間、問題、課題レポート
26	原始関数(4)	・指数関数、対数関数の不定積分	第7章の間、問題、課題レポート
27	不定積分の計算法(1)	・置換積分	第7章の間、問題、課題レポート
28	不定積分の計算法(2)	・部分積分	第7章の間、問題、課題レポート
29	不定積分の計算法(3)	・分数関数の不定積分・無理関数の不定積分	第7章の間、問題、課題レポート
30	不定積分の計算法(4)	・初等関数の不定積分のまとめ	第7章の間、問題、課題レポート

関連科目: 微積分 II; 線形代数 I; II; 工業数学 I; 工業数学 II; 代数学; 幾何学 II; 解析学; 統計学

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	微積分基礎	寺本恵昭	共立出版
2			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	関連の本が沢山出版されている。図書館に所蔵されている他、数学研究室にも多数あり貸し出し可。		

評価方法 (基準)	演習、小テストで30%、中間 35%、期末 35%判定し評価する。
学生へのメッセージ	講義内容に関することはどんな事でも遠慮なく質問すること。いつでも親切に答えるようにしています。参考書を貸し出しますので相談に来て下さい。また、チューデントアワー(月-金の5限目)には3号館3階準備室に数学教員がいますので数学、自然科学に関するどんな質問でも気楽においで下さい。
担当者の研究室等	3号館3階 数学研究室
備考	事前事後学習は毎回1時間以上かけること。

科目名	微積分 I	科目名 (英文)	Calculus I
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1 年	クラス	ハ
単位数	4	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中津 了勇
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教科に関する科目 (中学校 数学)【施行規則に定める科目区分】「解析学」【教員免許状取得のための履修区分】必修【科目】教科に関する科目 (高等学校 数学)【施行規則に定める科目区分】「解析学」【教員免許状取得のための履修区分】必修	

授業概要・目的	整式、有理式、無理関数、3角、指数、対数関数などの基本的な関数について、微分の計算法、テイラー展開の求め方、不定積分の計算法を習得する。
到達目標	1) 基本的な関数の微分ができる。 2) 関数の挙動を求めグラフが描ける。 3) 基本的な関数の不定積分ができる。  学科の学習・教育到達目標の対応: [D]
授業方法と留意点	進捗の具合により講義と演習を適宜配分。左に挙げた内容を解説し、演習で理解を深める。専門学科が必要とされる微積分の素養、計算能力を身につけるために授業には必ず出席し、予習復習も励行すること。試験は中間、期末の計2回
科目学習の効果 (資格)	次の科目の講義は微積分 I の知識とスキルを前提にして授業が進められます: 微積分 II, 工業数学 I, 工業数学 II, 代数学, 幾何学 II, 解析学, 統計学。 上記科目を受講する予定の学生は微積分 I を履修すること。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	関数とそのグラフ(1)	・座標平面・点の表示・点の移動の表示	第1章の間、問題、課題レポート
2	関数とそのグラフ(2)	・関数に関する用語・簡単な関数のグラフ	第1章の間、問題、課題レポート
3	関数の極限	・実数の性質・極限の定義・極限の計算法	第1章の間、問題、課題レポート
4	関数の連続性	・連続性の定義・連続関数の性質	第1章の間、問題、課題レポート
5	微分係数	・微分係数の定義・接線の方程式	第2章の間、問題、課題レポート
6	導関数	・導関数の定義・導関数の求め方・整式の導関数	第2章の間、問題、課題レポート
7	導関数の計算法	・積、商の導関数	第2章の間、問題、課題レポート
8	合成関数の微分高次導関数	・合成の方法・合成関数の微分の計算	第2章の間、問題、課題レポート
9	逆関数の微分	・逆関数の定義・逆関数の微分の計算	第2章の間、問題、課題レポート
10	指数関数	・指数法則・ネピアの数 e・指数関数の定義	第3章の間、問題、課題レポート
11	指数関数の微分	・ $x=0$ での微分係数・指数関数の微分	第3章の間、問題、課題レポート
12	対数関数	・自然対数の定義・対数の性質	第3章の間、問題、課題レポート
13	対数関数の微分	・ $x=1$ での微分係数・導関数の求め方・対数微分法	第3章の間、問題、課題レポート
14	3角関数	・弧度法・3角関数の定義・諸性質と公式	第4章の間、問題、課題レポート
15	3角関数・逆3角関数の微分	・ $\sin x$ の微分・3角関数の微分・逆3角関数の微分	第4章の間、問題、課題レポート
16	高次導関数(1)	・高次導関数の定義・多項式の高次導関数	第5章の間、問題、課題レポート
17	高次導関数(2)	・指数、対数、3角関数の高次導関数・ライプニッツの公式	第5章の間、問題、課題レポート
18	平均値の定理	・ロルの定理・平均値の定理	第6章の間、問題、課題レポート
19	関数の挙動(1)	・関数の増減・極大、極小	第6章の間、問題、課題レポート
20	関数の挙動(2)	・グラフの凹凸・変曲点	第6章の間、問題、課題レポート
21	関数の展開(1)	・テイラー展開・マクローリン展開	第6章の間、問題、課題レポート
22	関数の展開(2)	・指数関数、3角関数、対数関数の展開・2項定理の一般化	第6章の間、問題、課題レポート
23	原始関数(1)	微分の逆演算としての不定積分	第7章の間、問題、課題レポート
24	原始関数(2)	・整式、有理式的不定積分	第7章の間、問題、課題レポート
25	原始関数(3)	・3角関数の不定積分	第7章の間、問題、課題レポート
26	原始関数(4)	・指数関数、対数関数の不定積分	第7章の間、問題、課題レポート
27	不定積分の計算法(1)	・置換積分	第7章の間、問題、課題レポート
28	不定積分の計算法(2)	・部分積分	第7章の間、問題、課題レポート
29	不定積分の計算法(3)	・分数関数の不定積分・無理関数の不定積分	第7章の間、問題、課題レポート
30	不定積分の計算法(4)	・初等関数の不定積分のまとめ	第7章の間、問題、課題レポート

関連科目: 微積分 II; 線形代数 I; II; 工業数学 I; 工業数学 II; 代数学; 幾何学 II; 解析学; 統計学

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	微積分基礎	寺本恵昭	共立出版
2			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	関連の本が沢山出版されている。図書館に所蔵されている他、数学研究室にも多数あり貸し出し可。		

評価方法 (基準)	演習、小テストで30%、中間 35%、期末 35%判定し評価する。
学生へのメッセージ	講義内容に関することはどんな事でも遠慮なく質問すること。いつでも親切に答えるようにしています。参考書を貸し出しますので相談に来て下さい。また、チューデントアワー(月-金の5限目)には3号館3階準備室に数学教員がいますので数学、自然科学に関するどんな質問でも気楽においで下さい。
担当者の研究室等	3号館3階 数学研究室
備考	事前事後学習は、毎回1時間以上かけること。



科目名	微積分 I	科目名 (英文)	Calculus I
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田畑 謙二
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教科に関する科目 (中学校 数学)【施行規則に定める科目区分】「解析学」【教員免許取得のための履修区分】必修【科目】教科に関する科目 (高等学校 数学)【施行規則に定める科目区分】「解析学」【教員免許取得のための履修区分】必修	

授業概要・目的	整式、有理式、無理関数、3角、指数、対数関数などの基本的な関数について、微分の計算法、テイラー展開の求め方、不定積分の計算法を習得する。
到達目標	1) 基本的な関数の微分ができる 2) 関数の挙動を求めグラフが描ける 3) 基本的な関数の不定積分ができる。  学科の学習・教育到達目標の対応：A科[D]、M科[C1]、R科[B]
授業方法と留意点	進捗の具合により講義と演習を適宜配分。左に挙げた内容を解説し、演習で理解を深める。専門学科で必要とされる微積分の素養、計算能力を身につけるために授業には必ず出席し、予習復習も励行すること。試験は中間、期末の計2回
科目学習の効果 (資格)	本講義の内容は後期の微積分 II を習得するのに引き継がれる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	関数とそのグラフ(1)	・座標平面・点の表示・点の移動の表示	第1章の間、問題、課題レポート
2	関数とそのグラフ(2)	・関数に関する用語・簡単な関数のグラフ	第1章の間、問題、課題レポート
3	関数の極限	・実数の性質・極限の定義・極限の計算方法	第1章の間、問題、課題レポート
4	関数の連続性	・連続性の定義・連続関数の性質	第1章の間、問題、課題レポート
5	微分係数	・微分係数の定義・接線の方程式	第2章の間、問題、課題レポート
6	導関数	・導関数の定義・導関数の求め方・整式の導関数	第2章の間、問題、課題レポート
7	導関数の計算方法	・積、商の導関数	第2章の間、問題、課題レポート
8	合成関数の微分高次導関数	・合成の方法・合成関数の微分の計算	第2章の間、問題、課題レポート
9	逆関数の微分	・逆関数の定義・逆関数の微分の計算	第2章の間、問題、課題レポート
10	指数関数	・指数法則・ネイピアの数 e・指数関数の定義	第3章の間、問題、課題レポート
11	指数関数の微分	・x=0での微分係数・指数関数の微分	第3章の間、問題、課題レポート
12	対数関数	・自然対数の定義・対数の性質	第3章の間、問題、課題レポート
13	対数関数の微分	・x=1での微分係数・導関数の求め方・対数微分法	第3章の間、問題、課題レポート
14	3角関数	・弧度法・3角関数の定義・諸性質と公式	第4章の間、問題、課題レポート
15	3角関数・逆3角関数の微分	・sin x の微分・3角関数の微分・逆3角関数の微分	第4章の間、問題、課題レポート
16	高次導関数(1)	・高次導関数の定義・多項式の高次導関数	第5章の間、問題、課題レポート
17	高次導関数(2)	・指数、対数、3角関数の高次導関数・ライプニッツの公式	第5章の間、問題、課題レポート
18	平均値の定理	・ロルの定理・平均値の定理	第6章の間、問題、課題レポート
19	関数の挙動(1)	・関数の増減・極大、極小	第6章の間、問題、課題レポート
20	関数の挙動(2)	・グラフの凹凸・変曲点	第6章の間、問題、課題レポート
21	関数の展開(1)	・テイラー展開・マクローリン展開	第6章の間、問題、課題レポート
22	関数の展開(2)	・指数関数、3角関数、対数関数の展開・2項定理の一般化	第6章の間、問題、課題レポート
23	原始関数(1)	微分の逆演算としての不定積分	第7章の間、問題、課題レポート
24	原始関数(2)	・整式、有理式的不定積分	第7章の間、問題、課題レポート
25	原始関数(3)	・3角関数の不定積分	第7章の間、問題、課題レポート
26	原始関数(4)	・指数関数、対数関数の不定積分	第7章の間、問題、課題レポート
27	不定積分の計算法(1)	・置換積分	第7章の間、問題、課題レポート
28	不定積分の計算法(2)	・部分積分	第7章の間、問題、課題レポート
29	不定積分の計算法(3)	・分数関数の不定積分・無理関数の不定積分	第7章の間、問題、課題レポート
30	不定積分の計算法(4)	・初等関数の不定積分のまとめ	第7章の間、問題、課題レポート

関連科目 以下の科目の講義は微積分 I の知識とスキルを前提にして授業が進められます：  
微積分 II, 工業数学 I, 工業数学 II, 代数学, 幾何学 II, 解析学, 統計学  
上記科目を受講する予定の学生は微積分 I を履修すること。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法 (基準) 演習、小テストで30%、中間試験35%、期末試験35%で判定し評価する。

学生へのメッセージ 講義内容に関することはどんな事でも遠慮なく質問すること。いつでも親切に答えるようにしています。参考書を貸し出しますので相談に来て下さい。また、チューデントアワー(月-金の5限目)には3号館3階準備室に数学教員がいますので数学、自然科学に関するどんな質問でも気楽においで下さい。

担当者の研究室等 3号館3階 数学研究室

備考 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。

科目名	微積分Ⅱ	科目名(英文)	Calculus II
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	島田 伸一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教科に関する科目(中学校 数学)【施行規則に定める科目区分】「解析学」【教員免許取得のための履修区分】選択【科目】教科に関する科目(高等学校 数学)【施行規則に定める科目区分】「解析学」【教員免許取得のための履修区分】選択	

授業概要・目的	定積分の概念と計算法, 広義積分の概念と計算法及び収束の判定法, 2変数関数の偏微分の計算とそのグラフの把握極値問題の扱い方, 重積分の概念と計算法, 以上を説明する。
到達目標	基礎知識を身につけ, 課題に対して定量的な解を求めることができる基礎的能力を有する: 1) 基本的な関数の積分ができる 2) 偏微分の計算ができる 3) 2変数関数の挙動がわかる 4) 重積分の計算ができる 5) 極値, 体積, 重心, 慣性モーメントへの応用ができる。  学科の学習・教育到達目標: [D]
授業方法と留意点	挙げた内容を具体的な計算例を中心にできるだけ平易に解説し, 理解の程度を演習により確かめる。受講者はその厳選された平易な内容を確実に自分のものとするよう心掛けて頂きたい。そのためには, 欠席をせず授業の前に30分でも良いから復習を重ねること。
科目学習の効果(資格)	2年生以降に学ぶ数学, 物理学関連科目の基礎となる。これらの科目を履修予定の者はこの科目を履修しておくことが望まれる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	定積分の定義	・面積と定積分・定積分の定義・定積分の性質	第8章の間, 問題、課題レポート
2	簡単な定積分	・定数関数, 1次, 2次関数の定積分・不定積分と定積分・基本的な関数の定積分	第8章の間, 問題、課題レポート
3	定積分の計算法(1)	・微積分の基本定理・不定積分と定積分	第8章の間, 問題、課題レポート
4	定積分の応用(2)	・置換積分	第8章の間, 問題、課題レポート
5	定積分の応用(3)	・部分積分	第8章の間, 問題、課題レポート
6	定積分の応用(4)	・指数関数, 3角関数の定積分	第8章の間, 問題、課題レポート
7	定積分の計算法(5)	・有理関数, 無理関数の定積分	第8章の間, 問題、課題レポート
8	定積分の応用(1)	・曲線が囲む面積の計算	第8章の間, 問題、課題レポート
9	定積分の応用(2)	・体積の計算	第8章の間, 問題、課題レポート
10	定積分の応用(3)	・回転体の体積	第8章の間, 問題、課題レポート
11	定積分の応用(4)	・広義積分	第8章の間, 問題、課題レポート
12	2変数の関数(1)	・2変数関数の例・xy平面内の領域と関数の定義域	第9章の間, 問題、課題レポート
13	2変数関数のグラフ(1)	・グラフとしての曲面・グラフ上の曲線	第9章の間, 問題、課題レポート
14	2変数の関数(2)	・2変数関数の極限・2変数関数の連続性	第9章の間, 問題、課題レポート
15	2変数関数のグラフ(2)	・グラフ上の曲線の接線・接平面の導入	第9章の間, 問題、課題レポート
16	偏微分	・偏微分の定義	第9章の間, 問題、課題レポート
17	偏微分の計算(1)	・偏導関数の定義・偏導関数の計算法	第9章の間, 問題、課題レポート
18	偏微分の計算(2)	・偏微分可能性・全微分可能性	第9章の間, 問題、課題レポート
19	合成関数の偏微分	・2変数関数の合成と偏微分の計算	第9章の間, 問題、課題レポート
20	高次偏導関数(1)	・2次偏導関数の定義・偏微分の順序交換	第9章の間, 問題、課題レポート
21	高次偏導関数(2)	・合成の高次偏微分・偏微分作用素の表示	第9章の間, 問題、課題レポート
22	高次偏導関数(3)	・2変数のテイラー展開・マクローリン展開	第9章の間, 問題、課題レポート
23	偏微分の応用(1)	・2変数関数の極値問題	第9章の間, 問題、課題レポート
24	偏微分の応用(2)	・陰関数定理・条件付き極値問題	第9章の間, 問題、課題レポート
25	重積分の定義(1)	・体積と重積分・長方形領域上での重積分	第10章の間, 問題、課題レポート
26	重積分の定義(2)	・長方形上での逐次積分	第10章の間, 問題、課題レポート
27	重積分の計算法(1)	・曲線で囲まれた領域上での重積分	第10章の間, 問題、課題レポート
28	重積分の計算法(2)	・逐次積分への帰着	第10章の間, 問題、課題レポート
29	重積分の計算法(3)	・重積分と立体の体積	第10章の間, 問題、課題レポート
30	重積分の計算法(4)	・広義重積分・ $\Gamma$ 関数とベータ関数	第10章の間, 問題、課題レポート

関連科目 微積分Ⅰ、線形代数Ⅰ・Ⅱ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	微積分基礎	寺本恵昭	共立出版
2				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法(基準) 演習, 小テスト, 宿題で20%, 中間試験25%, 期末試験55%で評価する。

学生へのメッセージ どんなに些細な事でも遠慮なく質問すること、授業中でもいつでも親切に答えます。参考書を貸し出しますので相談に来て下さい。また、チューデントアワー(月-金の5限目)には3号館3階準備室に数学教員がいますのでどんな質問でも良いから来て下さい。数学は特に積み重ねが肝心の科目です。諦めずに続けましょう。

担当者の研究室等 3号館3階 数学研究室

備考 事前事後学習は、毎回1時間以上かけること。



科目名	微積分Ⅱ	科目名(英文)	Calculus II
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	東 武大
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教科に関する科目(中学校 数学)【施行規則に定める科目区分】「解析学」【教員免許状取得のための履修区分】選択【科目】教科に関する科目(高等学校 数学)【施行規則に定める科目区分】「解析学」【教員免許状取得のための履修区分】選択	

授業概要・目的	定積分の概念と計算法, 2変数関数の偏微分の計算とそのグラフの把握, 重積分の概念と計算法を説明する。
到達目標	以下の微積分の基本事項を実行する能力を有すること。 1) 基本的な関数の積分 2) 偏微分の計算 3) 2変数関数の挙動の理解 4) 重積分の計算  学科の学習・教育到達目標の対応: [C1]
授業方法と留意点	挙げた内容を具体的な計算例を中心にできるだけ平易に解説し, 理解の程度を演習により確かめる。受講者はその厳選された平易な内容を確実に自分のものとするよう心掛けて頂きたい。そのためには、欠席をせず授業の前に30分でも良いから復習を重ねること。
科目学習の効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	簡単な定積分	・定数関数, 1次, 2次関数の定積分 ・基本的な関数の定積分	第8章の問題
3	定積分の計算法(1)	・微積分の基本定理 ・不定積分と定積分	第8章の問題
4	定積分の計算法(2)	・置換積分	第8章の問題
5	定積分の計算法(3)	・部分積分	第8章の問題
6	定積分の応用(1)	・曲線が囲む面積の計算	第8章の問題
7	定積分の応用(2)	・回転体の体積 ・曲線の弧長	第8章の問題
8	定積分の応用(3)	・広義積分	第8章の問題
9	2変数の関数(1)	・2変数関数の例 ・xy平面内の領域と関数の定義域	第9章の問題
10	2変数の関数(2)	・2変数関数の極限, 連続性	第9章の問題
11	定積分の応用(4)	・広義積分	第9章の問題
12	偏微分の計算(1)	・偏微分の定義	第9章の問題
13	偏微分の計算(2)	・偏微分及び全微分可能性	第9章の問題
14	偏微分の計算(3)	・グラフ上の曲線の接線・接平面の導入	第9章の問題
15	偏微分の計算(4)	・2次偏導関数 ・偏微分の順序交換	第9章の問題
16	偏微分の計算(5)	・連鎖法則	第9章の問題
17	習熟度確認試験及び解説講義	・第1-16回の内容に関する習熟度確認試験及び、この範囲の復習を含めた解説講義	
18	習熟度確認試験及び解説講義	・第1-16回の内容に関する習熟度確認試験及び、この範囲の復習を含めた解説講義	
19	高次偏導関数(1)	・偏微分作用素の表示	第9章の問題
20	高次偏導関数(2)	・2変数関数のテイラー展開	第9章の問題
21	偏微分の応用(1)	・2変数関数の極値問題	第9章の問題
22	偏微分の応用(2)	・2変数関数の最大最小	第9章の問題
23	偏微分の応用(3)	・陰関数の定理	第9章の問題
24	偏微分の応用(4)	・条件付き極値問題	第9章の問題
25	重積分の定義(1)	・体積と重積分 ・長方形上の重積分	第10章の問題
26	重積分の定義(2)	・曲線で囲まれた領域上の重積分	第10章の問題
27	重積分の計算法(1)	・重積分と立体の体積	第10章の問題
28	重積分の計算法(2)	・ヤコビ行列式を用いた変数変換	第10章の問題
29	重積分の計算法(3)	・曲面の表面積	第10章の問題
30	重積分の計算法(4)	・ベータ関数とガンマ関数	第10章の問題

関連科目	授業は以下の科目を履修していることを前提にして進める。 微積分Ⅰ、線形代数Ⅰ、線形代数Ⅱ  以下の科目の講義は微積分Ⅰの知識とスキルを前提にして授業が進められる。 工業数学Ⅰ, 工業数学Ⅱ, 代数学, 幾何学Ⅱ, 解析学 上記科目を受講する予定の学生は微積分Ⅰを履修すること
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	微積分の基礎—理工系学生に向けて—	寺本恵昭	共立出版
	2			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法 (基準)	小テスト 30%、習熟度確認テスト 35%、期末テスト 35%で判定し評価する。
学生への メッセージ	3号館3階準備室に数学教員がいますのでどんな質問でも良いから来て下さい。数学は特に積み重ねが肝心の科目です。諦めずに続けましょう。
担当者の 研究室等	3号館3階 数学研究室
備考	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。

科目名	物理学 I	科目名 (英文)	Physics I
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	長島 健
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	物理学は力学とともに理工系大学教育において、極めて重要な基礎科目である。授業はさまざまな物理現象を基本原理から丁寧に講義する。物理学 I では熱、光を軸として、力学や電磁気とも関連した物理学の基礎を総合的に学ぶ。
到達目標	熱および光の性質を基本原理から習得する。 学科の学習・教育到達目標との対応：A科 [D]
授業方法と留意点	教科書とプリントを用いて授業を行なう。また理解を深めるため、簡単な実験を行うこともある。毎回小テストを行なうが、小テストは友達と相談したり、教科書を参照してもよいので、最後まであきらめずに考えて解くこと。
科目学習の効果 (資格)	理工系専門科目において必要不可欠な工学の基礎であり、専門で出てくる物理量の意味や相互関係の理解に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	身近な現象や技術を題材にして、物理学の重要性を説明する。	—————
2	力とエネルギー	いろいろな力と力のつりあいを理解する。力による仕事及びエネルギーの概念を習得する。	予習・小テスト復習 (0.5 時間以上)
3	力学と熱	ジュールの実験を学び、力学的エネルギーと熱エネルギーの関係を理解する。	予習・小テスト復習 (0.5 時間以上)
4	熱の基本的性質	熱量及び比熱について学ぶ。熱の移動を熱量を用いて表す方法を習得する。	予習・小テスト復習 (0.5 時間以上)
5	熱力学の法則	熱力学の基礎となる熱力学第一法則及び気体法則を学ぶ。	予習・小テスト復習 (0.5 時間以上)
6	熱機関(1)	熱から力学的エネルギーを取り出すための熱機関の基礎となるカルノーサイクルを学ぶ。	予習・小テスト復習 (0.5 時間以上)
7	熱機関(2)	熱機関の熱効率を学ぶ。熱効率を決定する要因を理解する。	予習・小テスト復習 (0.5 時間以上)
8	熱と光	高熱の物体から放射される光を手がかりにして、熱と光の関係を学ぶ。	予習・小テスト復習 (0.5 時間以上)
9	光の屈折	光の直進性及び境界での光の屈折をホイヘンスの原理をもとに理解する。	予習・小テスト復習 (0.5 時間以上)
10	分光と光の干渉	光の成分とそれらを分解する分光について学ぶ。光が波であるために生じる性質である干渉について学ぶ。	予習・小テスト復習 (0.5 時間以上)
11	光の反射・集光	鏡及びレンズを題材に光の伝わりかたについて学ぶ。	予習・小テスト復習 (0.5 時間以上)
12	光と電磁波	光と電磁波について学ぶ。波長による光の分類及び各領域の特徴を習得する。	予習・小テスト復習 (0.5 時間以上)
13	光と電磁気学	光あるいは電磁波と家庭等で利用している交流電源の類似性を学ぶ。直流の電池との違いを理解する。	予習・小テスト復習 (0.5 時間以上)
14	熱及び電力の利用	電気エネルギーを他の形態のエネルギーに変換できることを理解する。高効率な電力利用のための仕組みを学ぶ。	予習・小テスト復習 (0.5 時間以上)
15	まとめ	—————	—————

関連科目 物理学 II、力学 I、物理学実験

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	やさしい基礎物理	潮秀樹、上村 洸	森北出版
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	定期試験と小テストにより行う。 定期試験 70%、小テスト 30%
学生へのメッセージ	この授業内容は、中学や高校における「試験用の物理」とは全く異なる「専門につながる基礎」なので、苦手意識をもたずに授業にのぞんでください。
担当者の研究室等	8号館 2階 長島研究室 オフィスアワー 火曜日 5 限目
備考	

科目名	物理学Ⅱ	科目名(英文)	Physics II
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	前田 純一郎
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	物理学は自然現象や理工系学部の専門科目を理解する上で、極めて重要な基礎科目であり、現代の科学技術の基礎をなしている。本講義では身近な物理現象の紹介とその成り立ちについて基本的な法則から説明する。特に、力学、熱学、光学および電磁気学に関する物理学の基本的原理や法則の相互関係を概説し、物理現象を総括的にかつ定量的に取り扱う方法を学ぶ。
到達目標	建築・都市工学技術者として必要な専門知識の理解を深めるために、数学や物理学などの基礎的な考え方が説明でき、それらを活用できる。 学科の学習・教育到達目標：A科 [D]
授業方法と留意点	教科書と小テストを用いて授業をすすめる。ほぼ毎回小テストを行なうが、小テストは友達と相談したり、教科書を参照してもよいので、最後まであきらめずに考えて解くこと。
科目学習の効果(資格)	理工系専門科目において必要不可欠な工学の基礎であり、専門で出てくる物理量の意味や相互関係の理解に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	身の周りの現象と物理学	身近なところで活躍する物理学	———
2	時間変化と速度、加速度	位置の時間変化から、速度や加速度が定義される	予習・復習課題1 時間に関する微分法
3	運動の法則	運動の三法則	予習・復習課題2 運動方程式を導く
4	つり合いの状態	運動方程式の解法を学んだのち、物体がつり合っている状態での運動方程式を理解する	予習・復習課題3 運動方程式を解く
5	力学的エネルギー	空間と力との関係から、エネルギーという新たな量を理解する	予習・復習課題4 エネルギー保存則
6	電荷と力	力学と電気の関係：クーロンの法則	予習・復習課題5 万有引力以外の力
7	電荷の運動(質点の力学)	ミリカンの実験・ブラウン管における電荷の運動	予習・復習課題6 電場中での荷電粒子の運動
8	電流と電圧(簡単な回路)	電圧、電流、抵抗及び消費電力について説明する	予習・復習課題7 オームの法則
9	電磁誘導(磁石と力)	磁石と力、モーターと発電機	予習・復習課題8 電場と磁場の違い
10	直流と交流	家庭用電源と電池の原理と役割、簡単な回路	予習・復習課題9 直流電流と交流電流の用途
11	電気エネルギーと熱エネルギー	電気エネルギーと熱エネルギーの関係	予習・復習課題10 電気を熱に変換したときのエネルギー保存則
12	光の性質：電磁波	折れ曲がる電磁波と光	予習・復習課題11 重ね合わせの原理
13	光の性質：粒子	光の粒子性とエネルギー	予習・復習課題12 光電効果
14	物理学とエネルギー	エネルギーの変換と効率化(力学、電磁気、熱、光の融合)	予習・復習課題13 さまざまなエネルギー
15	おわりに	講義のまとめ	———

関連科目	力学Ⅰ・Ⅱ, 物理学Ⅰ, 物理学実験
------	--------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	やさしい基礎物理	潮 秀樹, 上村 洸	森北出版
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	期末試験(70%)と小テスト(30%)の割合で評価する。
----------	------------------------------

学生へのメッセージ	数学や物理は単に「試験問題」と考えると難しく思われがちですが、自然現象や経験をもとに考えると難しくありません。この授業は、中学や高校における「試験用の物理」とは全く異なる「専門につながる基礎」なので、苦手意識をもちずに授業にのぞんでください。
-----------	---

担当者の研究室等	8号館2階 物理準備室
----------	-------------

備考	教科書や授業当日の配布されるプリントを1時間以上かけて丁寧に読み直すこと。理解出来なかった点を洗い出し、可能な限り次の授業にて質問したうえで、さらなる知識を積み上げること。
----	--

科目名	物理学実験	科目名(英文)	Experiments in Physics
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	東谷 篤志
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	この実験科目は、自然科学の基本である「物理学」を、実際の測定やデータ解析を通して理解し、さらに物理現象をより深く観察・認識する科目である。よって、いろいろな装置を活用して、一連の内容の基本的演習および計測方法を学ぶ。
到達目標	以下の項目の理解を目標とする。1) 国際単位系(SI), 2) 各テーマの物理的内容, 3) 物理計測機器の取り扱い法, 4) 物理測定方法, 5) 誤差の考え方と取り扱い方。 学科の学習・教育目標との対応: [D](A科), [B](R科)
授業方法と留意点	2~3人で1つの班が編成されるが、各班は順番表に従って週に1回(2時限)の実験を行い、レポートを提出する。
科目学習の効果(資格)	この科目では、事実・現象・測定等の実体験を通して、すじ道を立てて考える科学的な思考法を養う。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	物理学実験に向けて	「実験」に関するガイダンス、および有効数字、誤差についての講義を行う。技術者・研究者の行動規範、倫理を身につける。	_____
2	サールの装置によるヤング率の測定	サールの装置を用いて、2本の針金(真ちゅう線・ピアノ線)のヤング率を求める。	事前報告書およびレポート課題
3	熱の仕事当量Jの測定	電流の発熱作用により、熱量計の中の水の温度上昇から熱の仕事当量Jを求める。	事前報告書およびレポート課題
4	電子の比電荷の測定	電子が磁場内で円運動する状態を観察し、電子の比電荷 e/m の値を求める。	事前報告書およびレポート課題
5	分光実験	分光計を用いて、葉緑素の光吸収スペクトルを求める。	事前報告書およびレポート課題
6	プランク定数の測定	光電効果の現象を通して、光量子の概念を理解し、プランク(Planck)定数 h の値を測定する。	事前報告書およびレポート課題
7	ボルダの振り子による重力加速度の測定	ボルダの振り子を用いて、当実験室での重力加速度の値を求める。	事前報告書およびレポート課題
8	直流回路と交流回路	簡単な直流回路と交流回路を通じて、その動作原理を理解し、未知の抵抗の抵抗値を求める。	事前報告書およびレポート課題
9	低温の世界	低温では物質の性質が劇的に変化する。本実験では低温におけるさまざまな現象について体験を通して理解する。	事前報告書およびレポート課題
10	光の回折の実験	レーザーと回折格子を用いて、回折格子の間隔と回折角との関係を調べ、回折格子の間隔の値を求める。	事前報告書およびレポート課題
11	ねじれ振り子による剛性率の測定	ねじれ振り子の周期、金属製円環のサイズ、ピアノ線の直径等を測定し、これらの測定結果からピアノ線の剛性率を求める。	事前報告書およびレポート課題
12	コールラウシュブリッジによる電解質溶液の抵抗測定	コールラウシュブリッジを用い、電気伝導率が既知の電解質溶液から容器定数を求め、未知の電解質溶液の電気伝導率を測定する。	事前報告書およびレポート課題
13	電磁波の実験	電磁波に関する種々の基本的測定から、電磁波の周波数や偏向特性を調べる。	事前報告書およびレポート課題
14	レンズの焦点距離の測定	凸レンズおよび凹レンズの焦点距離の測定法を学び、レンズの特性を理解する。	事前報告書およびレポート課題
15	速度と加速度	ストロボ撮影により、自由落下現象を観察し、速度と加速度を理解し、重力加速度を求める。	事前報告書およびレポート課題

関連科目 基礎力学演習、物理学Ⅰ・Ⅱ、力学Ⅰ・Ⅱ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	物理学実験	基礎理工学機構	
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	やさしい基礎物理	潮秀樹、上村洗	森北出版
2	第3版 物理学基礎	原 康夫	学術図書出版	
3				

評価方法(基準) 1) 実験は講義と異なり、皆出席を前提とする。2) レポートの提出がない場合、実験をしていないものとみなすので必ず提出すること。3) レポートの内容と理解度(50%)、測定態度と試験実験の結果(50%)の総合的な観点から評価する。

学生への 1) 実験は自然科学の基本です。この物理学実験でおおいに物理学を実体験して下さい。2) 質問がある場合、担当の先生に遠慮なく質問してください。

メッセージ	ださい。3) 授業時間外の場合は、担当の先生の研究室へ訪ねてみて下さい。
担当者の研究室等	1号館2階 物性物理研究室(2)
備考	毎回レポート提出が課せられている。 自らが行う実験の事前学習として、1時間以上をかけて教科書を読み、1) 実験の目的、2) 理論的背景、3) 実験手順を提出レポートにまとめ たうえで授業に参加すること。

科目名	保存再生論	科目名(英文)	Building Renovation
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	加藤 俊明
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	<p><b>【授業概要・目的】</b>          ストックとしての建築と保存再生行為の社会の中での位置づけを認識する。          授業で得た包括的知識を基にして、建築物の効果的な運用（保存再生と資産活用）ができるようにする。</p>
到達目標	<p>保存再生の大切さ、難しさ、楽しさなどについて理解を深め、社会ニーズに対して適切な対応ができる知識を養う。          保存再生行為の具体的な方法を体得して生産現場（保存再生計画・設計・施工）において活用できるようにする。          学科の学習・教育到達目標との対応：[H]</p>
授業方法と留意点	<p>講義の表題：          各授業には講義全体の体系を提示した上で、各々の授業の位置づけを明確にして順次説明する。          重要要件のキーワード化：          保存再生に関連する要件を総合的に把握できるように、社会的、経済的視野にも注意をはらいながら、重要要件のキーワードを設定し、見える化を図る。          生産についての具体的な理解：          ささまざまな事例を駆使して、生産現場での多様性を理解し、保存再生の具体的な把握ができるようにする。          双方向の学習：          授業の内容について、学生との折々の対話をとおして、言葉としての知識でなく、体感</p>
科目学習の効果(資格)	<p>実務についたとき、実際の建築改修業務（保存再生）を合理的に順序立てて対応できる。          建築仕上診断技術者（ビルディングドクター&lt;非構造&gt;）(社)建築・設備維持保全協会)などの受講知識を深めることができる。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の目的と講義全体について包括的に説明 学生の関心事、学びたいことなどフリートーク	各自の経験に基づくフリートークを通じて保存再生に向き合う
2	保存再生の概要と社会的位置付け	保存再生についての一般的概念の把握 (美術品・工芸品 古建築 街並み 施設建築 住宅) 建築界での保存再生の状況・種類の概要 (街並み保存 景観 古民家再生 住宅と施設建築の改修改築)	ガイダンスの保存再生の体系把握に従い各自の興味ある事柄を見つける
3	最近の建築技術と改修 1	建築経済の動向と最近の新技术、重要技術の概要を学ぶ ユニヴァーサルデザイン 耐震改修・耐震補強(耐震診断) 一耐震 免震 制震 建築のリサイクル ストックマネジメント スケルトン インフィル住宅 コンバージョン 長期優良住宅	ガイダンスにつづき、今回の授業も勘案し、興味のある項目を見つける 次回の授業で発表する
4	最近の建築技術と改修 2	同上つづき	興味ある項目の提示
5	改修工事の着眼点	公共建築改修工事標準仕様書 の内容を軸にして、工事の問題点 注意事項を学ぶ	各自の経験に基づく改修、改善経験を持ち寄る そこに存在する疑問点を掘り下げて講義する
6	改修計画・改修工事の進め方	計画・設計 工事の実際 工程計画策定の要点 改修工事工程の解説 ・一般施設 ・専門店、スーパーマーケット ・立地条件の制約 ・長期修繕計画	第1～6回の授業内容要点を復習する 次回の中間考査に備えて準備する
7	中間考査	第1～6回の授業内容の理解度を確認して後半の授業に役立てる 問題提示 4者択一 10問 小論文	出題された重点的項目について知識を深める
8	保存再生の実例1	事例提示説明 ?某銀行女子寮 ?オフィスビル	事例説明に現れたキーワードについて第10回の計画演習において活用できるようにする
9	保存再生の実例2	事例提示説明 ?耐震・免震改修 ?民家 京都北山民家	同上
10	改修工事計画演習	工事計画について講師のガイドラインに従って各自の工夫を表現する 計画上の基本事項は講義時間のなかでまとめる	各自1週間で内容をまとめる
11	計画演習課題の提出 発表	各自の計画趣旨説明 意見交換	自己の気づかないナイスアイデアを取得する
12	改修工事事例の実際	ケーススタディ (現場見学あるいは第8・9回の実例について細部解説)	第11回の計画演習と照らして知識を深める
13	健全な建物を目指して1	長持ちのする建物の注意点の概説<欠陥を回避する建物>の概説 基礎 躯体 (構造) 仕上げ (外装 内装) 設備	あらかじめ建物の欠陥などについて身近な体験を用意する (なぜ、どうしてから入る)
14	健全な建物を目指して2	同上	重要事項・をクローズアップ 期末考査に準備喚起
15	総括一保存再生実務に向け	保存再生の重要ポイント・キーワード再	各自 講義全般あるいは第13回 14回で特に



	て	確認 興味、疑問点、問題点を相互に提示し、 来たるべき実務への連携を目指す	興味を感じたこと、疑問点を用意する	
関連科目	建築材料Ⅰ・Ⅱ 建築施工Ⅰ・Ⅱ その他構造関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	建築再生の進め方—ストック時代の建築学入門	松村秀一（編著）	市ヶ谷出版
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	建築士定期講習テキスト	(財) 建築技術教育普及センター	
	2	公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）	国土交通省大臣官房官庁営繕部 監修	(財) 建築安全センター
	3			
評価方法 (基準)	<p>1. 期末試験成績評価</p> <p>2. 講義の中盤で行う中間考査の内容評価 上記項目を成績評価の対象とする。 (期末試験成績評価を50%、中間考査の内容評価を50%を目安とする。)</p> <p>第11回の改修工事計画・演習の結果は原則的に練習と位置づけるが、特に優れたレポートを提出した学生には総合評価に組み入れて対応する。</p>			
学生への メッセージ	保存再生の大切さ・難しさ・面白さ・楽しさを疑似体験してほしい。 実務に直面したとき、困難な課題にまっすぐに向かって行くことができるよう、基礎知識を体得するとともに、保存再生の生産における重要性を体得していただきたい。			
担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師室			
備考	教科書は適切なものを検討中 3月末ごろを期して、策定したい。 事前学習：事後学習欄に示した内容について、毎回1.5時間以上かけて取り組む			

科目名	ユニバーサルデザイン	科目名(英文)	Universal Design
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	大谷 由紀子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	すべての人が安全で平等、かつ、快適な生活空間の計画に必要なユニバーサルデザインの基本的な考え方を学ぶ。また、建築都市計画における人からのアプローチ、および「モノ」や「空間」デザインへの適用に関する方法や実践事例を学ぶ。
到達目標	バリアフリーやユニバーサルデザインに関する基本的な概念、および、事例をととして計画手法を理解する。 学科の学習・教育目標との対応：[F]
授業方法と留意点	ノート講義方式を基本とし、各種事例の提示や疑似体験、課題を通じて、一般的な方法論の理解にとどまらず、身近な生活空間からユニバーサルデザインへの理解を促す。
科目学習の効果(資格)	1級・2級建築士・インテリアコーディネータ・インテリアプランナー・福祉住環境コーディネーターなど

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	生活環境の変化	社会の変化と人々の生活環境の変化	予習または復習課題(1)
2	バリアフリーとユニバーサルデザイン	バリアの意味と種類、ユニバーサルデザインの考え方と原則	予習または復習課題(2)
3	住まいの安全	身体寸法、動作、心身機能と安全な住まい	予習または復習課題(3)
4	居住空間とユニバーサルデザイン1	高齢期の変化と生活支援	予習または復習課題(4)
5	居住空間とユニバーサルデザイン2	高齢期の住まいの考え方	予習または復習課題(5)
6	居住空間とユニバーサルデザイン3	高齢期の住まいの展開と最新動向	予習または復習課題(6)
7	居住空間とユニバーサルデザイン4	様々な障害と住まいの計画	予習または復習課題(7)
8	中間テスト	第1回から第7回の学習内容のまとめと習得状況の確認	これまでの内容の復習
9	児童福祉とこどもの空間1	こどもの特性と生活空間の計画	予習または復習課題(8)
10	児童福祉とこどもの空間2	こどもの育ちと児童福祉施設の計画	予習または復習課題(9)
11	公共空間とユニバーサルデザイン1	歩行空間、交通施設の計画	予習または復習課題(10)
12	疑似体験	高齢者、妊婦、車いす等の体験	予習または復習課題(11) 予習0.5h、復習0.5h
13	疑似体験	高齢者、妊婦、車いす等の体験	予習または復習課題(12)
14	公共空間とユニバーサルデザイン2	公共空間におけるサインの役割と計画	予習または復習課題(13)
15	福祉のまちづくり	安心安全とまちづくり	

関連科目	設計演習Ⅰ、Ⅱa、Ⅱb、Ⅲa、Ⅲb、建築計画基礎、建築計画各論、インテリア概論など
------	---

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ユニバーサルデザインの教科書	中川聡	日経BP社
2	建築・都市のユニバーサルデザイン	田中直人	彰国社
3	高齢社会に生きる	上野淳	鹿島出版会

評価方法(基準)	中間試験(30%)、期末試験(40%)、復習・予習課題(30%)の合計100点満点の60点以上を合格とする。
----------	--

学生へのメッセージ	身近な建築・都市空間を多様な人々の視点から見直してください。問題意識をもって見ると、これまで気づけなかった問題に気付きます。そして、それがなぜ問題なのかを考えてください。これらの気づきが大学での学びを深めます。
-----------	---

担当者の研究室等	8号館3階 大谷准教授室
----------	--------------

備考	事前学習：授業テーマに即して毎回0.5時間程度、文献や事例を調べておく 事後学習：授業内容について毎回0.5時間以上確認、または、課題を行う 疑似体験は体験グッズを借りるため、実施日程が変更になる場合もある。詳細は授業で伝達する。
----	---

科目名	力学 I	科目名 (英文)	Mechanics I
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1 年	クラス	X
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松尾 純子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	物理学は現在の科学技術において基礎となる学問である。この物理学の基礎分野の大きな柱の一つである力学は、理工学部のものづくりを基本とする専門科目を理解するための必要不可欠なものとなる。力学 I では物体の形や大きさを考慮しない質点系の運動について講義を行う。
到達目標	到達目標：運動の記述におけるニュートンの運動方程式と運動量・エネルギー保存則を理解する。 学科の学習・教育到達目標との対応：A科 [D]
授業方法と留意点	講義は主として教科書に沿って行い、授業後にはプリントを配布する。プリントは教科書と授業を参照すれば理解できるので最後まであきらめずに考えて解くこと。
科目学習の効果 (資格)	今後の専門科目で出てくる物理量の意味や色々な物理量の相互関係の理解に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
			1
2	ベクトルの基礎	ベクトルの和・積、そして分解・合成について説明を行う。	課題プリント 2 事前の授業内容に関する教科書の通読および事後の課題プリントの復習 (1h 以上)
3	ベクトルの座標表示とスカラー積	ベクトルを表示するために直交座標を導入する。そしてベクトルのスカラー積についての説明を行う。	課題プリント 3 事前の授業内容に関する教科書の通読および事後の課題プリントの復習 (1h 以上)
4	微分とベクトルに対する微分	力学に必要な数学的な微分を説明し、それをベクトルに拡張する。そして位置ベクトルの時間微分についての説明を行う。	課題プリント 4 事前の授業内容に関する教科書の通読および事後の課題プリントの復習 (1h 以上)
5	位置ベクトルの微分と速度ベクトル	平均の速度と瞬間の速度との違いを示し、位置ベクトルの微分と速度の関係の説明を行う。また、速さと速度の違いについて説明を行う。	課題プリント 5 事前の授業内容に関する教科書の通読および事後の課題プリントの復習 (1h 以上)
6	加速度と運動の法則	速度ベクトルの微分が瞬間の加速度であることを理解するために、速度の時間的変化についての説明を行う。	課題プリント 6 事前の授業内容に関する教科書の通読および事後の課題プリントの復習 (1h 以上)
7	重力	運動の三つの法則についての説明を行い、ニュートンの万有引力の法則について説明する。	課題プリント 7 事前の授業内容に関する教科書の通読および事後の課題プリントの復習 (1h 以上)
8	運動方程式	自由落下や放物線運動を基礎としてニュートンの第二法則である運動方程式の作り方を説明する。	課題プリント 8 事前の授業内容に関する教科書の通読および事後の課題プリントの復習 (1h 以上)
9	垂直抗力と摩擦	垂直抗力と摩擦について説明し、釣り合っている状態での運動方程式を理解する。	課題プリント 9 事前の授業内容に関する教科書の通読および事後の課題プリントの復習 (1h 以上)
10	ばねからの力と単振動	ばねによる単振動、さらに円運動と単振り子について説明を行う。	課題プリント 10 事前の授業内容に関する教科書の通読および事後の課題プリントの復習 (1h 以上)
11	運動量と力積	運動量を定義し、衝撃力による物体の運動を理解するために、物体の運動量変化と力積についての説明を行う。また、運動量の保存則を説明する。	課題プリント 11 事前の授業内容に関する教科書の通読および事後の課題プリントの復習 (1h 以上)
12	仕事とエネルギー	空間と力の内積から仕事(エネルギー)を定義し、仕事移動経路に依存することを示す。	課題プリント 12 事前の授業内容に関する教科書の通読および事後の課題プリントの復習 (1h 以上)
13	運動エネルギーと位置エネルギー	運動エネルギーと位置エネルギーについて説明を行う。さらにポテンシャルエネルギー(位置エネルギー)について説明を行う。	課題プリント 13 事前の授業内容に関する教科書の通読および事後の課題プリントの復習 (1h 以上)
14	エネルギー保存則	運動エネルギーと位置エネルギーの和が保存することを説明する。	課題プリント 14 事前の授業内容に関する教科書の通読および事後の課題プリントの復習 (1h 以上)
15	まとめ	講義のまとめ	事後の授業内容の復習 (1h 以上)

関連科目 微積分 I・II、線形代数 I・II、力学 II、物理学実験

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	やさしい基礎物理	潮 秀樹、上村 洸	森北出版
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	評価は期末試験と小テストにて行う。 定期試験70%、小テスト30%
学生への メッセージ	力学Ⅰの考え方や物事の捉え方は、これから学ぶ専門科目で役に立ちますので、できるだけ授業に集中してください。また、力学Ⅰでは微分・積分の知識も必要となりますが、授業で力学Ⅰに必要な微分・積分について簡単に講義しますので、数学の苦手な方も不安にならずに履修してください。
担当者の 研究室等	8号館2階 物理準備室
備考	

科目名	力学 I	科目名 (英文)	Mechanics I
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1 年	クラス	Y
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	東谷 篤志
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	物理学は現在の科学技術において基礎となる学問である。この物理学の基礎分野の大きな柱の一つである力学は、理工学部のものづくりを基本とする専門科目を理解するための必要不可欠なものとなる。力学 I では物体の形や大きさを考慮しない質点系の運動について講義を行う。
到達目標	運動の記述におけるニュートンの運動方程式と運動量・エネルギー保存則を理解する。 学科の学習・教育到達目標との対応：A科 [D]
授業方法と留意点	講義は主として教科書に沿って行い、授業後にはプリントを配布する。プリントは教科書と授業を参照すれば理解できるので最後まであきらめずに考えて解くこと。
科目学習の効果 (資格)	今後の専門科目で出てくる物理量の意味や色々な物理量の相互関係の理解に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	ベクトルの基礎	ベクトルの和・積、そして分解・合成について説明を行う。	課題プリント 2: ベクトルと位置 事前の授業内容に関する教科書の通読および事後の課題プリントの復習 (1h 以上)
3	ベクトルの座標表示とスカラー積	ベクトルを表示するために直交座標を導入する。そしてベクトルのスカラー積についての説明を行う。	課題プリント 3: ベクトルとスカラー積 事前の授業内容に関する教科書の通読および事後の課題プリントの復習 (1h 以上)
4	微分とベクトルに対する微分	力学に必要な数学的な微分を説明し、それをベクトルに拡張する。そして位置ベクトルの時間微分についての説明を行う。	課題プリント 4: 微分 事前の授業内容に関する教科書の通読および事後の課題プリントの復習 (1h 以上)
5	位置ベクトルの微分と速度ベクトル	平均の速度と瞬間の速度との違いを示し、位置ベクトルの微分と速度の関係の説明を行う。また、速さと速度の違いについて説明を行う。	課題プリント 5: 速度 事前の授業内容に関する教科書の通読および事後の課題プリントの復習 (1h 以上)
6	加速度と運動の法則	速度ベクトルの微分が瞬間の加速度であることを理解するために、速度の時間的変化についての説明を行う。	課題プリント 6: 加速度と位置ベクトル 事前の授業内容に関する教科書の通読および事後の課題プリントの復習 (1h 以上)
7	重力	運動の三つの法則についての説明を行い、ニュートンの万有引力の法則について説明する。	課題プリント 7: 力と重力と万有引力と重力 事前の授業内容に関する教科書の通読および事後の課題プリントの復習 (1h 以上)
8	運動方程式	自由落下や放物線運動を基礎としてニュートンの第二法則である運動方程式の作り方を説明する。	課題プリント 8: 運動方程式 事前の授業内容に関する教科書の通読および事後の課題プリントの復習 (1h 以上)
9	垂直抗力と摩擦	垂直抗力と摩擦について説明し、釣り合っている状態での運動方程式を理解する。	中間確認小テスト 事前の授業内容に関する教科書の通読 (0.5h 以上)
10	ばねからの力と単振動	ばねによる単振動、さらに円運動と単振り子について説明を行う。	課題プリント 9: 円運動と単振動 事前の授業内容に関する教科書の通読および事後の課題プリントの復習 (1h 以上)
11	運動量と力積	運動量を定義し、衝撃力による物体の運動を理解するために、物体の運動量変化と力積についての説明を行う。また、運動量の保存則を説明する。	課題プリント 10: 運動量と力積 事前の授業内容に関する教科書の通読および事後の課題プリントの復習 (1h 以上)
12	仕事とエネルギー	空間と力の内積から仕事(エネルギー)を定義し、仕事が移動経路に依存することを示す。	課題プリント 11: 仕事とエネルギー 事前の授業内容に関する教科書の通読および事後の課題プリントの復習 (1h 以上)
13	運動エネルギーと位置エネルギー	運動エネルギーと位置エネルギーについて説明を行う。さらにポテンシャルエネルギー(位置エネルギー)について説明を行う。	課題プリント 12: 運動エネルギーと位置エネルギー 事前の授業内容に関する教科書の通読および事後の課題プリントの復習 (1h 以上)
14	エネルギー保存則	運動エネルギーと位置エネルギーの和が保存することを説明する。	課題プリント 13: 運動量とエネルギー保存則 事前の授業内容に関する教科書の通読および事後の課題プリントの復習 (1h 以上)
15	まとめ	講義のまとめ	事後の授業内容の復習 (1h 以上)

関連科目 微積分 I・II、線形代数 I・II、力学 II、物理学実験

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	やさしい基礎物理	潮 秀樹、上村 洸	森北出版
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	評価は期末試験と小テストにて行う。 定期試験70%、小テスト30%
学生への メッセージ	力学Iの考え方や物事の捉え方は、これから学ぶ専門科目で役に立ちますので、できるだけ授業に集中してください。また、力学Iでは微分・積分の知識も必要となりますが、授業で力学Iに必要な微分・積分について簡単に講義しますので、数学の苦手な方も不安にならずに履修してください。
担当者の 研究室等	1号館2階 物性物理研究室(2)
備考	

科目名	力学Ⅱ	科目名(英文)	Mechanics II
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	X
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松尾 純子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	現代の科学技術の基礎には物理学があり、さらにその基礎には力学がある。力学は工学の基礎となる科目であり、理工学部専門科目を理解する上で必要不可欠である。力学Ⅱでは、剛体の力学について学ぶ。ここでは剛体の運動を理解するために、力のモーメント(回転力もしくはトルクと呼ぶ)そして角運動量という新しい概念を習得する。
到達目標	建築・都市工学技術者として必要な専門知識の理解を深めるために、数学や物理学などの基礎的な考え方が説明でき、それらを活用できる。 学科の学習・教育到達目標との対応：A科 [D]
授業方法と留意点	教科書と小テストを用いて授業をすすめる。ほぼ毎回小テストを行なうが、小テストは友達と相談したり、教科書を参照してもよいので、最後まであきらめずに考えて解くこと。
科目学習の効果(資格)	理工学の基礎として、専門に出てくる物理量の意味や色々な物理量の相互関係の理解に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	力学Ⅰの復習	質点の力学について復習する。	———
2	力のモーメントの基礎	てこの原理について学ぶ	予習・復習課題1 力のモーメントの理解
3	力のモーメントのつりあい	シーソー、天秤のつりあいについて学ぶ	予習・復習課題2 剛体が回転しないための条件を求める
4	力のモーメントと並進・回転運動	並進、回転運動の静止条件から物体のつりあいについて考える	予習・復習課題3 剛体が動かないための条件を求める
5	重心とモーメント	重心の意味を理解し、様々な図形の重心の位置を求める	予習・復習課題4 様々な図形での重心点を求める
6	数学的準備(1)	回転運動を表現する上で重要なラジアン表記、角速度、角加速度について学ぶ	予習・復習課題5 ラジアン表記と角度の時間変化
7	数学的準備(2)	回転運動を表現する上で重要な外積について学ぶ	予習・復習課題6 ベクトルの外積演算
8	角運動量	角運動量保存則について学ぶ	予習・復習課題7 角運動量保存則を導く
9	慣性モーメントの基礎	慣性モーメントについて定性的に理解をし、慣性モーメントと角運動量の関係について学ぶ	予習・復習課題8 剛体の運動方程式を解く
10	棒の慣性モーメント	棒状の慣性モーメントについて説明する	予習・復習課題9 慣性モーメントを計算する1
11	板の慣性モーメント	板状の慣性モーメントについて説明する	予習・復習課題10 慣性モーメントを計算する2
12	円盤の慣性モーメント	円盤状の慣性モーメントについて説明する	予習・復習課題11 慣性モーメントを計算する3
13	平行軸の定理、直行軸の定理	慣性モーメントの便利な計算方法について説明する	予習・復習課題12 慣性モーメントを計算する4
14	剛体の平面運動	剛体の一般的な運動について考える	予習・復習課題13 円柱体の転がりの問題を解く
15	剛体の力学のまとめ	剛体の運動についてのまとめ	———

関連科目 微積分Ⅰ, 線形代数Ⅰ, 力学Ⅰ, 物理学実験

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	やさしい基礎物理	潮秀樹, 上村洗	森北出版
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準) 期末試験(70%)と小テスト(30%)の割合で評価する。

学生へのメッセージ 数学や物理は単に「試験問題」と考えると難しく思われがちですが、自然現象や経験をもとに考えると難しくありません。この授業は、中学や高校における「試験用の物理」とは全く異なる「専門につながる基礎」なので、苦手意識をもちずに授業にのぞんでください。

担当者の研究室等 8号館2階 物理準備室

備考 教科書や授業当日の配布されるプリントを1時間以上かけて丁寧に読み直すこと。理解出来なかった点を洗い出し、可能な限り次の授業にて質問したうえで、さらなる知識を積み上げること。



科目名	力学Ⅱ	科目名(英文)	Mechanics II
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	前田 純一郎
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	現代の科学技術の基礎には物理学があり、さらにその基礎には力学がある。力学は工学の基盤となる科目であり、理工学部専門科目を理解する上で必要不可欠である。
到達目標	力学Ⅱでは、剛体の力学について学ぶ。ここでは剛体の運動を理解するために、力のモーメント（回転力もしくはトルクと呼ぶ）そして角運動量という新しい概念を習得する。 A科の学習・教育到達目標との対応：D C科の学習・教育到達目標との対応：IV
授業方法と留意点	教科書と小テストを用いて授業をすすめる。ほぼ毎回小テストを行なうが、小テストは友達と相談したり、教科書を参照してもよいので、最後まであきらめずに考えて解くこと。
科目学習の効果(資格)	理工学の基礎として、専門に出てくる物理量の意味や色々な物理量の相互関係の理解に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
			—————
1	力学Ⅰの復習	質点の力学について復習する。	—————
2	力のモーメントの基礎	てこの原理について学ぶ	予習・復習課題1 力のモーメントの理解
3	力のモーメントのつりあい	シーソー、天秤のつりあいについて学ぶ	予習・復習課題2 剛体が回転しないための条件を求める
4	力のモーメントと並進・回転運動	並進、回転運動の静止条件から物体のつりあいについて考える	予習・復習課題3 剛体が動かないための条件を求める
5	重心とモーメント	重心の意味を理解し、様々な図形の重心の位置を求める	予習・復習課題4 様々な図形での重心点を求める
6	数学的準備(1)	回転運動を表現する上で重要なラジアン表記、角速度、角加速度について学ぶ	予習・復習課題5 ラジアン表記と角度の時間変化
7	数学的準備(2)	回転運動を表現する上で重要な外積について学ぶ	予習・復習課題6 ベクトルの外積演算
8	角運動量	角運動量保存則について学ぶ	予習・復習課題7 角運動量保存則を導く
9	慣性モーメントの基礎	慣性モーメントについて定性的に理解をし、慣性モーメントと角運動量の関係について学ぶ	予習・復習課題8 剛体の運動方程式を解く
10	棒の慣性モーメント	棒状の慣性モーメントについて説明する	予習・復習課題9 慣性モーメントを計算する1
11	板の慣性モーメント	板状の慣性モーメントについて説明する	予習・復習課題10 慣性モーメントを計算する2
12	円盤の慣性モーメント	円盤状の慣性モーメントについて説明する	予習・復習課題11 慣性モーメントを計算する3
13	平行軸の定理、直行軸の定理	慣性モーメントの便利な計算方法について説明する	予習・復習課題12 慣性モーメントを計算する4
14	剛体の平面運動	剛体の一般的な運動について考える	予習・復習課題13 円柱体の転がりの問題を解く
15	剛体の力学のまとめ	剛体の運動についてのまとめ	—————

関連科目	微積分Ⅰ, 線形代数Ⅰ, 力学Ⅰ, 物理学実験
------	-------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	やさしい基礎物理	潮秀樹, 上村洸	森北出版
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	期末試験(70%)と小テスト(30%)の割合で評価する。
----------	------------------------------

学生へのメッセージ	力学Ⅰでは主に質点の運動を取り扱いましたが、力学Ⅱは実際の形ある物体についての運動を記述します。力学Ⅱの剛体の力学は日常の様々なところで使用されています。この授業を通して、どのようなところで剛体の力学が使用されているのか考えてみましょう。また、力学Ⅰの復習も含めて授業を行いますので、力学Ⅰを履修していない人も不安にならずに履修してください。
-----------	---

担当者の研究室等	8号館2階 物理準備室
----------	-------------

備考	教科書や授業当日の配布されるプリントを1時間以上かけて丁寧に読み直すこと。理解出来なかった点を洗い出し、可能な限り次の授業にて質問したうえで、さらなる知識を積み上げること。
----	--

科目名	理工学基礎実験	科目名 (英文)	Basic Experiments in Science and Engineering
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	池内 淳子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	身近な物理現象に接しながら、理工学に必要な基礎的計測技術を身に付けるとともに、専門分野を越えた理工学全体の基礎的な考え方を身に付ける。																
到達目標	(1)長さ、重さ、電圧・電流、圧力・温度、pHなどの基礎的な計測技術を身に付ける。 (2)工学、物理学の基礎的な考え方を実験により身に付ける。 (3)ものづくりの基本である「見る、聴く、触れる、嗅ぐ、味わう」の五感を働かせることと、よく考えて予想・考察する力を身に付ける。 (4)自らの役割に主体的に取組み、他のメンバーと協力・話し合い・働きかけて、目的を実行する能力を身に付ける。 (5)準備学習する習慣を身に付ける。 学科の学習・教育目標との対応：[D]																
授業方法と留意点	実験は4グループに別れて行う。グループ内では4～6名のチームで協力して実験を行う。時間内に実験からレポート作成まで行う。なお、17種類の実験テーマ中、15テーマをグループごとに実施する。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1回目：ガイダンス、歩測 2～15回目：下記テーマの実験、レポート作成（毎回予習レポートを課す） 実験テーマ： (1)歩測 自分の歩幅を知り、道の距離を測定する。誰が正確に測れるか？ (2)体積と重量 身の回りのさまざまなものの単位体積重量を求める。いろいろな物体の形をはかりスケッチする。 (3)浮力 浮力のメカニズムを理解する。 (4)平面図形の重心（図心） 重心を実測と計算により求める。モーメントとはなにか？ (5)力の合成 力の合成に関する法則を実証するための実験方法を考え、実験を計画する。実験装置を作り、実験を実施し、測定データをもとに法則を検証する。 (6)フックの法則 ばねに力が作用するときの変形量をはかる。フックの法則を理解する。 (7)重力加速度 重力加速度を計測する。計測精度を評価する。 (8)水平投射運動 斜面から球が水平投射されたときの球の位置などを測定する。力学的エネルギー保存則と水平投射による運動を説明する。 (9)圧力と温度 圧力と温度をはかる。圧力の作用と空気の状態変化を理解する。 (10)仕事と熱エネルギー 人の馬力をはかる。仕事と熱エネルギーを体感する。 (11)電流と電圧 簡単な電気回路を作り、テスターの使い方を知る。オームの法則、直流と交流について調べる。 (12)電池の仕組み 金属のイオン化傾向を調べ、化学電池（乾電池）の基礎を学ぶ。次世代電池の仕組みを理解する。 (13)発電機とリニアモーター 磁石を使って電気をつくり、つくった電気で磁場中の銅線を動かす。（リニアモーターと発電機） (14)光の強さと成分 いろいろな光の強さと色の成分を測定する。 (15)空気の対流 空気の対流を作り、対流内の温度差を計測することで仕組みを理解する。 (16) pHとEC 身近な環境をはかってみる。環境をはかる方法の原理を理解する。 (17)ピオトープの観察 ピオトープの環境を調べ、生物を観察する。																
関連科目	構造力学・構造基礎はじめ、建築構造系科目全般																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>理工学基礎実験</td> <td>摂南大学理工学部</td> <td>摂南大学</td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	理工学基礎実験	摂南大学理工学部	摂南大学								
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	理工学基礎実験	摂南大学理工学部	摂南大学														
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法（基準）	平常点（50%）、レポート（50%）の総合点で評価する。																
学生へのメッセージ	建築を学ぶには、物理現象に興味を抱き理解しようとするのが大切です。「理工学基礎実験」を通じて工学や物理学の基礎的な考え方を知り、理解を深めるために役立ててください。																
担当者の研究室等	8号館3階 池内准教授室 8号館3階 柳沢教授室																
備考	事前学習として、教科書を読み用紙に要約する課題を課している。毎回1時間以上をかけ、教科書をよく読み、丁寧な字できちんとした文章を書き、課題を提出すること。																

科目名	緑地計画	科目名(英文)	Landscape Design
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	吉永 規夫
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	緑地計画(造園・ランドスケープ・自然等)に関する基礎的事項を理解させるとともに、緑や自然、まちづくりへの感受性を磨く手がかりを論じる。具体的なみどりのまちづくりや建築物事例を関西を中心に紹介する。
到達目標	人の生活環境や地域の自然環境に関心を持ち必要な基礎知識を身につけることを到達目標とする。 学科の学習・教育目標との対応：[F]
授業方法と留意点	資料に基づいた具体的な造園・ランドスケープ事例を中心とした講義を行う。講義以外に、見学や調査等も行う。身近な緑や自然に関心を深めてもらうため、毎回、講義テーマに基づいたミニレポート・課題を課す。
科目学習の効果(資格)	1・2級造園施工管理技師(国土交通省)、環境再生医(自然環境復元協会)等の資格取得の参考となります。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	緑地計画概論	造園・ランドスケープの対象領域を網羅的に概説。個人庭園から都市公園・自然公園、また街路樹などの都市緑化、里山など森林の保全、ビオトープなど自然環境再生、さらにはみどりのコミュニティデザインやマネージメント等。	緑地・造園・ランドスケープについて考えたうえで、知りたい対象を報告。
2	都市の自然観察	住居地やキャンパスなど身近な自然を観察し、季節感や自然の多様性を感じる力を養う。	季節を感じる事象の写真を持参。
3	植物と植栽	一般の植物の分類、形態、生態等。造園植栽の種類等。	自宅等に植えたい植物とその理由を報告。
4	里山・里地の保全	森林・林業の現状と課題、茅葺民家の保全、農山村・里山の保全活動、ビオトープ(生物生息空間)等。	身近な自然樹林の現状調査を報告。
5	ランドスケープの歴史	近代ランドスケープの歴史とランドスケープアーキテクト等。	ランドスケープの歴史を調査し報告。
6	わが国の庭園の歴史	日本庭園、庭園材料、近代造園等。	好きな日本庭園とその理由を報告。
7	西欧の庭園の歴史	フランス整形形式庭園、イギリス風景式庭園等。	好きな洋風庭園とその理由を報告。
8	都市公園	都市公園の種類(国営・総合・地区・近隣・街区・都市緑地等)、公園配置計画、緑の基本計画、都市公園法等。	好きな都市公園とその理由を報告。
9	自然公園	自然公園の種類(国立・国定・県立)、自然環境保全法、自然公園法等。	あなたが体験した国立公園での行動事例報告。
10	公共空間とみどり	公共空間に計画されたランドスケープ事例の紹介。	公共空間に計画されたランドスケープ事例を報告。
11	居住空間とみどり	居住空間に計画されたランドスケープ事例の紹介。	居住空間に計画されたランドスケープ事例を報告。
12	みどりのまちづくり	国内外のみどりのまちづくり事例の紹介。	身近なみどりのまちづくりの事例を報告。
13	ケーススタディ(1)	寝屋川市の緑地計画や都市公園等。	寝屋川市の緑地、都市公園の事例を報告。
14	ケーススタディ(2)	大阪市の緑地計画や都市公園等。	大阪市の緑地、都市公園の事例を報告。
15	緑地計画の課題と展望	緑地計画の現状と課題と先駆的活動等。	みどりと建築の課題について考え報告。

関連科目 都市・地域計画等、特に卒業研究・設計の導入とする。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	期末試験(7割)、レポート課題(3割)の合計100点満点の60点以上を合格とする。
学生へのメッセージ	講義のなかでは、造園・ランドスケープの基礎的理解とともに、身近なみどりや地域の自然へ関心を深めるためにグループ討議・発表を行い、建築や街の中のみどりの役割について一緒に考えていきたいと思います。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	事前学習：事後学習欄に示した内容について、毎回1.5時間以上かけて取り組む



# 基礎科目



科目名	専門日本語 F I	科目名 (英文)	Japanese for Specific Purposes F I
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中岡 樹里
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	様々な状況・場面における作文を通し、相手との関係や文を書く目的、使用する媒体に応じた適切な文が書けるようになることを目指す。																																																																		
到達目標	相手との関係や文を書く目的、使用する媒体に応じて適切な文が書けるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	授業は、実践と解説を中心に行う。																																																																		
科目学習の効果(資格)	相手との関係、書く内容、使用媒体に応じた適切な文章が書けるようになる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> <td>授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用について学習する</td> <td>———</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Eメールの基本1</td> <td>Eメールの基本を学習する</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Eメールの基本2</td> <td>Eメールの基本を学習する</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Eメール1</td> <td>近況を知らせるメール</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Eメール2</td> <td>お知らせメール</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Eメール3</td> <td>お誘いメール</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Eメール4</td> <td>リマインドメール</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Eメール5</td> <td>問い合わせ/質問メール</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Eメール6</td> <td>依頼メール</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Eメール7</td> <td>アポイント/日程調整メール</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Eメール8</td> <td>お礼のメール</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Eメール9</td> <td>断りメール</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Eメール10</td> <td>クレームのメール</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>手紙</td> <td>お礼状を書く</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習・確認テスト</td> <td>総復習、確認テスト</td> <td>復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用について学習する	———	2	Eメールの基本1	Eメールの基本を学習する	復習	3	Eメールの基本2	Eメールの基本を学習する	復習	4	Eメール1	近況を知らせるメール	復習	5	Eメール2	お知らせメール	復習	6	Eメール3	お誘いメール	復習	7	Eメール4	リマインドメール	復習	8	Eメール5	問い合わせ/質問メール	復習	9	Eメール6	依頼メール	復習	10	Eメール7	アポイント/日程調整メール	復習	11	Eメール8	お礼のメール	復習	12	Eメール9	断りメール	復習	13	Eメール10	クレームのメール	復習	14	手紙	お礼状を書く	復習	15	総復習・確認テスト	総復習、確認テスト	復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用について学習する	———																																																																
2	Eメールの基本1	Eメールの基本を学習する	復習																																																																
3	Eメールの基本2	Eメールの基本を学習する	復習																																																																
4	Eメール1	近況を知らせるメール	復習																																																																
5	Eメール2	お知らせメール	復習																																																																
6	Eメール3	お誘いメール	復習																																																																
7	Eメール4	リマインドメール	復習																																																																
8	Eメール5	問い合わせ/質問メール	復習																																																																
9	Eメール6	依頼メール	復習																																																																
10	Eメール7	アポイント/日程調整メール	復習																																																																
11	Eメール8	お礼のメール	復習																																																																
12	Eメール9	断りメール	復習																																																																
13	Eメール10	クレームのメール	復習																																																																
14	手紙	お礼状を書く	復習																																																																
15	総復習・確認テスト	総復習、確認テスト	復習																																																																
関連科目	総合日本語、日本語読解、日本語会話、日本事情																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	授業への参加態度、課題などを総合的に評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な書き方を勉強しましょう。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)																																																																		
備考	(1)宿題(教員へのメール送信)は、授業中に適宜指示する。 (2)授業外の質問等については、メールで対応する。 (3)授業内容は、進度等に応じて変更する場合がある。																																																																		



科目名	専門日本語 F II	科目名 (英文)	Japanese for Specific Purposes F II
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中岡 樹里
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

基礎科目

授業概要・目的	ビジネス場面でのメール交換について解説しながら、実践を通し、状況・目的に応じて適切なビジネスメールが書けるようになることを目指す。			
到達目標	日本のビジネス場面やビジネス場面でのメール交換について理解し、状況や目的、相手に応じて適切なビジネスメールが書けるようになる。			
授業方法と留意点	授業は、講義と実践を中心に行う。			
科目学習の効果(資格)	状況や目的、相手に応じた適切なビジネスメールが書けるようになる。			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション ビジネス場面のライティング	授業の説明、 ビジネス場面でのライティングについて学習する	—————
	2	就職活動1	就職活動について学習する 履歴書を書く	復習
	3	就職活動2	自己PRを書く	復習
	4	ビジネスマナー ビジネスコミュニケーション	ビジネスマナー、ビジネス場面でのコミュニケーションについて学習する	復習
	5	ビジネスメールの基本	ビジネスメールの基本を学ぶ	復習
	6	ビジネスメール1	挨拶メール	復習
	7	ビジネスメール2	報告メール	復習
	8	ビジネスメール3	通知メール	復習
	9	ビジネスメール4	案内メール	復習
	10	ビジネスメール5	確認メール	復習
	11	ビジネスメール6	依頼メール	復習
	12	ビジネスメール7	問い合わせ/回答メール	復習
	13	ビジネスメール8	アポイントを取るメール	復習
	14	ビジネスメール9	お詫び/お礼のメール	復習
	15	総復習・確認テスト	総復習・確認テスト	復習
関連科目	総合日本語、日本語読解、日本語会話、日本事情			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	授業への参加態度、課題などを総合的に評価する。			
学生へのメッセージ	日系企業や日本国内の会社で働く際に必要な知識やビジネスメールの書き方を勉強して、就職に備えた練習をしましょう。			
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考	(1)宿題(教員へのメール送信)は、授業中に適宜指示する。 (2)授業外の質問等については、メールで対応する。 (3)授業内容は、進度等に応じて変更する場合がある。			

科目名	日本語会話 F I	科目名 (英文)	Japanese Conversation F I
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	高井 美徳
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	この授業では、「お金」「家族」「幸福」「労働」など、個人や社会の価値観にかかわるようなトピックについて、日本語で議論する能力を伸ばす。																																																																		
到達目標	抽象的な話題について、論理的に意見を述べるができるようになることを目指す。																																																																		
授業方法と留意点	統計数理研究所「日本人の国民性調査」の質問項目および結果について議論する。その過程で、意見を構成するために必要な語彙を学ぶ。																																																																		
科目学習の 効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>トピック①</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>2</td><td>トピック②</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>3</td><td>トピック③</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>4</td><td>トピック④</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>5</td><td>トピック⑤</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>6</td><td>トピック⑥</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>7</td><td>トピック⑦</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>8</td><td>中間テスト・復習</td><td>インタビュー形式によるテスト</td><td>復習</td></tr> <tr><td>9</td><td>トピック⑧</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>10</td><td>トピック⑨</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>11</td><td>トピック⑩</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>12</td><td>トピック⑪</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>13</td><td>トピック⑫</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>14</td><td>トピック⑬</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>15</td><td>まとめ</td><td>インタビュー形式によるテスト</td><td>復習</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	トピック①	議論	復習	2	トピック②	議論	復習	3	トピック③	議論	復習	4	トピック④	議論	復習	5	トピック⑤	議論	復習	6	トピック⑥	議論	復習	7	トピック⑦	議論	復習	8	中間テスト・復習	インタビュー形式によるテスト	復習	9	トピック⑧	議論	復習	10	トピック⑨	議論	復習	11	トピック⑩	議論	復習	12	トピック⑪	議論	復習	13	トピック⑫	議論	復習	14	トピック⑬	議論	復習	15	まとめ	インタビュー形式によるテスト	復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	トピック①	議論	復習																																																																
2	トピック②	議論	復習																																																																
3	トピック③	議論	復習																																																																
4	トピック④	議論	復習																																																																
5	トピック⑤	議論	復習																																																																
6	トピック⑥	議論	復習																																																																
7	トピック⑦	議論	復習																																																																
8	中間テスト・復習	インタビュー形式によるテスト	復習																																																																
9	トピック⑧	議論	復習																																																																
10	トピック⑨	議論	復習																																																																
11	トピック⑩	議論	復習																																																																
12	トピック⑪	議論	復習																																																																
13	トピック⑫	議論	復習																																																																
14	トピック⑬	議論	復習																																																																
15	まとめ	インタビュー形式によるテスト	復習																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業への取り組み、2回のテストから総合的に判断する。																																																																		
学生への メッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。																																																																		
担当者の 研究室等	国際交流センター (3号館4階)																																																																		
備考																																																																			

科目名	日本語会話 F II	科目名 (英文)	Japanese Conversation F II
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	高井 美穂
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

基礎科目

授業概要・目的	日本語会話 F I と同様、個人や社会の価値観にかかわるような話題について日本語で議論する能力を伸ばす。																																																																		
到達目標	抽象的な話題について論理的に意見を述べることができるようになることを目指す。																																																																		
授業方法と留意点	統計数理研究所「日本人の国民性調査」の質問項目のなかから、前期に扱わなかった項目およびその結果について議論する。また、その過程で、意見を構成するために必要な語彙を学ぶ。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>トピック①</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>2</td><td>トピック②</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>3</td><td>トピック③</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>4</td><td>トピック④</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>5</td><td>トピック⑤</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>6</td><td>トピック⑥</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>7</td><td>中間テスト・復習</td><td>インタビュー形式によるテスト</td><td>復習</td></tr> <tr><td>8</td><td>トピック⑦</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>9</td><td>トピック⑧</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>10</td><td>トピック⑨</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>11</td><td>トピック⑩</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>12</td><td>トピック⑪</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>13</td><td>トピック⑫</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>14</td><td>トピック⑬</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>15</td><td>まとめ</td><td>インタビュー形式によるテスト</td><td>復習</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	トピック①	議論	復習	2	トピック②	議論	復習	3	トピック③	議論	復習	4	トピック④	議論	復習	5	トピック⑤	議論	復習	6	トピック⑥	議論	復習	7	中間テスト・復習	インタビュー形式によるテスト	復習	8	トピック⑦	議論	復習	9	トピック⑧	議論	復習	10	トピック⑨	議論	復習	11	トピック⑩	議論	復習	12	トピック⑪	議論	復習	13	トピック⑫	議論	復習	14	トピック⑬	議論	復習	15	まとめ	インタビュー形式によるテスト	復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	トピック①	議論	復習																																																																
2	トピック②	議論	復習																																																																
3	トピック③	議論	復習																																																																
4	トピック④	議論	復習																																																																
5	トピック⑤	議論	復習																																																																
6	トピック⑥	議論	復習																																																																
7	中間テスト・復習	インタビュー形式によるテスト	復習																																																																
8	トピック⑦	議論	復習																																																																
9	トピック⑧	議論	復習																																																																
10	トピック⑨	議論	復習																																																																
11	トピック⑩	議論	復習																																																																
12	トピック⑪	議論	復習																																																																
13	トピック⑫	議論	復習																																																																
14	トピック⑬	議論	復習																																																																
15	まとめ	インタビュー形式によるテスト	復習																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業への取り組み、2回のインタビューテストから総合的に判断する。																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	国際交流センター (3号館4階)																																																																		
備考																																																																			





科目名	日本語読解 F I	科目名 (英文)	Japanese Reading FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中岡 樹里
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	この授業では、日本人向けに書かれた一般書を読み、表面的な意見や情報だけでなく、含意された意見や立場なども理解できるようになることを目指す。			
到達目標	読んだ内容について、表面的な意見や情報だけでなく、含意された意見や立場なども理解できるようになる。			
授業方法と留意点	授業は以下のような流れで進める。 ①文章のテーマに関する知識をクラス内で共有する。②学習目標とそれを達成するために必要なスキルを確認する。③各自で文章を読み、タスクを解く。④教員による解説を行う。⑤自己評価を行う。 また、語彙力の増強のため、適宜単語テストを行う。			
科目学習の効果 (資格)	専門分野の文章を読むための基礎力			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 心のバリアフリー	授業の進め方の説明 読解、内容理解	復習
	2	30代ビジネスマンの「心の病」を考える	読解、内容理解	復習
	3	「少女マンガ家ぐらし」へ	読解、内容理解	復習
	4	プロフィール	読解、内容理解	復習
	5	インタビュー	読解、内容理解	復習
	6	いつも学びがある	読解、内容理解	復習
	7	「早朝時間」のフル活用で成功した人たち①	読解、内容理解	復習
	8	「早朝時間」のフル活用で成功した人たち②	読解、内容理解	復習
	9	緑のカーテン	読解、内容理解	復習
	10	環境立国ニッポンの挑戦①	読解、内容理解	復習
	11	環境立国ニッポンの挑戦②	読解、内容理解	復習
	12	渡り鳥はなぜ迷わない？	読解、内容理解	復習
	13	フリーズする脳①	読解、内容理解	復習
	14	フリーズする脳②	読解、内容理解	復習
	15	総復習、確認テスト	総復習、確認テスト	復習
関連科目	日本語読解II			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	単語テスト、確認テスト、授業への参加態度を総合的に評価します。			
学生へのメッセージ	専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう！			
担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)			
備考	(1) 授業外の質問等については、メールで対応する。 (2) 授業内容は、進度等に応じて変更する場合があります。			

科目名	日本語読解 F II	科目名 (英文)	Japanese Reading FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中岡 樹里
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	この授業では、日本人向けに書かれた一般書を批判的に読むことができるようになることを目指す。			
到達目標	一般向けに書かれた文章を批判的に読むことができるようになる。			
授業方法と留意点	授業は基本的に2回で1つの文章を読む。 1回目の授業では、文章のテーマに関する知識をクラス内で共有し、学習目標とそれを達成するために必要なスキルを確認した上で各自文章を読み、教員による解説を行う。 2回目の授業では、1回目の授業で読んだ文章を批判的に読むためのタスクを行う。			
科目学習の効果 (資格)	文章を批判的に読む力が身につく。			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 批判的な読み方の練習	授業の進め方の説明 批判的な読み方を練習する	復習
	2	私のニュースの読み方①	内容理解	復習
	3	私のニュースの読み方②	批判的に読む	復習 ミニレポート
	4	価値の一様性①	内容理解	復習
	5	価値の一様性②	批判的に読む	復習 ミニレポート
	6	経済学とは何か①	内容理解	復習
	7	経済学とは何か②	批判的に読む	復習 ミニレポート
	8	住まい方の思想①	内容理解	復習
	9	住まい方の思想②	批判的に読む	復習 ミニレポート
	10	ことばの構造、文化の構造①	内容理解	復習
	11	ことばの構造、文化の構造②	批判的に読む	復習 ミニレポート
	12	化粧する脳①	内容理解	復習
	13	化粧する脳②	批判的に読む	復習 ミニレポート
	14	メディアがもたらす環境変容に関する意識調査	内容理解、 批判的に読む	復習
	15	総復習、確認テスト	総復習、確認テスト	復習
関連科目	日本語読解 I			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	ミニレポート、確認テスト、授業への参加態度を総合的に評価します。			
学生へのメッセージ	文章を批判的に読めるよう、一緒に練習しましょう。			
担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)			
備考	(1) 授業外の質問等については、メールで対応する。 (2) 授業内容は、進捗等に応じて変更する場合があります。			



科目名	日本語表現作文F I	科目名(英文)	Japanese Reading and Writing FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中岡 樹里
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	この授業では、レポートや論文を書くための基礎を学びます。 レポートや論文に必要な、論理的な文章の書き方を身に付けることを目指します。																																																																		
到達目標	レポートや論文に必要な、論理的な文章の書き方を身に付ける。																																																																		
授業方法と留意点	授業では、レポートや論文の文章の書き方について、説明と実践を行います。																																																																		
科目学習の効果(資格)	大学で求められるレポートや論文を書く力の基礎を築く																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 日本語の文体</td> <td>授業についての説明 日本語の文体について学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>レポート・論文の文体</td> <td>レポート・論文に使われる文体を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>記号の使い方</td> <td>句読点、各種記号の使い方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>段落①</td> <td>段落構成について学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>段落②</td> <td>実践練習</td> <td>復習 ミニレポート</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>経過説明①</td> <td>経過説明の書き方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>経過説明②</td> <td>実践練習</td> <td>復習 ミニレポート</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>分類</td> <td>「分類」をする文の書き方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>定義</td> <td>定義の書き方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>分類・定義</td> <td>実践練習</td> <td>復習 ミニレポート</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>引用</td> <td>引用の書き方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>要約①</td> <td>要約の書き方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>要約②</td> <td>実践練習</td> <td>復習 ミニレポート</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>資料の利用</td> <td>資料の利用方法を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習・確認テスト</td> <td>総復習、確認テスト</td> <td>復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	復習	2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	復習	3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	復習	4	段落①	段落構成について学ぶ	復習	5	段落②	実践練習	復習 ミニレポート	6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	復習	7	経過説明②	実践練習	復習 ミニレポート	8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	復習	9	定義	定義の書き方を学ぶ	復習	10	分類・定義	実践練習	復習 ミニレポート	11	引用	引用の書き方を学ぶ	復習	12	要約①	要約の書き方を学ぶ	復習	13	要約②	実践練習	復習 ミニレポート	14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	復習	15	総復習・確認テスト	総復習、確認テスト	復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	復習																																																																
2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	復習																																																																
3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	復習																																																																
4	段落①	段落構成について学ぶ	復習																																																																
5	段落②	実践練習	復習 ミニレポート																																																																
6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	復習																																																																
7	経過説明②	実践練習	復習 ミニレポート																																																																
8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	復習																																																																
9	定義	定義の書き方を学ぶ	復習																																																																
10	分類・定義	実践練習	復習 ミニレポート																																																																
11	引用	引用の書き方を学ぶ	復習																																																																
12	要約①	要約の書き方を学ぶ	復習																																																																
13	要約②	実践練習	復習 ミニレポート																																																																
14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	復習																																																																
15	総復習・確認テスト	総復習、確認テスト	復習																																																																
関連科目	日本語表現作文II																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	課題、確認テスト、授業への参加態度を総合的に評価します。																																																																		
学生へのメッセージ	レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)																																																																		
備考	(1)授業外の質問等については、メールで対応する。 (2)授業内容は、進度等に応じて変更する場合があります。																																																																		

科目名	日本語表現作文FⅡ	科目名(英文)	Japanese Reading and Writing FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中岡 樹里
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	この授業では、レポートや論文を書くための基礎を学びます。レポートや論文の構成、適した表現、書き方のルールを身につけることを目指します。																																																																		
到達目標	レポートや論文の構成、適した表現、書き方のルールを身につける。																																																																		
授業方法と留意点	授業では、実際にテーマを決め、レポートを書き進めていきます。																																																																		
科目学習の効果(資格)	大学で求められるレポートや論文を書く力の基礎を築く																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 前期の復習</td> <td>授業についての説明 前期の学習内容についての復習</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>レポートの言葉と表現</td> <td>レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>レポートの構成</td> <td>レポートの構成を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>テーマ決め・資料収集</td> <td>テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ</td> <td>復習 資料を集めてくる</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>資料を整理する</td> <td>集めた資料を整理する</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>アウトライン</td> <td>レポートのアウトラインを作成する</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>序論①</td> <td>序論の内容と書き方(課題、目的の提示)を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>序論②</td> <td>序論を書く</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>本論①</td> <td>本論の内容と書き方(データ、意見提示)を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>本論②</td> <td>本論の内容と書き方(考察、結論提示)を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>本論③</td> <td>本論を書く</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>結論①</td> <td>結論の内容と書き方(全体のまとめ、今後の課題)を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>結論②</td> <td>結論を書く</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>まとめ①</td> <td>レポートを推敲し、完成稿を作成する</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ②</td> <td>作成したレポートを元に発表を行う</td> <td>復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 前期の復習	授業についての説明 前期の学習内容についての復習	復習	2	レポートの言葉と表現	レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ	復習	3	レポートの構成	レポートの構成を学ぶ	復習	4	テーマ決め・資料収集	テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ	復習 資料を集めてくる	5	資料を整理する	集めた資料を整理する	復習	6	アウトライン	レポートのアウトラインを作成する	復習	7	序論①	序論の内容と書き方(課題、目的の提示)を学ぶ	復習	8	序論②	序論を書く	復習	9	本論①	本論の内容と書き方(データ、意見提示)を学ぶ	復習	10	本論②	本論の内容と書き方(考察、結論提示)を学ぶ	復習	11	本論③	本論を書く	復習	12	結論①	結論の内容と書き方(全体のまとめ、今後の課題)を学ぶ	復習	13	結論②	結論を書く	復習	14	まとめ①	レポートを推敲し、完成稿を作成する	復習	15	まとめ②	作成したレポートを元に発表を行う	復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 前期の復習	授業についての説明 前期の学習内容についての復習	復習																																																																
2	レポートの言葉と表現	レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ	復習																																																																
3	レポートの構成	レポートの構成を学ぶ	復習																																																																
4	テーマ決め・資料収集	テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ	復習 資料を集めてくる																																																																
5	資料を整理する	集めた資料を整理する	復習																																																																
6	アウトライン	レポートのアウトラインを作成する	復習																																																																
7	序論①	序論の内容と書き方(課題、目的の提示)を学ぶ	復習																																																																
8	序論②	序論を書く	復習																																																																
9	本論①	本論の内容と書き方(データ、意見提示)を学ぶ	復習																																																																
10	本論②	本論の内容と書き方(考察、結論提示)を学ぶ	復習																																																																
11	本論③	本論を書く	復習																																																																
12	結論①	結論の内容と書き方(全体のまとめ、今後の課題)を学ぶ	復習																																																																
13	結論②	結論を書く	復習																																																																
14	まとめ①	レポートを推敲し、完成稿を作成する	復習																																																																
15	まとめ②	作成したレポートを元に発表を行う	復習																																																																
関連科目	日本語表現作文Ⅰ																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	課題、レポート、授業への参加態度を総合的に評価します。授業内で書き進めたレポートを最終的に提出してもらい、評価の対象とします。																																																																		
学生へのメッセージ	レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう！																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)																																																																		
備考	(1)授業外の質問等については、メールで対応する。 (2)授業内容は、進度等に応じて変更する場合がある。																																																																		

科目名	日本語文法 F I	科目名 (英文)	Japanese Grammar FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中岡 樹里
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	この授業では、中上級の文型を取り上げ、機能ごとにまとめて学びます。中上級の文型への理解を深め、正しく運用できるようになることを目指します。																																																																		
到達目標	中上級の文型への理解を深め、正しく運用できるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	授業では、教員による解説と練習問題を繰り返します。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	高度な日本語運用能力																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 文型の理解度チェック</td> <td>授業の進め方の説明 文型の理解度チェック</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>動作の対象</td> <td>文型の解説、練習</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>目的・手段・媒介</td> <td>文型の解説、練習</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>起点・終点・限界・範囲</td> <td>文型の解説、練習</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>時点・場面</td> <td>文型の解説、練習</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>時間的同时性・時間的前後性</td> <td>文型の解説、練習</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>進行・相関関係</td> <td>文型の解説、練習</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>付帯・非付帯</td> <td>文型の解説、練習</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>限定</td> <td>文型の解説、練習</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>非限定・付加</td> <td>文型の解説、練習</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>比較・最上級・対比</td> <td>文型の解説、練習</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>判断の立場・評価の視点</td> <td>文型の解説、練習</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>基準</td> <td>文型の解説、練習</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>関連・対応</td> <td>文型の解説、練習</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習、確認テスト</td> <td>総復習、確認テスト</td> <td>復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 文型の理解度チェック	授業の進め方の説明 文型の理解度チェック	復習	2	動作の対象	文型の解説、練習	復習	3	目的・手段・媒介	文型の解説、練習	復習	4	起点・終点・限界・範囲	文型の解説、練習	復習	5	時点・場面	文型の解説、練習	復習	6	時間的同时性・時間的前後性	文型の解説、練習	復習	7	進行・相関関係	文型の解説、練習	復習	8	付帯・非付帯	文型の解説、練習	復習	9	限定	文型の解説、練習	復習	10	非限定・付加	文型の解説、練習	復習	11	比較・最上級・対比	文型の解説、練習	復習	12	判断の立場・評価の視点	文型の解説、練習	復習	13	基準	文型の解説、練習	復習	14	関連・対応	文型の解説、練習	復習	15	総復習、確認テスト	総復習、確認テスト	復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 文型の理解度チェック	授業の進め方の説明 文型の理解度チェック	復習																																																																
2	動作の対象	文型の解説、練習	復習																																																																
3	目的・手段・媒介	文型の解説、練習	復習																																																																
4	起点・終点・限界・範囲	文型の解説、練習	復習																																																																
5	時点・場面	文型の解説、練習	復習																																																																
6	時間的同时性・時間的前後性	文型の解説、練習	復習																																																																
7	進行・相関関係	文型の解説、練習	復習																																																																
8	付帯・非付帯	文型の解説、練習	復習																																																																
9	限定	文型の解説、練習	復習																																																																
10	非限定・付加	文型の解説、練習	復習																																																																
11	比較・最上級・対比	文型の解説、練習	復習																																																																
12	判断の立場・評価の視点	文型の解説、練習	復習																																																																
13	基準	文型の解説、練習	復習																																																																
14	関連・対応	文型の解説、練習	復習																																																																
15	総復習、確認テスト	総復習、確認テスト	復習																																																																
関連科目	日本語文法 II																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	各回の練習問題、確認テスト、授業への参加態度を総合的に評価します。																																																																		
学生へのメッセージ	中上級の文法を再確認し、苦手を克服しましょう。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等については、メールで対応する。 (2) 授業内容は、進捗等に応じて変更する場合がある。																																																																		

科目名	日本語文法 F II	科目名 (英文)	Japanese Grammar FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中岡 樹里
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	この授業では、中上級の文型を取り上げ、機能ごとにまとめて学びます。中上級の文型への理解を深め、正しく運用できるようになることを目指します。																																																																		
到達目標	中上級の文型への理解を深め、正しく運用できるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	授業では、教員による解説と練習問題を繰り返します。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	高度な日本語運用能力																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>オリエンテーション 前期の復習</td><td>授業の進め方の説明 前期の学習内容の確認、復習</td><td>復習</td></tr> <tr><td>2</td><td>無関係・無視・例外</td><td>文型の解説、練習</td><td>復習</td></tr> <tr><td>3</td><td>例示</td><td>文型の解説、練習</td><td>復習</td></tr> <tr><td>4</td><td>強調</td><td>文型の解説、練習</td><td>復習</td></tr> <tr><td>5</td><td>話題</td><td>文型の解説、練習</td><td>復習</td></tr> <tr><td>6</td><td>逆説・譲歩</td><td>文型の解説、練習</td><td>復習</td></tr> <tr><td>7</td><td>原因・理由</td><td>文型の解説、練習</td><td>復習</td></tr> <tr><td>8</td><td>仮定条件・確定条件</td><td>文型の解説、練習</td><td>復習</td></tr> <tr><td>9</td><td>逆説仮定条件</td><td>文型の解説、練習</td><td>復習</td></tr> <tr><td>10</td><td>不可能・可能・困難・容易</td><td>文型の解説、練習</td><td>復習</td></tr> <tr><td>11</td><td>傾向・状態・様子</td><td>文型の解説、練習</td><td>復習</td></tr> <tr><td>12</td><td>経過・結末</td><td>文型の解説、練習</td><td>復習</td></tr> <tr><td>13</td><td>否定・部分否定</td><td>文型の解説、練習</td><td>復習</td></tr> <tr><td>14</td><td>伝聞・推量</td><td>文型の解説、練習</td><td>復習</td></tr> <tr><td>15</td><td>総復習、確認テスト</td><td>総復習、確認テスト</td><td>復習</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 前期の復習	授業の進め方の説明 前期の学習内容の確認、復習	復習	2	無関係・無視・例外	文型の解説、練習	復習	3	例示	文型の解説、練習	復習	4	強調	文型の解説、練習	復習	5	話題	文型の解説、練習	復習	6	逆説・譲歩	文型の解説、練習	復習	7	原因・理由	文型の解説、練習	復習	8	仮定条件・確定条件	文型の解説、練習	復習	9	逆説仮定条件	文型の解説、練習	復習	10	不可能・可能・困難・容易	文型の解説、練習	復習	11	傾向・状態・様子	文型の解説、練習	復習	12	経過・結末	文型の解説、練習	復習	13	否定・部分否定	文型の解説、練習	復習	14	伝聞・推量	文型の解説、練習	復習	15	総復習、確認テスト	総復習、確認テスト	復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 前期の復習	授業の進め方の説明 前期の学習内容の確認、復習	復習																																																																
2	無関係・無視・例外	文型の解説、練習	復習																																																																
3	例示	文型の解説、練習	復習																																																																
4	強調	文型の解説、練習	復習																																																																
5	話題	文型の解説、練習	復習																																																																
6	逆説・譲歩	文型の解説、練習	復習																																																																
7	原因・理由	文型の解説、練習	復習																																																																
8	仮定条件・確定条件	文型の解説、練習	復習																																																																
9	逆説仮定条件	文型の解説、練習	復習																																																																
10	不可能・可能・困難・容易	文型の解説、練習	復習																																																																
11	傾向・状態・様子	文型の解説、練習	復習																																																																
12	経過・結末	文型の解説、練習	復習																																																																
13	否定・部分否定	文型の解説、練習	復習																																																																
14	伝聞・推量	文型の解説、練習	復習																																																																
15	総復習、確認テスト	総復習、確認テスト	復習																																																																
関連科目	日本語文法 I																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	各回の練習問題、確認テスト、授業への参加態度を総合的に評価します。																																																																		
学生へのメッセージ	中上級の文法を再確認し、苦手を克服しましょう。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等については、メールで対応する。 (2) 授業内容は、進度等に応じて変更する場合がある。																																																																		

科目名	日本事情 F I	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	門脇 薫
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。また、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	テキスト予習
2	映画1：テーマ「職業」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題
3	映画1：テーマ「職業」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題
4	映画1：テーマ「職業」	タスク、ディスカッション	テキスト予習、プリントの課題、テーマについてレポート
5	映画2：テーマ「家族」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題、 発表準備
6	映画2：テーマ「家族」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題、 発表準備
7	映画2：テーマ「家族」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備
8	テーマ1・2に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート
9	映画3：テーマ「子どもと社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題
10	映画3：テーマ「子どもと社会」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題
11	映画3：テーマ「子どもと社会」	タスク、ディスカッション	テキスト予習、プリントの課題、テーマについてレポート
12	映画4：「ジェンダー」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題、 発表準備
13	映画4：「ジェンダー」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題、 発表準備
14	映画4：「ジェンダー」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備
15	テーマ3・4に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート

関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文
------	---------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
	2			
	3			

評価方法 (基準)	各課題、授業への参加度、レポート等により総合的に評価します。
学生へのメッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！
担当者の研究室等	7号館4階(門脇研究室)
備考	

科目名	日本事情F II	科目名(英文)	Japanese Culture and Society FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	門脇 薫
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。また、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします。
授業方法と留意点	各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習
科目学習の効果(資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化についての理解、異文化に対する見方・態度

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	映画1：テーマ「民族」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題
3	映画1：テーマ「民族」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題
4	映画1：テーマ「民族」	タスク、ディスカッション	テキスト予習、プリントの課題、テーマについてレポート
5	映画2：テーマ「愛と死」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
6	映画2：テーマ「愛と死」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
7	映画2：テーマ「愛と死」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備
8	テーマ1・2に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート
9	映画3：テーマ「教育」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題
10	映画3：「教育」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題
11	映画3：テーマ「教育」	タスク、ディスカッション	テキスト予習、プリントの課題、テーマについてレポート
12	映画4：「高齢化社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
13	映画4：「高齢化社会」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
14	映画4：「高齢化社会」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備
15	テーマ3・4に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート

関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文
------	---------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
	2			
	3			

評価方法(基準)	各課題、授業への参加度、レポート等により総合的に評価します。
学生へのメッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！
担当者の研究室等	7号館4階(門脇研究室)
備考	

# 教 養 科 目





科目名	インターンシップ I	科目名 (英文)	Internship I
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	水野 武
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	インターンシップの目的は、実際の仕事現場の一員として業務を担当させていただくことで社会人の方々がどのような考え方で働かれているのか、特に 1) 仕事の社会における役割 2) 仕事の成果とは 3) 仕事の責任と充実感を直接肌で感じることである。事前学習として、ビジネス組織のあり方、マナーや常識を習得する。
到達目標	インターンシップへ意欲的に自信を持って参加できるようになることを目標とする。 V科の学習・教育目標との対応：A R科の学習・教育目標との対応：A A科の学習・教育到達目標との対応：A M科の学習・教育到達目標との対応：A1 E科の学習・教育到達目標との対応：B C科の学習・教育到達目標との対応：II
授業方法と留意点	グループワークやプレゼンテーションなどを行う参加型の授業である。 インターンシップの現場につながる講義（演習を含む）であることから、能動的に、真摯に参加することを求める。
科目学習の効果（資格）	インターンシップへ行く目的を理解し、その準備ができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	インターンシップとは	・授業オリエンテーション ・学生と社会人の違いを理解する ・インターンシップの目的を考える	インターンシップとは何かについて考えること。
2	企業組織・ビジネスの理解	・組織の形態を知る ・ビジネスへの理解を深める	ビジネスとは何かを考えること。
3	実習参加企業について	・産業の分類を知る ・業種、内容、インターン時期等、インターン受入企業等の組織について知る	インターン受入企業等の組織のリストに目を通しておくこと。
4	効果的なプレゼンテーションとは	・効果的なプレゼンテーションの仕方、注意点などを知る	プレゼンテーションができるように準備すること。
5	課題のプレゼンテーション①	・第4回目の課題をプレゼンテーションする	第4回目の課題について、プレゼンテーションの準備をすること。
6	社会人のマナー①	・社会人としての心構えを知る ・身だしなみ	マナーがなぜ大切なのかを考えること。
7	社会人のマナー②	・文書でのコミュニケーション	授業以降は丁寧なメールを心がけ、文書での適切な発信方法を試みること。
8	社会人のマナー③	・口頭でのコミュニケーション	マナーの大切さを再度考えること。
9	履歴書を記入する	・インターンシップ用の履歴書を記入する	履歴書を書く準備をしておくこと。
10	グループワーク①	・掲示された課題について、チームで情報を集約、検証、プレゼンテーションを行う	グループ内の自分の役割を考えること。
11	グループワーク②	・掲示された課題について、チームで情報を集約、検証、プレゼンテーションを行う	グループの最大の力を出すために、自分に何が出来るかを考え、プレゼンテーションの準備をして下さい。
12	事前訪問について	・事前訪問のマナーと準備について	インターン先の企業等の組織のことをもう一度調べること。
13	課題のプレゼンテーション②	・インターン先を調べて、インターンシップで何を学びたいかをプレゼンテーション	プレゼンテーションの準備をすること。
14	課題のプレゼンテーション③	・インターン先を調べて、インターンシップで何を学びたいかをプレゼンテーション	プレゼンテーションの準備をすること。
15	振り返りとまとめ	・授業を振り返る ・インターンシップの目的を再考する	インターンシップで何を身につけたいかをもう一度考えること。

関連科目 この科目を履修する学生は、「インターンシップⅡ（企業等の組織での就業体験）」を履修することが望まれる。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準） 発表（40%）、レポート等の提出物（30%）、授業態度（30%）を総合的に評価する。

学生へのメッセージ インターシップの流れは以下のとおりである。  
※4月下旬にリスト公開→5月上旬に希望企業等の組織の絞り込み→5月下旬に就職部から受け入れ可否の回答→6月末頃に事前訪問→8月上旬からインターンシップ開始（予定）  
インターン先の都合により、流れの日程等が変更する場合もある。

担当者の 研究室等	7号館3階 キャリア教育推進室（水野）
備考	<p>教科書・・必要に応じてレジュメを配布 参考書・・必要に応じて推薦図書を提示</p> <p>インターンシップ先の都合により、インターンシップ参加期間等の日程が変更される場合もある。 なお、事前事後学習には毎回1時間以上かけること。</p>

科目名	インターンシップⅡ	科目名(英文)	Internship II
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	水野 武
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	インターンシップの目的は、実際の仕事現場の一員として業務を担当させていただくことで社会人の方々がどのような考え方で働かれているのか、特に社会における仕事の役割、仕事の成果、仕事に対する責任と充実感を肌で感じることである。
到達目標	インターンシップ先での実習参加の機会を最大限に活用し、自分や社会をより理解し、将来の選択肢や可能性を広げること、職業観の涵養に努めることを目標とする。  V科の学習・教育目標との対応：A R科の学習・教育目標との対応：A A科の学習・教育到達目標との対応：A M科の学習・教育到達目標との対応：A1 E科の学習・教育到達目標との対応：B C科の学習・教育到達目標との対応：Ⅱ
授業方法と留意点	「事前学修→インターンシップ実習→事後学修」という流れで実施するので、必ず日程を確認しておくこと。 実習中は、大学の代表、そして実習先の一員としての意識を持って参加すること。 事前学修・事後学修はすべてスーツ着用のこと。 受講態度や規則等を著しく逸脱し、注意しても改善が見られない場合は、実習参加を許可しない場合もあることを理解しておく。
科目学習の効果(資格)	就職活動や将来を考えるうえでの貴重な出会いや気づきを得ることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	直前学修① 6月20日(土) 3限目(予定)	・インターンシップの心構え ・今後のスケジュールの確認	社会人を意識したスーツ着用のこと。身だしなみを自分なりに整えてくること。
	2	直前学修② 6月20日(土) 4限目(予定)	・報告書の書き方、注意点/マナー・身だしなみの最終確認	マナーについて考えること。
	3	直前学修③ 6月27日(土) 3限目(予定)	・プレゼンテーション①	他者に何かを伝える際に気を付けることを考えること。
	4	直前学修④ 6月27日(土) 4限目(予定)	・プレゼンテーション②	インターンシップで何を学びたいのかを考えること。
	5	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	実習中は毎日日誌をつけること。
	6	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	事前に立てた目標を意識して参加すること。
	7	体験報告書の作成・提出・指導	・報告書提出/ゼミ教員・インターンシップ担当教員における報告書のチェックと指導 (担当教員への提出と教務課へ電子データを提出)	事前学修の通りに報告書を作成する。提出前に必ず推敲を行うこと。 提出期限を厳守すること。
	8	事後学修① 9月26日(土) 3限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	個人発表用のレジュメを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること。
	9	事後学修② 9月26日(土) 4限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	個人発表用のレジュメを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること。
	10	事後学修③ 10月17日(土) 3限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること。
	11	事後学修④ 10月17日(土) 4限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること。
	12	事後学修⑤ 10月24日(土) 3限目(予定)	・インターンシップを振り返る (実習記録簿の提出)	実習記録簿を見直してこること。
	13	事後学修⑥ 10月24日(土) 4限目(予定)	・インターンシップを振り返る	実習記録簿を見直してこること。
	14	事後学修⑦ 11月14日(土) 1限目(予定)	・全体報告会 ・学生代表者の発表	学生代表者はパワーポイントで10分で報告ができるように準備すること。
15	事後学修⑧ 11月14日(土) 2限目(予定)	・全体報告会 ・受け入れ企業管理者の講演とまとめ	全員スーツ着用	

関連科目 インターンシップⅠ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3		
評価方法 (基準)	企業による報告書(20%)、体験報告書など提出物(40%)、発表を含む授業態度(40%)を総合的に評価する。		
学生への メッセージ	「インターンシップI」を必ず履修すること。 「インターンシップI」の履修には、2月のガイダンスに出席、し履修申し込み書を提出する必要がある。 履修希望者が多い場合は、選考することもある。		
担当者の 研究室等	7号館3階 キャリア教育推進室(水野)		
備考	教科書・・・必要に応じてレジュメを配布する。 参考書・・・必要に応じて推薦図書を提示する。  なお、振り返りの課題(体験報告書、報告プレゼンテーションのためのスライド作成など)は3時間以上かけて仕上げること。		

科目名	英語基礎会話 a	科目名 (英文)	Basic English Conversation a
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ジョセフ シウンシ
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	授業は全て英語で行います。 日常やビジネスに役立つ英語を、ロールプレイを中心に、発音やイントネーションなどを含めた基礎から学び、会話力を身に付けます。
到達目標	ビジネスで英語を使用する際に、培ったリスニング力やスピーキング力で、自信を持って話せるようにします。 建築学科の学習・教育到達目標との対応：[C]
授業方法と留意点	講義、演習、ロールプレイなど。 ノートを取るのを、筆記用具を持参してください。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
3	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
4	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
5	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
6	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
7	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
8	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
9	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
10	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
11	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
12	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
13	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
14	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
15	復習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題

関連科目	なし								
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名				
番号	書籍名	著者名	出版社名						

	1	なし		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>80%以上出席した学生を対象に成績を評価します。</p> <p>授業への参加（英語を使う、授業を聴く、質問に答えるなど） 50%          ※遅刻、授業中の私語や居眠りなど、受講態度は成績に反映します。</p> <p>ノートを取る、スピーキング、ロールプレイ、クイズ 50%</p>			
学生への メッセージ	<p>頑張ってください。質問があれば、いつでも来てください。          授業はマナーを守って受けてください。</p>			
担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師室）			
備考	<p>日記をつけることを宿題とします。          毎日15分かけて書いてください。          授業中に確認します。</p>			



科目名	英語基礎会話 b	科目名 (英文)	Basic English Conversation b
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	アイビス ウイリアム
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	基礎英会話の習得を目標とする。テキストは日常的に使っている英文を扱っており、しっかり学習すれば、リスニング、スピーキングの力も確実に向上する。会話の習得を目的とする授業であるから、学生が中心になり、学生によって進められていくべきであることは言うまでもない。
到達目標	建築学科の学習・教育到達目標との対応：[C]
授業方法と留意点	学生主導の授業である。ペアワークなど、躊躇することなく積極的に参加すること。
科目学習の効果 (資格)	英語を使つてのコミュニケーション能力が付き、今後遭遇すると思われるさまざまなシチュエーションで役に立つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	授業ガイダンス、現在進行中の事柄の会話	～しているところです。の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Class introduction
	2	現在進行中の事柄の会話	～しているところです。の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 7
	3	人物を描写する会話	～のようにみえる、～のようです。の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 7
	4	人物を描写する会話	～のようにみえる、～のようです。の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 7 test
	5	近い計画、招待の会話	進行形で計画、招待の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 8
	6	近い計画、招待の会話	進行形で計画、招待の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 8
	7	U7～9の見直し、復習	教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 9
	8	休暇の会話	過去形の疑問文、肯定文で休暇の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 9
	9	休暇の会話	過去形の疑問文、肯定文で休暇の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 8 and 9 Test
	10	これまでの人生の会話	これまでの出来事の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 10
	11	これまでの人生の会話	これまでの出来事の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 10
	12	夢を語る会話	～したい。の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 11
	13	夢を語る会話	～したい。の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 11
	14	復習	教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 10 and 11 Test
15	テーマは自由に選択、ペアでロールプレイを行う。	授業でペアを組み会話を実演	Class Wrap-up	

関連科目	他の英語のクラスすべて
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English In Common 1		Pearson
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	出席は必ずすること。3週間ごとにスピーキングクイズを行う。授業前の準備 (単語・文法の使い方) も、評価に反映する。やる気があるかどうかをみていきます。 評価割合は「授業前準備 20%、授業態度 30%、スピーキングクイズやテスト 50%」とします。
-----------	--

学生へのメッセージ	私は、このクラスの生徒のすべてが、真剣に英語でのコミュニケーションスキルを向上することを願っています。私は、学生のクラスでの最高の努力を見てみたい。
-----------	--

担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師室）
備考	



科目名	英語で学ぶ工学入門（ものづくり編）	科目名（英文）	Introduction to Manufacturing Engineering
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	森脇 俊道
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	The lecture is intended to give fundamental knowledge of mechanical manufacturing processes, machines and systems in English to those who are not necessarily to be specialists of the subject.
到達目標	The target of the lecture is that the students can understand the general idea of manufacturing and exchange opinions with others about manufacturing in English.
授業方法と留意点	The lecture is given in English. Slides and movies will be frequently utilized to assist understanding of the contents of the lecture. The students are requested to study the contents of the subject in advance and to prepare for presentation of the home w
科目学習の効果（資格）	The students will be able to understand basic manufacturing engineering and exchange ideas about manufacturing with others in English.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Overview of manufacturing engineering	Role of manufacturing engineering. Classification and history of manufacturing technology.	Examine typical manufacturing methods in early days.
	2	Examples of industrial products and their functions	Anatomy of industrial products, such as car, air plane, train and home appliances.	Examine structure and function of a product at hand.
	3	Engineering materials	Ferrous materials, non-ferrous metals, plastics, ceramics etc.	Name materials at hand and examine their fundamental properties.
	4	Fundamental properties of materials	Elasticity, plasticity, strength, specific weight etc.	Compare mechanical properties of materials at hand.
	5	Manufacturing of raw materials	Manufacturing processes of steel, Aluminum and other materials.	Name typical raw materials before processing.
	6	Casting	Basic and advanced casting processes and examples of casted products.	Name typical casted parts or products.
	7	Forming and forging	Basic and advanced forming and forging processes and examples of formed or forged products.	Name typical formed or forged parts or products.
	8	Welding and joining	Basic and advanced welding and joining processes and examples of welded or joined products.	Name typical welded or joined parts and products.
	9	Cutting	Metal cutting process and cutting tools. Examples of cut parts.	Name typical cut parts or products.
	10	Grinding and polishing	Grinding process and grinding methods. Examples of ground parts.	Name typical ground parts or products.
	11	Machine tools	Basic structure of machine tools. Conventional and computer controlled machine tools.	Name typical machine tools and examine their functions.
	12	Non-traditional processing	Laser processing, electro discharge machining, additive manufacturing etc.	Name typical parts or products processed by non-traditional methods.
	13	Manufacturing systems	Manufacturing systems and their components. History of manufacturing systems.	Examine functions of manufacturing systems.
	14	Industrial robots	Application of industrial robots to manufacturing and advanced robot technology.	Examine types and functions of industrial robots.
15	Summary of manufacturing engineering	Review of the lecture.	Summarize the key points of the lecture.	

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	50% of the points are given based on the contribution to the lecture including presentation of the home-work in the class room. Another 50 % of the points are given based on the test results at the end of the term.
----------	--

学生へのメッセージ	The lecture is not intended to give specific knowledge of manufacturing engineering, but to give rather general knowledge of manufacturing engineering so that they can broaden their minds and deepen knowledge of English.
-----------	--

担当者の研究室等	1 2 号館 6 階 森脇教授室
----------	------------------

備考	
----	--

教養科目

科目名	海外語学研修	科目名 (英文)	Overseas Language Training
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	齋藤 安以子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	この研修は、語学力(英語力)の向上と研修地の歴史・文化およびそこで生活する人々に触れ、国際的な知識と理解を深め、広範囲な国の人々と協力し合える国際感覚を身につけることを目的とする。研修先での授業は、月曜日から金曜日に実施し、語学力別に分けたクラス内で行われる。宿泊はホームステイ形式である。費用は40万円前後を予定(為替レートにより変動の可能性あり)。*詳細は、3月～4月の募集ガイダンスで周知する。																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修先の歴史や文化を前もって調査することで、現地での研修を深められるようになる。</li> <li>・一緒に研修に行く他の学生と交流し、協力して研修を成功させる。</li> </ul>																		
授業方法と留意点	<p>3月上旬～4月下旬 募集ガイダンス(日時等の詳細はポータルおよび掲示で連絡する)、事前学習としては事前のガイダンス出席が義務付けられている。また、事後には成果報告およびレポート提出を要請されている。</p> <p>5月 申込書の提出</p> <p>5月下旬 派遣学生の決定および履修申請</p> <p>6月～8月 事前ガイダンスを実施(全3回)</p> <p>8月上旬 結団式</p> <p>&lt;研修スケジュール&gt; [2週間コース] 8月中旬～8月下旬(予定)</p> <p>[3週間コース] 8月中旬～9月上旬(予定)</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>これまでに学んだ英語の知識を、実際に使うための練習を多角的に行う。</p> <p>事前学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海外渡航に関する基本的なガイダンス等</li> <li>・英語で自分から話す練習をすること。インターネット上でもたくさんの学習サイトがあるので、渡航前に自分の中の英語の出力スピードや反応を活性化させておくといい。</li> </ul> <p>事後学習課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同時期に開催される他の研修参加者と共に、成果報告会でのプレゼンテーションを行う。</li> <li>・レポート作成。</li> </ul>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1											
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	帰国後に提出する成果報告書(20%)および研修先での成績(80%)を基に評価する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	国際交流センター																		
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加学生は事前ガイダンスに必ず出席すること。欠席の場合は、事前に国際交流センターへ連絡をしてください。</li> <li>・事前に参加申込みをし、参加許可を得た者に限り履修申請をすることができる。通常の履修申請とは方法が異なるので注意。</li> <li>・各学部の期末試験等のスケジュールを確認の上、履修を検討すること。学部・学年によっては、今年度は受講できない場合があります。</li> </ul>																		

科目名	科学英語	科目名(英文)	Scientific English
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中道 英美子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	このクラスの目的は、技術者として、研究者として必要となる基本的な英語力を養成することである。具体的には、日常生活に関わる英語表現と共に、基本的な科学技術系英語の語彙・表現を増やし、さらにそれらが音声化されたものを聞き取ったり、書き表したり、また自らも発音することができるようになることを目標とする。
到達目標	建築学科の学習・教育到達目標との対応：[C]
授業方法と留意点	基本的な英語で書かれた科学系、工学関連のテキストを使用し、語彙・文法を強化し、会話練習を通じて知識を実際に運用する訓練を行う。
科目学習の効果(資格)	TOEIC、工業英検

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	便利グッズ 便利グッズをデザインしてその機能を説明してみましょう。	リーディング ライティング、スピーキング	テキスト、Engineering Workshopの十八章、Readingの内容把握 副教材、1500 Core Vocabulary for TOEIC Test の151から160までを予習
3	巨大建造物 巨大建造物の例を挙げましょう。設計者は誰でしょうか。構造図を描いてディメンションを記入しましょう。	リーディング ライティング、スピーキング	テキスト、Engineering Workshopの十九章、Readingの内容把握 1500 Core Vocabulary for TOEIC Test 161-170
4	橋梁倒壊 橋梁倒壊の原因は何だったのでしょうか。	リーディング ライティング、スピーキング	テキスト、Engineering Workshopの二十章、Readingの内容把握 1500 Core Vocabulary for TOEIC Test 171-180
5	古代建造物 有名な古代建造物を英語で説明してみましょう。	リーディング ライティング、スピーキング	テキスト、Engineering Workshopの二十一章、Readingの内容把握 1500 Core Vocabulary for TOEIC Test 181-190
6	折り紙 指示に従って紙飛行機を折ってみましょう。	リーディング ライティング、スピーキング	テキスト、Engineering Workshopの二十二章、Readingの内容把握 1500 Core Vocabulary for TOEIC Test 191-200
7	測定単位 様々な測定単位と省略形を使ってQAを作ってみましょう。	リーディング ライティング、スピーキング	テキスト、Engineering Workshopの二十三章、Readingの内容把握 1500 Core Vocabulary for TOEIC Test 201-210
8	人名から普通名詞、測定単位になったもの 人名に由来し、普通名詞になった例を考えてみましょう。	リーディング ライティング、スピーキング	テキスト、Engineering Workshopの二十四章、Readingの内容把握 1500 Core Vocabulary for TOEIC Test 211-220
9	数字 整数、少数、分数を英語で読んで見ましょう。	リーディング ライティング、スピーキング	テキスト、Engineering Workshopの二十五章、Readingの内容把握 1500 Core Vocabulary for TOEIC Test 221-230
10	統計 クラスアンケートの結果を分析してみましょう。	リーディング ライティング、スピーキング	テキスト、Engineering Workshopの二十六章、Readingの内容把握 1500 Core Vocabulary for TOEIC Test 231-240
11	統計 クラスアンケートの結果を分析してみましょう。	リーディング ライティング、スピーキング	テキスト、Engineering Workshopの二十六章、Readingの内容把握

				1500 Core Vocabulary for TOEIC Test 241-250																
	12	履歴書 英語で履歴書を書いてみましょう。	リーディング ライティング、スピーキング	テキスト、Engineering Workshopの二十七章、Readingの内容把握 1500 Core Vocabulary for TOEIC Test 251-260																
	13	手紙のルール 宛名の書き方、フォーマルレターの書き方を知ろう。	リーディング ライティング、スピーキング	テキスト、Engineering Workshopの二十八章、Readingの内容把握 1500 Core Vocabulary for TOEIC Test 261-270																
	14	TOEIC単語 復習テスト	リーディング ライティング、スピーキング	1500 Core Vocabulary for TOEIC Test 001-300																
	15	まとめと復習	リーディング ライティング、スピーキング																	
関連科目	その他の英語科目全て																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Engineering Workshop</td> <td>Lindsay White</td> <td>Oxford</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test</td> <td>Koji NISHIYA</td> <td>SEIBIDO</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Engineering Workshop	Lindsay White	Oxford	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	Koji NISHIYA	SEIBIDO	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	Engineering Workshop	Lindsay White	Oxford																	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	Koji NISHIYA	SEIBIDO																	
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	期末試験 50%、授業態度 50%の割合で評価する。なお、授業態度とは、授業中の質問に対する回答状況、授業への集中度を指す。																			
学生への メッセージ	音楽や、映画など、自分が興味のあるものを原語で楽しむことが語学力の向上につながります。																			
担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師室）																			
備考	<p>例1) 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。          例2) 課題（レポート）には1回あたり5時間以上かけて仕上げること。          例3) 自主学習には、期末試験の準備を含めて、合計20時間はかけること。          例4) 英単語はe-learningを含めて、毎日、平均1時間は学習すること。</p>																			

科目名	科学技術教養C1	科目名(英文)	Scientific and Technological Literacy C1
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	頭井 洋
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

**授業概要・目的**  
 授業の目的は、受講者に私たちの生活を支える土木技術に対する興味を持つとともに技術の基本原則を知ってもらうことである。第1回目の授業では、身の回りの土木技術の例を取り上げ、それらが技術者によってどのように守られているのかを説明する。第2・3回目は現在にまでつながる国土開発の歴史をそれに従事した人々にも注目して講義する。第4～7回は「土木」の由来となる基本的な材料、第8～11回は設計方法、第12～15回は計画と環境問題について講義する。

**到達目標**  
 土木技術全般の基礎知識を有し、土木技術と社会や経済活動、生活との関りを理解できる。  
 V科の学習・教育目標との対応：A  
 R科の学習・教育目標との対応：A  
 A科の学習・教育到達目標との対応：A  
 M科の学習・教育到達目標との対応：A1  
 E科の学習・教育到達目標との対応：A, B  
 C科の学習・教育到達目標との対応：I

**授業方法と留意点**  
 ・基本的にパワーポイントを用いた講義形式。授業中はメモを取らせ授業終了時もしくは終了後に提出する。  
 ・歴史と人物と基本原則をセットとして取り扱う。第4回以降は材料や設計の基本原則を扱う。基本的に古くからの基礎的な技術と現在の技術をセットで取り扱う。  
 ・講義だけではイメージを伝えることが困難な場合には、サンプルや簡単な実験を併用する。

**科目学習の効果(資格)**  
 産業・経済活動や私たちの生活を支える道路・鉄道・上下水道などの社会基盤施設に関する基礎的な知識が得られ、安全安心な社会システム構築への興味関心が深まる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	私たちの日常生活と土木技術	私たちの身の回りの土木技術：・鉄道・道路網、上下水道、エネルギー施設、防災施設、憩い、・私たちの生活にどう関わっているのか？・技術を支える人たち(建設会社、設計コンサルタント、公務員、メーカー・・・)	配布資料講義部分の予習と復習
2	国土は先人たちによってどのように形作られてきたのか①	国土建設の歴史 ・古墳時代～江戸時代 ・明治～第二次大戦、敗戦以降	配布資料講義部分の予習と復習
3	国土は先人たちによってどのように形作られてきたのか②	国土建設を行った人々 ・古墳時代～江戸時代 ・明治～第二次大戦、敗戦以降	配布資料講義部分の予習と復習
4	都市をつくる材料の話① -土木技術は土から始まった-	最も古い材料、土と人類、土と木 縮固めて使う、事例1(古くからの技術)、事例2(近代以降の技術)	配布資料講義部分の予習と復習
5	都市をつくる材料の話② -セメントコンクリートの発明-	セメントの発見・発明 耐久性、品質管理	配布資料講義部分の予習と復習
6	都市をつくる材料の話③ -鋼は文明を支える-	産業革命による鉄利用の拡大 鋼構造	配布資料講義部分の予習と復習
7	都市をつくる材料の話④ -循環型社会と土木材料-	新材料、リサイクル材料 産業廃棄物の利用	配布資料講義部分の予習と復習
8	国土を測る技術	広い国土をどうやって測るのか。 歩測からGPSまで、原理、応用	配布資料講義部分の予習と復習
9	都市の造り方① -橋を設計する-	橋はなぜ必要か？橋はどうやって重力に抵抗しているのか。 構造力学の基礎	配布資料講義部分の予習と復習
10	都市の造り方② -川を設計する-	治水は国を治める。水と波の力を計算する。川、ダムと港の設計へ。 水理学の基礎	配布資料講義部分の予習と復習
11	都市の造り方③ -地盤とトンネルを設計する-	都市を支える地盤の役割、地下空間。 地盤力学の基礎	配布資料講義部分の予習と復習
12	安全で安心な都市へ① -未来の都市を計画する-	都市地域計画 (計画学の基礎)	配布資料講義部分の予習と復習
13	安全で安心な都市へ② -命の水を守る-	衛生工学 (上下水道学の基礎)	配布資料講義部分の予習と復習
14	安全で安心な都市へ③ -持続可能な都市を-	地球規模環境問題、循環型社会 (環境工学)	配布資料講義部分の予習と復習
15	安全で安心な都市へ④ -都市の生命線-	ライフラインと防災	配布資料講義部分の予習と復習

**関連科目** 特になし

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	配布資料：科学技術教養 C1	都市環境工学科全教員	
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	特になし		
2			
3			



評価方法 (基準)	受講態度 20%, 受講メモ 40%, レポート・小論文 40%の総合点で評価する。 ※レポート・小論文は、授業のまとめとして毎回あるいは2~3回に一回程度実施する予定。 期末試験は行わない。
学生への メッセージ	豊かな自然に恵まれた日本は世界で最も厳しい自然災害にさらされる国土でもあります。 この講義を通じて、自然災害の防災・減災や産業・経済活動支える社会基盤施設に関する基礎知識を身につけていただければ幸いです。
担当者の 研究室等	講義担当者居室 1号館3階および4階
備考	事前・事後学習にかかる学習時間は授業外の課題や小テストの学習時間も含め、毎回1時間程度としてください。

科目名	科学技術教養C2	科目名(英文)	Scientific and Technological Literacy C2
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	頭井 洋
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	概要：いくつかのプロジェクトを例に、建設事業の流れに沿って、社会的な位置づけ、市民生活との関わりを解説する。第1回目の授業では、事業主体別にプロジェクトの流れを説明する。第2～3回目は、高速道路建設を例に地形の調査・土質の調査、環境の調査を解説する。第4～7回は高速道路を構成する橋、トンネル、道路の設計と施工の考え方を解説する。第8～15回は、安全で潤いのある社会を築く観点からダム・堰、堤防、浸水対策、ライフライン、公園・まちづくり、地震防災など身近なテーマを概説する。
到達目標	土木構造物の計画から施工管理までの流れの概要を理解し土木構造物と社会や経済活動、生活との関わりを理解できる。 V科の学習・教育目標との対応：A R科の学習・教育目標との対応：A A科の学習・教育到達目標との対応：A M科の学習・教育到達目標との対応：A1 E科の学習・教育到達目標との対応：A, B C科の学習・教育到達目標との対応：I
授業方法と留意点	授業はパワーポイントを用いた講義形式とする。私たちの生活を支える社会基盤がどのようにして計画され、設計・施工されているかを事業の流れに沿って解説する。代表的な構造物や身近なテーマを取り上げ、安全で安心な社会を築くため、何が重要かを理解できるように講義を進める。
科目学習の効果(資格)	産業・経済活動や私たちの生活を支える道路・鉄道・上下水道などの社会基盤施設がどのように計画設計され施工されているかなどの知識が得られ、安全安心な社会システム構築への興味関心が深まる

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	社会基盤をつくる建設事業の流れ	国家プロジェクト、地域プロジェクト、民間主導プロジェクトなど事業主体別の建設の流れ、計画(意思決定)～調査～設計～施工の概要	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
	2	高速道路建設の計画・調査・設計	国土開発や都市計画・地域計画との関連、一般道路や鉄道との関連、需要予測、予算、資本回収の考え方	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
	3	建設に必要な調査①(地形の調査・土質の調査)	測量計測技術(地形測量・平板測量・水準測量・写真測量・GPS測量)、地盤の調査	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
	4	建設に必要な調査②(環境の調査)	生態系・環境への影響、負荷の軽減策、排ガス規制と大気汚染など環境アセスメント	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
	5	橋の設計と施工	コンクリート橋と鋼橋、橋の形式と適用支間長、景観設計、施工法	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
	6	トンネル、半地下開削工法	山岳トンネル・都市地下トンネルの設計と施工、地山の強度と工法、半地下開削工法	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
	7	道路の設計と施工	盛土形式と高架形式、道路の構造、道路舗装	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
	8	ダム・堰の計画と施工	洪水への備え(治水、防災)、発電・灌漑・上水などの多目的ダム、ダムの構造と種類	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
	9	堰・堤防の計画と設計・施工	洪水・土砂災害への備え(治山・治水、防災)、計画雨量、遊水池、親水施設	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
	10	都市型洪水への備え	透水性舗装、都市大型地下貯槽、屋上緑化、排水と下水道設計、地下道・地下鉄の浸水対策	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
	11	市民の日常生活を支えるライフライン	上下水道、水質管理、水質浄化、下水処理、電気、通信設備	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
	12	市民の生活に潤いを与える公園・まちづくり	まちづくりとは、実現するものは、人とのかかわり、技術とのかかわり	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
	13	市民の生活環境を守る	地球環境と生態系、人口増加と都市化・食糧生産、自然エネルギーの問題点、火力発電所と大気汚染・温暖化、原子力発電と放射能問題、温排水問題	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
	14	震災から市民を守る	地震の種類と特性、地震に備える構造とは?制震構造と免震構造、ライフラインの耐震、避難体制、緊急地震速報	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
	15	津波や台風・高潮から市民を守る	港湾施設・防波堤、津波、避難施設、避難誘導	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。

関連科目 特になし

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	配布資料：科学技術教養 C2	都市環境工学科全教員	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	特になし		
	2			
	3			

評価方法 (基準)	受講態度 20%, 受講メモ 40%, レポート・小論文 40%の総合点で評価する。 ※レポート・小論文は、授業のまとめとして毎回あるいは2～3回に一回程度実施する予定。 期末試験は行わない。
学生への メッセージ	豊かな自然に恵まれた日本は世界で最も厳しい自然災害にさらされる国土でもあります。 この講義を通じて、自然災害の防災・減災や産業・経済活動を支える社会基盤施設がどのように計画設計され施工されているか知り理解を深めていただければ幸いです。
担当者の 研究室等	講義担当者居室 1号館3階および4階
備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。 事前・事後学習にかかる学習時間は授業外の課題や小テストの学習時間も含め、毎回1時間程度としてください。

科目名	科学技術教養 E 1	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy E1
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	鹿間 信介
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	電気は我々の生活になくてはならないものである。この講義では電気の簡単な基礎理論を紹介しながら、身の回りにおける電気製品を題材として電気電子工学から通信情報分野までの多岐にわたる応用技術を学習させることを目的とする。
到達目標	電気を作る電池の話や電気を力に変えるモータ、半導体や太陽電池の構造、携帯電話やパソコン、インターネットのしくみまで、電気を使った最新技術がどの様なしくみで暮らしの中で活用されているかを理解できることを到達目標とする。 V科の学習・教育目標との対応：A R科の学習・教育目標との対応：A A科の学習・教育到達目標との対応：A M科の学習・教育到達目標との対応：A1 E科の学習・教育到達目標との対応：A, B C科の学習・教育到達目標との対応：I
授業方法と留意点	授業はスライドを用いて行い、授業中にメモを取らせて授業後に回収する。 講義は1話完結であるが、相互につながりがある。電気を用いた科学技術の全体像を理解するように努めよう。
科目学習の効果 (資格)	計測装置・電気設備など電気工学以外の分野でも電気を使った機器はいたるところで使われている。これらの原理や特性を知ること、その性能をフルに引き出すことができる。また、身近な電気製品のしくみを知ること、より有効活用することができる。国家資格で電気の基礎の出題がある場合には、その基礎勉強にもなる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	電気の歴史と電気回路の基礎	電磁気学の歴史、電気回路の基礎、抵抗と電気エネルギーの利用、消費電力、交流と直流	電気に関するニュースに注意する。1時間
2	電池の構造と応用技術	磁石と力、電磁石、直流モータと交流モータ	配付資料を復習する。1時間
3	モータのしくみと応用	磁石と力、電磁石、直流モータと交流モータ	配付資料を復習する。1時間
4	半導体のお話	半導体とは何か、p形とn形 大規模集積回路、LED照明とは	配付資料を復習する。1時間
5	太陽電池の構造と家庭での利用	半導体で光エネルギーを電気に変換する 売電のしくみ	配付資料を復習する。1時間
6	様々な電子回路	電子回路の歴史、真空管と半導体・集積回路、 代表的なアナログ電子回路	配付資料を復習する。1時間
7	電波応用技術の変遷	電波と光、マクスウェル理論とヘルツの実験 変調方式、ラジオとテレビ	配付資料を復習する。1時間
8	モルルス通信から携帯電話へ	モルルス電信からベルの電話へ、電話機と交換機のしくみ、 アナログからデジタルへ、携帯電話とネットワークのしくみ	配付資料を復習する。1時間
9	アナログからデジタルへ	アナログとデジタル、2進数とは、論理回路入門	配付資料を復習する。1時間
10	パソコンの内部構造	真空管計算機ENIAC、電子回路で論理計算をする ハードウェアとソフトウェア、CPUとメモリ、ハードディスクとSSD	配付資料を復習する。1時間
11	マイコンで制御される家電製品	電気制御の重要性、温度制御、圧力制御 電子レンジやIHのしくみ	配付資料を復習する。1時間
12	音響機器のしくみ	マイクとスピーカ、録音技術の歴史 CDのしくみ、アナログ録音とデジタル録音、人工音の合成	配付資料を復習する。1時間
13	画像表示のしくみ	画像表示の歴史と原理、各種表示デバイスのしくみ、 立体映像表示の原理と実例	配付資料を復習する。1時間
14	インターネットのつながり	インターネットのしくみ、ルータとハブ 無線LAN、ネットワークセキュリティ	配付資料を復習する。1時間
15	医療分野への貢献	ガルバノの実験、義手の制御 電気工学の医療への応用	配付資料を復習する。1時間

関連科目	特になし
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	資料を配付する		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法	受講態度 20%, 受講メモ 40%, 小テスト 40%の総合点で評価する
------	---------------------------------------

(基準)	
学生へのメッセージ	身の回りの電気製品は日々進化しています。これらを便利な道具としてブラックボックス的に使うのではなく、そのしくみを知って使うことでさらに活用することができます。そういったしくみに興味を持って受講して下さい。
担当者の研究室等	1号館4階・5階の電気電子工学教員室
備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。

科目名	科学技術教養E2	科目名(英文)	Scientific and Technological Literacy E2
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	鹿間 信介
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	電気は我々の生活になくってはならないものである。この講義では電気の歴史と簡単な基礎理論を説明した後、電気を発生する発電のしくみとその方法を手始めに、現代社会において応用されている電気電子工学、通信情報工学の最新科学技術について講述する。
到達目標	電車のしくみや放送技術、携帯電話やレーザー光線の原理、最新のナノテクノロジーやロボット工学、また宇宙規模の電気の話などもあり、最終的には電気を使った科学技術がどの様なしくみで我々の暮らしに関わっているかを理解できることを到達目標とする。  V科の学習・教育目標との対応：A R科の学習・教育目標との対応：A A科の学習・教育到達目標との対応：A M科の学習・教育到達目標との対応：A1 E科の学習・教育到達目標との対応：A, B C科の学習・教育到達目標との対応：I
授業方法と留意点	授業はスライドを用いて行い、授業中にメモを取らせて授業後に回収する。 講義は1話完結であるが、相互につながりがある。電気を用いた科学技術の全体像を理解するように努めよう。
科目学習の効果(資格)	現代社会を支えている電気エネルギーとその応用について総合的に学ぶことにより、電気への理解を深め、これにより原子力発電も含めた電力供給系と節電に対する正しい考え方を身につけることができる。また、携帯電話やスマートフォンでどこでも通信ができる社会のしくみ等も知ることができる。国家資格で電気の基礎の出題がある場合には、その基礎勉強にもなる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	電気の歴史	琥珀はエレクトロン、磁石の利用、クーロンの法則、アンペールの法則、ファラデーの電磁誘導、マクスウェル理論と電磁波の予言	電気に関するニュースに注意する。1時間
2	発電の原理と発電所	電気エネルギーを発生させるしくみ、発電機、水力、火力 交流発生か直流か、50Hzと60Hz	配付資料を復習する。1時間
3	原子力発電	核エネルギーの発生、原子力発電のしくみ、事故と防災対策、放射線の性質と測定	配付資料を復習する。1時間
4	再生可能エネルギー	太陽光発電、風力発電 地熱発電、海洋エネルギー、宇宙発電、エネルギー効率	配付資料を復習する。1時間
5	送電・配電	電気を安定に送る、交流送電か直流送電、周波数変換 送電電圧と家庭電圧への変換、スマートグリッド	配付資料を復習する。1時間
6	モータのしくみと電車	磁石と電流による力の発生、モータのしくみ 電車、リニア新幹線、電気ブレーキと電力回生	配付資料を復習する。1時間
7	電波と放送	電波の利用と電波法、初期のラジオ放送、電波に映像を載せる テレビ放送の開始からカラーテレビへ、デジタル化と双方向テレビ	配付資料を復習する。1時間
8	携帯電話のしくみ	有線電話から無線へ、無線基地局と無線ゾーン、携帯電話がつながるしくみ、メールやWebへの応用、携帯電話のこれから	配付資料を復習する。1時間
9	電気照明の発達	エジソンによる電灯の発明、蛍光灯のしくみ、青色LEDの発明、LED照明	配付資料を復習する。1時間
10	レーザーの発明	物質からの光放射、線スペクトルと誘導放射 メーザーからレーザーへ、レーザーの特徴	配付資料を復習する。1時間
11	電気通信から光通信へ	電気信号と光信号の変換、光で通信する光ファイバと高速・大容量化、光で測る	配付資料を復習する。1時間
12	進化するナノテクノロジー	半導体の動作原理、半導体集積回路の構造、集積回路技術の歴史と現状、スマートフォンからウェアラブル計算機へ、今後の発展	配付資料を復習する。1時間
13	プログラマブル高速計算機の発達	チューリング機械、手回し計算機と計算尺、最初の電算機ENIAC 弾道ミサイルの計算、金融計算から天気予報まで	配付資料を復習する。1時間
14	最新ロボット工学	ロボット工学の過去・現在・未来 ハードとソフト(人工知能)はどこまでできているのか	配付資料を復習する。1時間
15	電気と宇宙	第4の状態—プラズマ、放電の原理と応用、雷の発生原理、 太陽プラズマと黒点の関係、オーロラの発光メカニズム	配付資料を復習する。1時間

関連科目	特になし			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	資料を配付する		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	受講態度 20%, 受講メモ 40%, 小テスト 40%の総合点で評価する			
学生への メッセージ	我々の暮らしに電気は不可欠です。しかも原子力発電の問題が出てきて、エネルギー問題への関心は節電対策も含め高まっていると思います。しかし、単純に噂などを鵜呑みにするのではなく、電気の発生から伝達までのしくみを詳しく知れば、風評に惑わされることなく、対策を考えることができます。常に様々な電気関連のニュースに注意を払いながら受講して下さい。			
担当者の 研究室等	1号館 4階・5階電気電子工学科教員室			
備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。			



科目名	科学技術教養M1	科目名(英文)	Scientific and Technological Literacy M1
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	諏訪 晴彦
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	機械工学は、ヒトが活動する上での効率化、合理化、さらには自動化を図るモノやコトの技術・学問の体系である。本講義では、ヒトはなぜモノを作ろうとするのか、何を用いてモノを作ってきたのか、どのようにモノを作るのかに注目し、その上で日本が世界に誇ると言われる「モノづくり」の諸技術を学ぶ。モノの材料から道具を作ること、さらには産業の発展に役立ってきたさまざまな機械とその諸技術について学ぶ。
到達目標	機械技術およびものづくり技術全般の基礎知識を身につけ、機械工学と社会・生活との関わりを理解できる。 V科の学習・教育目標との対応：A R科の学習・教育目標との対応：A A科の学習・教育到達目標との対応：A M科の学習・教育到達目標との対応：A1 E科の学習・教育到達目標との対応：A, B C科の学習・教育到達目標との対応：I
授業方法と留意点	・各テーマごとにその歴史、基本原理、最先端の話題を2回もしくは3回にわたって提供する。 ・スライドを中心にビデオを用いた講義形式を取る。講義の終盤に講義内容のメモ(ノート)を提出するため、講義の内容をよく聞き、ノートにしていぬいにまとめていくことが大事。
科目学習の効果(資格)	世の中に存在する工業製品、人力を越えた能力を備える機械など人工物・人工物システムの役割・仕組み・機能に関する幅広い知識を得て、知見を広めることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	機械工学とは?	・機械工学の発展の歴史を概観する。 ・「機械工学曼荼羅」を用いて、機械工学の役割、範囲、応用を紹介する。	配布資料に目を通しておくこと。
2	道具を作る(1) - ヒトと道具	・道具の歴史: ヒトの手の動作を補う道具から労働としての道具へ ・農具 漁具 大工道具 手動工具 電動工具	配布資料に目を通しておくこと。
3	道具を作る(2) - 作り方	・鋳造、塑性加工、粉末冶金、材料加工、生産加工 ・刀鍛冶、セラミックス、溶接・切断	配布資料に目を通しておくこと。
4	モノの材料を知る(1) - 金属材料	・金属材料はなぜ素材たり得るか? ・鉄鋼の製造方法	配布資料に目を通しておくこと。
5	モノの材料を知る(2) - セラミックス・ポリマー	・セラミックス・ポリマーの構造(金属と何が異なるか?) ・高強度・機能性材料の話	配布資料に目を通しておくこと。
6	モノの材料を知る(3) - 新素材	・新素材と高度産業化社会 ・形状記憶、超伝導、ナノ材料	配布資料に目を通しておくこと。
7	ものづくり(1) - 母なる機械	・機械部品を作る機械(工作機械の歴史) ・機械時計、工具と運動、機械部品	配布資料に目を通しておくこと。
8	ものづくり(2) - 精密に加工する	・精度を追求する(コンピュータと工作機械) ・精密加工、マシニングセル、ナノ加工	配布資料に目を通しておくこと。
9	ものづくり(3) - 工場(ファクトリー)	・世界が学ぶ・日本が誇る製造システム ・無人化工場、デジタル屋台、トヨタ生産方式	配布資料に目を通しておくこと。
10	大きな力を得る(1) - 車輪	・作業を補助する機械の歴史 ・車輪、滑車、てこ、歯車	配布資料に目を通しておくこと。
11	大きな力を得る(2) - 建設運搬機械	・巨大な力を得るためのアクチュエータ ・油圧・水圧・空気圧機器、電動機	配布資料に目を通しておくこと。
12	大きな力を得る(3) - パワーアシスト	・アクチュエータの知能化とパワーアシスト ・パワードスーツ、電動アシスト自転車、人工筋肉	配布資料に目を通しておくこと。
13	ミクロの機械(1) - 精密機械	・小さくなることで変わる使い方 ・時計、携帯電話、計算機、テレビカメラ、情報機器	配布資料に目を通しておくこと。
14	ミクロの機械(2) - 小さく作る	・小さくすることで変わる物理の法則、加工法・アクチュエータ ・微細加工、ナノテク、半導体製造、カーボンナノチューブ、微細気泡	配布資料に目を通しておくこと。
15	ミクロの機械(3) - 小さくて広大な世界	・半導体製造技術を用いた微細構造を持つ機械 ・カプセル内視鏡、鞭毛モーター	配布資料に目を通しておくこと。

関連科目	産業技術史
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	科学技術教養M1		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	毎回、講義メモとレポートを提出する。 受講態度 (20%), 講義メモ (40%), レポート (40%) を評価する。
学生への メッセージ	機械工学に関わる製品や技術を、大きなスケールで幅広く知ることができます。また、道具はどうやって進化してきたのか? 日本の「ものづくり」がなぜ優れているのか? 近未来にどのような乗り物が実現されているか? 等々、工業製品にまつわる歴史や最新のトピックを紹介します。本講義を受講し、就職活動や職業観の涵養に役立てましょう。
担当者の 研究室等	担当教員の居室 [1号館の3階・4階・5階]
備考	

科目名	科学技術教養M2	科目名(英文)	Scientific and Technological Literacy M2
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	岸本 直子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	機械工学は、ヒトが活動する上での効率化、合理化、さらには自動化を図るモノやコトの技術・学問体系である。本講義では、ヒトはなぜモノを作ろうとするのか、何を用いてモノを作ってきたのか、どのようにモノを作るのかに注目し、その上で日本が世界に誇ると言われる「モノづくり」の諸技術を学ぶ。モノの材料から道具を作ること、さらには産業の発展に役立ってきたさまざまな機械とその諸技術について学ぶ。
到達目標	人の活動に貢献し生活を豊かにする機械技術を理解するとともに、機械システムと社会や経済活動、生活・生命との関わりを理解する。 V科の学習・教育目標との対応：A R科の学習・教育目標との対応：A A科の学習・教育到達目標との対応：A M科の学習・教育到達目標との対応：A1 E科の学習・教育到達目標との対応：A, B C科の学習・教育到達目標との対応：I
授業方法と留意点	・各テーマごとに、歴史、基本原理、最先端の話題を2回もしくは3回にわたって提供する。 ・スライドを中心にビデオを用いた講義形式を取る。講義の終盤に講義内容のメモ(ノート)を提出するため、講義の内容をよく聞き、ノートにしていねいにまとめていくことが大事。
科目学習の効果(資格)	世の中に存在する工業製品、人力を越えた能力を備える機械など人工物・人工物システムの役割・仕組み・機能に関する幅広い知識を得て、知見を広めることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	機械工学とは?	・機械工学の発展の歴史を概観する。 ・「機械工学曼荼羅」を用いて、機械工学の役割、範囲、応用を紹介する。	配付資料に目を通しておくこと
2	活動の源(1) - 動力・エネルギーの世界	・身近なエネルギー利用と動力の歴史 ・人力、蓄力、水力、風力、蒸気力	配付資料に目を通しておくこと
3	活動の源(2) - 発電	・エネルギー利用と発電 ・水力、風力、火力、地熱、原子力発電	配付資料に目を通しておくこと
4	乗り物(1) - エンジン	・熱工学とエンジンシステム ・種々のエンジン(ガソリン等)、電気モータ	配付資料に目を通しておくこと
5	乗り物(2) - 輸送する	・交通と物流 ・自動車交通、船舶、鉄道	配付資料に目を通しておくこと
6	空間を移動する(1) - 空を飛ぶ	・空中を飛ぶことができる機械の機能、種類、歴史と原理 ・飛行機、ヘリコプター、飛行船、揚力	配付資料に目を通しておくこと
7	空間を移動する(2) - 高速移動	・深海に潜ることができる機械の機能、種類、歴史と原理 ・しんかい 6500、深海探査、水圧、チタン合金、生命維持システム	配付資料に目を通しておくこと
8	空間を移動する(3) - 宇宙へ飛び立つ	・宇宙空間に飛んでいける機械の機能、種類、歴史と原理 ・ロケット、スペースシャトル、宇宙ステーション、高真空、ロケットエンジン	配付資料に目を通しておくこと
9	物を測る	・測り方を共通にすることで広がる世界 ・度量衡と政治の関係、原器、ものさし、機械的測定	配付資料に目を通しておくこと
10	センサで測る	・センサの発達と誤差との戦い ・センサ、センシング技術、計測と誤差	配付資料に目を通しておくこと
11	制御する	・制御の成り立ちと発展、自動制御とは? ・調速機、結果を見て制御する(フィードバック)	配付資料に目を通しておくこと
12	操る・抑える	・サーボ機構とプロセス制御 ・ロボットアーム、ロケット、原子力発電、鉄鋼プラント	配付資料に目を通しておくこと
13	生命・生体に倣う機械(1) バイオエンジニアリング	・バイオエンジニアリング、生体工学の世界 ・生体の模倣と設計、鳥と飛行機、ハコフグと低燃費自動車、サソリと多足ロボット	配付資料に目を通しておくこと
14	生命・生体に倣う機械(2) - 医療と健康	・人間を援ける医用工学、人間を癒す福祉工学の世界 ・人工臓器、福祉機器、健康機器、スポーツ機器	配付資料に目を通しておくこと
15	生命・生体に倣う機械(3) - ヒューマノイド	・人間を測る、診る、まねる世界 ・生体計測、生体力学、医用診断装置、ヒューマノイドロボット	配付資料に目を通しておくこと

関連科目	産業技術史			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>毎回、講義メモとレポートを提出する。          受講態度 (20%), 講義メモ (40%), レポート (40%) を総合的に評価する。</p>			
学生への メッセージ	<p>機械工学が関わる製品や技術を、大きなスケールで幅広く知ることができます。また、道具はどうやって進化してきたのか? 日本の「ものづくり」がなぜ優れているのか? 近未来にどういう乗り物が実現されているか? 等々、工業製品にまつわる歴史や最新のトピックを紹介します。本講義を受講し、就職活動や職業観の涵養に役立てましょう。</p>			
担当者の 研究室等	<p>担当教員の居室 [1号館の3階・4階・5階]</p>			
備考	<p>出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。</p>			

科目名	科学技術教養 R 1	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy R1
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	森山 正和
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	古来より人間は、自然の力をかりてこの地球上に暮らしてきたが、祖先が自然と共生するために凝らしたさまざまな工夫は、それぞれの場所での気候風土、地形、材料を活用したものであり、そこには多くの知恵と技術の歴史を見ることができる。このような背景にもとづく、住環境の成り立ちについて、さまざまな事例を紹介しながら講義する。また、それらを踏まえて、具体的な空間やもののデザインに応用するための工夫や実践につながる技術、手法を学ぶ。
到達目標	住環境の成り立ち、空間やもののデザインの実践的な技法を理解し、建築都市インテリアなどの空間を対象とする住環境デザイン全般の基礎知識を習得できる。  V科の学習・教育目標との対応：A R科の学習・教育目標との対応：A A科の学習・教育到達目標との対応：A M科の学習・教育到達目標との対応：A1 E科の学習・教育到達目標との対応：A, B C科の学習・教育到達目標との対応：I
授業方法と留意点	パワーポイントや板書による講義を行う。 講義の内容に沿った課題を毎回提出させる。講義を集中して聴く態度が求められる。
科目学習の効果（資格）	身近な住まいと暮らし、環境に関するデザインの知識と手法が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	エコ技術と住宅デザイン-近代の住宅事例	新しい素材、技術、理論の進展に伴い、エコ技術を駆使した近代の住宅デザイン例を学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
3	エコ技術と住宅デザイン-現代の住宅事例	自然の力をかりるといった古来の知恵を、最新の科学によって融合させた現代の住宅デザイン例を学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
4	都市デザインにおけるエコ技術	ヒートアイランド対策をはじめとする、都市デザインにおけるエコ技術について学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
5	住環境における換気	換気の考え方の歴史や法などの基準のはなしを基に、住宅における換気的重要性について学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
6	健康で快適な生活とにおい対策	心身ともに健康に過ごすための、住宅内でのにおい問題やにおい対策の考え方について学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
7	生活の中における香りの活用	屋内外の香りや人と人の関わりのはなしから、香りや人の心理生理的影響や香りの積極的な利用方法について学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
8	安全・快適な照明環境	照明環境のユニバーサルデザイン手法について、基礎的な知識と、最近の調査、デザイン事例を学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
9	暮らしの中のさまざまな寸法	身近なモノの寸法がどの様に決められているかを知り、住まいや暮らしをより豊かにするデザインの視点を学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
10	家具のデザイン	生活に必要な道具というだけの意味合いを超えた、近代以降の、時代を象徴する家具デザインについて学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
11	いのちを守るあかりとサイン	大規模災害時に避難・誘導を助けるあかりやサインの存在を知り、その有用性とデザイン上の注意点を学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
12	CGと空間デザイン	インテリアや住宅デザインで用いられるCGのしくみと基本知識、その有用性について学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
13	アニメーションと空間デザイン	アニメーションを用いて空間を表現した事例紹介から、そのしくみと効果について学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
14	かたちとデザイン	身の周りにある家具や住宅などのかたちをコンピュータを用いて表現する方法を学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
15	空間を写実的に描くしくみ	空間を写実的に描くために必要な素材・光をコンピュータで表現するしくみと手法を学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。

関連科目	なし			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	講義中における受講態度 20%、講義メモ・課題・小テストなど 80% で評価する。 期末試験は行わない。			
学生への メッセージ	受講希望者数が定数を越えた場合は、成績などで選択順位を決めることがある。			
担当者の 研究室等	12号館 7階 各教員研究室			
備考	出席に関しては、履修申請要領の「科目履修に当たっての注意事項」を遵守すること。 事前・事後学習にかかる学習時間は授業外の課題や小テストの学習時間も含め、 毎回 1 時間程度と考えてください。			

科目名	科学技術教養R2	科目名(英文)	Scientific and Technological Literacy R2
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	竹村 明久
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	日本の伝統的な住宅は、気候風土、地形、材料などに影響を受けて地方色が豊かであり、歴史的、文化的な相違からも地域性が認められる。現代の住まいや暮らしはそれらの影響を受けて、さまざまな技術の発達、社会の変化とともに、かつての住まいや暮らしの形は変容しつつある。このような身近な住まい、まち、暮らしについての知識を得て、今後の持続可能な社会を創造するための手法を学ぶ。
到達目標	到達目標：建築都市インテリアなどの空間における歴史的文化的背景による地域性を理解し、持続可能な社会を創造するためのまちづくりや住宅建築など、住環境の未来に向けたデザイン手法を習得できる。 V科の学習・教育目標との対応：A R科の学習・教育目標との対応：A A科の学習・教育到達目標との対応：A M科の学習・教育到達目標との対応：A1 E科の学習・教育到達目標との対応：A, B C科の学習・教育到達目標との対応：I
授業方法と留意点	パワーポイントや板書による講義を行う。 講義の内容に沿った課題を毎回提出させる。講義を集中して聴く態度が求められる。
科目学習の効果(資格)	身近な住まいと暮らし、環境に関するデザインの知識と手法が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	(オリエンテーション) 住まいと生活	(科目の内容、授業の進め方、評価基準等を説明する。) 住まいと何か。家庭生活や社会生活が複雑に多様化する中で、住まいの本来の機能や役割について学ぶ。	配布資料講義部分の復習を十分に行う。
	2	日本の住まいの地域性	気候風土や歴史、文化などを背景に、地方色豊かな伝統的日本住宅について学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
	3	住宅とまちの関係	事例紹介に沿って住環境としてのまちなみの個性と課題を解説する。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
	4	住環境の空間デザイン	自然発生的建築の多義性、多様性を解説し、現代における住環境の空間デザイン論を語る。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
	5	学びと遊びの環境デザイン	発達段階にある子どもたちが多くの時間を過ごす学校の新しいデザイン事例を知り、人と空間との密接な関係を学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
	6	福祉住環境のデザイン	今までに携わってきた事例を紹介しつつ、住の延長としての医療福祉系住環境の課題を解説する。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
	7	様々な人に配慮した住宅・施設設備	ユニバーサルデザインの観点からの住宅設備や施設設備について学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
	8	高齢者のための生活空間	高齢者の心身機能の特性を踏まえて、高齢者をめぐる住宅行政や、様々な高齢者居住について学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
	9	高齢者の生活環境の広がり と支援	高齢者の外出行動、生活環境の広がり と、求められる支援の仕組みについて事例を通して学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
	10	地球共生建築のすすめ	地球共生建築および構造、コンポーネントデザインについて学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
	11	バイオミメティックデザイン	自然界における形態と構造とその応用デザインについて学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
	12	温熱・空気環境と人	温熱環境と空気環境との関わりから、カビ対策など快適な環境確保に必要なことについて学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
	13	冷暖房システムのエコ技術	日本の気候風土と冷暖房システムの現状を再考し、今後の暮らしのあり方について学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
	14	暮らしの中の太陽エネルギー利用	太陽光発電システムと太陽熱利用システムをとりあげ、暮らしの中の太陽エネルギー利用について学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
	15	次世代の住環境を考える	私たちの住環境はどのように進化すべきか、地球共生から宇宙共生についてを考える。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			



	3		
評価方法 (基準)	講義中における受講態度 20%、講義メモ・課題・小テストなどを合わせ 80% で評価する。 期末試験は行わない。		
学生への メッセージ	受講希望者数が定数を越えた場合は、成績などで選択順位を決めることがある。		
担当者の 研究室等	12 号館 7 階 各教員研究室		
備考	履修申請要領の「科目履修にあたっての注意事項」を遵守する。 事前・事後学習にかかる学習時間は、授業外の課題や小テストの学習時間も含めて、毎回 1 時間程度とすること。		

科目名	科学技術教養V 1	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy VI
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	芳本 忠
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	新聞やテレビが病気・くすりについてのニュースを取り上げることは珍しくないが、その内容を理解することは容易ではない。本講義では、病気・くすりの発見や原因解明の歴史、生命現象との関係などを個体レベルから遺伝子レベルにわたって幅広く平易に概説する。その結果、大学生として知っておきたい生命科学の知識を身につけることを目的とする。
到達目標	(1) 病気・くすりに関する知識を習得し、新聞やテレビのニュースを理解できるようになる。(2) 病気の原因解明や治療法・くすりの開発における生命科学研究の意義を理解できるようになる。 V科の学習・教育目標との対応：A R科の学習・教育目標との対応：A A科の学習・教育到達目標との対応：A M科の学習・教育到達目標との対応：A1 E科の学習・教育到達目標との対応：A, B C科の学習・教育到達目標との対応：I
授業方法と留意点	一話完結型のオムニバス形式で講義を行い、教科書とパワーポイントを用いて解説する(講義によっては配布資料もある)。講義ごとに講義メモの提出を求める。その他、レポート、小論文、演習問題などの課題を課す。
科目学習の効果(資格)	新聞やテレビで見聞きする病気やくすりについてのニュースが理解できる。また、病気の原因解明やくすりの開発における生命科学研究の意義を知ることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	病気とくすりの歴史。	人類の発生から現在まで、人々は病気に悩まされてきた。病気の克服、戦闘などで傷ついた体を癒す目的で自然界のいろいろな物質を試行錯誤で用いてきた。その過程で伝統的な薬を見出し、近年になり生命科学の技術により組換え医薬品へ発展してきた創薬技術の歴史を追う。	テキストと配布資料を十分に予習・復習する。
	2	病気と遺伝子。	内容:生物のDNAは常に外界の危険因子によって傷(変異)を受けているが、生物の体内には傷を発見して治療する安全システムが存在している。この安全システムはどのように作動して、また不具合が生じた場合にどうなるのか?また身近に存在する危険因子や疾患の代表例について考える。	テキストと配布資料を十分に予習・復習する。
	3	脳・神経の病気のしくみ。	脳や神経の病気は難病と言われているものが多く、治療、快復が困難な現状である。まず難病のいくつかを紹介し、それらの治療のためにどのようなことがなされているかを概説する。	テキストと配布資料を十分に予習・復習する。
	4	免疫が引き起こす病気のしくみ。	外敵や内なる敵から自らを守るためにつくられた免疫システムの概要と、がん、ウイルス感染(インフルエンザ、HIV、肝炎)、アレルギー疾患などとの関連について紹介する。	テキストと配布資料を十分に予習・復習する。
	5	がんの発生とその予防法。	死因別死亡率のトップはがんであり、約3人に1人ががんで亡くなっている。自分の意思で調節可能なはずの危険因子である喫煙が、がんの原因の30%を占めており、単因子要因としては最大である。本講義では、がんの発生機序やその予防法について説明する。	テキストと配布資料を十分に予習・復習する。
	6	不妊のしくみ。	日本人夫婦(カップル)は10組のうち1組は不妊と言われており、実際に治療を受けている人が多い。しかし、なぜ不妊になるのかははっきりしない場合も多い。本講義では受精の仕組みから考えられる不妊の原因と現在の治療法について概説する。	テキストと配布資料を十分に予習・復習する。
	7	くすりと遺伝子工学。	ある生物から分離した遺伝子を別の細胞または生物体に導入して、遺伝子産物(タンパク質)を生産したり、新しい形質を作り出すなど、遺伝子を人工的に操作する技術、遺伝子工学について紹介する。	テキストと配布資料を十分に予習・復習する。
	8	くすりと組換え生物。	8年ほど前にヒトのすべてのDNA配列が解読されて、ヒトには約2万2千の遺伝子があることが明らかにされた。ポストゲノム研究では、マウスやラットなどを用いた「遺伝子組み換え生物」が作製され、再生医療や疾患の新しい治療法を開発するための重要なツールとして利用されていることに加え、バイオ医薬品の作製などにも役立っている。遺伝子組み換え生物の作成と応用について考える。	テキストと配布資料を十分に予習・復習する。
	9	くすりとバイオインフォマ	遺伝子やタンパク質の配列情報を例に	テキストと配布資料を十分に予習・復習する。

	ティクス.	バイオインフォマティクスの概要について説明し、病気と遺伝子、ゲノム創薬への応用について述べる.																	
10	くずりとタンパク質のかたち.	タンパク質構造決定の意義と構造決定法のひとつである X 線結晶構造解析の概要から、インフルエンザ治療薬を例に医薬品開発への応用について述べる.	テキストと配布資料を十分に予習・復習する.																
11	くずりとゲノム.	ゲノムとは、創薬とは、遺伝子診断などを解説し、生命倫理、歴史的な背景や将来の課題と発展方向をさぐる.	テキストと配布資料を十分に予習・復習する.																
12	薬物乱用と依存性薬物.	社会のルールからはずれた方法や目的で、薬物を使うことを薬物乱用という。薬物依存という、その人の性格や人格の問題と思われがちであるが、脳内報酬系の異常という生物学的基盤があることを理解する必要がある。本講義では、薬物依存の形成機構および各種の依存性薬物について説明する.	テキストと配布資料を十分に予習・復習する.																
13	遺伝子治療の最前線.	遺伝子により治療はできるか、遺伝性疾患、科学・技術の概要、基本的な原理を解説。生命倫理や関連した話題のトピックについても触れる.	テキストと配布資料を十分に予習・復習する.																
14	神経再生治療の最前線.	ヒトの中枢神経は損傷から回復できない。また、抹消神経であっても神経細胞そのものがダメージを受けるとやはり回復は難しい。ヒトの神経及び神経細胞の損傷からの回復を目指して様々な努力が行われている。それらの研究をわかりやすく概説する.	テキストと配布資料を十分に予習・復習する.																
15	iPS 細胞研究の最前線.	京都大学の山中伸弥教授によって作り出された iPS 細胞の基礎・臨床研究は今や国家プロジェクトであり、新聞やテレビでもたびたび登場する。本講義で iPS 細胞の発見から現在までの研究状況を概説する.	テキストと配布資料を十分に予習・復習する.																
関連科目	科学技術教養 V2.																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業態度 20%、講義メモ 40%、およびレポート・小論文・演習問題などの課題 40%の総合点で評価する.																		
学生へのメッセージ	病気やくずりはみなさんの身近な問題で、関心も大きいと思います。本講義では病気やくずりについて、生命科学の観点から具体例を挙げてわかりやすく解説します。																		
担当者の研究室等	1号館9階 芳本、松川、川崎、尾山、西村、中嶋、船越、居場各研究室.																		
備考	欠席・遅刻の扱いは理工学部の規則に従って処理します。事前・事後学習にかかる学習時間は授業外の課題や小テストの学習時間も含め、毎回1時間程度として下さい。																		

科目名	科学技術教養V2	科目名(英文)	Scientific and Technological Literacy V2
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	芳本 忠
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	本講義では、微生物の単離・殺菌技術や化粧品の開発、繊維加工に利用されている遺伝子組換え技術など、我々の暮らしを豊かにするバイオテクノロジーから、環境リスクの評価、ヒトの健康を守る知識や技術まで、生命科学の分野における最新の研究事例を取り上げ、幅広く解説する。
到達目標	醗酵・腐敗の歴史、遺伝子組換え技術、バイオエネルギー、機能性食品など、我々の健康と暮らしを支えている生命科学について説明できる。 V科の学習・教育目標との対応：A R科の学習・教育目標との対応：A A科の学習・教育到達目標との対応：A M科の学習・教育到達目標との対応：A1 E科の学習・教育到達目標との対応：A, B C科の学習・教育到達目標との対応：I
授業方法と留意点	講義内容について資料を配付し、パワーポイントを用いて解説する。講義ごとに受講メモの提出を求める。その他、レポート、小論文、演習問題などの課題を課す。
科目学習の効果(資格)	遺伝子組換え技術などのバイオテクノロジーと、我々の暮らしや健康との関わりが理解できる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	醗酵・腐敗とバイオテクノロジー	古代よりアルコール醗酵がおこなわれてきたが、自然醗酵によっていたため、度々腐敗となったであろう。安定した生産を求めたことが微生物の単離、殺菌技術の開発、そして現在の遺伝子組換え技術など生命科学の発展をもたらした。この歴史を学ぶ。	配布資料を復習する。
2	化粧品とバイオテクノロジー	バイオテクノロジーを化粧品開発に応用した事例を紹介し、実際の商品を取り上げてバイオテクノロジーのメリットを解説する。	配布資料を復習する。
3	繊維とバイオテクノロジー	繊維に反応する酵素を紹介し、これらを用いた繊維加工の応用例および今後の可能性について解説する。	配布資料を復習する。
4	遺伝子組換え植物とその将来	代表的な遺伝子組換え植物の創生方法について簡単に紹介し、世界における遺伝子組換え植物の実際、遺伝子組換え作物の環境への影響、また、日本における組換え作物の安全審査について説明する。さらに、遺伝子組換え賛成派と反対派の主な意見についても触れる。	配布資料を復習する。
5	バイオレメディエーションの可能性	過去、日本であった重金属汚染について簡単に復習し、特に水銀に焦点を合わせて水銀浄化法を説明する。物理化学的浄化法と微生物を用いた生物学的浄化法を対比しながら、適宜遺伝子組換え技術について補足を加え概説し、植物を用いた生物学的浄化法についても説明する。	配布資料を復習する。
6	最先端のバイオエネルギー技術	21世紀に入り、エネルギー枯渇問題、環境負荷低減の要請から、生物の持つエネルギーを新しい代替エネルギーとして利用する試みが急速に発展している。本講義では、バイオエネルギーの概要から最先端のバイオエネルギー技術まで、現在のエネルギーとの比較や生態系・環境との共生の立場から解説する。	配布資料を復習する。
7	新規エネルギーの創生と生物・環境に及ぼす影響	近年、エネルギーの枯渇化問題や生物とこれを取りまく環境との共生の問題を解決する新規エネルギーの創生が強く望まれている。本講義では、これまでに使用されてきたエネルギーから最先端のエネルギーまでの特徴を、生物と環境へ及ぼす影響といった観点から解説する。	配布資料を復習する。
8	機能性食品などの新しい食品の形態	食品の一次機能(栄養素)、二次機能(味、触感など)および三次機能(生体機能の調節などの新規機能)について解説し、保健機能食品制度、特定保健用食品、栄養機能食品など新しい食品の形態を講述する。	配布資料を復習する。
9	食品の健康障害リスクと対策	微生物、アレルギー性物質、残留農薬などの食品に存在するヒトの健康障害リスクについて具体的な事例を取り上げ、解説する。	配布資料を復習する。
10	モデル生物を用いたバイオテクノロジー	近年の生命科学ではヒトの遺伝子機能や生体機能、遺伝性疾患のメカニズムの解析の方法として様々なモデル生物が盛んに用いられている。それらの応用例を実際の写真等を示しながら、実際の研	配布資料を復習する。

			究例や今後に期待される展望を紹介する。																	
	11	微生物酵素を用いる物質生産システム ～バイオテクノロジーを支える酵素利用技術～	酵素は優れた機能を有するタンパク質性の触媒であるが、産業で利用されている酵素の殆どは、加水分解酵素、転移酵素、異性化酵素などであり、反応に補酵素やエネルギーを要する酵素の利用に遅れが見られる。かかる酵素の産業への応用を可能にする酵素利用技術（固定化酵素など）と酵素改変技術（分子進化学、逆進化学、タンパク質工学など）の現状と将来について概観する。	配布資料を復習する。																
	12	遺伝子工学からゲノム工学へ ～バイオテクノロジーを支える微生物の形質転換法～	微生物の遺伝子交換法として、形質導入、接合、及び形質転換の3つが知られている。ここでは、真核微生物であり、遺伝子発現などの分子機構において高等動植物と共通性が高い出芽酵母における形質転換法の発展の経緯、方法、及びDNA取り込み機構を概観する。近年、進展の著しい巨大ゲノムDNAを扱う合成生物学やゲノム工学も展望する。	配布資料を復習する。																
	13	植物を用いた有用タンパク質生産	植物は、安全性、低コスト、分離精製の容易さなどの点から外来タンパク質の生産系として優れている。本講義では、植物を宿主とした生理活性タンパク質・ペプチドや抗体、ワクチン、医療用タンパク質などの生産について解説する。	配布資料を復習する。																
	14	環境リスクの評価方法	環境汚染物質や食品添加物などの合成化学物質などのヒトに対する安全性評価すなわちリスクアセスメントの考え方を講述し、水道水質基準や環境基準の策定に関する基本的な考え方を述べる。	配布資料を復習する。																
	15	地球規模の環境破壊と人体への影響	主にオゾン層の破壊、地球の温暖化および酸性雨に関して発生原因、発生機構、人への影響およびその防止対策に関して述べる。	配布資料を復習する。																
関連科目	科学技術教養V1																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	授業態度 20%、受講メモ 40%およびレポート、小論文、演習問題などの課題 40%の総合点で評価する。																			
学生への メッセージ	遺伝子組換え技術、バイオエネルギー、機能的食品など、我々の健康と暮らしを支えている生命科学について、具体的な事例を取り上げ、分かりやすく解説します。																			
担当者の 研究室等	1号館8階 環境分析学研究室（青笹）																			
備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部の出席および遅刻・欠席と、原則、同じ扱います。詳細は、一回目の講義で配布する資料に従います。																			

科目名	企業経営	科目名 (英文)	Corporate Management / Business Management
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	北尾 隆夫
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	<p>大学での学業を終えられた学生諸氏は、社会人として必ず企業との関わりを持たれます。就職する会社や、自らが経営する会社が、何を指し、何に悩み、何に生き甲斐を求めているのかを、事例を通じ理解を深めて戴きます。ステークホルダーとの関わりの中で、企業が果たすべき役割りを考えると共に、企業経営者に求められる素養や判断すべき内容、企業組織の在り方、更にはCSRで代表される企業の社会的責任に言及します。</p> <p>産業資本主義と金融資本主義との狭間で揺れ動く企業経営の実態と今後の企業経営の展望を一緒に考える授業です。</p>
到達目標	<p>以下の観点から、企業経営やビジネスクリエート（起業）の理解を深めます。</p> <p>①会社形態、組織形態とその運営への理解                  ②ビジネスの目的と意義への理解                  ③アントレプレナーの目的や意義の理解                  ④起業の方法や留意事項への理解                  ⑤株式会社が生み出す経済活動と社会的責任への理解</p> <p>V科の学習・教育目標との対応：A                  R科の学習・教育目標との対応：A                  A科の学習・教育到達目標との対応：A                  M科の学習・教育到達目標との対応：A1                  E科の学習・教育到達目標との対応：B                  C科の学習・教育到達目標と</p>

授業方法と留意点	<p>教師からの一方的な講義ではなく、学生自身による主体的な参画方式の授業のため、レポートや発表を多く取り入れたものにします。授業全体を通じ、その時々々の社会情勢を中心に、プリントやパワーポイントにより新しい動向を紹介し、全員で考えながら授業を進めます。</p> <p>教科書は特に設定せず、配布プリントとPower Pointによるプレゼンテーションで授業を進めます。また、授業の参考になる書籍、ビジネス雑誌、更にはインターネットや新聞情報を紹介し、授業の一助に供します。</p>
----------	---

科目学習の効果（資格）	<p>企業経営の観点だけでなく、企業での就業の意味や目的を、更には自らの起業や経営の在り方について、経営的観点から理解を深めていただく効果を期待します。</p>
-------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	はじめに ー企業のはじめの歴史の意味ー	・講師自己紹介、授業ガイダンス ・企業（株式会社）の発祥の歴史の経緯や社会的意味、意義を解説します。	シラバスをよく読んでください。
2	「法人」の定義 と 「起業」の意義・目的	企業や団体が「法人」と定義される意味と、その形態を分類整理します。また、企業が事業目的を遂行するために必要とする業務内容とその相互の関連性について解説すると共に、事業を起こすこと（起業）の目的や意義を、企業業務に関連づけて説明します。	法人という定義を事前に調べてください。
3	企業の経済活動	企業は、消費財の提供に伴う経済活動だけでなく、資本や資金の調達、利益の配分などの複雑な経済活動を行っています。その経済活動の種類や目的について解説します。	株式などの有価証券の意味を事前に学習してください。
4	企業とステークホルダーの関係とその活動	企業は消費財を提供することによる消費者との関係だけでなく、種々の社会構造や社会機能との関わりを持っています。企業の社会との関わりについて解説し、身近な事象についての討議を行います。	ステークホルダーの意味を調べておいてください。
5	企業の活動目標と組織運営	企業は、その活動目標を達成するために組織を形成し、役割分担や責任体制を明確化しています。企業における組織の在り方と目標設定の意義について解説します。	企業が持つべき業務機能について考えておいてください。
6	分業の意義と問題点	目的を共有する複数の人が集まり、組織を形成することにより発生する分業について解説し、分業が持つ効果と問題点を整理します。また、ディスカッションにより、具体的な認識を高めていただきます。	分業という言葉の定義を調べておいてください。
7	経済情勢と企業経営の方向性 =新たなビジネスの摸索=	リーマンショック、東日本大震災、原発事故以降の世界的経済情勢の変化に触れ、「モノづくり」中心の日本産業の直面する課題を整理し、その打開策を学生諸氏と共に考え、これからの企業の在り方の摸索や起業分野を考える一助に供します。	2008年に発生した世界的な経済問題であるリーマンショックについて、その概要を調べておいてください。
8	情報化社会の意味と我々の生活	あらゆる局面で「情報化社会」という言葉が使われているが、その定義と我々の生活に与える変化、また我々が対応すべき事柄などを解説します。	情報化社会に関連する新聞記事やインターネット情報を事前に調べ、持参してください。
9	企業戦略とそのアプローチ方法 I	企業は自らの目的を達成するために、事前に調査、分析、戦略立案を行います。その経営戦略の枠組みと、経営資源とは何かを論理的に解説します。	どのような企業でも、持っている目的とは何かを事前に考えておいてください。
10	企業戦略とそのアプローチ	企業は自らの目的を達成するため行う	松下幸之助の経営哲学に関する情報を事前に学習



	方法 II	事前の調査、分析、戦略立案のアプローチ方法を整理し、それぞれの適用ケースを解説します。また、経営者が持つべき戦略的思考についても併せて解説します。	してください。																
11	企業活動における情報活用の目的	企業経営においては、物理的な資源以外に「情報」というものの経営資源としての価値が取り上げられ、その活用方法が企業戦略の命運を左右すると言われていています。その理由や背景を判り易く解説します。	企業経営が必要とする「情報」を事前に考えてみてください。																
12	経営意思決定とそのアプローチ ＝「起業趣旨」と「起業手続き」を踏まえて＝	経営意思決定は、経営者の独断に依存するのではなく、戦略要因の定量的分析と取捨選択の確信により支えられます。「起業の趣旨」を軸に据えた意思決定アプローチについて、「起業の手続き」を交えて、具体的に解説します。	経営意思決定の成功例を事前に調査してください。																
13	C S R ー企業の社会的責任ー I	企業は、消費財の供給だけでなく、企業活動が及ぼす社会的影響が問題視されています。企業が活動を行う上で、考慮しなければならない側面を解説すると同時に、皆さんの考えを整理して載けます。	環境問題などの事例を調査してください。																
14	C S R ー企業の社会的責任ー II	企業の社会的責任の中でも、経営資源としても挙げられる「情報」の取り扱いを、情報セキュリティの観点から解説します。企業だけでなく、我々に日常生活に於ける情報漏洩などの問題点も併せて説明します。	情報漏洩事件などのニュースを事前に調べておいてください。																
15	授業全体のまとめ	「企業経営」の講義についてのまとめと感想。授業の要点と重要なポイントをレビューし、質問等にお答えします。	「企業経営」の講義の全体を復習しておいてください。質問等を事前に準備しておいてください。																
関連科目	経営、経済、組織、社会学などに関連する授業などが、本授業の参考になり、理解を深めて戴く一助になります。また、火曜日および金曜日4時限に、同名称の科目がありますが、同一科目ではありません。受講、レポート提出、学期末定期試験は独立して管理しますので、両講義の併用は禁止します。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>教科書は特に設定しません。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	教科書は特に設定しません。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	教科書は特に設定しません。																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	<p>全体評価は、受講姿勢評価（35%）と学期末試験結果評価（65%）により行います。</p> <p>(1) 受講姿勢評価 通常言う平常評価として採点します。評価ポイントは、 ①課題レポートの提出（内容不備の場合には再提出を求める場合もあります） ②小テストおよび豆テストの実施（授業理解度確認） ③授業ごとの感想レポート（真面目な感想、積極的質問、建設的意見を重視）により行います。</p> <p>(2) 学期末試験評価 設問内容は、文章力向上、自己表現力向上の目的も兼ねて論述中心の</p>																		
学生へのメッセージ	<p>変化が激しい社会にあって、就職ということだけに目標を置くのではなく、経済活動の中でのビジネスクリエートの重要性を理解いただきたいと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回出席をとります〔連絡カード配付〕。遅刻をしないようにしてください。</li> <li>・座席は前から詰めて着席してください〔座席は指定しません〕。</li> <li>・授業中の私語は謹んでください〔真面目な受講者の弊害となる場合は退場戴く場合もあります〕。</li> <li>・授業中、不明な点は放置せず、積極的に質問してください。</li> </ul>																		
担当者の研究室等	11号館6階 経営学部事務室、講師控え室																		
備考	<p>&lt;受講姿勢評価に関する補足事項&gt; 講義全体は、毎回の講義（授業）の積み重ねで成立するものです。講義全体を通じ、その内容を体系的に理解していただくことが主たる目的です。その様な講義主旨から、事前事後学習に最低でも都度1時間以上の時間をかけて戴きたいと思えます。また、都度の講義内容での不明点は放置せず、授業中の随時の質問、連絡カードでの質問などでの積極受講の姿勢を尊重します。 課題レポートについても、義務的レポーティングにならない様、自主的調査、自己考察の明記のために数時間以上を掛け、明瞭かつ丁</p>																		



科目名	技術英語	科目名(英文)	Engineering English
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中道 英美子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	このクラスの目的は、技術者として、研究者として必要となる基本的な英語力を養成することである。具体的には、日常生活に関わる英語表現と共に、基本的な科学技術系英語の語彙・表現を増やし、さらにそれらが音声化されたものを聞き取ったり、書き表したり、また自らも発音することができるようになることを目標とする。
到達目標	建築学科の学習・教育到達目標との対応：[C]
授業方法と留意点	基本的な英語で書かれた科学系、工学関連のテキストを使用し、語彙・文法を強化し、会話練習を通じて知識を実際に運用する訓練を行う。
科目学習の効果(資格)	TOEIC、工業英検

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	適材適所 理想の職業と適性について考えよう。	リーディング ライティング、スピーキング	テキスト、Engineering Workshopの一章、Readingの内容把握 副教材、1500 Core Vocabulary for TOEIC Test の26ページ、001から010までを予習
3	様々な素材 様々な素材の名称と性質を説明しましょう。	リーディング ライティング、スピーキング	テキスト、Engineering Workshopの五章、Readingの内容把握 1500 Core Vocabulary for TOEIC Test 021-030
4	形状記憶素材はすごい 形状記憶素材を利用したオリジナルアイデアを説明してみましょう。	リーディング ライティング、スピーキング	テキスト、Engineering Workshopの六章、Readingの内容把握 1500 Core Vocabulary for TOEIC Test 031-040
5	百聞は一見にしかず CADはテレビ、映画でどのように利用されていますか。英語で説明してみましょう。	リーディング ライティング、スピーキング	テキスト、Engineering Workshopの七章、Readingの内容把握 1500 Core Vocabulary for TOEIC Test 041-050
6	工場見学とCNC 学校体験ツアーの案内役になったら参加者にどんなことを説明したいですか。英語で考えてみましょう	リーディング ライティング、スピーキング	テキスト、Engineering Workshopの八章、Readingの内容把握 1500 Core Vocabulary for TOEIC Test 051-060
7	クルマの中のクルマ、ローバーミニ どのような人にどのような車が合うか考えてみましょう。	リーディング ライティング、スピーキング	テキスト、Engineering Workshopの九章、Readingの内容把握 1500 Core Vocabulary for TOEIC Test 061-070
8	手作り自動車の魅力 工場生産車と手作り自動車を較べてみましょう。	リーディング ライティング、スピーキング	テキスト、Engineering Workshopの十章、Readingの内容把握 1500 Core Vocabulary for TOEIC Test 071-080
9	取り扱い説明書 英語の取説を読んでみましょう。	リーディング ライティング、スピーキング	テキスト、Engineering Workshopの十一章、Readingの内容把握 1500 Core Vocabulary for TOEIC Test 081-090
10	安全第一 警告、注意事項を実際につけてみましょう。	リーディング ライティング、スピーキング	テキスト、Engineering Workshopの十二章、Readingの内容把握 1500 Core Vocabulary for TOEIC Test 091-100
11	長時間パソコンは体に負担	リーディング	テキスト、Engineering Workshopの

	健康リスクを伴う製品、活動について説明してみましょう。	ライティング、スピーキング	十三章、Readingの内容把握 1500 Core Vocabulary for TOEIC Test 111-120																
12	スモールイズビューティフル 光ファイバーと銅線の違いを説明してみましょう。	リーディング ライティング、スピーキング	テキスト、Engineering Workshopの十四章、Readingの内容把握 1500 Core Vocabulary for TOEIC Test 121-130																
13	巨大インフラ工事 ユーロトンネルの建設工事について読んでみましょう。	リーディング ライティング、スピーキング	テキスト、Engineering Workshopの十五章、Readingの内容把握 1500 Core Vocabulary for TOEIC Test 131-140																
14	世界を変える発明 バッテリー無しで動くラジオの発明について読んでみましょう。	リーディング ライティング、スピーキング	テキスト、Engineering Workshopの十六章、Readingの内容把握 1500 Core Vocabulary for TOEIC Test 141-150																
15	まとめと復習	リーディング ライティング、スピーキング	1500 Core Vocabulary for TOEIC Test 001-0150																
関連科目	その他の英語科目全て																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Engineering Workshop</td> <td>Lindsay White</td> <td>Oxford</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test</td> <td>Koji NISHIYA</td> <td>SEIBIDO</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Engineering Workshop	Lindsay White	Oxford	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	Koji NISHIYA	SEIBIDO	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	Engineering Workshop	Lindsay White	Oxford																
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	Koji NISHIYA	SEIBIDO																
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	期末試験 50%、授業態度 50%の割合で評価する。なお、授業態度とは、授業中の質問に対する回答状況、授業への集中度を指す。																		
学生への メッセージ	音楽や、映画など、自分が興味のあるものを原語で楽しむことが語学力の向上につながります。																		
担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師室）																		
備考	例1) 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。 例2) 課題（レポート）には1回あたり5時間以上かけて仕上げること。 例3) 自主学習には、期末試験の準備を含めて、合計20時間はかけること。 例4) 英単語はe-learningを含めて、毎日、平均1時間は学習すること。																		

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田中 健二
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	英語学習の基礎は文法マスターと語彙力増強である。まず英語の基礎となる文法のおさらいをしっかりとやって、読みやすい文章をたくさん読む。その上で英字新聞を使い、ジャーナリズム英語にも挑戦して、実用的な英語に対する勘も養う。
到達目標	英文を読んだらその英文構造が文法的にも理解できるようにする。 英文のまとまりは文脈を捉えつつ、弾力的に意味内容を把握できるようになる。 語彙力向上も重要なので、継続的に訓練を積み、語彙力を高める。  建築学科の学習・教育到達目標との対応：[C] 電気電子工学科の学習・教育到達目標との対応：[F]
授業方法と留意点	テキストで文法の総復習を行う。書かれている問題は予習でやってくる。やさしい読み物も予習で下読みをしてくる。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC (特にリーディングパート) のスコアアップ

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	品詞	文法解説 問題演習 英字新聞を読む	単語テストの勉強
	2	動詞	文法解説 問題演習 英字新聞を読む	単語テストの勉強 1-20 番まで 文法問題の復習
	3	動詞	文法解説 問題演習 英字新聞を読む	単語テストの勉強 21-40 番まで リーディングの復習
	4	動詞	文法解説 問題演習 英字新聞を読む	単語テストの勉強 41-60 番まで 文法問題の復習
	5	完了形	文法解説 問題演習 英字新聞を読む	単語テストの勉強 61-80 番まで リーディングの復習
	6	完了形	文法解説 問題演習 英字新聞を読む	単語テストの勉強 81-100 番まで 文法問題の復習
	7	完了形	文法解説 問題演習 英字新聞を読む	単語テストの勉強 101-120 番まで リーディングの復習
	8	助動詞	文法解説 問題演習 英字新聞を読む	単語テストの勉強 121-140 番まで 文法問題の復習
	9	助動詞	文法解説 問題演習 英字新聞を読む	単語テストの勉強 141-160 番まで リーディングの復習
	10	助動詞	文法解説 問題演習 英字新聞を読む	単語テストの勉強 161-180 番まで 文法問題の復習
	11	態	文法解説 問題演習 英字新聞を読む	単語テストの勉強 181-200 番まで リーディングの復習
	12	態	文法解説 問題演習 英字新聞を読む	文法問題の復習 リーディングの復習
	13	不定詞	文法解説 問題演習 英字新聞を読む	リーディングの復習
	14	不定詞	文法解説 問題演習 英字新聞を読む	文法問題の復習
	15	不定詞	文法解説 問題演習 英字新聞を読む	リーディングの復習

関連科目	英語 Ib
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Framework English Grammar in 23 Lessons (7th edition)	桐原書店編集部	桐原書店
	2	What's Up? Elementary	Muroi Michiko	桐原書店
	3	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷恒志	成美堂

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	共通試験 (TOEIC) (20%)、統一英語単語テスト(10%) 定期試験 (60%)、単語試験 (10%) の割合で総合的に評価する。
学生への メッセージ	頑張りましょう。
担当者の 研究室等	7号館3階田中健二研究室
備考	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山内 浩充
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的  
英語は今日世界共通語としての地位を築きつつあります。ですから今後好むと好まざるにかかわらず、英語は私たちの生活にますます関わってきます。こうした時代の流れに対応するためにも、もう一度英語全体の根底にある文法・語法を身につけ、それを実践にいかすことを目標にします。

到達目標  
国際的コミュニケーションのための基本的な意志疎通ができる能力を有する。  
建築学科の学習・教育到達目標との対応：[C]  
電気電子工学科の学習・教育到達目標との対応：[F]

授業方法と留意点  
毎回、クラスのほぼ全員に答えてもらうので、予習を欠かさないこと。

科目学習の効果（資格）  
全員がTOEIC300点を取るのに必要な読解力、語彙力をつける。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	講義の進め方、評価方法などを説明。	教科書・英和辞典を持参すること。 The 1500 Core Vocabulary 0001 - 0017
2	名詞 Short Readings 1	可算名詞と不可算名詞を学習	The 1500 Core Vocabulary 0018 - 0034
3	冠詞 Short Readings 2	不定冠詞・定冠詞の用法を学習	The 1500 Core Vocabulary 0035 - 0051
4	代名詞 (1) Short Readings 3	人称代名詞と指示代名詞を学習	The 1500 Core Vocabulary 0052 - 0068
5	代名詞 (2) Short Readings 4	不定代名詞を学習	The 1500 Core Vocabulary 0069 - 0085
6	基本時制 Short Readings 5	現在・過去・未来時制を学習	The 1500 Core Vocabulary 0086 - 0102
7	進行形 Short readings 6	現在・過去・未来進行形を学習	中間試験の学習
8	これまでのまとめと中間試験	これまでのまとめと中間試験	The 1500 Core Vocabulary 0103 - 0119
9	完了形 Short Readings 7	現在・過去・未来完了形を学習	The 1500 Core Vocabulary 0120 - 0136
10	助動詞 (1) Short Readings 7	can may must would の用法を学習	The 1500 Core Vocabulary 0137 - 0152
11	助動詞 (2) Short Readings 8	should, ought to, used to, need, dare の用法を学習	The 1500 Core Vocabulary 0153 - 0168
12	受動態 (1) Short Readings 9	受動態の作り方と基本的な文の受動態を学習	The 1500 Core Vocabulary 0169 - 0184
13	受動態 (2) Short Readings 10	注意すべき受動態と、by 以外の前置詞を用いる受動態を学習	The 1500 Core Vocabulary 0185 - 0200
14	不定詞 (1) Short Readings 11	名詞的用法・形容詞的用法・副詞的用法を学習	共通テストに向けて学習
15	不定詞 (2) Short Readings 12	原形不定詞の用法を学習	定期試験の学習

関連科目  
基礎英語 IIa

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Refreshing English Grammar with Short Readings	福井 慶一郎/北山 長貴	朝日出版社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）  
共通試験30% (TOEICブリッジ20%、統一英語単語テスト10%)、平常点を20%、単語テストを10%、中間試験と定期試験の平均を40%の割合とする。

学生へのメッセージ  
e-learning 教材を使用し、音声機器を使った学習してください。TOEIC受験を勧めます。

担当者の研究室等  
7号館2階(非常勤講師室)

備考  
事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	C
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ジェフリー ベル
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

教養科目

授業概要・目的	この授業は、基礎的な文法力・語彙力を身につけることを目的とする。 高校までに学習した文法を復習し、簡単な読解などを通じて語彙を増やすことによって、基礎レベルの英文が理解できるようになることを目標とする。
到達目標	建築学科の学習・教育到達目標との対応：[C] 電気電子工学科の学習・教育到達目標との対応：[F]
授業方法と留意点	教科書にそって、リスニング、会話ペアワーク、文法解説、演習、読解を行う。 授業時間内に、小テスト（授業内容の確認）と単語テスト（指定範囲）を行う。
科目学習の効果（資格）	TOEIC など各種英語検定試験に必要な文法力、語彙力、読解力の基本を身に付ける。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方・評価方法・注意点についての説明	次回の単語テストの範囲を暗記する 次回の Unit の練習問題を解く・単語を調べる
2	Unit 1 Introductions be 動詞の現在形と過去形	単語テスト：1-20 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト	次回の単語テストの範囲を暗記する 次回の Unit の練習問題を解く・単語を調べる
3	Unit 1 continued 命令文	単語テスト：21-40 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト	次回の単語テストの範囲を暗記する 次回の Unit の練習問題を解く・単語を調べる
4	Unit 2 What a Life! (Daily Life) 現在形と現在進行形	単語テスト：41-60 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト	次回の単語テストの範囲を暗記する 次回の Unit の練習問題を解く・単語を調べる
5	Unit 2 continued 代名詞	単語テスト：61-80 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト	次回の単語テストの範囲を暗記する 次回の Unit の練習問題を解く・単語を調べる
6	Unit 3 Free Time (Hobbies/Sports) 過去形と過去進行形	単語テスト：81-100 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト	次回の単語テストの範囲を暗記する 次回の Unit の練習問題を解く・単語を調べる
7	Unit 3 continued 過去形と現在完了	単語テスト：101-120 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト	次回の単語テストの範囲を暗記する 中間テストの準備
8	これまでのまとめ、中間テスト	単語テスト：121-140 前半内容の総復習および中間テスト	次回の単語テストの範囲を暗記する 次回の Unit の練習問題を解く・単語を調べる
9	Unit 4 Places (Neighborhood/Facilities) 時を表す前置詞	単語テスト：141-160 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト	次回の単語テストの範囲を暗記する 次回の Unit の練習問題を解く・単語を調べる
10	Unit 4 continued 教えられる名詞と教えられない名詞	単語テスト：161-180 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト	次回の単語テストの範囲を暗記する 次回の Unit の練習問題を解く・単語を調べる
11	Unit 5 Getting Around (Directions) be going to と will	単語テスト：181-200 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト	次回の単語テストの範囲を暗記する 次回の Unit の練習問題を解く・単語を調べる
12	Unit 5 continued 助動詞	単語テスト：1-50 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト	次回の単語テストの範囲を暗記する 次回の Unit の練習問題を解く・単語を調べる
13	Unit 6 Shopping (How much is that?) 等位接続詞と 2 語で成り立つ接続詞	単語テスト：51-100 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト	次回の単語テストの範囲を暗記する 次回の Unit の練習問題を解く・単語を調べる
14	Unit 6 continued Yes-No 疑問文	単語テスト：101-150 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト	次回の単語テストの範囲を暗記する 定期試験の準備
15	前期のまとめ	単語テスト：151-200 前半内容の総復習	定期試験の準備

関連科目 基礎英語 2a

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Breakthrough Plus (Macmillan) ISBN 978-0230-438132	Miles Craven	Macmillan
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 共通試験 30% (TOEIC ブリッジ 20%、統一英語単語テスト 10%)、定期試験 20%、中間テスト 20%、授業態度 (単語テスト、小テスト、課題提出、授業参加度) 30%の割合で総合的に評価する。

学生への メッセージ	じっくり解説し、繰り返し練習します。着実に基礎英語力をUPさせましょう。
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5回以上欠席すると、試験などの成績にかかわらず失格とする。</li> <li>・授業を妨げる行為（私語、許可無く途中退席する、テキストを持参しない、スマホや携帯の使用、居眠り等）は減点の対象とする。</li> <li>・事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。</li> </ul>



科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	D
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松井 智子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	この授業では、大学生がマスターしておくべき英文法のエッセンシャルズを、理解・定着させることを目的としています。高校までに学習した英文法を、改めて体系的に学習しますので、自分が理解できていること／理解できていないことを自覚し、基礎英文法の土台を強化することができます。平易で短いリスニングやリーディング、音読なども取り入れながら、基礎的な読解力・語彙力も身に付けていきます。
到達目標	基礎レベルの英文法に不安のある学生が、自分が理解できていること／理解できていないことを自ら発見し、弱点を補強し、基礎英文法の土台を強化することができる。 基礎レベルの短いリーディングを読んで理解することができる。  建築学科の学習・教育目標との対応：[C] 電気電子工学科の学習・教育到達目標：[F]
授業方法と留意点	まず、簡単な問題で、皆さんの英文法の知識を確認します。その上で、講師が英文法のエッセンシャルズを解説します。ここで、自分が何を理解してなかったのか、考えるようにしてください。次に、演習問題を解き、学習したばかりの知識を再確認します。短いリーディングを読み、ここでも文法事項を再確認します。最後に、英文を完成させたり構成したりする作業を通じ、重要事項の定着を図ります。ここで作った英文は、ペアで音読練習し、すぐ小テストで確認します。従って、毎回、授業の最後に小テストを行います。 なお、毎回、授業冒頭で、指定
科目学習の効果 (資格)	TOEIC (特にリーディングパート) などのスコアアップ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の内容と進め方、小テスト、評価方法などについて具体的に説明する。	単語学習範囲：1-20
	2	英語の基本語順を見てみよう	単語テスト：1-20 Unit 1 (文法解説・演習・暗唱等) 小テスト	単語学習範囲：21-40 テキストの復習
	3	自動詞と他動詞、どう見分ける？	単語テスト：21-40 Unit 2 (文法解説・演習・暗唱等) 小テスト	単語学習範囲：41-60 テキストの復習
	4	人もモノも目的語：二重目的語	単語テスト：41-60 Unit 3 (文法解説・演習・暗唱等) 小テスト	単語学習範囲：61-80 テキストの復習
	5	補語が目的語を説明する：補語	単語テスト：61-80 Unit 4 (文法解説・演習・暗唱等) 小テスト	単語学習範囲：81-100 テキストの復習
	6	文頭に特徴あり：疑問文	単語テスト：81-100 Unit 5 (文法解説・演習・暗唱等) 小テスト	単語学習範囲：101-120 テキストの復習
	7	NOT だけが否定とは限らない	単語テスト：101-120 Unit 6 (文法解説・演習・暗唱等) 小テスト	単語学習範囲：121-140 テキスト (範囲：第1回～第7回) の復習
	8	これまでの復習	単語テスト：121-140 第7回までの学習項目についてふりかえり 小テスト (範囲：第1回～第7回)	単語学習範囲：141-160 テキストの復習
	9	現在形は習慣、今、起こっていることは現在進行形	単語テスト：141-160 Unit 7 (文法解説・演習・暗唱等) 小テスト	単語学習範囲：161-180 テキストの復習
	10	現在から切り離された時：過去形	単語テスト：161-180 Unit 8 (文法解説・演習・暗唱等) 小テスト	単語学習範囲：181-200 テキストの復習
	11	出来事を時間の流れでとらえよう：完了形	単語テスト：181-200 Unit 9 (文法解説・演習・暗唱等) 小テスト	単語自主学習 テキストの復習
	12	その場で決めたら will、計画したら be going to	Unit 10 (文法解説・演習・暗唱等) 小テスト	単語自主学習 テキストの復習
	13	助動詞で動詞の意味は変幻自在	Unit 11 (文法解説・演習・暗唱等) 小テスト	単語自主学習 テキストの復習
	14	教えられる名詞と教えられない名詞	Unit 12 (文法解説・演習・暗唱等) 小テスト	単語自主学習 テキスト (範囲：第9回～第14回) の復習
	15	総復習	第14回までの学習項目についてふりかえり 小テスト (範囲：第9回～第14回)	テキスト (定期試験範囲) の復習

関連科目	基礎英語 IIa
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	College Grammar Pathfinder (基礎文法から始める大学英語)	本多吉彦、土屋武久	金星堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test: Word Book	西谷恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3		
評価方法 (基準)	<p>原則として、出席率 80% (15 回中 12 回) 以上の学生のみを評価対象とする。</p> <p>(1) 共通試験 (30%) (TOEIC Bridge 20%、統一英語単語テスト 10%)  (2) 定期試験 (30%)  (3) 小テスト (20%)、  (4) 単語テスト (10%)、  (5) 授業態度 (発表や取り組み姿勢など) (10%)  以上の割合で総合的に評価する。</p>		
学生への メッセージ	<p>やみくもに勉強するのではなく、初歩から、精選された文法事項を、体系的に学び、理解を着実にしていきましょう。また、文法を頭で理解するだけではなく、声を出し、体で覚えていくために、音読練習への取り組みを重視します。単語学習の際は、指定の単語帳に付録の e-learning 教材 (リンガポルタ) を使用すると、自分の苦手な単語を繰り返し練習することが可能です。TOEIC 受験もお勧めします。</p>		
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室		
備考	<p>事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること。  授業を妨げる行為 (私語、許可無く途中退席する、テキストを持参しない、スマホや携帯の使用、居眠り等) は減点対象とする。  個別に質問等がある場合は、授業後すぐに教壇または 7 号館 2 階の非常勤講師室にて受け付けます。</p>		

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	E
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	黒川 尚彦
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	この授業では、TOEIC のスコアアップの基盤作りとして、文法を中心に授業を進めます。文法が分かれば、TOEIC のスコアアップにつながるだけでなく、英文を正しく理解する武器になります。そのことにより、基本的な英文を作れるようになり、英文を読むスピードを速くすることができるようになります。 授業は基礎の基礎から行うので、これを機に文法を自分のものにししましょう。
到達目標	基礎英文法の徹底理解。  建築学科の学習・教育到達目標との対応：[C] 電気電子工学科の学習・教育到達目標：[F]
授業方法と留意点	授業では、まず基本的な文法に関する知識を学びます。次に練習問題を解いたり、英文を読むことでその知識の定着をはかります。授業の留意点として、受動的に講義を受けるのではなく、積極的に取り組むことを心がけることです。とりわけ、自分が何を理解していて、何を理解していないかを考えるようにしてください。そして、課された予習や課題にしっかり取り組んでください。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC (特にリーディングパート) のスコアアップ

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Course Introduction	授業の方針、授業の進め方、評価方法の説明など。	単語テストの勉強 (1-20) リンガポルタ自主学習
2	Unit 1 My Hometown (1)	be 動詞 リスニングや練習問題を通して、文法事項を理解する。	単語テストの勉強 (21-40) リンガポルタ自主学習 文法問題の復習
3	Unit 1 My Hometown (2)	be 動詞 リーディングやライティングを通して、文法事項を理解する。	単語テストの勉強 (41-60) リンガポルタ自主学習 リーディングの復習
4	Unit 2 Hobbies (1)	一般動詞 リスニングや練習問題を通して、文法事項を理解する。	単語テストの勉強 (61-80) リンガポルタ自主学習 文法問題の復習
5	Unit 2 Hobbies (2)	一般動詞 リーディングやライティングを通して、文法事項を理解する。	単語テストの勉強 (81-100) リンガポルタ自主学習 リーディングの復習
6	Unit 3 Shopping (1)	名詞・代名詞 リスニングや練習問題を通して、文法事項を理解する。	単語テストの勉強 (101-120) リンガポルタ自主学習 文法問題の復習
7	Unit 3 Shopping (2)	名詞・代名詞 リーディングやライティングを通して、文法事項を理解する。	単語テストの勉強 (121-140) リンガポルタ自主学習 リーディングの復習
8	Unit 4 Nature Quiz (1)	Wh 疑問文 リスニングや練習問題を通して、文法事項を理解する。	単語テストの勉強 (141-160) リンガポルタ自主学習 文法問題の復習
9	Unit 4 Nature Quiz (2)	Wh 疑問文 リーディングやライティングを通して、文法事項を理解する。	単語テストの勉強 (161-180) リンガポルタ自主学習 リーディングの復習
10	Unit 5 Dream House (1)	前置詞 リスニングや練習問題を通して、文法事項を理解する。	単語テストの勉強 (181-200) リンガポルタ自主学習 文法問題の復習
11	Unit 5 Dream House (2)	前置詞 リーディングやライティングを通して、文法事項を理解する。	単語テストの勉強 (総復習) リンガポルタ自主学習 リーディングの復習
12	Unit 6 Food (1)	接続詞 リスニングや練習問題を通して、文法事項を理解する。	単語テストの勉強 (総復習) リンガポルタ自主学習 文法問題の復習
13	Unit 6 Food (2)	接続詞 リーディングやライティングを通して、文法事項を理解する。	単語テストの勉強 (総復習) リンガポルタ自主学習 リーディングの復習
14	Unit 7 First Date (1)	過去形 リスニングや練習問題を通して、文法事項を理解する。	単語テストの勉強 (総復習) リンガポルタ自主学習 文法問題の復習
15	Unit 7 First Date (2)	過去形 リーディングやライティングを通して、文法事項を理解する。	単語テストの勉強 (総復習) リンガポルタ自主学習 リーディングの復習

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>English Ace</td> <td>山本厚子 他</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test</td> <td></td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	English Ace	山本厚子 他	成美堂	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test		成美堂	3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	English Ace	山本厚子 他	成美堂													
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test		成美堂													
3																	

参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	

教養科目

評価方法 (基準)	共通試験 (TOEICブリッジ) (20%)、統一英語単語テスト(10%) 定期試験 (40%)、単語試験 (10%)、授業態度 (発表や取り組む姿勢など) (20%) の割合で総合的に評価する。
学生への メッセージ	この授業を機に、文法を基礎からやり直しましょう！文法が分かれば、リーディングが簡単になり、スピーキングにも応用できます。 何度も読んだり、書いたりことがいちばんの近道です。TOEIC スコア 450 点以上を (まずは) 目指して、自分自身を鍛えていきましょう！
担当者の 研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
備考	英単語は e-learning を含めて、毎日、平均1時間は学習すること。

科目名	基礎英語 I b	科目名 (英文)	Basic English Ib
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小川 一美
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	TOEIC 受験のための基礎的な文法力の養成。
到達目標	高校英語の基礎を固め、実力を伸ばす。 A 科の学習・教育目標との対応：[C] E 科の学習・教育到達目標との対応：[F]
授業方法と留意点	・さまざまな分野のスピーチを通してリスニング力を高め、同時に文法・構文などを確認し、英語表現の理解を深める。 ・共通テキスト『The Core Vocabulary for the TOEIC Test』により語彙力の強化を図る。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC のスコアの向上。

教養科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業の進め方、評価の仕方、予習の仕方など	単語学習 (単語番号 201-220)
	2	ジェイ・ウォーカー	リスニングおよび内容理解	復習：本時の内容 予習：次回の内容  単語学習 (単語番号 221-240)
	3	坂茂	リスニングおよび内容理解(1)	復習：本時の内容 予習：次回の内容  単語学習 (単語番号 241-260)
	4	坂茂	リスニングおよび内容理解(2)	復習：本時の内容 予習：次回の内容  単語学習 (単語番号 261-280)
	5	坂茂	リスニングおよび内容理解(3)	復習：本時の内容 予習：次回の内容  単語学習 (単語番号 281-300)
	6	ハース&ハーン	リスニングおよび内容理解(1)	復習：本時の内容 予習：次回の内容  単語学習 (単語番号 301-320)
	7	ハース&ハーン	リスニングおよび内容理解(2)	復習：本時の内容 予習：次回の内容  中間試験の準備 単語学習 (単語番号 321-340)
	8	中間試験と解説	中間試験および解答と解説	単語学習 (単語番号 341-360)
	9	ピーター・ハース	リスニングおよび内容理解(1)	復習：本時の内容 予習：次回の内容  単語学習 (単語番号 361-380)
	10	ピーター・ハース	リスニングおよび内容理解(2)	復習：本時の内容 予習：次回の内容  単語学習 (単語番号 381-400)
	11	ピーター・ハース	リスニングおよび内容理解(3)	復習：本時の内容 予習：次回の内容  単語学習 (単語番号 201-250)
	12	パトリシア・ライアン	リスニングおよび内容理解(1)	復習：本時の内容 予習：次回の内容  単語学習 (単語番号 251-300)
	13	パトリシア・ライアン	リスニングおよび内容理解(2)	復習：本時の内容 予習：次回の内容  単語学習 (単語番号 301-350)
	14	パトリシア・ライアン	リスニングおよび内容理解(3)	復習：本時の内容  単語学習 (単語番号 351-400)
	15	総括	今期のまとめ 期末試験のための復習	予習：定期試験準備 単語学習 (単語番号 201-400)

関連科目	他の英語に関連する科目
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	2			
	3			
参考書				

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	総合英語 Forest	石黒昭博	桐原書店
	2	チャート式デュアルスコープ総合英語	小寺茂明	数研社
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共通テスト 30% ( TOEICブリッジ20% + 統一英語単語テスト10% )</li> <li>・リングポルタ 5%</li> <li>・平常点 15%(小テスト・授業態度・宿題)</li> <li>・中間試験 25%</li> <li>・期末試験 25%</li> </ul>			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回辞書を持参すること。</li> <li>・毎回『The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test』の単語テストがあるため、必ず準備すること。</li> <li>・私語など授業を妨害するような行為や許可なく途中退席する場合は欠席とみなす。</li> </ul>			
担当者の 研究室等				
備考				

科目名	基礎英語 I b	科目名 (英文)	Basic English Ib
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	東野 厚子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	英文読解力を高めることを目的に、「短めのパッセージ」(80-90語)⇒「文法解説」⇒「長めのパッセージ」(180語)の3ステップで取り組む。文法事項は、説明と例文を通してポイントを理解した後、練習問題で定着を図る。また語彙に関しては、クロスワードやワードリサーチなど様々な活動を通して、文脈の中で使う能力をつける。
到達目標	建築学科の学習・教育到達目標との対応：[C] 電気電子工学科の学習・教育到達目標との対応：[F]
授業方法と留意点	受け身の授業態度ではなく、積極的に取り組む姿勢を評価する。授業では、なるべく全員を指名するので予習し、各Unitごとには、文法事項の確認のため小テストを行うので復習をしておく必要がある。
科目学習の効果(資格)	英検・TOEICテストのスコアアップなど

教養科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	Unit 1 Marathon Men and Women be動詞	単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習番号(0201-0240) テキストの予習、復習
3	Unit 2 Healthy Choices 命令文	単語テスト Unit1,小テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習番号(0241-0260) テキストの予習、復習
4	Unit 3 Laughing Matters 現在時制	単語テスト Unit2小テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習番号(0261-0280) テキストの予習、復習
5	Unit 4 Animation the Japanese Way 過去時制	単語テスト Unit3小テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習番号(0281-0300) テキストの予習、復習
6	Unit 5 Dreams Come True? 現在進行形/過去進行形	単語テスト Unit4,小テスト文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習番号(0301-0320) テキストの予習、復習
7	Unit 6 The Statue of Liberty Wh疑問文	単語テスト Unit5小テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習番号(0321-0340) テキストの予習、復習
8	まとめ(1)	単語テスト Unit6,小テスト Unit1-6までの復習	単語学習番号(0341-0360) テキストの予習、復習
9	Unit 7 The Taj Mahal and Shah Jahan 可算名詞/不可算名詞	単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習番号(0361-0380) テキストの予習、復習
10	Unit 8 Universal Design 代名詞	単語テスト Unit7小テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習番号(0381-0400) テキストの予習、復習
11	Unit 9 Mars One will/be going to	単語テスト Unit8,小テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習(指示された箇所) テキストの予習、復習
12	Unit 10 Getting Around 助動詞	単語テスト Unit9,小テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習(指示された箇所) テキストの予習、復習
13	Unit 11 The "Meat" of Tomorrow 形容詞	単語テスト Unit10小テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習(指示された箇所) テキストの予習、復習
14	Unit 12 Art Crime 副詞	単語テスト Unit11小テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習(指示された箇所) テキストの予習、復習
15	まとめ(2)	単語テスト Unit12小テスト Unit7-12の復習	単語学習(指示された箇所) テキストの復習

関連科目 すべての英語科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Reading Steps	Robert Hickling/臼倉美里	金星堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名



	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	共通試験 30% (TOEIC (Bridge) 試験 20%, 統一英語単語テスト 10% ), 授業態度 (授業態度とは授業中の質問に関する回答状況、授業への集中度、小テストへの取り組みを指す) 30%, 定期試験 50%			
学生への メッセージ	eラーニング教材「リンガポルタ」を活用して単語力を増強し、TOEIC 試験に挑戦しましょう。 評価には、4/5 以上の出席が必要である。遅刻は、3 回で欠席扱いとする。			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室			
備考	自主学習には、期末試験の準備を含めて、合計 20 時間はかけること。			

科目名	基礎英語 I b	科目名 (英文)	Basic English Ib
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	C
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	本多 善
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	高校レベルの読解力と英作文、現代英語構文を習得するために、読み、書き、聞いて、書く4技能を教科書を使用して学習していきます。英語の基礎的な構文や文法を復習することで、確実に英語の聞き取り能力や表現力、読解力が向上します。授業では英語の基本となる語彙力をつけるため、毎回単語の小テストを実施し、授業では読解力も身につけます。日常会話についての英文を読み、より実用的なコミュニケーション能力と基礎的読解力を身に付けます。
到達目標	この授業を通して短い文章を読解する能力と文法の基礎を習得できます。また会話文の発声練習や毎回行う英単語の小テストによって大学生にとって必要不可欠な英語の語彙力が強化されます。これらの能力を習得することによってコミュニケーションスキルに念頭を置いた実用的な英語基礎能力が期待されます。 建築学科の学習・教育到達目標 [C] 電気電子工学科の学習・教育到達目標との対応: [F]
授業方法と留意点	・毎回のレッスンでは、(1)単語テスト、(2)1対1の英文を元にした対話、(3)テキスト内容把握、(4)演習問題です。英語を声に出すトレーニングを重視し、反復練習を行いながら苦手な英語の聞き取り能力の向上を目指します。 ・辞書を引き、十分に予習をして授業に臨んでください。辞書は必ず持参すること。 ・指定の単語集を用いて毎回、授業の初めにテストをします。
科目学習の効果(資格)	基礎的な英会話の聞き取り能力が身に付きます。 基本的な対話能力が身に付きます。 英文の基礎読解力が身に付きます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンスと英語学習の説明 Explain how to use this text book	授業方法、成績評価等の説明、座席の指定。教科書の学習方法の説明	単語帳の予習 201-220。 教科書の対話練習と英文読解の復習、辞書を引いての予習。
	2	対話練習と語彙・英文読解	単語テスト 201-220 例文暗唱、対話練習、テキスト音読、英文読解、問題演習。	単語帳の予習 221-240。 教科書の対話練習と英文読解の復習、辞書を引いての予習。
	3	対話練習と語彙・英文読解	単語テスト 221-240 例文暗唱、対話練習、テキスト音読、英文読解、問題演習。	単語帳の予習 241-260。 教科書の対話練習と英文読解の復習、辞書を引いての予習。
	4	対話練習と語彙・英文読解	単語テスト 241-260 例文暗唱、対話練習、テキスト音読、英文読解、問題演習。	単語帳の予習 261-280。 教科書の対話練習と英文読解の復習、辞書を引いての予習。
	5	対話練習と語彙・英文読解	単語テスト 261-280 例文暗唱、対話練習、テキスト音読、英文読解、問題演習。	単語帳の予習 281-300。 教科書の対話練習と英文読解の復習、辞書を引いての予習。
	6	対話練習と語彙・英文読解	単語テスト 281-300 例文暗唱、対話練習、テキスト音読、英文読解、問題演習。	単語帳の予習 301-320。 教科書の対話練習と英文読解の復習、辞書を引いての予習。
	7	対話練習と語彙・英文読解	単語テスト 301-320 例文暗唱、対話練習、テキスト音読、英文読解、問題演習。	単語帳の予習 321-340。 教科書の対話練習と英文読解の復習、辞書を引いての予習。
	8	対話練習と語彙・英文読解	単語テスト 321-340 例文暗唱、対話練習、テキスト音読、英文読解、問題演習。	単語帳の予習 341-360。 教科書の対話練習と英文読解の復習、辞書を引いての予習。
	9	対話練習と語彙・英文読解	単語テスト 341-360 例文暗唱、対話練習、テキスト音読、英文読解、問題演習。	単語帳の予習 361-380。 教科書の対話練習と英文読解の復習、辞書を引いての予習。
	10	対話練習と語彙・英文読解	単語テスト 361-380 例文暗唱、対話練習、テキスト音読、英文読解、問題演習。	単語帳の予習 381-400。 教科書の対話練習と英文読解の復習、辞書を引いての予習。
	11	対話練習と語彙・英文読解	単語テスト 381-400 例文暗唱、対話練習、テキスト音読、英文読解、問題演習。	単語帳の復習。 教科書の対話練習と英文読解の復習、辞書を引いての予習。
	12	対話練習と語彙・英文読解	例文暗唱、対話練習、テキスト音読、英文読解、問題演習。	単語帳の復習。 教科書の対話練習と英文読解の復習、辞書を引いての予習。
	13	対話練習と語彙・英文読解	例文暗唱、対話練習、テキスト音読、英文読解、問題演習。	単語帳の復習。 教科書の対話練習と英文読解の復習、辞書を引いての予習。
	14	対話練習と語彙・英文読解	例文暗唱、対話練習、テキスト音読、英文読解、問題演習。	単語帳の復習。 教科書の対話練習と英文読解の復習、辞書を引いての予習。
	15	対話練習と語彙・英文読解 期末試験のための総復習	例文暗唱、対話練習、テキスト音読、英文読解、問題演習。	単語帳の復習。 期末試験のための学習。

関連科目: その他の英語関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	A complete college English Program Book 1(大学英語の総合ナビゲーター:基本文法総まとめ編)	土屋武久 他	金星堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test WORD BOOK (学校語彙で学ぶ TOEIC テスト)	西谷恒志	成美堂
	2			
	3			
評価方法 (基準)	期末試験 40% 授業への参加、発表、提出物 20% 単語小テスト 10% 共通評価 30% (統一英語単語テスト 10%、TOEIC Bridge 20%)  ※授業態度に問題のある場合 (遅刻、居眠り、飲食、私語、携帯電話の使用など) は、教室に来ていても「欠席」扱いとします。			
学生への メッセージ	英語の力は学習時間に比例して伸びてゆきます。授業以外にも、自分の興味ある分野の英文をどんどん読んでみましょう。 全員参加で活気ある授業を創り上げましょう。			
担当者の 研究室等	7号館 2階 (非常勤講師室)			
備考	教科書の事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。 また毎回実施する英単語は e-learning を含めて、毎日平均して1時間は学習すること。			

科目名	基礎英語 I b	科目名 (英文)	Basic English Ib
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	D
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松下 乃亜
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

教養科目

授業概要・目的	総合的な英語運用能力の土台となる基礎英文法を重点的に学びます。教科書または配布プリントを使用し、学習した文法事項を実際のシチュエーションで使用することを意識しながら、特に初級レベルの聴解力、読解力、コミュニケーション力の習得を目指します。
到達目標	建築学科の学習・教育到達目標との対応: [C] 電気電子工学科の学習・教育到達目標: [F]
授業方法と留意点	毎回の授業で、単語テストを実施します。小テスト、グループの発表を行います。復習課題を指示しますので、必ず辞書を丁寧に調べて取り組んだ上で授業に出席してください。
科目学習の効果 (資格)	英語資格試験に備えた基本的語彙の習得。 基礎英文法の理解と習得。 初級レベルの聴解力、読解力、コミュニケーション力の伸長。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Introduction	授業方法 (小テスト実施、予習・復習課題等) の説明 単語の勉強方法	可能なら中学・高校で学習した英文法の復習
2	Unit 1 Be 動詞	授業テーマの文法事項を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等	教科書 単語集 単語番号 0201～0220
3	Unit 2 命令文	授業テーマの文法事項を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等	教科書 単語集 単語番号 0221～0240
4	Unit 3 現在時制	授業テーマの文法事項を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等	教科書 単語集 単語番号 0241～0260
5	Unit 4 過去時制	授業テーマの文法事項を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等	教科書 単語集 単語番号 0261～0280
6	Review Test	復習と小テスト	教科書 単語集 単語番号 0281～0300
7	Unit 5 進行形	授業テーマの文法事項を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等	教科書 単語集 単語番号 0301～0320
8	Unit 6 WH疑問文	授業テーマの文法事項を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等	教科書 単語集 単語番号 0321～0340 発表のプリント提出
9	Unit 7 可算・不可算名詞	授業テーマの文法事項を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等	教科書 単語集 単語番号 0341～0360
10	Unit 8 代名詞	授業テーマの文法事項を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等	教科書 単語集 単語番号 0361～0380
11	Presentation	発表	発表の準備 単語集 単語番号 0381～0400
12	Unit 9 be going to と will	授業テーマの文法事項を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等	教科書 単語集 200～400
13	Unit 10 助動詞	授業テーマの文法事項を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等	教科書 単語集 200～400
14	Unit 11 形容詞	授業テーマの文法事項を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等	教科書 単語集 200～400
15	リスニング day	英文リスニング	教科書 単語集 200～400

関連科目 特になし

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Reading Steps	Robert Hickling / Misato Usukura	金星堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test		成美堂
3	プリント配布		

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中学、高校で使用した文法書		
2	辞書		
3			

評価方法 (基準)	TOEIC プリッジ 20% 統一英単語テスト 10%
-----------	--------------------------------

	<p>期末試験 30%</p> <p>小テストと発表 20%</p> <p>授業態度（単語テスト、授業への集中度）20%</p> <p>授業に積極的に参加しているか、ディスカッションに積極的に参加しているかを評価します。</p> <p>欠席は3回までを評価基準とします。遅刻は三回で欠席一回。居眠り、私語、携帯電話の使用などは教室に来ていても欠席扱いとします。</p>
学生へのメッセージ	<p>新たに覚えた英単語・文法事項を実際のシチュエーションで使用するを意識しながら勉強してください。たとえば、2～3文の短い文章でもよいので、毎日英語で日記を書いたり、自分の興味のある事を英語で読んだり、聴いたりする習慣をつけて下さい。楽しみながら学習しましょう。</p>
担当者の研究室等	7号館2階（非常勤講師室）
備考	<p>事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。</p> <p>英単語は毎日、平均1時間は学習すること。</p>

科目名	基礎英語 I b	科目名 (英文)	Basic English Ib
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	E
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	三木 浩平
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	リスニング、語彙、英文法、読解、英作文などの基礎的な英語力の養成と定着を図る。 文字として書かれている英語の理解力のみを伸ばすのではなく、音声を用いた学習や音読、シャドーイングなどの学習方法も取り入れながら英語を実際に使用するという運用面の力を伸ばすことも目的の一つとする。
到達目標	大学生にとって基本的と考えられる英語の単語・文法の理解と、それを通して読解力を向上させること。 またそれらと合わせて英語の音声面にも慣れ、二年生からの学習のために基礎を作る。  建築学科の学習・教育到達目標：[C] 電気電子工学科の学習・教育到達目標：[F]
授業方法と留意点	テキストの問題を解くことと合わせて、音声を用いた学習や音読・シャドーイングなどの学習方法も取り入れる。 場面に応じて、学生同士のペア活動なども取り入れる。
科目学習の効果 (資格)	語彙、文法、読解などの書き言葉における英語力の向上と合わせて英語の音声に慣れること。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業方法、評価などの説明	次回の予習 指定単語帳の次回テスト範囲 201-220 の学習 学習時間の目安：1 時間
2	be 動詞の現在形と過去形	テキストの Unit 1 音読・シャドーイング、ペア活動など	今回の復習、次回の予習 指定単語帳の次回テスト範囲 221-240 の学習 学習時間の目安：1 時間
3	命令文	テキストの Unit 2 音読・シャドーイング、ペア活動など	今回の復習、次回の予習 指定単語帳の次回テスト範囲 241-260 の学習 学習時間の目安：1 時間
4	現在形と現在進行形	テキストの Unit 3 音読・シャドーイング、ペア活動など	今回の復習、次回の予習 指定単語帳の次回テスト範囲 261-280 の学習 学習時間の目安：1 時間
5	代名詞	テキストの Unit 4 音読・シャドーイング、ペア活動など	今回の復習、次回の予習 指定単語帳の次回テスト範囲 281-300 の学習 学習時間の目安：1 時間
6	過去形と過去進行形	テキストの Unit 5 音読・シャドーイング、ペア活動など	今回の復習、次回の予習 指定単語帳の次回テスト範囲 301-320 の学習 学習時間の目安：1 時間
7	過去形と現在完了	テキストの Unit 6 音読・シャドーイング、ペア活動など	今回の復習、次回の予習 指定単語帳の次回テスト範囲 321-340 の学習 学習時間の目安：1 時間
8	時を表す前置詞	テキストの Unit7 音読・シャドーイング、ペア活動など	今回の復習、次回の予習 指定単語帳の次回テスト範囲 341-360 の学習 学習時間の目安：1 時間
9	数えられる名詞と数えられない名詞	テキストの Unit8 音読・シャドーイング、ペア活動など	今回の復習、次回の予習 指定単語帳の次回テスト範囲 361-380 の学習 学習時間の目安：1 時間
10	be going to と will	テキストの Unit9 音読・シャドーイング、ペア活動など	今回の復習、次回の予習 指定単語帳の次回テスト範囲 381-400 の学習 学習時間の目安：1 時間
11	助動詞	テキストの Unit 10 音読・シャドーイング、ペア活動など	今回の復習、次回の予習 指定単語帳の復習 学習時間の目安：1 時間
12	等位接続詞と 2 語で成り立つ接続詞	テキストの Unit 11 音読・シャドーイング、ペア活動など	今回の復習、次回の予習 指定単語帳の復習 学習時間の目安：1 時間
13	Yes-No 疑問文	テキストの Unit 12 音読・シャドーイング、ペア活動など	今回の復習、次回の予習 指定単語帳の復習 学習時間の目安：1 時間
14	これまでに学習したことの復習と解説	これまでに学習した教科書の Unit	今回の復習、次回の予習 学習時間の目安：1 時間
15	これまでに学習したことの復習と解説	これまでに学習した教科書の Unit	今回の復習 学習時間の目安：1 時間

関連科目	英語 IIb
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Upload	Robert Hickling/大崎さつき	金星堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	授業内の課題、授業に取り組む態度 (30%)、期末試験 (40%)、TOEICブリッジ (20%)、統一英語単語テスト (10%) とします。
-----------	---

教養科目

学生への メッセージ	しっかりと少しずつでも取り組めば必ず英語力は向上します。将来の自身の可能性の幅を広げるためにも積極的に授業に臨み英語を学んで欲しいと思います。できるだけ授業には積極的に参加してくれることを期待します。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	事前事後学習時に授業への準備として習慣的に1時間程度の学習を行うこと。



科目名	基礎英語Ⅱ a	科目名(英文)	Basic English IIa
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田中 健二
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	英語学習の基礎は文法マスターと語彙力増強である。まず英語の基礎となる文法のおさらいをしっかりとやって、読みやすい文章をたくさん読む。その上で英字新聞を使い、ジャーナリズム英語にも挑戦して、実用的な英語に対する勘も養う。
到達目標	英文を読んだらその英文構造が文法的にも理解できるようにする。 英文のまとまりは文脈を捉えつつ、弾力的に意味内容を把握できるようになる。 語彙力向上も重要なので、継続的に訓練を積み、語彙力を高める。  建築学科の学習・教育目標との対応：[C] 電気電子工学科の学習・教育到達目標との対応：[F]
授業方法と留意点	テキストで文法の総復習を行う。書かれている問題は予習でやってくる。やさしい読み物も予習で下読みをしておくこと。
科目学習の効果(資格)	TOEIC (特にリーディングパート) のスコアアップ

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	不定詞	文法解説 問題演習 英字新聞を読む	単語テストの勉強 文法問題の復習 リーディングの予習
2	動名詞	文法解説 問題演習 英字新聞を読む	単語テストの勉強 401-420 番まで 文法問題の復習 リーディングの予習
3	動名詞	文法解説 問題演習 英字新聞を読む	単語テストの勉強 421-440 番まで 文法問題の復習 リーディングの予習
4	動名詞	文法解説 問題演習 英字新聞を読む	単語テストの勉強 441-460 番まで 文法問題の復習 リーディングの予習
5	分詞	文法解説 問題演習 英字新聞を読む	単語テストの勉強 461-480 番まで 文法問題の復習 リーディングの予習
6	分詞	文法解説 問題演習 英字新聞を読む	単語テストの勉強 481-500 番まで 文法問題の復習 リーディングの予習
7	分詞	文法解説 問題演習 英字新聞を読む	単語テストの勉強 501-520 番まで 文法問題の復習 リーディングの予習
8	分詞	文法解説 問題演習 英字新聞を読む	単語テストの勉強 521-540 番まで 文法問題の復習 リーディングの予習
9	比較	文法解説 問題演習 英字新聞を読む	単語テストの勉強 541-560 番まで 文法問題の復習 リーディングの予習
10	比較	文法解説 問題演習 英字新聞を読む	単語テストの勉強 561-580 番まで 文法問題の復習 リーディングの予習
11	比較	文法解説 問題演習 英字新聞を読む	単語テストの勉強 581-600 番まで 文法問題の復習 リーディングの予習
12	関係詞	文法解説 問題演習 英字新聞を読む	文法問題の復習 リーディングの予習
13	関係詞	文法解説 問題演習 英字新聞を読む	文法問題の復習 リーディングの予習
14	関係詞	文法解説 問題演習 英字新聞を読む	文法問題の復習 リーディングの予習
15	仮定法	文法解説 問題演習 英字新聞を読む	文法問題の復習 リーディングの予習

関連科目	基礎英語Ⅰa
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Framework English Grammar in 23 Lessons (7th edition)	桐原書店編集部	桐原書店
2	What's Up? Elementary	Muroi Michiko	桐原書店	
3	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷恒志	成美堂	

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

教養科目

評価方法 (基準)	統一英語単語テスト(20%) 定期試験(70%)、単語試験(10%)の割合で総合的に評価する。?
学生への メッセージ	頑張りましょう。?
担当者の 研究室等	7号館3階田中健二研究室?
備考	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。

科目名	基礎英語Ⅱ a	科目名 (英文)	Basic English IIa
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山内 浩充
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

教養科目

授業概要・目的	英語は今日世界共通語としての地位を築きつつあります。ですから今後好むと好まざるにかかわらず、英語は私たちの生活にますます関わってきます。こうした時代の流れに対応するためにも、もう一度英語全体の根底にある文法・語法を身につけ、それを実践にいかすことを目標にします。																																																																		
到達目標	国際的コミュニケーションのための基本的な意志疎通ができる能力を有する。																																																																		
授業方法と留意点	毎週、クラスのほぼ全員に答えてもらうので、予習を欠かさないと。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	全員がTOEIC350点を取るのに必要な読解力、語彙力をつける。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>講義の進め方、評価方法などを説明。</td> <td>教科書・英和辞典を持参すること。 The 1500 Core Vocabulary 0401 - 0417</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>分詞 (1) Short Readings 14</td> <td>分詞の限定用法・叙述用法を学習</td> <td>The 1500 Core Vocabulary 0418 - 0434</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>分詞 (2) Short Readings 15</td> <td>分詞構文を学習</td> <td>The 1500 Core Vocabulary 0435 - 0451</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>動名詞 (1) Short Readings 16</td> <td>動名詞の用法を学習</td> <td>The 1500 Core Vocabulary 0452 - 0468</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>動名詞 (2) Short Readings 17</td> <td>完了形の動名詞、動名詞を含む慣用表現を学習</td> <td>The 1500 Core Vocabulary 0469 - 0485</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>形容詞 Short Readings 18</td> <td>形容詞の用法、数量形容詞を学習</td> <td>The 1500 Core Vocabulary 0486 - 0502</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>副詞 Short Readings 19</td> <td>副詞の用法を学習</td> <td>The 1500 Core Vocabulary 0503 - 0519</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>比較 (1) Short Readings 20</td> <td>基本的な比較表現を学習</td> <td>中間試験の学習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>これまでのまとめと中間試験</td> <td>これまでのまとめと中間試験</td> <td>The 1500 Core Vocabulary 0520 - 0536</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>比較 (2) Short Readings 21</td> <td>注意すべき原級、比較級、最上級の用法を学習</td> <td>The 1500 Core Vocabulary 0537 - 0552</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>前置詞 Short Readings 22</td> <td>基本的用法、群前置詞を学習</td> <td>The 1500 Core Vocabulary 0553 - 0568</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>関係詞 (1) Short Readings 23</td> <td>関係代名詞の用法を学習</td> <td>The 1500 Core Vocabulary 0569 - 0584</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>関係詞 (2) Short Readings 24</td> <td>関係副詞の用法を学習</td> <td>The 1500 Core Vocabulary 0585 - 0600</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>仮定法 (1) Short Readings 25</td> <td>仮定法過去・仮定法過去完了を学習</td> <td>共通試験に向けて学習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>仮定法 (2) Short Readings 26</td> <td>if の省略、注意すべき仮定法を学習</td> <td>定期試験の学習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	講義の進め方、評価方法などを説明。	教科書・英和辞典を持参すること。 The 1500 Core Vocabulary 0401 - 0417	2	分詞 (1) Short Readings 14	分詞の限定用法・叙述用法を学習	The 1500 Core Vocabulary 0418 - 0434	3	分詞 (2) Short Readings 15	分詞構文を学習	The 1500 Core Vocabulary 0435 - 0451	4	動名詞 (1) Short Readings 16	動名詞の用法を学習	The 1500 Core Vocabulary 0452 - 0468	5	動名詞 (2) Short Readings 17	完了形の動名詞、動名詞を含む慣用表現を学習	The 1500 Core Vocabulary 0469 - 0485	6	形容詞 Short Readings 18	形容詞の用法、数量形容詞を学習	The 1500 Core Vocabulary 0486 - 0502	7	副詞 Short Readings 19	副詞の用法を学習	The 1500 Core Vocabulary 0503 - 0519	8	比較 (1) Short Readings 20	基本的な比較表現を学習	中間試験の学習	9	これまでのまとめと中間試験	これまでのまとめと中間試験	The 1500 Core Vocabulary 0520 - 0536	10	比較 (2) Short Readings 21	注意すべき原級、比較級、最上級の用法を学習	The 1500 Core Vocabulary 0537 - 0552	11	前置詞 Short Readings 22	基本的用法、群前置詞を学習	The 1500 Core Vocabulary 0553 - 0568	12	関係詞 (1) Short Readings 23	関係代名詞の用法を学習	The 1500 Core Vocabulary 0569 - 0584	13	関係詞 (2) Short Readings 24	関係副詞の用法を学習	The 1500 Core Vocabulary 0585 - 0600	14	仮定法 (1) Short Readings 25	仮定法過去・仮定法過去完了を学習	共通試験に向けて学習	15	仮定法 (2) Short Readings 26	if の省略、注意すべき仮定法を学習	定期試験の学習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	講義の進め方、評価方法などを説明。	教科書・英和辞典を持参すること。 The 1500 Core Vocabulary 0401 - 0417																																																																
2	分詞 (1) Short Readings 14	分詞の限定用法・叙述用法を学習	The 1500 Core Vocabulary 0418 - 0434																																																																
3	分詞 (2) Short Readings 15	分詞構文を学習	The 1500 Core Vocabulary 0435 - 0451																																																																
4	動名詞 (1) Short Readings 16	動名詞の用法を学習	The 1500 Core Vocabulary 0452 - 0468																																																																
5	動名詞 (2) Short Readings 17	完了形の動名詞、動名詞を含む慣用表現を学習	The 1500 Core Vocabulary 0469 - 0485																																																																
6	形容詞 Short Readings 18	形容詞の用法、数量形容詞を学習	The 1500 Core Vocabulary 0486 - 0502																																																																
7	副詞 Short Readings 19	副詞の用法を学習	The 1500 Core Vocabulary 0503 - 0519																																																																
8	比較 (1) Short Readings 20	基本的な比較表現を学習	中間試験の学習																																																																
9	これまでのまとめと中間試験	これまでのまとめと中間試験	The 1500 Core Vocabulary 0520 - 0536																																																																
10	比較 (2) Short Readings 21	注意すべき原級、比較級、最上級の用法を学習	The 1500 Core Vocabulary 0537 - 0552																																																																
11	前置詞 Short Readings 22	基本的用法、群前置詞を学習	The 1500 Core Vocabulary 0553 - 0568																																																																
12	関係詞 (1) Short Readings 23	関係代名詞の用法を学習	The 1500 Core Vocabulary 0569 - 0584																																																																
13	関係詞 (2) Short Readings 24	関係副詞の用法を学習	The 1500 Core Vocabulary 0585 - 0600																																																																
14	仮定法 (1) Short Readings 25	仮定法過去・仮定法過去完了を学習	共通試験に向けて学習																																																																
15	仮定法 (2) Short Readings 26	if の省略、注意すべき仮定法を学習	定期試験の学習																																																																
関連科目	基礎英語Ⅰa																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Refreshing English Grammar with Short Readings</td> <td>福井 慶一郎/北山 長貴</td> <td>朝日出版社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Refreshing English Grammar with Short Readings	福井 慶一郎/北山 長貴	朝日出版社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Refreshing English Grammar with Short Readings	福井 慶一郎/北山 長貴	朝日出版社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	共通試験 (統一英語単語テスト) を 20%、平常点を 20%、統一英語単語テストを 10%、中間試験と定期試験の平均を 50% の割合とする。																																																																		
学生へのメッセージ	e-learning 教材を使用し、音声機器を使った学習してください。TOEIC 受験を勧めます。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)																																																																		
備考	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																		

科目名	基礎英語Ⅱ a	科目名 (英文)	Basic English IIa
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	C
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ジェフリー ベル
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	この授業は、基礎的な文法力・語彙力を身につけることを目的とする。 高校までに学習した文法を復習し、簡単な読解などを通じて語彙を増やすことによって、基礎レベルの英文が理解できるようになることを目標とする。
到達目標	建築学科の学習・教育到達目標との対応：[C] 電気電子工学科の学習・教育到達目標との対応：[F]
授業方法と留意点	教科書にそって、リスニング、会話ペアワーク、文法解説、演習、読解を行う。 授業時間内に、小テスト（授業内容の確認）と単語テスト（指定範囲）を行う。
科目学習の効果（資格）	TOEIC など各種英語検定試験に必要な文法力、語彙力、読解力の基本を身に付ける。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Unit 7 What's Happening? (Household Chores) 場所と移動を表す前置詞	単語テスト：401-420 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト	次回の単語テストの範囲を暗記する 次回の Unit の練習問題を解く・単語を調べる
3	Unit 7 continued Wh-疑問文	単語テスト：421-440 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト	次回の単語テストの範囲を暗記する 次回の Unit の練習問題を解く・単語を調べる
4	Unit 8 Describing People a, an, the/one と ones	単語テスト：441-460 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト	次回の単語テストの範囲を暗記する 次回の Unit の練習問題を解く・単語を調べる
5	Unit 8 continued 他動詞と自動詞	単語テスト：461-480 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト	次回の単語テストの範囲を暗記する 次回の Unit の練習問題を解く・単語を調べる
6	Unit 9 Having Fun (freetime activities) 能動態と受動態	単語テスト：481-500 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト	次回の単語テストの範囲を暗記する 次回の Unit の練習問題を解く・単語を調べる
7	Unit 9 continued 形容詞	単語テスト：501-520 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト	次回の単語テストの範囲を暗記する 中間テストの準備
8	これまでのまとめ、中間テスト	単語テスト：521-540 前半内容の総復習および中間テスト	次回の単語テストの範囲を暗記する 次回の Unit の練習問題を解く・単語を調べる
9	Unit 10 On Vacation 動名詞と不定詞	単語テスト：541-560 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト	次回の単語テストの範囲を暗記する 次回の Unit の練習問題を解く・単語を調べる
10	Unit 10 continued 形容詞の比較級と最上級	単語テスト：561-580 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト	次回の単語テストの範囲を暗記する 次回の Unit の練習問題を解く・単語を調べる
11	Unit 11 Life Stories 副詞	単語テスト：581-600 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト	次回の単語テストの範囲を暗記する 次回の Unit の練習問題を解く・単語を調べる
12	Unit 11 continued 従位接続詞	単語テスト：401-450 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト	次回の単語テストの範囲を暗記する 次回の Unit の練習問題を解く・単語を調べる
13	Unit 12 Hopes and Intentions 関係詞	単語テスト：451-500 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト	次回の単語テストの範囲を暗記する 次回の Unit の練習問題を解く・単語を調べる
14	Unit 12 continued So do I. や Neither do I. などの表現	単語テスト：501-550 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト	次回の単語テストの範囲を暗記する 定期試験の準備
15	後期のまとめ	単語テスト：551-600 後期の総復習	定期試験の準備

関連科目 基礎英語 1a

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法（基準）	共通試験（統一英語単語テスト）20%、定期試験 25%、中間テスト 25%、授業態度（単語テスト、小テスト、課題提出、授業参加度）30%の割合で総合的に評価する。
学生へのメッセージ	じっくり解説し、繰り返し練習します。着実に基礎英語力をUPさせましょう。
担当者の	7号館2階(非常勤講師室)

研究室等	
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 5 回以上欠席すると、試験などの成績にかかわらず失格とする。</li> <li>・ 授業を妨げる行為（私語、許可無く途中退席する、テキストを持参しない、スマホや携帯の使用、居眠り等）は減点の対象とする。</li> <li>・ 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること。</li> </ul>

科目名	基礎英語Ⅱ a	科目名(英文)	Basic English IIa
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	D
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松井 智子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	この授業では、大学生がマスターしておくべき英文法のエッセンシャルズを、理解・定着させることを目的としています。高校までに学習した英文法を、改めて体系的に学習しますので、自分が理解できていること／理解できていないことを自覚し、基礎英文法の土台を強化することができます。平易で短いリスニングやリーディング、音読なども取り入れながら、基礎的な読解力・語彙力も身に付けていきます。
到達目標	基礎レベルの英文法に不安のある学生が、自分が理解できていること／理解できていないことを自ら発見し、弱点を補強し、基礎英文法の土台を強化することができる。 基礎レベルの短いリーディングを読んで理解することができる。  建築学科の学習・教育到達目標との対応：[C] 電気電子工学科の学習・教育到達目標：[F]
授業方法と留意点	まず、簡単な問題で、皆さんの英文法の知識を確認します。その上で、講師が英文法のエッセンシャルズを解説します。ここで、自分が何を理解してなかったのか、考えるようにしてください。次に、演習問題を解き、学習したばかりの知識を再確認します。短いリーディングを読み、ここでも文法事項を再確認します。最後に、英文を完成させたり構成したりする作業を通じ、重要事項の定着を図ります。ここで作った英文は、ペアで音読練習し、すぐ小テストで確認します。従って、毎回、授業の最後に小テストを行います。 なお、毎回、授業冒頭で、指定
科目学習の効果(資格)	TOEIC (特にリーディングパート) などのスコアアップ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の内容と進め方、小テスト、評価方法などについて具体的に説明する。	単語学習範囲：401-420
	2	言葉を修飾する：形容詞と副詞	単語テスト：401-420 Unit 13 (文法解説・演習・暗唱等) 小テスト	単語学習範囲：421-440 テキストの復習
	3	形容詞のような形容詞句、副詞のような副詞句	単語テスト：421-440 Unit 14 (文法解説・演習・暗唱等) 小テスト	単語学習範囲：441-460 テキストの復習
	4	動詞は to や ing で変身：動名詞と不定詞	単語テスト：441-460 Unit 15 (文法解説・演習・暗唱等) 小テスト	単語学習範囲：461-480 テキストの復習
	5	前置詞は英語の『て、に、を、は』(1) 場所と動き	単語テスト：461-480 Unit 16 (文法解説・演習・暗唱等) 小テスト	単語学習範囲：481-500 テキストの復習
	6	前置詞で時間を詳しく(2) 時間	単語テスト：481-500 Unit 17 (文法解説・演習・暗唱等) 小テスト	単語学習範囲：501-520 テキストの復習
	7	Better? Best? それとも同じ? : 比較	単語テスト：501-520 Unit 18 (文法解説・演習・暗唱等) 小テスト	単語学習範囲：521-540 テキスト(範囲：第1回～第7回)の復習
	8	これまでの復習	単語テスト：521-540 第7回までの学習項目についてふりかえり 小テスト(範囲：第1回～第7回)	単語学習範囲：541-560 テキストの復習
	9	立場が変わる受動態と能動態	単語テスト：541-560 Unit 19 (文法解説・演習・暗唱等) 小テスト	単語学習範囲：561-580 テキストの復習
	10	ロジックの要：接続詞	単語テスト：561-580 Unit 20 (文法解説・演習・暗唱等) 小テスト	単語学習範囲：581-600 テキストの復習
	11	節と節をつなぐ関係代名詞	単語テスト：581-600 Unit 21 (文法解説・演習・暗唱等) 小テスト	単語自主学习 テキストの復習
	12	場所・時・理由・方法の詳しい説明：関係副詞	Unit 22 (文法解説・演習・暗唱等) 小テスト	単語自主学习 テキストの復習
	13	他人の話をどう伝える? : 話法	Unit 23 (文法解説・演習・暗唱等) 小テスト	単語自主学习 テキストの復習
	14	ありえない話は仮定法で	Unit 24 (文法解説・演習・暗唱等) 小テスト	単語自主学习 テキスト(範囲：第9回～第14回)の復習
	15	総復習	第14回までの学習項目についてふりかえり 小テスト(範囲：第9回～第14回)	テキスト(定期試験範囲)の復習

関連科目	基礎英語Ⅰa
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	College Grammar Pathfinder (基礎文法から始める大学英語)	本多吉彦、土屋武久	金星堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test: Word Book	西谷恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3		
評価方法 (基準)	<p>原則として、出席率 80% (15 回中 12 回) 以上の学生のみを評価対象とする。</p> <p>(1) 共通試験 (30%) (TOEIC Bridge 20%、統一英語単語テスト 10%)  (2) 定期試験 (30%)  (3) 小テスト (20%)、  (4) 単語テスト (10%)、  (5) 授業態度 (発表や取り組み姿勢など) (10%)  以上の割合で総合的に評価する。</p>		
学生への メッセージ	<p>やみくもに勉強するのではなく、初歩から、精選された文法事項を、体系的に学び、理解を着実にしていきましょう。また、文法を頭で理解するだけではなく、声を出し、体で覚えていくために、音読練習への取り組みを重視します。単語学習の際は、指定の単語帳に付録の e-learning 教材 (リンガポルタ) を使用すると、自分の苦手な単語を繰り返し練習することが可能です。TOEIC 受験もお勧めします。</p>		
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室		
備考	<p>事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること。  授業を妨げる行為 (私語、許可無く途中退席する、テキストを持参しない、スマホや携帯の使用、居眠り等) は減点対象とする。  個別に質問等がある場合は、授業後すぐに教壇または 7 号館 2 階の非常勤講師室にて受け付けます。</p>		

科目名	基礎英語Ⅱ a	科目名 (英文)	Basic English IIa
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	E
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	黒川 尚彦
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	前期に引き続き、TOEIC のスコアアップの基盤作りとして、文法を中心に授業を進めます。文法が分かれば、TOEIC のスコアアップにつながるだけでなく、英文を正しく理解する武器になります。そのことにより、基本的な英文を作れるようになり、英文を読むスピードを速くすることができますようになります。 授業は基礎の基礎から行うので、これを機に文法を自分のものにししましょう。
到達目標	基礎英文法の徹底理解。 建築学科の学習・教育到達目標との対応：[C] 電気電子工学科の学習・教育到達目標：[F]
授業方法と留意点	授業では、まず基本的な文法に関する知識を学びます。次に練習問題を解いたり、英文を読むことでその知識の定着をはかります。授業の留意点として、受動的に講義を受けるのではなく、積極的に取り組むことを心がけることです。とりわけ、自分が何を理解していて、何を理解していないかを考えるようにしてください。そして、課された予習や課題にしっかり取り組んでください。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC (特にリーディングパート) のスコアアップ

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Course Introduction	授業の方針、授業の進め方、評価方法の説明など。	単語テストの勉強 (401-420) リンガポルタ自主学習
2	Unit 8 Detective Story (1)	進行形 リスニングや練習問題を通して、文法事項を理解する。	単語テストの勉強 (421-440) リンガポルタ自主学習 文法問題の復習
3	Unit 8 Detective Story (2)	進行形 リーディングやライティングを通して、文法事項を理解する。	単語テストの勉強 (441-460) リンガポルタ自主学習 リーディングの復習
4	Unit 9 Career (1)	現在完了形 リスニングや練習問題を通して、文法事項を理解する。	単語テストの勉強 (461-480) リンガポルタ自主学習 文法問題の復習
5	Unit 9 Career (2)	現在完了形 リーディングやライティングを通して、文法事項を理解する。	単語テストの勉強 (481-500) リンガポルタ自主学習 リーディングの復習
6	Unit 10 Parties (1)	未来表現 リスニングや練習問題を通して、文法事項を理解する。	単語テストの勉強 (501-520) リンガポルタ自主学習 文法問題の復習
7	Unit 10 Parties (2)	未来表現 リーディングやライティングを通して、文法事項を理解する。	単語テストの勉強 (521-540) リンガポルタ自主学習 リーディングの復習
8	Unit 11 Rules and Regulations (1)	助動詞 リスニングや練習問題を通して、文法事項を理解する。	単語テストの勉強 (541-560) リンガポルタ自主学習 文法問題の復習
9	Unit 11 Rules and Regulations (2)	助動詞 リーディングやライティングを通して、文法事項を理解する。	単語テストの勉強 (561-580) リンガポルタ自主学習 リーディングの復習
10	Unit 12 Invention & Discovery (1)	受動態 リスニングや練習問題を通して、文法事項を理解する。	単語テストの勉強 (581-600) リンガポルタ自主学習 文法問題の復習
11	Unit 12 Invention & Discovery (2)	受動態 リーディングやライティングを通して、文法事項を理解する。	単語テストの勉強 (総復習) リンガポルタ自主学習 リーディングの復習
12	Unit 13 Movie Reviews	形容詞・副詞 リスニングや練習問題を通して、文法事項を理解する。 リーディングやライティングを通して、文法事項を理解する。	単語テストの勉強 (総復習) リンガポルタ自主学習 文法問題の復習 リーディングの復習
13	Unit 14 World Records	比較級・最上級 リスニングや練習問題を通して、文法事項を理解する。 リーディングやライティングを通して、文法事項を理解する。	単語テストの勉強 (総復習) リンガポルタ自主学習 文法問題の復習 リーディングの復習
14	Unit 15 Future Dream (1)	不定詞・動名詞 リスニングや練習問題を通して、文法事項を理解する。	単語テストの勉強 (総復習) リンガポルタ自主学習 文法問題の復習
15	Unit 15 Future Dream (2)	不定詞・動名詞 リーディングやライティングを通して、文法事項を理解する。	単語テストの勉強 (総復習) リンガポルタ自主学習 リーディングの復習

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Ace	山本厚子 他	成美堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test		成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			



	2			
	3			
評価方法 (基準)	統一英語単語テスト (20%) 定期試験 (45%)、単語試験 (10%)、授業態度 (発表や取り組み姿勢など) (25%) の割合で総合的に評価する。			
学生への メッセージ	この授業を機に、文法を基礎からやり直しましょう！文法が分かれば、リーディングが簡単になり、スピーキングにも応用できます。 何度も読んだり、書いたりことがいちばんの近道です。TOEIC スコア 450 点以上を (まずは) 目指して、自分自身を鍛えていきましょう！			
担当者の 研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)			
備考	英単語は e-learning を含めて、毎日、平均1時間は学習すること。			

科目名	基礎英語 II b	科目名 (英文)	Basic English IIb
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小川 一美
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	TOEIC 受験のための基礎的な文法力の養成。
到達目標	高校英語の基礎を固め、実力を伸ばす。 A 科の学習・教育目標との対応：[C] E 科の学習・教育到達目標との対応：[F]
授業方法と留意点	・さまざまな分野のスピーチを通してリスニング力を高め、同時に文法・構文などを確認し、英語表現の理解を深める。 ・共通テキスト『The Core Vocabulary for the TOEIC Test』により語彙力の強化を図る。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC のスコアの向上。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業の進め方、評価の仕方、予習の仕方など	単語学習 (単語番号 601-620)
	2	マーク・エイブラハムズ	リスニングおよび内容理解 (1)	復習：本時の内容 予習：次回の内容  単語学習 (単語番号 621-640)
	3	マーク・エイブラハムズ	リスニングおよび内容理解 (2)	復習：本時の内容 予習：次回の内容  単語学習 (単語番号 641-660)
	4	アレハンドロ・アラヴェナ	リスニングおよび内容理解 (1)	復習：本時の内容 予習：次回の内容  単語学習 (単語番号 661-680)
	5	アレハンドロ・アラヴェナ	リスニングおよび内容理解 (2)	復習：本時の内容 予習：次回の内容  単語学習 (単語番号 681-700)
	6	アレハンドロ・アラヴェナ	リスニングおよび内容理解 (3)	復習：本時の内容 予習：次回の内容  単語学習 (単語番号 701-720)
	7	シーザー・クリヤマ	リスニングおよび内容理解	復習：本時の内容 予習：次回の内容  中間試験の準備 単語学習 (単語番号 721-740)
	8	中間試験と解説	中間試験および解答と解説	単語学習 (単語番号 741-760)
	9	ジュリアン・トレジャー	リスニングおよび内容理解 (1)	復習：本時の内容 予習：次回の内容  単語学習 (単語番号 761-780)
	10	ジュリアン・トレジャー	リスニングおよび内容理解 (2)	復習：本時の内容 予習：次回の内容  単語学習 (単語番号 781-800)
	11	ジュリアン・トレジャー	リスニングおよび内容理解 (3)	復習：本時の内容 予習：次回の内容  単語学習 (単語番号 601-650)
	12	シーナ・アイエンガー	リスニングおよび内容理解 (1)	復習：本時の内容 予習：次回の内容  単語学習 (単語番号 651-700)
	13	シーナ・アイエンガー	リスニングおよび内容理解 (2)	復習：本時の内容 予習：次回の内容  単語学習 (単語番号 701-750)
	14	シーナ・アイエンガー	リスニングおよび内容理解 (3)	復習：本時の内容  単語学習 (単語番号 751-800)
	15	総括	今期のまとめ 期末試験のための復習	予習：定期試験準備 単語学習 (単語番号 601-800)

関連科目	他の英語に関連する科目
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	2			
	3			

参考書	
-----	--

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	総合英語 Forest	石黒昭博	桐原書店
	2	チャート式デュアルスコープ総合英語	小寺茂明	数研社
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共通テスト 20% (統一英語単語テスト)</li> <li>・リングポルタ 5%</li> <li>・平常点 15% (小テスト・授業態度・宿題)</li> <li>・中間試験 30%</li> <li>・期末試験 30%</li> </ul>			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回辞書を持参すること。</li> <li>・毎回『The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test』の単語テストがあるため、必ず準備すること。</li> <li>・私語など授業を妨害するような行為や許可なく途中退席する場合は欠席とみなす。</li> </ul>			
担当者の 研究室等				
備考				

科目名	基礎英語Ⅱb	科目名(英文)	Basic English IⅡb
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	東野 厚子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	前期に続いて、英文読解力を高めることを目的に、「短めのパッセージ」(80-90語)⇒「文法解説」⇒「長めのパッセージ」(180語)の3ステップで取り組む。文法事項は、説明と例文を通してポイントを理解した後、練習問題で定着を図る。また語彙に関しては、クロスワードやワードリサーチなど様々な活動を通して、文脈の中で使う能力をつける。
到達目標	建築学科の学習・教育到達目標との対応：[C] 電気電子工学科の学習・教育到達目標との対応：[F]
授業方法と留意点	受け身の授業態度ではなく、積極的に取り組む姿勢を評価する。授業では、なるべく全員を指名するので予習し、各Unit終了ごとに、文法事項の確認のため小テストを行うので復習しておく必要がある。
科目学習の効果(資格)	英検・TOEICテストのスコアアップなど

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	Unit 13 Do Animals Know Things We Don't Know? 時を表す前置詞	単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習番号(0601-620) テキストの予習、復習
3	Unit 14 Godiva?The Lady and the Chocolate 場所を表す前置詞	単語テスト Unit13,小テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習番号(0621-0640) テキストの予習、復習
4	Unit 15 Aloha Hawaii 不定詞/動名詞	単語テスト Unit14小テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習番号(0641-0660) テキストの予習、復習
5	Unit 16 Everyone Loves a Circus 現在完了	単語テスト Unit15小テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習番号(0661-0680) テキストの予習、復習
6	Unit 17 Text Messaging too/enough	単語テスト Unit16小テスト文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習番号(0681-0700) テキストの予習、復習
7	Unit 18 What Type Are You? 句動詞/イディオム	単語テスト Unit17小テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習番号(0701-0720) テキストの予習、復習
8	まとめ(1)	単語テスト Unit18,小テスト Unit13-18までの復習	単語学習番号(0721-0740) テキストの予習、復習
9	Unit 19 Japanese Food Customs 受動態	単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習番号(0741-0760) テキストの予習、復習
10	Unit 20 Mascot Characters 5文型	単語テスト Unit19小テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習番号(0761-0780) テキストの予習、復習
11	Unit 21 Trees?One of Nature's Wonders 比較	単語テスト Unit20小テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習番号(0781-0800) テキストの予習、復習
12	Unit 22 Koban at Your Service 語句や文をつなぐ接続詞	単語テスト Unit21小テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習(指示された箇所) テキストの予習、復習
13	Unit 23 3-D Printers 時や理由などを表す接続詞	単語テスト Unit22小テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習(指示された箇所) テキストの予習、復習
14	Unit 24 Fashion Trends Start Here 関係詞節	単語テスト Unit23小テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習(指示された箇所) テキストの予習、復習
15	まとめ(2)	単語テスト Unit24小テスト Unit19-24の復習	単語学習(指示された箇所) テキストの復習

関連科目 全ての英語科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Reading Steps	Robert Hickling/臼倉美里	金星堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

教養科目

	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	共通試験 (統一英語単語テスト) 20%、j 授業態度 (授業態度とは授業中の質問等に関する回答状況、授業への集中度、小テストの取り組みを指す) 30%、定期試験 50%			
学生への メッセージ	eラーニング教材「リンガポルタ」を活用して単語力を増強し、TOEIC 試験に挑戦しましょう。 評価には、4/5 以上の出席が必要である。遅刻は、3 回で欠席扱いとする。			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室			
備考	自主学習には、期末試験の準備を含めて、合計 20 時間はかけること			

科目名	基礎英語 II b	科目名 (英文)	Basic English IIb
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1 年	クラス	C
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	本多 善
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	高校レベルの読解力と英作文、現代英語構文を習得するために、読み、書き、聞いて、書く 4 技能を教科書を使用して学習していきます。英語の基礎的な構文や文法を復習することで、確実に英語の聞き取り能力や表現力、読解力が向上します。授業では英語の基本となる語彙力をつけるため、毎回単語の小テストを実施し、授業では読解力も身につけます。日常会話についての英文を読み、より実用的なコミュニケーション能力と基礎的読解力を身に付けます。
到達目標	この授業を通して短い文章を読解する能力と文法の基礎を習得できます。また会話文の発声練習や毎回行う英単語の小テストによって大学生にとって必要不可欠な英語の語彙力が強化されます。これらの能力を習得することによってコミュニケーションスキルに念頭を置いた実用的な英語基礎能力が期待されます。 建築学科の学習・教育到達目標：[C] 電気電子工学科の学習・教育到達目標との対応：[F]
授業方法と留意点	・毎回のレッスンでは、(1)単語テスト、(2)1 対 1 の英文を元にした対話、(3)テキスト内容把握、(4)演習問題 です。英語を声に出すトレーニングを重視し、反復練習を行いながら苦手な英語の聞き取り能力の向上を目指します。 ・辞書を引き、十分に予習をして授業に臨んでください。辞書は必ず持参すること。 ・指定の単語集を用いて毎回、授業の初めにテストをします。
科目学習の効果 (資格)	基礎的な英会話の聞き取り能力が身に付きます。 基本的な対話能力が身に付きます。 英文の基礎読解力が身に付きます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンスと英語学習の説明 Explain how to use this text book	授業方法、成績評価等の説明、座席の指定。教科書の学習方法の説明	単語帳の予習 601-620。 教科書の対話練習と英文読解の復習、辞書を引いての予習。
	2	対話練習と語彙・英文読解	単語テスト 601-620 例文暗唱、対話練習、テキスト音読、英文読解、問題演習。	単語帳の予習 621-640。 教科書の対話練習と英文読解の復習、辞書を引いての予習。
	3	対話練習と語彙・英文読解	単語テスト 621-640 例文暗唱、対話練習、テキスト音読、英文読解、問題演習。	単語帳の予習 641-660。 教科書の対話練習と英文読解の復習、辞書を引いての予習。
	4	対話練習と語彙・英文読解	単語テスト 641-660 例文暗唱、対話練習、テキスト音読、英文読解、問題演習。	単語帳の予習 661-680。 教科書の対話練習と英文読解の復習、辞書を引いての予習。
	5	対話練習と語彙・英文読解	単語テスト 661-680 例文暗唱、対話練習、テキスト音読、英文読解、問題演習。	単語帳の予習 681-700。 教科書の対話練習と英文読解の復習、辞書を引いての予習。
	6	対話練習と語彙・英文読解	単語テスト 681-700 例文暗唱、対話練習、テキスト音読、英文読解、問題演習。	単語帳の予習 701-720。 教科書の対話練習と英文読解の復習、辞書を引いての予習。
	7	対話練習と語彙・英文読解	単語テスト 701-720 例文暗唱、対話練習、テキスト音読、英文読解、問題演習。	単語帳の予習 721-740。 教科書の対話練習と英文読解の復習、辞書を引いての予習。
	8	対話練習と語彙・英文読解	単語テスト 721-740 例文暗唱、対話練習、テキスト音読、英文読解、問題演習。	単語帳の予習 741-760。 教科書の対話練習と英文読解の復習、辞書を引いての予習。
	9	対話練習と語彙・英文読解	単語テスト 741-760 例文暗唱、対話練習、テキスト音読、英文読解、問題演習。	単語帳の予習 761-780。 教科書の対話練習と英文読解の復習、辞書を引いての予習。
	10	対話練習と語彙・英文読解	単語テスト 761-780 例文暗唱、対話練習、テキスト音読、英文読解、問題演習。	単語帳の予習 781-800。 教科書の対話練習と英文読解の復習、辞書を引いての予習。
	11	対話練習と語彙・英文読解	単語テスト 781-800 例文暗唱、対話練習、テキスト音読、英文読解、問題演習。	単語帳の復習。 教科書の対話練習と英文読解の復習、辞書を引いての予習。
	12	対話練習と語彙・英文読解	例文暗唱、対話練習、テキスト音読、英文読解、問題演習。	単語帳の復習。 教科書の対話練習と英文読解の復習、辞書を引いての予習。
	13	対話練習と語彙・英文読解	例文暗唱、対話練習、テキスト音読、英文読解、問題演習。	単語帳の復習。 教科書の対話練習と英文読解の復習、辞書を引いての予習。
	14	対話練習と語彙・英文読解	例文暗唱、対話練習、テキスト音読、英文読解、問題演習。	単語帳の復習。 教科書の対話練習と英文読解の復習、辞書を引いての予習。
	15	対話練習と語彙・英文読解 期末試験のための総復習	例文暗唱、対話練習、テキスト音読、英文読解、問題演習。	単語帳の復習。 期末試験のための学習。

関連科目	その他の英語関連科目
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	A complete college English Program Book 1(大学英語の総合ナビゲーター：基本文法総まとめ編)	土屋武久 他	金星堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test WORD BOOK (学校語彙で学ぶ TOEIC テスト)	西谷恒志	成美堂
	2			
	3			
評価方法 (基準)	期末試験 50% 授業への参加、発表、提出物 20% 単語小テスト 10% 共通評価 20% (統一英語単語テスト 20%)  ※授業態度に問題のある場合 (遅刻、居眠り、飲食、私語、携帯電話の使用など) は、教室に来ていても「欠席」扱いとします。			
学生への メッセージ	英語の方は学習時間に比例して伸びてゆきます。授業以外にも、自分の興味ある分野の英文をどんどん読んでみましょう。 全員参加で活気ある授業を創り上げましょう。			
担当者の 研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)			
備考	教科書の事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。 また毎回実施する英単語は e-learning を含めて、毎日平均して1時間は学習すること。			

科目名	基礎英語 II b	科目名 (英文)	Basic English IIb
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	D
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松下 乃亜
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	総合的な英語運用能力の土台となる基礎英文法を重点的に学びます。教科書または配布プリントを使用し、学習した文法事項を実際のシチュエーションで使用することを意識しながら、特に初級レベルの聴解力、読解力、コミュニケーション力の習得を目指します。
到達目標	建築学科の学習・教育到達目標との対応：[C] 電気電子工学科の学習・教育到達目標：[F]
授業方法と留意点	毎回の授業で、単語テストを実施します。小テスト、グループ発表を行います。 復習課題を指示しますので、必ず辞書を丁寧に調べて取り組んだ上で授業に出席してください。
科目学習の効果 (資格)	英語資格試験に備えた基本的語彙の習得。 基礎英文法の理解と習得。 初級レベルの聴解力、読解力、コミュニケーション力の伸長。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	
			教科書	単語集
1	Introduction	授業方法 (小テスト実施、予習・復習課題等) の説明 単語の勉強方法 前期の復習		前期に学習した英文法の復習
2	Unit 12 副詞	授業テーマの文法事項を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等	教科書	単語集 単語番号 0601-0620
3	Unit 13 時を表す前置詞	授業テーマの文法事項を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等	教科書	単語集 単語番号 0621-0640
4	Unit 14 場所を表す前置詞	授業テーマの文法事項を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等	教科書	単語集 単語番号 0641-0660
5	Unit 15 不定詞・動名詞	授業テーマの文法事項を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等	教科書	単語集 単語番号 0661-0680
6	Review Test	復習と小テスト	教科書	単語集 単語番号 0681-0700
7	Unit 16 現在完了	授業テーマの文法事項を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等	教科書	単語集 単語番号 0701-720
8	Unit 17 too/enough	授業テーマの文法事項を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等		発表のプリントの提出 単語集 単語番号 0721-0740
9	Unit 18 句動詞・イディオム	授業テーマの文法事項を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等	教科書	単語集 単語番号 0741-0760
10	Unit 19 受動態	授業テーマの文法事項を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等	教科書	単語集 単語番号 0761-0780
11	Presentation Unit 20 5文型	発表		発表の準備 単語集 単語番号 0781-0800
12	Unit 21 比較	授業テーマの文法事項を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等	教科書	単語集 単語番号 0601-0800
13	Unit 22 接続詞	授業テーマの文法事項を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等	教科書	単語集 単語番号 0601-0800
14	Unit 23 接続詞	授業テーマの文法事項を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等	教科書	単語集 単語番号 0601-0800
15	Unit 24 関係詞節 Listening Day	英文リスニング		

関連科目 特になし

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Reading Steps	Robert Hickling / Misato Usukura	金星堂
2	The 1500 core vocabulary for the TOEIC Test		成美堂	
3	プリント配布			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学、高校で使用した文法書		
2	辞書			
3				

評価方法 統一英単語テスト 20%



(基準)	<p>期末試験 30%</p> <p>小テストと発表 20%</p> <p>授業態度 (単語テスト、授業への集中度) 30%</p> <p>授業に積極的に参加しているか、ディスカッションに積極的に参加しているかを評価します。</p> <p>欠席は三回までを評価基準とします。遅刻は三回で欠席一回。居眠り、私語、携帯電話の使用などは教室に来ていても欠席扱いとします。</p>
学生へのメッセージ	<p>新しく覚えた英単語・文法事項を実際のシチュエーションで使用するを意識しながら勉強してください。たとえば、2～3文の短い文章でもよいので、毎日英語で日記を書いてみたり、自分の興味のある事を英語で読んだり、聴いたりする習慣をつけて下さい。楽しみながら学習を続けましょう。</p>
担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
備考	<p>事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。</p> <p>英単語は毎日、平均1時間は学習すること。</p>

科目名	基礎英語Ⅱb	科目名(英文)	Basic English IIB
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	E
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	三木 浩平
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	リスニング、語彙、英文法、読解、英作文などの基礎的な英語力の養成と定着を図る。 文字として書かれている英語の理解力のみを伸ばすのではなく、音声を用いた学習や音読・シャドーイングなどの学習方法も取り入れながら英語を実際に使用するという運用面の力を伸ばすことも目的の一つとする。
到達目標	大学生にとって基本的と考えられる英語の単語・文法の理解と、それを通して読解力を向上させること。 またそれらと合わせて英語の音声面にも慣れ、二年生からの学習のために基礎を作る。  建築学科の学習・教育到達目標：[C] 電気電子工学科の学習・教育到達目標：[F]
授業方法と留意点	テキストの問題を解くことと合わせて、音声を用いた学習や音読・シャドーイングなどの学習方法も取り入れる。 場面に応じて、学生同士のペア活動なども取り入れる。
科目学習の効果(資格)	語彙、文法、読解などの書き言葉における英語力の向上と合わせて英語の音声に慣れること。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業方法、評価などの説明	次回の予習 指定単語帳の次回テスト範囲 601-620 の学習 学習時間の目安：1時間
	2	場所と移動を表す前置詞	テキストの Unit 13 音読・シャドーイング、ペア活動など	今回の復習、次回の予習 指定単語帳の次回テスト範囲 621-640 の学習 学習時間の目安：1時間
	3	Wh-疑問文	テキストの Unit 14 音読・シャドーイング、ペア活動など	今回の復習、次回の予習 指定単語帳の次回テスト範囲 641-660 の学習 学習時間の目安：1時間
	4	a, an, the/one と ones	テキストの Unit 15 音読・シャドーイング、ペア活動など	今回の復習、次回の予習 指定単語帳の次回テスト範囲 661-680 の学習 学習時間の目安：1時間
	5	他動詞と自動詞	テキストの Unit 16 音読・シャドーイング、ペア活動など	今回の復習、次回の予習 指定単語帳の次回テスト範囲 681-700 の学習 学習時間の目安：1時間
	6	能動態と受動態	テキストの Unit 17 音読・シャドーイング、ペア活動など	今回の復習、次回の予習 指定単語帳の次回テスト範囲 701-720 の学習 学習時間の目安：1時間
	7	形容詞	テキストの Unit 18 音読・シャドーイング、ペア活動など	今回の復習、次回の予習 指定単語帳の次回テスト範囲 721-740 の学習 学習時間の目安：1時間
	8	動名詞と不定詞	テキストの Unit 19 音読・シャドーイング、ペア活動など	今回の復習、次回の予習 指定単語帳の次回テスト範囲 741-760 の学習 学習時間の目安：1時間
	9	形容詞の比較級と最上級	テキストの Unit 20 音読・シャドーイング、ペア活動など	今回の復習、次回の予習 指定単語帳の次回テスト範囲 761-780 の学習 学習時間の目安：1時間
	10	副詞	テキストの Unit 21 音読・シャドーイング、ペア活動など	今回の復習、次回の予習 指定単語帳の次回テスト範囲 781-800 の学習 学習時間の目安：1時間
	11	従位接続詞	テキストの Unit 22 音読・シャドーイング、ペア活動など	今回の復習、次回の予習 指定単語帳のこれまでに学習した範囲の復習 学習時間の目安：1時間
	12	関係詞	テキストの Unit 23 音読・シャドーイング、ペア活動など	今回の復習、次回の予習 指定単語帳のこれまでに学習した範囲の復習 学習時間の目安：1時間
	13	So do I. や Neither do I. などの表現	テキストの Unit 24 音読・シャドーイング、ペア活動など	今回の復習、次回の予習 指定単語帳のこれまでに学習した範囲の復習 学習時間の目安：1時間
	14	これまでに学習したことの復習と解説	これまでに学習した教科書の Unit	今回の復習、次回の予習 指定単語帳のこれまでに学習した範囲の復習 学習時間の目安：1時間
	15	これまでに学習したことの復習と解説	これまでに学習した教科書の Unit	今回の復習 学習時間の目安：1時間

関連科目	英語Ⅰb
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Upload	Robert Hickling/大崎さつき	金星堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法	授業内の課題、授業に取り組む態度 (30%)、期末試験 (50%)、統一英語単語テスト (20%) とします。
------	---

(基準)	
学生へのメッセージ	しっかりと少しずつでも取り組めば必ず英語力は向上します。将来の自身の可能性の幅を広げるためにも積極的に授業に臨み英語を学んで欲しいと思います。できるだけ授業には積極的に参加してくれることを期待します。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	事前事後学習時に授業への準備として習慣的に1時間程度の学習を行うこと。

科目名	北河内学—摂南大学と北河内を知る—	科目名(英文)	Introduction to regional partnership between Kitakawachi area and Setsunan University
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	尾山 廣
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	[授業概要]学部共通の入門科目として、摂南大学と大学が立地する「北河内地域」の地歴・環境・文化・産業や同地域内にある地方自治体の現状と課題、また、同地域に関係する各分野で活躍している団体や機関の人びとの活動を広範囲にわたって紹介する。[目的]摂南大学の学生として大学や地域に愛着を持てるようになり、学生生活の中で自分自身を見つける機会とする。また、地域貢献活動や地域社会での実践教育の動機づけとする。
到達目標	北河内地域の歴史、文化、産業、街づくりにおける摂南大学の役割を理解し、地域の一員として地域貢献活動への参画意識を身につける。
授業方法と留意点	摂南大学地域連携センター関係教員のほか、北河内地域(寝屋川市・枚方市・交野市・門真市)に関係する各分野で活躍している団体や機関の人びとが学外講師として参画し、オムニバス(リレー)形式による講義を行う。各時間内に質疑応答の時間を設け、毎回、時間内に小レポートを提出する。なお、事前学習として、北河内地域の市の広報HPを閲覧しておくこと。
科目学習の効果(資格)	自分自身が学ぶ摂南大学の歴史を知り、また、地域で活躍する人びとの人生観に触れ、大学と地域に愛着を持ち学生生活の中で自分自身を見つける機会となり地域貢献活動への関心が高まり活動への動機付けが図られる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	摂南大学とこの地域を学ぶ「北河内学」	本講義のねらいと学び方について解説した後、摂南大学と本学を設置する常翔学園の歴史を紹介し、併せて摂南大学の教育の理念を紹介する。また、本学と地域社会との関わり合いについての概要を説明する。	事後学習：摂南大学の自校史集やホームページ、図書館を活用して、大学の歴史や教育の理念などについて理解を深めること。
2	北河内の地歴と文化を学ぶ(1)	北河内地域の歴史的建造物について講義する。	事後学習：建造物とその時代背景などを調べ、北河内に関する理解を深めること。
3	北河内の地歴と文化を学ぶ(2)	淀川とその流域の北河内地域の地理・歴史や文化について講義する。地元の研究家が講義を担当する。	事後学習：講義で学習した内容をもとに、図書館を活用するなど淀川とその流域の地理・歴史や文化について理解を深めること。
4	北河内の地歴と文化を学ぶ(3)	都市(寝屋川市)と地方(和歌山県すさみ町)の連携をはかる取り組みを紹介し、両者が共存共栄するための考え方と具体的な施策について地元の方が解説する。	事後学習：寝屋川市と協定を結んでいる和歌山県すさみ町との協働事業について、それぞれのホームページを参照し、調べてみる。
5	北河内のまちを知る(1)寝屋川市	寝屋川市のすがたの現状と課題、本学の学生に対する期待について講義する。市役所の幹部が講義を担当する。	事後学習：講義で学習した内容をもとに、ホームページで自分の住む街と寝屋川市を見比べるほか、図書館を活用するなど寝屋川市の現状と課題について理解を深めること。
6	北河内のまちを知る(2)枚方市	枚方市のすがたの現状と課題、本学の学生に対する期待について講義する。市役所の幹部が講義を担当する。	事後学習：講義で学習した内容をもとに、ホームページで自分の住む街と枚方市を見比べるほか、図書館を活用するなど枚方市の現状と課題について理解を深めること。
7	北河内のまちを知る(3)交野市	交野市のすがたの現状と課題、本学の学生に対する期待について講義する。市役所の幹部が講義を担当する。	事後学習：講義で学習した内容をもとに、ホームページで自分の住む街と交野市を見比べるほか、図書館を活用するなど交野市の現状と課題について理解を深めること。
8	北河内のまちを知る(4)門真市	門真市のすがたの現状と課題、本学の学生に対する期待について講義する。市役所の幹部が講義を担当する。	事後学習：講義で学習した内容をもとに、ホームページで自分の住む街と門真市を見比べるほか、図書館を活用するなど門真市の現状と課題について理解を深めること。
9	北河内で活躍する人びとや団体を知る(1)	本学との交流関係が深い各種の団体・機関などが、地元での活動や本学学生に期待する活動内容について講義する。	事後学習：講義で学習した内容をもとに、団体・機関のホームページや図書館を活用するなどして活動を再確認し理解を深めること。
10	北河内で活躍する人びとや団体を知る(2)	本学との交流関係が深い各種の団体・機関などが、地元での活動や本学学生に期待する活動内容について講義する。	事後学習：講義で学習した内容をもとに、団体・機関のホームページや図書館を活用するなどして活動を再確認し理解を深めること。
11	北河内で活躍する人びとや団体を知る(3)	本学との交流関係が深い各種の団体・機関などが、地元での活動や本学学生に期待する活動内容について講義する。	事後学習：講義で学習した内容をもとに、団体・機関のホームページや図書館を活用するなどして活動を再確認し理解を深めること。
12	北河内で活躍する人びとや団体を知る(4)	本学との交流関係が深い各種の団体・機関などが、地元での活動や本学学生に期待する活動内容について講義する。	事後学習：講義で学習した内容をもとに、団体・機関のホームページや図書館を活用するなどして活動を再確認し理解を深めること。
13	北河内で活躍する人びとや団体を知る(5)	本学との交流関係が深い各種の団体・機関などが、地元での活動や本学学生に期待する活動内容について講義する。	事後学習：講義で学習した内容をもとに、団体・機関のホームページや図書館を活用するなどして活動を再確認し理解を深めること。
14	北河内で活躍する人びとや団体を知る(6)	本学との交流関係が深い各種の団体・機関などが、地元での活動や本学学生に期待する活動内容について講義する。	事後学習：講義で学習した内容をもとに、団体・機関のホームページや図書館を活用するなどして活動を再確認し理解を深めること。
15	北河内の産業を知る	北河内地域での産業活動の具体例について講義する。地元の北大阪商工会議所や寝屋川市工業会の役員が講義を担当する。	事後学習：講義で学習した内容をもとに、関係するホームページや図書館を活用するなどして産業活動を再確認し理解を深めること。

関連科目 地理、歴史、文化、経済、産業などに関する教養科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回の講義の最後に行う小テストまたはレポート（75%）に加えて、講義全体に関して課せられるレポート課題（25%）を総合して評価する。			
学生への メッセージ	<p>毎回必ず出席してください。地域で活躍されている各分野のいろいろな人の話を聞くことで、摂南大学と地域が密接につながっていること、そして自分もこの地域とのつながりを大切にすることの意義がわかるようになり、自信を持って本学での勉学に励むことができるようになります。</p> <p>なお、本講義は地域で活躍されている方々の協力のもとに行われます。講師に対する礼を逸することなく、私語を慎み、遅刻、居眠り、途中退室などをしないように心がけてください。態度が悪い学生は受講を認めないことがあります。</p>			
担当者の 研究室等	1号館9階 尾山教授室			
備考	<p>学外講師の事情により、授業計画の内容及び順序が変更になります。4月の第1回の講義時に説明します。</p> <p>学外講師の関係者が聴講することがあります。</p> <p>また、授業の様子をカメラ・ビデオで撮影することがあります。</p>			

科目名	キャリアデザインⅠ (BASIC)	科目名 (英文)	Career Planning I(Basic)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	水野 武
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	<p>1) 就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。</p> <p>2) 基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。</p> <p>3) 専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する</p> <p>4) 講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成する。</p> <p>学科の学習・教育目標との対応：工学部[A], 理工学部 [II]</p>
到達目標	<p>1) 摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。</p> <p>2) 社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。</p> <p>3) 調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。</p>
授業方法と留意点	講義だけでなく、グループワークなどを織り交ぜて進行するので積極的な態度で受講すること。
科目学習の効果 (資格)	社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。 「大学生活を充実させる」きっかけになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ようこそ、摂南大学へ	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業のオリエンテーション</li> <li>キャリアデザインとは何か 何故必要なのか</li> <li>公と私について考える</li> </ul>	自分にとって「キャリアデザイン」とは何かを考えること。
2	さあ始めよう！大学生活を	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学で学ぶということを理解する</li> <li>「学修」の意味を学ぶ</li> <li>ノートの取り方、学ぶためのスキルを身に付ける</li> </ul>	大学で学ぶ意味について考えること。
3	摂南大学①	<ul style="list-style-type: none"> <li>摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する</li> <li>学生生活において「目標とするもの」を考える</li> </ul>	キャリアデザインⅠのテキスト P11～P17 を熟読すること。
4	摂南大学②	<ul style="list-style-type: none"> <li>摂南大学の中にある「機会」について知る</li> <li>先輩の話をお聴く</li> </ul>	大学の中にある「機会」の活用の仕方を考えること。
5	グループ課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループワーク (インタビュープロジェクト) の目的を理解する</li> <li>社会人としてのマナーを学ぶ</li> <li>グループで工程管理を考える</li> </ul>	チームの中で「自分はどんな役割を果たしたいか」を考えること。
6	社会は君を待っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の労働事情の推移を知る</li> <li>社会で求められている力について考える</li> </ul>	社会で求められる人材について考えること。
7	社会の仕組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>GDP から見る社会の仕組み</li> <li>労働と貨幣</li> <li>税金について考える</li> </ul>	キャリアデザイン のテキスト P27～P37 を熟読すること。
8	自分づくりへ①	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の良いところを100挙げる</li> <li>ペアワーク</li> </ul>	自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと。 キャリアデザインⅠのテキスト P59～P69 を熟読すること。
9	自分づくりへ②	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシート記入</li> <li>ペアワーク</li> <li>大学4年間の目標設定</li> </ul>	キャリアデザインⅠのテキスト P59～P69 を熟読すること。
10	スケジューリング術	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会人基礎力を理解する</li> <li>PDCA サイクルを身につける</li> <li>入学から今までの大学生活を振り返る</li> <li>未来履歴書を書いてみる</li> </ul>	キャリアデザインⅠのテキスト P79～P88 を熟読すること。
11	ビブリオバトル①	<ul style="list-style-type: none"> <li>ビブリオバトルで発表をする準備</li> <li>グループ内で発表する</li> </ul>	他者に紹介したい本を選んでおくこと。
12	ビブリオバトル②	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ代表による発表</li> </ul>	発表の準備をすること。
13	グループ課題のプレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループごとのプレゼンテーション</li> </ul>	プレゼンテーションの準備をすること。
14	グループ活動の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ活動を振り返り、コミュニケーション、ホスピタリティ、マナーについて考える</li> </ul>	グループ活動の経緯を振り返ること。
15	夢の実現に向けて-学びのプランニング-/講義のおさらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>学びのプランニング</li> <li>講義の振り返り</li> </ul>	夏休み以降の大学生活の目標を考えること。

関連科目	キャリアデザインⅡ、キャリアデザインⅢ、インターンシップⅠ、インターンシップⅡ エンプロイメントデザインⅠ、エンプロイメントデザインⅡ
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	キャリアデザインⅠ	摂南大学就業力向上運営委員会	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
評価方法 (基準)	グループワーク (20%)、授業参加度 (30%)、レポート (50%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	自分の将来を考える授業であることを認識し、能動的に参加すること。			
担当者の 研究室等	7号館3階 キャリア教育推進室 (水野)			
備考	参考書・必要に応じて授業内でレジメを配布する。			

科目名	キャリアデザインⅡ (ADVANCE)	科目名 (英文)	Career Planning II(Advanced)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井 三恵
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	現代社会で生じているさまざまな事象を氾濫する情報からの確にとらえ、それらを起点に思考し、自らの活かし方、伸ばすべきポイントについて考える。
到達目標	将来、就きたい職業を模索し、そのために今何を行うべきかを自ら考え、宣言できるようになることである。
授業方法と留意点	講義だけでなく、グループワークや個人で考えるワークを織り交ぜて進行するので、能動的な態度で受講すること。
科目学習の効果 (資格)	来るべき就職活動に向けて、自分に必要な能力を自覚し、計画的に実行に移すことを等と考えられるようになる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	・講義の目的・内容の解説 ・評価の方法	大学生活1年目で経験したことを思い出ししておくこと。
	2	就活体験①	・特性と心がけ、自己PRの組み立て方を学ぶ	キャリアデザインⅡのテキスト P33～P41を熟読すること。
	3	就活体験②	・学生生活を振り返る ・学生生活で自分を高めるための提案から自分を振り返る	キャリアデザインⅡのテキスト P42～P44を熟読すること。
	4	自分を高める①	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	講義を踏まえ、これからの大学生活において何に取り組むかを考える。
	5	自分を高める②	・リーダーシップ開発 ・リーダーのタイプを知る ・リーダーシップコミュニケーションを学ぶ	講義の内容を日常生活で実践してみる。
	6	社会を知る①	・なぜ仕事をするのか ・仕事観について考える ・仕事の成果とは他者への貢献であることを学ぶ	キャリアデザインⅡテキストの P9～P17を熟読すること。
	7	社会を知る②	・講義4と講義5の実践報告 ・課題「働く人取材してレポート」のグループ討議	グループで討議する準備をする。
	8	社会を知る③	・ライフイベントを考える ・他者受容力を磨く ・ライフイベントにかかる費用を考える	キャリアデザインⅡのテキスト P45～P55を熟読すること。
	9	社会を知る④	・講義7の課題プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備をする。
	10	社会を知る⑤	・業種・職種概念を理解する ・川上～川下の概念の理解 ・付加価値について考える	キャリアデザインⅡのテキスト P59～P79を熟読すること。
	11	社会を知る⑥	・視点/視座/視野の使い方事例を知る ・会社・業種・職種の発見の仕方を学ぶ	キャリアデザインⅡのテキスト P59～P79を熟読すること。
	12	社会を知る⑦	・ニッポンの課題について考える ・未来の働き方を考える	キャリアデザインⅡのテキスト P55を熟読すること。
	13	社会を知る⑧	・グループプレゼンテーション	グループにおける役割を考える。
	14	社会を知る⑨	・グループプレゼンテーション	ここまでの講義を振り返る。
15	授業のおさらい	講義のおさらいと期末レポートの振り返り	自分の学生生活と就職活動への思いを宣言する。	

関連科目	キャリアデザインⅠ・Ⅲ、インターンシップⅠ・Ⅱ
------	-------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	キャリアデザインⅡ	摂南大学キャリア教育推進委員会	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	グループワーク (20%)、授業参加度 (30%)、レポート (50%) を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	来たるべき就職活動に向けて日々の生活を振り返り、準備することを第一とし授業を行うので、卒業後の「あなた」になるために積極的に参加すること。
担当者の研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室 (石井)
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。



科目名	近代文学から学ぶ	科目名(英文)	Modern Literature
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	細川 知佐子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	この講義では明治以降現代までの新聞小説を、朝日新聞を中心に読んでいきます。作品の面白さとともに、時代順に読むことで近現代史の中で新聞小説が持つ役割も考えましょう。
到達目標	社会性、時事性など新聞小説の特色を理解すること。文学の枠内だけでなく、複数の視点で大きく作品を捉えるようになることが目標です。 V科の学習・教育目標との対応：A R科の学習・教育目標との対応：A A科の学習・教育到達目標との対応：A M科の学習・教育到達目標との対応：A1 E科の学習・教育到達目標との対応：B C科の学習・教育到達目標との対応：II
授業方法と留意点	配布資料による講義形式。不定期に復習テストを行います。 また、授業で紹介した新聞小説を最低1冊読み、感想文を提出すること。
科目学習の効果(資格)	日本近代文学の教養を身につけることができます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 新聞小説とは何か	本講義に臨むための基本姿勢と注意点について説明 新聞小説の始まりと歴史	特になし
2	明治時代の新聞小説1	黎明期(明治30年まで)の新聞小説 尾崎紅葉『金色夜叉』を中心に	配布資料と作品を読む
3	明治時代の新聞小説2	明治31年以降の新聞小説 夏目漱石『虞美人草』を中心に	配布資料と作品を読む
4	明治時代の新聞小説3	夏目漱石『坑夫』	配布資料と作品を読む
5	大正時代の新聞小説1	中勘助『銀の匙』	配布資料と作品を読む
6	大正時代の新聞小説2	菊池寛『真珠夫人』、谷崎潤一郎『痴人の愛』	配布資料で作品を読む
7	大正時代の新聞小説3	江戸川乱歩『一寸法師』を中心に	配布資料と作品を読む
8	昭和初期の新聞小説	川端康成『浅草紅団』	配布資料と作品を読む
9	戦前・戦中の新聞小説	戦前・戦中の新聞小説の特色 火野葦平『花と兵隊』を中心に	配布資料と作品を読む
10	戦後の新聞小説1	戦後の新聞小説の特色 石坂洋次郎『青い山脈』、太宰治『グッド・バイ』	配布資料と作品を読む
11	戦後の新聞小説2	三島由紀夫『つばね製』	配布資料と作品を読む
12	現代の新聞小説1	松本清張『砂の器』	配布資料と作品を読む
13	現代の新聞小説2	有吉佐和子『複合汚染』	配布資料と作品を読む
14	現代の新聞小説3	宮部みゆき『理由』、林真理子『下流の宴』	配布資料と作品を読む
15	現代の新聞小説4 本講義のまとめ	奥田英朗『沈黙の町で』 講義で取り上げた新聞小説を振り返り、時代との関わりを考えます	配布資料と作品を読む

関連科目	日本語読解
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	授業態度(授業への集中度・質問への回答など)10%、読書感想文20%、定期試験70%
----------	--

学生へのメッセージ	新聞小説というジャンルを意識し、社会と文学との関わりを考えてみよう。文学が時代を反映していることや社会に与える影響を、新聞小説を通して理解してもらいたい。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	予習復習は、配布資料について新聞小説としての特徴を考えながら約1時間程度の通読をこれに当てること。
----	---

教養科目

科目名	健康科学	科目名(英文)	Health Science
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤林 真美
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	我が国では、交通手段の発達や家事の自動化等により身体活動量が著しく低下しており、さらに食生活の欧米化等も影響して、生活習慣病にかかる人口は増加の一途をたどっている。一方で、うつ病等にかかる人口も激増しており、メンタルヘルスの保持増進も重要課題となっている。本講義では、学生諸君が在学中のみならず生涯にわたり心身の健康を維持・増進するため、健康に関して科学的な裏付けに基づいた知識を幅広く身につけ、講義内容を実践できる能力を身につけることを目的とする。 学科の学習・教育目標との対応：工学部[A]，理工学部 [I1]
到達目標	健康に関する幅広い知識を理解し、実生活に応用することができる。
授業方法と留意点	毎回の授業開始時にレジュメを配布する。授業終了後、課題を課すので次週の授業開始時に提出のこと。
科目学習の効果(資格)	

教養科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	日本人の健康に関する現状を把握し、本講義の意義について述べる。	授業終了時に課題を提示する。
2	健康づくりの三本柱	健康づくりのための三本柱とされている「運動」「栄養」「休養」と、その相互作用について解説する。学生諸君は自身の生活について振り返り、改善すべき点があるか検討する。	授業終了時に課題を提示する。
3	身体の生理機能	食べたものはどこへいくか？吸った酸素はどこでどんな作用をするか？生体の生理について復習する。	授業終了時に課題を提示する。
4	運動トレーニングが肥満対策になる所以	メタボリック症候群の定義、その温床にある内臓肥満について解説する。また肥満、糖尿病、脂質異常症など生活習慣病について解説し、その予防になぜ運動トレーニングが効果的なのか、最新の知見と関連させて解説する。	授業終了時に課題を提示する。
5	運動トレーニングで何が変わるか？	運動トレーニングにより、筋力増強、持久力向上、骨代謝、エネルギー代謝などが改善される。それらのメカニズムについて解説する。	授業終了時に課題を提示する。
6	どんな運動(種類・時間・頻度)が健康によいのか？	第5回で解説した運動トレーニングの効果は、運動方法によってその作用が異なる。肥満解消、筋力増大、骨の増強など目的に応じたトレーニング方法について解説する。	授業終了時に課題を提示する。
7	基礎栄養学	各栄養素の種類や機能について解説する。日ごろの食生活を振り返り、改善すべき点があるか否か検討する。	授業終了時に課題を提示する。
8	食生活と健康	前回の内容を踏まえ、望ましい食事について「食事バランスガイド」に基づいて解説する。	授業終了時に課題を提示する。
9	ダイエット計画	近年、性別や年齢による身体の見え方や中身(体重や体脂肪率など)の違いが明らかになっている。この違いを理解したうえで、望ましいダイエット方法について解説する。	授業終了時に課題を提示する。
10	女性の健康・男性の健康	性別による身体的特徴と性ホルモンの作用、さらに男女それぞれの加齢変化も踏まえて解説する。	授業終了時に課題を提示する。
11	ストレスマネジメント	近年増加しているうつ病について概説し、うつ病やメンタルヘルス、ストレス対策として運動が有効なのか、最新の知見を紹介しながら解説する。また他の精神障害についても概説する。	授業終了時に課題を提示する。
12	睡眠	睡眠がどのような役割を果たしているか解説する。日ごろの睡眠について振り返り、改善すべき点があるか否か検討する。	授業終了時に課題を提示する。
13	アルコールと喫煙、薬物、性感染症	アルコールやタバコ、薬物が身体にどのように影響を及ぼすか解説する。またHIVなど性感染症についても解説する。	授業終了時に課題を提示する。
14	高齢者の介護予防と運動	わが国は超高齢化社会となり、今後さらに高齢者人口が増大することが見込まれている。運動がなぜ介護予防に効果的なのか、解剖学・生理学の立場から解説する。	授業終了時に課題を提示する。
15	総括	本講義の総括と、健康に関する諸問題について考える。	本授業で習得した内容を総括。

関連科目	スポーツ科学実習Ⅰ・Ⅱ、生涯スポーツ実習			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	期末試験 50%、レポート 30%、授業態度 20%の割合で評価する。			
学生への メッセージ	皆さんが将来、知的職業人として社会で活躍するためには、まず心身の健康の保持増進が大切です。健康科学の基本を理解して、心身のセルフマネジメントができるようになることを希求します。			
担当者の 研究室等	総合体育館 1 階 藤林研究室			
備考	1) 毎回の課題は 1 時間以上かけて作成のこと。 2) 毎回の課題以外に、講義の予習復習として 30 分以上かけること。 3) 自主学習は試験の準備を含めて、20 時間かけること。			

科目名	健康論	科目名(英文)	Theory of Health
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	内部 昭彦
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	現代社会では、健康問題が最大の関心事である。特に生活習慣病は増加の一途をたどっている。この要因は食生活・運動・喫煙・飲酒・休養・ストレス等のライフスタイルに強く関連している。本講義では以上を踏まえて受講者が生涯にわたって自ら健康づくりを実践できる方途を具体的に論述する。
到達目標	①ライフスタイルの重要性について理解する。②生活習慣病について理解する。③健康づくりのための運動処方について理解する。④疾病について理解する。 V科の学習・教育目標との対応：A R科の学習・教育目標との対応：A A科の学習・教育到達目標との対応：A M科の学習・教育到達目標との対応：A1 E科の学習・教育到達目標との対応：B C科の学習・教育到達目標との対応：II
授業方法と留意点	講義形式で授業を進める。
科目学習の効果(資格)	本人が自覚して健康維持・増進を図ることの出来る能力を身につけ、生活の内容を豊かにすることを願う。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	健康論とは	・ガイダンス ・現代の健康についての概念	・筆記用具の準備
2	喫煙と健康	・煙草の種類 ・喫煙のリスク ・喫煙の弊害	・喫煙のリスク、健康への害に対する理解
3	薬物と健康	・違法薬物とは ・薬物中毒 ・薬物の内容・弊害	・違法薬物に対する理解
4	飲酒と健康	・飲酒と健康 ・飲酒の弊害	・アルコールの知識を理解を深める
5	思春期と性	・身体の変化 ・性とは	・性に対する理解を深める
6	妊娠・出産	・妊娠とは ・妊娠初期について ・妊娠中期について ・妊娠後期について ・産じょく期について	・妊娠初期、中期の理解 ・妊娠後期、産褥期の理解
7	性感染症	・性感染症とは ・現代の性感染症 ・予防方法	・現代の性感染症の確認と理解
8	エイズ	・エイズを知る ・現代のエイズ状況 ・HIVとAIDS ・感染経路 ・エイズの予防対策	・世界の現状を理解 ・エイズの感染経路の確認と理解 ・エイズの予防の確認と理解
9	生活習慣病予防としての運動の役割	・「運動」「栄養」「休養」について概説し、それらと生活習慣病との関連性について説明する。 ・五大栄養素とその役割について解説する。	・生活習慣病予防としての運動の理解
10	食事と睡眠・心身相関	・健康な食事と睡眠 ・心身の関係性	・正しい食事、睡眠の確認と理解
11	発育・発達・老化	・幼少期から青年期にいたる身体の形態発育・機能発達と、それらに運動トレーニングが及ぼす効果について解説 ・身体の形態・機能の老化について解説 ・中・高齢者における運動トレーニングの効果について解説	発育・発達・老化について理解
12	運動障害と予防、応急処置	・日常の応急手当、スポーツ障害、過換気症候群、RICE 処置、心肺蘇生法について解説 ・救急処置法 ・救急処置の実際	・日常生活やスポーツ実施時の応急処置の方法 ・事故などに関する応急処置の方法
13	健康づくりのための運動処方	・有酸素・無酸素運動、レジスタンストレーニングについて、健康づくりの観点から解説 ・年代・性差による違いについても説明	・健康づくりのための運動について理解
14	ストレス・疲労への対策	・ストレス要因の軽減・ストレスへの早期対応としてのスポーツの関わりを解説 ・疲労が起こるしくみとその対策について解説	・スポーツによる、ストレスの軽減を理解
15	健康論総括(テスト)	14回まで行った授業の内容に関してテストを行う	これまでの授業の復習

関連科目	スポーツ科学実習1・2 生涯スポーツ実習			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	出席率75%以上のものを試験資格者とする。遅刻は2回で1回の欠席と同等とみなす。(遅刻は授業開始から30分以内に入室したことをいう)健康論総括(15回目)におけるテストを100%の割合で評価を行う。(ただし、上記の出席率を満たした者のみを評価対象者とする。)			
学生への メッセージ	質問等がある場合は、研究室あるいは総合体育館事務室に来て下さい。			
担当者の 研究室等	総合体育館1階 内部助教室			
備考	1) 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。 2) 課題(レポート)には1回あたり5時間以上かけて仕上げること。 3) 自主学習には、期末試験の準備を含めて、合計20時間はかけること。			

科目名	現代と地理学	科目名(英文)	Geography in Modern Age
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	笠原 俊則
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	『環境』ということばはいろいろの分野でよく使われているが、地理学では最も重要な術語の一つである。そして近年人間活動にともなうこの環境に著しい変化が生じている。本講義では、最近の地理的環境問題の例をいくつか取り上げて説明し、受講生諸君が現代社会について考える一助にでもらいたいと考えている。
到達目標	最終的には、受講者全員が現代の環境問題について興味を持ち、理解し、考え方を確立してくれることを期待している。これら3点をクリアできれば、この科目を受講した事が諸君の今後の人生に大いに役立つであろう。 V科の学習・教育目標との対応：A R科の学習・教育目標との対応：A A科の学習・教育到達目標との対応：A M科の学習・教育到達目標との対応：A1 E科の学習・教育到達目標との対応：B C科の学習・教育到達目標との対応：II
授業方法と留意点	講義形式で行う。テキストに掲載されている図表だけでは不足するような場合、講義中に適宜プリントを配布する。
科目学習の効果(資格)	人間活動が、我々を取り巻く環境にいかなる影響を与えているかを、身近に感じ取ることができるようになる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	地理学とは?	・地理学の歴史 ・地理学の定義	指定テキストに目を通しておいて下さい。
	2	地理学と環境	人類による環境への働きかけの歴史(過去から現在まで)	指定テキストに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
	3	生活の舞台としての地形－その1－	・扇状地の地形と土地利用 ・台地の発達と土地利用	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
	4	生活の舞台としての地形－その2－	自然堤防帯における生活と土地利用	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
	5	ため池の多面的機能	ため池の持つ多面的な機能とその活用	指定テキストに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
	6	ダム建設とそれにもなう環境の変化	・世界のダムと日本のダムの歴史 ・ダム堆砂およびそれにもなう環境の変化	指定テキストに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
	7	離島における地下ダムの建設	宮古島における地下ダムの建設	指定テキストに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
	8	都市化にもなう水文環境の変化	・都市化にもなう流出および水質の変化 ・都市化地域における水害と下水道整備	指定テキストに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
	9	干拓地の自然的特性	・干拓地の地形 ・干拓地の水環境	指定テキストに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
	10	広域中心都市仙台の発展	・広域中心都市とは ・仙台の発展状況 ・仙台における東日本大震災の影響	指定テキストに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
	11	すみわけられた都市社会空間	・エスニックマイノリティ社会 ・インナーシティ問題	指定テキストに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
	12	ニュータウンの高齢化	・日本におけるニュータウンの成立 ・千里ニュータウンの高齢化	指定テキストに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
	13	日本の産業立地	工業地域構造の形成と変貌	指定テキストに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
	14	都市商業の盛衰と多様化	・都市商業の発展と社会環境の変化 ・都市中心部の空洞化と都市商業の変化	指定テキストに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
	15	伝統工業の地域構成	伝統工業の発展とその系譜	指定テキストに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。

関連科目 「環境関連科目」等

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	人間活動と環境変化	吉越昭久編	古今書院
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準) 定期試験を実施する。さらに前期中頃に小テストも実施する。評価の割合は、定期試験60%、小テスト20%、授業参加点20%である。授業参加点は、時々実施する授業に関わる用語の事前調べ、コミュニケーションペーパーなどによる授業参加状況のチェックによって判断する。

学生へのメッセージ 地理学には地図が付きものである。講義中に出てくる地名を地図帳で確認すれば、内容がより理解しやすくなるであろう。最近の高校教育では地理が選択になっているため、履修していない人もいられるが、もし高校時代に使用した地図帳があれば、講義中に持参して欲しい。

担当者の研究室等 7号館2階 非常勤講師室

備考 授業前の用語の下調べが課された場合、1時間以上の時間を掛けた丁寧な報告を作成してくれることを期待している。

科目名	国際理解概論	科目名(英文)	International Cooperation
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田添 篤史
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的  
現在の世界はグローバリゼーションのただ中にあります。そのため、日本を考えるためには世界全体との関係の中で捉えることが必須となっています。この講義では現在の日本が世界とどのように関わっているかを学び、関わり方がどのように変化していくであろうかということを考えます。この講義では、モノ、カネ、ヒト、そして文化という4つの要素が世界をどのように移動しているかを理解し、現在の日本はその中でどのような立ち位置にあるのかを学びます。それを通じて日本と世界がどのように関係しているかを知り、今後日本が世界とどのように関わっていくべきであるかということを考える手がかりとしてください。

到達目標  
日本と世界が、モノ、カネ、ヒト、文化という4つの側面からどのように関連しているかを理解してください。それを基として今後の日本のあり方を考える手がかりを得ることを目標とします。また、日本という国レベルではなく、個人としてどのように進んでいけば良いかを考える手がかりも掴むことを期待します。  
V科の学習・教育目標との対応：A  
R科の学習・教育目標との対応：A  
A科の学習・教育到達目標との対応：A  
M科の学習・教育到達目標との対応：A1  
E科の学習・教育到達目標との対応：B  
C科の学習・教育到達目標

授業方法と留意点  
講義形式で授業は行われますが、授業内容に対する学生の積極的な議論も期待しています。

科目学習の効果(資格)  
日本は単独で存在しているのではなく世界との関連の中で存在していることを理解し、世界全体に視野が広がる効果を持つ。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	グローバリゼーション	講座の全体的流れを説明します。また現代の世界の特徴であるグローバル化について学びます。	講師の指示に従って次回への展開。
2	グローバル化をめぐる理論(1)	グローバル化の概念について複数の立場があることを学びます。	前回の復習と、講師の指示に従って次回への展開。
3	グローバル化をめぐる理論(2)	グローバル化の概念について複数の立場があることを学びます。	前回の復習と、講師の指示に従って次回への展開。
4	グローバル企業の理論	世界経済の中心であるグローバル企業、その特徴を学びます。	前回の復習と、講師の指示に従って次回への展開。
5	日本経済のグローバル化の歴史	日本経済と世界はどのように関わってきたのか、その歴史を見ます。	前回の復習と、講師の指示に従って次回への展開。
6	自動車産業のグローバル化	日本の基幹産業である自動車産業のグローバル化について学びます	前回の復習と、講師の指示に従って次回への展開。
7	産業空洞化と地域経済(1)	現在の日本で問題となっている産業の空洞化について学びます。またそれが地域経済にどのような影響を与えるかを考えます。	前回の復習と、講師の指示に従って次回への展開。
8	産業空洞化と地域経済(2)	工場が帰ってくれば職も帰ってくるのか。ジョブレスリカバリーという問題と地域のあり方を考えます。	前回の復習と、講師の指示に従って次回への展開。
9	世界を回るカネ	世界を循環する資金の流れを見ます。その中で日本がどのように位置づけられているかを考えます。	前回の復習と、講師の指示に従って次回への展開。
10	国際労働移動	移民について、世界全体の状況を理解します。	前回の復習と、講師の指示に従って次回への展開。
11	日本と移民労働	現在のホットイシューである移民について、日本はどのようにすべきかを考えていきます。	前回の復習と、講師の指示に従って次回への展開。
12	地域経済と観光産業(1)	観光立国というスローガンがありますが、現在どのようになっているのかを見ます。	前回の復習と、講師の指示に従って次回への展開。
13	地域経済と観光産業(2)	観光産業は疲弊する地域経済を救うことができるのか、あるいはどのようにすればよいのか、それを考えます。	前回の復習と、講師の指示に従って次回への展開。
14	国際機関の歴史	世界にはどのような国際機関があるのかを見ます。またどのような問題点があるのかを見ていきます。	前回の復習と、講師の指示に従って次回への展開。
15	文化のグローバル化まとめ	文化のグローバル化の現状および文化のグローバル化をめぐる議論を考察します。全体を復習し、14回の授業のそれぞれの関連を考える上で、1回目の授業における課題をもう一度考察します。	前回の復習。

関連科目  
特にありません。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名

教養科目



	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>第2回以降、復習を兼ねた小テストを毎回行います。および期末試験を行います。  総合評価は小テストが50%、期末試験が50%として判断します。  授業態度についても評価を行い、態度が悪い場合は総合評価から減点します。  無断欠席が4回以上の場合、評価の対象外とします。</p>			
学生への メッセージ	<p>座席は指定制とします。  授業態度が非常に悪い場合は出席したとしても欠席扱いにすることがあります。</p>			
担当者の 研究室等	<p>非常勤講師ですので研究室はありません。その代わりに、授業中に質問の時間を設ける予定です。</p>			
備考	<p>毎回の授業終了後の見直し、および次回の授業開始前の前回の復習をあわせて、毎回1時間はかけること。  期末試験に関しては、それに備えて7時間半の学習を行うこと</p>			



科目名	古典文学から学ぶ	科目名(英文)	Classic Literature
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	細川 知佐子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	この講義では『百人一首』を読んでいきます。まず、文学作品としての位置づけを行っただけで、和歌の鑑賞を通して、我々現代人が忘れてしまった自然と共生する力や方法、また今も昔も変わらない心情などを学びましょう。古典作品は断絶した遠い過去の遺物ではありません。自ら作品に近づき親しむことにより、現代の文学作品と同様に多くの知見や感動を得ることができます。																																																																		
到達目標	和歌の断片的な知識ではなく、時代背景を含め作品としての総合的な理解が目標です。 V科の学習・教育目標との対応：A R科の学習・教育目標との対応：A A科の学習・教育到達目標との対応：A M科の学習・教育到達目標との対応：A1 E科の学習・教育到達目標との対応：B C科の学習・教育到達目標との対応：II																																																																		
授業方法と留意点	講義形式です。不定期に理解度を確認する小テストを行います。																																																																		
科目学習の効果(資格)	大学生として必要最低限の「古典文学」の知識を身につけることができます。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>授業の目的、方法の説明</td> <td>『百人一首』を読む</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>作品としての『百人一首』1</td> <td>『百人一首』の成立と謎</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>作品としての『百人一首』2</td> <td>江戸時代を中心にした、『百人一首』の後世の受容</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>作品としての『百人一首』3</td> <td>『百人一首』の構成と和歌を読むための基礎知識</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>四季歌を読む 春1</td> <td>春の歌を読みます</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>四季歌を読む 春2</td> <td>桜の歌を読みます</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>四季歌を読む 夏</td> <td>夏の歌を読みます</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>四季歌を読む 秋1</td> <td>秋の歌を読みます</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>四季歌を読む 秋2</td> <td>秋の月の歌を読みます</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>四季歌を読む 冬</td> <td>冬の歌を読みます</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>恋歌</td> <td>恋の歌を読みます</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>雑歌1</td> <td>友情をテーマにした歌を読みます</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>雑歌2</td> <td>旅の歌を読みます</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>雑歌3</td> <td>人生をテーマにした歌を読みます</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>授業の総括</td> <td>『百人一首』の意義と他の文学作品との関わり</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	授業の目的、方法の説明	『百人一首』を読む	2	作品としての『百人一首』1	『百人一首』の成立と謎	配布プリントを読む	3	作品としての『百人一首』2	江戸時代を中心にした、『百人一首』の後世の受容	配布プリントを読む	4	作品としての『百人一首』3	『百人一首』の構成と和歌を読むための基礎知識	配布プリントを読む	5	四季歌を読む 春1	春の歌を読みます	配布プリントを読む	6	四季歌を読む 春2	桜の歌を読みます	配布プリントを読む	7	四季歌を読む 夏	夏の歌を読みます	配布プリントを読む	8	四季歌を読む 秋1	秋の歌を読みます	配布プリントを読む	9	四季歌を読む 秋2	秋の月の歌を読みます	配布プリントを読む	10	四季歌を読む 冬	冬の歌を読みます	配布プリントを読む	11	恋歌	恋の歌を読みます	配布プリントを読む	12	雑歌1	友情をテーマにした歌を読みます	配布プリントを読む	13	雑歌2	旅の歌を読みます	配布プリントを読む	14	雑歌3	人生をテーマにした歌を読みます	配布プリントを読む	15	授業の総括	『百人一首』の意義と他の文学作品との関わり	配布プリントを読む
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	授業の目的、方法の説明	『百人一首』を読む																																																																
2	作品としての『百人一首』1	『百人一首』の成立と謎	配布プリントを読む																																																																
3	作品としての『百人一首』2	江戸時代を中心にした、『百人一首』の後世の受容	配布プリントを読む																																																																
4	作品としての『百人一首』3	『百人一首』の構成と和歌を読むための基礎知識	配布プリントを読む																																																																
5	四季歌を読む 春1	春の歌を読みます	配布プリントを読む																																																																
6	四季歌を読む 春2	桜の歌を読みます	配布プリントを読む																																																																
7	四季歌を読む 夏	夏の歌を読みます	配布プリントを読む																																																																
8	四季歌を読む 秋1	秋の歌を読みます	配布プリントを読む																																																																
9	四季歌を読む 秋2	秋の月の歌を読みます	配布プリントを読む																																																																
10	四季歌を読む 冬	冬の歌を読みます	配布プリントを読む																																																																
11	恋歌	恋の歌を読みます	配布プリントを読む																																																																
12	雑歌1	友情をテーマにした歌を読みます	配布プリントを読む																																																																
13	雑歌2	旅の歌を読みます	配布プリントを読む																																																																
14	雑歌3	人生をテーマにした歌を読みます	配布プリントを読む																																																																
15	授業の総括	『百人一首』の意義と他の文学作品との関わり	配布プリントを読む																																																																
関連科目	日本語読解																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>百人一首</td> <td>島津忠夫</td> <td>角川ソフィア文庫</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>光琳カルタで読む百人一首ハンドブック</td> <td>久保田淳</td> <td>小学館</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	百人一首	島津忠夫	角川ソフィア文庫	2	光琳カルタで読む百人一首ハンドブック	久保田淳	小学館	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	百人一首	島津忠夫	角川ソフィア文庫																																																																
2	光琳カルタで読む百人一首ハンドブック	久保田淳	小学館																																																																
3																																																																			
評価方法(基準)	授業態度(授業への集中度・質問への回答など)30%、定期試験70%																																																																		
学生へのメッセージ	和歌が持つ美しいリズムを味わい、千年前の人々からのメッセージを受け取りましょう。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)																																																																		
備考	予習復習は配布資料、参考書について約1時間程度の通読をこれに当てること。																																																																		

科目名	コミュニケーション I	科目名 (英文)	Communication I
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	櫻井 清華
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	<p>(概要と目的) 私たちは日本語を母語としているため、読み・書き・会話にさして苦労はないと考えがちである。だが実際は、自己の意思や思考を話し言葉(音声言語)によって正確に他者に伝達し、かつ明快な文章(書記言語)で過不足なく表現することは必ずしも容易くはない。そのためには一定の技術と知識が必要であり、それらを実践練習の中で琢磨していく必要がある。この授業を履修することで、大学生生活・社会生活において不可欠な言語能力を一段高いレベルにおいて習得し、それに伴う思考力の獲得と向上をめざす。</p>																																																																		
到達目標	<p>目的に応じた日本語表現の技法を学ぶことで、日本語の誤用をなくす。日本語を支える文化背景を学ぶことで、現在無意識に使用している流行語、若者言葉、オノマトペの意義を知り、大学生として不足のない文章を書けるようになることを、さらにそれに付随して、社会人に相応しい日本語使用ができることを目指す。これについては文語・口語ともに射程に含まれる。</p> <p>V科の学習・教育目標との対応：A R科の学習・教育目標との対応：A A科の学習・教育到達目標との対応：A M科の学習・教育到達目標との対応：A1 E科の学習・教</p>																																																																		
授業方法と留意点	積極的な参加を求めます。																																																																		
科目学習の効果(資格)	文章の読解・文章の作成・対話(コミュニケーション)といった日本語能力の向上。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>授業内容、授業の進め方、評価基準等について説明します。</td> <td>日本語の読み書きに意識的になって下さい。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>文章の書き方1</td> <td>レポート・論文の基本事項を学ぶ。</td> <td>日本語の読み書きに意識的になって下さい。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>文章の書き方2</td> <td>わかりやすい文章の書き方を学ぶ。</td> <td>日本語の読み書きに意識的になって下さい。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>事実と意見</td> <td>事実と意見の書き分け方を学ぶ。</td> <td>日本語の読み書きに意識的になって下さい。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>説明文</td> <td>必要なことをわかりやすく説明する。</td> <td>日本語の読み書きに意識的になって下さい。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>文章の構成</td> <td>文章構成の基礎を学ぶ。</td> <td>日本語の読み書きに意識的になって下さい。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>文章の要約</td> <td>要旨の要約を学ぶ。</td> <td>日本語の読み書きに意識的になって下さい。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>文章を引用する</td> <td>文章を引用する際の作法を学ぶ。</td> <td>日本語の読み書きに意識的になって下さい。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>図表を引用する</td> <td>図表を引用する方法を学ぶ。</td> <td>日本語の読み書きに意識的になって下さい。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>意見を述べる</td> <td>考察に基づく意見を述べる。</td> <td>日本語の読み書きに意識的になって下さい。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>論説文</td> <td>資料を引用して意見を述べる。</td> <td>日本語の読み書きに意識的になって下さい。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>レポートの書き方1</td> <td>レポートの体裁を学ぶ。</td> <td>日本語の読み書きに意識的になって下さい。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>レポートの書き方2</td> <td>レポート作成の注意点を学ぶ。</td> <td>日本語の読み書きに意識的になって下さい。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>資料収集の方法</td> <td>文献の調べ方を学ぶ。</td> <td>日本語の読み書きに意識的になって下さい。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>手紙の書き方</td> <td>手紙を書く際の作法を学ぶ。</td> <td>日本語の読み書きに意識的になって下さい。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	授業内容、授業の進め方、評価基準等について説明します。	日本語の読み書きに意識的になって下さい。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。	2	文章の書き方1	レポート・論文の基本事項を学ぶ。	日本語の読み書きに意識的になって下さい。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。	3	文章の書き方2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ。	日本語の読み書きに意識的になって下さい。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。	4	事実と意見	事実と意見の書き分け方を学ぶ。	日本語の読み書きに意識的になって下さい。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。	5	説明文	必要なことをわかりやすく説明する。	日本語の読み書きに意識的になって下さい。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。	6	文章の構成	文章構成の基礎を学ぶ。	日本語の読み書きに意識的になって下さい。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。	7	文章の要約	要旨の要約を学ぶ。	日本語の読み書きに意識的になって下さい。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。	8	文章を引用する	文章を引用する際の作法を学ぶ。	日本語の読み書きに意識的になって下さい。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。	9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ。	日本語の読み書きに意識的になって下さい。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。	10	意見を述べる	考察に基づく意見を述べる。	日本語の読み書きに意識的になって下さい。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。	11	論説文	資料を引用して意見を述べる。	日本語の読み書きに意識的になって下さい。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。	12	レポートの書き方1	レポートの体裁を学ぶ。	日本語の読み書きに意識的になって下さい。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。	13	レポートの書き方2	レポート作成の注意点を学ぶ。	日本語の読み書きに意識的になって下さい。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。	14	資料収集の方法	文献の調べ方を学ぶ。	日本語の読み書きに意識的になって下さい。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。	15	手紙の書き方	手紙を書く際の作法を学ぶ。	日本語の読み書きに意識的になって下さい。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	授業内容、授業の進め方、評価基準等について説明します。	日本語の読み書きに意識的になって下さい。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
2	文章の書き方1	レポート・論文の基本事項を学ぶ。	日本語の読み書きに意識的になって下さい。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
3	文章の書き方2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ。	日本語の読み書きに意識的になって下さい。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
4	事実と意見	事実と意見の書き分け方を学ぶ。	日本語の読み書きに意識的になって下さい。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
5	説明文	必要なことをわかりやすく説明する。	日本語の読み書きに意識的になって下さい。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
6	文章の構成	文章構成の基礎を学ぶ。	日本語の読み書きに意識的になって下さい。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
7	文章の要約	要旨の要約を学ぶ。	日本語の読み書きに意識的になって下さい。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
8	文章を引用する	文章を引用する際の作法を学ぶ。	日本語の読み書きに意識的になって下さい。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ。	日本語の読み書きに意識的になって下さい。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
10	意見を述べる	考察に基づく意見を述べる。	日本語の読み書きに意識的になって下さい。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
11	論説文	資料を引用して意見を述べる。	日本語の読み書きに意識的になって下さい。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
12	レポートの書き方1	レポートの体裁を学ぶ。	日本語の読み書きに意識的になって下さい。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
13	レポートの書き方2	レポート作成の注意点を学ぶ。	日本語の読み書きに意識的になって下さい。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
14	資料収集の方法	文献の調べ方を学ぶ。	日本語の読み書きに意識的になって下さい。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
15	手紙の書き方	手紙を書く際の作法を学ぶ。	日本語の読み書きに意識的になって下さい。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
関連科目	特になし。																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	<p>期末試験 90%、出席日数を含む授業態度 10%の割合で評価する。参加態度の悪さから講義中に退席を求めた学生については期末試験を評価しない。授業態度とは①質問への投げかけに対する応答の姿勢、②授業への集中度、③ノート書写の姿勢、を指します。</p>																																																																		
学生へのメッセージ	日本語の読み書きに関心をもって下さい。国語辞典・漢和辞典を頻繁に使用する習慣をつけて下さい。																																																																		
担当者の研究室等備考	7号館2階(非常勤講師室)																																																																		

科目名	コミュニケーションⅡ	科目名(英文)	Communication II
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	櫻井 清華
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

教養科目

授業概要・目的	本講義では、音声言語(話し言葉)のみならず、文字言語(書き言葉)によるコミュニケーションも射程に入れ、「コミュニケーションⅠ」で修得した言語技術をさらに深めさせることを目指す。挨拶・紹介・説明(研究発表を含む)・報告(調査報告を含む)・依頼・勧誘・質疑応答・議論・話し合い・見舞い・詫び・感謝・賞賛といった目的別の言語行動を想定し、より実践的な言語運用能力を修得することを目標とする。																																																																		
到達目標	目的に応じた日本語表現の技法を学ぶことで、日本語の誤用をなくす。日本語を支える文化背景を学ぶことで、現在無意識に使用している流行語、若者言葉、オノマトペの意義を知り、大学生として不足のない文章を書けるようになること、さらにそれに付随して、社会人にふさわしい日本語使用ができることを目指す。これについては、文語・口語ともに射程に含まれる。 V科の学習・教育目標との対応:A R科の学習・教育目標との対応:A A科の学習・教育到達目標との対応:A M科の学習・教育到達目標との対応:A1 E科の学習・																																																																		
授業方法と留意点	積極的な参加を求めます。																																																																		
科目学習の効果(資格)	文章の読解・作成・対話(コミュニケーション)といった、日本語能力の向上。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> <td>講義の概要</td> <td>コミュニケーションとはどのような現象かを考えてください。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>就職活動に必要なマナー①</td> <td>社会人としてのマナーをまなぶ</td> <td>事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>就職活動に必要なマナー②</td> <td>社会人としてのマナーをまなぶ</td> <td>事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>社会人としての会話の技術①(自己紹介・挨拶・電話対応)</td> <td>立ち位置、目線、言葉の総合行為をまなぶ</td> <td>事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>社会人としての会話の技術②(電話対応と書面表現)</td> <td>有益な説明と報告のコツをまなぶ</td> <td>事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>社会人としての会話の技術③(ウチとソトの関係)</td> <td>自他の距離を言葉で測る訓練をまなぶ</td> <td>事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>社会人としての会話の技術④(謝罪・携帯電話のマナー)</td> <td>言葉の力を認識することをまなぶ</td> <td>事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>社会人としての会話の技術⑤(冗長表現)</td> <td>言葉の力を認識することをまなぶ</td> <td>事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>社会人としての会話の技術⑥(会話の配慮)</td> <td>敬語の基礎と応用をまなぶ</td> <td>事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>エントリーシートを書く①</td> <td>半生を棚卸しする</td> <td>事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>エントリーシートを書く②</td> <td>なぜ就職したいのかを考える</td> <td>事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>エントリーシートを書く③</td> <td>自分の夢と社会のニーズを考える</td> <td>事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>エントリーシートを書く④</td> <td>大学生活の意味と意義を振り返る</td> <td>事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>エントリーシートを書く⑤</td> <td>その他大勢の中から選ばれる自分をアピールする文章を書く</td> <td>事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td>後期総括</td> <td>事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	講義の概要	コミュニケーションとはどのような現象かを考えてください。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。	2	就職活動に必要なマナー①	社会人としてのマナーをまなぶ	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。	3	就職活動に必要なマナー②	社会人としてのマナーをまなぶ	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。	4	社会人としての会話の技術①(自己紹介・挨拶・電話対応)	立ち位置、目線、言葉の総合行為をまなぶ	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。	5	社会人としての会話の技術②(電話対応と書面表現)	有益な説明と報告のコツをまなぶ	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。	6	社会人としての会話の技術③(ウチとソトの関係)	自他の距離を言葉で測る訓練をまなぶ	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。	7	社会人としての会話の技術④(謝罪・携帯電話のマナー)	言葉の力を認識することをまなぶ	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。	8	社会人としての会話の技術⑤(冗長表現)	言葉の力を認識することをまなぶ	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。	9	社会人としての会話の技術⑥(会話の配慮)	敬語の基礎と応用をまなぶ	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。	10	エントリーシートを書く①	半生を棚卸しする	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。	11	エントリーシートを書く②	なぜ就職したいのかを考える	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。	12	エントリーシートを書く③	自分の夢と社会のニーズを考える	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。	13	エントリーシートを書く④	大学生活の意味と意義を振り返る	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。	14	エントリーシートを書く⑤	その他大勢の中から選ばれる自分をアピールする文章を書く	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。	15	まとめ	後期総括	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	講義の概要	コミュニケーションとはどのような現象かを考えてください。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
2	就職活動に必要なマナー①	社会人としてのマナーをまなぶ	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
3	就職活動に必要なマナー②	社会人としてのマナーをまなぶ	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
4	社会人としての会話の技術①(自己紹介・挨拶・電話対応)	立ち位置、目線、言葉の総合行為をまなぶ	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
5	社会人としての会話の技術②(電話対応と書面表現)	有益な説明と報告のコツをまなぶ	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
6	社会人としての会話の技術③(ウチとソトの関係)	自他の距離を言葉で測る訓練をまなぶ	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
7	社会人としての会話の技術④(謝罪・携帯電話のマナー)	言葉の力を認識することをまなぶ	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
8	社会人としての会話の技術⑤(冗長表現)	言葉の力を認識することをまなぶ	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
9	社会人としての会話の技術⑥(会話の配慮)	敬語の基礎と応用をまなぶ	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
10	エントリーシートを書く①	半生を棚卸しする	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
11	エントリーシートを書く②	なぜ就職したいのかを考える	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
12	エントリーシートを書く③	自分の夢と社会のニーズを考える	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
13	エントリーシートを書く④	大学生活の意味と意義を振り返る	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
14	エントリーシートを書く⑤	その他大勢の中から選ばれる自分をアピールする文章を書く	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
15	まとめ	後期総括	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
関連科目	国語学、言語学、日本語学、社会学、コミュニケーション論、コミュニケーションⅠなど																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	授業態度10%、定期試験90%。 授業態度には①質問の投げかけに対する応答姿勢、②授業への集中度、③ノート書写の姿勢、などを指します。																																																																		
学生へのメッセージ	意欲的な参加を求めます。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)																																																																		
備考																																																																			

科目名	産業技術史	科目名(英文)	History of Industrial Technology
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	照元 弘行
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	様々な産業で用いられる技術を「産業技術」という。この「産業技術」は、どのような経路をたどりながら、何を原動力として発展してきたかという問題について考える。本講義では、様々な「産業技術」の変遷を体系的に捉え、地球規模での産業技術の役割について考え、これまでに築かれてきた技術を学習・理解することで、今後、独創的な技術を生み出していく手がかりを提供する。
到達目標	幅広い教養と地球的視野をもった技術者になるための基礎を身につけることである。具体的には、それぞれの産業技術の歴史を学習・理解することで、技術者として幅広い教養を、また、情報社会の世界情勢や地球環境問題を学ぶことで、物事を地球的視点から多面的に捉える能力と素養を身につけることを到達目標とする。 V科の学習・教育目標との対応：A R科の学習・教育目標との対応：A A科の学習・教育到達目標との対応：A M科の学習・教育到達目標との対応：A1 E科の学習・教育到達目標との対応：A, B C科の
授業方法と留意点	授業形式は、視聴覚教材を多用する「プレゼンテーション授業」である。 講義中心の授業となるが、産業技術をできるだけわかりやすく理解してもらうために、視聴覚教材および資料集などの図を用いて解説する。
科目学習の効果(資格)	現在の産業技術社会は、膨大な情報と知識の専門化が進んでおり、この産業技術の世界を系統的に学ぶ機会は、一般教養科目を学ぶ以外の時期には少なくなる傾向にあり、他分野の知識の吸収には、自分自身で常に努力していく必要がある。それゆえ、できるだけ早い時期に産業技術の源を学んでおくことは、多くの分野に興味をもつための一助になると考えている。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	製鉄・鉄鋼産業の技術史①	金属材料について学ぶ。 伝統の日本製鉄法「たたら」について学ぶ。	資料集を事前に読んでおくこと。 課題レポート提出②
3	製鉄・鉄鋼産業の技術史②	製鉄・鉄鋼産業の技術発展史とその公害・環境対策について学ぶ。	資料集を事前に読んでおくこと。 課題レポート提出③
4	製鉄・鉄鋼産業の技術史③	製鉄所のシンボルである高炉について学ぶ。 国産技術で育てた画期的な次世代の鉄「超鉄鋼」について学ぶ。	資料集を事前に読んでおくこと。 課題レポート提出④
5	情報技術産業の歴史①	今日、日常的に利用しているワープロの歴史とその技術について学ぶ。	資料集を事前に読んでおくこと。 課題レポート提出⑤
6	情報技術産業の歴史②	これからの携帯電話技術の「デファクトスタンダード」をめぐる激しい争いを事例にして、これらの技術について学ぶ。	資料集を事前に読んでおくこと。 課題レポート提出⑥
7	自動車産業の歴史①	国産自動車トヨタ AA 型の開発を事例にして、日本の自動車産業を学ぶ。	資料集を事前に読んでおくこと。 課題レポート提出⑦
8	自動車産業の歴史②	自動車産業の公害・環境問題について学ぶ。 ここでは、低公害エンジン「CVCC」を事例にして学ぶ。	資料集を事前に読んでおくこと。 課題レポート提出⑧
9	自動車産業の歴史③	自動車産業の公害・環境問題について学ぶ。 ここでは、「ハイブリッドカー」を事例にして学ぶ。	資料集を事前に読んでおくこと。 課題レポート提出⑨
10	自動車産業の歴史④	自動車産業の公害・環境問題について学ぶ。 ここでは、燃料電池の技術と「究極のエコカー」である燃料電池自動車について学ぶ。	資料集を事前に読んでおくこと。 課題レポート提出⑩
11	鉄道産業の歴史①	国と地方の問題から「新幹線問題」について学ぶ。	資料集を事前に読んでおくこと。 課題レポート提出⑪
12	鉄道産業の歴史②	高速鉄道「新幹線」の開発の歴史とその主要技術について学ぶ。 新幹線を作る様々な技術(町工場がもつアナログ的な技術)を学ぶ。	資料集を事前に読んでおくこと。 課題レポート提出⑫
13	鉄道産業の歴史③	未来の高速鉄道「リニアモーターカー」について学ぶ。 また、これからの鉄道の公害・環境対策技術、安全対策について学ぶ。	資料集を事前に読んでおくこと。 課題レポート提出⑬
14	公害・環境対策の技術史	産業競争力強化の重要な柱の1つである「ISO14001」の認証取得の事例を解説する。	資料集を事前に読んでおくこと。 課題レポート提出⑭
15	世界の産業技術	産業技術の未来への取り組みについて、子どもたちへの活動を通して考える。	資料集を事前に読んでおくこと。 課題レポート提出⑮

関連科目	産業技術史は、多面的で複合的な科目であることから、大学において、できるだけ数多くの科目を習得すれば、必ず役立つと思います。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	各授業毎の課題レポート(50点配分)と定期試験(50点配分)で総合的(合計100点)に評価する。なお、合格基準は、レポートおよび定期試験がそれぞれ30点以上、総合評価で60点以上を合格とする。			
学生への メッセージ	1時間目の授業ではありますが、遅刻せずに毎回出席することが望ましい。授業中は私語を慎み、集中して授業に臨み、理解した授業の内容を整理できるように心がけて下さい。			
担当者の 研究室等	第1回目の講義時にお知らせします。			
備考	講義のキーワードとして、「特許」、「公害・環境問題」、「アナログ的な技術・デジタル的な技術」などを示しておく。 レポート作成、復習の学習時間：20時間程度。			

科目名	産業社会と知的財産	科目名(英文)	Industrial Society and Intellectual Property
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	関堂 幸輔
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	<p>知的財産は、2002年の小泉首相(当時)による「知財立国宣言」以来、わが国の政策上の戦略的資源の一つとしても位置づけられており、ますますその重要性が増しつつあります。本講義では、知的財産法(知的所有権法)の概要を俯瞰することでなぜ知的財産が法的に保護されるべきなのかを理解し、その一方で、最新の事例等の問題を紹介しつつ、高度情報化社会に伴う情報の積極的な共有化と、いわば情報を囲い込む知的財産権との相克という観点から、将来の知的財産法制度の在り方についても検討していくことを目標とします。</p> <p>なお本講義は法学部以外のカリキュラムであり、受講者には法学初心者が多いため含まれていることが予想されますので、この点にも配慮した内容とします。</p>																																																																		
到達目標	<p>「授業概要・目的」に掲げた知的財産権ないし知的財産法に特有な意義・性質を理解し、それらが将来どのように運用されるべきであるか、自ら考察できるようにすることを到達目標とします。</p> <p>V科の学習・教育目標との対応：A R科の学習・教育目標との対応：A A科の学習・教育到達目標との対応：A M科の学習・教育到達目標との対応：A1 E科の学習・教育到達目標との対応：B C科の学習・教育到達目標との対応：II</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>板書中心の講義形式とし、適宜配付資料や視聴覚的資料を用います。なお、本来なら産業から文化まで広範囲に渡る知的財産法の全般を半年のみの科目で修めることはおよそ無理な話なのですが、本講義のカリキュラムはそれを強めていますので、やむを得ず本講義では特許法と著作権法のみを中心に授業を行います。</p>																																																																		
科目学習の効果(資格)	<p>最先端かつ重要な特別法の分野に接することで、より応用的な法学の力や考え方が身につく。</p>																																																																		
授業計画	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">回数</th> <th style="width: 20%;">授業テーマ</th> <th style="width: 40%;">内容・方法等</th> <th style="width: 30%;">事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>詳細なガイダンス</td> <td>授業の内容、方法その他について詳細に説明します。</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>情報の意義・性質と知的財産</td> <td>いわば「情報を囲い込み独占する」という知的財産の制度が、情報本来の性質にどう関わってくるのか、法制度の趣旨と併せて検討します。</td> <td>事後：当該回の内容の復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>知的財産のいろいろ</td> <td>特許権、実用新案権、意匠権、商標権、著作権などの対象として身近な例を取り上げ、それぞれ概要を理解します。</td> <td>事後：当該回の内容の復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>技術的アイデアの保護</td> <td>特許権の対象である「発明」について理解します。</td> <td>事後：当該回の内容の復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>特許出願と特許権取得の手続</td> <td>特許権を取得するための出願・審査・登録といった手続の流れを把握します。</td> <td>事後：当該回の内容の復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>特許権の性質・内容</td> <td>特許権の存続期間と権利の及ぶ(逆に及ばない)範囲について学びます。「消尽論」「均等論」といった法学上の重要論点もここで取り上げます。</td> <td>事後：当該回の内容の復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>表示・標識の保護</td> <td>識別性ないし周知性のある表示・標識を保護する制度としての商標法および不正競争防止法について簡単に説明します。</td> <td>事後：当該回の内容の復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>創作的表現の保護</td> <td>著作権の対象である「著作物」、そしてそれを伝達する「実演」等について理解します。</td> <td>事後：当該回の内容の復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>著作権の内容(1)</td> <td>著作権や著作隣接権の具体的内容を把握します。</td> <td>事後：当該回の内容の復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>著作権の内容(2)</td> <td>同上。</td> <td>事後：当該回の内容の復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>著作権の制限(1)</td> <td>著作権等の存続期間(時間的制限)および「私的使用目的複製」「引用」など、著作権が制限される場合を理解し、そのような制度の趣旨や在り方について検討します。</td> <td>事後：当該回の内容の復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>著作権の制限(2)</td> <td>同上。</td> <td>事後：当該回の内容の復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>最新の事例・問題(1)</td> <td>知的財産法に関する最新の事例や問題点を取り上げ、検討します。</td> <td>事後：当該回の内容の復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>最新の事例・問題(2)</td> <td>同上。</td> <td>事後：当該回の内容の復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>試験、その他</td> <td>試験により成績評価をします。試験についての詳細は授業にて説明します。</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	詳細なガイダンス	授業の内容、方法その他について詳細に説明します。	—	2	情報の意義・性質と知的財産	いわば「情報を囲い込み独占する」という知的財産の制度が、情報本来の性質にどう関わってくるのか、法制度の趣旨と併せて検討します。	事後：当該回の内容の復習	3	知的財産のいろいろ	特許権、実用新案権、意匠権、商標権、著作権などの対象として身近な例を取り上げ、それぞれ概要を理解します。	事後：当該回の内容の復習	4	技術的アイデアの保護	特許権の対象である「発明」について理解します。	事後：当該回の内容の復習	5	特許出願と特許権取得の手続	特許権を取得するための出願・審査・登録といった手続の流れを把握します。	事後：当該回の内容の復習	6	特許権の性質・内容	特許権の存続期間と権利の及ぶ(逆に及ばない)範囲について学びます。「消尽論」「均等論」といった法学上の重要論点もここで取り上げます。	事後：当該回の内容の復習	7	表示・標識の保護	識別性ないし周知性のある表示・標識を保護する制度としての商標法および不正競争防止法について簡単に説明します。	事後：当該回の内容の復習	8	創作的表現の保護	著作権の対象である「著作物」、そしてそれを伝達する「実演」等について理解します。	事後：当該回の内容の復習	9	著作権の内容(1)	著作権や著作隣接権の具体的内容を把握します。	事後：当該回の内容の復習	10	著作権の内容(2)	同上。	事後：当該回の内容の復習	11	著作権の制限(1)	著作権等の存続期間(時間的制限)および「私的使用目的複製」「引用」など、著作権が制限される場合を理解し、そのような制度の趣旨や在り方について検討します。	事後：当該回の内容の復習	12	著作権の制限(2)	同上。	事後：当該回の内容の復習	13	最新の事例・問題(1)	知的財産法に関する最新の事例や問題点を取り上げ、検討します。	事後：当該回の内容の復習	14	最新の事例・問題(2)	同上。	事後：当該回の内容の復習	15	試験、その他	試験により成績評価をします。試験についての詳細は授業にて説明します。	—
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	詳細なガイダンス	授業の内容、方法その他について詳細に説明します。	—																																																																
2	情報の意義・性質と知的財産	いわば「情報を囲い込み独占する」という知的財産の制度が、情報本来の性質にどう関わってくるのか、法制度の趣旨と併せて検討します。	事後：当該回の内容の復習																																																																
3	知的財産のいろいろ	特許権、実用新案権、意匠権、商標権、著作権などの対象として身近な例を取り上げ、それぞれ概要を理解します。	事後：当該回の内容の復習																																																																
4	技術的アイデアの保護	特許権の対象である「発明」について理解します。	事後：当該回の内容の復習																																																																
5	特許出願と特許権取得の手続	特許権を取得するための出願・審査・登録といった手続の流れを把握します。	事後：当該回の内容の復習																																																																
6	特許権の性質・内容	特許権の存続期間と権利の及ぶ(逆に及ばない)範囲について学びます。「消尽論」「均等論」といった法学上の重要論点もここで取り上げます。	事後：当該回の内容の復習																																																																
7	表示・標識の保護	識別性ないし周知性のある表示・標識を保護する制度としての商標法および不正競争防止法について簡単に説明します。	事後：当該回の内容の復習																																																																
8	創作的表現の保護	著作権の対象である「著作物」、そしてそれを伝達する「実演」等について理解します。	事後：当該回の内容の復習																																																																
9	著作権の内容(1)	著作権や著作隣接権の具体的内容を把握します。	事後：当該回の内容の復習																																																																
10	著作権の内容(2)	同上。	事後：当該回の内容の復習																																																																
11	著作権の制限(1)	著作権等の存続期間(時間的制限)および「私的使用目的複製」「引用」など、著作権が制限される場合を理解し、そのような制度の趣旨や在り方について検討します。	事後：当該回の内容の復習																																																																
12	著作権の制限(2)	同上。	事後：当該回の内容の復習																																																																
13	最新の事例・問題(1)	知的財産法に関する最新の事例や問題点を取り上げ、検討します。	事後：当該回の内容の復習																																																																
14	最新の事例・問題(2)	同上。	事後：当該回の内容の復習																																																																
15	試験、その他	試験により成績評価をします。試験についての詳細は授業にて説明します。	—																																																																
関連科目	<p>民法(特に財産法)、経済法、行政法</p>																																																																		
教科書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>授業内において適宜指示します。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	授業内において適宜指示します。			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	授業内において適宜指示します。																																																																		
2																																																																			
3																																																																			

評価方法 (基準)	最終回に行う試験 100%で評価します。
学生への メッセージ	こうした最先端の分野に関わる法律には、いわゆる「正解」がありません。現在妥当だとされる考え方が 5 年後、10 年後に変わっている可能性さえあるのです。そうしたことを踏まえて、積極的に自分の頭で考えようとする姿勢が何よりも肝要です。
担当者の 研究室等	11 号館 6 階 法学部
備考	担当者は毎回ごとに特定の課題を与えることに特段の意義を見出していません。なぜなら、社会のさまざまな事象と密接に関連するこのような社会科学においては、周囲のあらゆることが学びのきっかけであり、またそれが絶ゆることはなく、すなわちいつでもどこでも予習・復習が必要なのですから。受講生においてもそのつもりで臨んで下さい。



科目名	実践英語上級	科目名(英文)	Practical English for the Advanced
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	後藤 一章
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	本クラスは、TOEICの受験対策に焦点を当て、スコアアップを目指します。そのために、基本的な文法問題、リスニング・リーディング問題を解く基礎を築くことを目標とします。
到達目標	TOEICのスコアを上昇する。 建築学科の学習・教育到達目標：[C]
授業方法と留意点	TOEIC対策テキストを使用します。基礎的な文法事項を確認しながら、語彙力も同時に養っていきます。また、毎回小テストを行います。テストで達成度を確認することにより、全般的な英語力のアップにもつながります。
科目学習の効果(資格)	英文読解能力と文法知識に基づくコミュニケーション能力の向上 TOEICの実力向上

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	ガイダンス(授業の内容、進め方、評価基準について)	
2	Vocabulary	小テスト 語彙・文法・リスニング・リーディング学習 Unit 1	予習・小テストの準備 単語学習範囲：1-76
3	Idioms	小テスト 語彙・文法・リスニング・リーディング学習 Unit 2	予習・小テストの準備 単語学習範囲：77-152
4	Grammar	小テスト 語彙・文法・リスニング・リーディング学習 Unit 3	予習・小テストの準備 単語学習範囲：153-228
5	Mixed	小テスト 語彙・文法・リスニング・リーディング学習 Unit 4	予習・小テストの準備 単語学習範囲：229-304
6	Vocabulary	小テスト 語彙・文法・リスニング・リーディング学習 Unit 5	予習・小テストの準備 単語学習範囲：305-380
7	Idioms	小テスト 語彙・文法・リスニング・リーディング学習 Unit 6	予習・小テストの準備 単語学習範囲：381-456
8	Grammar	小テスト 語彙・文法・リスニング・リーディング学習 Unit 7	予習・小テストの準備 単語学習範囲：457-523
9	Mixed	小テスト 語彙・文法・リスニング・リーディング学習 Unit 8	予習・小テストの準備 単語学習範囲：524-602
10	Reading Comprehension	小テスト 語彙・文法・リスニング・リーディング学習 Unit 9	予習・小テストの準備 単語学習範囲：603-680
11	Reading Comprehension	小テスト 語彙・文法・リスニング・リーディング学習 Unit 10	予習・小テストの準備 単語学習範囲：681-753
12	Reading Comprehension	小テスト 語彙・文法・リスニング・リーディング学習 Unit 11	予習・小テストの準備 単語学習範囲：754-830
13	Reading Comprehension	小テスト 語彙・文法・リスニング・リーディング学習 Unit 12	予習・小テストの準備 単語学習範囲：831-916
14	Reading Comprehension	小テスト 語彙・文法・リスニング・リーディング学習 Unit 13	予習・小テストの準備 単語学習範囲：1-458
15	総復習	小テスト 語彙・文法・リスニング・リーディング学習 Unit 14	予習・小テストの準備 単語学習範囲：459-916

関連科目	他の英語科目全般			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Reach Your Target for the TOEIC Test Workbook 2	David E. Bramley・河合忠仁	松柏社



	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	期末試験 50%、授業態度 50%の割合で評価する。なお、授業態度とは、授業中の質問に対する回答状況、授業への集中度を指す。			
学生への メッセージ	外国語は自分から学ぶ姿勢が重要です。毎回の予習・復習をしっかりと行ってください。また、eラーニング教材を有効に活用してください。間違えることを恐れず、積極的に授業に参加してくれることを期待しています。			
担当者の 研究室等	7号館 5階 後藤研究室			
備考	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。			

科目名	実践英語初級	科目名(英文)	Practical English for Beginners
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	谷脇 康子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	TOEIC 対策教材を演習することによって TOEIC のリスニング問題形式に慣れること。 最新のニュース記事を取り扱った文献を読み、TOEIC の読解問題に対応する語彙・文法・読解力を身につけること。
到達目標	TOEIC で 400 点以上得点できるようになること。 建築学科の学習・教育到達目標との対応：[C] 電気電子工学科の学習・教育到達目標との対応：[F]
授業方法と留意点	毎回、最初に単語テストを行う。その後、TOEIC 対策のテキストと担当者作成による補充プリントをとおして演習形式で進めていく。授業の最後に確認テストを行い理解度を診断する。
科目学習の効果(資格)	TOEIC のスコアアップ

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	新入社員	リスニング演習 作業用紙による読解演習	授業内容の復習 確認テスト
2	メモを送る	単語テスト 1 リスニング演習 作業用紙による読解演習	単語学習範囲：1001-1017 授業内容の復習 確認テスト
3	上映中映画	単語テスト 2 リスニング演習 作業用紙による読解演習	単語学習範囲：1018-1039 授業内容の復習 確認テスト
4	仕事から逃れて	単語テスト 3 リスニング演習 作業用紙による読解演習	単語学習範囲：1040-1063 授業内容の復習 確認テスト
5	銀行 ATM にて	単語テスト 4 リスニング演習 作業用紙による読解演習	単語学習範囲：1064-1089 授業内容の復習 確認テスト
6	郵便・宅急便	単語テスト 5 リスニング演習 作業用紙による読解演習	単語学習範囲：1090-1112 授業内容の復習 確認テスト
7	歩きながらの食事	単語テスト 6 リスニング演習 作業用紙による読解演習	単語学習範囲：1113-1137 授業内容の復習 確認テスト
8	1回～7回授業の総復習 中間テスト	1回～7回授業内容についての質問と回答	1回～7回の授業内容について質問をまとめておく。 中間テストのための事前勉強
9	お祝いしよう！	単語テスト 8 リスニング演習 作業用紙による読解演習	単語学習範囲：1138-1161 授業内容の復習 確認テスト
10	定期健診	単語テスト 9 リスニング演習 作業用紙による読解演習	単語学習範囲：1162-1176 授業内容の復習 確認テスト
11	健康維持	単語テスト 10 リスニング演習 作業用紙による読解演習	単語学習範囲：1177-1200 授業内容の復習 確認テスト
12	不調	リスニング演習 作業用紙による読解演習	授業内容の復習 確認テスト
13	停電	リスニング演習 作業用紙による読解演習	授業内容の復習 確認テスト
14	フライトの時間は？	リスニング演習 作業用紙による読解演習	授業内容の復習 確認テスト
15	市内観光	リスニング演習 作業用紙による読解演習	授業内容の復習 確認テスト

関連科目	他の英語科目
------	--------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷恒志	成美堂
2	Basic Listening for the TOEIC Test	Shari J. Berman/Alice Bratton /早坂信/岡田聡宏	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	共通試験 30%(TOEICブリッジ 20%、単語試験 10%)、定期試験 50%、小テスト 10%、授業確認テスト 10%の割合で、総合的に評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	授業はリズムカルにテンポよく進めます。集中力をきらさず一生懸命ついてきてください。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。
----	------------------------



科目名	実践英語初級	科目名(英文)	Practical English for Beginners
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大江 麻里子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	TOEIC(Bridge) の受験対策講座に特化して、前期末の TOEIC(Bridge) のスコアアップを目指す。また、毎回単語テストをする。
到達目標	まずは TOEIC の問題形式に慣れ、どういふふうにすれば得点が伸びるかのコツを説明しながら、効果的に学習していく。 建築学科の学習・教育到達目標：[C] 電気電子工学科の学習・教育到達目標との対応：[F]
授業方法と留意点	文法事項を確認しながら、それに即した TOEIC 形式の問題を解いていく。予習は不可欠であり、また辞書を携帯して、即座に英単語を調べられるように準備しておくこと。
科目学習の効果(資格)	TOEIC のスコアアップ

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	テキストの進め方、評価方法などについて詳しく説明する。	特になし。
2	Unit 1、2	テキストの解説を読みながら、問題に取り組む 単語テスト (1001-1017)	テキストの予習 単語テストの準備
3	Unit 3、4	テキストの解説を読みながら、問題に取り組む 単語テスト (1018-1034)	テキストの予習 単語テストの準備
4	Unit 5、6	テキストの解説を読みながら、問題に取り組む 単語テスト (1035-1051)	テキストの予習 単語テストの準備
5	Unit 7、8	テキストの解説を読みながら、問題に取り組む 単語テスト (1052-1068)	テキストの予習 単語テストの準備
6	Unit 9、10	テキストの解説を読みながら、問題に取り組む 単語テスト (1069-1085)	テキストの予習 単語テストの準備
7	Unit 11、12	テキストの解説を読みながら、問題に取り組む 単語テスト (1086-1102)	テキストの予習 単語テストの準備
8	Unit 13、14	テキストの解説を読みながら、問題に取り組む 単語テスト (1103-1119)	テキストの予習 単語テストの準備
9	Unit 15、16	テキストの解説を読みながら、問題に取り組む 単語テスト (1120-1136)	テキストの予習 単語テストの準備
10	Unit 17、18	テキストの解説を読みながら、問題に取り組む 単語テスト (1137-1153)	テキストの予習 単語テストの準備
11	Unit 19、20	テキストの解説を読みながら、問題に取り組む 単語テスト (1154-1170)	テキストの予習 単語テストの準備
12	Unit 21、22	テキストの解説を読みながら、問題に取り組む 単語テスト (1171-1187)	テキストの予習 単語テストの準備
13	Unit 23、24	テキストの解説を読みながら、問題に取り組む 単語テスト (1188-1200)	テキストの予習 単語テストの準備
14	TOEIC 模擬試験	テキストを学習することで、どの程度、英語力が強化されたかを確認する。	これまでにやったテキストを見直しておく。
15	総復習	定期試験の内容の説明、勉強法について説明する。	疑問点や質問事項をまとめておく。

関連科目	他の英語関連科目
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	学校語彙で学ぶ TOEIC テスト Book1	吉塚弘	成美堂
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	TOEIC (20%)、統一英単語テスト (10%)、および定期試験の成績と授業態度 (70%) を総合して評価する。なお、授業態度とは、授業中の質問に対する回答状況、授業への集中度を指す。
学生へのメッセージ	TOEIC の得点をあげるためには、地道で継続的な学習が必要である。できるだけ授業を休まずに出席すること。辞書を毎回持ってくること。
担当者の	7号館2階(非常勤講師室)

研究室等	
備考	授業計画は進度によって多少変更する場合がある。また、英単語は、毎日、平均30分は学習すること。



科目名	実践英語初級	科目名(英文)	Practical English for Beginners
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	C
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	栢木 敦子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	TOEICブリッジおよびTOEIC対策の練習問題に数多く取り組み、頻出する重要な構文や表現、文法のポイント、リスニングのコツなどを学ぶ。
到達目標	TOEICブリッジで高得点を獲得するだけでなく、TOEICでも役立つ基礎的な英語力と知識を習得する。 建築学科の学習・教育到達目標：[C] 電気電子工学科の学習・教育到達目標との対応：[F]
授業方法と留意点	共通テキストの単語集から毎回単語テストを行う。 文法事項の解説と演習を行う。 重要な構文や表現を学ぶ。 TOEICブリッジとTOEIC対策の練習問題に取り組む。
科目学習の効果(資格)	TOEICブリッジのスコアアップに必要な英語力を習得する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	予習の仕方や授業の進め方、評価方法などを説明。	単語範囲：1001-1020
2	Unit 1 Eating Out be 動詞	・単語テスト ・語彙問題 ・リスニング・セクション 写真描写問題、応答問題 会話・説明文問題 ・リーディング・セクション 文法事項の確認と練習問題 読解問題	単語範囲：1021 - 1040 復習
3	Unit 2 Travel 一般動詞	・単語テスト ・語彙問題 ・リスニング・セクション 写真描写問題、応答問題 会話・説明文問題 ・リーディング・セクション 文法事項の確認と練習問題 読解問題	単語範囲：1041-1060 復習
4	Unit 3 Amusement 品詞	・単語テスト ・語彙問題 ・リスニング・セクション 写真描写問題、応答問題 会話・説明文問題 ・リーディング・セクション 文法事項の確認と練習問題 読解問題	単語範囲：1061 - 1080 復習
5	Unit 4 Meetings 自動詞・他動詞	・単語テスト ・語彙問題 ・リスニング・セクション 写真描写問題、応答問題 会話・説明文問題 ・リーディング・セクション 文法事項の確認と練習問題 読解問題	単語範囲：1081 - 1100 復習
6	Unit 5 Personnel 受動態	・単語テスト ・語彙問題 ・リスニング・セクション 写真描写問題、応答問題 会話・説明文問題 ・リーディング・セクション 文法事項の確認と練習問題 読解問題	単語範囲：1101 - 1120 復習
7	Unit 6 Shopping 代名詞	・単語テスト ・語彙問題 ・リスニング・セクション 写真描写問題、応答問題 会話・説明文問題 ・リーディング・セクション 文法事項の確認と練習問題 読解問題	単語範囲：1121 - 1140 復習
8	Unit 7 Advertisement 教えられる名詞、教えられない名詞	・単語テスト ・語彙問題 ・リスニング・セクション 写真描写問題、応答問題 会話・説明文問題 ・リーディング・セクション 文法事項の確認と練習問題 短文穴埋め問題 長文穴埋め問題 読解問題	単語範囲：1141 - 1160 復習
9	Unit 8 Daily Life	・単語テスト	単語範囲：1161 - 1180

	数量詞	<ul style="list-style-type: none"> <li>・語彙問題</li> <li>・リスニング・セクション 写真描写問題、応答問題 会話・説明文問題</li> <li>・リーディング・セクション 文法事項の確認と練習問題 短文穴埋め問題 長文穴埋め問題 読解問題</li> </ul>	復習
10	Unit 9 Office Work To不定詞	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単語テスト</li> <li>・語彙問題</li> <li>・リスニング・セクション 写真描写問題、応答問題 会話・説明文問題</li> <li>・リーディング・セクション 文法事項の確認と練習問題 短文穴埋め問題 長文穴埋め問題 読解問題</li> </ul>	単語範囲: : 1181 - 1200 復習
11	Unit 10 Business 動名詞	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単語テスト</li> <li>・語彙問題</li> <li>・リスニング・セクション 写真描写問題、応答問題 会話・説明文問題</li> <li>・リーディング・セクション 文法事項の確認と練習問題 短文穴埋め問題 長文穴埋め問題 読解問題</li> </ul>	語彙テスト Unit 1 - Unit 4 復習
12	Unit 11 Traffic 助動詞	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単語テスト</li> <li>・語彙問題</li> <li>・リスニング・セクション 写真描写問題、応答問題 会話・説明文問題</li> <li>・リーディング・セクション 文法事項の確認と練習問題 短文穴埋め問題 長文穴埋め問題 読解問題</li> </ul>	語彙テスト Unit 5- Unit 8 復習
13	Unit 12 Finance and Banking 前置詞	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単語テスト</li> <li>・語彙問題</li> <li>・リスニング・セクション 写真描写問題、応答問題 会話・説明文問題</li> <li>・リーディング・セクション 文法事項の確認と練習問題 短文穴埋め問題 長文穴埋め問題 読解問題</li> </ul>	語彙テスト Unit 9 - Unit 12 復習
14	Unit 13 Media 接続詞	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単語テスト</li> <li>・語彙問題</li> <li>・リスニング・セクション 写真描写問題、応答問題 会話・説明文問題</li> <li>・リーディング・セクション 文法事項の確認と練習問題 短文穴埋め問題 長文穴埋め問題 読解問題</li> </ul>	語彙テスト Unit 13 - Unit 14 復習
15	Unit 14 Health and Welfare 比較	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単語テスト</li> <li>・語彙問題</li> <li>・リスニング・セクション 写真描写問題、応答問題 会話・説明文問題</li> <li>・リーディング・セクション 文法事項の確認と練習問題 短文穴埋め問題 長文穴埋め問題 読解問題</li> </ul>	総復習

関連科目

他の英語関連科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Crossing the TOEIC Bridge	林姿穂ほか	朝日出版社
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	共通試験＝30％(TOEICブリッジ20％、単語試験10％) 授業態度(発表、小テスト、提出物など)＋単語テスト＝20％ 中間テスト＋定期試験＝50％ 出席は成績評価の対象外とする。 4回以上の欠席は失格とする。
学生への メッセージ	e-learning 教材を使用し、音声機器を使った学習を毎回平均1時間以上は学習すること。 TOEIC受験を勧める。 1回目の授業で予習の仕方や単語テスト範囲、授業の進め方などを説明するので、履修を考えている人は出席してください。
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	事前事後学習には毎回1時間以上かけること。 特に中間テストと期末テストの前には3時間以上、復習には2時間以上かけること。



科目名	実践英語初級	科目名(英文)	Practical English for Beginners
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	D
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田村 康子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	この授業では、TOEIC300-400点レベルの基礎的な英語力を養うことを目標に、テキストに沿って練習問題をこなしていく。TOEIC関連の基本的な語彙や表現を覚え、E-mail、ビジネス文書などを取り上げた簡単な読解問題に親しんでもらう。また、各ユニットで説明されている英語表現を習得する。テキストに沿って聞き取りを行い、リスニング力も養成する。練習問題をたくさんこなしてTOEICの点数アップを狙う。
到達目標	受講者が、TOEICの出題形式に慣れ、授業のみならず、自主的にTOEICの受験勉強をすすめ、最終的には50~100点程度スコアを上げることが目標である。 建築学科の学習・教育到達目標：[C] 電気電子工学科の学習・教育到達目標：[F]
授業方法と留意点	毎週、単語の副読本から単語テストを行う。また、テキストに沿って、TOEICのリスニング、リーディング対策を行っていく。
科目学習の効果(資格)	語彙力の強化及びTOEICのスコアアップ。リスニング、リーディング力の向上。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Unit 1: 旅行①	リスニング・リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。単語帳
	2	Unit 2: オフィス①	リスニング・リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。単語テスト#1001-1020
	3	Unit 3: レストラン	リスニング・リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。単語テスト#1021-1040&#1000-1037
	4	Unit 4: 季節・天気	リスニング・リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。単語テスト#1041-1060
	5	Unit 5: 健康	リスニング・リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。単語テスト#1061-1080&#1038-1079
	6	いろいろな英語の発音に慣れよう①	リスニング・リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。単語テスト#1081-1100
	7	Unit 6: 旅行②	リスニング・リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。単語テスト#1101-1120
	8	臨時テストまとめ	臨時テスト リスニング・リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。単語テスト#1121-1140&#1080-1121
	9	Unit 7: 休暇	リスニング・リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。単語テスト#1141-1160
	10	Unit 8: オフィス②	リスニング・リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。単語テスト#1161-1180&#1122-1176
	11	Unit 9: ショッピング	リスニング・リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。単語テスト#1181-1200
	12	Unit 10: 就職活動	リスニング・リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。
	13	いろいろな英語の発音に慣れよう②	リスニング・リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。
	14	Unit 11: 娯楽	リスニング・リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。
	15	Unit 12: 旅行③	リスニング・リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	The TOEIC Test CIRCUIT 語彙から始めるTheTOEIC Test 総合演習	鶴岡公幸, Matthew Wilson	松柏社
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	共通試験 30% (TOEIC 20%、統一英語単語テスト10%)、 臨時テスト20%、 定期テスト30%、 授業態度20%(授業中の質問に対する回答状況、授業への集中度、授業中に行う単語テストの結果を総合的に判断する)
学生へのメッセージ	毎回の授業に必ず出席し、授業内容を復習すること。 単語力を増強するためe-learningに積極的に取り組むこと。 さらに、TOEICを受験することを勧める。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回授業開始時に、単語テストを行います。 単語帳#1001-1200 事前事後学習には、毎回一時間以上かけて下さい。 自習学習には、期末試験の準備を含めて、合計20時間以上はかけて下さい。 英単語はe-learningを含めて、毎日、平均一時間以上は学習すること。

教養科目

科目名	実践英語初級	科目名 (英文)	Practical English for Beginners
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	E
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	高橋 章夫
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	2冊の教科書 (TOEIC 対策のテキスト、単語集) を用い、TOEIC/TOEICブリッジでのスコアアップにつながる総合的な英語力を向上させる。																																																																		
到達目標	語彙力を増やすとともに、TOEIC/TOEICブリッジの試験に慣れ、スコアを上げるために必要な力をつけることを到達目標とする。 建築学科の学習・教育到達目標：[C] 電気電子工学科の学習・教育到達目標：[F]																																																																		
授業方法と留意点	毎回、最初に単語テストを行います。その後、TOEIC 対策のテキストの解答と解説を中心に演習形式で進めていく。単語テストに関しては、E-Learning (リングポルタ) を活用し、必ず予習をしてきてください。また、単語テストには前回の授業内容の復習問題も加えますので、しっかり復習してください。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	TOEICブリッジ、および TOEIC テストのスコアアップ																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>イントロダクション</td> <td>授業および TOEIC テストの説明、模擬テスト</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Unit 1 Shopping</td> <td>動詞 単語テスト 1</td> <td>単語学習範囲：1001-1020 教科書の予習、復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Unit 2 Daily Life</td> <td>名詞 単語テスト 2</td> <td>単語学習範囲：1021-1040 教科書の予習、復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Unit 3 Transportation</td> <td>代名詞 単語テスト 3</td> <td>単語学習範囲：1041-1060 教科書の予習、復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Unit 4 Jobs</td> <td>形容詞と副詞 単語テスト 4</td> <td>単語学習範囲：1061-1080 教科書の予習、復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Unit 5 Meals</td> <td>時制 単語テスト 5</td> <td>単語学習範囲：1081-1100 教科書の予習、復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Unit 6 Communication</td> <td>受動態・分詞 単語テスト 6</td> <td>単語学習範囲：1101-1120 教科書の予習、復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>まとめ 1</td> <td>Unit 1-6 の復習、模擬テスト 単語テスト 7</td> <td>単語学習範囲：1121-1140 教科書の予習、復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Unit 7 Fun</td> <td>動名詞と不定詞 単語テスト 8</td> <td>単語学習範囲：1141-1160 教科書の予習、復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Unit 8 Office Work</td> <td>助動詞 単語テスト 9</td> <td>単語学習範囲：1161-1180 教科書の予習、復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Unit 9 Meeting</td> <td>比較 単語テスト 10</td> <td>単語学習範囲：1181-1200 教科書の予習、復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Unit 10 Travel</td> <td>前置詞 単語テスト 11</td> <td>単語学習範囲：1201-1200 教科書の予習、復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Unit 11 Finance</td> <td>接続詞</td> <td>教科書の予習、復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>Unit 12 Business</td> <td>関係詞</td> <td>教科書の予習、復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ 2</td> <td>Unit 7-12 の復習、模擬テスト</td> <td>教科書の予習、復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	授業および TOEIC テストの説明、模擬テスト	なし	2	Unit 1 Shopping	動詞 単語テスト 1	単語学習範囲：1001-1020 教科書の予習、復習	3	Unit 2 Daily Life	名詞 単語テスト 2	単語学習範囲：1021-1040 教科書の予習、復習	4	Unit 3 Transportation	代名詞 単語テスト 3	単語学習範囲：1041-1060 教科書の予習、復習	5	Unit 4 Jobs	形容詞と副詞 単語テスト 4	単語学習範囲：1061-1080 教科書の予習、復習	6	Unit 5 Meals	時制 単語テスト 5	単語学習範囲：1081-1100 教科書の予習、復習	7	Unit 6 Communication	受動態・分詞 単語テスト 6	単語学習範囲：1101-1120 教科書の予習、復習	8	まとめ 1	Unit 1-6 の復習、模擬テスト 単語テスト 7	単語学習範囲：1121-1140 教科書の予習、復習	9	Unit 7 Fun	動名詞と不定詞 単語テスト 8	単語学習範囲：1141-1160 教科書の予習、復習	10	Unit 8 Office Work	助動詞 単語テスト 9	単語学習範囲：1161-1180 教科書の予習、復習	11	Unit 9 Meeting	比較 単語テスト 10	単語学習範囲：1181-1200 教科書の予習、復習	12	Unit 10 Travel	前置詞 単語テスト 11	単語学習範囲：1201-1200 教科書の予習、復習	13	Unit 11 Finance	接続詞	教科書の予習、復習	14	Unit 12 Business	関係詞	教科書の予習、復習	15	まとめ 2	Unit 7-12 の復習、模擬テスト	教科書の予習、復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション	授業および TOEIC テストの説明、模擬テスト	なし																																																																
2	Unit 1 Shopping	動詞 単語テスト 1	単語学習範囲：1001-1020 教科書の予習、復習																																																																
3	Unit 2 Daily Life	名詞 単語テスト 2	単語学習範囲：1021-1040 教科書の予習、復習																																																																
4	Unit 3 Transportation	代名詞 単語テスト 3	単語学習範囲：1041-1060 教科書の予習、復習																																																																
5	Unit 4 Jobs	形容詞と副詞 単語テスト 4	単語学習範囲：1061-1080 教科書の予習、復習																																																																
6	Unit 5 Meals	時制 単語テスト 5	単語学習範囲：1081-1100 教科書の予習、復習																																																																
7	Unit 6 Communication	受動態・分詞 単語テスト 6	単語学習範囲：1101-1120 教科書の予習、復習																																																																
8	まとめ 1	Unit 1-6 の復習、模擬テスト 単語テスト 7	単語学習範囲：1121-1140 教科書の予習、復習																																																																
9	Unit 7 Fun	動名詞と不定詞 単語テスト 8	単語学習範囲：1141-1160 教科書の予習、復習																																																																
10	Unit 8 Office Work	助動詞 単語テスト 9	単語学習範囲：1161-1180 教科書の予習、復習																																																																
11	Unit 9 Meeting	比較 単語テスト 10	単語学習範囲：1181-1200 教科書の予習、復習																																																																
12	Unit 10 Travel	前置詞 単語テスト 11	単語学習範囲：1201-1200 教科書の予習、復習																																																																
13	Unit 11 Finance	接続詞	教科書の予習、復習																																																																
14	Unit 12 Business	関係詞	教科書の予習、復習																																																																
15	まとめ 2	Unit 7-12 の復習、模擬テスト	教科書の予習、復習																																																																
関連科目	他の英語科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>First Time Trainer for the TOEIC Test</td> <td>妻鳥千鶴子</td> <td>Cengage Learning</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test</td> <td>西谷恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Time Trainer for the TOEIC Test	妻鳥千鶴子	Cengage Learning	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷恒志	成美堂	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	First Time Trainer for the TOEIC Test	妻鳥千鶴子	Cengage Learning																																																																
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷恒志	成美堂																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	原則として、出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。 共通試験 30%(TOEIC ブリッジ 20%、単語試験 10%)、定期試験 30%、小テスト 30%、授業中に取り込む課題 5%、リングポルタ 5%の割合で、総合的に評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	e-learning の活用、学内 TOEIC テストの受験などを通し、積極的に英語に触れる機会を増やしていきましょう。																																																																		
担当者の研究室等	7号館 2階 (非常勤講師室)																																																																		
備考	事前事後学習には、e-learning での単語学習を含めて毎回 1時間以上かけること。																																																																		

科目名	実践英語中級	科目名(英文)	Practical English for Intermediates
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中野 華子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	この授業では、文法に関する知識、語彙力、読解力など広く総合英語力の底上げを行い、TOEICの点数アップのみならず、英語を用いて情報を得られる力をつける。
到達目標	建築学科の学習・教育到達目標との対応：[C] 電気電子工学科の学習・教育到達目標との対応：[F]
授業方法と留意点	教科書は2冊あり、1冊は理系向けリーディング教材（Gateway to Science）を、もう1冊は単語集（TOEIC 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test）を使用する。各回の授業の冒頭では単語集を使用した単語テストを行う。また数回 TOEIC ミニテストを行い、TOEIC IP テストに備える。授業には辞書も持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC テストでのスコアアップ。総合英語力の向上。

教養科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、単語テスト	オリエンテーション、単語テスト（番号1201-1220）	事後学習・・・単語集の番号1221-1240を覚える。
2	単語テスト、Topic1-4	単語テスト（番号1221-1240）、本文読解	事前学習・・・単語集の番号1221-1240を覚える。 Topic1-4の予習。 事後学習・・・Topic1-4の復習
3	単語テスト、Topic2-8	単語テスト（番号1241-1260）、本文読解	事前学習・・・単語集の番号1241-1260を覚える。 Topic2-8の予習。 事後学習・・・Topic2-8の復習
4	単語テスト、TOEIC ミニテスト、Topic 9-10	単語テスト（番号1261-1280）、本文読解	事前学習・・・単語集の番号1261-1280を覚える。 Topic 9-10の予習。 事後学習・・・Topic 9-10の復習
5	単語テスト、Topic11-14	単語テスト（番号1281-1300）、本文読解	事前学習・・・単語集の番号1281-1300を覚える。 Topic11-14の予習。 事後学習・・・Topic11-14の復習
6	単語テスト、Topic15-18	単語テスト（番号1301-1320）、本文読解	事前学習・・・単語集の番号1301-1320を覚える。 Topic15-18の予習。 事後学習・・・Topic15-18の復習
7	単語テスト、Topic19-22	単語テスト（番号1321-1340）、本文読解	事前学習・・・単語集の番号1321-1340を覚える。 Topic19-22の予習。 事後学習・・・Topic19-22の復習
8	中間試験、総括	単語テスト（番号1341-1360）、試験と振り返り	事前学習・・・Topic1-22の復習
9	単語テスト、Topic23-26	単語テスト（番号1361-1380）、本文読解	事前学習・・・単語集の番号1361-1380を覚える。 Topic23-26の予習。 事後学習・・・Topic23-26の復習
10	単語テスト、Topic27-30	単語テスト（番号1381-1400）、本文読解	事前学習・・・単語集の番号1381-1400を覚える。 Topic27-30の予習。 事後学習・・・Topic27-30の復習
11	単語テスト、Topic31-34	単語テスト（番号1401-1420）、本文読解	事前学習・・・単語集の番号1401-1420を覚える。 Topic31-34の予習。 事後学習・・・Topic31-34の復習
12	単語テスト、TOEIC ミニテスト、Topic35-36	単語テスト（番号1421-1440）、本文読解	事前学習・・・単語集の番号1421-1440を覚える。 Topic35-36の予習。 事後学習・・・Topic35-36の復習
13	単語テスト、Topic37-40	単語テスト（番号1441-1460）、本文読解	事前学習・・・単語集の番号1441-1460を覚える。 Topic37-40の予習。 事後学習・・・Topic37-40の復習
14	単語テスト、Topic41-44	単語テスト（番号1461-1480）、本文読解	事前学習・・・単語集の番号1461-1480を覚える。 Topic41-44の予習。 事後学習・・・Topic41-44の復習
15	単語テスト、Topic45-48	単語テスト（番号1481-1500）、本文読解	事前学習・・・単語集の番号1481-1500を覚える。 Topic45-48の予習。 事後学習・・・Topic45-48の復習

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Gateway to Science from Yahoo! Ask Earl	風早 寛	金星堂
2	The 100 Core Vocabulary for the TOEIC Test		成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法（基準）	統一英語単語テスト・・・20% 単語テスト・・・15% テキスト訳出・・・10% 試験・・・55%
学生への	積極的な授業態度を期待します。

メッセージ	効率的な単語学習のために e ラーニング教材「リンガボルト」や単語帳の音声データを使用することをお薦めします。 また、学内で実施される TOEIC IP 試験を受験して結果を残していきましょう。
担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師室）
備考	事前事後学習を一時間以上して下さい。

科目名	実践英語中級	科目名(英文)	Practical English for Intermediates
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西谷 継治
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

教養科目

授業概要・目的	TOEIC 400点の実力を目指し、文法、読解、語彙など広く英語力の底上げを行う。			
到達目標	建築学科の学習・教育目標との対応：「C」 電気電子工学科の学習・教育目標との対応：「F」			
授業方法と留意点	授業の進め方は毎回指名により学生諸君に発表してもらうのでそのつもりで授業に望んでもらいたい。予習として、必ず本文に目を通し、わからない単語や表現をチェックしておくことが大切である。練習問題には各自必ず答えを出しておくこと。			
科目学習の効果(資格)	理工系英語の基本を固め、専門英語と TOEIC Test の得点アップにつなげる。			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	授業内容の詳しい解説	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	2	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト NO. 1201-1230 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	3	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト NO. 1231-1260 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	4	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト NO. 1261-1290 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	5	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト NO. 1291-1320 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	6	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト NO. 1321-1350 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	7	Review	前半の復習	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	8	前半臨時試験	前半臨時試験	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	9	前半試験返却及び解説	前半試験返却及び解説	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	10	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト NO. 1351-1380 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	11	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト NO. 1381-1410 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	12	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト NO. 1411-1440 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	13	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト NO. 1441-1470 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	14	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト NO. 1471-1500 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	15	Review	後半復習	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
関連科目	TOEIC、英検ほか、英語関連の資格一般			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	New Steps to Success in the TOIC Test Grammar & Reading 450	David E. Bramley/中井弘一	松柏社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	共通試験 20% (単語試験 20%) 定期試験 50% 小テスト 20% 授業態度(発表など) 10% の割合で総合的に評価する。			
学生へのメッセージ	図書館やPC等を利用し日頃から英語に親しんでください。			
担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)			
備考	・・・			

科目名	実践英語中級	科目名(英文)	Practical English for Intermediates
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	C
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中島 直嗣
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	文法、読解、語彙など広く総合英語力の底上げを行い、TOEIC (Bridge) Test にも活かせるような英語スキルの習得を目指す。
到達目標	TOEIC 400 点 (TOEIC Bridge 140 点) 以上の実力を身に付けることを目標とする。 建築学科の学習・教育到達目標：[C] 電気電子工学科の学習・教育到達目標：[F]
授業方法と留意点	・所定のテキストを使って、原則として毎回1章ずつ実践形式で進めていく。 ・毎回、前回の授業内容の確認と、共通単語帳の範囲内の単語テストを合わせた小テストを行う。
科目学習の効果(資格)	TOEIC 400 点 (TOEIC Bridge 140 点) 以上を取得する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法などについての説明	教科書の確認(購入)
2	・写真およびQ&A形式のリスニング練習 ・空所補充形式による文法の基礎チェック	小テスト、リスニング、文法、予習内容の確認	小テストの準備(復習) 教科書の予習 単語学習範囲：1201-1230
3	・Q&A形式の短文のリスニング練習 ・空所補充形式による文法の基礎チェック ・広告文の読解練習	小テスト、リスニング、文法、読解、予習内容の確認	小テストの準備(復習) 教科書の予習 単語学習範囲：1231-1260
4	・写真および会話形式のリスニング練習 ・空所補充形式による文法の基礎チェック	小テスト、リスニング、文法、予習内容の確認	小テストの準備(復習) 教科書の予習 単語学習範囲：1261-1290
5	・単語の品詞の見分け方 ・Q&A形式のリスニング練習 ・空所補充形式による文法の基礎チェック ・アンケート文書の読解練習	小テスト、リスニング、文法・品詞、読解、予習内容の確認	小テストの準備(復習) 教科書の予習 単語学習範囲：1291-1320
6	・長文に出てくる構文分析 ・写真および会話形式のリスニング練習 ・空所補充形式による文法の基礎チェック	小テスト、リスニング、文法、読解、予習内容の確認	小テストの準備(復習) 教科書の予習 単語学習範囲：1321-1350
7	・写真およびQ&A形式のリスニング練習 ・空所補充形式による文法の基礎チェック ・通知文の読解練習	小テスト、リスニング、文法、読解、予習内容の確認	小テストの準備(復習) 教科書の予習 単語学習範囲：1351-1380
8	・写真、Q&A、会話形式のリスニング練習 ・空所補充形式による文法の基礎チェック	小テスト、リスニング、文法、予習内容の確認	小テストの準備(復習) 教科書の予習 単語学習範囲：1381-1410
9	・Q&Aおよび会話形式のリスニング練習 ・空所補充形式による文法の基礎チェック ・広告文の読解練習	小テスト、リスニング、文法、読解、予習内容の確認	小テストの準備(復習) 教科書の予習 単語学習範囲：1411-1440
10	・写真および会話形式のリスニング練習 ・空所補充形式による文法の基礎チェック	小テスト、リスニング、文法、予習内容の確認	小テストの準備(復習) 教科書の予習 単語学習範囲：1441-1470
11	・図表の英語表現と読解 ・Q&A形式のリスニング練習 ・空所補充形式による文法の基礎チェック	小テスト、リスニング、文法、読解、予習内容の確認	小テストの準備(復習) 教科書の予習 単語学習範囲：1471-1500
12	・写真および会話形式のリスニング練習 ・空所補充形式による文法の基礎チェック	小テスト、リスニング、文法、予習内容の確認	小テストの準備(復習) 教科書の予習
13	・Q&A形式のリスニング練習 ・空所補充形式による文法の基礎チェック ・申請書の読解練習	小テスト、リスニング、文法、読解、予習内容の確認	小テストの準備(復習) 教科書の予習
14	・写真および会話形式のリスニング練習 ・空所補充形式による文法の基礎チェック	小テスト、リスニング、文法、予習内容の確認	小テストの準備(復習) 教科書の予習
15	・英語の接尾辞の機能について ・Q&A形式のリスニング練習	小テスト、リスニング、文法・接尾辞、読解	定期試験対策としての総復習

教養科目

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空所補充形式による文法の基礎チェック</li> <li>・手紙文の読解練習</li> </ul>		
関連科目	その他の英語科目全般		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	Intermediate Course for the TOEIC Test (松柏社)	
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test (成美堂)	
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	共通試験30% (TOEIC Bridge 20%、統一単語テスト10%)、定期試験40%、小テスト20%、授業態度10%の割合で総合的に評価する。		
学生への メッセージ	学内で実施される TOEIC (IP) の受験、単語帳に付随する e ラーニング教材の活用を強く勧めます。		
担当者の 研究室等	7号館4階		
備考	1) 事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。 2) 英単語は e ラーニングを含めて、毎日、平均30分以上は学習すること。		



科目名	実践英語中級	科目名(英文)	Practical English for Intermediates
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	D
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松浦 茂寿
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	今までに学んできた基本文法知識を確認し、皆さんが受ける TOEIC 受験に必要な解法テクニック、特に普段の努力を積み重ねれば必ず伸びる文法力及び読解力の更なる向上を目標とする。又、授業に平行してテスト受験に欠かせない語彙力向上も目指す。また、授業計画は進度によって変わる場合がある。
到達目標	「文法ルール及び語彙、毎日ちょっと覚えよう！」文法問題が解けるようになるには、1つでも多くの文法ルールを覚え、問題文にどの文法文法ルールが使われているか見抜くのが早道であり、毎日少しずつの努力が大きな結果につながる。単語と同じく、根気よく繰り返し覚え、1つでも多くの問題が解けるように頑張ろう。  建築学科の学習・教育目標との対応：[C] 電気電子工学科の学習・教育目標との対応：[F]
授業方法と留意点	毎週、授業時に単語帳から単語テストを行う予定。今まで習ってきた語彙や文法知識を駆使し、一つでも多くの問題が解けることを望む。予習として次に進む分の練習問題を解いて授業に臨もう。特に4択問題は今まで習った知識を駆使し、「この選択肢はこう間違っているから違う」と分かる様になればしめたもの。授業で出てきた新しい単語や学んだ内容をくり返して覚えるのが上達への早道です！
科目学習の効果(資格)	TOEIC 受験に必要な基本的事項の復習及び知識の養成。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業方法、提出物、評価方法についての説明	次回の第一回単語テスト範囲、1201～1225 番を勉強する事。
2	UNIT 1 WEATHER AND NATURAL DISASTERS (天気、災害)	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p. 1-6、次回の第二回単語テスト範囲、1226～1250 番を勉強する事。
3	UNIT 2 LEISURE ACTIVITIES (レジャー・趣味)	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p. 7-11、次回の第三回単語テスト範囲、1251～1275 番を勉強する事。
4	UNIT 3 STUDENT LIFE (学生生活)	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p. 12-16、次回の第四回単語テスト範囲、1276～1300 番を勉強する事。
5	UNIT 4 HEALTH (健康)	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p. 17-21、次回の第五回単語テスト範囲、1301～1325 番を勉強する事。
6	UNIT 5 COMPUTERS コンピューター	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p. 22-26、次回の第六回単語テスト範囲、1326～1350 番を勉強する事。
7	UNIT 6 FINDING A JOB 就職	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p. 27-31、次回の第七回単語テスト範囲、1351～1375 番を勉強する事。
8	UNIT 7 EXERCISE AND SPORTS 運動・スポーツ	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p. 32-36、次回の第八回単語テスト範囲、1376～1400 番を勉強する事。
9	UNIT 8 HOUSES AND HOUSEWORK (住居・家事)	文法、語彙の問題演習、答え合わせ	教科書 p. 37-41、次回の第九回単語テスト範囲、1401～1425 番を勉強する事。
10	UNIT 9 POLITICS AND ECONOMICS (政治・経済)	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p. 42-46、次回の第十回単語テスト範囲、1426～1450 番を勉強する事。
11	UNIT 10 PARTIES (パーティー)	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p. 47-51、次回の第十一回単語テスト範囲、1451～1475 番を勉強する事。
12	UNIT 11 FOOD AND DRINK (食事)	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p. 52-56、次回の第十二回単語テスト範囲、1476～1500 番を勉強する事。
13	UNIT 12 TRAVEL AND TRANSPORT (旅行・交通)	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p. 57-61、次回の第十三回単語テスト範囲(j 範囲は追って指示します)を勉強する事。
14	UNIT 13 AT THE OFFICE (オフィス)	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p. 62-66、次回の第十四回単語テスト範囲(j 範囲は追って指示します)を勉強する事。
15	総合復習	試験に向けた復習	教科書など前期範囲一通り

関連科目 なし

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Useful College English 大学英語のための単語・熟語・英文法 TOEIC リーディングの橋渡し	小中秀彦、Bill Benfield	成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 学校語彙で学ぶ TOEIC テスト(単語集)	西谷恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準) 定期試験(50%)、提出物(20%)、単語小テスト(5%)、平常点(授業態度など5%)の合計80%に共通試験20%(統一英語単語テスト20%)を足して総合評価します。統一単語テストを受験しなかった人は評価に大きく影響します。また、日頃の授業態度も重視します。

学生へのメッセージ 「明るく、元気で、感動と発見を与える授業に！」私語をせず、マナーを守り、積極的に参加してクラス全体が一つになる様に、各自協力してもらいたい。折角、授業中に学んだことを暗記したままではすぐに忘れてしまいます。例えば英語で書かれた看板のメッセージ等を見ただけで指示が読めるように授業外で繰り返し学習するのが英語上達への早道です。教える側も学ぶ側も仲良く、楽しく、実りある半期になる事を祈る！

担当者の研究室等 7号館2階非常勤講師室

備考 事前、事後学習には毎回1時間以上取り組み、課題に1回当たり1時間程度かけて仕上げる事。



科目名	実践英語中級	科目名(英文)	Practical English for Intermediates
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	E
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西 美都子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

教養科目

授業概要・目的	前期の入門に引き続いて、TOEICの初級レベルから中級レベルまでの対策を行います。リスニング、リーディング両方の演習を毎回行っていくことによって、TOEICの出題パターンに慣れ、高得点を取れるようにすることが目標です。 最初の授業で次回の子習や単語テスト範囲、授業の進め方を説明するので履修を考えている人は出席すること
到達目標	TOEIC 400点の実力を目指し、文法、読解、語彙など広く英語力の底上げを行う。 建築学科の学習・教育到達目標との対応：[C] 電気電子工学科の学習・教育到達目標：[F]
授業方法と留意点	単語集の中から毎週、単語テストを行います。 リスニングができるようになるためには、音と意味が一致しなければなりません。そのため、毎回音読活動を取り入れます。
科目学習の効果(資格)	TOEICのスコアアップに必要な読解力、語彙力をつける。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	講義の進め方、評価方法などを説明。	単語範囲：1201-1250
2	レストランに関連する表現を理解する。 人称代名詞について学習する。	単語テスト、文法、リスニング演習、音読	単語範囲：1251-1300、復習
3	エンターテイメントに関連する表現を理解する。 不定代名詞と再帰代名詞について学習する。	単語テスト、文法、リスニング演習、音読	単語範囲：1301-1350、復習
4	ビジネスに関連する表現を理解する。 現在・過去の時制について学習する。	単語テスト、文法、リスニング演習、音読	単語範囲：1351-1400、復習
5	オフィスに関連する表現を理解する。 現在完了について学習する。	単語テスト、文法、リスニング演習、音読	単語範囲：1401-1450、復習
6	電話に関連する表現を理解する。 時・期間を表す前置詞について学習する。	単語テスト、文法、リスニング演習、音読	単語範囲：1451-1500、復習
7	手紙とEメールに関連する表現を理解する。 位置・場所を表す前置詞について学習する。	単語テスト、文法、リスニング演習、音読	単語範囲：1201-1500、復習
8	健康に関連する表現を理解する。 数量形容詞について学習する。	単語テスト、文法、リスニング演習、音読	単語範囲：1201-1260、復習
9	銀行と郵便局に関連する表現を理解する。 自動詞と他動詞について学習する。	単語テスト、文法、リスニング演習、音読	単語範囲：1261-1320、復習
10	新製品に関連する表現を理解する。 形容詞/副詞について学習する。	単語テスト、文法、リスニング演習、音読	単語範囲：1321-1380、復習
11	旅行に関連する表現を理解する。 分詞構文について学習する。	単語テスト、文法、リスニング演習、音読	単語範囲：1381-1440、復習
12	求人に関連する表現を理解する。 比較について学習する。	単語テスト、文法、リスニング演習、音読	単語範囲：1441-1500、復習
13	ショッピングに関連する表現を理解する。 受動態について学習する。	単語テスト、文法、リスニング演習、音読	単語範囲：1201-1500、復習
14	教育に関連する表現を理解する。 関係代名詞について学習する。	単語テスト、文法、リスニング演習、音読	復習
15	まとめ	今までの学習内容の総復習	定期試験に向けて勉強

関連科目 すべての英語関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Best Practice for the TOEIC Test - TOEIC テストへの総合アプローチ	吉塚 弘	成美堂
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷恒志	成美堂
	2			
	3			
評価方法 (基準)	共通試験(単語試験) 20% 授業態度+単語テスト+期末試験などの総合評価80% なお、授業態度とは、授業中の質問に対する回答状況、授業への集中度を指す。			
学生への メッセージ	TOEICはある程度のコツさえつかめば点数は伸びます。一緒に点数が伸びるのを実感しましょう。			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考	事後学習には毎回1時間以上かけること。			

科目名	実践英語中級	科目名(英文)	Practical English for Intermediates
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	住吉 誠
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

教養科目

授業概要・目的	将来的に TOEIC600 点以上を目指す意欲のある学生が選択するクラスであり、そのための確固たる英語の土台を作っていく。文法、読解、語彙、聴解などを含めた総合的な英語力の底上げを行う。授業では、TOEIC500 点以上の獲得をめざして演習を中心に行うが、英語の面白さを実感するためにも TOEIC の受験対策だけにならないようにさまざまな活動を行いたい。
到達目標	TOEIC 400 点 (TOEIC Bridge 140 点) 以上の実力をつけることを到達目標とする。 V 科の学習・教育目標との対応：C R 科の学習・教育目標との対応：A A 科の学習・教育到達目標との対応：C M 科の学習・教育到達目標との対応：B2 E 科の学習・教育到達目標との対応：F C 科の学習・教育到達目標との対応：Ⅲ, VI
授業方法と留意点	単語小テスト、授業中の演習、宿題、自学自習などを含めた形で行う。毎回の予習と宿題は必須である。受講者に余裕があれば、時に英語での応答を含めた活動なども取り入れる。また、リングポルタなどを含めた授業時間外での自学自習を促す。
科目学習の効果(資格)	TOEIC

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方などの説明 参加者の英語力をみるための問題演習	予習・宿題・リングポルタ自習 単語小テスト勉強 (pp. 206-211)
2	リスニング能力と英文読解力の育成 Unit 1: Daily Life	日常生活に関する英語表現の修得と理解 単語小テスト (pp. 206-211) 短い英語ニュースの理解	予習復習・宿題・リングポルタ自習 単語小テスト勉強 (pp. 212-217)
3	リスニング能力と英文読解力の育成 Unit 2 Eating out and Leisure Activities	食事に関わる英語表現の修得と理解 単語小テスト (pp. 212-217) 短い英語ニュースの理解	予習復習・宿題・リングポルタ自習 単語小テスト勉強 (pp. 218-223)
4	リスニング能力と英文読解力の育成 Unit 3: Cooking and Purchasing	購買に関わる英語表現の修得と理解 単語小テスト (pp. 218-223) 短い英語ニュースの理解	予習復習・宿題・リングポルタ自習 単語小テスト勉強 (pp. 224-229)
5	リスニング能力と英文読解力の育成 Unit 4: Traffic and Travel	交通に関わる英語表現の修得と理解 単語小テスト (pp. 224-229) 短い英語ニュースの理解	予習復習・宿題・リングポルタ自習 単語小テスト勉強 (pp. 230-235)
6	リスニング能力と英文読解力の育成 Unit 5: Advertising and ICT	広告に関わる英語表現の修得と理解 単語小テスト (pp. 230-235) 短い英語ニュースの理解	予習復習・宿題・リングポルタ自習 単語小テスト勉強 (pp. 236-241)
7	リスニング能力と英文読解力の育成 Unit 6: Production and Logistics	製造のやり取りに関わる英語表現の修得と理解 単語小テスト (pp. 236-241) 短い英語ニュースの理解	予習復習・宿題・リングポルタ自習 単語小テスト勉強 (pp. 242-247)
8	リスニング能力と英文読解力の育成 Unit 7: Business and Economy	ビジネスに関わる英語表現の修得と理解 単語小テスト (pp. 242-247) 短い英語ニュースの理解	予習復習・宿題・リングポルタ自習 単語小テスト勉強 (pp. 248-253)
9	リスニング能力と英文読解力の育成 Unit 8: Employment and Personnel	雇用に関わる英語表現の修得と理解 単語小テスト (pp. 248-253) 短い英語ニュースの理解	予習復習・宿題・リングポルタ自習 単語小テスト勉強 (pp. 254-257)
10	リスニング能力と英文読解力の育成 Unit 9: Office Work and Correspondence	文書のやり取りなどに関わる英語の修得と理解 単語小テスト (pp. 254-257) 短い英語ニュースの理解	予習復習・宿題・リングポルタ自習 単語小テスト勉強 (pp. 206-225)
11	リスニング能力と英文読解力の育成 Unit 10: Health and the Environment	環境に関わる英語表現の修得と理解 単語小テスト (pp. 206-225) 短い英語ニュースの理解	予習復習・宿題・リングポルタ自習 単語小テスト勉強 (pp. 226-245)
12	リスニング能力と英文読解力の育成 Unit 11: Finance and Banking	金融に関わる英語表現の修得と理解 単語小テスト (pp. 226-245) 短い英語ニュースの理解	予習復習・宿題・リングポルタ自習 単語小テスト勉強 (pp. 246-257)
13	リスニング能力と英文読解力の育成 Unit 12 Law and Administration	法に関わる英語表現の理解 単語小テスト (pp. 246-257) 短い英語ニュースの理解	予習復習・宿題・リングポルタ自習 単語小テスト勉強 (pp. 206-257)
14	リスニング能力と英文読解力の育成 Review Test 1	総合的英語力の育成 単語小テスト (pp. 206-257) 短い英語ニュースの理解	予習復習・宿題・リングポルタ自習 単語小テスト勉強 (pp. 206-257)
15	リスニング能力と英文読解力の育成 Review Test 2	総合的英語力の育成 単語小テスト (pp. 206-257) 短い英語ニュースの理解	復習・宿題・リングポルタ自習 単語小テスト勉強 定期試験に向けた勉強

関連科目  
教科書

	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Seize the Core of the TOEIC Test</td> <td>安丸 雅子 ほか</td> <td>金星堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Seize the Core of the TOEIC Test	安丸 雅子 ほか	金星堂	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	Seize the Core of the TOEIC Test	安丸 雅子 ほか	金星堂														
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂														
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	平常点 (小テスト・課題・e-learning などを含める) (30%) 定期試験 (40%) TOEIC-IP テストのスコア (10%) 統一英語単語テスト (20%)																
学生への メッセージ	英語上達ためには、当たり前のことを当たり前コツコツとやるしかありません。予習と宿題は欠かさずやるようにしてください。また TOEIC 問題の演習だけでは、英語のおもしろさはわかりません。ニュースを読んだり、英語で発言したり、「英語で」いろいろな活動をやりたいと思います。結果的に点数も伸びていけばよいと思います。																
担当者の 研究室等	7号館4階 住吉 誠 研究室																
備考	各課の予習復習、また単語帳と連動するリンガポルタなどの自習教材の自主学習を含め、事前・事後の総学習時間数を20時間かけること。																

科目名	実践英語中級	科目名(英文)	Practical English for Intermediates
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	吉村 征洋
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

教養科目

授業概要・目的	英語の発音・リズム・イントネーション等を重点的に学び、実践的な英語力を身につける。																																																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・TOEIC500点以上の取得</li> <li>・統一英語単語テストでの高得点</li> </ul> V科の学習・教育目標との対応：C R科の学習・教育目標との対応：A A科の学習・教育到達目標との対応：C M科の学習・教育到達目標との対応：B2 E科の学習・教育到達目標との対応：F C科の学習・教育到達目標との対応：Ⅲ, VI																																																																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語の正しい発話方法を身につけるために、繰り返し音読練習を反復する</li> <li>・毎回、e-learningの課題、及び宿題が出される</li> <li>・統一英語単語テストに向けて、毎週単語本から小テストもする</li> </ul>																																																																		
科目学習の効果(資格)	TOEICテスト、TOEIC Bridgeテスト、TOEFLテスト、英検																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>イントロダクション</td> <td>授業の内容、方法、評価基準、課題について説明</td> <td>予習・課題、単語帳1201-1230</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>英語のアクセント</td> <td>音節と強勢、子音結合 小テスト、音読、リスニング等を行う</td> <td>予習・課題、単語帳1231-1260</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>英語のリズム</td> <td>内容語と機能語について 小テスト、音読、リスニング等を行う</td> <td>予習・課題、単語帳1261-1290</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>紛らわしい母音(1)</td> <td>ア、イ、ウと聞こえる音 小テスト、音読、リスニング等を行う</td> <td>予習・課題、単語帳1291-1320</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>紛らわしい母音(2)</td> <td>エ、オと聞こえる音 小テスト、音読、リスニング等を行う</td> <td>予習・課題、単語帳1321-1350</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>紛らわしい子音(1)</td> <td>ル、フ、ブと聞こえる音 小テスト、音読、リスニング等を行う</td> <td>予習・課題、単語帳1351-1380</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>紛らわしい子音(2)</td> <td>ス、ズと聞こえる音 小テスト、音読、リスニング等を行う</td> <td>予習・課題、単語帳1381-1410</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>中間テスト</td> <td>これまで学習した内容の確認テスト</td> <td>予習・課題、単語帳1411-1440</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>紛らわしい子音(3)</td> <td>摩擦音、鼻音、閉鎖音 小テスト、音読、リスニング等を行う</td> <td>予習・課題、単語帳1441-1470</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>繋がって聞こえる音(連結)</td> <td>子音+母音 小テスト、音読、リスニング等を行う</td> <td>予習・課題、単語帳1471-1500</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>変化して聞こえる音(同化)</td> <td>2つの音が1つの音になる同化 小テスト、音読、リスニング等を行う</td> <td>予習・課題</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>聞こえなくなる音</td> <td>閉鎖音の脱落 小テスト、音読、リスニング等を行う</td> <td>予習・課題</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>英語のイントネーション</td> <td>イントネーションの基本パターン 小テスト、音読、リスニング等を行う</td> <td>予習・課題</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>数量表現</td> <td>実数、少数、分数の読み方 小テスト、音読、リスニング等を行う</td> <td>予習・課題</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td>これまでのまとめを行う</td> <td>試験勉強</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	授業の内容、方法、評価基準、課題について説明	予習・課題、単語帳1201-1230	2	英語のアクセント	音節と強勢、子音結合 小テスト、音読、リスニング等を行う	予習・課題、単語帳1231-1260	3	英語のリズム	内容語と機能語について 小テスト、音読、リスニング等を行う	予習・課題、単語帳1261-1290	4	紛らわしい母音(1)	ア、イ、ウと聞こえる音 小テスト、音読、リスニング等を行う	予習・課題、単語帳1291-1320	5	紛らわしい母音(2)	エ、オと聞こえる音 小テスト、音読、リスニング等を行う	予習・課題、単語帳1321-1350	6	紛らわしい子音(1)	ル、フ、ブと聞こえる音 小テスト、音読、リスニング等を行う	予習・課題、単語帳1351-1380	7	紛らわしい子音(2)	ス、ズと聞こえる音 小テスト、音読、リスニング等を行う	予習・課題、単語帳1381-1410	8	中間テスト	これまで学習した内容の確認テスト	予習・課題、単語帳1411-1440	9	紛らわしい子音(3)	摩擦音、鼻音、閉鎖音 小テスト、音読、リスニング等を行う	予習・課題、単語帳1441-1470	10	繋がって聞こえる音(連結)	子音+母音 小テスト、音読、リスニング等を行う	予習・課題、単語帳1471-1500	11	変化して聞こえる音(同化)	2つの音が1つの音になる同化 小テスト、音読、リスニング等を行う	予習・課題	12	聞こえなくなる音	閉鎖音の脱落 小テスト、音読、リスニング等を行う	予習・課題	13	英語のイントネーション	イントネーションの基本パターン 小テスト、音読、リスニング等を行う	予習・課題	14	数量表現	実数、少数、分数の読み方 小テスト、音読、リスニング等を行う	予習・課題	15	まとめ	これまでのまとめを行う	試験勉強
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション	授業の内容、方法、評価基準、課題について説明	予習・課題、単語帳1201-1230																																																																
2	英語のアクセント	音節と強勢、子音結合 小テスト、音読、リスニング等を行う	予習・課題、単語帳1231-1260																																																																
3	英語のリズム	内容語と機能語について 小テスト、音読、リスニング等を行う	予習・課題、単語帳1261-1290																																																																
4	紛らわしい母音(1)	ア、イ、ウと聞こえる音 小テスト、音読、リスニング等を行う	予習・課題、単語帳1291-1320																																																																
5	紛らわしい母音(2)	エ、オと聞こえる音 小テスト、音読、リスニング等を行う	予習・課題、単語帳1321-1350																																																																
6	紛らわしい子音(1)	ル、フ、ブと聞こえる音 小テスト、音読、リスニング等を行う	予習・課題、単語帳1351-1380																																																																
7	紛らわしい子音(2)	ス、ズと聞こえる音 小テスト、音読、リスニング等を行う	予習・課題、単語帳1381-1410																																																																
8	中間テスト	これまで学習した内容の確認テスト	予習・課題、単語帳1411-1440																																																																
9	紛らわしい子音(3)	摩擦音、鼻音、閉鎖音 小テスト、音読、リスニング等を行う	予習・課題、単語帳1441-1470																																																																
10	繋がって聞こえる音(連結)	子音+母音 小テスト、音読、リスニング等を行う	予習・課題、単語帳1471-1500																																																																
11	変化して聞こえる音(同化)	2つの音が1つの音になる同化 小テスト、音読、リスニング等を行う	予習・課題																																																																
12	聞こえなくなる音	閉鎖音の脱落 小テスト、音読、リスニング等を行う	予習・課題																																																																
13	英語のイントネーション	イントネーションの基本パターン 小テスト、音読、リスニング等を行う	予習・課題																																																																
14	数量表現	実数、少数、分数の読み方 小テスト、音読、リスニング等を行う	予習・課題																																																																
15	まとめ	これまでのまとめを行う	試験勉強																																																																
関連科目	実践英語入門、実践英語初級																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>English Sounds, English Minds</td> <td>杉森幹彦、他</td> <td>金星堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test</td> <td>西谷恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	English Sounds, English Minds	杉森幹彦、他	金星堂	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷恒志	成美堂	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	English Sounds, English Minds	杉森幹彦、他	金星堂																																																																
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷恒志	成美堂																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	平常点(小テスト・課題・e-learningなどを含める) 40% 中間・期末試験 40% 統一英語単語テスト 20%																																																																		
学生へのメッセージ	語学力を向上させるには、毎日の学習が不可欠です。コツコツと忍耐強く学習しましょう。																																																																		
担当者の研究室等	7号館3階 吉村研究室																																																																		
備考	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																		

科目名	実践英語入門	科目名(英文)	Introduction to Practical English
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中野 華子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	この授業では、文法に関する知識、語彙力、読解力、聴解力など広く英語力の底上げを行い、TOEICテストにおける点数アップを目指す。また、分量が多いTOEIC Test をできるだけストレスを感じずに受験できるような英語に対する耐性も身につける。
到達目標	TOEICテストにおけるレベルC(470点以上) 建築学科の学習・教育到達目標との対応:[C] 電気電子工学科の学習・教育到達目標:[F]
授業方法と留意点	教科書は2冊あり、1冊はTOEICテストを受験する学生を対象に作られたもの(More Power for the TOEIC Test)を、もう1冊は単語集を使用する。各回の授業の冒頭では、単語集を使用した単語テストも行う。また数回TOEICミニテストを行い、TOEICのテスト形式に慣れるようにする。授業には辞書も持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEICテストでのスコアアップ。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、単語テスト、TOEICミニテスト	オリエンテーション、単語(番号800-820)の学習とテスト、TOEICミニテスト	事後学習・・・TOEICミニテストの復習
2	単語テスト、Chapter 1 Meeting New People, Chapter 2 Shopping	単語テスト(番号821-840)、写真描写、応答、会話、説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・単語集の番号821-840を覚える。事後学習・・・Chapter1,2の復習
3	単語テスト、Chapter 2 Shopping, Chapter 3 Entertainment	単語テスト(番号841-860)、写真描写、応答、会話、説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・単語集の番号841-860を覚える。事後学習・・・Chapter2,3の復習
4	単語テスト、Chapter 4 Transportation, Chapter 5 News	単語テスト(番号861-880)、写真描写、応答、会話、説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・単語集の番号861-880を覚える。事後学習・・・Chapter4,5の復習
5	単語テスト、Chapter 5 News, Chapter 6 Nature and Environment	単語テスト(番号881-900)、写真描写、応答、会話、説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・単語集の番号881-900を覚える。事後学習・・・Chapter5,6の復習
6	単語テスト、Chapter 7 Housing, Chapter 8 Health and Medical Care	単語テスト(番号901-920)、写真描写、応答、会話、説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・単語集の番号901-920を覚える。事後学習・・・Chapter7,8の復習
7	単語テスト、Chapter 8 Health and Medical Care, Chapter 9 Housework and Electrical Appliances	単語テスト(番号921-940)、写真描写、応答、会話、説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・単語集の番号921-940を覚える。事後学習・・・Chapter 8,9の復習
8	単語テスト、Chapter 10 Vacations, Chapter 11 Getting a Job,	単語テスト(番号941-960)、写真描写、応答、会話、説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題、TOEICミニテスト	事前学習・・・単語集の番号941-960を覚える。事後学習・・・Chapter10,11の復習
9	単語テスト、Chapter 11 Getting a Job, Chapter 12 Working in an Office	単語テスト(番号961-980)、写真描写、応答、会話、説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・単語集の番号961-980を覚える。事後学習・・・Chapter11,12の復習
10	単語テスト、Chapter 13 Business Communication, Chapter 14 Manufacturing	単語テスト(番号981-1000)、写真描写、応答、会話、説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・単語集の番号941-960を覚える。Unit4の予習。事後学習・・・Chapter13,14の復習
11	14 Manufacturing, Chapter 15 Marketing, TOEICミニテスト	写真描写、応答、会話、説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事後学習・・・Chapter14,15の復習、ミニテストの復習
12	Chapter 16 Services, Chapter 17 Finance	写真描写、応答、会話、説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事後学習・・・Chapter16,17の復習
13	Chapter 17 Finance, Chapter 18 Public Facilities	写真描写、応答、会話、説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事後学習・・・Chapter17,18の復習
14	Chapter 19 IT and Lifelong Education, Chapter 20 Parties and Communication	写真描写、応答、会話、説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事後学習・・・Chapter19,20の復習
15	Chapter 20 Parties and Communication, TOEICミニテスト	写真描写、応答、会話、説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事後学習・・・Chapter20の復習、ミニテストの復習

関連科目 他の英語科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	More Power for the TOEIC Test-新TOEICテスト集中コース:リスニング・リーディング演習	松岡 昇	金星堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test		成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	TOEIC・・・20% 共通単語テスト・・・10% 授業参加・解答・・・30% テスト・・・40% 成績評価に関するその他の詳細については第1回の授業で説明する。
学生への メッセージ	効率的な単語学習のためにeラーニング教材「リンガポルタ」や単語帳の音声データを使用することをお勧めします。 また、学内で実施されるTOEIC IP試験を受験して結果を残していきましょう。
担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師室）
備考	事前事後学習を一時間以上して下さい。

科目名	実践英語入門	科目名(英文)	Introduction to Practical English
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西谷 継治
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	TOEICブリッジの試験対策講座として、前期末のTOEICブリッジでのスコアアップを目指す。
到達目標	建築学科の学習・教育目標との対応：「C」 電気電子工学科の学習・教育目標との対応：「F」
授業方法と留意点	授業の進め方は毎回指名により学生諸君に発表してもらうのでそのつもりで授業に望んでもらいたい。予習として、必ず本文に目を通し、わからない単語や表現をチェックしておくことが大切である。練習問題には各自必ず答えを出しておくこと。
科目学習の効果(資格)	TOEIC Test の得点アップにつなげる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	授業内容の詳しい解説	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	2	Unit 1 & Unit 2 ・ 主語と動詞の一致に注意 ・ 自動詞と他動詞の違い	G r a m m a r and Reading	単語小テスト No.0801-0830 及び教科書 P.1-6 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	3	Unit 3 & Unit 4 ・ 英語の時制：現在と過去 ・ 助動詞	G r a m m a r and Reading	単語小テスト No.0821-0850 及び教科書 P.7-12 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	4	Unit 5 & Unit 6 ・ 特定か不特定か：冠詞の用法 ・ 形容詞の働き	G r a m m a r and Reading	単語小テスト No.0841-0870 及び教科書 P.13-18 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	5	Unit 7 Unit 8 ・ 副詞の働きと文中の位置 ・ よく用いられる9つの前置詞	G r a m m a r and Reading	単語小テスト No.0861-0890 及び教科書 P.19-24 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	6	Unit 9 & Unit 10 ・ 進行形の形式と意味 ・ 完了形の形式と意味	G r a m m a r and Reading	単語小テスト No.0881-0910 及び教科書 P.25-30 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	7	Unit 1-10 復習	Unit 1-10 復習	単語小テスト No.0901-0930 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	8	臨時試験	Review Test 1 [Unit 1 ~ Unit 10]	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	9	臨時試験評価	臨時試験の解説及び評	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	10	Unit 11 & Unit 12 ・ 受動態の形式と意味 ・ 比較の基本形式	G r a m m a r and Reading	単語小テスト No.0921-0950 及び教科書 P.31-36 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	11	Unit 13 & Unit 14 ・ 等位接続詞 ・ to 不定詞と原形不定詞の基本的働き	G r a m m a r and Reading	単語小テスト No.0941-0970 及び教科書 P.37-42 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	12	Unit 15 & Unit 16 ・ 現在分詞と過去分詞 ・ 動名詞と to 不定詞	G r a m m a r and Reading	単語小テスト No.0961-0990 及び教科書 P.43-48 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	13	Unit 17 & Unit 18 ・ 関係代名詞の基本用法 ・ 仮定法	G r a m m a r and Reading	単語小テスト No.0981-1000 及び教科書 P.49-54 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	14	Unit 19 & Unit 20 ・ 話法と間接疑問 ・ there 構文、仮主語・仮目的語の it	G r a m m a r and Reading	教科書 P.55-60 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	15	Unit 16- 20 復習	Unit 16- 20 復習	Unit 16- 20 質問準備 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること

関連科目	TOEIC、英検ほか、英語関連の資格一般
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Essential Reading for the TOEIC Test	Katsunoro Fujioka et al.	金星堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	共通試験 30% (TOEICブリッジ 20% 単語試験 10%) 定期試験 40%、小テスト 20%、授業態度(発表など) 10%の割合で総合的に評価する。
----------	---

学生へのメッセージ	図書館やPC等を利用し日頃から英語に親しんでください。
-----------	-----------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	・・・
----	-----

教養科目



科目名	実践英語入門	科目名 (英文)	Introduction to Practical English
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	C
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中島 直嗣
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	TOEIC Bridge Test 対策のテキストを使って、文法、読解、語彙など広く英語力の底上げを行い、TOEIC (Bridge) Test で評価される英語力の向上を目指す。
到達目標	TOEIC 300点 (TOEIC Bridge 120点) 以上の実力を身に付けることを目標とする。 建築学科の学習・教育目標：[C] 電気電子工学科の学習・教育到達目標：[F]
授業方法と留意点	・所定のテキストを使って、原則として毎回1章ずつ実践形式で進めていく。 ・毎回、前回の授業内容の確認と、共通単語帳の範囲内の単語テストを合わせた小テストを行う。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC 300点 (TOEIC Bridge 120点) 以上を取得する。

教養科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	・写真を見ながら、人物の動作や状態についてのリスニング練習 ・空所補充形式による文法の基礎チェック	小テスト、リスニング、文法、予習内容の確認	小テストの準備 (復習) 教科書の予習 単語学習範囲： 801-820
3	・Q&A形式の短文のリスニング練習 ・空所補充形式による文法の基礎チェック ・手紙 (メール) 形式の読解練習	小テスト、リスニング、文法、読解、予習内容の確認	小テストの準備 (復習) 教科書の予習 単語学習範囲： 821-840
4	・写真および会話形式のリスニング練習 ・空所補充形式による文法の基礎チェック	小テスト、リスニング、文法、予習内容の確認	小テストの準備 (復習) 教科書の予習 単語学習範囲： 841-860
5	・説明文およびQ&A形式の短文のリスニング練習 ・空所補充形式による文法の基礎チェック ・広告文の読解練習	小テスト、リスニング、文法、読解、予習内容の確認	小テストの準備 (復習) 教科書の予習 単語学習範囲： 861-880
6	・長文に出てくる構文分析 ・写真および会話形式のリスニング練習 ・空所補充形式による文法の基礎チェック	小テスト、リスニング、文法、読解、予習内容の確認	小テストの準備 (復習) 教科書の予習 単語学習範囲： 881-900
7	・写真および会話形式のリスニング練習 ・空所補充形式による文法の基礎チェック ・広告文の読解練習	小テスト、リスニング、文法、読解、予習内容の確認	小テストの準備 (復習) 教科書の予習 単語学習範囲： 901-920
8	・写真、Q&A、会話形式のリスニング練習 ・空所補充形式による文法の基礎チェック	小テスト、リスニング、文法、予習内容の確認	小テストの準備 (復習) 教科書の予習 単語学習範囲： 921-940
9	・Q&A および会話形式のリスニング練習 ・空所補充形式による文法の基礎チェック ・広告文の読解練習	小テスト、リスニング、文法、読解、予習内容の確認	小テストの準備 (復習) 教科書の予習 単語学習範囲： 941-960
10	・単語の品詞の見分け方 ・写真および会話形式のリスニング練習 ・空所補充形式による文法の基礎チェック	小テスト、リスニング、文法・品詞、予習内容の確認	小テストの準備 (復習) 教科書の予習 単語学習範囲： 961-980
11	・図表の英語表現と読解 ・Q&A形式のリスニング練習 ・空所補充形式による文法の基礎チェック	小テスト、リスニング、文法、読解、予習内容の確認	小テストの準備 (復習) 教科書の予習 単語学習範囲： 981-1000
12	・写真および会話形式のリスニング練習 ・空所補充形式による文法の基礎チェック	小テスト、リスニング、文法、予習内容の確認	小テストの準備 (復習) 教科書の予習
13	・Q&A形式のリスニング練習 ・空所補充形式による文法の基礎チェック ・商業英語の読解練習	小テスト、リスニング、文法、読解、予習内容の確認	小テストの準備 (復習) 教科書の予習
14	・写真および会話形式のリスニング練習 ・空所補充形式による文法の基礎チェック	小テスト、リスニング、文法、予習内容の確認	小テストの準備 (復習) 教科書の予習

	15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単語の品詞の見分け方</li> <li>・Q&amp;A 形式のリスニング練習</li> <li>・空所補充形式による文法の基礎チェック</li> <li>・手紙文の読解練習</li> </ul>	小テスト、リスニング、文法、読解	定期試験対策としての総復習
関連科目	その他の英語科目全般			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Beginner Course for the TOEIC Test (松柏社)		
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test (成美堂)		
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	共通試験 30% (TOEIC Bridge 20%、統一単語テスト 10%)、定期試験 40%、小テスト 20%、授業態度 10% の割合で総合的に評価する。			
学生への メッセージ	学内で実施される TOEIC (IP) の受験、単語帳に付随する eラーニング教材の活用を強く勧めます。			
担当者の 研究室等	7号館 4階			
備考	1) 事前・事後学習には、毎回 1 時間以上かけること。 2) 英単語は eラーニングを含めて、毎日、平均 30 分以上は学習すること。			

科目名	実践英語入門	科目名(英文)	Introduction to Practical English
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	D
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松浦 茂寿
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	今までに学んできた基本文法知識を確認し、皆さんが受ける TOEICブリッジ受験に必要な解法テクニック、特に普段の努力を積みめば必ず伸びる文法力及び読解力の更なる向上を目標とする。又、授業に平行してテスト受験に欠かせない語彙力向上も目指す。また、授業計画は進度によって変わる場合がある。
到達目標	「文法ルール及び語彙、毎日ちょっと覚えよう！」文法問題が解けるようになるには、1つでも多くの文法ルールを覚え、問題文にどの文法文法ルールが使われているか見抜くのが早道であり、毎日少しずつの努力が大きな結果につながる。単語と同じく、根気よく繰り返し覚え、1つでも多くの問題が解けるように頑張ろう。 建築学科の学習・教育目標との対応：[C] 電気電子工学科の学習・教育目標との対応：[F]
授業方法と留意点	毎週、授業時に単語帳から単語テストを行う予定。今まで習ってきた語彙や文法知識を駆使し、一つでも多くの問題が解けることを望む。予習として次に進む分の練習問題を解いて授業に臨もう。特に4択問題は今まで習った知識を駆使し、「この選択肢はこう間違っているから違う」と分かる様になればしめたもの。授業で出てきた新しい単語や学んだ内容をくり返して覚えるのが上達への早道です！
科目学習の効果(資格)	TOEICブリッジ受験に必要な基本的事項の復習及び知識の養成。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業方法、提出物、評価方法についての説明	次回の第一回単語テスト範囲、801～825番を勉強する事。
2	Unit 1 The Weather 天気 現在時制、過去時制	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p.6-9、次回の第二回単語テスト範囲、826～850番を勉強する事。
3	Unit 2 Meetings and Messages ミーティング/メッセージ 冠詞/代名詞	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p.10-13、次回の第三回単語テスト範囲、851～875番を勉強する事。
4	Unit 3 Health 健康 進行形	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p.14-17、次回の第四回単語テスト範囲、876～900番を勉強する事。
5	Unit 4 Advertising & Sales 広告/セール 名詞/数詞	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p.18-21、次回の第五回単語テスト範囲、901～925番を勉強する事。
6	Unit 5 Investment & Official Supplies 投資/オフィスの備品 形容詞/副詞	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p.22-25、次回の第六回単語テスト範囲、926～950番を勉強する事。
7	Unit 6 Telephone Messages 電話メッセージ 接続詞/前置詞	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p.26-29、次回の第七回単語テスト範囲、951～975番を勉強する事。
8	Unit 7 Jobs & Promotions 仕事/昇進 助動詞/使役・知覚動詞	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p.30-33、次回の第八回単語テスト範囲、976～1000番を勉強する事。
9	Unit 8 Flights & Traveling フライト/旅行 未来時制	文法、語彙の問題演習、答え合わせ	教科書 p.34-37、次回の第九回単語テスト範囲(追って指示します)を勉強する事。
10	Unit 9 Housing 住居 比較	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p.38-41、次回の第十回単語テスト範囲(追って指示します)を勉強する事。
11	Unit 10 New Products & Electrical Appliances 新製品/電化製品	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p.42-45、次回の第十一回単語テスト範囲(追って指示します)を勉強する事。
12	Unit 11 Media メディア 完了時制	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p.46-49、次回の第十二回単語テスト範囲(追って指示します)を勉強する事。
13	Unit 12 Ordering & Shipping 注文/発送	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p.50-53、次回の第十三回単語テスト範囲(追って指示します)を勉強する事。
14	Unit 13 Customer Services 顧客サービス	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p.54-57、次回の第十四回単語テスト範囲(追って指示します)を勉強する事。
15	総合復習	試験に向けた復習	教科書など前期範囲一通り

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	TOEIC Bridge Lounge TOEIC Bridge で学ぶ役立つ英語	Terry O'Brien、三原京、秀野作次郎、木村博是	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 学校語彙で学ぶ TOEIC テスト (単語集)	西谷恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	定期試験(45%)、提出物(15%)、単語小テスト(5%)、平常点(授業態度など5%)の合計70%に共通試験30%(TOEICブリッジ20%、統一英語単語テスト10%)を足して総合評価します。TOEICブリッジ及び単語テストを受験しなかった人は評価に大きく影響します。また、日頃の授業態度も重視します。
----------	---

学生へのメッセージ	「明るく、元気で、感動と発見を与える授業に！」私語をせず、マナーを守り、積極的に参加してクラス全体が一つになる様に、各自協力してもらいたい。折角、授業中に学んだことを暗記したままではすぐに忘れず。例えば英語で書かれた看板のメッセージ等を見ただけで指示が読めるように授業外で繰り返し学習するのが英語上達への早道です。教える側も学ぶ側も仲良く、楽しく、実りある半期になる事を祈る！
-----------	--

担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師室
備考	事前、事後学習には毎回1時間以上取り組み、課題に1回当たり1時間程度かけて仕上げる。

科目名	実践英語入門	科目名(英文)	Introduction to Practical English
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	E
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西 美都子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	TOEIC のテキストを使い、得点向上を目指します。得点を上げるために、これまで習った英語の知識を総復習し、「わかる」から「できる」に変えていくことを目指します。
到達目標	TOEIC300点以上を取るのに必要な読解力、語彙力をつける。 建築学科の学習・教育到達目標との対応：[C] 電気電子工学科の学習・教育到達目標：[F]
授業方法と留意点	単語集の中から毎週、単語テストを行う。 リスニングができるようになるためには、音と意味が一致しなければならない。そのため、毎回音読活動を取り入れる。
科目学習の効果(資格)	TOEICブリッジのスコアアップに必要な読解力、語彙力をつける。

教養科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	講義の進め方、評価方法などを説明。	単語範囲：801-840
2	日常生活に関連する表現を理解する。 自動詞/他動詞について学習する。	単語テスト、文法、リスニング演習、音読、予習内容の確認	単語範囲：841-880、復習
3	パーティに関連する表現を理解する。 時制/完了について学習する。	単語テスト、文法、リスニング演習、音読、予習内容の確認	単語範囲：881-920、復習
4	空港に関連する表現を理解する。 受動態について学習する。	単語テスト、文法、リスニング演習、音読、予習内容の確認	単語範囲：921-960、復習
5	ホテルに関連する表現を理解する。 不定詞について学習する。	単語テスト、文法、リスニング演習、音読、予習内容の確認	単語範囲：961-1000、復習
6	交通に関連する表現を理解する。 分詞/動名詞について学習する。	単語テスト、文法、リスニング演習、音読、予習内容の確認	単語範囲：801-1000、復習
7	ショッピングに関連する表現を理解する。 助動詞について学習する。	単語テスト、文法、リスニング演習、音読、予習内容の確認	単語範囲：801-840、復習
8	サービスに関連する表現を理解する。 代名詞について学習する。	単語テスト、文法、リスニング演習、音読、予習内容の確認	単語範囲：841-880、復習
9	オフィスワークに関連する表現を理解する。 名詞について学習する。	単語テスト、文法、リスニング演習、音読、予習内容の確認	単語範囲：881-920、復習
10	ビジネスに関連する表現を理解する。 接続詞について学習する。	単語テスト、文法、リスニング演習、音読、予習内容の確認	単語範囲：921-960、復習
11	人事に関連する表現を理解する。 形容詞/副詞について学習する。	単語テスト、文法、リスニング演習、音読、予習内容の確認	単語範囲：961-1000、復習
12	新製品に関連する表現を理解する。 前置詞について学習する。	単語テスト、文法、リスニング演習、音読、予習内容の確認	単語範囲：801-1000、復習
13	セールに関連する表現を理解する。 関係詞について学習する。	単語テスト、文法、リスニング演習、音読、予習内容の確認	復習
14	セミナー/会議に関連する表現を理解する。 比較について学習する。	文法、リスニング演習	復習
15	まとめ	学習内容の総復習	定期試験に向けて勉強

関連科目 その他英語科目全般

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Beyond the Basics of the TOEIC Test 戦略的に学ぶ TOEIC テストの基本	塚田幸光	金星堂
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷恒志	成美堂
2				
3				

評価方法 共通試験=30% (TOEICブリッジ20%、単語試験10%)

(基準)	授業態度、単語テスト、定期試験を総合的に評価する(70%)なお、授業態度とは、授業中の質問に対する回答状況、授業への集中度を指す。
学生へのメッセージ	e-learning 教材を使用し、音声機器を使った学習してください。TOEIC 受験を勧めます。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	事後学習には毎回1時間以上かけること。

科目名	実践の思想	科目名(英文)	Ideas for Practice
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	柿本 佳美
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

教養科目

授業概要・目的	<p>この授業では、私たちの社会の価値観や規範の基礎となっている日本の思想を学び、ものづくりの専門家としての技術者のありかたと技術に関わる倫理を考えます。</p> <p>技術は、人々が生活のなかの大変な作業を軽く生活をより快適にするために、発展してきました。また、技術は、骨の折れる作業を減らしたことで、どの人も自由で豊かな生活を送ることのできる社会をつくり出す原動力、もっと言うならより平等な社会を創り出す原動力にもなったのです。その一方で、近代に入って急速に工業化が進んだことで、環境破壊や廃棄物の処理など、多くの社会的な問題も発生しました。また、兵器開発に代表される技術のように、ある人々には利益をもたらすけれども多くの人にとっては多大な損害をもたらす技術、シェールガス開発のように、当初は望ましいように見えたけれども、後になってデメリットも大きいことがわかってきた技術も存在します。そうすると、科学技術は開発さえすれば終わりではなく、社会に対する説明責任や、科学技術に対する社会の影響について考える必要があります。</p> <p>ここでは、私たちの社会のなかで技術と技術者のあり方を支えてきた思想について学んでいきましょう。</p> <p>日本社会における自然と技術観を理解し、共生社会を目指す持続可能な技術のあり方を考えることができる。</p>																																																																		
到達目標	<p>V科の学習・教育目標との対応：A R科の学習・教育目標との対応：A A科の学習・教育到達目標との対応：A M科の学習・教育到達目標との対応：A1 E科の学習・教育到達目標との対応：B C科の学習・教育到達目標との対応：II</p>																																																																		
授業方法と留意点	講義形式で進めますが、人数によってはディスカッションも取り入れます。																																																																		
科目学習の効果(資格)	<p>科学技術をめぐる歴史をたどることで、人間の知的営みとしての技術のあり方について考えることができる。</p> <p>日本社会における技術観・自然観を学び、これらを技術全体の歴史のなかに置くことで、日本が生み出した技術の特徴を知ることができる。</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>はじめに：科学技術と私たち</td> <td>授業説明と導入。建築家ユニット SANAA に見る日本の技術への海外の評価</td> <td>予習 できれば「技術士倫理綱領の解説」を読んでおく。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>世界史のなかの技術と思想：古代から近世へ</td> <td>石器の使用、古代文明、中国およびイスラム圏での発展、近代的な科学技術の誕生</td> <td>予習 高校地理を復習し、世界の河川・海洋および気候を確認する。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>世界史のなかの技術と思想：近世から現代へ</td> <td>科学革命、産業革命、現代の科学技術</td> <td>予習 太陽系の仕組みを確認しておく。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>日本史のなかの技術と思想：古代から近世へ</td> <td>技術という視点から見た日本の歴史</td> <td>予習 近世までの日本の歴史を見ておく。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>日本史のなかの技術と思想：近世から現代へ</td> <td>江戸期の技術革新、明治期の近代化、高度成長期から現代</td> <td>予習 江戸時代の寺子屋について調べる。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>日本の組織倫理を支える思想：『論語』と朱子学</td> <td>日本社会における『論語』の受容</td> <td>予習 『論語』を読んでおく。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>生活文化と思想：茶道と禅</td> <td>岡倉天心『茶の本』を読み、茶道と禅が生活文化にもたらした影響を知る。</td> <td>予習 テキストにある岡倉天心『茶の本』の抜粋を読んでおく。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>日本の思想：神道</td> <td>神道の自然観と共同体形成に果たした役割を学ぶ。</td> <td>予習 テキストにある祝詞『六月晦日大祓』『大殿祭』を読んでおく。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>日本の思想：仏教</td> <td>仏教の歴史と自然観を学ぶ。</td> <td>予習 テキストにある『一遍上人語録』・『歎異抄』『教行信証』を読んでおく。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>日本の思想：心学と町衆文化</td> <td>町衆文化に根付いた学問および技術観</td> <td>予習 テキストにある安藤昌益『良演哲論』を読んでおく。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>日本の思想：福沢諭吉と文明開化</td> <td>西洋技術の導入と近代化</td> <td>予習 青空文庫にある福沢諭吉『学問のすゝめ』(<a href="http://www.aozora.gr.jp/cards/000296/files/47061_29420.html">http://www.aozora.gr.jp/cards/000296/files/47061_29420.html</a>)を読んでおく。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>日本の思想：南方熊楠と自然保護</td> <td>日本社会における共生の思想</td> <td>予習 青空文庫にある南方熊楠『神社合祀に関する意見』(<a href="http://www.aozora.gr.jp/cards/000093/card525.html">http://www.aozora.gr.jp/cards/000093/card525.html</a>)と、テキストにある南方熊楠『トーテムと命名』を読んでおく。</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>日本の思想：中江兆民と田中正造</td> <td>日本における民主主義の浸透</td> <td>予習：ルソーについて調べておく。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>日本の自然観：和辻哲郎『風土』</td> <td>自然環境と文化との関係</td> <td>予習 高校地理の地形と気候について復習しておく。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ：倫理綱領と技術者</td> <td>市民としての技術者のあり方</td> <td>予習 日本技術士会「技術者倫理綱領」を読むこと。海外への技術移転について調べておくこと。</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	はじめに：科学技術と私たち	授業説明と導入。建築家ユニット SANAA に見る日本の技術への海外の評価	予習 できれば「技術士倫理綱領の解説」を読んでおく。	2	世界史のなかの技術と思想：古代から近世へ	石器の使用、古代文明、中国およびイスラム圏での発展、近代的な科学技術の誕生	予習 高校地理を復習し、世界の河川・海洋および気候を確認する。	3	世界史のなかの技術と思想：近世から現代へ	科学革命、産業革命、現代の科学技術	予習 太陽系の仕組みを確認しておく。	4	日本史のなかの技術と思想：古代から近世へ	技術という視点から見た日本の歴史	予習 近世までの日本の歴史を見ておく。	5	日本史のなかの技術と思想：近世から現代へ	江戸期の技術革新、明治期の近代化、高度成長期から現代	予習 江戸時代の寺子屋について調べる。	6	日本の組織倫理を支える思想：『論語』と朱子学	日本社会における『論語』の受容	予習 『論語』を読んでおく。	7	生活文化と思想：茶道と禅	岡倉天心『茶の本』を読み、茶道と禅が生活文化にもたらした影響を知る。	予習 テキストにある岡倉天心『茶の本』の抜粋を読んでおく。	8	日本の思想：神道	神道の自然観と共同体形成に果たした役割を学ぶ。	予習 テキストにある祝詞『六月晦日大祓』『大殿祭』を読んでおく。	9	日本の思想：仏教	仏教の歴史と自然観を学ぶ。	予習 テキストにある『一遍上人語録』・『歎異抄』『教行信証』を読んでおく。	10	日本の思想：心学と町衆文化	町衆文化に根付いた学問および技術観	予習 テキストにある安藤昌益『良演哲論』を読んでおく。	11	日本の思想：福沢諭吉と文明開化	西洋技術の導入と近代化	予習 青空文庫にある福沢諭吉『学問のすゝめ』( <a href="http://www.aozora.gr.jp/cards/000296/files/47061_29420.html">http://www.aozora.gr.jp/cards/000296/files/47061_29420.html</a> )を読んでおく。	12	日本の思想：南方熊楠と自然保護	日本社会における共生の思想	予習 青空文庫にある南方熊楠『神社合祀に関する意見』( <a href="http://www.aozora.gr.jp/cards/000093/card525.html">http://www.aozora.gr.jp/cards/000093/card525.html</a> )と、テキストにある南方熊楠『トーテムと命名』を読んでおく。	13	日本の思想：中江兆民と田中正造	日本における民主主義の浸透	予習：ルソーについて調べておく。	14	日本の自然観：和辻哲郎『風土』	自然環境と文化との関係	予習 高校地理の地形と気候について復習しておく。	15	まとめ：倫理綱領と技術者	市民としての技術者のあり方	予習 日本技術士会「技術者倫理綱領」を読むこと。海外への技術移転について調べておくこと。
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	はじめに：科学技術と私たち	授業説明と導入。建築家ユニット SANAA に見る日本の技術への海外の評価	予習 できれば「技術士倫理綱領の解説」を読んでおく。																																																																
2	世界史のなかの技術と思想：古代から近世へ	石器の使用、古代文明、中国およびイスラム圏での発展、近代的な科学技術の誕生	予習 高校地理を復習し、世界の河川・海洋および気候を確認する。																																																																
3	世界史のなかの技術と思想：近世から現代へ	科学革命、産業革命、現代の科学技術	予習 太陽系の仕組みを確認しておく。																																																																
4	日本史のなかの技術と思想：古代から近世へ	技術という視点から見た日本の歴史	予習 近世までの日本の歴史を見ておく。																																																																
5	日本史のなかの技術と思想：近世から現代へ	江戸期の技術革新、明治期の近代化、高度成長期から現代	予習 江戸時代の寺子屋について調べる。																																																																
6	日本の組織倫理を支える思想：『論語』と朱子学	日本社会における『論語』の受容	予習 『論語』を読んでおく。																																																																
7	生活文化と思想：茶道と禅	岡倉天心『茶の本』を読み、茶道と禅が生活文化にもたらした影響を知る。	予習 テキストにある岡倉天心『茶の本』の抜粋を読んでおく。																																																																
8	日本の思想：神道	神道の自然観と共同体形成に果たした役割を学ぶ。	予習 テキストにある祝詞『六月晦日大祓』『大殿祭』を読んでおく。																																																																
9	日本の思想：仏教	仏教の歴史と自然観を学ぶ。	予習 テキストにある『一遍上人語録』・『歎異抄』『教行信証』を読んでおく。																																																																
10	日本の思想：心学と町衆文化	町衆文化に根付いた学問および技術観	予習 テキストにある安藤昌益『良演哲論』を読んでおく。																																																																
11	日本の思想：福沢諭吉と文明開化	西洋技術の導入と近代化	予習 青空文庫にある福沢諭吉『学問のすゝめ』( <a href="http://www.aozora.gr.jp/cards/000296/files/47061_29420.html">http://www.aozora.gr.jp/cards/000296/files/47061_29420.html</a> )を読んでおく。																																																																
12	日本の思想：南方熊楠と自然保護	日本社会における共生の思想	予習 青空文庫にある南方熊楠『神社合祀に関する意見』( <a href="http://www.aozora.gr.jp/cards/000093/card525.html">http://www.aozora.gr.jp/cards/000093/card525.html</a> )と、テキストにある南方熊楠『トーテムと命名』を読んでおく。																																																																
13	日本の思想：中江兆民と田中正造	日本における民主主義の浸透	予習：ルソーについて調べておく。																																																																
14	日本の自然観：和辻哲郎『風土』	自然環境と文化との関係	予習 高校地理の地形と気候について復習しておく。																																																																
15	まとめ：倫理綱領と技術者	市民としての技術者のあり方	予習 日本技術士会「技術者倫理綱領」を読むこと。海外への技術移転について調べておくこと。																																																																
関連科目	哲学 II																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>『思想のアンソロジー』</td> <td>吉本隆明</td> <td>ちくま学芸文庫</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>「技術士倫理綱領の解説」</td> <td>公益社団法人 日本技術士会</td> <td><a href="http://www.engineer.or.jp/c_topics/000/attached/attach_25_3.pdf">http://www.engineer.or.jp/c_topics/000/attached/attach_25_3.pdf</a></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	『思想のアンソロジー』	吉本隆明	ちくま学芸文庫	2	「技術士倫理綱領の解説」	公益社団法人 日本技術士会	<a href="http://www.engineer.or.jp/c_topics/000/attached/attach_25_3.pdf">http://www.engineer.or.jp/c_topics/000/attached/attach_25_3.pdf</a>	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	『思想のアンソロジー』	吉本隆明	ちくま学芸文庫																																																																
2	「技術士倫理綱領の解説」	公益社団法人 日本技術士会	<a href="http://www.engineer.or.jp/c_topics/000/attached/attach_25_3.pdf">http://www.engineer.or.jp/c_topics/000/attached/attach_25_3.pdf</a>																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名																																																												
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																

	1	『工学の歴史』	三輪修三	ちくま学芸文庫
	2			
	3			
評価方法 (基準)	定期試験 60%、提出物 20%、ミニレポート (毎回提出)・受講態度 20%の割合で総合的に評価する。 ミニレポート・授業態度については、授業中に一時退出した場合、評価の対象とはならない。			
学生への メッセージ	日本社会における技術の位置づけと技術に携わる人々のあり方にも触れていきますので、技術に携わる者としての考えを深めるように。 遅刻、途中退出はしないこと。私語、携帯電話の使用等、授業態度が悪い場合、受講態度に関する点をゼロとし、退室を命じることがあります。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室			
備考	予習・復習にそれぞれ1時間を当てること。また、指定された文献には必ず目を通し、自主学習には20時間以上かけること。			



科目名	実践の思想	科目名(英文)	Ideas for Practice
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	島田 喜行
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	<p>本講義では、現代の日本人が持っている行動規範の源流を辿り直すことから、専門技術者を目指す者が身につけておくべき職業観と倫理観を学ぶ。具体的には、今日の産業社会を考える際のキーワードの一つである「持続可能性 sustainability」について、江戸時代の様々な思想から理解する。また、柳宗悦の「民藝」思想から職人の手仕事、匠の技の卓越性と工藝の用と美に触れ、岡倉天心の「茶」の思想から日本人の自然観を学ぶ。</p> <p>以上のことから、自然と人間とがより善く共生できる社会の実現を目指す技術者が身につけておくべき倫理について考えてみたい。</p>																																																																		
到達目標	<p>以下の項目の理解を到達目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. sustainabilityと技術</li> <li>2. 日本人の自然観</li> <li>3. 民藝思想にみる職人の技と矜持</li> <li>4. 自然との共生を目指す技術者倫理</li> </ol> <p>V科の学習・教育目標との対応：A R科の学習・教育目標との対応：A A科の学習・教育到達目標との対応：A M科の学習・教育到達目標との対応：A1 E科の学習・教育到達目標との対応：B C科の学習・教育到達目標との対応：II</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>ノート講義形式 講義内容の理解を問うコメントカードと小テストによって授業態度を評価する。</p>																																																																		
科目学習の効果(資格)	<p>日本の伝統的な職業観と思想に触れることから、現代の技術者が身につけるべきことは何か、見習うべきことは何かという問いに対して自主的に取り組めるようになる。</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> <td>講義の説明</td> <td>事後学習 講義ノートの復習および配布資料の読解</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>科学と技術の基礎(1)</td> <td>自然科学の源流</td> <td>事後学習 講義ノートの復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>科学と技術の基礎(2)</td> <td>フランシス・ベーコンの思想</td> <td>予習 フランシス・ベーコンについて調べる</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>江戸時代の思想(1)</td> <td>sustainabilityとは何か、環境破壊と人間性の問題</td> <td>事後学習 講義ノートの復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>江戸時代の思想(2)</td> <td>中江藤樹の思想</td> <td>事後学習 講義ノートの復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>江戸時代の思想(3)</td> <td>熊沢蕃山の思想</td> <td>事後学習 講義ノートの復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>江戸時代の思想(4)</td> <td>安藤昌益の思想</td> <td>予習 安藤昌益について調べる</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>江戸時代の思想(5)</td> <td>石田梅岩の思想</td> <td>予習 石田梅岩について調べる</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>江戸時代の思想(6)</td> <td>貝原益軒の思想</td> <td>予習 貝原益軒について調べる</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>人間と道具</td> <td>「プロメテウス神話」</td> <td>事後学習 講義ノートの復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>柳宗悦の思想</td> <td>民藝と手仕事、匠の技と品物の性質</td> <td>予習 柳宗悦について調べる</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>岡倉天心の思想</td> <td>茶道にみる日本人の自然観</td> <td>予習 岡倉天心について調べる</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>社会と技術</td> <td>技術者にとって技術とは何か</td> <td>予習 「技術者倫理綱領」の解説を読む</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>科学技術がもたらす社会的倫理的問題</td> <td>生命にかかわる技術と倫理</td> <td>事後学習 講義ノートの復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td>講義のふりかえり</td> <td>事後学習 講義ノートの復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	講義の説明	事後学習 講義ノートの復習および配布資料の読解	2	科学と技術の基礎(1)	自然科学の源流	事後学習 講義ノートの復習	3	科学と技術の基礎(2)	フランシス・ベーコンの思想	予習 フランシス・ベーコンについて調べる	4	江戸時代の思想(1)	sustainabilityとは何か、環境破壊と人間性の問題	事後学習 講義ノートの復習	5	江戸時代の思想(2)	中江藤樹の思想	事後学習 講義ノートの復習	6	江戸時代の思想(3)	熊沢蕃山の思想	事後学習 講義ノートの復習	7	江戸時代の思想(4)	安藤昌益の思想	予習 安藤昌益について調べる	8	江戸時代の思想(5)	石田梅岩の思想	予習 石田梅岩について調べる	9	江戸時代の思想(6)	貝原益軒の思想	予習 貝原益軒について調べる	10	人間と道具	「プロメテウス神話」	事後学習 講義ノートの復習	11	柳宗悦の思想	民藝と手仕事、匠の技と品物の性質	予習 柳宗悦について調べる	12	岡倉天心の思想	茶道にみる日本人の自然観	予習 岡倉天心について調べる	13	社会と技術	技術者にとって技術とは何か	予習 「技術者倫理綱領」の解説を読む	14	科学技術がもたらす社会的倫理的問題	生命にかかわる技術と倫理	事後学習 講義ノートの復習	15	まとめ	講義のふりかえり	事後学習 講義ノートの復習
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	講義の説明	事後学習 講義ノートの復習および配布資料の読解																																																																
2	科学と技術の基礎(1)	自然科学の源流	事後学習 講義ノートの復習																																																																
3	科学と技術の基礎(2)	フランシス・ベーコンの思想	予習 フランシス・ベーコンについて調べる																																																																
4	江戸時代の思想(1)	sustainabilityとは何か、環境破壊と人間性の問題	事後学習 講義ノートの復習																																																																
5	江戸時代の思想(2)	中江藤樹の思想	事後学習 講義ノートの復習																																																																
6	江戸時代の思想(3)	熊沢蕃山の思想	事後学習 講義ノートの復習																																																																
7	江戸時代の思想(4)	安藤昌益の思想	予習 安藤昌益について調べる																																																																
8	江戸時代の思想(5)	石田梅岩の思想	予習 石田梅岩について調べる																																																																
9	江戸時代の思想(6)	貝原益軒の思想	予習 貝原益軒について調べる																																																																
10	人間と道具	「プロメテウス神話」	事後学習 講義ノートの復習																																																																
11	柳宗悦の思想	民藝と手仕事、匠の技と品物の性質	予習 柳宗悦について調べる																																																																
12	岡倉天心の思想	茶道にみる日本人の自然観	予習 岡倉天心について調べる																																																																
13	社会と技術	技術者にとって技術とは何か	予習 「技術者倫理綱領」の解説を読む																																																																
14	科学技術がもたらす社会的倫理的問題	生命にかかわる技術と倫理	事後学習 講義ノートの復習																																																																
15	まとめ	講義のふりかえり	事後学習 講義ノートの復習																																																																
関連科目	<p>哲学から学ぶ</p>																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>技術者倫理綱領</td> <td>公益社団法人日本技術士会編(ホームページからダウンロード)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	技術者倫理綱領	公益社団法人日本技術士会編(ホームページからダウンロード)		2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	技術者倫理綱領	公益社団法人日本技術士会編(ホームページからダウンロード)																																																																	
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>民藝とは何か</td> <td>柳宗悦</td> <td>講談社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	民藝とは何か	柳宗悦	講談社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	民藝とは何か	柳宗悦	講談社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	<p>定期試験 60%、授業態度 40%の割合で評価する。なお、授業態度とは、講義内容の理解を問うために配布するコメントカードへの記述内容と小テストへの解答内容を指す。</p>																																																																		
学生へのメッセージ	<p>日本の伝統的な「ものの見方」と「立ち居振る舞い方」に触れ、現代社会を主体的に生きていくためのヒントを発見してください。私語、携帯電話の使用等で講義を妨害する行為を行った者は、授業態度評価をゼロとする。大学生にふさわしい態度で講義に臨むことを求めます。</p>																																																																		
担当者の研究室等	<p>非常勤講師室</p>																																																																		
備考	<p>上述の参考書以外のものは講義中に適宜紹介する。 予習(事前学習)・事後学習には、毎回1.5時間以上かけること。</p>																																																																		

科目名	社会と人権	科目名(英文)	Human rights and Society
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	有馬 善一, 林田 敏子, 松島 裕一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	<p>本科目は、人間が人間として尊重されるということの意味を、具体的な生活や行動と関わらせて考えること、またそのような思索の成果を実際の生活や行動に反映させることを目的とし、そのための知識や見方・考え方を受講生に提示する。</p> <p>本年度は、有馬(倫理学)、林田(西洋史)、松島(法哲学)を専門する教員が、それぞれ4ないし5回ずつ授業を行う。</p>
到達目標	<p>本授業を履修した学生は、次の項目について一定水準に達することが期待されます。</p> <p>① 社会と人権にかかわる事柄について倫理的観点から説明できる                  ② 社会と人権にかかわる事柄について西洋史的観点から説明できる                  ③ 社会と人権にかかわる事柄について法哲学的観点から説明できる                  ④ 社会と人権にかかわる事柄について、具体的な自分の生活と行動の場面に即して考えることができる</p>
授業方法と留意点	<p>(有馬担当分) 板書・配付資料による講義形式。                  (林田担当分) 板書・配布資料による講義形式。少人数であればディスカッションもおこないます。</p>
科目学習の効果(資格)	人権問題について、印象論ではなく、正確な知識に基づいた理解を得ることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	「社会と人権について考える」ことを考える	担当者:松島、有馬、林田  ・授業内容・評価方法についての確認 ・社会と人権について履修生がどのような考え方をもっているかの確認	<b>【事後学習】</b> 人権にかかわるニュースを幅広く収集する(1時間)
2	自由と自己決定	担当者:松島  日本国憲法にはさまざまな自由権が規定されていますが、そもそも「自由」とは何でしょうか?  J・S・ミルやI・バーリンらの議論を手掛かりにしなが、人権概念の根幹をなす「自由」というものの本質について考えてみます。	<b>【事後学習】</b> パターンリズムにかんする具体的な設問を提示しますので、授業中にその問題について皆で議論し、後日レポート1000字程度を提出してください。(4時間)
3	表現の自由とその限界	担当者:松島  近年日本で社会問題になっているヘイトスピーチは、そもそも表現の自由(憲法21条)で保障される発言なのでしょうか?  アメリカとドイツの法規制の違いを手がかりにして、表現の自由の限界について考えてみたいと思います。	<b>【事後学習】</b> ヘイトスピーチにかんする具体的な設問を提示しますので、授業中にその問題について皆で議論し、後日レポート1000字程度を提出してください。(4時間)
4	格差社会における「平等」	担当者:松島  「自由」と並び、「平等」は人権概念の根幹をなす重要な概念ですが、そもそも平等とは何なのでしょう?  J・ロールズやR・ドゥオーキンらの議論を手がかりにして、平等の本質について考えてみたいと思います。	<b>【事後学習】</b> 積極的差別是正措置にかんする具体的な設問を提示しますので、授業中にその問題について皆で議論し、後日レポート1000字程度を提出してください。(4時間)
5	動物の権利	担当者:松島  人権とはもちろん「人」に保障される権利ですが、それでは、人以外の「動物」にはいっさい権利が認められないのでしょうか?  ビーター・シンガーの議論を手がかりにして、「動物の権利」について考えてみたいと思います。	<b>【事後学習】</b> 動物実験の是非にかんする具体的な設問を提示しますので、授業中にその問題について皆で議論し、後日レポート1000字程度を提出してください。(4時間)
6	人工妊娠中絶の是非をめぐって(1)	担当者:有馬  ・人工妊娠中絶をめぐる「プロ・ライフ」(中絶反対派)と「プロ・チョイス」(中絶擁護派)の論争とその社会的背景について解説をする。 ・トムソンの論文について解説をした上で、トムソンの主張について周囲の学生とディスカッションをする。	<b>【事前学習】</b> 「プロ・ライフ」、「プロ・チョイス」という言葉の意味を調べておく。 <b>【事後学習】</b> トムソンの主張についての自分の考えをまとめて、レポートを提出する。(合計4時間)
7	人工妊娠中絶の是非をめぐって(2)	担当者:有馬  ・前回のディスカッションのまとめ。 ・パーソン論と人工妊娠中絶問題とのつ	<b>【事前学習】</b> パーソンという言葉の意味を調べてくる。 <b>【事後学習】</b> トゥーリの主張について自分の考えをまとめて、レ

			ながりを説明する。 ・トウリーの論文について解説をした上で、トウリーの主張についてディスカッションをする。	ポートを提出する。 (合計4時間)																
8	安楽死をめぐる(1)	担当者:有馬  ・前回のディスカッションのまとめ ・終末期医療における人権問題の概要 ・日本における「尊厳死」の問題について解説をする。		【事前学習】 日本尊厳死協会のホームページを読んでおく。 「安楽死」、「尊厳死」という言葉の意味を調べておく。 【事後学習】 安楽死と尊厳死の違いについて、概念整理をして、レポートを提出する。 (合計4時間)																
9	安楽死をめぐる(2)	担当者:有馬  ・前回のディスカッションのまとめ ・「死ぬ権利」に対するオランダやベルギーの考え方を紹介する。 ・安楽死の是非についてディスカッションをする。		【事前学習】 安楽死に関係する海外のニュースを調べておく。 【事後学習】 安楽死についてのオランダ、ベルギーの考え方について、自分なりの意見をまとめて、レポートを提出する。 (合計4時間)																
10	生きることと善く生きること	担当者:有馬  「善く生きる」とはどのようなことを考えます。		【事前学習】 『ソクラテスの弁明』を通読しておく。 (3時間)																
11	女性と人権	担当者:林田  ・差別と区別 ～女性専用車両をめぐる～ ・「女らしさ」と「男らしさ」		【事前学習】 「女性と人権」という言葉から連想する社会問題を列挙し、もっとも興味のあるものについて自分の意見をまとめてくる。(4時間)																
12	人権宣言の歴史的背景	担当者:林田  ・人権概念の歴史的生成過程～アメリカ独立宣言を中心に～ ・もう一つのフランス革命～オランブ・ドゥ・グージュの「女性の人権宣言」～		【事後学習】 人権宣言の画期的な点と、「残された問題」についてまとめる。(4時間)																
13	女性は戦争をどう「戦った」か	担当者:林田  ・犠牲者としての女性 ・戦いを鼓舞する女性		【事後学習】 「戦争があぶりだすジェンダー問題」についてまとめる。(4時間)																
14	戦場における女性	担当者:林田  ・「戦う」女性～募兵運動、兵器製造、従軍～ ・女性兵士をめぐる		【事後学習】 「女性兵士」の是非をめぐる議論の要点をまとめてくる。(4時間)																
15	「ジェンダー・フリー」の罨	担当者:林田  セクシュアル・ハラスメント、ドメスティック・バイオレンスから女性専用車両にいたるまで、身近にあるジェンダー問題を通して、ジェンダー・フリーへ向けた取り組みが抱える問題について考える(ディスカッションもしくは、小発表形式)。		【事前学習】 3回の授業内容を踏まえ、ディスカッション(もしくは小発表)の内容を踏まえて、自分の考えをまとめる。(4時間)																
関連科目	法学などのさまざまな科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法(基準)	3名の担当者が課す課題を100点満点で評価し、その平均点で評価します。 それぞれの担当者の評価方法については、授業計画で確認ください。																			
学生へのメッセージ	教室に来て、座って聞いているだけでも、もちろんためになります。それだけではなく、自分で考えてもらうための作業をたくさん行います。																			
担当者の研究室等	有馬(7号館4階) 林田(7号館4階) 松島(11号館9階)																			
備考	有馬担当分 参考図書 加藤・飯田編 『バイオエシックスの基礎』、東海大学出版会 三井美奈 『安楽死のできる国』 新潮新書																			

科目名	社会の仕組み	科目名(英文)	Structure of Society
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	金 政 芸
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	本講義の目標は、私たちの生きる社会の仕組みを理解することである。社会の仕組みを知ることで、自分の行動や自分の経験するさまざまな出来事の原因が何を理解することができる。本講義では、まず社会の仕組みを理解するための学問である社会学の概要と、家族、地域、国家、国際社会の構造とそれぞれの社会のかかえる諸問題について紹介する。																																																																		
到達目標	社会の仕組みを理解し説明できる。 V科の学習・教育目標との対応：A R科の学習・教育目標との対応：A A科の学習・教育到達目標との対応：A M科の学習・教育到達目標との対応：A1 E科の学習・教育到達目標との対応：B C科の学習・教育到達目標との対応：II																																																																		
授業方法と留意点	基本的には講義形式の授業がおこなわれる。講義では、理解を深めるために具体的な研究を紹介していく。																																																																		
科目学習の効果(資格)	日々の個人的な経験を、社会の構造やその変化から把握する能力を身につけることができる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>講義を始めるにあたって</td> <td>オリエンテーション</td> <td>授業の流れについて理解する。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>社会学とは何か I</td> <td>社会学の定義と歴史について。</td> <td>レジュメを読んで復習する。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>社会学とは何か II</td> <td>社会学の古典的研究の紹介。</td> <td>レジュメを読んで復習する。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>他者と自己</td> <td>他者との関係のなかで形成される自己意識について。</td> <td>レジュメを読んで復習する。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>集団と個人</td> <td>単なる個人の集合体を越えた存在としての社会集団の特徴について。</td> <td>レジュメを読んで復習する。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>家族の社会学 I</td> <td>近代的家族の出現とその変容について。</td> <td>レジュメを読んで復習する。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>家族の社会学 II</td> <td>現代の家族のかかえるさまざまな問題について。</td> <td>レジュメを読んで復習する。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>地域の社会学 I</td> <td>現代都市の特徴について。</td> <td>レジュメを読んで復習する。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>地域の社会学 II</td> <td>現代の都市のかかえるさまざまな問題について。</td> <td>レジュメを読んで復習する。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>ネーションとエスニシティ I</td> <td>ネーションの概念整理と、その実在にかかわる諸議論について。</td> <td>レジュメを読んで復習する。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ネーションとエスニシティ II</td> <td>移民とエスニック・マイノリティ、ナショナルリズムについて。</td> <td>レジュメを読んで復習する。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>グローバリゼーション</td> <td>グローバリゼーションとは何か。</td> <td>レジュメを読んで復習する。</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>階層と格差 I</td> <td>階級と階層、そこに存在する格差という問題について。</td> <td>レジュメを読んで復習する。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>階層と格差 II</td> <td>格差はどのように再生産されるのか。</td> <td>レジュメを読んで復習する。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>講義を終えるにあたって</td> <td>総括</td> <td>レジュメを読んで復習する。</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	講義を始めるにあたって	オリエンテーション	授業の流れについて理解する。	2	社会学とは何か I	社会学の定義と歴史について。	レジュメを読んで復習する。	3	社会学とは何か II	社会学の古典的研究の紹介。	レジュメを読んで復習する。	4	他者と自己	他者との関係のなかで形成される自己意識について。	レジュメを読んで復習する。	5	集団と個人	単なる個人の集合体を越えた存在としての社会集団の特徴について。	レジュメを読んで復習する。	6	家族の社会学 I	近代的家族の出現とその変容について。	レジュメを読んで復習する。	7	家族の社会学 II	現代の家族のかかえるさまざまな問題について。	レジュメを読んで復習する。	8	地域の社会学 I	現代都市の特徴について。	レジュメを読んで復習する。	9	地域の社会学 II	現代の都市のかかえるさまざまな問題について。	レジュメを読んで復習する。	10	ネーションとエスニシティ I	ネーションの概念整理と、その実在にかかわる諸議論について。	レジュメを読んで復習する。	11	ネーションとエスニシティ II	移民とエスニック・マイノリティ、ナショナルリズムについて。	レジュメを読んで復習する。	12	グローバリゼーション	グローバリゼーションとは何か。	レジュメを読んで復習する。	13	階層と格差 I	階級と階層、そこに存在する格差という問題について。	レジュメを読んで復習する。	14	階層と格差 II	格差はどのように再生産されるのか。	レジュメを読んで復習する。	15	講義を終えるにあたって	総括	レジュメを読んで復習する。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	講義を始めるにあたって	オリエンテーション	授業の流れについて理解する。																																																																
2	社会学とは何か I	社会学の定義と歴史について。	レジュメを読んで復習する。																																																																
3	社会学とは何か II	社会学の古典的研究の紹介。	レジュメを読んで復習する。																																																																
4	他者と自己	他者との関係のなかで形成される自己意識について。	レジュメを読んで復習する。																																																																
5	集団と個人	単なる個人の集合体を越えた存在としての社会集団の特徴について。	レジュメを読んで復習する。																																																																
6	家族の社会学 I	近代的家族の出現とその変容について。	レジュメを読んで復習する。																																																																
7	家族の社会学 II	現代の家族のかかえるさまざまな問題について。	レジュメを読んで復習する。																																																																
8	地域の社会学 I	現代都市の特徴について。	レジュメを読んで復習する。																																																																
9	地域の社会学 II	現代の都市のかかえるさまざまな問題について。	レジュメを読んで復習する。																																																																
10	ネーションとエスニシティ I	ネーションの概念整理と、その実在にかかわる諸議論について。	レジュメを読んで復習する。																																																																
11	ネーションとエスニシティ II	移民とエスニック・マイノリティ、ナショナルリズムについて。	レジュメを読んで復習する。																																																																
12	グローバリゼーション	グローバリゼーションとは何か。	レジュメを読んで復習する。																																																																
13	階層と格差 I	階級と階層、そこに存在する格差という問題について。	レジュメを読んで復習する。																																																																
14	階層と格差 II	格差はどのように再生産されるのか。	レジュメを読んで復習する。																																																																
15	講義を終えるにあたって	総括	レジュメを読んで復習する。																																																																
関連科目	.																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	授業態度 20%、中間レポートおよび期末試験 80%																																																																		
学生へのメッセージ	馴染みのない理論や概念がたくさん出てきますが、講義に集中すれば十分に理解できると思います。紹介された理論を身近な経験に適用していけばより理解が深まるでしょう。																																																																		
担当者の研究室等	.																																																																		
備考	自主学習には、期末試験の準備を含めて、合計 15 時間はかけること																																																																		

科目名	社会の仕組み	科目名(英文)	Structure of Society
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	谷口 裕久
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

教養科目

授業概要・目的	この「社会の仕組み」の授業では、「社会学」や「文化人類学」を学問的基礎と位置づけ、それらの多種多様な枠組みや論題の中から、身近なトピックを選び出し、課題として検討する。上述の学問は「社会科学」の一部を成すが、主専攻が理科系学問分野である受講生のために、受講生の専攻に傾斜させた「理系的な視点」から社会の仕組みを講じる。理工学部の受講生にもわかりやすい授業を行いたい。																																																																		
到達目標	この科目の履修によって、授業テーマに挙げた課題に関して、社会学や文化人類学的認識として、適宜、客観的な説明が行えるようになる。このことは大学生としての教養の養成のみならず、社会人としての素養を身につけることがらに直結している。定期試験により評価を行い、到達度を点数化して表す。 V科の学習・教育目標との対応：A R科の学習・教育目標との対応：A A科の学習・教育到達目標との対応：A M科の学習・教育到達目標との対応：A1 E科の学習・教育到達目標との対応：B C科の学習・教育到達目標との対応																																																																		
授業方法と留意点	講義形式が中心。授業内容に即した映像を副次的に教材として利用することがある。積極的にノートをとることが肝要。授業中の私語と携帯電話の使用は厳禁である。自筆ノートが毎回2ページほどずつ蓄積されるが、例年はそのノートを持ち込んで定期試験を行っている。																																																																		
科目学習の効果(資格)	工学諸分野と協同すべき社会や文化の諸課題をめぐり、枠組みや考え方に則して問題を理解し、その解決方法を具体的に検討することができる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>イントロダクション・授業の進め方・「コモングの悲劇」を考える(1)</td> <td>座学としての受講の仕方・授業の進め方、ならびに「コモングの悲劇」の事例を検討し、社会への認識を深める。</td> <td>(事前・事後学習課題の総論的な課題については備考欄を参照のこと)「コモングの悲劇」の条件について説明できること。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>「コモングの悲劇」を考える(2)</td> <td>「コモングの悲劇」の内容を検討し、その考え方の応用に触れる。</td> <td>「コモングの悲劇」を実例として説明できること。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>文化と社会</td> <td>文化や社会の概念について検討する。</td> <td>文化や社会の概念について説明できること。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>人種と民族</td> <td>人種と民族の概念について検討する。</td> <td>人種と民族の概念について説明できること。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>文化交流の重要性</td> <td>文化交流の定義とその重要性について検討する。</td> <td>文化交流について一定の認識を持つこと。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>国民国家とは何か?</td> <td>国民国家の概念やナショナリズムについて検討する。</td> <td>国民国家やナショナリズムについて説明ができること。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>「親」とは誰か?</td> <td>「親」の概念について検討する。</td> <td>「親」の概念について、一定の説明をすることができること。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>家族・親族とは何か?</td> <td>日頃意識しない家族や親族の具体例について検討する。</td> <td>家族や親族のありさまについて、具体的に説明ができること。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>情報をめぐる不可思議</td> <td>情報のありさまをめぐる問題について検討する。</td> <td>情報と消費の関係性について、意見を呈示することができる。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>IT化と社会</td> <td>IT(Information Technology)化が進行する中での社会の動態について検討する。</td> <td>IT化と社会について、関連性を見いだすことができる。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>「犯罪」とは何か?</td> <td>「犯罪」とはどのような事象を指すのか検討し、その主体についても検討する。</td> <td>社会学的な「犯罪」の概念を呈示できること。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>安全とは何か?</td> <td>社会における安全への取り組みや、安全に対する認識を深める。</td> <td>安全の考え方について、一定の認識を持てること。</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>地球環境問題の考察(1)</td> <td>地球環境問題の具体例を検討する。</td> <td>地球環境問題に関して、意見や一定の回答を呈示できること。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>地球環境問題の考察(2)</td> <td>地球環境問題の具体例を検討する。</td> <td>地球環境問題に関して、意見や一定の回答を呈示できること。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>遺伝子組み替え技術と社会</td> <td>遺伝子組み替え技術の展開について検討する。</td> <td>遺伝子組み替え技術について、一定の意見を呈示できること。</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション・授業の進め方・「コモングの悲劇」を考える(1)	座学としての受講の仕方・授業の進め方、ならびに「コモングの悲劇」の事例を検討し、社会への認識を深める。	(事前・事後学習課題の総論的な課題については備考欄を参照のこと)「コモングの悲劇」の条件について説明できること。	2	「コモングの悲劇」を考える(2)	「コモングの悲劇」の内容を検討し、その考え方の応用に触れる。	「コモングの悲劇」を実例として説明できること。	3	文化と社会	文化や社会の概念について検討する。	文化や社会の概念について説明できること。	4	人種と民族	人種と民族の概念について検討する。	人種と民族の概念について説明できること。	5	文化交流の重要性	文化交流の定義とその重要性について検討する。	文化交流について一定の認識を持つこと。	6	国民国家とは何か?	国民国家の概念やナショナリズムについて検討する。	国民国家やナショナリズムについて説明ができること。	7	「親」とは誰か?	「親」の概念について検討する。	「親」の概念について、一定の説明をすることができること。	8	家族・親族とは何か?	日頃意識しない家族や親族の具体例について検討する。	家族や親族のありさまについて、具体的に説明ができること。	9	情報をめぐる不可思議	情報のありさまをめぐる問題について検討する。	情報と消費の関係性について、意見を呈示することができる。	10	IT化と社会	IT(Information Technology)化が進行する中での社会の動態について検討する。	IT化と社会について、関連性を見いだすことができる。	11	「犯罪」とは何か?	「犯罪」とはどのような事象を指すのか検討し、その主体についても検討する。	社会学的な「犯罪」の概念を呈示できること。	12	安全とは何か?	社会における安全への取り組みや、安全に対する認識を深める。	安全の考え方について、一定の認識を持てること。	13	地球環境問題の考察(1)	地球環境問題の具体例を検討する。	地球環境問題に関して、意見や一定の回答を呈示できること。	14	地球環境問題の考察(2)	地球環境問題の具体例を検討する。	地球環境問題に関して、意見や一定の回答を呈示できること。	15	遺伝子組み替え技術と社会	遺伝子組み替え技術の展開について検討する。	遺伝子組み替え技術について、一定の意見を呈示できること。
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション・授業の進め方・「コモングの悲劇」を考える(1)	座学としての受講の仕方・授業の進め方、ならびに「コモングの悲劇」の事例を検討し、社会への認識を深める。	(事前・事後学習課題の総論的な課題については備考欄を参照のこと)「コモングの悲劇」の条件について説明できること。																																																																
2	「コモングの悲劇」を考える(2)	「コモングの悲劇」の内容を検討し、その考え方の応用に触れる。	「コモングの悲劇」を実例として説明できること。																																																																
3	文化と社会	文化や社会の概念について検討する。	文化や社会の概念について説明できること。																																																																
4	人種と民族	人種と民族の概念について検討する。	人種と民族の概念について説明できること。																																																																
5	文化交流の重要性	文化交流の定義とその重要性について検討する。	文化交流について一定の認識を持つこと。																																																																
6	国民国家とは何か?	国民国家の概念やナショナリズムについて検討する。	国民国家やナショナリズムについて説明ができること。																																																																
7	「親」とは誰か?	「親」の概念について検討する。	「親」の概念について、一定の説明をすることができること。																																																																
8	家族・親族とは何か?	日頃意識しない家族や親族の具体例について検討する。	家族や親族のありさまについて、具体的に説明ができること。																																																																
9	情報をめぐる不可思議	情報のありさまをめぐる問題について検討する。	情報と消費の関係性について、意見を呈示することができる。																																																																
10	IT化と社会	IT(Information Technology)化が進行する中での社会の動態について検討する。	IT化と社会について、関連性を見いだすことができる。																																																																
11	「犯罪」とは何か?	「犯罪」とはどのような事象を指すのか検討し、その主体についても検討する。	社会学的な「犯罪」の概念を呈示できること。																																																																
12	安全とは何か?	社会における安全への取り組みや、安全に対する認識を深める。	安全の考え方について、一定の認識を持てること。																																																																
13	地球環境問題の考察(1)	地球環境問題の具体例を検討する。	地球環境問題に関して、意見や一定の回答を呈示できること。																																																																
14	地球環境問題の考察(2)	地球環境問題の具体例を検討する。	地球環境問題に関して、意見や一定の回答を呈示できること。																																																																
15	遺伝子組み替え技術と社会	遺伝子組み替え技術の展開について検討する。	遺伝子組み替え技術について、一定の意見を呈示できること。																																																																
関連科目	なし。																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>使用しない。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	使用しない。			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	使用しない。																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>授業中に適宜、告知する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	授業中に適宜、告知する。			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	授業中に適宜、告知する。																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	定期試験 62%、授業態度(質問や授業への呼応を用紙で問う)28%、授業参加度(テーマに応じて、意見や感想を提出する)10%の割合で総合的に評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	受講生は授業の内容の中に自分の将来に役に立つ知識を積極的に探そうと努力すること。パワーポイントのスライドを授業時に使用するため、積極的にノートをとることが肝要。																																																																		
担当者の研究室等	11号館6階、経営学部事務室																																																																		

備考	<p>授業時間内でのノート・テイキングと蓄積された受講生個人のノートを重視するが、それ以外に事後学習の学習時間について記しておく。</p> <p>1) 事前事後学習には、毎回最低 30 分以上かけ、ウェブサイトの情報ではなく、できるだけ既出文献(授業中に告知した参考書を含む)を渉猟すること。</p> <p>2) 期末試験の準備を含め自主学習には、最低でも合計 7 時間はかけること。</p> <p>3) 授業で示す英単語は術語であるため、英語の事前事後学習時間に補足として数分でも時間をかけ、意味内容を把握しておくこと。</p>
----	---

科目名	就職実践基礎	科目名(英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	亀田 峻宣
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	就職活動時の筆記試験対策(算数・数学)について学び、筆記試験を通過する実力をつけることを目標とする授業です。この講義では、3回生で実際の出題レベルの対策を行うために必要な、算数・数学の基礎を固めるための授業です。就職活動では、筆記試験で算数・数学に苦勞する学生がとて多いですので、早めに対策をしておきましょう。算数・数学が苦手な学生や、大学に入って(もしくはそれ以前から)算数・数学に触れていない学生は特にお勧めします。
到達目標	就職活動に必要な筆記試験の実力を身につけること
授業方法と留意点	授業は実践形式で行います。問題を解き、解説するという流れになります。就職活動の筆記試験を通過する実力をつけることが目的です。講義に集中して参加し、毎回の講義問題や教科書の復習を行うことが必要になります。
科目学習の効果(資格)	就職活動に必要な数学力のうち、特に基礎的な部分を身につける

教養科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	テスト	実力確認テスト	シラバス熟読
	2	方程式	方程式	方程式を復習しておくこと
	3	速度算	速度の基礎	文章題による速度算について復習しておくこと
	4	割合	割合の基礎・濃度算	文章題による割合について復習しておくこと
	5	分数問題	仕事算・分割払い	文章題による仕事算・分割払いについて復習しておくこと
	6	金銭問題	損益算	文章題による損益算について復習しておくこと
	7	場合の数・確率	場合の数・確率	文章題による場合の数・確率を復習しておくこと
	8	テスト	中間テスト	2~7回目の範囲を事前に勉強しておくこと
	9	集合・領域	集合の基礎・領域	集合・領域を復習しておくこと
	10	表の読み取り	表の読み取り	表の読み取り問題を復習しておくこと
	11	論理	命題・推論①	命題について復習しておくこと
	12	論理	推論②	推論について復習しておくこと
	13	論理	ブラックボックス・物の流れ	ブラックボックス・物の流れについて復習しておくこと
	14	総復習	総復習①	全ての範囲を事前に勉強しておくこと
	15	テスト	最終テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと

関連科目: キャリアデザインⅡ、インターンシップⅠ・Ⅱ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	オリジナル教材を使用します。また適宜 Smart SPI の活用を指示します。		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	その他 SPI や玉手箱関連の問題集		
	2			
	3			

評価方法(基準): 小テスト 40%、中間テスト・最終テスト 50%、SmartSPI 10%  
その他授業態度などで加減します。

学生へのメッセージ: 7~8割の企業が就職活動で筆記試験を課すと言われています。早めの対策しておくこと、受けることのできる会社が広がります。その一方、毎年多くの3回生が秋・冬から筆記試験対策を始め、他の就職活動が忙しく時間を勉強できないままです。早めに対策をしておきましょう。受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して確実に問題を解けるようになってください。

担当者の研究室等備考: 7号館3階 キャリア教育推進室



科目名	就職実践基礎	科目名(英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西座 由紀
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	就職活動時の筆記試験対策(算数・数学)について学び、筆記試験を通過する実力をつけることを目標とする授業です。この講義では、3回生で実際の出題レベルの対策を行うために必要な、算数・数学の基礎を固めるための授業です。就職活動では、筆記試験で算数・数学に苦勞する学生がとて多いですので、早めに対策をしておきましょう。算数・数学が苦手な学生や、大学に入って(もしくはそれ以前から)算数・数学に触れていない学生は特にお勧めします。
到達目標	就職活動に必要な筆記試験の実力を身につけること
授業方法と留意点	授業は実践形式で行います。問題を解き、解説するという流れになります。就職活動の筆記試験を通過する実力をつけることが目的です。講義に集中して参加し、毎回の講義問題や教科書の復習を行うことが必要になります。
科目学習の効果(資格)	就職活動に必要な数学力のうち、特に基礎的な部分を身につける

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	テスト	実力確認テスト	シラバス熟読
	2	方程式	方程式	方程式を復習しておくこと
	3	速度算	速度の基礎	文章題による速度算について復習しておくこと
	4	割合	割合の基礎・濃度算	文章題による割合について復習しておくこと
	5	分数問題	仕事算・分割払い	文章題による仕事算・分割払いについて復習しておくこと
	6	金銭問題	損益算	文章題による損益算について復習しておくこと
	7	場合の数・確率	場合の数・確率	文章題による場合の数・確率を復習しておくこと
	8	テスト	中間テスト	2~7回目の範囲を事前に勉強しておくこと
	9	集合・領域	集合の基礎・領域	集合・領域を復習しておくこと
	10	表の読み取り	表の読み取り	表の読み取り問題を復習しておくこと
	11	論理	命題・推論①	命題について復習しておくこと
	12	論理	推論②	推論について復習しておくこと
	13	論理	ブラックボックス・物の流れ	ブラックボックス・物の流れについて復習しておくこと
	14	総復習	総復習①	全ての範囲を事前に勉強しておくこと
	15	テスト	最終テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと

関連科目	キャリアデザインⅡ、インターンシップⅠ・Ⅱ
------	-----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	オリジナル教材を使用します。また適宜 Smart SPI の活用を指示します。		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	その他 SPI や玉手箱関連の問題集		
	2			
	3			

評価方法(基準)	小テスト 40%、中間テスト・最終テスト 50%、SmartSPI 10% その他授業態度などで加減します。
----------	---

学生へのメッセージ	7~8割の企業が就職活動で筆記試験を課すと言われています。早めの対策しておくこと、受けることのできる会社が広がります。その一方、毎年多くの3回生が秋・冬から筆記試験対策を始め、他の就職活動が忙しく時間を勉強できないままです。早めに対策をしておきましょう。受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して確実に問題を解けるようになってください。
-----------	--

担当者の研究室等備考	7号館3階 キャリア教育推進室
------------	-----------------



科目名	就職実践基礎	科目名(英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	橋本 朗子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	就職活動時の筆記試験対策(算数・数学)について学び、筆記試験を通過する実力をつけることを目標とする授業です。この講義では、3回生で実際の出題レベルの対策を行うために必要な、算数・数学の基礎を固めるための授業です。就職活動では、筆記試験で算数・数学に苦勞する学生がとて多いですので、早めに対策をしておきましょう。算数・数学が苦手な学生や、大学に入って(もしくはそれ以前から)算数・数学に触れていない学生は特にお勧めします。
到達目標	就職活動に必要な筆記試験の実力を身につけること
授業方法と留意点	授業は実践形式で行います。問題を解き、解説するという流れになります。就職活動の筆記試験を通過する実力をつけることが目的です。講義に集中して参加し、毎回の講義問題や教科書の復習を行うことが必要になります。
科目学習の効果(資格)	就職活動に必要な数学力のうち、特に基礎的な部分を身につける

教養科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	テスト	実力確認テスト	シラバス熟読
	2	方程式	方程式	方程式を復習しておくこと
	3	速度算	速度の基礎	文章題による速度算について復習しておくこと
	4	割合	割合の基礎・濃度算	文章題による割合について復習しておくこと
	5	分数問題	仕事算・分割払い	文章題による仕事算・分割払いについて復習しておくこと
	6	金銭問題	損益算	文章題による損益算について復習しておくこと
	7	場合の数・確率	場合の数・確率	文章題による場合の数・確率を復習しておくこと
	8	テスト	中間テスト	2~7回目の範囲を事前に勉強しておくこと
	9	集合・領域	集合の基礎・領域	集合・領域を復習しておくこと
	10	表の読み取り	表の読み取り	表の読み取り問題を復習しておくこと
	11	論理	命題・推論①	命題について復習しておくこと
	12	論理	推論②	推論について復習しておくこと
	13	論理	ブラックボックス・物の流れ	ブラックボックス・物の流れについて復習しておくこと
	14	総復習	総復習①	全ての範囲を事前に勉強しておくこと
	15	テスト	最終テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと

関連科目: キャリアデザインⅡ、インターンシップⅠ・Ⅱ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	オリジナル教材を使用します。また適宜 Smart SPI の活用を指示します。		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	その他 SPI や玉手箱関連の問題集		
	2			
	3			

評価方法(基準): 小テスト 40%、中間テスト・最終テスト 50%、SmartSPI 10%  
その他授業態度などで加減します。

学生へのメッセージ: 7~8割の企業が就職活動で筆記試験を課すと言われています。早めの対策しておくこと、受けることのできる会社が広がります。その一方、毎年多くの3回生が秋・冬から筆記試験対策を始め、他の就職活動が忙しく時間を勉強できないままです。早めに対策をしておきましょう。受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して確実に問題を解けるようになってください。

担当者の研究室等備考: 7号館3階 キャリア教育推進室

科目名	就職実践基礎	科目名(英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松田 剛典
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	就職活動時の筆記試験対策(算数・数学)について学び、筆記試験を通過する実力をつけることを目標とする授業です。この講義では、3回生で実際の出題レベルの対策を行うために必要な、算数・数学の基礎を固めるための授業です。就職活動では、筆記試験で算数・数学に苦勞する学生がとて多いですので、早めに対策をしておきましょう。算数・数学が苦手な学生や、大学に入って(もしくはそれ以前から)算数・数学に触れていない学生は特にお勧めします。																																																																		
到達目標	就職活動に必要な筆記試験の実力を身につけること																																																																		
授業方法と留意点	授業は実践形式で行います。問題を解き、解説するという流れになります。就職活動の筆記試験を通過する実力をつけることが目的です。講義に集中して参加し、毎回の講義問題や教科書の復習を行うことが必要になります。																																																																		
科目学習の効果(資格)	就職活動に必要な数学力のうち、特に基礎的な部分を身につける																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>テスト</td><td>実力確認テスト</td><td>シラバス熟読</td></tr> <tr><td>2</td><td>方程式</td><td>方程式</td><td>方程式を復習しておくこと</td></tr> <tr><td>3</td><td>速度算</td><td>速度の基礎</td><td>文章題による速度算について復習しておくこと</td></tr> <tr><td>4</td><td>割合</td><td>割合の基礎・濃度算</td><td>文章題による割合について復習しておくこと</td></tr> <tr><td>5</td><td>分数問題</td><td>仕事算・分割払い</td><td>文章題による仕事算・分割払いについて復習しておくこと</td></tr> <tr><td>6</td><td>金銭問題</td><td>損益算</td><td>文章題による損益算について復習しておくこと</td></tr> <tr><td>7</td><td>場合の数・確率</td><td>場合の数・確率</td><td>文章題による場合の数・確率を復習しておくこと</td></tr> <tr><td>8</td><td>テスト</td><td>中間テスト</td><td>2~7回目の範囲を事前に勉強しておくこと</td></tr> <tr><td>9</td><td>集合・領域</td><td>集合の基礎・領域</td><td>集合・領域を復習しておくこと</td></tr> <tr><td>10</td><td>表の読み取り</td><td>表の読み取り</td><td>表の読み取り問題を復習しておくこと</td></tr> <tr><td>11</td><td>論理</td><td>命題・推論①</td><td>命題について復習しておくこと</td></tr> <tr><td>12</td><td>論理</td><td>推論②</td><td>推論について復習しておくこと</td></tr> <tr><td>13</td><td>論理</td><td>ブラックボックス・物の流れ</td><td>ブラックボックス・物の流れについて復習しておくこと</td></tr> <tr><td>14</td><td>総復習</td><td>総復習①</td><td>全ての範囲を事前に勉強しておくこと</td></tr> <tr><td>15</td><td>テスト</td><td>最終テスト</td><td>全ての範囲を事前に勉強しておくこと</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	テスト	実力確認テスト	シラバス熟読	2	方程式	方程式	方程式を復習しておくこと	3	速度算	速度の基礎	文章題による速度算について復習しておくこと	4	割合	割合の基礎・濃度算	文章題による割合について復習しておくこと	5	分数問題	仕事算・分割払い	文章題による仕事算・分割払いについて復習しておくこと	6	金銭問題	損益算	文章題による損益算について復習しておくこと	7	場合の数・確率	場合の数・確率	文章題による場合の数・確率を復習しておくこと	8	テスト	中間テスト	2~7回目の範囲を事前に勉強しておくこと	9	集合・領域	集合の基礎・領域	集合・領域を復習しておくこと	10	表の読み取り	表の読み取り	表の読み取り問題を復習しておくこと	11	論理	命題・推論①	命題について復習しておくこと	12	論理	推論②	推論について復習しておくこと	13	論理	ブラックボックス・物の流れ	ブラックボックス・物の流れについて復習しておくこと	14	総復習	総復習①	全ての範囲を事前に勉強しておくこと	15	テスト	最終テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	テスト	実力確認テスト	シラバス熟読																																																																
2	方程式	方程式	方程式を復習しておくこと																																																																
3	速度算	速度の基礎	文章題による速度算について復習しておくこと																																																																
4	割合	割合の基礎・濃度算	文章題による割合について復習しておくこと																																																																
5	分数問題	仕事算・分割払い	文章題による仕事算・分割払いについて復習しておくこと																																																																
6	金銭問題	損益算	文章題による損益算について復習しておくこと																																																																
7	場合の数・確率	場合の数・確率	文章題による場合の数・確率を復習しておくこと																																																																
8	テスト	中間テスト	2~7回目の範囲を事前に勉強しておくこと																																																																
9	集合・領域	集合の基礎・領域	集合・領域を復習しておくこと																																																																
10	表の読み取り	表の読み取り	表の読み取り問題を復習しておくこと																																																																
11	論理	命題・推論①	命題について復習しておくこと																																																																
12	論理	推論②	推論について復習しておくこと																																																																
13	論理	ブラックボックス・物の流れ	ブラックボックス・物の流れについて復習しておくこと																																																																
14	総復習	総復習①	全ての範囲を事前に勉強しておくこと																																																																
15	テスト	最終テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと																																																																
関連科目	キャリアデザインⅡ、インターンシップⅠ・Ⅱ																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリジナル教材を使用します。また適宜 Smart SPI の活用を指示します。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	オリジナル教材を使用します。また適宜 Smart SPI の活用を指示します。			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	オリジナル教材を使用します。また適宜 Smart SPI の活用を指示します。																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>その他 SPI や玉手箱関連の問題集</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	その他 SPI や玉手箱関連の問題集			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	その他 SPI や玉手箱関連の問題集																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	小テスト 40%、中間テスト・最終テスト 50%、SmartSPI 10% その他授業態度などで加減します。																																																																		
学生へのメッセージ	7~8割の企業が就職活動で筆記試験を課すと言われています。早めの対策しておくこと、受けることのできる会社が広がります。その一方、毎年多くの3回生が秋・冬から筆記試験対策を始め、他の就職活動が忙しく時間を勉強できないままです。早めに対策をしておきましょう。受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して確実に問題を解けるようになってください。																																																																		
担当者の研究室等備考	7号館3階 キャリア教育推進室																																																																		

科目名	就職実践基礎	科目名(英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西座 由紀
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	就職活動時の筆記試験対策(算数・数学)について学び、筆記試験を通過する実力をつけることを目標とする授業です。この講義では、3回生で実際の出題レベルの対策を行うために必要な、算数・数学の基礎を固めるための授業です。就職活動では、筆記試験で算数・数学に苦勞する学生がとて多いですので、早めに対策をしておきましょう。算数・数学が苦手な学生や、大学に入って(もしくはそれ以前から)算数・数学に触れていない学生は特にお勧めします。
到達目標	就職活動に必要な筆記試験の実力を身につけること
授業方法と留意点	授業は実践形式で行います。問題を解き、解説するという流れになります。就職活動の筆記試験を通過する実力をつけることが目的です。講義に集中して参加し、毎回の講義問題や教科書の復習を行うことが必要になります。
科目学習の効果(資格)	就職活動に必要な数学力のうち、特に基礎的な部分を身につける

教養科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	テスト	実力確認テスト	シラバス熟読
	2	方程式	方程式	方程式を復習しておくこと
	3	速度算	速度の基礎	文章題による速度算について復習しておくこと
	4	割合	割合の基礎・濃度算	文章題による割合について復習しておくこと
	5	分数問題	仕事算・分割払い	文章題による仕事算・分割払いについて復習しておくこと
	6	金銭問題	損益算	文章題による損益算について復習しておくこと
	7	場合の数・確率	場合の数・確率	文章題による場合の数・確率を復習しておくこと
	8	テスト	中間テスト	2~7回目の範囲を事前に勉強しておくこと
	9	集合・領域	集合の基礎・領域	集合・領域を復習しておくこと
	10	表の読み取り	表の読み取り	表の読み取り問題を復習しておくこと
	11	論理	命題・推論①	命題について復習しておくこと
	12	論理	推論②	推論について復習しておくこと
	13	論理	ブラックボックス・物の流れ	ブラックボックス・物の流れについて復習しておくこと
	14	総復習	総復習①	全ての範囲を事前に勉強しておくこと
	15	テスト	最終テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと

関連科目: キャリアデザインⅡ、インターンシップⅠ・Ⅱ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	オリジナル教材を使用します。また適宜 Smart SPI の活用を指示します。		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	その他 SPI や玉手箱関連の問題集		
	2			
	3			

評価方法(基準): 小テスト 40%、中間テスト・最終テスト 50%、SmartSPI 10%  
その他授業態度などで加減します。

学生へのメッセージ: 7~8割の企業が就職活動で筆記試験を課すと言われています。早めの対策しておくこと、受けることのできる会社が広がります。その一方、毎年多くの3回生が秋・冬から筆記試験対策を始め、他の就職活動が忙しく時間を勉強できないままです。早めに対策をしておきましょう。受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して確実に問題を解けるようになってください。

担当者の研究室等備考: 7号館3階 キャリア教育推進室

科目名	就職実践基礎	科目名(英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	亀田 峻宣
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	就職活動時の筆記試験対策(算数・数学)について学び、筆記試験を通過する実力をつけることを目標とする授業です。この講義では、3回生で実際の出題レベルの対策を行うために必要な、算数・数学の基礎を固めるための授業です。就職活動では、筆記試験で算数・数学に苦勞する学生がとて多いですので、早めに対策をしておきましょう。算数・数学が苦手な学生や、大学に入って(もしくはそれ以前から)算数・数学に触れていない学生は特にお勧めします。
到達目標	就職活動に必要な筆記試験の実力を身につけること
授業方法と留意点	授業は実践形式で行います。問題を解き、解説するという流れになります。就職活動の筆記試験を通過する実力をつけることが目的です。講義に集中して参加し、毎回の講義問題や教科書の復習を行うことが必要になります。
科目学習の効果(資格)	就職活動に必要な数学力のうち、特に基礎的な部分を身につける

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	講座の目的・意義	シラバス熟読
	2	テスト	実力確認テスト	シラバス熟読
	3	方程式	方程式	方程式を復習しておくこと
	4	速度算	速度の基礎	文章題による速度算について復習しておくこと
	5	割合	割合の基礎・濃度算	文章題による割合について復習しておくこと
	6	分数問題	仕事算・分割払い	文章題による仕事算・分割払いについて復習しておくこと
	7	金銭問題	損益算	文章題による損益算について復習しておくこと
	8	場合の数・確率	場合の数・確率	文章題による場合の数・確率を復習しておくこと
	9	テスト	中間テスト	2~8回目の範囲を事前に勉強しておくこと
	10	集合・領域	集合の基礎・領域	集合・領域を復習しておくこと
	11	表の読み取り	表の読み取り	表の読み取り問題を復習しておくこと
	12	論理	命題・推論①	命題について復習しておくこと
	13	論理	推論②	推論について復習しておくこと
	14	総復習	総復習①	全ての範囲を事前に勉強しておくこと
	15	テスト	最終テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと

関連科目	キャリアデザインⅡ、インターンシップⅠ・Ⅱ
------	-----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	オリジナル教材を使用します。また適宜 Smart SPI の活用を指示します。		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	小学校6年間の算数が6時間でわかる本	間地 秀三	PHP 研究所
	2			
	3			

評価方法(基準)	小テスト 40%、中間テスト・最終テスト 50%、SmartSPI 10% その他授業態度などで加減します。
----------	---

学生へのメッセージ	7~8割の企業が就職活動で筆記試験を課すと言われています。早めの対策しておくこと、受けることのできる会社が広がります。その一方、毎年多くの3回生が秋・冬から筆記試験対策を始め、他の就職活動が忙しく時間を勉強できないままです。早めに対策をしておきましょう。受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して確実に問題を解けるようになってください。
-----------	--

担当者の研究室等備考	7号館3階 キャリア教育推進室
------------	-----------------

科目名	生涯スポーツ実習	科目名(英文)	Lifetime Sports
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	河瀬 泰治
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

教養科目

授業概要・目的	<p>スポーツ科学実習で習得した基礎知識をベースにより応用的な内容に発展させ、スポーツライフ形成の大切さを学ぶ。スポーツ活動の楽しさや身体活動の重要性を自覚するとともに、生涯スポーツ参加への意識向上と自信を深めることを目的とする。</p>																																																																		
到達目標	<p>① 運動技術の向上 ② 競技ルール理解 ③ 学生相互のコミュニケーション能力の向上</p> <p>V科の学習・教育目標との対応：A R科の学習・教育目標との対応：A A科の学習・教育到達目標との対応：C M科の学習・教育到達目標との対応：A2, A3 E科の学習・教育到達目標との対応：B C科の学習・教育到達目標との対応：II</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>【授業内容】 実技形式で行う。(雨天の場合、他の種目の実技や講義形式を行う場合がある。) 授業での開講種目は下記のとおりである。 前期 ①サッカー、②テニス、③ソフトボール、④バドミントン、バレーボール、バスケットボール⑤卓球 後期 ①サッカー、②テニス、③バドミントン、バレーボール、バスケットボール、④卓球、 これら種目の他に、集中授業としてゴルフを開講しますが、通年授業の生涯スポーツ実習との重複履修は出来ません。 ※尚、各種目の人数が多すぎる場合や少なすぎる場合は、他の種目に移動、もしくは</p>																																																																		
科目学習の効果(資格)	<p>生活していくうえでの個人における基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術の獲得である。</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>ガイダンス(履修上の注意事項の説明) コース種目分け</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>各コース別実技</td> <td>競技の概要説明、基礎技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>各コース別実技</td> <td>基礎技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>各コース別実技</td> <td>審法、戦術の解説、攻防技術練習、ゲームの解説</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>各コース別実技</td> <td>基礎技術練習・簡易試合、解説とゲーム</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>各コース別実技</td> <td>基礎技術練習・簡易試合</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>各コース別実技</td> <td>基礎技術練習・簡易試合</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	ガイダンス(履修上の注意事項の説明) コース種目分け	授業内容のまとめ	2	各コース別実技	競技の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ	3	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ	4	各コース別実技	審法、戦術の解説、攻防技術練習、ゲームの解説	授業内容のまとめ	5	各コース別実技	基礎技術練習・簡易試合、解説とゲーム	授業内容のまとめ	6	各コース別実技	基礎技術練習・簡易試合	授業内容のまとめ	7	各コース別実技	基礎技術練習・簡易試合	授業内容のまとめ	8	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	9	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	10	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	11	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	12	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	13	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	14	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	15	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	ガイダンス(履修上の注意事項の説明) コース種目分け	授業内容のまとめ																																																																
2	各コース別実技	競技の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ																																																																
3	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ																																																																
4	各コース別実技	審法、戦術の解説、攻防技術練習、ゲームの解説	授業内容のまとめ																																																																
5	各コース別実技	基礎技術練習・簡易試合、解説とゲーム	授業内容のまとめ																																																																
6	各コース別実技	基礎技術練習・簡易試合	授業内容のまとめ																																																																
7	各コース別実技	基礎技術練習・簡易試合	授業内容のまとめ																																																																
8	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
9	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
10	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
11	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
12	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
13	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
14	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
15	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
関連科目	<p>スポーツ科学実習Ⅰ・Ⅱ・健康論・スポーツ科学概論・保険論・健康科学・スポーツ指導者入門・スポーツ文化論・スポーツプログラミング・発育発達論・ヘルスエクササイズ理論と実際・スポーツ教育学・スポーツの歴史・スポーツトレーニングの基礎・武道論・フィットネストレーニング理論と実際・スポーツ医学の基礎・体力測定とスポーツ相談・スポーツ栄養学・スポーツ医学理論と実際</p>																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	<p>平常点50%、態度点25%、技能点25%として、総合評価する。 なお、平常点とは、授業(競技)への参加意欲、態度点とは、積極性・集中度を示す。</p>																																																																		
学生へのメッセージ	<p>授業への質問などは授業前後の休憩時間または昼休みに総合体育館1F体育館事務室にきてください。</p>																																																																		
担当者の研究室等	<p>体育館1F 体育館事務室</p>																																																																		
備考	<p>【準備物】 トレーニングウェア、スポーツシューズ(コースに適したもの)</p>																																																																		

科目名	生涯スポーツ実習	科目名(英文)	Lifetime Sports
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	河瀬 泰治
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	<p>スポーツ科学実習で習得した基礎知識をベースにより応用的な内容に発展させ、スポーツライフ形成の大切さを学ぶ。スポーツ活動の楽しさや身体活動の重要性を自覚するとともに、生涯スポーツ参加への意識向上と自信を深めることを目的とする。</p>																																																																		
到達目標	<p>① 運動技術の向上 ② 競技ルール理解 ③ 学生相互のコミュニケーション能力の向上</p> <p>V科の学習・教育目標との対応：A R科の学習・教育目標との対応：A A科の学習・教育到達目標との対応：C M科の学習・教育到達目標との対応：A2, A3 E科の学習・教育到達目標との対応：B C科の学習・教育到達目標との対応：II</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>【授業内容】 実技形式で行う。(雨天の場合、他の種目の実技や講義形式を行う場合がある。) 授業での開講種目は下記のとおりである。 前期 ①サッカー、②テニス、③ソフトボール、④バドミントン、バレーボール、バスケットボール⑤卓球 後期 ①サッカー、②テニス、③バドミントン、バレーボール、バスケットボール、④卓球、 これら種目の他に、集中授業としてゴルフを開講しますが、通年授業の生涯スポーツ実習との重複履修は出来ません。 ※尚、各種目の人数が多すぎる場合や少なすぎる場合は、他の種目に移動、もしくは</p>																																																																		
科目学習の効果(資格)	<p>生活していくうえでの個人における基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術の獲得である。</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>ガイダンス(履修上の注意事項の説明) コース種目分け</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>各コース別実技</td> <td>競技の概要説明、基礎技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>各コース別実技</td> <td>基礎技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>各コース別実技</td> <td>審法、戦術の解説、攻防技術練習、ゲームの解説</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>各コース別実技</td> <td>基礎技術練習・簡易試合、解説とゲーム</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>各コース別実技</td> <td>基礎技術練習・簡易試合</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>各コース別実技</td> <td>基礎技術練習・簡易試合</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(ブルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(ブルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(ブルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(ブルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(ブルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(ブルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(ブルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(ブルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	ガイダンス(履修上の注意事項の説明) コース種目分け	授業内容のまとめ	2	各コース別実技	競技の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ	3	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ	4	各コース別実技	審法、戦術の解説、攻防技術練習、ゲームの解説	授業内容のまとめ	5	各コース別実技	基礎技術練習・簡易試合、解説とゲーム	授業内容のまとめ	6	各コース別実技	基礎技術練習・簡易試合	授業内容のまとめ	7	各コース別実技	基礎技術練習・簡易試合	授業内容のまとめ	8	各コース別実技	ゲーム(ブルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	9	各コース別実技	ゲーム(ブルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	10	各コース別実技	ゲーム(ブルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	11	各コース別実技	ゲーム(ブルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	12	各コース別実技	ゲーム(ブルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	13	各コース別実技	ゲーム(ブルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	14	各コース別実技	ゲーム(ブルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	15	各コース別実技	ゲーム(ブルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	ガイダンス(履修上の注意事項の説明) コース種目分け	授業内容のまとめ																																																																
2	各コース別実技	競技の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ																																																																
3	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ																																																																
4	各コース別実技	審法、戦術の解説、攻防技術練習、ゲームの解説	授業内容のまとめ																																																																
5	各コース別実技	基礎技術練習・簡易試合、解説とゲーム	授業内容のまとめ																																																																
6	各コース別実技	基礎技術練習・簡易試合	授業内容のまとめ																																																																
7	各コース別実技	基礎技術練習・簡易試合	授業内容のまとめ																																																																
8	各コース別実技	ゲーム(ブルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
9	各コース別実技	ゲーム(ブルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
10	各コース別実技	ゲーム(ブルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
11	各コース別実技	ゲーム(ブルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
12	各コース別実技	ゲーム(ブルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
13	各コース別実技	ゲーム(ブルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
14	各コース別実技	ゲーム(ブルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
15	各コース別実技	ゲーム(ブルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
関連科目	<p>スポーツ科学実習Ⅰ・Ⅱ・健康論・スポーツ科学概論・保険論・健康科学・スポーツ指導者入門・スポーツ文化論・スポーツプログラミング・発育発達論・ヘルスエクササイズ理論と実際・スポーツ教育学・スポーツの歴史・スポーツトレーニングの基礎・武道論・フィットネストレーニング理論と実際・スポーツ医学の基礎・体力測定とスポーツ相談・スポーツ栄養学・スポーツ医学の理論と実際</p>																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	<p>平常点50%、態度点25%、技能点25%として、総合評価する。 なお、平常点とは、授業(競技)への参加意欲、態度点とは、積極性・集中度を示す。</p>																																																																		
学生へのメッセージ	<p>授業への質問などは授業前後の休憩時間または昼休みに総合体育館1F体育館事務室にきてください。</p>																																																																		
担当者の研究室等	<p>体育館1F 体育館事務室</p>																																																																		
備考	<p>【準備物】 トレーニングウェア、スポーツシューズ(コースに適したもの)</p>																																																																		

科目名	生涯スポーツ実習	科目名(英文)	Lifetime Sports
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	近藤 潤
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	ゴルフというスポーツを通して生涯スポーツへの参加意識向上と自信を深めることを目的にする。																																																																		
到達目標	<p>《到達目標》  運動技術の向上  競技ルールの理解  学生相互のコミュニケーション能力の向上</p> <p>V科の学習・教育目標との対応：A  R科の学習・教育目標との対応：A  A科の学習・教育到達目標との対応：C  M科の学習・教育到達目標との対応：A1  E科の学習・教育到達目標との対応：B  C科の学習・教育到達目標との対応：II</p>																																																																		
授業方法と留意点	事前ガイダンスと集中授業4日間合わせて5日間で行う。 5日間すべて受講できること。 事前の申し込みが受け付けられることが必要。 申込用紙は履修ガイダンス時に配布。																																																																		
科目学習の効果(資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>事前ガイダンス</td> <td>目的、内容、準備について ゴルフの概要</td> <td>ゴルフの概要を確認</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ゴルフの基礎知識</td> <td>ゴルフのルール、マナーについて</td> <td>ルールの再確認</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>ゴルフの基礎技術(1)</td> <td>グリップ、スウィング</td> <td>技術の反復練習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>ゴルフの基礎技術(2)</td> <td>打球練習場での練習 アイアン</td> <td>技術の反復練習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>ゴルフの基礎技術(3)</td> <td>アプローチ、パター練習</td> <td>技術の反復練習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>ゴルフの応用技術(1)</td> <td>打球練習場での練習 ドライバー</td> <td>技術の反復練習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>ゴルフの応用技術(2)</td> <td>ミニラウンド</td> <td>技術の反復練習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>ゴルフの実践</td> <td>ラウンド(9H)</td> <td>イメージトレーニング</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>14</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	事前ガイダンス	目的、内容、準備について ゴルフの概要	ゴルフの概要を確認	2	ゴルフの基礎知識	ゴルフのルール、マナーについて	ルールの再確認	3	ゴルフの基礎技術(1)	グリップ、スウィング	技術の反復練習	4	ゴルフの基礎技術(2)	打球練習場での練習 アイアン	技術の反復練習	5	ゴルフの基礎技術(3)	アプローチ、パター練習	技術の反復練習	6	ゴルフの応用技術(1)	打球練習場での練習 ドライバー	技術の反復練習	7	ゴルフの応用技術(2)	ミニラウンド	技術の反復練習	8	ゴルフの実践	ラウンド(9H)	イメージトレーニング	9				10				11				12				13				14				15			
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	事前ガイダンス	目的、内容、準備について ゴルフの概要	ゴルフの概要を確認																																																																
2	ゴルフの基礎知識	ゴルフのルール、マナーについて	ルールの再確認																																																																
3	ゴルフの基礎技術(1)	グリップ、スウィング	技術の反復練習																																																																
4	ゴルフの基礎技術(2)	打球練習場での練習 アイアン	技術の反復練習																																																																
5	ゴルフの基礎技術(3)	アプローチ、パター練習	技術の反復練習																																																																
6	ゴルフの応用技術(1)	打球練習場での練習 ドライバー	技術の反復練習																																																																
7	ゴルフの応用技術(2)	ミニラウンド	技術の反復練習																																																																
8	ゴルフの実践	ラウンド(9H)	イメージトレーニング																																																																
9																																																																			
10																																																																			
11																																																																			
12																																																																			
13																																																																			
14																																																																			
15																																																																			
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	平常点50%、態度点25%、技能点25%として、総合評価する。 なお、平常点とは、授業(競技)への参加意欲、態度点とは、積極性・集中度を示す。																																																																		
学生へのメッセージ	履修までの質問は、総合体育館のスポーツ振興センター事務室に来てください。																																																																		
担当者の研究室等																																																																			
備考	ラウンド時の服装は襟付きポロシャツ、スラックス(半ズボンの場合はハイソックス着用)、運動靴(スパイク類は禁止)																																																																		



科目名	心理と社会	科目名(英文)	Psychology and Society
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	牧野 幸志
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	心理学は、心と行動の科学であるといわれる。人間の心と行動との関係について、知覚、認知、教育、社会など多側面から考えていく。「心理と社会」では特に現代社会や社会情勢と人の行動との関わりについて解説していく。
到達目標	1)社会が個人に与える影響を理解する。2)個人が社会に与える影響を理解する。3)社会の中のコミュニケーションについて理解を深める。学科の学習・教育目標との対応：[A]
授業方法と留意点	授業担当者がパワーポイントによるプレゼンテーション形式で講義を行う。第1回授業で授業ルールなどについて説明するので必ず参加すること。出席率80%以上の学生を評価対象とする。
科目学習の効果(資格)	近年の経済不況や就職難などの社会変化が個人と集団の心理や行動にどのような影響を及ぼすのかを理解し、それにどのように対応すべきかなどの能力を身につける。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス・社会の中の心理とは?	授業内容、授業方法について説明します。 社会と心理との関係	授業内容の復習
	2	社会と心理学	社会心理学の歴史と課題	教科書該当箇所の予習 授業内容の復習
	3	社会的認知と集団心理	原因帰属	教科書該当箇所の予習 授業内容の復習
	4	自己の社会化と動機づけ	自己知覚理論	教科書該当箇所の予習 授業内容の復習
	5	社会的態度と態度変容	説得と態度変化	教科書該当箇所の予習 授業内容の復習
	6	対人行動	攻撃と援助行動	教科書該当箇所の予習 授業内容の復習
	7	社会の中の対人関係	印象形成、関係維持、関係崩壊	教科書該当箇所の予習 授業内容の復習
	8	対人関係と健康	ストレスとコーピング	教科書該当箇所の予習 授業内容の復習
	9	対人関係と幸福	ソーシャル・サポート	教科書該当箇所の予習 授業内容の復習
	10	社会的影響	同調と服従	教科書該当箇所の予習 授業内容の復習
	11	集団の影響	社会的促進と社会的手抜き	教科書該当箇所の予習 授業内容の復習
	12	集団過程	集団における意思決定	教科書該当箇所の予習 授業内容の復習
	13	集合と群衆	群衆行動の生起メカニズム	教科書該当箇所の予習 授業内容の復習
	14	流言と流行	噂の心理、流行の心理	教科書該当箇所の予習 授業内容の復習
	15	社会情勢と人間の心理/期末テスト	社会問題の中での人間の心理/期末テストの実施	—

関連科目 「人間力と心理」と関連する。「人間力と心理」を受講した後に本授業を受けて欲しい。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ミニマムエッセンス社会心理学	和田実	北大路書房
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	コミュニケーション心理学	深田博己	北大路書房
	2			
	3			

評価方法(基準) 授業内課題(上限20%)、期末テスト(80%)により、総合的に判断します。出席率80%以上の学生を評価対象とする。

学生へのメッセージ 人は社会の中で生きています。人は集団に流されたり、社会に踊らされたりします。そのようなときにどのような心理が働いているのかを解説していきます。

担当者の研究室等 11号館7階 牧野(幸)准教授室

備考 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。他人に迷惑となる行為(遅刻、私語、居眠り、内職、スマホ・携帯電話の使用など)を禁止します。



科目名	図学 I	科目名 (英文)	Descriptive Geometry I
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	木多 彩子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目 (中学校 数学)【施行規則に定める科目区分】「幾何学」【教員免許状取得のための履修区分】必修【科目】教科に関する科目 (高等学校 数学)【施行規則に定める科目区分】「幾何学」【教員免許状取得のための履修区分】必修		

教養科目

授業概要・目的	[授業概要・目的]建築は、建築家がイメージした空間 (3次元) が客観化・図形化され、その図面 (2次元) に従って施工されて、現実の建築 (3次元) として完成される。図学 I では 3次元の立体をいかに 2次元で表現するか、つまり、いかに図形化するか、そして図形化された形を、いかに空間に結びつけて読み解くかの方法を、点、直線、平面、立体の各正投影法によって学ぶ。																																																																		
到達目標	[到達目標] 1)直線の正投影の考え方と作図方法。2)平面の正投影の考え方と作図方法。3)立体の正投影の考え方と作図方法。4)正投影の陰影。学科の学習到達目標との対応：[E]																																																																		
授業方法と留意点	図学 I では、各授業において教科書を用いた講義と応用演習プリントにより、段階的に図形に対する理解を高め、具体的な図形操作能力と空間把握力を培う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	図学 II や設計演習の基礎的知識を培う。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>図学基礎</td> <td>図学の概説と授業概要、線の等分、角の等分、楕円による作図作業基礎</td> <td>復習予習課題 (1)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>点の正投影 1</td> <td>投影と正投影、正投影図</td> <td>復習予習課題 (2)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>点の正投影 2</td> <td>点の正投影図と副投影図</td> <td>復習予習課題 (3)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>直線の正投影 1</td> <td>直線の正投影図と跡</td> <td>復習予習課題 (4)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>直線の正投影 2</td> <td>直線の正投影と実長、傾角</td> <td>復習予習課題 (5)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>平面の正投影 1</td> <td>平面の正投影図と傾角</td> <td>復習予習課題 (6)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>平面の正投影 2</td> <td>平面の交線</td> <td>復習予習課題 (7)</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>第 2 回から第 7 回の復習</td> <td>第 2 回から第 7 回の内容を総括して、ここまでの流れを復習する</td> <td>第 7 回までの授業の不明点を明確にする</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>中間試験</td> <td>試験範囲を狭め理解を深める</td> <td>試験対策</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>平面の正投影 3</td> <td>平面の開角と実形</td> <td>復習予習課題 (8)</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>立体の正投影 1</td> <td>正多面体の平面図と立面図</td> <td>復習予習課題 (9)</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>立体の正投影 2</td> <td>立体の切断、断面図</td> <td>復習予習課題 (10)</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>陰影 1</td> <td>直線・平面の陰影</td> <td>復習予習課題 (11)</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>陰影 2</td> <td>立体の陰影</td> <td>復習予習課題 (12)</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>第 10 回から第 14 回の復習</td> <td>第 10 回から第 14 回の内容を総括して、ここまでの流れを復習する</td> <td>第 14 回までの授業の不明点を明確にする</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	図学基礎	図学の概説と授業概要、線の等分、角の等分、楕円による作図作業基礎	復習予習課題 (1)	2	点の正投影 1	投影と正投影、正投影図	復習予習課題 (2)	3	点の正投影 2	点の正投影図と副投影図	復習予習課題 (3)	4	直線の正投影 1	直線の正投影図と跡	復習予習課題 (4)	5	直線の正投影 2	直線の正投影と実長、傾角	復習予習課題 (5)	6	平面の正投影 1	平面の正投影図と傾角	復習予習課題 (6)	7	平面の正投影 2	平面の交線	復習予習課題 (7)	8	第 2 回から第 7 回の復習	第 2 回から第 7 回の内容を総括して、ここまでの流れを復習する	第 7 回までの授業の不明点を明確にする	9	中間試験	試験範囲を狭め理解を深める	試験対策	10	平面の正投影 3	平面の開角と実形	復習予習課題 (8)	11	立体の正投影 1	正多面体の平面図と立面図	復習予習課題 (9)	12	立体の正投影 2	立体の切断、断面図	復習予習課題 (10)	13	陰影 1	直線・平面の陰影	復習予習課題 (11)	14	陰影 2	立体の陰影	復習予習課題 (12)	15	第 10 回から第 14 回の復習	第 10 回から第 14 回の内容を総括して、ここまでの流れを復習する	第 14 回までの授業の不明点を明確にする
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	図学基礎	図学の概説と授業概要、線の等分、角の等分、楕円による作図作業基礎	復習予習課題 (1)																																																																
2	点の正投影 1	投影と正投影、正投影図	復習予習課題 (2)																																																																
3	点の正投影 2	点の正投影図と副投影図	復習予習課題 (3)																																																																
4	直線の正投影 1	直線の正投影図と跡	復習予習課題 (4)																																																																
5	直線の正投影 2	直線の正投影と実長、傾角	復習予習課題 (5)																																																																
6	平面の正投影 1	平面の正投影図と傾角	復習予習課題 (6)																																																																
7	平面の正投影 2	平面の交線	復習予習課題 (7)																																																																
8	第 2 回から第 7 回の復習	第 2 回から第 7 回の内容を総括して、ここまでの流れを復習する	第 7 回までの授業の不明点を明確にする																																																																
9	中間試験	試験範囲を狭め理解を深める	試験対策																																																																
10	平面の正投影 3	平面の開角と実形	復習予習課題 (8)																																																																
11	立体の正投影 1	正多面体の平面図と立面図	復習予習課題 (9)																																																																
12	立体の正投影 2	立体の切断、断面図	復習予習課題 (10)																																																																
13	陰影 1	直線・平面の陰影	復習予習課題 (11)																																																																
14	陰影 2	立体の陰影	復習予習課題 (12)																																																																
15	第 10 回から第 14 回の復習	第 10 回から第 14 回の内容を総括して、ここまでの流れを復習する	第 14 回までの授業の不明点を明確にする																																																																
関連科目	図学 II や設計演習のために修得しておくこと。																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>建築図学</td> <td>佐藤 平</td> <td>理工学社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	建築図学	佐藤 平	理工学社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	建築図学	佐藤 平	理工学社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	中間試験 (30%)、期末試験 (30%)、演習 (20%)、復習課題 (20%)																																																																		
学生へのメッセージ	図学 I は必修科目であり、ぜひ 1 年次で単位を修得してほしいです。欠席せずに、まじめに演習に取り組んでいる学生で、単位が修得できない人はほばいません。予習よりも復習を大切にしてください。																																																																		
担当者の研究室等	8 号館 3 階 木多教授室																																																																		
備考	事前学習：事前・事後学習欄に示した内容について、毎回 0.5 時間以上をかけて調べておく。 事後学習：事前・事後学習欄に示した内容について、毎回 1 時間以上かけて問題を解きなおす。																																																																		

科目名	図学Ⅱ	科目名(英文)	Descriptive Geometry II
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小林 健治
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目(中学校 数学)【施行規則に定める科目区分】「幾何学」【教員免許状取得のための履修区分】選択【科目】教科に関する科目(高等学校 数学)【施行規則に定める科目区分】「幾何学」【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	図学Ⅱでは、投影を理解し、3次元の立体や空間を2次元の平面に描く図法を学習し、空間表現力ならびに空間把握力を強化する。主として軸測投影、透視投影、標高投影を学び、様々な形態や空間を適切に表現する力を培う。
到達目標	1) 軸測投影の作図方法の修得、2) 透視投影の作図方法の修得、3) 標高投影の作図方法の修得、4) 投影を用いたプレゼンテーションの理解 学科の学習・教育目標との対応：[E]
授業方法と留意点	各授業において配布プリントを用いた講義と演習により、軸測投影や透視投影を条件を変化させて段階的に学習する。
科目学習の効果(資格)	設計演習のための基礎的な表現手法の修得。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	投影とは	2次元と3次元、その図表現の違いを理解する	予習課題を行う
2	軸測投影 1	軸測対象の基礎	返却する演習プリントの復習および予習課題を行う
3	軸測投影 2	軸測対象の応用 1	返却する演習プリントの復習および予習課題を行う
4	軸測投影 3	軸測対象の応用 2	返却する演習プリントの復習および予習課題を行う
5	中間試験と透視図	軸測投影の修得確認 透視図をもちいた表現	返却する演習プリントの復習および予習課題を行う
6	透視投影 1	直接法による透視図	返却する演習プリントの復習および予習課題を行う
7	透視投影 2	平行透視図法による透視図 1	返却する演習プリントの復習および予習課題を行う
8	透視投影 3	平行透視図法による透視図 2	返却する演習プリントの復習および予習課題を行う
9	透視投影 4	成角透視図法による透視図 1	返却する演習プリントの復習および予習課題を行う
10	透視投影 5	成角透視図法による透視図 2	返却する演習プリントの復習および予習課題を行う
11	透視投影 6	成角透視図法による透視図 3	返却する演習プリントの復習および予習課題を行う
12	中間試験と標高投影	透視投影の修得確認 標高投影	返却する演習プリントの復習および予習課題を行う
13	透視投影 7	透視図法の応用 1	返却する演習プリントの復習および予習課題を行う
14	透視投影 8	透視図法の応用 2	返却する演習プリントの復習および予習課題を行う
15	透視投影 9	透視図法の応用 3	返却する演習プリントの復習

関連科目 図学Ⅰ、設計演習科目。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	やさしく学ぶ建築製図 [改訂版]	松下希和、長沖充、照内創	エクスナレッジムック
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準) 授業への積極的な関与及び毎回の演習(30%)、中間試験の合計(30%)、期末試験(40%)。遅刻、欠席は減点対象とします。

学生へのメッセージ 毎回の演習内容は、段階的な理解を目指して作成している為、欠席した場合は必ず自己学習をして追いついてください。学習する内容について実際どのように使うか意識して、演習に取り組んでください。また、必修科目ですので是非1年次で取得してください。

担当者の研究室等 8号館3階 小林講師室

備考 事前学習：各回の内容について、教科書を参照しながら、毎回0.5時間以上調べておく  
事後学習：返却したプリントに書かれたコメントを参照しながら、毎回1時間以上かけて解きなます。

科目名	スポーツ科学実習 I	科目名 (英文)	Practicum in Sports Science I
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	河瀬 泰治
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

教養科目

授業概要・目的	健康を基盤として生涯を通じて明るく活力のある生活を営むためには、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たします。本科目では、運動技術の習得およびスポーツの楽しさを理解するとともに、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としています。																																																																		
到達目標	① 運動技術の向上 ② 競技ルールの理解 ③ 学生相互のコミュニケーション能力の向上 A科 学習教育到達目標との対応：【C】																																																																		
授業方法と留意点	実技形式で行う。(雨天の場合、他の種目の実技や講義形式を行う場合がある。) 授業での開講種目は、以下のとおりである。 ・体育館種目 (バドミントン・バレーボール・バスケットボール・卓球など) ・屋外種目 (サッカー・ソフトボール・テニス・タグラグビーなど) ※尚、各種目の人数が多すぎる場合や少なすぎる場合は、他の種目に移動、もしくは開講しないことがあります。また、第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので、必ず出席すること。何らかの事情で出席できない場合は、事前に体育館事務室まで連																																																																		
科目学習の効果 (資格)	生活していくうえでの個人における基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術の獲得である。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>ガイダンス (履修上の注意やコース種目分け)</td> <td>ルールの理解</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>体力測定①</td> <td>屋外種目</td> <td>測定記録評価</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>体力測定②</td> <td>屋内種目</td> <td>測定記録評価</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>各コース別実技</td> <td>競技の概要説明、基礎技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>各コース別実技</td> <td>基礎技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>各コース別実技</td> <td>審法、戦術の解説、攻防技術練習、ゲームの解説</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>各コース別実技</td> <td>基礎技術練習、簡易試合、解説とゲーム</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>各コース別実技</td> <td>基礎技術練習、簡易試合</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>各コース別実技</td> <td>基礎技術練習、簡易試合</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム (グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム (グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム (グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム (グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム (グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム (グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	ガイダンス (履修上の注意やコース種目分け)	ルールの理解	2	体力測定①	屋外種目	測定記録評価	3	体力測定②	屋内種目	測定記録評価	4	各コース別実技	競技の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ	5	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ	6	各コース別実技	審法、戦術の解説、攻防技術練習、ゲームの解説	授業内容のまとめ	7	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合、解説とゲーム	授業内容のまとめ	8	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合	授業内容のまとめ	9	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合	授業内容のまとめ	10	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	11	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	12	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	13	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	14	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	15	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	ガイダンス (履修上の注意やコース種目分け)	ルールの理解																																																																
2	体力測定①	屋外種目	測定記録評価																																																																
3	体力測定②	屋内種目	測定記録評価																																																																
4	各コース別実技	競技の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ																																																																
5	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ																																																																
6	各コース別実技	審法、戦術の解説、攻防技術練習、ゲームの解説	授業内容のまとめ																																																																
7	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合、解説とゲーム	授業内容のまとめ																																																																
8	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合	授業内容のまとめ																																																																
9	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合	授業内容のまとめ																																																																
10	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
11	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
12	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
13	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
14	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
15	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
関連科目	生涯スポーツ実習・健康論・スポーツ科学概論・保険論・健康科学・スポーツ指導者入門・スポーツ文化論・スポーツプログラミング・発育発達論・ヘルスエクササイズ理論と実際・スポーツ教育学・スポーツの歴史・スポーツトレーニングの基礎・武道論・フィットネストレーニングの理論と実際・スポーツ医学の基礎・体力測定とスポーツ相談・スポーツ栄養学・スポーツ医学の理論と実際																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	平常点50%、態度点25%、技能点25%として、総合評価する。 なお、平常点とは、授業(競技)への参加意欲、態度点とは、積極性・集中度を示す。																																																																		
学生へのメッセージ	授業への質問などは授業前後の休憩時間または休休みに総合体育館1F体育館事務室にきてください。																																																																		
担当者の研究室等	総合体育館 1F 体育館事務室																																																																		
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ (コースに適したもの)																																																																		

科目名	スポーツ科学実習Ⅱ	科目名(英文)	Practicum in Sports Science II
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	河瀬 泰治
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	健康を基盤として生涯を通じて明るく活力のある生活を営むためには、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たします。本科目では、運動技術の習得およびスポーツの楽しさを理解するとともに、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としています。
到達目標	① 運動技術の向上 ② 競技ルールの理解 ③ 学生相互のコミュニケーション能力の向上 A科 学習教育到達目標との対応：【C】
授業方法と留意点	実技形式で行う。(雨天の場合、他の種目の実技や講義形式を行う場合がある。) 授業での開講種目は、以下のとおりである。 ・体育館種目 (バドミントン・バレーボール・バスケットボール・卓球など) ・屋外種目 (サッカー・ソフトボール・テニス・ラグビーなど) ※尚、各種目の人数が多すぎる場合や少なすぎる場合は、他の種目に移動、もしくは開講しないことがあります。また、第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので、必ず出席すること。何らかの事情で出席できない場合は、事前に体育館事務室まで連
科目学習の効果(資格)	生活していくうえでの個人における基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術の獲得である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	ガイダンス(履修上の注意やコース種目分け)	ルールの理解
	2	各コース別実技	競技の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ
	3	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ
	4	各コース別実技	審法、戦術の解説、攻防技術練習、ゲームの解説	授業内容のまとめ
	5	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合、解説とゲーム	授業内容のまとめ
	6	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合	授業内容のまとめ
	7	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合	授業内容のまとめ
	8	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ
	9	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ
	10	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ
	11	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ
	12	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ
	13	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ
	14	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ
	15	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ

関連科目 生涯スポーツ実習・健康論・スポーツ科学概論・保険論・健康科学・スポーツ指導者入門・スポーツ文化論・スポーツプログラミング・発育発達論・ヘルスエクササイズ理論と実際・スポーツ教育学・スポーツの歴史・スポーツトレーニングの基礎・武道論・フィットネストレーニングの理論と実際・スポーツ医学の基礎・体力測定とスポーツ相談・スポーツ栄養学・スポーツ医学の理論と実際

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	平常点50%、態度点25%、技能点25%として、総合評価する。 なお、平常点とは、授業(競技)への参加意欲、態度点とは、積極性・集中度を示す。
学生へのメッセージ	授業への質問などは授業前後の休憩時間または昼休みに総合体育館1F体育館事務室にきてください。
担当者の研究室等	総合体育館 1F 体育館事務室
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ(コースに適したもの)

科目名	青少年育成ファシリテーター養成講座	科目名(英文)	Facilitator Training Program
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野 英一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	教養特別講義「青少年育成ファシリテータ養成講座」は、サービスマニエールの授業であり、青少年育成ファシリテーターとして、知識・野外活動の方法を習得し実習を通して学びと成長を得ることができる実践型学習プログラム。実践は単なる擬似的体験ではなく、人々のために役立ったという現実的な体験を得ることを目的としている。																		
到達目標	到達目標として自己の振り返りと自己発見、責任感、価値観・技能や知識の獲得、リスクマネジメント、社会問題の理解を果たす体験を同時に得るものである。																		
授業方法と留意点	大学の授業後や、授業の無い日を利用して学外活動する。週に1度、90分の活動が基本となっているが、夏休み・冬休みなど長期の休み期間中に集中して活動することも可能。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>活動受入機関は、寝屋川市内の小学校、寝屋川市教育委員会関連団体、共学センター、交野市役所、門真市役所、すさみ町役場、寝屋川青年会議所等の主催・共催事業である。</p> <p>① 活動についての心構え、授業内容の徹底周知、ファシリテーターについて  ② 守秘義務：活動に伴って知った情報を漏らしてはならない義務を学ぶ  ③ 安全管理スキル：活動に伴って発生しうる事故を未然に防ぐ方法を学ぶ  ④ 救命救護スキル：命の大切さ、命を助ける方法、AEDの使用法を学ぶ  ⑤ 安全対策スキル：安全。衛生管理、危険予知、責任について学ぶ  ⑥ コミュニケーションスキルA：対象者理解、人とのかかわり方を学ぶ  ⑦ コミュニケーションスキルB：報告、連絡、相談（ホウ・レン・ソウ）の重要性を学ぶ  ⑧ コミュニケーションスキルC：アイスブレイキング手法を学ぶ  ⑨ コミュニケーションスキルD：指導者のあるべき姿、リーダーシップの取り方  ⑩ 活動プログラミング・スキル：課題設定・企画立案・実施・評価方法  ⑪ 受入機関において青少年育成ファシリテーター活動実践  ⑫ 青少年育成ファシリテーター活動実践のふりかえり</p> <p>履修上の注意：  学外団体との連携と信頼関係構築が必要であることから、履修希望者は事前（2015年1月・2月に実施済）に授業担当者（外国語学部・浅野教授）から、説明を受け、活動内容を確認し履修許可を受けた学生のみ履修可能となる。</p> <p>事前・事後学習課題：  学外での活動に際し、各種活動（各受入れ団体によって異なる）の事前準備および活動後の報告書（日報等）の作成に各1時間程度行う。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1											
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	①参加日数、②実習報告書、③最終報告書、④受入機関からの調書、以上の4点を総合的に判断して評価する。																		
学生へのメッセージ	青少年育成活動を通して、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。																		
担当者の研究室等	7号館5階（浅野研究室）																		
備考																			

科目名	ダイバーシティとコミュニケーション	科目名(英文)	Diversity and Communication
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井 三恵
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	グローバル社会では、日本人の従来の常識では予測のつかない疑問点が溢れている。「境界線」も一つの視野では理解できない。さまざまな差異を理解するためには、ダイバーシティ(多様性)を尊重し、受け入れ、積極的に活かすことが大切であることを事例を通して学ぶ。ジェンダーの基本的理解はもちろん、ビジネスにおけるダイバーシティ・マネジメントをジェンダー視点で俯瞰することが目的である。
到達目標	ダイバーシティ理解に欠かせないコミュニケーション手法の一つであるアサーティブネス論を中心に理解を促進させ、そのスキルを学ぶことによって社会生活に活かすことを目標とする。
授業方法及び留意点	第一に学問的探究をもち、偏見なく学ぶ姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。
科目学習の効果(資格)	ダイバーシティ・マネジメントにおける社員教育の在り方を理解することができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	・ダイバーシティの世界へようこそ	ダイバーシティをイメージしてみましょう。
	2	ダイバーシティと境界線	・ウチとソトの感覚	私たちの周りにある伝統や習慣について考えてみましょう。
	3	ジェンダー視点	・フェミニズム×女性学+男性学=人間学	フェミニズムの歴史的背景を理解し、近年話題のエコフェミニズムについて考えてみましょう。
	4	日本の近代化	・明治の落とし物	明治・大正・昭和の世相と時代を文学の世界から垣間見ることによって、現代にも残存している慣習とは何かを考えてみましょう。
	5	国際統計比較①	・ジェンダーエンパワーメント指数	国際的な統計から、日本の置かれた位置を確認し、何が問題であるか考えてみましょう。
	6	性役割の形成①	・発達段階における「刷り込み」	性役割を理解し、幼児期から振り返ってみましょう。
	7	性役割形成②	・結婚と母性信仰	共同作業である結婚の意味を見直すと同時に、親役割に関して考えてみましょう。
	8	「らしさ」とセクシャル・ポリティクス	・M字型労働力率曲線とビジネスマインドの形成	日本と世界を比較しながら、女性労働について考えてみましょう。
	9	ワークライフバランスとビジネス組織	・ジェンダー・マネジメント	ワークライフバランスとは何か、政府の見解を調べてみましょう。
	10	アサーティブネス理論①	・世界中でアサーティブネスが用いられる理由	アサーティブネス理論を学びましょう。
	11	アサーティブネス理論②	・スキルを身に付ける	スキルを身に付けることで、実生活に活かしてみましょ。
	12	国際統計比較②	・男女共同参画社会とは	男女共同参画社会に関して調べましょう。
	13	ダイバーシティ・マネジメント①	・企業比較	発展している企業が必ず取り入れているダイバーシティ・マネジメントについて、事例研究してみましょ。
	14	ダイバーシティ・マネジメント②	・プレゼンテーション	事例研究した内容をプレゼンテーションできるようにしましょ。
	15	まとめ		

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	共に学ぶ女性学 ー明日を共に生きるためにー	石井三恵	泉文堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	ロールプレイ(30%)、プレゼンテーション(30%)、レポート(40%)を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	皆さんの身近に存在している不思議を解き明かすカギが女性学、フェミニズム、ジェンダー論にあります。私たちは生まれも育ちも異なることから考え方も異なるように、外国の方にもそれが当てはまり、みな同じ問題を抱えています。事例を通して体験しながら、人としての生きる権利とは何かを考えてみませんか。
担当者の研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室(石井)
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。



科目名	地域連携教育活動 I	科目名 (英文)	Community-Based Education Support Activities I
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野 英一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	本授業はサービラーニングの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の幼稚園・小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適正を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習」の補助、学校行事運営補助、クラブ・サークル活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週1回90分行う。																		
到達目標	物事を多面的に考察できること、社会的倫理観の確立、相手に理解できるように論理的かつ的確なコミュニケーション能力を持つこと。																		
授業方法と留意点	原則として、履修申請が可能な学生は、本年1月に行なわれた特別事前履修相談会で受け入れ校の校長・教頭・園長との相談結果によって受入れ許可を得た学生で、「地域連携教育活動 I」を初めて履修する学生を対象とする。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>事前教育1 (4月8日水曜日6時限目:1134教室) 活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備</p> <p>事前教育2 (4月15日水曜日6時限目:1134教室) マナー講座・小中学校の教育現場について(学外講師を含む)</p> <p>事前教育3 (4月22日水曜日6時限目:1134教室)「守秘義務」の意味とその内容について(教育委員会からの学外講師)</p> <p>活動準備 受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する</p> <p>活動1~25 受け入れ校にて活動(活動業務日報・活動時間票の提出)</p> <p>最終報告会 (1月中旬・スカイラウンジにおいて)各自活動報告をする。</p> <p>※注意事項 事前教育1~3のみ水曜日6時限目に教室で授業。事前教育授業に1回でも欠席した場合は、履修取り消しにします。</p> <p>事前・事後学習課題 学外での活動に際し、各種活動(各受け入れ団体によって異なる)の事前準備および活動後の報告書(日報等)の作成に各1時間程度行う。</p>																		
関連科目	教職課程を履修していない学生でもこの科目を履修することができる。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1											
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	①年間活動計画書 ②活動業務日報・活動時間数(出席数)票 ③活動進捗状況報告書 ④最終活動報告書の全てを提出し、発表会で活動報告した場合のみ、それらを総合的に判断して評価する。																		
学生へのメッセージ	大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の幼稚園、小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。																		
担当者の研究室等	7号館5階(浅野研究室) 7号館4階(浦野研究室) 7号館3階(鳥居研究室)																		
備考	事前授業を4月8日 第6時限目1134教室で行います。必ず出席してください。																		

科目名	地域連携教育活動Ⅱ	科目名(英文)	Community-Based Education Support Activities II
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野 英一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	本授業はサービラーニングの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の幼稚園・小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適正を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習」の補助、学校行事運営補助、クラブ・サークル活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週1回90分行う。																		
到達目標	物事を多面的に考察できること、社会的倫理観の確立、相手に理解できるように論理的かつ的確なコミュニケーション能力を持つこと。																		
授業方法と留意点	原則として、履修申請が可能な学生は、本年1月に行なわれた特別事前履修相談会で受け入れ校の校長・教頭・園長との相談結果によって受入れ許可を得た学生で、昨年度「地域連携教育活動Ⅰ」を履修した学生のみが登録できる。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>事前教育1 (4月8日水曜日6時限目:1134教室) 活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備</p> <p>事前教育2 (4月15日水曜日6時限目:1134教室) マナー講座・小中学校の教育現場について(学外講師を含む)</p> <p>事前教育3 (4月22日水曜日6時限目:1134教室)「守秘義務」の意味とその内容について(教育委員会からの学外講師)</p> <p>活動準備 受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する</p> <p>活動1~25 受け入れ校にて活動(活動業務日報・活動時間票の提出)</p> <p>最終報告会 (1月中旬・スカイラウンジにおいて)各自活動報告をする。</p> <p>※注意事項 事前教育1~3のみ水曜日6時限目に教室で授業。事前教育授業に1回でも欠席した場合は、履修取り消しにします。</p> <p>事前・事後学習課題 学外での活動に際し、各種活動(各受け入れ団体によって異なる)の事前準備および活動後の報告書(日報等)の作成に各1時間程度行う。</p>																		
関連科目	教職課程を履修していない学生でもこの科目を履修することができる。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1											
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	①年間活動計画書 ②活動業務日報・活動時間数(出席数)票 ③活動進捗状況報告書 ④最終活動報告書の全てを提出し、発表会で活動報告した場合のみ、それらを総合的に判断して評価する。																		
学生へのメッセージ	大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の幼稚園、小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。																		
担当者の研究室等	7号館5階(浅野研究室) 7号館4階(浦野研究室) 7号館3階(鳥居研究室)																		
備考	事前授業を4月8日 第6時限目1134教室で行います。必ず出席してください。																		



科目名	チームビルディング	科目名 (英文)	Team Building
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	水野 武
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	成熟社会においては個人の力を集合させてプロジェクトを作り上げる「チームビルディングの思考や技術」を学ぶことが重要である。本科目はチームビルディングの理論を学び、様々なアクティビティを通してチームに貢献する方法を考えられるようになるための授業である。2回生以降に摂南大学 PBL プロジェクトを履修する際にも役立つ。
到達目標	学科の学習・教育目標との対応：工学部[A]，理工学部 [I1] チームで物事を進める際に必要な知識が理解出来るようになり、技能を身につけることを目標とする。
授業方法と留意点	講義は受講生によるアクティビティ・プレゼンテーション・グループワークなどを織り交ぜて進める。
科目学習の効果 (資格)	チームで物事を進める際の基礎知識が身につく。

教養科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	チームビルディングとは何か	・自己紹介ワーク ・チームビルディングの理論を学ぶ ・チームビルディングのための技能を知る	チームにどのように貢献できるかを考える。
3	チームビルディング体験	・ペーパータワーワーク (予定) ・チームの10カ条 などに取り組み、チームビルディングを体験する	チームでの取り組みを振り返る。
4	チームを機能させるために必要なこと	・チームを機能させるために必要な要素を学ぶ	配布資料を精読する。
5	チームビルディングを身につけるためのアクティビティ①	・チームでワークに取り組み、情報の読み取りと活用、合意形成を学ぶ	配布資料を精読する。
6	チームビルディングを身につけるためのアクティビティ②	・チームでワークに取り組み、情報の読み取りと活用、合意形成を学ぶ	配布資料を精読する。
7	ビジネス記事を活用したディスカッション①	記事を活用して情報の読み取りと活用、自分ならどうするかを考える	チームでのディスカッションを振り返る。
8	メンバーを支援する	・質問だけで話し合いを進める ・ヒーローインタビュー	入学から今までを振り返って「最も達成した事柄」を思い出しておく。
9	チームでプロジェクトを企画する	・第二回チーム分け ・自己紹介ワーク ・チームでプロジェクトを企画する	チームにどのように貢献できるかを考える。
10	摂南大学 PBL プロジェクトの紹介	本学で開講されている摂南大学 PBL プロジェクトの紹介	興味を持ったプロジェクトについて調べる。
11	摂南大学 PBL プロジェクトの紹介	本学で開講されている摂南大学 PBL プロジェクトの紹介	興味を持ったプロジェクトについて調べる。
12	工程管理を意識したチームビルディング	ビジネスゲームを題材にリソースとコスト、工程管理を意識したワークに取り組む	工程管理に関して調べる。
13	プロジェクトのプレゼンテーション	第9回目の課題の報告プレゼンテーション	プレゼンテーションの際に留意することを考える。
14	チーム力を上げる	・メンバーの力でチーム全体の力を上げる方法を考える	講義後日常生活で活かせるような箇所を実践する。
15	講義のまとめと振り返り	講義のおさらいと振り返りを行う	提出物などの出し忘れがないか確認する。

関連科目	キャリアデザイン I・II、摂南大学 PBL プロジェクト
------	-------------------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	チームでの提出物30%、ワーク後の振り返りシート20%、授業態度20%、最終レポート30% で総合的に評価する。
-----------	--

学生へのメッセージ	ワークやアクティビティを織り交ぜる授業となるので、主体性を持って講義に挑むこと。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階 キャリア教育推進室 (水野研究室)
----------	-------------------------

備考	
----	--

科目名	哲学から学ぶ	科目名(英文)	Philosophy
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	柿本 佳美
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	<p>この授業では、哲学の歴史をたどりながら、科学技術を支える考え方やわたしたちの生活のなかで当たり前のように受け止めている価値観や社会規範のルーツを学びます。</p> <p>私たちは、「自由ではない」状態については気が付くことができますが、そもそも「自由」とは何かと問われると、すぐには答えられないでしょう。これは、「自由」をめぐる人々の理解が時代や社会のありようによって大きく左右されるからです。しかし、社会のありかたがどれほど大きく異なっても、「自由」という言葉で指し示される概念そのものはさほど変化しないのです。</p> <p>古代ギリシャの人々は、人間が作り出すことができない自然のなかのさまざまな変化を観察し、これに驚くとともに、すべてのものに共通する原理は何かと考えました。この「驚き」は、「哲学」を生み、自然科学を含む学問全体の始まりとなったのです。その後、狭い意味での哲学は、「存在」とは何か、そしてひとの「よき生」とは何かを問う分野として、発展してきました。「自由」をめぐる議論は、「よき生」をめぐる問いのなかから生まれたのです。</p> <p>ここでは、自然科学の進歩の歴史も視野に入れつつ、現代社会の問題を通して「自由」とは何かを考えていきましょう。</p>																																																																		
到達目標	<p>哲学の古典的な理論を知り、現代社会におけるさまざまな問題のなかにある普遍的な論点を見出し、分析することができる。</p> <p>V科の学習・教育目標との対応：A R科の学習・教育目標との対応：A A科の学習・教育到達目標との対応：A M科の学習・教育到達目標との対応：A1 E科の学習・教育到達目標との対応：B C科の学習・教育到達目標との対応：II</p>																																																																		
授業方法と留意点	講義形式で進めますが、人数によってはディスカッションも取り入れます。																																																																		
科目学習の効果(資格)	哲学史を学ぶことで哲学の思考形式に慣れ、社会構造について多角的に把握する視点を身につける。																																																																		
授業計画	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">回数</th> <th style="width: 30%;">授業テーマ</th> <th style="width: 30%;">内容・方法等</th> <th style="width: 30%;">事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>はじめに：「自由」という言葉が意味するもの</td> <td>授業説明と導入。「私はシャルリー」とその波紋。</td> <td>予習 「自由」と「自由でない」ことの区別はどこにあるのか、考えてみよう。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>「生きる」と「よく生きる」ことの間には：『ソクラテスの弁明』</td> <td>『ソクラテスの弁明』から「よく生きる」ことについて考える。</td> <td>予習 裁判員制度について調べる。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>「平等」は難しい？：アリストテレス『政治学』</td> <td>プラトン『国家』と対比しながら、望ましい社会構造のあり方について考える。</td> <td>予習 「平等」の概念について調べる。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>意志の自由が平等をつくる：ストア主義</td> <td>ストア主義が成立した背景をたどり、なぜ人は精神の自由を必要とするのか、考える。</td> <td>予習 古代ローマの歴史を復習しておく。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>哲学と宗教：ユダヤ教、キリスト教、イスラム教</td> <td>宗教がもたらす哲学の思考枠組と限界を理解する。</td> <td>予習 イエルサレムにあるユダヤ教・キリスト教・イスラム教の聖地を調べる。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>自由をめぐる大論争：エラスムス vs. ルター</td> <td>人間の自由意志による信仰と予定説の対立を理解する。</td> <td>予習 カトリックとプロテスタントの違いを調べる。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>自然科学の方法と哲学：デカルト</td> <td>数学者デカルトが見出した自然科学の方法とこれに基づく哲学がもたらした影響を理解する。</td> <td>予習 デカルト『方法序説』第1部に目を通しておく。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>「神即自然」と人間の自由：スピノザ</td> <td>スピノザの差異を肯定する哲学が汎神論に基づくことを理解する。</td> <td>予習 17世紀のオランダについて調べておく。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>社会契約論のルーツ：ホッブズとロック</td> <td>社会における「自由」を保証する理論枠組としての「社会契約」を理解する。</td> <td>予習 17世紀のイギリスについて調べておく。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>人はなぜ社会をつくるのか？：ルソー</td> <td>社会契約論の系譜について学ぶ。</td> <td>予習 フランス革命について調べておく。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>労働と自由：マルクスとスミス</td> <td>物心信仰の発生の過程と、福祉制度の誕生について理解する。</td> <td>予習 産業革命について調べておく。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>人はなぜ戦争をするのか？：カント</td> <td>カントによる永遠平和の定義と訪問権について理解する。</td> <td>予習 18世紀のヨーロッパの政情について調べておく。</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>自らを作り出す存在：ニーチェ</td> <td>ニーチェによるニヒリズムと「生への意志」の定義を理解する。</td> <td>予習 ロマン主義について調べておく。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>なぜ格差は許されないか？：ロールズとセン</td> <td>自由を実現するうえで必要となる「潜在能力」について考える。</td> <td>予習 「平等」の概念の発生について調べておく。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ：技術と自由</td> <td>C.P.スノー『二つの文化』とM.ボランニー『暗黙知の次元』から、市民社会における科学技術のあり方を考える。</td> <td>予習 技術者の説明責任について考えておくこと。</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	はじめに：「自由」という言葉が意味するもの	授業説明と導入。「私はシャルリー」とその波紋。	予習 「自由」と「自由でない」ことの区別はどこにあるのか、考えてみよう。	2	「生きる」と「よく生きる」ことの間には：『ソクラテスの弁明』	『ソクラテスの弁明』から「よく生きる」ことについて考える。	予習 裁判員制度について調べる。	3	「平等」は難しい？：アリストテレス『政治学』	プラトン『国家』と対比しながら、望ましい社会構造のあり方について考える。	予習 「平等」の概念について調べる。	4	意志の自由が平等をつくる：ストア主義	ストア主義が成立した背景をたどり、なぜ人は精神の自由を必要とするのか、考える。	予習 古代ローマの歴史を復習しておく。	5	哲学と宗教：ユダヤ教、キリスト教、イスラム教	宗教がもたらす哲学の思考枠組と限界を理解する。	予習 イエルサレムにあるユダヤ教・キリスト教・イスラム教の聖地を調べる。	6	自由をめぐる大論争：エラスムス vs. ルター	人間の自由意志による信仰と予定説の対立を理解する。	予習 カトリックとプロテスタントの違いを調べる。	7	自然科学の方法と哲学：デカルト	数学者デカルトが見出した自然科学の方法とこれに基づく哲学がもたらした影響を理解する。	予習 デカルト『方法序説』第1部に目を通しておく。	8	「神即自然」と人間の自由：スピノザ	スピノザの差異を肯定する哲学が汎神論に基づくことを理解する。	予習 17世紀のオランダについて調べておく。	9	社会契約論のルーツ：ホッブズとロック	社会における「自由」を保証する理論枠組としての「社会契約」を理解する。	予習 17世紀のイギリスについて調べておく。	10	人はなぜ社会をつくるのか？：ルソー	社会契約論の系譜について学ぶ。	予習 フランス革命について調べておく。	11	労働と自由：マルクスとスミス	物心信仰の発生の過程と、福祉制度の誕生について理解する。	予習 産業革命について調べておく。	12	人はなぜ戦争をするのか？：カント	カントによる永遠平和の定義と訪問権について理解する。	予習 18世紀のヨーロッパの政情について調べておく。	13	自らを作り出す存在：ニーチェ	ニーチェによるニヒリズムと「生への意志」の定義を理解する。	予習 ロマン主義について調べておく。	14	なぜ格差は許されないか？：ロールズとセン	自由を実現するうえで必要となる「潜在能力」について考える。	予習 「平等」の概念の発生について調べておく。	15	まとめ：技術と自由	C.P.スノー『二つの文化』とM.ボランニー『暗黙知の次元』から、市民社会における科学技術のあり方を考える。	予習 技術者の説明責任について考えておくこと。
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	はじめに：「自由」という言葉が意味するもの	授業説明と導入。「私はシャルリー」とその波紋。	予習 「自由」と「自由でない」ことの区別はどこにあるのか、考えてみよう。																																																																
2	「生きる」と「よく生きる」ことの間には：『ソクラテスの弁明』	『ソクラテスの弁明』から「よく生きる」ことについて考える。	予習 裁判員制度について調べる。																																																																
3	「平等」は難しい？：アリストテレス『政治学』	プラトン『国家』と対比しながら、望ましい社会構造のあり方について考える。	予習 「平等」の概念について調べる。																																																																
4	意志の自由が平等をつくる：ストア主義	ストア主義が成立した背景をたどり、なぜ人は精神の自由を必要とするのか、考える。	予習 古代ローマの歴史を復習しておく。																																																																
5	哲学と宗教：ユダヤ教、キリスト教、イスラム教	宗教がもたらす哲学の思考枠組と限界を理解する。	予習 イエルサレムにあるユダヤ教・キリスト教・イスラム教の聖地を調べる。																																																																
6	自由をめぐる大論争：エラスムス vs. ルター	人間の自由意志による信仰と予定説の対立を理解する。	予習 カトリックとプロテスタントの違いを調べる。																																																																
7	自然科学の方法と哲学：デカルト	数学者デカルトが見出した自然科学の方法とこれに基づく哲学がもたらした影響を理解する。	予習 デカルト『方法序説』第1部に目を通しておく。																																																																
8	「神即自然」と人間の自由：スピノザ	スピノザの差異を肯定する哲学が汎神論に基づくことを理解する。	予習 17世紀のオランダについて調べておく。																																																																
9	社会契約論のルーツ：ホッブズとロック	社会における「自由」を保証する理論枠組としての「社会契約」を理解する。	予習 17世紀のイギリスについて調べておく。																																																																
10	人はなぜ社会をつくるのか？：ルソー	社会契約論の系譜について学ぶ。	予習 フランス革命について調べておく。																																																																
11	労働と自由：マルクスとスミス	物心信仰の発生の過程と、福祉制度の誕生について理解する。	予習 産業革命について調べておく。																																																																
12	人はなぜ戦争をするのか？：カント	カントによる永遠平和の定義と訪問権について理解する。	予習 18世紀のヨーロッパの政情について調べておく。																																																																
13	自らを作り出す存在：ニーチェ	ニーチェによるニヒリズムと「生への意志」の定義を理解する。	予習 ロマン主義について調べておく。																																																																
14	なぜ格差は許されないか？：ロールズとセン	自由を実現するうえで必要となる「潜在能力」について考える。	予習 「平等」の概念の発生について調べておく。																																																																
15	まとめ：技術と自由	C.P.スノー『二つの文化』とM.ボランニー『暗黙知の次元』から、市民社会における科学技術のあり方を考える。	予習 技術者の説明責任について考えておくこと。																																																																
関連科目	哲学 II																																																																		
教科書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>『反哲学入門』</td> <td>木田元</td> <td>新潮文庫</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	『反哲学入門』	木田元	新潮文庫	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	『反哲学入門』	木田元	新潮文庫																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>『自分を知るための哲学入門』</td> <td>竹田青嗣</td> <td>ちくま学芸文庫</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	『自分を知るための哲学入門』	竹田青嗣	ちくま学芸文庫	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	『自分を知るための哲学入門』	竹田青嗣	ちくま学芸文庫																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法	定期試験 60%、提出物 20%、ミニレポート(毎回提出)・受講態度 20%の割合で総合的に評価する。																																																																		

(基準)	授業中に一時退出した場合、ミニレポートの提出を認めないことがあります。
学生へのメッセージ	抽象的で難解だと考えられがちな哲学ですが、人間の知の営みである以上、私たちの日常生活にも何らかの接点があります。できるだけ具体的な事例を通じて説明しますので、考えることをあきらめないこと。遅刻、途中退出はしないこと。私語、携帯電話の使用等、授業態度が悪い場合、ミニレポート・受講態度に関する点をゼロとし、退室を命じることがあります。
担当者の研究室等	非常勤講師室
備考	予習・復習にはそれぞれ1時間を当てること。指定された文献は必ず読むこと。自主学習には20時間以上かけるように。

科目名	哲学から学ぶ	科目名(英文)	Philosophy
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	島田 喜行
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	<p>私たちは環境としての世界のなかでできるだけ善く生きるために、あるいはできるだけ有効に活動するために、世界の在り方を知ろうとする。こうした私たちの世界を知ろうとする努力が哲学という営為の根本にある。</p> <p>本講義では、世界を知ろうとする哲学の起源である古代哲学を通じて「世界の見方」を学び直し、常識の見方を突破する知的興奮を学ぶ。そのなかで、どのような仕方であらうか、古代の思想が現代社会を生きる私たちの指針となりうるか、という問いについて考えてみたい。</p>																																																																		
到達目標	<p>(1) 社会人にとって必要な一般教養としての哲学に関する基礎的な知識と教養を習得することができる。</p> <p>(2) 哲学の源流であるギリシア思想を学ぶことから、現代人の生き方に関する多角的視点を身につけることができる。</p> <p>(3) 「より善く生きること」とはどういうことかについて、自ら考えられるようになる。</p> <p>V科の学習・教育目標との対応：A R科の学習・教育目標との対応：A A科の学習・教育到達目標との対応：A M科の学習・教育到達目標との対応：A1 E科の学習・教育到達目標との対応：B C科の学習・教</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>ノート講義方式。</p> <p>講義内容の理解を問うコメントカードによって授業態度を評価する。</p> <p>小レポート(1600字、1回)を課す。</p>																																																																		
科目学習の効果(資格)	<p>古典哲学から哲学的思考法の基本構造を学び、現代の社会構造や現代人の生き方を新たな視点から捉え直す能力が獲得できる。</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> <td>講義の説明</td> <td>事後学習 講義ノートの復習と配布資料の読解</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>哲学とは何か</td> <td>哲学者の末路</td> <td>事後学習 講義ノートの復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>古代ギリシア哲学の始まり(1)</td> <td>古代神話における神の死と哲学の始まり</td> <td>事後学習 講義ノートの復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>古代ギリシア哲学の始まり(2)</td> <td>ミュートスとロゴス</td> <td>事後学習 講義ノートの復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>古代ギリシア哲学の始まり(3)</td> <td>タレスの「水」についての三つの解釈</td> <td>予習 タレスについて調べる</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>ソクラテスの生き方</td> <td>プラトン『ソクラテスの弁明』におけるソクラテス</td> <td>予習 ソクラテスについて調べる</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>ディオゲネスの生き方</td> <td>「犬のように生きること」</td> <td>予習 ディオゲネスについて調べる</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>ストア派の生き方(1)</td> <td>セネカ『人生の短さについて』</td> <td>予習 セネカについて調べる</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>ストア派の生き方(2)</td> <td>マルクス・アウレリウス『自省録』</td> <td>予習 マルクス・アウレリウスについて調べる</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>ソクラテスの生き方の再検討(1)</td> <td>モンテーニュ『エッセー』</td> <td>予習 モンテーニュについて調べる</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ソクラテスの生き方の再検討(2)</td> <td>パスカル『パンセ』</td> <td>予習 パスカルについて調べる</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>ブッダの生き方</td> <td>「自己を善く整えること」</td> <td>予習 ブッダについて調べる。</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>ヘラクレイトスの生き方</td> <td>「神の法」と「人間の法」</td> <td>予習 ヘラクレイトスについて調べる</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>古代哲学の視点から現代社会を見つめ直す</td> <td>矛盾やパラドクスによって世界を把握することについて</td> <td>事後学習 講義ノートの復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td>これまでの講義のふりかえり</td> <td>事後学習 講義ノートの復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	講義の説明	事後学習 講義ノートの復習と配布資料の読解	2	哲学とは何か	哲学者の末路	事後学習 講義ノートの復習	3	古代ギリシア哲学の始まり(1)	古代神話における神の死と哲学の始まり	事後学習 講義ノートの復習	4	古代ギリシア哲学の始まり(2)	ミュートスとロゴス	事後学習 講義ノートの復習	5	古代ギリシア哲学の始まり(3)	タレスの「水」についての三つの解釈	予習 タレスについて調べる	6	ソクラテスの生き方	プラトン『ソクラテスの弁明』におけるソクラテス	予習 ソクラテスについて調べる	7	ディオゲネスの生き方	「犬のように生きること」	予習 ディオゲネスについて調べる	8	ストア派の生き方(1)	セネカ『人生の短さについて』	予習 セネカについて調べる	9	ストア派の生き方(2)	マルクス・アウレリウス『自省録』	予習 マルクス・アウレリウスについて調べる	10	ソクラテスの生き方の再検討(1)	モンテーニュ『エッセー』	予習 モンテーニュについて調べる	11	ソクラテスの生き方の再検討(2)	パスカル『パンセ』	予習 パスカルについて調べる	12	ブッダの生き方	「自己を善く整えること」	予習 ブッダについて調べる。	13	ヘラクレイトスの生き方	「神の法」と「人間の法」	予習 ヘラクレイトスについて調べる	14	古代哲学の視点から現代社会を見つめ直す	矛盾やパラドクスによって世界を把握することについて	事後学習 講義ノートの復習	15	まとめ	これまでの講義のふりかえり	事後学習 講義ノートの復習
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	講義の説明	事後学習 講義ノートの復習と配布資料の読解																																																																
2	哲学とは何か	哲学者の末路	事後学習 講義ノートの復習																																																																
3	古代ギリシア哲学の始まり(1)	古代神話における神の死と哲学の始まり	事後学習 講義ノートの復習																																																																
4	古代ギリシア哲学の始まり(2)	ミュートスとロゴス	事後学習 講義ノートの復習																																																																
5	古代ギリシア哲学の始まり(3)	タレスの「水」についての三つの解釈	予習 タレスについて調べる																																																																
6	ソクラテスの生き方	プラトン『ソクラテスの弁明』におけるソクラテス	予習 ソクラテスについて調べる																																																																
7	ディオゲネスの生き方	「犬のように生きること」	予習 ディオゲネスについて調べる																																																																
8	ストア派の生き方(1)	セネカ『人生の短さについて』	予習 セネカについて調べる																																																																
9	ストア派の生き方(2)	マルクス・アウレリウス『自省録』	予習 マルクス・アウレリウスについて調べる																																																																
10	ソクラテスの生き方の再検討(1)	モンテーニュ『エッセー』	予習 モンテーニュについて調べる																																																																
11	ソクラテスの生き方の再検討(2)	パスカル『パンセ』	予習 パスカルについて調べる																																																																
12	ブッダの生き方	「自己を善く整えること」	予習 ブッダについて調べる。																																																																
13	ヘラクレイトスの生き方	「神の法」と「人間の法」	予習 ヘラクレイトスについて調べる																																																																
14	古代哲学の視点から現代社会を見つめ直す	矛盾やパラドクスによって世界を把握することについて	事後学習 講義ノートの復習																																																																
15	まとめ	これまでの講義のふりかえり	事後学習 講義ノートの復習																																																																
関連科目	<p>実践の思想</p>																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>現代思想としてのギリシア哲学</td> <td>古東哲明</td> <td>講談社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	現代思想としてのギリシア哲学	古東哲明	講談社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	現代思想としてのギリシア哲学	古東哲明	講談社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	<p>定期試験60%、授業態度30%、小レポート10%の割合で総合的に評価する。なお、授業態度とは、講義内容の理解を問うためのコメントカードの記述内容を指す。</p>																																																																		
学生へのメッセージ	<p>一見、現代の生活スタイルには関係ないと思われる古典哲学の知見が、実は身近なところで生き続けているということを自分の目で確かめてください。</p> <p>私語、携帯電話の使用等で講義を妨害する行為を行った者は、授業態度評価をゼロとする。大学生にふさわしい態度で講義に臨むことを求めます。</p>																																																																		
担当者の研究室等	<p>非常勤講師室</p>																																																																		
備考	<p>上述の参考書以外の文献については講義のなかで適宜紹介する。</p> <p>予習(事前学習)、事後学習には、毎回1.5時間以上かけること。</p> <p>小レポートを作成する際には、4時間以上かけて仕上げる。</p>																																																																		

科目名	日本国憲法	科目名 (英文)	The Japanese Constitutional Law
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大仲 淳介
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	概要：日本国憲法の基本的な内容を理解できるように、授業テーマと関連する憲法上の問題をとりあげ、これと関わりのある基本事項、判例、学説を解説・検討します。目的：身近に生じる憲法上の問題を通して憲法の基本的な考え方を理解してもらうこと。
到達目標	憲法の基本的な知識を修得し、身近に生じる憲法上の問題を憲法の視点から考えるようになることを目指します。 V科の学習・教育目標との対応：A R科の学習・教育目標との対応：A A科の学習・教育到達目標との対応：A M科の学習・教育到達目標との対応：A1 E科の学習・教育到達目標との対応：B C科の学習・教育到達目標との対応：II
授業方法と留意点	教科書と配布プリントを用いて講義形式で行います。小テストは授業中に、適宜、行います。なお小テストを実施した回に欠席した者のための再試験は行いませんので注意して下さい。
科目学習の効果 (資格)	各種公的資格試験の法学科目の基礎知識の取得になると思います。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	日本国憲法とは1	憲法の意味、憲法の最高法規性、違憲審査制などについて説明します。	事前に教科書9頁から18頁を読んでください。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。
2	日本国憲法とは2	日本国憲法の基本原理、国民主権の原理、平和主義の原理(第9条)について説明します。	事前に教科書17頁から18頁、211から228頁を読んでください。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。
3	基本的人権の保障1	人権歴史、人権の分類、人権の限界について説明します。	事前に教科書19頁から25頁を読んでください。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。
4	基本的人権の保障2	人権の享有主体、人権規定の私人間効力について説明します。	事前に教科書25頁から46頁を読んでください。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。
5	基本的人権の保障3	幸福追求権と法の下での平等について説明します。	事前に教科書47頁から66頁を読んでください。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。
6	基本的人権の保障4	信教の自由と政教分離について説明します。	事前に教科書67頁から78頁を読んでください。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。
7	基本的人権の保障5	表現の自由の保障とその限界について説明します。	事前に教科書79頁から90頁を読んでください。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。
8	基本的人権の保障6	表現活動の規制(検閲と事前抑制)について説明します。	事前に教科書91頁から100頁を読んでください。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。
9	基本的人権の保障7	職業選択の自由とその規制を中心に経済的自由権について説明します。	事前に教科書101頁から110頁を読んでください。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。
10	基本的人権の保障8	生存権を中心に社会権について説明します。	事前に教科書111頁から129頁を読んでください。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。
11	基本的人権の保障9	刑罰、刑事手続と憲法について説明します。	事前に教科書131頁から140頁を読んでください。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。
12	統治機構1	立法の委任を中心に国会と立法権について説明します。	事前に155頁から166頁を読んでください。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。
13	統治機構2	議院内閣制、内閣の組織と権能について説明します。	事前に教科書167頁から178頁を読んでください。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。
14	統治機構3	司法権、違憲立法審査権について説明します。	事前に教科書179頁から200頁を読んでください。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。
15	統治機構4	地方自治の本旨、条例制定権、住民投票について説明します。	事前に教科書201頁から210頁を読んでください。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。

関連科目 法学入門

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	はじめての憲法学(第2版)	中村睦男、岩本一郎、大島佳代子、木下和朗、齊藤正彰、佐々木雅寿、寺島壽一	三省堂
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

	2			
	3			
評価方法 (基準)	定期試験 (60%)、小テスト (40%) の割合で評価します。小テストは、適宜、行います。			
学生への メッセージ	授業で生じた疑問は必ず質問して下さい。			
担当者の 研究室等	11号館5階 法学部資料室 (法学部非常勤講師室)			
備考	なお、講義内容を理解し単位を取得するためには、毎回各々1時間以上の事前学習、事後学習が必要であることに履修に際して留意して下さい。			

科目名	日本語上級会話F I	科目名(英文)	Advanced Japanese Speaking FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	高井 美徳
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	この授業では、「お金」「家族」「幸福」「労働」など、個人や社会の価値観にかかわるようなトピックについて、日本語で議論する能力を伸ばす。																																																																		
到達目標	抽象的な話題について、論理的に意見を述べるができるようになることを目指す。																																																																		
授業方法と留意点	統計数理研究所「日本人の国民性調査」の質問項目および結果について議論する。その過程で、意見を構成するために必要な語彙を学ぶ。																																																																		
科目学習の 効果(資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>トピック①</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>2</td><td>トピック②</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>3</td><td>トピック③</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>4</td><td>トピック④</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>5</td><td>トピック⑤</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>6</td><td>トピック⑥</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>7</td><td>トピック⑦</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>8</td><td>中間テスト・復習</td><td>インタビュー形式によるテスト</td><td>復習</td></tr> <tr><td>9</td><td>トピック⑧</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>10</td><td>トピック⑨</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>11</td><td>トピック⑩</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>12</td><td>トピック⑪</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>13</td><td>トピック⑫</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>14</td><td>トピック⑬</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>15</td><td>まとめ</td><td>インタビュー形式によるテスト</td><td>復習</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	トピック①	議論	復習	2	トピック②	議論	復習	3	トピック③	議論	復習	4	トピック④	議論	復習	5	トピック⑤	議論	復習	6	トピック⑥	議論	復習	7	トピック⑦	議論	復習	8	中間テスト・復習	インタビュー形式によるテスト	復習	9	トピック⑧	議論	復習	10	トピック⑨	議論	復習	11	トピック⑩	議論	復習	12	トピック⑪	議論	復習	13	トピック⑫	議論	復習	14	トピック⑬	議論	復習	15	まとめ	インタビュー形式によるテスト	復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	トピック①	議論	復習																																																																
2	トピック②	議論	復習																																																																
3	トピック③	議論	復習																																																																
4	トピック④	議論	復習																																																																
5	トピック⑤	議論	復習																																																																
6	トピック⑥	議論	復習																																																																
7	トピック⑦	議論	復習																																																																
8	中間テスト・復習	インタビュー形式によるテスト	復習																																																																
9	トピック⑧	議論	復習																																																																
10	トピック⑨	議論	復習																																																																
11	トピック⑩	議論	復習																																																																
12	トピック⑪	議論	復習																																																																
13	トピック⑫	議論	復習																																																																
14	トピック⑬	議論	復習																																																																
15	まとめ	インタビュー形式によるテスト	復習																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業への取り組み、2回のテストから総合的に判断する。																																																																		
学生への メッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。																																																																		
担当者の 研究室等	国際交流センター(3号館4階)																																																																		
備考																																																																			

教養科目

科目名	日本語上級会話FⅡ	科目名(英文)	Advanced Japanese Speaking FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	高井 美穂
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	日本語会話FⅠと同様、個人や社会の価値観にかかわるような話題について日本語で議論する能力を伸ばす。																																																																		
到達目標	抽象的な話題について論理的に意見を述べるようになることを目指す。																																																																		
授業方法と留意点	統計数理研究所「日本人の国民性調査」の質問項目のなかから、前期に扱わなかった項目およびその結果について議論する。また、その過程で、意見を構成するために必要な語彙を学ぶ。																																																																		
科目学習の効果(資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>トピック①</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>2</td><td>トピック②</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>3</td><td>トピック③</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>4</td><td>トピック④</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>5</td><td>トピック⑤</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>6</td><td>トピック⑥</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>7</td><td>中間テスト・復習</td><td>インタビュー形式によるテスト</td><td>復習</td></tr> <tr><td>8</td><td>トピック⑦</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>9</td><td>トピック⑧</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>10</td><td>トピック⑨</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>11</td><td>トピック⑩</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>12</td><td>トピック⑪</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>13</td><td>トピック⑫</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>14</td><td>トピック⑬</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>15</td><td>まとめ</td><td>インタビュー形式によるテスト</td><td>復習</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	トピック①	議論	復習	2	トピック②	議論	復習	3	トピック③	議論	復習	4	トピック④	議論	復習	5	トピック⑤	議論	復習	6	トピック⑥	議論	復習	7	中間テスト・復習	インタビュー形式によるテスト	復習	8	トピック⑦	議論	復習	9	トピック⑧	議論	復習	10	トピック⑨	議論	復習	11	トピック⑩	議論	復習	12	トピック⑪	議論	復習	13	トピック⑫	議論	復習	14	トピック⑬	議論	復習	15	まとめ	インタビュー形式によるテスト	復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	トピック①	議論	復習																																																																
2	トピック②	議論	復習																																																																
3	トピック③	議論	復習																																																																
4	トピック④	議論	復習																																																																
5	トピック⑤	議論	復習																																																																
6	トピック⑥	議論	復習																																																																
7	中間テスト・復習	インタビュー形式によるテスト	復習																																																																
8	トピック⑦	議論	復習																																																																
9	トピック⑧	議論	復習																																																																
10	トピック⑨	議論	復習																																																																
11	トピック⑩	議論	復習																																																																
12	トピック⑪	議論	復習																																																																
13	トピック⑫	議論	復習																																																																
14	トピック⑬	議論	復習																																																																
15	まとめ	インタビュー形式によるテスト	復習																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	授業への取り組み、2回のインタビューテストから総合的に判断する。																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	国際交流センター(3号館4階)																																																																		
備考																																																																			



科目名	日本語上級作文F I	科目名 (英文)	Advanced Japanese Writing FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中岡 樹里
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	様々な状況・場面における作文を通し、相手との関係や文を書く目的、使用する媒体に応じた適切な文が書けるようになることを目指す。																																																																		
到達目標	相手との関係や文を書く目的、使用する媒体に応じて適切な文が書けるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	授業は、実践と解説を中心に行う。																																																																		
科目学習の効果(資格)	相手との関係、書く内容、使用媒体に応じた適切な文章が書けるようになる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> <td>授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用について学習する</td> <td>———</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Eメールの基本1</td> <td>Eメールの基本を学習する</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Eメールの基本2</td> <td>Eメールの基本を学習する</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Eメール1</td> <td>近況を知らせるメール</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Eメール2</td> <td>お知らせメール</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Eメール3</td> <td>お誘いメール</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Eメール4</td> <td>リマインドメール</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Eメール5</td> <td>問い合わせ/質問メール</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Eメール6</td> <td>依頼メール</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Eメール7</td> <td>アポイント/日程調整メール</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Eメール8</td> <td>お礼のメール</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Eメール9</td> <td>断りメール</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Eメール10</td> <td>クレームのメール</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>手紙</td> <td>お礼状を書く</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習・確認テスト</td> <td>総復習、確認テスト</td> <td>復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用について学習する	———	2	Eメールの基本1	Eメールの基本を学習する	復習	3	Eメールの基本2	Eメールの基本を学習する	復習	4	Eメール1	近況を知らせるメール	復習	5	Eメール2	お知らせメール	復習	6	Eメール3	お誘いメール	復習	7	Eメール4	リマインドメール	復習	8	Eメール5	問い合わせ/質問メール	復習	9	Eメール6	依頼メール	復習	10	Eメール7	アポイント/日程調整メール	復習	11	Eメール8	お礼のメール	復習	12	Eメール9	断りメール	復習	13	Eメール10	クレームのメール	復習	14	手紙	お礼状を書く	復習	15	総復習・確認テスト	総復習、確認テスト	復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用について学習する	———																																																																
2	Eメールの基本1	Eメールの基本を学習する	復習																																																																
3	Eメールの基本2	Eメールの基本を学習する	復習																																																																
4	Eメール1	近況を知らせるメール	復習																																																																
5	Eメール2	お知らせメール	復習																																																																
6	Eメール3	お誘いメール	復習																																																																
7	Eメール4	リマインドメール	復習																																																																
8	Eメール5	問い合わせ/質問メール	復習																																																																
9	Eメール6	依頼メール	復習																																																																
10	Eメール7	アポイント/日程調整メール	復習																																																																
11	Eメール8	お礼のメール	復習																																																																
12	Eメール9	断りメール	復習																																																																
13	Eメール10	クレームのメール	復習																																																																
14	手紙	お礼状を書く	復習																																																																
15	総復習・確認テスト	総復習、確認テスト	復習																																																																
関連科目	総合日本語、日本語読解、日本語会話、日本事情																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	授業への参加態度、課題などを総合的に評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な書き方を勉強しましょう。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)																																																																		
備考	(1)宿題(教員へのメール送信)は、授業中に適宜指示する。 (2)授業外の質問等については、メールで対応する。 (3)授業内容は、進捗等に応じて変更する場合がある。																																																																		

科目名	日本語上級作文FⅡ	科目名(英文)	Advanced Japanese Writing FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中岡 樹里
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	ビジネス場面でのメール交換について解説しながら、実践を通し、状況・目的に応じて適切なビジネスメールが書けるようになることを目指す。			
到達目標	日本のビジネス場面やビジネス場面でのメール交換について理解し、状況や目的、相手に応じて適切なビジネスメールが書けるようになる。			
授業方法と留意点	授業は、講義と実践を中心に行う。			
科目学習の効果(資格)	状況や目的、相手に応じた適切なビジネスメールが書けるようになる。			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション ビジネス場面のライティング	授業の説明、 ビジネス場面でのライティングについて学習する	—————
	2	就職活動1	就職活動について学習する 履歴書を書く	復習
	3	就職活動2	自己PRを書く	復習
	4	ビジネスマナー ビジネスコミュニケーション	ビジネスマナー、ビジネス場面でのコミュニケーションについて学習する	復習
	5	ビジネスメールの基本	ビジネスメールの基本を学ぶ	復習
	6	ビジネスメール1	挨拶メール	復習
	7	ビジネスメール2	報告メール	復習
	8	ビジネスメール3	通知メール	復習
	9	ビジネスメール4	案内メール	復習
	10	ビジネスメール5	確認メール	復習
	11	ビジネスメール6	依頼メール	復習
	12	ビジネスメール7	問い合わせ/回答メール	復習
	13	ビジネスメール8	アポイントを取るメール	復習
	14	ビジネスメール9	お詫び/お礼のメール	復習
	15	総復習・確認テスト	総復習・確認テスト	復習
関連科目	総合日本語、日本語読解、日本語会話、日本事情			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	授業への参加態度、課題などを総合的に評価する。			
学生へのメッセージ	日系企業や日本国内の会社で働く際に必要な知識やビジネスメールの書き方を勉強して、就職に備えた練習をしましょう。			
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考	(1)宿題(教員へのメール送信)は、授業中に適宜指示する。 (2)授業外の質問等については、メールで対応する。 (3)授業内容は、進度等に応じて変更する場合があります。			





科目名	日本語読解	科目名(英文)	Japanese Reading
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	イ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	濱中 祐子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

教養科目

授業概要・目的	<p>文章を読むことは好きだろうか。大学で何を学ぶにせよ、「論文などの難解な文章を理解する」「長い文章から重要な事項をピックアップする」力は大学生活に必須である。</p> <p>また、人の心の動きが表現された文学作品を読解することは、他者の気持ちを類推するトレーニングにもなり、今後の社会生活にも役立つことだろう。</p> <p>文章を読むことによって、語彙力や表現力も磨かれ、自分の考えを伝える力も向上する。文章を正しく読解し、自分なりの考えを持ち、表現してみよう。</p> <p>この授業では、様々なジャンルの文章を読むことによって、語彙力や表現力の向上を目指す。最終的には、評論文や論文などの論理的な文章を正しく読解し、要約できるようにする。また、読解力を養成することで思考力を獲得し、自己の考えを文章化することにつなげることを目標とする。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・論理的な文章を読解する能力を身につける</li> <li>・さまざまなジャンルの文章にふれ、語彙や表現を学ぶ</li> <li>・読解した内容に対して自分なりの考えを表現できるようになる</li> </ul> <p>V科の学習・教育目標との対応：A A科の学習・教育到達目標との対応：A M科の学習・教育到達目標との対応：B2 E科の学習・教育到達目標との対応：F</p>			
授業方法と留意点	<p>授業では、まず受講者が各自で文章を読み、その後、教員による解説を行う。新しい教材に入る前にプリントを配布するので、必ず熟読しておくこと。</p> <p>受講者の理解度を確認するため、課題を作成させることもある。また、次の授業時には復習小テストを行うので、復習を怠らないこと。</p>			
科目学習の効果(資格)	<p>大学の授業・社会人になってから必要な読解能力</p>			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス・随筆(エッセイ)を読む	授業内容、授業の進め方、評価基準等について説明する。叙情的、軽妙洒落な随筆作品にふれる。	配布するプリントを次回までに読んでおく。小テストに備えて授業内容を復習する
	2	文章読本を読む	文章の書き方について述べた各作家の文章を読み比べる。	配布するプリントを次回までに読んでおく。小テストに備えて授業内容を復習する。
	3	現代小説を読む(1)	現代小説を読み、描かれている情景や心理描写を理解する。また、感想文を作成する。	配布するプリントを次回までに読んでおく。小テストに備えて授業内容を復習する。
	4	現代小説を読む(2)	現代小説を読み、描かれている情景や心理描写を理解する。また、感想文を作成する。	配布するプリントを次回までに読んでおく。小テストに備えて授業内容を復習する。
	5	近代小説を読む(1)	戦前の小説を読み、現代小説とは異なる表現や語彙にふれる。また、感想文を作成する。	配布するプリントを次回までに読んでおく。小テストに備えて授業内容を復習する。
	6	近代小説を読む(2)	戦前の小説を読み、現代小説とは異なる表現や語彙にふれる。また、感想文を作成する。	配布するプリントを次回までに読んでおく。小テストに備えて授業内容を復習する。
	7	近現代の詩歌を読む	近現代の韻文作品を読み、読解する。また詩歌を作成してみる。	配布するプリントを次回までに読んでおく。小テストに備えて授業内容を復習する。
	8	古典文学を読む(1)	古典文学作品を読み、近現代小説とは異なる表現や語彙にふれる。また、感想文を作成する。	配布するプリントを次回までに読んでおく。小テストに備えて授業内容を復習する。
	9	古典文学を読む(2)	古典文学作品を読み、近現代小説とは異なる表現や語彙にふれる。また、感想文を作成する。	配布するプリントを次回までに読んでおく。小テストに備えて授業内容を復習する。
	10	新聞を読む	新聞の社説を読解し、意見文を作成する。	配布するプリントを次回までに読んでおく。小テストに備えて授業内容を復習する。
	11	評論文を読む(1)	評論文を読むことによって、論理的な文章を読むトレーニングを行う。要点をまとめてみる。	配布するプリントを次回までに読んでおく。小テストに備えて授業内容を復習する。
	12	評論文を読む(2)	評論文を読むことによって、論理的な文章を読むトレーニングを行う。	配布するプリントを次回までに読んでおく。小テストに備えて授業内容を復習する。
	13	論文を読む(1)	論文を読解してみる。	配布するプリントを次回までに読んでおく。小テストに備えて授業内容を復習する。
	14	論文を読む(2)	論文を読解し、要点をまとめてみる。	配布するプリントを次回までに読んでおく。確認テストに備えて授業内容を復習する。
	15	本講義のまとめ・確認テスト	本講義のまとめ、および第一回から第十四回までの理解度を確認するテストを行う。	本講義で学んだことを今後活かすため、各自復習する。
関連科目	日本語表現			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3		
評価方法 (基準)	到達度テスト 30% 小テスト 40% 授業への取り組み (課題提出等により評価する) 30%		
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・能動的な態度で授業に臨むこと。</li> <li>・授業の初めに出席確認もかねて毎回小テストを行う。遅刻しないこと。</li> <li>・私語は厳禁とする。</li> <li>・さまざまなジャンルの本を読み、他者の考え方をすることで思考力が身につく。幅広い関心を持って、日頃から読書に親しむようにしましょう。</li> </ul>		
担当者の 研究室等	7号館 2階 (非常勤講師室)		
備考	事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること。		

科目名	日本語読解	科目名(英文)	Japanese Reading
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	ロ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松尾 佳津子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

教養科目

授業概要・目的	<p>日々、何を読んでいますか？ また、日々、何を書いていますか？ 何を学ぶにせよ、また学生であれ社会人であれ、「文章を読む」ということを避けて通るわけにはいきません。仲間内でだけ通じる会話や話し言葉でなく、書き言葉を通じてしか手に入らないものがあります。それをぜひ身につけてほしいと願っています。さまざまなジャンルの文章を素材として語句や表現を学び、自分なりの感想を持ちそれを発信する、というトレーニングを積んでみましょう。</p> <p>語句の知識を増やして定着させること、表現に着目した読解トレーニングを積むこと、読解した内容に対して自分なりの考えを表現できること。この三つの力を磨くことを目標とします。</p>																																																																		
到達目標	<p>【目標1】 語句・ことわざ・四字熟語・敬語などの知識を身に付けること。  【目標2】 さまざまな文章に触れ、執筆者の気持ちを想像しながら読み解くこと。  【目標3】 文章を読んで感じたことを文章化する経験値を積み上げること。</p> <p>V科の学習・教育目標との対応：A  R科の学習・教育目標との対応：A  A科の学習・教育到達目標との対応：A  C科の学習・教育到達目標との対応：II</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>◇毎回、語句チェックを通じて語彙力を磨きます(授業前半)。また毎回、素材となる文章を配布し、プリント形式で読解授業を進めます(授業後半)。  ◇授業中に随時課題を提示しますので、それらに取り組むことで積極的な取り組みをあなたに要求します。友人の回答の引き写しなど、課題に取り組む態度に不備のある場合は、出席と認めません。</p>																																																																		
科目学習の効果(資格)	<p>「日本語文章能力検定」などの公的資格もありますが、自分のことばに自覚的である感性を養うことが何よりの学習効果です。文章を味読し、自分の考えを文章化し、他者に発信するトレーニングは、積極的に取り組むことで、日々のレポート作成や、就職活動のための種々の文章作成の下地作りにもなるでしょう。</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>エッセイ(1)</td> <td>叙情的、軽妙洒落など、さまざまなタイプの作品に触れる。</td> <td>プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>エッセイ(2)</td> <td>叙情的、軽妙洒落など、さまざまなタイプの作品に触れる。</td> <td>プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>エッセイ(3)</td> <td>叙情的、軽妙洒落など、さまざまなタイプの作品に触れる。</td> <td>プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>文語的な文章(1)</td> <td>やや古めかしい言い回しに触れて独特の雰囲気を楽しむ。</td> <td>プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>文語的な文章(2)</td> <td>やや古めかしい言い回しに触れて独特の雰囲気を楽しむ。</td> <td>プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>文語的な文章(3)</td> <td>やや古めかしい言い回しに触れて独特の雰囲気を楽しむ。</td> <td>プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>近代の小説(1)</td> <td>有名作品の一部を読み、梗概や時代背景に触れる。</td> <td>プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>近代の小説(2)</td> <td>有名作品の一部を読み、梗概や時代背景に触れる。</td> <td>プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>近代の小説(3)</td> <td>有名作品の一部を読み、梗概や時代背景に触れる。</td> <td>プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>実用的な文章(1)</td> <td>手紙文やビジネス文書を「読解」してみる。</td> <td>プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>実用的な文章(2)</td> <td>手紙文やビジネス文書を「読解」してみる。</td> <td>プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>実用的な文章(3)</td> <td>手紙文やビジネス文書を「読解」してみる。</td> <td>プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>韻文(1)</td> <td>身近な歌の「歌詞」を作品として「読解」してみる。</td> <td>プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>韻文(2)</td> <td>身近な歌の「歌詞」を作品として「読解」してみる。</td> <td>プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>韻文(3)</td> <td>身近な歌の「歌詞」を作品として「読解」してみる。</td> <td>プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	エッセイ(1)	叙情的、軽妙洒落など、さまざまなタイプの作品に触れる。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。	2	エッセイ(2)	叙情的、軽妙洒落など、さまざまなタイプの作品に触れる。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。	3	エッセイ(3)	叙情的、軽妙洒落など、さまざまなタイプの作品に触れる。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。	4	文語的な文章(1)	やや古めかしい言い回しに触れて独特の雰囲気を楽しむ。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。	5	文語的な文章(2)	やや古めかしい言い回しに触れて独特の雰囲気を楽しむ。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。	6	文語的な文章(3)	やや古めかしい言い回しに触れて独特の雰囲気を楽しむ。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。	7	近代の小説(1)	有名作品の一部を読み、梗概や時代背景に触れる。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。	8	近代の小説(2)	有名作品の一部を読み、梗概や時代背景に触れる。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。	9	近代の小説(3)	有名作品の一部を読み、梗概や時代背景に触れる。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。	10	実用的な文章(1)	手紙文やビジネス文書を「読解」してみる。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。	11	実用的な文章(2)	手紙文やビジネス文書を「読解」してみる。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。	12	実用的な文章(3)	手紙文やビジネス文書を「読解」してみる。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。	13	韻文(1)	身近な歌の「歌詞」を作品として「読解」してみる。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。	14	韻文(2)	身近な歌の「歌詞」を作品として「読解」してみる。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。	15	韻文(3)	身近な歌の「歌詞」を作品として「読解」してみる。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	エッセイ(1)	叙情的、軽妙洒落など、さまざまなタイプの作品に触れる。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。																																																																
2	エッセイ(2)	叙情的、軽妙洒落など、さまざまなタイプの作品に触れる。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。																																																																
3	エッセイ(3)	叙情的、軽妙洒落など、さまざまなタイプの作品に触れる。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。																																																																
4	文語的な文章(1)	やや古めかしい言い回しに触れて独特の雰囲気を楽しむ。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。																																																																
5	文語的な文章(2)	やや古めかしい言い回しに触れて独特の雰囲気を楽しむ。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。																																																																
6	文語的な文章(3)	やや古めかしい言い回しに触れて独特の雰囲気を楽しむ。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。																																																																
7	近代の小説(1)	有名作品の一部を読み、梗概や時代背景に触れる。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。																																																																
8	近代の小説(2)	有名作品の一部を読み、梗概や時代背景に触れる。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。																																																																
9	近代の小説(3)	有名作品の一部を読み、梗概や時代背景に触れる。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。																																																																
10	実用的な文章(1)	手紙文やビジネス文書を「読解」してみる。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。																																																																
11	実用的な文章(2)	手紙文やビジネス文書を「読解」してみる。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。																																																																
12	実用的な文章(3)	手紙文やビジネス文書を「読解」してみる。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。																																																																
13	韻文(1)	身近な歌の「歌詞」を作品として「読解」してみる。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。																																																																
14	韻文(2)	身近な歌の「歌詞」を作品として「読解」してみる。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。																																																																
15	韻文(3)	身近な歌の「歌詞」を作品として「読解」してみる。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。																																																																
関連科目	<p>こういった方面に興味のある人は、他に「文学から学ぶ」や「日本語表現」などを学ぶことで、より理解を深めることができるでしょう。</p>																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	<p>◇講義中に作成する小レポートが出席確認を兼ねます。近年散見する代筆提出については、代筆者・被代筆者共、成績処理時に大幅減点します。  ◇最終成績は、定期試験の結果7割と小レポートの回答状況3割とを合わせて判断します。  ◇私語・飲食・頻繁な離席・他授業の課題作成・居眠りなど、受講態度の著しく悪い学生には退室を指示して当日の出席は無効とし、さらに状況に応じてマイナス評価を下します。また、回収した小レポートの回答状況が著しく悪い場合も、当日の出席は無効とします。  ◇出席不良者は、原則として成績評価を行いません</p>																																																																		
学生への	<p>「本を読むのはキライ」という気持ちを捨てて講義に臨んで下さい。私があなたに求めているのは「今までの知識の積み重ね」ではなく、「自分</p>																																																																		

メッセージ	のことばに自覚的になること、自分のことばで考えること」です。正解のない世界で「自分の答え」を手探りしてみましょう。
担当者の研究室等	7号館2階（非常勤講師室）
備考	事後学習として、授業後少なくとも半時間は、学習した事項を書いて覚えたり、曖昧な箇所は辞書を調べ直したりして、記憶の定着を図る時間を持ちましょう。



科目名	日本語表現	科目名(英文)	Japanese Representation
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松繁 弘之
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	授業の内容は要約文および小論文の作成です。文章の構成法を学びながら、要約文と小論文を作成する練習をします。また、常用漢字の練習も行います。																																																																		
到達目標	文章を正確に要約し、論理的な文章を作成することができるようになることが目標です。また、漢字検定2級の漢字が習得できます。																																																																		
授業方法と留意点	講義と演習によって行います。																																																																		
科目学習の効果(資格)	レポートでの文章表現や就職活動での小論文に不安がなくなります。また、漢字検定2級の漢字が習得できます。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>導入</td><td>授業についての説明</td><td>教科書の前書きと目次を読む</td></tr> <tr><td>2</td><td>関係(1)</td><td>主語と述語</td><td>漢字の復習</td></tr> <tr><td>3</td><td>関係(2)</td><td>語順</td><td>漢字の復習</td></tr> <tr><td>4</td><td>意見文(1)</td><td>意見文の構造</td><td>漢字の復習</td></tr> <tr><td>5</td><td>意見文(2)</td><td>話題と主張</td><td>漢字の復習</td></tr> <tr><td>6</td><td>意見文(3)</td><td>理由</td><td>漢字の復習</td></tr> <tr><td>7</td><td>意見文(4)</td><td>定義と解説</td><td>漢字の復習</td></tr> <tr><td>8</td><td>意見文(5)</td><td>例示と比喻</td><td>漢字の復習</td></tr> <tr><td>9</td><td>意見文(6)</td><td>内容の点検</td><td>漢字の復習</td></tr> <tr><td>10</td><td>要約文(1)</td><td>要約</td><td>漢字の復習</td></tr> <tr><td>11</td><td>要約文(2)</td><td>吟味と提案</td><td>漢字の復習</td></tr> <tr><td>12</td><td>データ</td><td>比較と解釈</td><td>漢字の復習</td></tr> <tr><td>13</td><td>引用(1)</td><td>引用のルール</td><td>漢字の復習</td></tr> <tr><td>14</td><td>引用(2)</td><td>資料の信頼性</td><td>漢字の復習</td></tr> <tr><td>15</td><td>総括</td><td>復習と確認</td><td>漢字の復習</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	導入	授業についての説明	教科書の前書きと目次を読む	2	関係(1)	主語と述語	漢字の復習	3	関係(2)	語順	漢字の復習	4	意見文(1)	意見文の構造	漢字の復習	5	意見文(2)	話題と主張	漢字の復習	6	意見文(3)	理由	漢字の復習	7	意見文(4)	定義と解説	漢字の復習	8	意見文(5)	例示と比喻	漢字の復習	9	意見文(6)	内容の点検	漢字の復習	10	要約文(1)	要約	漢字の復習	11	要約文(2)	吟味と提案	漢字の復習	12	データ	比較と解釈	漢字の復習	13	引用(1)	引用のルール	漢字の復習	14	引用(2)	資料の信頼性	漢字の復習	15	総括	復習と確認	漢字の復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	導入	授業についての説明	教科書の前書きと目次を読む																																																																
2	関係(1)	主語と述語	漢字の復習																																																																
3	関係(2)	語順	漢字の復習																																																																
4	意見文(1)	意見文の構造	漢字の復習																																																																
5	意見文(2)	話題と主張	漢字の復習																																																																
6	意見文(3)	理由	漢字の復習																																																																
7	意見文(4)	定義と解説	漢字の復習																																																																
8	意見文(5)	例示と比喻	漢字の復習																																																																
9	意見文(6)	内容の点検	漢字の復習																																																																
10	要約文(1)	要約	漢字の復習																																																																
11	要約文(2)	吟味と提案	漢字の復習																																																																
12	データ	比較と解釈	漢字の復習																																																																
13	引用(1)	引用のルール	漢字の復習																																																																
14	引用(2)	資料の信頼性	漢字の復習																																																																
15	総括	復習と確認	漢字の復習																																																																
関連科目	日本語表現 I																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>はじめよう、ロジカル・ライティング</td> <td>名古屋大学教育学部附属中学校・高等学校国語科</td> <td>ひつじ書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	はじめよう、ロジカル・ライティング	名古屋大学教育学部附属中学校・高等学校国語科	ひつじ書房	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	はじめよう、ロジカル・ライティング	名古屋大学教育学部附属中学校・高等学校国語科	ひつじ書房																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	漢字練習 30%、提出課題 50%、授業態度(授業への集中度) 20%の割合で総合的に評価します。																																																																		
学生へのメッセージ	何事も練習しなければ上達しません。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室																																																																		
備考																																																																			

科目名	日本の政治	科目名 (英文)	Japanese Politics
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中沼 丈晃
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	この講義では、いまの政治・政策の大きな課題を取り上げ、テレビのニュース番組に関心を持って見られるようになることを目的とする。選挙で投票するにあたって、政治家や政党の訴えに対して自分の意見が持てるようになってほしいと考える。
到達目標	週1～2回でもテレビのニュース番組を見て、「この問題、いまそうなっているのか」と思えるよう、前提となる知識を身につける。そして、その問題について自分の意見を持てるようにする。 V科の学習・教育目標との対応：A R科の学習・教育目標との対応：A A科の学習・教育到達目標との対応：A M科の学習・教育到達目標との対応：A1 E科の学習・教育到達目標との対応：B C科の学習・教育到達目標との対応：II
授業方法と留意点	ひとつの時事のテーマを講義2回で扱う。時事を扱うため、夏までの情勢を見たあとに授業計画を確定する。講義では、簡単なレジュメを配布し、ニュース映像や新聞記事を多用する。毎回、知識の確認や自分の意見を書く確認ペーパーを課す。受講者とのやりとりを心がける。
科目学習の効果 (資格)	公務員試験では、技術職でも、教養試験で社会科学や政治の時事の知識が問われる。民間企業の採用試験でも、一般常識として、政治の仕組みの基礎や時事が問われる。職業社会人と会話をするうえで、政治や政策の話題についていく最低限の知識は不可欠である。この講義では、こういった知識や常識を身につける出発点を提供したい。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	いまの政治・政策の大きな課題に目をとおしてみる。	講義で扱う時事について、学生とやりとりをしながら、いまの政治・政策の大きな課題の概要を確認する。	講義で勧めるニュース番組を通して見てみる。
2	橋下維新、大阪都構想をどう見る？ (1)	地元大阪の政治動向を説明する。特に、既得権益の打破、有権者が決める政治を訴えて勢力を得た橋下維新と、その主張の核となった大阪都構想について解説する。	配布した新聞記事を読む。大阪都構想に対する自分の意見を整理して書く。
3	橋下維新、大阪都構想をどう見る？ (2)	地元大阪の政治動向を説明する。特に、既得権益の打破、有権者が決める政治を訴えて勢力を得た橋下維新と、その主張の核となった大阪都構想について解説する。	配布した新聞記事を読む。大阪都構想に対する自分の意見を整理して書く。
4	日本の内閣はなぜ長続きしない？ (1)	近年、内閣が約1年しかもたなかった理由を探る。衆議院と参議院の「ねじれ」現象、内閣支持率の動き、無党派層の性格を解説する。	配布した新聞記事を読む。なぜ短命内閣となるのか自分の意見を整理して書く。
5	日本の内閣はなぜ長続きしない？ (2)	近年、内閣が約1年しかもたなかった理由を探る。衆議院と参議院の「ねじれ」現象、内閣支持率の動き、無党派層の性格を解説する。	配布した新聞記事を読む。なぜ短命内閣となるのか自分の意見を整理して書く。
6	消費税を上げるのに賛成？ (1)	本年4月に8%に上り、10%への増税も予定されている消費税を扱う。日本の借金残高や、借金が増えてきた経緯を説明し、消費税導入と増税の背景を理解してもらう。	配布した新聞記事を読む。消費税増税に賛成するか、反対するか、自分の意見を整理して書く。
7	消費税を上げるのに賛成？ (2)	本年4月に8%に上り、10%への増税も予定されている消費税を扱う。日本の借金残高や、借金が増えてきた経緯を説明し、消費税導入と増税の背景を理解してもらう。	配布した新聞記事を読む。消費税増税に賛成するか、反対するか、自分の意見を整理して書く。
8	尖閣諸島・竹島にこだわる？ (1)	近年、日中間、日韓間で争いの種となっている領土問題を取り上げる。歴史の経緯を簡単に整理したうえで、国有化、大統領の上陸などをめぐって、どのような言い争いの構図になっているか説明する。	配布した新聞記事を読む。尖閣諸島・竹島問題に関する自分の意見を整理して書く。
9	尖閣諸島・竹島にこだわる？ (2)	近年、日中間、日韓間で争いの種となっている領土問題を取り上げる。歴史の経緯を簡単に整理したうえで、国有化、大統領の上陸などをめぐって、どのような言い争いの構図になっているか説明する。	配布した新聞記事を読む。尖閣諸島・竹島問題に関する自分の意見を整理して書く。
10	日本は TPP に参加すべきだと思う？ (1)	原則、関税を撤廃する TPP (環太平洋戦略的経済連携協定) をめぐる動向や議論を説明する。輸出国である日本にとってのメリット、食品の安全や小規模農業への影響の懸念など、TPP と生活の結びつきを理解してもらう。	配布した新聞記事を読む。日本が TPP に参加すべきかどうか、自分の意見を整理して書く。
11	日本は TPP に参加すべきだと思う？ (2)	原則、関税を撤廃する TPP (環太平洋戦略的経済連携協定) をめぐる動向や議論を説明する。輸出国である日本にとってのメリット、食品の安全や小規模農業への影響の懸念など、TPP と生活の結びつきを理解してもらう。	配布した新聞記事を読む。日本が TPP に参加すべきかどうか、自分の意見を整理して書く。
12	いじめ、体罰、児童虐待はな	身近な日常で起きている肉体的・精神的	配布した新聞記事を読む。いじめ、体罰、児童虐待

		ぜ起こる？（１）	暴力の問題を扱う。学校、部活、家庭でどのような暴力があるか、具体的な事件を取り上げ、現場での対応の問題を考慮してもらおう。	にどう対応したらよいか、自分の意見を整理して書く。
	13	いじめ、体罰、児童虐待はなぜ起こる？（２）	身近な日常で起きている肉体的・精神的暴力の問題を扱う。学校、部活、家庭でどのような暴力があるか、具体的な事件を取り上げ、現場での対応の問題を考慮してもらおう。	配布した新聞記事を読む。いじめ、体罰、児童虐待にどう対応したらよいか、自分の意見を整理して書く。
	14	どうして大阪は治安が悪い？（１）	地元大阪で、本年度どのような犯罪が起きているか、具体例で説明する。犯罪の数え方を説明したうえで、大阪の治安が他府県と比較して悪い現状を認識してもらおう。	配布した新聞記事を読む。どうして大阪は治安が悪いのか、自分の意見を整理して書く。
	15	どうして大阪は治安が悪い？（２）	地元大阪で、本年度どのような犯罪が起きているか、具体例で説明する。犯罪の数え方を説明したうえで、大阪の治安が他府県と比較して悪い現状を認識してもらおう。	配布した新聞記事を読む。どうして大阪は治安が悪いのか、自分の意見を整理して書く。
関連科目	社会科学系科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	定期試験 60%、講義毎回の確認ペーパー30%、受講態度（投げかける質問に対する発言など）10%で総合的に評価する。			
学生への メッセージ	技術職に就く人にも、政治や政策の問題は避けられません。領土をめぐる中国や韓国との争いが厳しくなったり、国の借金が増え円高になり輸出に不利になったりすれば、よい技術に基づく製品も売れなくなります。加えて、教育や治安は、家庭を持ち子どもを育てることになるすべての大人に共通の問題です。自分と家族を守るために、毎日の政治・政策のニュースに関心が持てるようになってほしいと考えて、講義をしていきます。			
担当者の 研究室等	11号館9階 中沼研究室			
備考	自主学習には、期末試験の準備を含め合計20時間以上かけることを求める。			

科目名	人間力と心理	科目名(英文)	Human Capability and Psychology
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	毛 新華
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	心理学は、人間の行動を予測することを究極的な目標としている。本授業は、これまでに得られた心理学的知見を学ぶことで、自己と他者、そして自分の周囲を取り巻く社会を科学的な視点から見直すことを目指している。これにより、学生の友人や教員との関係の変化に柔軟に対応できるような人間力、他者と接する上での心のあり方やマナーなどの態度について改善されることも期待している。
到達目標	1) 心理学という学問に対する初歩的な理解ができるようにする。 2) 情報を捉えるメカニズムを理解できるようにする。 3) 自己を探究するための手がかりをつかめるようすること。  学科の学習・教育目標との対応：「A」
授業方法と留意点	・講義方式で適宜資料を配布する。講義中には、視聴覚教材やデモンストレーションなども取り入れる。 ・心理学的知見を実際に体感するため、心理実験や調査も行う予定にしている。積極的に参加すること。 ・受講にあたって、教室では、座席指定制を導入する予定をし、配付資料に授業内容に関する重要キーワードの記入も必要となる。
科目学習の効果(資格)	講義を通して自己理解・他者理解を深め、自分と社会との関わりを考えるきっかけを得ることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業概要、目的、内容、授業の進め方、授業のルール、評価基準について説明します。	身の回りで起きているさまざまなことについて心理学的に考える習慣をつけましょう。
2	心理学概論	心理学の歴史、発展、学派、研究対象、研究手法、研究分野について概説します。	心理学に対するこれまでのイメージと比較しながら、新たに認識した心理学を考えましょう。
3	心と脳	心と脳、脳と行動、脳の特徴・構造、部位の損傷と症状、脳波と自律系反応、睡眠と夢、記憶と脳、発達と脳について解説します。	脳に関する写真・ビデオなどを図書館などで見つけ、授業内容を映像で理解してください。
4	知覚のプロセス(1)	感覚(視覚・聴覚・味覚・嗅覚・皮膚感覚)の種類と特性、感覚の役割・相互作用・基本特性について解説します。	教科書の第2章を事前に予習しましょう。
5	知覚のプロセス(2)	知覚の体系化、知覚の恒常性、距離・奥行き知覚、動き知覚、知覚から認知へについて解説します。	関連する映像資料を紹介するので、視聴してください。
6	学習理論	学習とは、学習の方法、古典的条件づけ、オペラント条件づけ、二つの条件づけの違いについて解説します。	例を挙げながら、二つの条件づけの違いについてA4用紙にまとめて提出してください。
7	心の構造	精神分析理論、局所論、構造論、エディプス・コンプレックスについて解説します。	教科書の第8章を事前に予習しましょう。
8	パーソナリティ	精神分析学とパーソナリティ、外見とパーソナリティ、類型論、特性論、血液型とパーソナリティについて解説します。	教科書の第6章を読んで、要約をA4用紙にまとめて、提出してください。
9	自己の形成	自己概念の形成、他者の評価、自己知覚、上方比較、下方比較について解説します。	例を挙げながら、自己概念はどのように作り上げたかを説明するレポートを作成してください。
10	自尊感情(1)	自尊感情とは、自尊感情を脅かすもの(可能自己・理想自己・当為自己・セルフ・ディスレパンシー)、ソシオメーター理論について解説します。	自尊感情の心理テストを答え、配布する関係資料と照らし合わせ、自分の自尊心を測定します。
11	自尊感情(2)	自尊感情の維持と高揚(利己的帰属・セルフ・ハンディキャッピング・防衛的悲観主義・栄光浴)自尊感情の文化比較(自己高揚・自己卑下)、自尊感情の存在意義について解説します。	紹介する文献を読んで、感想文をまとめて、提出してください。
12	自己表現	自己制御(客体的自覚状態・没個性化状態・公的自己・私的自己)、自己表現(自己開示・自己呈示)・ジョハリの窓について解説します。	第7章の後半部分を事前に予習してください。
13	印象形成	中心特性と周辺特性説、初頭効果と新近効果説、ステレオタイプ、第一印象について解説します。	紹介する関連文献リストから一冊を選び、読んでおきましょう。
14	健康と適応	心の健康と身体の健康、ストレスと健康、心の健康と適応	自分なりに、半期の内容からもっとも関心深いテーマを選び、レポートにまとめてください。
15	まとめ	授業全体のまとめ	授業後、教科書およびこれまで配布したプリントに基づき、すべての内容を復習してください。

関連科目 「心理と社会」も併せて履修することが望ましい。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	わたしそしてわれわれ ミレニアムバージョンー現代に生きる人のための心理学テキストブック	大坊郁夫	北大路書房
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。 小レポート、学期末試験の結果を総合し、到達目標の理解度によって合否を判定する。 【定期試験 60%、レポート 20%、小テスト 20%】			
学生への メッセージ	心理学は、みなさんが想像しているよりもはるかに幅広い領域を扱っており、人間の社会生活の全てを研究対象としていると言っても過言ではありません。講義を通じ、自分を取り巻く社会と結びつけて考えることによって理解を深めて下さい。			
担当者の 研究室等	11号館 6階 経営学部事務室			
備考	事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけるようにしてください。 そして、小レポートは事前の準備時間を含めて、5 時間以上かけて仕上げるようにしてください。 自主学習には、期末試験の準備を含めて、合計 20 時間かけるようにしてください。			

科目名	犯罪被害者と法的救済	科目名(英文)	Legal Remedies for Victims of Crime
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小野 晃正
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的な人間関係や医療過誤を通じて、何らかの犯罪の被害者となった場合、犯罪被害者はどのような対処をとることができるだろうか。</li> <li>・たとえば、医療機関における医療ミス、交友関係をめぐって生じるストーカーやデートDVの被害、近親者からの精神的・肉体的な虐待、学生をカモにする巧妙な儲け話から起因する詐欺被害(マルチ商法)、とりわけ男子学生が陥りやすい出会い系を通じた美人局被害、あるいは、家族が犯罪に遭うことによる経済的損失ないし被害など、事例を挙げればきりがない。</li> <li>・近年、わが国でも犯罪被害に遭った者を支援する制度が構築されつつある。しかし、わが国ではこうした支援ないし救済策が講じられてこなかった期間が長すぎたため、多くの国民にその内容が浸透していない。そのため、依然として被害者は泣き寝入りするか、何も打つ手をとらずに最悪の結果を招来することもある。</li> <li>・本講義では、自身や家族が犯罪被害者となってしまった場合、どのような救済策があるのかをわかりやすく解説し、被害を最小限度にとどめ、さらには犯罪被害者に対する理解を深めることを目的とする。</li> <li>・犯罪被害者を論ずる前に、講義の教回を用いて、まず「加害者」の法的責任、「犯罪者」刑事責任、「犯罪者」の処遇、刑罰の正当化根拠、厳罰化をめぐる諸問題など、犯罪被害者を講じる前提となる伝統的な刑事学の講義を行う。</li> <li>・法的知識は、時代を生き抜く上での一種の「転ばぬ先の杖」(教養)でもあるため、文系や理系を問わず、幅広い学生を履修対象とする。</li> </ul>
---------	--

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「被害者」概念について説明できるようになる。</li> <li>・犯罪被害者の救済制度を挙げ、これを説明できるようになる。</li> <li>・犯罪被害者の支援制度について理解する。</li> </ul>
------	--

授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原則として講義形式で行うが、教員からの一方通行的な講義にならぬよう、学生と教員双方の理解を深めるため、質疑応答も随時行いたい。</li> </ul>
----------	--

科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・万が一に犯罪の被害に遭ったとしても、泣き寝入りすることなく、正当な手法による被害回復や救済手段を身につけることができる。</li> <li>・公務員や法律事務所などへの就職に役立つ。</li> </ul>
-------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 「加害者」と「犯罪者」 「被害者」と「犯罪被害者」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の進め方と文献紹介</li> <li>・「加害者」の法的責任</li> <li>・「加害者」と「犯罪者」</li> <li>・「被害者」の意義</li> <li>・「犯罪被害者」の意義</li> </ul>	事前: 「犯罪被害者」について調べてみよう 事後: 重要事項をまとめる
2	「犯罪者」をめぐる諸問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「犯罪者」の刑事責任</li> <li>・刑罰の正当化根拠</li> <li>・厳罰化をめぐる諸問題</li> </ul>	事前: 前回の復習 事後: 重要事項をまとめる
3	犯罪被害の告訴・告発と証拠収集 犯罪捜査への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・告訴と告発の方法</li> <li>・証拠保全</li> <li>・犯罪被害者に対するメディアスクラム</li> <li>・報道による被害(テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、ネット)</li> <li>・被害者連絡制度</li> <li>・被害者側からの問い合わせ</li> <li>・被害者からの事情聴取</li> <li>・警察と検察によるカウンセリング体制</li> </ul>	事前: 前回の復習 事後: 重要事項をまとめる
4	加害者との示談	<ul style="list-style-type: none"> <li>・示談の意義</li> <li>・示談が与える影響</li> <li>・示談慰謝料の算定</li> </ul>	事前: 前回の復習 事後: 重要事項をまとめる
5	加害者の不起訴と検察審査会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検察審査会</li> <li>・検察審査員</li> <li>・審査申立手続</li> <li>・検察審査会と被害者</li> <li>・起訴議決制度</li> </ul>	事前: 前回の復習 事後: 重要事項をまとめる
6	刑事公判と被害者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被害者による裁判傍聴</li> <li>・被害者による記録の閲覧と謄写</li> <li>・被害者の意見陳述</li> <li>・被害者等特定事項の非公開</li> </ul>	事前: 前回の復習 事後: 重要事項をまとめる
7	犯罪被害者参加制度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象犯罪</li> <li>・被害者に認められる行為</li> <li>・参加の申出と参加時期</li> <li>・公判前整理手続への参加</li> <li>・被害者の証人尋問</li> <li>・被告人質問と意見陳述</li> </ul>	事前: 前回の復習 事後: 重要事項をまとめる
8	小テスト	第7回目までの理解度確認	事前: 前回までの復習 事後: わからなかった箇所を再確認
9	損害賠償命令制度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・制度の趣旨</li> <li>・対象犯罪</li> <li>・遺族による申立</li> <li>・請求対象とその範囲</li> <li>・管轄裁判所と申立期間</li> </ul>	事前: 「犯罪被害者への経済支援」を調べよう 事後: 重要事項をまとめる
10	被害者通知制度 犯罪被害者等給付金制度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加害者の施設内処遇と社会内処遇</li> <li>・加害者の仮釈放</li> <li>・犯罪被害者への経済支援制度</li> <li>・受給資格</li> <li>・支給要件と支給額</li> <li>・不服申立</li> </ul>	事前: 前回の復習 事後: 重要事項をまとめる

	11	その他の経済的支援制度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・犯罪被害者救護基金</li> <li>・交通事故犯罪</li> <li>・犯罪による精神被害</li> </ul>	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる																
	12	少年事件における被害者保護	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少年法と犯罪被害者救済</li> <li>・少年事件における記録閲覧</li> <li>・少年審判の傍聴</li> <li>・少年事件での意見陳述</li> <li>・少年とその親に対する損害賠償</li> <li>・少年法と犯罪被害者救済</li> </ul>	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる																
	13	DV被害	<ul style="list-style-type: none"> <li>・DVとは何か</li> <li>・配偶者による犯罪</li> <li>・DV被害者の保護と支援</li> <li>・保護命令</li> </ul>	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる																
	14	ストーカー被害	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いわゆる「ストーカー規制法」の概要</li> <li>・ストーカーへの行政処分</li> <li>・ストーカー犯罪の類型</li> <li>・ストーカーへの対応策</li> </ul>	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる																
	15	修復的司法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・修復的司法の意義</li> <li>・わが国における修復的司法の展望</li> </ul>	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる																
関連科目	各学部開講の教養科目・・・法学入門、現代社会と法、日本国憲法 法学部開講の専門科目・・・刑事法概論、刑法総論、刑法各論、経済刑法、刑事訴訟法、刑事政策、少年法、民法、民事訴訟法ほか																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>刑事政策</td> <td>川出 敏裕＝金 光旭</td> <td>成文堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	刑事政策	川出 敏裕＝金 光旭	成文堂	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	刑事政策	川出 敏裕＝金 光旭	成文堂																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>その他の専門文献は開講時に紹介する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	その他の専門文献は開講時に紹介する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	その他の専門文献は開講時に紹介する。																			
2																				
3																				
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小テストおよび期末試験の成績を総合評価する。なお、質疑応答を交えた場合は、その応答内容をプラスの方向でのみ評価する。</li> </ul>																			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事件報道やその後の話、あるいは社会の問題に関心のある学生が受講することをおすすめします。知って得をすることがあっても、損はさせない内容です。</li> </ul>																			
担当者の 研究室等	11号館10階 小野准教授室																			
備考	事前学習：内容に記載した事項につき、毎回0.5時間以上の予習に取り組む。 事後学習：講義内容についてノートにまとめるなど、毎回1時間以上の復習に取り組む。																			



科目名	武道論	科目名(英文)	Budo-ron (Theory of Japanese Martial Arts)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	横山 喬之
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	「武道とは何か」、「なぜ今武道なのか」等、現代における武道の特性などを概説し、現状と課題について検討していく。また、武道の特性が理解でき、日本人の行動様式やものの考え方についても知ることができることを一般的な目標とする。学科の学習・教育目標との対応：工学部[A]，理工学部 [I1]
到達目標	日本伝統文化である武道（意味・種類）についての理解を深める。 日本人の精神を「武士道」より学び、道徳についての理解を深める。
授業方法と留意点	講義形式で授業を進める。
科目学習の効果（資格）	武道の特性を理解することができる。また、伝統的な行動様式を学ぶ中から現代にない思考力が育まれることを期待する。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	授業内容の説明と武道について	武道について調べてくる
	2	武道とは何か	武道の意味や言語について概説する	武道にはどのような種類があるのか調べる
	3	武道と武術について	武道と武術の違いについて	武芸十八般について調べてくる
	4	武道（柔道）	柔道について	柔道について調べ内容をまとめる
	5	武道（剣道）	剣道について調べ内容をまとめる	剣道について調べ内容をまとめる
	6	武道（弓道・相撲）	弓道・相撲について	弓道・相撲について調べ内容をまとめる
	7	武道（空手・合気道）	空手・合気道について	空手・合気道について調べ内容をまとめる
	8	武士道から見る日本人の道徳心①	武士道とは何か	著者・著作にいたる背景を調べまとめる
	9	武士道から見る日本人の道徳心②	武士道の道徳心について	武士はどのような道徳を持ち生活していたか調べまとめる
	10	武士道から見る日本人の道徳心③	武士道の道徳心について	武士はどのような道徳を持ち生活していたか調べまとめる
	11	武道と修行	武道における修行について	修行とは何かを調べまとめる
	12	武道の国際化	武道の国際化について	武道がどのように世界に普及したか調べまとめる
	13	武道の身体技法①	武道特有の身体技法について	武道の身体技法とは何か調べまとめる
	14	武道の身体技法②	実際の身体技法を行う（総合体育館）	武道の身体技法とは何か調べまとめる
	15	武道論総括（テスト）	1～4回まで行った授業の内容に関してテストを行う	これまでの授業の復習

関連科目	スポーツ科学Ⅰ・Ⅱ 生涯スポーツ実習 健康論 保健論
------	-------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	今、なぜ武道か	中村 民雄	日本武道館
	2	武道を知る	田中 守／藤堂 良明／東 憲一／村田 直樹	不昧堂
	3			

評価方法（基準）	出席率75%以上のものを試験資格者とする。遅刻は2回で1回の欠席と同等とみなす。（遅刻は授業開始から30分以内に入室したことをいう） 武道論総括(15回目)におけるテストを100%の割合で評価を行う。（ただし、上記の出席率を満たした者のみを評価対象とする。）
----------	--

学生へのメッセージ	質問等がある場合には、横山講師室に来てください。
-----------	--------------------------

担当者の研究室等	総合体育館 1F 横山講師室
----------	----------------

備考	
----	--



科目名	法学入門	科目名(英文)	Jurisprudence
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大仲 淳介
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	授業概要：私たちの日常生活は多くの法律と関わります。この講義では、法学の基礎から始め、身近な具体的事例をとりあげ、民法、商法、会社法、刑法、民事訴訟法、刑事訴訟法などの基礎を解説します。目的：日常生活から生じる法律問題を通して、法律学の基礎的な知識を修得してもらうこと。
到達目標	日常生活において必要、有益な法律の知識を得て、身近な法律問題を法的な立場から考えるようになることを目指します。 V科の学習・教育目標との対応：A R科の学習・教育目標との対応：A A科の学習・教育到達目標との対応：A M科の学習・教育到達目標との対応：A1 E科の学習・教育到達目標との対応：B C科の学習・教育到達目標との対応：II
授業方法と留意点	教科書と配布プリントを用いて講義形式で行います。なお小テストは授業中に、適宜、行います。また小テストを行った回の授業を欠席した者のための再試験は行いませんので注意して下さい。
科目学習の効果(資格)	各種公的資格試験の法学科目の基礎知識の取得になると思います。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	法学の基礎 1	法とは何か、法の種類、法の優劣関係について説明します。	事前に教科書 236 頁から 240 頁と 243 頁から 244 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。
2	法学の基礎 2	法律の条文の構造、法律の解釈について説明します。	事前に教科書 241 頁から 242 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。
3	日常生活と契約 1	民法の特徴、契約の成立について説明します。	事前に教科書 1 頁から 8 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。
4	日常生活と契約 2	意思表示と契約の主体について説明します。	事前に教科書 8 頁から 18 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。
5	日常生活と契約 3	契約自由原則、契約の種類について説明します。	事前に教科書 18 頁から 24 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。
6	日常生活と契約 4	不動産取引と民法について説明します。	教科書 24 頁から 30 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。
7	日常生活とアクシデント	交通事故、欠陥商品による被害、医療事故について説明します。	事前に教科書 42 頁から 60 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。
8	家族関係 1	結婚、離婚と民法について説明します。	事前に教科書 105 頁から 129 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。
9	家族関係 2	親子、扶養と民法について説明します。	事前に教科書 129 頁から 145 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配布プリントの問題を解いてください。
10	家族関係 3	相続と民法について説明します。	事前に教科書 145 頁から 153 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。
11	企業と法 1	商法・会社法を手がかりに企業とはどのようなものかについて説明します。	事前に教科書 154 頁から 166 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。
12	企業と法 2	企業の所有と経営の分離と株式会社について説明します。	事前に教科書 167 頁から 202 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。
13	紛争の解決 1	日常生活で生じる紛争と裁判制度について説明します。	事前に教科書 203 頁から 214 頁、245 頁から 246 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。
14	紛争の解決 2	裁判のしくみ、裁判以外の紛争の解決(和解、調停、仲裁)について説明します。	事前に教科書 214 頁から 235 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。
15	まとめ	授業全体のまとめ	第 1 回から第 14 回までの配布プリントの問題を確認して下さい。

関連科目 日本国憲法

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	法の世界へ(第6版)	池田真朗、犬伏由子、野川忍、大塚英明、長谷部由紀子	有斐閣
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	定期試験 (60%) と小テスト (40%) の割合で評価します。小テストは、適宜、授業中に行います。
学生への メッセージ	授業中に生じた疑問は必ず質問して下さい。
担当者の 研究室等	11号館5階 法学部資料室 (法学部非常勤講師室)
備考	なお、講義内容を理解し単位を取得するためには、毎回各々1時間以上の事前学習、事後学習が必要であることに履修に際して留意して下さい。

科目名	マーケティング	科目名(英文)	Marketing
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	鶴坂 貴恵
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

教養科目

授業概要・目的	現在、いかなる組織においても、マネジメントを効果的に行い、目標を達成するにはマーケティング発想が不可欠である。本授業では、事例を交えながらマーケティングの基礎知識を身につけることを目的とする。
到達目標	マーケティングの基本的な考え方、知識を習得する。 ものづくりや技術といった分野とマーケティングがどのような関わりを持っているか理解できるようになる。  V科の学習・教育目標との対応：A R科の学習・教育目標との対応：A A科の学習・教育到達目標との対応：A M科の学習・教育到達目標との対応：A1 E科の学習・教育到達目標との対応：B C科の学習・教育到達目標との対応：II
授業方法と留意点	講義が中心だが、授業の中で課題の考察・検討の時間を設ける
科目学習の効果(資格)	マーケティングの基礎知識を学習し、現実の問題について考えることで、世の中で行われているマーケティング手法について身近に理解できるようになる。マーケティング的発想ができるようになる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	マーケティング発想とは	マーケティングとは何か、基本的な用語について解説する	備考参照
	2	マーケティングのなり立ち	マーケティングの歴史を学ぶ	備考参照
	3	マーケティングの基本概念	マーケティングの4Pなど基本的な概念について解説する	備考参照
	4	マーケティング戦略とは	マーケティング戦略の概要について解説する	備考参照
	5	製品のマネジメント	製品開発を中心に製品戦略について解説する。	備考参照
	6	価格のマネジメント	価格の意味、価格設定など価格戦略について解説する。	備考参照
	7	広告のマネジメント	販売促進の手段である広告についてその意義や役割を解説する。	備考参照
	8	チャネルのマネジメント	メーカーにとってのチャネルの重要性やチャネル管理について解説する。	備考参照
	9	サプライチェーンのマネジメント	生産から販売までの企業が連携して在庫をコントロールするマネジメント手法について解説する。	備考参照
	10	営業のマネジメント	人的販売で重要な役割を果たす営業について解説する。	備考参照
	11	顧客関係のマネジメント	多様化した顧客と企業がいかに関係を構築するかその意義と方法について解説する。	備考参照
	12	ブランドのマネジメント	ブランドの役割と重要性とそのマネジメント手法について解説する。	備考参照
	13	サービス・マーケティング	サービス業のマーケティングについて事例を交えて解説する。	備考参照
	14	インターネット・マーケティング	インターネットを活用したマーケティングについて事例を交えて解説する。	備考参照
	15	ソーシャル・マーケティング	コーズ・リレーティッド・マーケティングなどCSRを意識したマーケティングについて解説する	教科書の内容の復習と半年間の復習を期末試験の準備も含めて、合計5時間以上はかけること。

関連科目 経営学、経営戦略論

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	1からのマーケティング	石井淳蔵	碩学社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	講義内課題 50%、期末試験 50%
学生へのメッセージ	日常生活において企業がどのような製品をどのような手段で告知し、それをどのような価格でどのような方法で販売しているのかを関心を持って講義に臨んでもらいたい。
担当者の研究室等	鶴坂貴恵研究室
備考	事前学習は教科書の該当箇所を読み内容を把握し、わからない内容や用語などをピックアップしておく。 所要時間：1.5時間  事後学習は配布したプリント箇所を教科書で確認し授業内容を復習する。事前にわからなかった内容や用語などが理解できているか確認をする。

所要時間：1時間

科目名	マーケティングと歴史	科目名(英文)	Marketing and History
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	武居 奈緒子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	この講義では、マーケティングを歴史的に考察することを目的としています。特にマーケティングの発想を踏まえ、呉服商の経営活動について説明していきます。 学科の学習・教育目標との対応：[II]
到達目標	マーケティングと歴史に関する基本的知識を修得し、活用できることを目指します。
授業方法と留意点	講義形式を基本としますが、実態分析にも力を入れます。
科目学習の効果(資格)	マーケティング的発想で社会を見る眼が養えます。

教養科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	マーケティングについて解説していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
2	製品政策	ヒット商品はどのようにして作られるのかについて考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
3	価格政策	価格の設定方法について考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
4	流通チャネル政策	商品はどのような経路をたどって販売されるのかについて考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
5	販売促進政策	商品のアピールの仕方について考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
6	マーケティングのSTPアプローチ	市場細分化について考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
7	消費行動	消費者の購買意思決定過程について考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
8	マーケティングの歴史的研究と三井越後屋	マーケティングにおける歴史的研究と三井越後屋の商法について説明していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
9	呉服商の流通機構	呉服商の流通機構について、概説していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
10	越後屋の仕入機構(1)	三井越後屋の絹の仕入機構について、説明していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
11	越後屋の仕入機構(2)	三井越後屋の木綿の仕入機構について、説明していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
12	いとう松坂屋、大丸屋の仕入機構	いとう松坂屋や大丸屋の仕入機構について、概説していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
13	呉服商から百貨店へ	呉服商から百貨店への変遷について概説します。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
14	百貨店業態の成立	百貨店について、説明していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
15	まとめ	全体のまとめをします。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。

関連科目 マーケティング論

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	期末テストの成績 70%、授業内課題 30%
学生へのメッセージ	授業で提示される問題・課題に真摯に取り組みましよう。
担当者の研究室等	武居教授室
備考	

科目名	マクロ経済学入門	科目名(英文)	Introduction to Macroeconomics
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	伊藤 正純
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	授業の目標は、理工学部の学生諸君にとっても、新聞の経済記事が少しは理解できるようにすることである。そのため、新聞によく登場するマクロ経済学およびミクロ経済学の基礎概念(基本用語)を、以下の授業計画にそってできるだけわかりやすく解説する。ただし、一般常識の範囲である。
到達目標	(1) 現代経済の大きな流れが理解できるようになること。 (2) 新聞の経済面・社会面の記事が読めるようになること。  V科の学習・教育目標との対応:A R科の学習・教育目標との対応:A A科の学習・教育到達目標との対応:A M科の学習・教育到達目標との対応:A1 E科の学習・教育到達目標との対応:B C科の学習・教育到達目標との対応:II
授業方法と留意点	主としてプリントと板書を用いて講義する。授業の最後に短文の感想を書いてもらう。それを読んで次回の授業のやり方を工夫する。
科目学習の効果(資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	経済主体と経済循環	経済主体(家計、企業、政府)。生産と支出(消費+投資)の経済循環。マクロ経済学とミクロ経済学との関係。	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。
	2	生産物市場 市場とは何か(1)	需要・供給・価格決定論。財貨・サービスの市場。	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。
	3	労働市場 その1 市場とは何か(2)	労働需要と労働供給。賃金の決定と失業の発生。雇用慣行。就職。	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。
	4	労働市場 その2 市場とは何か(2)続	雇用形態の流動化。正規雇用と非正規雇用。労働者派遣法の変遷と雇用状況の変化。総額人件費抑制と「春闘」の形骸化。	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。
	5	金融市場、株式市場 市場とは何か(3)	直接金融と間接金融。自己資本と他人資本。株式会社とは何か。株価。	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。
	6	金融緩和	中央銀行の役割。低金利政策。量的緩和政策。日銀の「異次元の金融緩和」。	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。
	7	国民所得と経済成長率	フローとストックの違い。GNP(国民総生産)とGDP(国内総生産)の違い。経済成長率(GDP増加率)。好況・不況。	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。
	8	円高・円安 為替レート	ドルを基準に考える。円高と円安はどちらが得? 実効為替レート。	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。
	9	国際収支	輸出、輸入。経常収支(貿易収支、貿易外収支)、資本収支など。	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。
	10	インフレ・デフレ	物価上昇、物価下落。消費者物価指数、企業物価指数。賃金デフレ。	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。
	11	デフレの罠	グローバル化と総額人件費抑制策。価格破壊と賃下げ。労働分配率の低下。経済格差と貧困。消費不況の長期化。	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。
	12	貯蓄・投資バランス	所得=消費+貯蓄、所得=消費+投資、ゆえに、貯蓄=投資。 家計と企業と政府の動向。	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。
	13	政府の役割(1)	経済政策。有効需要政策。公共投資。	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。
	14	政府の役割(2)	国民負担率。大きな政府か小さな政府か。所得再分配機能。	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。
	15	成長戦略は? まとめと復習	市場でできること、市場ではできないこと。	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日本の景気は賃金が決める	吉本佳生	講談社(現代新書)
	2	財政のしくみがわかる本	神野直彦	岩波書店(ジュニア新書)
	3	アベノミクスの終焉	服部茂幸	岩波書店(新書)

評価方法(基準)	定期試験(筆記試験)50%、小テスト40%、毎回の授業での提出物10%。無断欠席が4回以上ある場合は成績評価をしない。
学生へのメッセージ	ちょっと難しいが、吉本佳生さんの『日本の景気は賃金が決める』を事前に読んでほしい。そうすれば、日本経済が置かれている状況がイメージしやすくなり、授業中に説明する経済学の基礎用語の意味が理解しやすくなる。
担当者の研究室等	非常勤講師室(7号館2階)



科目名	マクロ経済学入門	科目名(英文)	Introduction to Macroeconomics
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	久保 廣正
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

**授業概要・目的** 本授業は、経済学の知識がない学生が、マクロ経済学の基礎理論を身につけることを目的とする。入社試験・公務員試験・資格試験にも役立つように、講義中、演習問題を提示する。

**到達目標** 株式市場、外国為替、国民所得、デフレ・インフレ、生産物市場等、主要な経済用語を理解し、新聞の経済記事を読めるようになることを到達目標とする。  
 V科の学習・教育目標との対応：A  
 R科の学習・教育目標との対応：A  
 A科の学習・教育到達目標との対応：A  
 M科の学習・教育到達目標との対応：A1  
 E科の学習・教育到達目標との対応：B  
 C科の学習・教育到達目標との対応：II

**授業方法と留意点** 授業は、基本的に、前回の課題の解説(復習)、本日の授業テーマの解説、授業内容に対応する課題の提示の順序で進めていく。

**科目学習の効果(資格)** マクロ経済学の基礎概念を学び、新聞記事の経済基礎用語を理解できるようになる。入社試験・公務員試験・資格試験に役立つ知識が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	マクロ経済学とはどのような学問かについて解説する。	授業後、アンケートの実施
2	国民経済計算	付加価値、GDPとGNPの相違、三面等価の原則、名目値と実質値(GDPデフレター)について解説する。	授業後、アンケートの提出
3	生産物市場	消費と貯蓄の理論(ケインズ型消費関数と貯蓄関数)について解説する。	授業後、アンケートの提出
4	生産物市場(II)	投資の理論(ケインズの限界効率理論)について解説する。	授業後、アンケートの提出
5	国民所得の決定理論	有効需要と乗数理論について解説する。	授業後、アンケートの提出
6	金融市場	貨幣の役割、株式市場における株価について解説する。	授業後、アンケートの提出
7	中央銀行と金融政策	流動性選好理論(利子率の決定)と中央銀行の役割について解説する。	授業後、アンケートの提出
8	財政金融政策の有効性	IS-LM分析と経済政策の有効性について解説する。	授業後、アンケートの提出
9	まとめと中間試験	8回までの講義のまとめを行ったうえで、中間試験を実施する。	事前に、8回までの内容を復習すること
10	デフレとインフレ	物価の変動を考慮した分析とデフレ・インフレの発生要因を解説する。	授業後、アンケートの提出
11	労働市場	失業とフィリップス曲線について解説する。	授業後、アンケートの提出
12	国際マクロ経済	貿易と国際収支について解説する。	授業後、アンケートの提出
13	国際マクロ経済(II)	外国為替レートについて解説する。	授業後、アンケートの提出
14	国際マクロ経済(III)	経常収支の決定理論について解説する。	授業後、アンケートの提出
15	経済成長	経済成長理論について解説する。	授業後、アンケートの提出

**関連科目** 特になし

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	マクロ経済学ノート	石川秀樹	講談社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

**評価方法(基準)** 授業でのアンケートの提出20%、中間試験20%、期末試験60%の割合で総合的に評価する。

**学生へのメッセージ** 工学部・理工学部の学生にとって、マクロ経済学で使用するグラフの読み方は決して難しいものではないと思います。本授業を通じて、一般教養としてのマクロ経済学の基礎知識を習得しましょう。

**担当者の研究室等** 1号館7階 久保教授室 (経済学部)

**備考** 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること



科目名	身近な犯罪から自分、家族、まちを守る	科目名(英文)	Neighborhood Crime Prevention
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中沼 丈晃
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	私は、地域における防犯を研究し、自分自身も、研究室の学生とともに、青パト（青色回転灯をつけた自主防犯パトロールカー）で毎日、子どもの見守り活動を行っている。そうした研究者として、普段一番接する学生に、犯罪の実態を知ってもらい、少しの注意と手間で犯罪から身を守れることをわかってほしくて、この講義を開講することとした。加えて、それほど気負わなくても、防犯ボランティアとして社会貢献できる方法があることも紹介したいと考えている。 学科の学習・教育目標との対応：工学部[A]，理工学部 [I1]
到達目標	自分と家族の身近でどんな犯罪が起きているか知り、どのような対策が必要かわかるようにする。防犯ボランティアへの参加の動機づけが大きくなればなおよいと考える。
授業方法と留意点	とにかく実際の事件を取り上げて、加害者の視点、被害者の視野、発生した場所・時間の特徴、警察や行政、学校、ボランティアの動きを具体的に説明する。そして、いま推奨されている防犯対策を紹介する。警察の防犯実務者や、活躍する防犯ボランティア団体の世話役の方をお招きしたインタビュー講義も交えていく。
科目学習の効果(資格)	各自が自分で、家庭で防犯対策をして、犯罪から身を守れるようになってもらうのが第一である。防犯ボランティア参加の動機づけにもなるだろう。職業では、当然、警察官の仕事の視点がわかる。

教養科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	昨年起きた犯罪はどのような特徴があったのか？	昨年起きた具体的な犯罪例を取り上げて、どのような人・物が、どういう理由でねらわれているのか探る。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。
2	犯罪にはどのような種類があり、どうやって数えるのか？	刑法上は同じ窃盗でも、ひったくり、自転車盗、車上ねらいなどさまざまな手口がある。1件の窃盗でも、起きた数、警察に届けられた数、検挙された数がある。こうした手口の分け方や数の教え方を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。
3	犯罪はなぜ起こるのか？どうやって減らすのか？	悪い人がいるから犯罪が起こるのか、すきがある人がいるから犯罪が起こるのか、犯罪が起きやすい場所・時間があるから犯罪が起こるのか、それぞれの理屈を確かめてみる。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。
4	大阪の治安はどのくらい悪いのか？どのように防犯対策を進めているのか？	大阪府は、他の都道府県に比べてどのような犯罪が多いのか、人口の多さを考慮するとどうなのか説明する。「オール大阪」で街頭犯罪ワースト1を返上する取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。
5	街頭犯罪ーひったくり、自転車盗、車上・部品ねらいを中心に	一番身近な街頭犯罪について、どういう人・物が、どういった状況でねらわれているのか、どういう人が犯罪を行っているのか説明する。ついで、ひったくり防止カバー、シリンダー錠などの防犯対策の効果について紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。
6	住宅への空き巣、忍び込み、居空き	泥棒は、空き巣に入る家をどのように物色し、どうやって侵入し、何を盗んでいくのか解説する。最近の防犯住宅、防犯マンションの取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。
7	性犯罪ー街頭での強制わいせつ、痴漢、公然わいせつ	大阪府は性犯罪が深刻な自治体である。犯罪者は、どんな人・場所をねらって性犯罪に及ぶのか説明する。女性の学生が今日からすべき防犯対策を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。
8	子どもをねらった犯罪	子どもに対する犯罪について、過去に大きな社会問題になった殺傷事件から、日常的に起きているわいせつ、声かけ、つきまといまで、実態を具体的に説明する。そして、子どもの安全を守るために各地で行われている取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。
9	ストーカー、DV(配偶者からの暴力)	ストーカーやDVは、個人間の問題に関わるので、対応の判断が難しい。しかし、大きな事件につながれば、対応の遅さ、まずさが批判されやすい。過去の事件の経緯を紹介して、深刻な問題への展開を防ぐために現在行われている対策を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。
10	詐欺ー高齢者をねらった振り込め、オレオレ、リフォーム詐欺など	昨年、急激に増え、手口が次々と変わる高齢者をねらった詐欺を取り上げる。背景にどのような組織があるのか、どうして防犯が難しいのか、事例に即して説明する。若い私たちにできる協力も紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。
11	サイバー犯罪ー子どもや学生が巻き込まれるネット犯罪	子どもが巻き込まれる出会い系サイトやネットゲームでのなりすまし、大学生も被害を受けている偽サイトでのショッピング詐欺、ネットバンクでのID、パスワード盗難など、身近なサイバー犯罪を取り上げる。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。
12	違法ドラッグの実態と対策	違法ドラッグについて、その危険性、販	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識

			売の実態、取締の方法を紹介する。	を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。																
	13	防犯カメラの普及と効果	急速に普及した防犯カメラについて、普及の背景と経緯、技術の進歩、個人情報・プライバシーとの関係、防犯効果の考え方を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。																
	14	防犯ボランティアの活動	近年の犯罪対策の最大の特徴は、民間のボランティア団体の活性化である。地域での子ども見守り隊、青バト活動、学生防犯ボランティアなど、最近の各地、各世代の防犯ボランティアの活動を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。																
	15	警察官の仕事の実際	犯罪が起きれば捜査し検挙する。犯罪が起きないように市民や企業に防犯をうながす。それを職業とする警察官の仕事の実際を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。																
関連科目	法学部「刑事政策」「経済刑法」「少年法」																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	定期試験 60%、講義毎回の確認ペーパー30%、受講態度（投げかける質問に対する発言など）10%で総合的に評価する。																			
学生への メッセージ	勉強以前に、自分、家族、まちを身近な犯罪から守るために、ぜひこの講義を受講してほしいと願っている。そして、できることからでよいので、講義で知った防犯対策をしてもらいたい。警察官志望者には、近年、警察でも人気の仕事になりつつある防犯の実務がわかるという意味で、興味を持ってもらえらると思う。																			
担当者の 研究室等	11号館9階 中沼研究室																			
備考																				

科目名	ものづくりインターンシップ基礎	科目名(英文)	Internship for Manufacturing Basics
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	奥野 竜平
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	これから就職活動を始める学生(大学3年)を対象に、社会人として必要とされる規律やマナー、製造業など企業で働く上での基礎知識、課題を発見して解決する方法などを習得することを目的とする。履修後には、社会人・企業人としての役割および責任、仕事への情熱、創造的態度、自己の能力向上意欲が喚起されることを期待する。
到達目標	(1)社会人としてのマナーを身につける。(2)仕事の基本に関する知識を修得する。(3)環境問題/意識についての体験をする。(4)企業における品質問題を体験する。(5)原価管理の基礎知識を修得する。(6)PDCA サイクルによる課題解決を体験する。 学科の学習・教育到達目標との対応：工学部[A]，理工学部 [II]
授業方法と留意点	パナソニック(株)より講師を招き、社会人・企業人としての基礎である知識と心がまえについて、パナソニック(株)の新入社員研修の方式に従い、講義に加えて具体事例演習を通じて体得させる。摂大教員も教室に常駐し、授業の補助と成績評価を分担する。授業は挨拶に始まり、挨拶で終わるので遅刻は厳禁です。なお、1~5回目までは120分授業とする。
科目学習の効果(資格)	社会が学生に何を求めているのかを体得し、職業意識を高め、自発的に能力向上を行えるようになる。就職後ただちに、社会人・企業人としての適切な行動が取れるようになる。

教養科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	企業・製造業・仕事の基本とは① 4月9日(木)	社会人としてのマナー、仕事に取り組む基本姿勢の習得、および5S・安全・環境教育を通じて、社会人としての基礎知識を習得する	企業・製造業・仕事に基本①の講義終了後、レポートを提出のこと(書式は別途)
	2	企業・製造業・仕事の基本とは② 4月16日(木)	社会人としてのマナー、仕事に取り組む基本姿勢の習得、および5S・安全・環境教育を通じて、社会人としての基礎知識を習得する	----
	3	企業・製造業・仕事の基本とは③ 4月23日(木)	社会人としてのマナー、仕事に取り組む基本姿勢の習得、および5S・安全・環境教育を通じて、社会人としての基礎知識を習得する	企業・製造業・仕事の基本②~③の講義終了後、レポートを提出のこと(書式は別途)
	4	企業・製造業・仕事の基本とは④ 5月7日(木)	社会人としてのマナー、仕事に取り組む基本姿勢の習得、および5S・安全・環境教育を通じて、社会人としての基礎知識を習得する	----
	5	企業・製造業・仕事の基本とは⑤ 5月14日(木)	社会人としてのマナー、仕事に取り組む基本姿勢の習得、および5S・安全・環境教育を通じて、社会人としての基礎知識を習得する	企業・製造業・仕事の基本④~⑤の講義終了後、レポートを提出のこと(書式は別途)
	6	品質教育① 5月21日(木)	企業活動の命運をにぎる品質問題について、品質管理の基礎からQC7つ道具の活用・具体実習等により、品質の重要性を体得する(座学と実習)	----
	7	品質教育② 5月28日(木)	企業活動の命運をにぎる品質問題について、品質管理の基礎からQC7つ道具の活用・具体実習等により、品質の重要性を体得する(座学と実習)	----
	8	品質教育③ 6月4日(木)	企業活動の命運をにぎる品質問題について、品質管理の基礎からQC7つ道具の活用・具体実習等により、品質の重要性を体得する(座学と実習)	品質教育①~③の講義終了後、レポートを提出する(書式は別途)
	9	原価・コスト教育① 6月11日(木)	企業活動の根幹を成す原価についての基礎概念と原価管理の基礎知識を習得する	----
	10	原価・コスト教育② 6月18日(木)	企業活動の根幹を成す原価についての基礎概念と原価管理の基礎知識を習得する	----
	11	原価・コスト教育③ 6月25日(木)	企業活動の根幹を成す原価についての基礎概念と原価管理の基礎知識を習得する	原価・コスト教育①~③の講義終了後、レポートを提出する(書式は別途)
	12	課題解決教育① 7月2日(木)	PDCA サイクルを回すことの重要性の習得により、課題形成力・問題解決力を強化する	----
	13	課題解決教育② 7月9日(木)	PDCA サイクルを回すことの重要性の習得により、課題形成力・問題解決力を強化する	----
	14	課題解決教育③ 7月16日(木)	PDCA サイクルを回すことの重要性の習得により、課題形成力・問題解決力を強化する	課題解決教育①~③の講義終了後、レポートを提出のこと(書式は別途) また、14回目までの講義を総括して、最終回での質問事項を考えておくこと
	15	全体討議・質疑応答 7月23日(木)	14回の講義を総括しての討議・質疑応答を実施する	最終報告として受講レポートを提出する。

関連科目 『ものづくりインターンシップ実践』または『ものづくり海外インターンシップ』を履修する学生は、必ずこの科目を履修すること。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	課題レポート(6回)と受講レポート50%、授業姿勢(積極性)20%、全体討議(プレゼンテーション)10%、期末試験20%とした総合評価を行う。			
学生への メッセージ	日本を代表する企業であるパナソニック(株)と共同で実施する研修を受講して、社会と企業は学生に何を求めているのかを知り、職業人としての基礎知識を身につけ、社会人になるための意識転換をしましょう。この科目を履修する学生は、この科目と「ものづくりインターンシップ実践」または「ものづくり海外インターンシップ」を同時に受講することが前提です。			
担当者の 研究室等	1号館4階 奥野教授室			
備考	<p>毎回の講義内容を振り返りのための学習毎回1時間程度。 レポート各回3時間程度、プレゼン準備と期末試験のための学習20時間程度。ものづくり海外インターンシップ履修予定者については別途定める授業計画に沿って進める場合がある。</p> <p><b>【担当者】</b> パナソニック講師：佐藤哲志、山下秀行、福田祥一、高岡清</p>			

科目名	ものづくりインターンシップ基礎	科目名(英文)	Internship for Manufacturing Basics
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	川野 常夫
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	本科目は、夏期の「ものづくり海外インターンシップ(川野ほか担当)」で、実際に海外に渡航し、海外で実習を受けるために必要な英語力やマナーなどを身につけるための講義である。日本の企業がますますグローバル化する中で、国際的視野と素養を身に付けた人材はますます必要となっている。本科目では、将来グローバルに活躍できる人材の育成を視野に入れ、海外事情や企業のグローバル化の実態を学ぶほか、英語によるコミュニケーション力や海外での企業や大学の人たちと交流する際の社会人としてのマナーなどについて養成する。
到達目標	(1)海外事情が理解できる。(2)海外渡航の手順や手続きが理解できる。(3)グローバル企業の現状が理解できる。(4)海外インターンシップ先の事情が理解できる。(5)英語による基本的なコミュニケーションができる。(6)社会人としてのマナーが身につく。
授業方法と留意点	講義名称が「ものづくり」であるが、専門知識は特に必要としないので、参加学生は専門分野も、文系・理系も問わない。また男女も問わない。本講義は、夏期の「ものづくり海外インターンシップ(川野ほか担当)」の準備のための講義とする。夏期の実習先の受け入れ人数に制限があるため、希望者多数の場合は理工学部インターンシップ委員会において選定する。
科目学習の効果(資格)	英語による基本的なコミュニケーション力が身につく。TOEICや英検などを受験する契機となる。また、社会人としてのマナーが身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、海外渡航手続き概要	パスポート、チケット予約(航空機、ホテル)、保険、海外渡航準備	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
2	海外事情、日系企業のグローバル化	海外の文化、経済、グローバル化事情	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
3	研修先 事前調査	文化、歴史、経済事情、企業・大学	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
4	社会人基礎力	社会人として必要な基礎力	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
5	英語コミュニケーション実習1	海外渡航、海外生活	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
6	英語コミュニケーション実習2	自己紹介、大学紹介、日本紹介	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
7	英語コミュニケーション実習3	専門科目の紹介	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
8	英語コミュニケーション実習4	海外研修を想定したグループ実習1	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
9	英語コミュニケーション実習5	海外研修を想定したグループ実習2	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
10	英語コミュニケーション実習6	海外研修を想定したグループ実習3	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
11	マナー実習1	挨拶、礼儀、服装	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
12	マナー実習2	ミーティング、質疑、懇親会	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
13	マナー実習3	感謝、気配り、機転	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
14	海外渡航、海外生活	渡航準備、入出国、習慣、食生活、健康管理	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
15	英語による成果発表?	まとめ	成果発表の準備、反省

関連科目	ものづくり海外インターンシップ
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日本企業が欲しがらる「グローバル人材」の必須スキル	内永ゆか子	朝日新聞出版
2	旅の英会話伝わるフレーズ集	ニック・ウィリアムソン	ナツメ社	
3	さすが!と言われる ビジネスマナー 完全版	高橋書店編集部	高橋書店	

評価方法(基準)	課題レポート60%、取組み姿勢20%、成果発表20%として評価を行う。
----------	-------------------------------------

学生へのメッセージ	これまでに「ものづくり海外インターンシップ」を受講した学生は、海外実習後に顕著な成長が認められるので、大いにチャレンジしてほしい。授業方法、留意点にも記載のとおり、参加学生は専門分野も、文系・理系も問わない。また男女も問わない。
-----------	--

担当者の研究室等	1号館4階 川野教授室 12号館7階 白鳥准教授室 8号館3階 加嶋教授室 12号館7階 榑准教授室
----------	---

備考	【事前事後学習】 レポート作成、復習の学習時間：20時間程度 【共同担当者】 白鳥准教授、加嶋教授、榑准教授、理工学部インターンシップ委員会委員
----	---

教養科目

科目名	ものづくりインターンシップ実践	科目名 (英文)	Internship for Manufacturing Practice
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	奥野 竜平
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	『ものづくりインターンシップ基礎』の実践コースである。『ものづくりインターンシップ基礎』で学んだ内容をパナソニックのモノづくり現場で具体実習・実践することにより、更なる理解を進め、習得して自らの強みとすることを目的とする。																		
到達目標	(1)生産革新・改善を体験する。(2)製造業の成り立ち・仕組みを体験する。(3)チームワーク・QCD問題を体験する。(4)パナソニックの工場を見学する。(5)研修成果を発表する。 学科の学習・教育到達目標との対応：[II]																		
授業方法と留意点	『ものづくりインターンシップ基礎』で学んだ内容を体験するため、パナソニック(株)人材開発カンパニーで、計7日間の宿泊実習を行なう。また、事前指導として『ものづくりインターンシップ基礎』のまとめを行い、事後指導として実習で得られた成果の定着をはかるためにプレゼンテーションによる報告を行う。																		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	<p>直前指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1回目 ものづくりインターンシップ基礎のまとめ、インターンシップⅡの準備 7/9(木) 6限目</li> <li>・2回目 ものづくりインターンシップ基礎全体討議プレゼンテーション指導 7/16(木) 6限目</li> </ul> <p>宿泊実習(パナソニック人材開発カンパニー)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1～3日目</li> <li>【授業テーマ】</li> <li>生産革新演習</li> <li>【内容・方法等】</li> <li>1個流しセル生産のロールプレイを通じて、生産革新実践・方法等を体得する。(グループ演習)</li> <li>【事前・事後学習課題】</li> <li>演習終了後、レポートを提出のこと</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4～5日目</li> <li>【授業テーマ】</li> <li>モノづくりシミュレーション演習</li> <li>【内容・方法等】</li> <li>四角錐製作を通じて、製造業の成り立ち・しくみを習得(設計～生産)し、目標達成のためのチームワーク・QCD問題意識の重要性を体得する。(グループ演習)</li> <li>【事前・事後学習】</li> <li>演習終了後、レポートを提出のこと</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6日目</li> <li>【授業テーマ】</li> <li>工場見学</li> <li>【内容・方法等】</li> <li>パナソニックのモノづくりを工場見学を通じて体得する。(2工場)</li> <li>【事前・事後学習課題】</li> <li>見学終了後、レポートを提出のこと</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・7日目</li> <li>【授業テーマ】</li> <li>研修成果報告会</li> <li>【内容・方法等】</li> <li>研修成果報告会の実施。(グループ単位)</li> <li>【事前・事後学習課題】</li> <li>グループ単位でプレゼン資料をまとめておくこと</li> </ul> <p>実習中指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・8月29日(土) 2～5限目 プレゼンテーション指導</li> </ul> <p>実習後指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1回目 体験報告書の添削指導</li> <li>・2回目 研修成果報告会(2回目)に向けたプレゼンテーション指導</li> <li>・3回目 研修成果報告会(2回目)に向けたプレゼンテーション指導</li> <li>・4回目 研修成果報告会(2回目)に向けたプレゼンテーション指導</li> <li>・5回目 研修成果報告会(2回目)</li> <li>・6回目 全体報告会 学生代表者の発表・質疑</li> <li>・7回目 全体報告会 企業管理者の講演と講評</li> </ul>																		
関連科目	ものづくりインターンシップ基礎																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1											
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	実習成果40%、研修成果報告会(2回)20%、実習最終レポート10%、体験報告書10%、実習・授業態度20%とした総合評価を行なう。																		
学生へのメッセージ	この科目は「ものづくりインターンシップ基礎」を同時に受講することが前提です。																		
担当者の	奥野教授室(1号館4階)																		

研究室等	
備考	<p>期間：2015年8月24日（月）～8月28日（金）、8月31日（月）～9月1日（火） パナソニック（株）人材開発カンパニーでの宿泊研修です。8月29日（土）には摂大でプレゼン資料を作成します。その間、パナソニック㈱社員の朝礼、ランニングにも参加します。ジーンズ、スリッパは禁止。ランニングできる履物、着替えが必要です。学生負担金・食費等は別途徴収します。</p> <p><b>【事前事後学習】</b> レポート作成，プレゼン準備としての学習時間：20時間程度。</p> <p><b>【担当者】</b> パナソニック講師：佐藤哲志、高岡清、熊本義</p>



科目名	ものづくり海外インターンシップ	科目名 (英文)	International Internship for Manufacturing
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	川野 常夫
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	日本の企業がますますグローバル化の中で、国際的視野と素養を身に付けた人材はますます必要となる。本科目は、「ものづくり海外インターンシップ」と呼び、世界展開をしている「ものづくり企業」の海外工場において具体的に実習体験をすることにより、グローバル企業の現状を理解するとともに、自らの視野と経験を広げることを目的とする。業種は製造業（機械・電気系）、または建設業（建築・デザイン系）とする。研修先はとりわけ東南アジアとする。?研修先によっては、海外の大学でワークショップ体験も含める。																		
到達目標	(1)グローバル企業の現状が理解できる。(2)英語による基本的なコミュニケーションができる。(3)海外でのものづくりの工程を体験できる。(4)チームワークを体験できる。(5)国際的視野を広げられる。(6)研修成果が発表できる。																		
授業方法と留意点	東南アジアは、フィリピン2箇所とタイ1箇所（合計3箇所）を予定している。受講者はいずれかの企業において、本学の夏休み中に往復を含めて約10日間（予定）の現場実習を行う。実習後にレポート作成および海外実習の成果報告会を行う。講義名称が「ものづくり」であるが、専門知識は特に必要としないので、参加学生は専門分野も、文系・理系も問わない。また男女も問わない。実習先の受け入れ人数に制限があるため、希望者多数の場合は理工学部インターンシップ委員会において選定する。なお、本講義を受講する学生は、前期の「ものづくりインタ																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>直前指導 ものづくり海外インターンシップ基礎の全体報告会に向けたプレゼンテーションの指導、海外実習の準備など</p> <p>海外実習 ・1～2日目 【授業テーマ】移動、オリエンテーション 【内容・方法等】研修先の概要、オリエンテーション、語学（英語）研修など 【事前・事後学習課題】実習終了後、レポートを提出のこと</p> <p>・3日目 【授業テーマ】企画・設計部門実習／ワークショップ 【内容・方法等】ものづくり工程の川上である企画・設計部門、または建築・デザイン部門。（グループ演習） 【事前・事後学習】実習終了後、レポート、アイデアスケッチなどを提出のこと</p> <p>・4～5日目 【授業テーマ】製造工場見学、建築・デザイン作品見学、交流会 【内容・方法等】関連工場、施設、建築、デザイン作品の見学、現地従業員、大学生との交流会に参加する。交流会では、英語によるコミュニケーションを行う。 【事前・事後学習課題】交流会終了後、レポート、アイデアスケッチなどを提出のこと</p> <p>・6～8日目 【授業テーマ】製造系実習、または建設系のワークショップなど 【内容・方法等】製造系の加工、組立、検査・品質管理など、または建設系の建築・デザインワークショップなど。（グループ演習） 【事前・事後学習課題】実習終了後、レポートを提出のこと</p> <p>・9～10日目 【授業テーマ】研修成果報告会、移動 【内容・方法等】グループ単位でPPTでプレゼン、または部分模型やその他手法を用いてプレゼンしてもよい。 【事前・事後学習課題】実習終了後、最終レポート、または各グループで研究成果ポスター、または梗概作成を提出のこと</p> <p>実習後指導 ・1回目 最終レポート（体験報告書）の添削指導 ・2回目 成果報告会に向けたプレゼンテーション指導 ・3回目 全体報告会 学生代表者の発表・質疑 ・4回目 全体報告会 企業管理者の講演と講評</p>																		
関連科目	ものづくりインターンシップ基礎																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1											
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>「日本企業が欲しがらる「グローバル人材」の必須スキル</td> <td>内永ゆか子</td> <td>朝日新聞出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>旅の英会話伝わるフレーズ集</td> <td>ニック・ウィリアムソン</td> <td>ナツメ社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>さすが!と言われる ビジネスマナー 完全版</td> <td>高橋書店編集部</td> <td>高橋書店</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	「日本企業が欲しがらる「グローバル人材」の必須スキル	内永ゆか子	朝日新聞出版	2	旅の英会話伝わるフレーズ集	ニック・ウィリアムソン	ナツメ社	3	さすが!と言われる ビジネスマナー 完全版	高橋書店編集部	高橋書店
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	「日本企業が欲しがらる「グローバル人材」の必須スキル	内永ゆか子	朝日新聞出版																
2	旅の英会話伝わるフレーズ集	ニック・ウィリアムソン	ナツメ社																
3	さすが!と言われる ビジネスマナー 完全版	高橋書店編集部	高橋書店																
評価方法（基準）	海外現地研修 60%（実習記録簿 20%、実習・授業態度 20%、実習成果プレゼン 20%）、実習前後の学習 5%、実習最終レポート 10%、体験報告書 10%、成果報告会（2回）15%として評価を行う。																		
学生へのメッセージ	これまでに受講した学生は、海外実習後に顕著な成長が認められるので、大いにチャレンジしてほしい。授業方法、留意点にも記載のとおり、参加学生は専門分野も、文系・理系も問わない。また男女も問わない。実習先の受け入れ人数に制限があるため、希望者多数の場合は理工学部インターンシップ委員会において選定する。本講義を受講する学生は、前期の「ものづくりインターンシップ基礎（海外班、川野ほか担当）」の受講を必須とする。																		
担当者の研究室等	1号館4階 川野教授室 1号館3階 伊藤教授室 12号館7階 白鳥准教授室 8号館3階 加嶋教授室																		
備考	【注意事項】研修予定期間：2015年8月中旬（研修先の都合により変更する場合があります。） 航空運賃、宿泊費、保険代などは自己負担となります。 【事前事後学習】レポート作成、復習の学習時間：20時間程度 【共同担当者】伊藤教授、白鳥准教授、加嶋教授、理工学部インターンシップ委員会委員																		



科目名	役立つ金融知力	科目名(英文)	Financial Literacy
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	陸川 富盛
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	自ら考えて決断し行動する「賢い経済主体」となるためには、まずは市場経済や契約社会の仕組みを実感覚として理解し、様々なリスクや不確実性に果敢に立ち向かっていく必要があります。経済や法律そして金融に関する正しい知識を得てそれらを日常的に活用していくことは、単にお金の問題に役立つだけでなく、より良い人生や社会の実現に欠かせないのです。 本講義の目的は、人生のさまざまな局面で的確に決断し行動できるよう、金融知識を活用する実践的な金融インテリジェンスの基本を身に付けることです。
到達目標	実践的な金融インテリジェンスの基本を身に付け、経済生活やビジネスライフにおいて適宜的確に行動できるようになることを目指します。
授業方法と留意点	教科書を使用した講義形式の授業により、次の三つのステップで進めます。 ① まずは経済主体としての視点で、社会の仕組みの全体観を把握し、様々な課題や対処法を認識します。 ② 次に、金融の基礎知識を、大学で学ぶ様々な専門知識と関連付けながら、実践的に学んでいきます。 ③ 更に、それらを統合的に活用する能力(=金融インテリジェンス)を、社会生活に応用する方法を学びます。
科目学習の効果(資格)	経済生活やビジネスライフに必要な意思決定を適宜適切に行えるよう、金融知識を活用する実践的な金融インテリジェンスの基本を身に付けます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	「金融知力の必要性」	テキスト<P4~15> ・私たちのくらしと経済 ・戦後の社会発展 ・パラダイムシフト ・変革の必要性
2	経済・金融の基礎知識 ①	「国際経済と国家財政」	テキスト<P38~49> ・国際経済 ・国家の財政
3	経済・金融の基礎知識 ②	「市場経済と金融の役割」	テキスト<P16~29> ・金融の役割 ・市場経済のしくみと意義 ・金融の役割と銀行
4	法律の基礎知識	「契約の基本」	テキスト<P147~149・152~159> ・契約社会 I ・ローン・クレジット ・契約社会 II
5	リスクと向き合う ①	「リスクマネジメント」	テキスト<P74~81・150~152・159~161> ・リスクマネジメント ・契約社会 III
6	リスクと向き合う ②	「リタイアメント」	テキスト<P82~91> ・年金制度 ・老後生活資金
7	投資の基礎知識	「投資とは何か」	テキスト<P92~98> ・投資とは ・投資意思決定プロセス
8	経済活動と金融市場	「景気・株価」	テキスト<P30~37・50~53> 景気 景気と株価
9	金融商品の基礎知識 ①	「代表的な金融商品(株式等)」	テキスト<P118~129> ・株式 ・投資信託 ・外貨建て商品 ・保険商品 ・デリバティブ
10	金融商品の基礎知識 ②	「代表的な金融商品(債券他)」	テキスト<P111~118> ・預貯金 ・信託 ・債券
11	金融商品の基礎知識 ③	「金融市場と金融商品の性格」	テキスト<P99~111> ・直接金融と間接金融 ・金融商品の性格
12	投資のリスク管理	「資産分散と時間分散」	テキスト<P130~146> ・分散投資 ・時間分散 ・長期投資
13	ライフプランニング ①	「ライフプランニング表」	テキスト<P54~63> ・ライフプランニング
14	ライフプランニング ②	「ライフイベントごとの課題」	テキスト<P64~73> ・キャッシュフロー表の見直し ・ライフイベントごとの課題
15	最終まとめ 試験 及び レポート提出	「講義のまとめ」 課題レポート提出 試験	全体まとめ 講義で得た金融インテリジェンスの確認と応用

関連科目	民法、会社法、経済学、国際経済、経営学、経営戦略、会計学 など			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	『今日から役に立つ、経済の読み方と投資の基礎』		金融知力普及協会

教養科目

	ISBN : 978-4-907341-00-8 (必須。授業では毎回この教科書を使用しますので、必ず購入してください。)		
2			
3			
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	<p>下記のとおり、本科目への取り組み姿勢や理解度等を総合的に評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・試験 : 20% (知識の正確性)</li> <li>・レポート : 50% (自分で考え、問題解決する能力)</li> <li>・平常点 : 30% (受講状況、質疑応答、課題・討議など)</li> </ul>		
学生への メッセージ	<p>本講義でより高い成果を得るためには、下記の二点が非常に重要なポイントです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 受講内容の復習を行い、身近な経済・時事問題などに疑問を持って考えること。</li> <li>② 最終回までに表計算ソフト「エクセル」(講義では教えません)で簡易な表を作成し、内容を精査すること。</li> </ul>		
担当者の 研究室等	11号館1階(教務課)		
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この授業は、SMBC日興証券グループによる「寄附講座」です。</li> <li>・「事前・事後学習課題」について          予習(シラバス記載の教科書該当ページを事前に読む):30分程度          復習(講義の内容を振り返り、自分の言葉で整理する):30分程度          当然の前提として、単位取得するには全講義を静かに聴講すること。</li> </ul>		

科目名	歴史に学ぶ	科目名(英文)	History
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐伯 智広
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

教養科目

授業概要・目的	<p>目的：近代日本の成立についての歴史的な基礎知識を身に付け、その特質を理解する。  概要：私たちは、日本という「国」に暮らしていることを、当たり前のこと・自然なことだと思っています。ですが、もしもそれが「自然ではないこと」だと言われたら…ちょっと「えっ？」と思いませんか？現在の私たちが暮らす「国」とは何なのか。それが誰によって、何のために、どのように作られたのか。この講義では、そうした国の成り立ちの歴史について学びます。それは、単なる歴史ではなく、現代社会について理解することにつながるでしょう。</p>																																																																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代の日本がどのような歴史的経緯を経て成立したかを理解する。</li> <li>2. 歴史的経緯が現代の日本に及ぼしている影響を理解する。</li> <li>3. 上記の点について説明可能な能力を身に付ける。</li> </ol> <p>V科の学習・教育目標との対応：A  R科の学習・教育目標との対応：A  A科の学習・教育到達目標との対応：A  M科の学習・教育到達目標との対応：A1  E科の学習・教育到達目標との対応：B  C科の学習・教育到達目標との対応：II</p>																																																																		
授業方法と留意点	板書講義形式です。プリントを利用します。教科書はありません。参考書は講義内で適宜示します。																																																																		
科目学習の効果(資格)	近代日本という国の起源・変遷・特色についての、歴史的な基礎知識と、それを説明する能力を身につけることができます。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 「国」とは何か</td> <td>私たちが現在暮らす「国」とは何なのかについて説明します。</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>開国</td> <td>幕末の開国について、江戸時代の鎖国と比較して考えます。</td> <td>予習として、「開国」という語について辞書的な意味を調べる。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>廃藩置県</td> <td>廃藩置県について、江戸時代の幕藩体制と比較して考えます。</td> <td>予習として、「廃藩置県」という語について辞書的な意味を調べる。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>徴兵令</td> <td>徴兵令について、江戸時代の武士と比較して考えます。</td> <td>予習として、「徴兵令」という語について辞書的な意味を調べる。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>文明開化</td> <td>文明開化について、江戸時代の蘭学・国学と比較して考えます。</td> <td>予習として、「文明開化」という語について辞書的な意味を調べる。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>自由民権運動</td> <td>自由民権運動について、現代の政治制度と比較して考えます。</td> <td>予習として、「自由民権運動」という語について辞書的な意味を調べる。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>大日本帝国憲法</td> <td>大日本帝国憲法について、日本国憲法と比較して考えます。</td> <td>予習として、「大日本帝国憲法」という語について辞書的な意味を調べる。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>条約改正</td> <td>不平等条約の改正について考えます。</td> <td>予習として、「条約改正」という語について辞書的な意味を調べる。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>日清戦争・日露戦争</td> <td>日清戦争・日露戦争について、前後の時代の戦争と比較して考えます。</td> <td>予習として、「日清戦争」「日露戦争」という語について辞書的な意味を調べる。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>第一次世界大戦</td> <td>第一次世界大戦について、前後の時代の戦争と比較して考えます。</td> <td>予習として、「第一次世界大戦」という語について辞書的な意味を調べる。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ワシントン体制</td> <td>ワシントン体制について、現代の戦争問題と比較して考えます。</td> <td>予習として、「ワシントン体制」という語について辞書的な意味を調べる。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>大正デモクラシー</td> <td>大正デモクラシーについて、現代の政治制度と比較して考えます。</td> <td>予習として、「大正デモクラシー」という語について辞書的な意味を調べる。</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>世界恐慌</td> <td>世界恐慌について、現代の経済問題と比較して考えます。</td> <td>予習として、「世界恐慌」という語について辞書的な意味を調べる。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>第二次世界大戦</td> <td>第二次世界大戦について、前後の時代の戦争と比較して考えます。</td> <td>予習として、「第二次世界大戦」という語について辞書的な意味を調べる。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>そして現代へ</td> <td>第二次世界大戦後の日本について、現代と比較して考えます。</td> <td>予習として、「日本国憲法」という語について辞書的な意味を調べる。</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 「国」とは何か	私たちが現在暮らす「国」とは何なのかについて説明します。	なし	2	開国	幕末の開国について、江戸時代の鎖国と比較して考えます。	予習として、「開国」という語について辞書的な意味を調べる。	3	廃藩置県	廃藩置県について、江戸時代の幕藩体制と比較して考えます。	予習として、「廃藩置県」という語について辞書的な意味を調べる。	4	徴兵令	徴兵令について、江戸時代の武士と比較して考えます。	予習として、「徴兵令」という語について辞書的な意味を調べる。	5	文明開化	文明開化について、江戸時代の蘭学・国学と比較して考えます。	予習として、「文明開化」という語について辞書的な意味を調べる。	6	自由民権運動	自由民権運動について、現代の政治制度と比較して考えます。	予習として、「自由民権運動」という語について辞書的な意味を調べる。	7	大日本帝国憲法	大日本帝国憲法について、日本国憲法と比較して考えます。	予習として、「大日本帝国憲法」という語について辞書的な意味を調べる。	8	条約改正	不平等条約の改正について考えます。	予習として、「条約改正」という語について辞書的な意味を調べる。	9	日清戦争・日露戦争	日清戦争・日露戦争について、前後の時代の戦争と比較して考えます。	予習として、「日清戦争」「日露戦争」という語について辞書的な意味を調べる。	10	第一次世界大戦	第一次世界大戦について、前後の時代の戦争と比較して考えます。	予習として、「第一次世界大戦」という語について辞書的な意味を調べる。	11	ワシントン体制	ワシントン体制について、現代の戦争問題と比較して考えます。	予習として、「ワシントン体制」という語について辞書的な意味を調べる。	12	大正デモクラシー	大正デモクラシーについて、現代の政治制度と比較して考えます。	予習として、「大正デモクラシー」という語について辞書的な意味を調べる。	13	世界恐慌	世界恐慌について、現代の経済問題と比較して考えます。	予習として、「世界恐慌」という語について辞書的な意味を調べる。	14	第二次世界大戦	第二次世界大戦について、前後の時代の戦争と比較して考えます。	予習として、「第二次世界大戦」という語について辞書的な意味を調べる。	15	そして現代へ	第二次世界大戦後の日本について、現代と比較して考えます。	予習として、「日本国憲法」という語について辞書的な意味を調べる。
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 「国」とは何か	私たちが現在暮らす「国」とは何なのかについて説明します。	なし																																																																
2	開国	幕末の開国について、江戸時代の鎖国と比較して考えます。	予習として、「開国」という語について辞書的な意味を調べる。																																																																
3	廃藩置県	廃藩置県について、江戸時代の幕藩体制と比較して考えます。	予習として、「廃藩置県」という語について辞書的な意味を調べる。																																																																
4	徴兵令	徴兵令について、江戸時代の武士と比較して考えます。	予習として、「徴兵令」という語について辞書的な意味を調べる。																																																																
5	文明開化	文明開化について、江戸時代の蘭学・国学と比較して考えます。	予習として、「文明開化」という語について辞書的な意味を調べる。																																																																
6	自由民権運動	自由民権運動について、現代の政治制度と比較して考えます。	予習として、「自由民権運動」という語について辞書的な意味を調べる。																																																																
7	大日本帝国憲法	大日本帝国憲法について、日本国憲法と比較して考えます。	予習として、「大日本帝国憲法」という語について辞書的な意味を調べる。																																																																
8	条約改正	不平等条約の改正について考えます。	予習として、「条約改正」という語について辞書的な意味を調べる。																																																																
9	日清戦争・日露戦争	日清戦争・日露戦争について、前後の時代の戦争と比較して考えます。	予習として、「日清戦争」「日露戦争」という語について辞書的な意味を調べる。																																																																
10	第一次世界大戦	第一次世界大戦について、前後の時代の戦争と比較して考えます。	予習として、「第一次世界大戦」という語について辞書的な意味を調べる。																																																																
11	ワシントン体制	ワシントン体制について、現代の戦争問題と比較して考えます。	予習として、「ワシントン体制」という語について辞書的な意味を調べる。																																																																
12	大正デモクラシー	大正デモクラシーについて、現代の政治制度と比較して考えます。	予習として、「大正デモクラシー」という語について辞書的な意味を調べる。																																																																
13	世界恐慌	世界恐慌について、現代の経済問題と比較して考えます。	予習として、「世界恐慌」という語について辞書的な意味を調べる。																																																																
14	第二次世界大戦	第二次世界大戦について、前後の時代の戦争と比較して考えます。	予習として、「第二次世界大戦」という語について辞書的な意味を調べる。																																																																
15	そして現代へ	第二次世界大戦後の日本について、現代と比較して考えます。	予習として、「日本国憲法」という語について辞書的な意味を調べる。																																																																
関連科目	ありません。																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	予習シート30%、定期試験70%																																																																		
学生へのメッセージ	教科書で勉強する高校の日本史とは違って、大学での講義はきょうくつな枠組みはありません。過去の歴史が現代日本に与えている影響について学びながら、現代の私達にとって歴史が持つ意味についても、自由に考えていきましょう！また、最新の学説なども紹介していくので、研究の最先端で教科書が書き換わっていく面白さも知ってもらいたいと考えています。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室																																																																		
備考	自主学習には、予習シートの記入・期末試験の準備を含めて、合計10時間はかけること。																																																																		

科目名	歴史に学ぶ	科目名(英文)	History
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	村上 司樹
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	歴史は暗記科目ではない。過去に生きた人びとの具体的経験から思考力を培う営みである。理工学部を対象とするこの授業では、中世ヨーロッパの歴史を、自然と技術の2つの視点から読み直す。具体的には(1)機械による労働、(2)建築家と技術者、(3)自然学の社会的利用が誕生した状況を知ることができる。理学と工学のいずれにとっても大きな転換点であった中世ヨーロッパについて、具体的で中味のある基礎知識を身につけよう。
到達目標	V科の学習・教育目標との対応：A R科の学習・教育目標との対応：A A科の学習・教育到達目標との対応：A M科の学習・教育到達目標との対応：A1 E科の学習・教育到達目標との対応：B C科の学習・教育到達目標との対応：II
授業方法と留意点	暗記は必要ない。教科書も必要ない。図や表もできるだけ多く使って授業する。ただ内容を理解するためには、以下3点を守る必要がある。①授業前には、プリントにあらかじめ目を通しておくこと。②授業後には、プリントを読み返すこと。③授業中に資料を読む際は、線を引くなり印をつけるなり、必ず手を動かすこと。
科目学習の効果(資格)	文化という視点を得て、理学・工学をより深く、より幅広く理解するための教養を培う。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	はじめに	授業のルール・方針・全体計画	必ず出席するよう予定を調整する。
	2	機械からみた中世 I	中世の産業革命	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
	3	機械からみた中世 I I	中世の産業革命(続)	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
	4	機械からみた中世 I I I	領主と農民のエネルギー利用	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
	5	機械からみた中世 I V	領主と農民のエネルギー利用(続)	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
	6	機械からみた中世 V	教会と技術	同上の課題に加えて「レポートの手引き」を熟読する。
	7	建築からみた中世 I	教会と建築	同上の課題に加えて「レポートの手引き」を熟読する。
	8	建築からみた中世 I I	教会と建築(続)	同上の課題に加えて小レポート。
	9	建築からみた中世 I I I	教会と建築(続々)	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
	10	建築からみた中世 I V	修道院と石造り	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
	11	建築からみた中世 I V	修道院と石造り(続)	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
	12	建築からみた中世 V	大聖堂と石造り	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
	13	自然からみた中世 I	奇蹟と魔術の自然学	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
	14	自然からみた中世 I I	奇蹟と魔術の自然学(続)	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
	15	自然からみた中世 I I I	奇蹟と魔術の自然学(続々)	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	暗記は必要ない。テストは持ち込み可。具体的には以下3点で評価。①定期試験(40点)、②小レポート(30点)、③レスポンスペーパー(30点+α)。①～③すべてに共通する評価基準は、具体的に書いているかどうか。減点主義はとらないので、積極的に書いてマイナスになることは絶対ない。ただし、消極的に受講してプラス評価されることも絶対ない。例えば出席点はいっさいない。
学生へのメッセージ	一方通行にならない授業、集中しやすい授業を心がけています。レスポンス・ペーパー、小レポート、そして試験答案を書いてもらいますが、「やることが多い」などとネガティブに考えず、「単位取得のチャンスが多い」とポジティブに捉えることをお勧めします。それにものごとを説明したり、説得的な文章を作成する経験と能力は、他のあらゆる学問にも、さらに大学卒業後の長い人生にも欠かせません。積極的に取り組んで、「単位以上のもの」を得てほしいと思います。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	毎回授業の事前・事後学習(具体的には、プリントにあらかじめ目を通しておくこと、その日のうちにプリントを読み返すこと)に、平均1時間以上かけること。「レスポンス・ペーパーが上手く書けない」と感じる人は、この家庭学習の時間を利用して、授業当日に書く内容(ある程度のアイデアでもよい)を出しておくこと。レポート作成の際は、「レポートの手引き」を1時間以上かけて何度も読み返すこと。

科目名	ビジネスマナー	科目名(英文)	Business Manners
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井 三恵
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	ビジネス活動という場とそこで働く人間のビジネスワークについて概説し、企業等のビジネス組織において求められる資質・能力・技術について考察を深める。 企業等のビジネス組織において積極的なビジネス・コミュニケーションの必要性和それを駆使しての人間関係調整の重要性について学ぶことを目的とする。
到達目標	クリエイティブなビジネスパーソンとして求められる実務能力の開発とキャリア形成について探求し、「わかることからできること」への一致を目標とする。
授業方法と留意点	ロールプレイやグループワークを多く取り入れるため、学生の積極的な参加が求められる。
科目学習の効果(資格)	社会人としての第一歩を踏み出すための素養が身に付く。

教養科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション -あいさつの重要性(理論と実践)	・授業のオリエンテーション ・授業のルール ・あいさつの真の意味とは ・正しい基本姿勢を学ぶ	ビジネスマナーとは何かを考える。
2	仕事の進め方と組織活動	・仕事の基本動作とサイクル ・定型業務と非定型業務 ・コスト意識とエコ活動	仕事とは何かを考える。
3	目標設定とPDCA サイクル	・目標設定(MBO) ・PDCAとは ・チームと個人の役割	あなたのMBOとPDCAについて考える。
4	スケジュールと出張業務	・スケジュールの作り方 ・業務としての出張	あなたの予定表作成について振り返ってみましょう。
5	ビジネスの場での敬語表現	・基本的な敬語表現の復習 ・ビジネスの場での使用方法	ケーススタディを通してことばの重要性を認識し、ロールプレイングでことばと態度と気持ちの三位一体化を体現する。
6	法的業務	・押印と印鑑の意味 ・内容証明 ・個人情報保護(Pマーク) ・コンプライアンス	一般的な法律に即した業務を遂行できるよう、基礎的知識を習得する。
7	ホウ・レン・ソウ	・ビジネスにおける報連相を知る ・指示の受け方 ・業務の優先順位	ホウレンソウとメモを取ることの重要性を認識し、ロールプレイングを行う。
8	電話応対	・ビジネスフォンの扱い方 ・5W2Hから6W3Hへ ・簡潔メモの作り方 ・不在処理と伝言	第一印象の重要性、代表として電話応対をしていることを自覚する。
9	来客応対	・組織図と対応 ・簡単な応対から不在処理や重複処理まで ・名刺交換	電話と同じで、企業等のビジネス組織の第一印象が決まることを理解する。
10	設営の基本	・YTT方式からの業務遂行 ・確認の必要性 ・他部署とのコミュニケーションの必要性	会議だけでなく、イベント(セミナー、説明会、シンポジウムからゴルフコンペまで)における効率化が図られた手順を考える。
11	ビジネス文書の基本①	・社外文書が基本 ・商取引文書と社交文書の相違 ・社内文書と社外文書の種類 ・ファイリング	日本語の基本と日本の企業文化を学ぶ。
12	ビジネス文書の基本②	・実践	ひとりで完全な文書を作成できることを目標とする。
13	ビジネス通信の基本	・通信手段(電子メール、ファックス等)の選択 ・作成上の注意点 ・郵便・宅配便の知識	郵便の知識をまとめる。
14	慶弔と贈答	・慶弔時の基本的マナー ・「式」について ・業務としての贈答	一般知識と日本の企業文化を学ぶ。
15	協働とコミュニケーション	・外国人同僚・異文化への対応 ・働き方とキャリア開発 ・公共の場でのマナー	ビジネス実務能力を身に付け、グローバル社会へ対応していく決意を示す。

関連科目: キャリアデザインⅠ・Ⅱ、インターンシップⅠ・Ⅱ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3		
評価方法 (基準)	ロールプレイ等のワーク (20%)、複数回のレポート (30%)、期末試験 (50%) を総合的に評価する。		
学生への メッセージ	近年、企業等のビジネス組織では、新入社員研修のような研修制度が充実できるほど経済的・時間的余裕がなくなった。今、企業等のビジネス組織からはみなさんの「ビジネス実務能力」が問われている。それは一時的なものではなく、学生時代から培うことのできる資質であり、みなさんが意識を変え、学ぶことによって、「わかることからできること」の一致が可能となる。		
担当者の 研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室 (石井)		
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。レポート作成ならびに定期試験前の学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。		



# 教 職 科 目







科目名	教育課程論	科目名(英文)	Studies of Curriculum Development
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	大野 順子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教職に関する科目(中学校・高等学校) 【施行規則に定める科目区分】教育課程及び指導法に関する科目 【各科目に含めることが必要な事項】・教育課程の意義及び編成の方法 【教員免許状取得のための履修区分】必修	

授業概要・目的	(1) 教育課程(カリキュラム)とは何かについて考える。教育課程(カリキュラム)はどのような目的から、どのような内容で編成されているのかについての歴史的経緯を考察する。また、同時に学校教育システムとの関わりから、その意義や役割を理解する。 (2) わが国における学習指導要領の変遷や戦前・戦後のカリキュラムの実践的開発を知ると共に、これからのカリキュラム開発の課題について考える。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りである。 (1) 学校教育における教育課程の意義について理解できる。 (2) 将来、教職に就いた際、適切な教育課程(カリキュラム)を計画でき、かつ、実践できる資質が身につく。
授業方法と留意点	テキストや資料を中心に授業を進めるが、そのほとんどは学生主体の発表(プレゼンテーション)を行うなど、学生一人一人の授業への主体的な参加が求められる。各自が取得する免許教科の中学校・高等学校の教科書を複数概観しておくことが望ましい。
科目学習の効果(資格)	教員免許(中学校・高等学校)取得上必修科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：教育課程の意義及び編成の方法

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	教育課程とは何か／オリエンテーション	学校教育のもつ機能について。	課題：シラバスに挙げているテキストの該当する分を読んでおくこと。
2	日本における教育課程の歴史的変遷Ⅰ	戦前から戦後(経験主義～系統主義：高度経済成長期)の教育課程変遷について。	課題：テキストの該当部分と授業(第1回目)で配布する資料に目を通しておくこと。
3	日本における教育課程の歴史的変遷Ⅱ	1970年代以降、「ゆとり」への標榜から「生きる力」、そして現在までの教育課程変遷について。	課題：テキストの該当部分と授業(第1回目)で配布する資料に目を通しておくこと。
4	教育課程(カリキュラム)の概念と構造、および教育課程編成について	教育課程の編成要素(内部要因と外部要因)について。	課題：シラバスに挙げているいずれかのテキストの該当部分を読んでおくこと。
5	教育評価	発達段階にふさわしい評価の方法とその特質について。	課題：事前に配布した資料を読んでおくこと。
6	『総合的な学習の時間』について	・導入の背景とそのねらいについて(学生グループによる発表を予定)	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
7	学校化された社会	「隠れたカリキュラム」について(学生グループによる発表を予定)。	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
8	新しい教育課程 その1	「キャリア教育」について(学生グループによる発表を予定)。	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
9	新しい教育課程 その2	「人権教育／平和教育」について(学生グループによる発表を予定)。	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
10	新しい教育課程 その3	「シティズンシップ」教育について(学生グループによる発表を予定)。	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
11	教育課程と教育改革 その1	特色のある学校づくり＝小中編(学生グループによる発表を予定)。	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
12	教育課程と教育改革 その2	特色のある学校づくり＝高校編(学生グループによる発表を予定)。	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
13	教育課程と教育格差 その1	学力格差と学力低下問題について(学生グループによる発表を予定)。	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
14	教育課程と教育格差 その2	教育格差に抗する学校の取り組みについて(学生グループによる発表を予定)。	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
15	総括：教育課程をめぐる諸問題	海外の学校教育課程の動向と国内の問題について。	課題：事前に配布した資料を読んでおくこと。

関連科目 教職科目全般と関連がある。他の教職科目と重なる所や特徴点を整理していくことが重要。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新しい時代の教育課程	田中耕治・水原克敏・三石初雄・西岡加名恵	有斐閣アルマ
2			
3			

評価方法(基準) 定期試験、レポート及び授業態度や授業への貢献度(発表を含む)など総合的に評価を行う。特に、試験の結果は成績評価に大きく影響することから、日頃からしっかりと予習復習を怠らないこと。また、欠席が多い者については成績評価の対象から外すので注意すること(全回出席すること)。

学生へのメッセージ 第一回目欠席者に対しては別途課題を課すので担当者(大野)に直接問い合わせること。問い合わせのない場合、成績評価から外すことがあるので注意すること。  
教職科目の特質をよく理解し、実践的理解を深めることが大切である。そのため、各自の中学校・高等学校での体験をふりかえり、学ぶことの視点に立った、計画的学習を考えること。また「教育実習」を視野に入れた授業計画を考えることが重要。

担当者の 7号館3階(大野順子研究室)

研究室等	
備考	2009年度以前入学生は、(高校)教免取得上選択

科目名	教育経営論	科目名(英文)	Studies of Educational Administration
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日 素明
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教職に関する科目(中学校・高等学校) 【施行規則に定める科目区分】教育の基礎理論に関する科目 【各科目に含めることが必要な事項】・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 【教員免許状取得のための履修区分】選択必修	

授業概要・目的	本科目では、公教育システムに関してなじみの深い事例を参照し、そこから政策や法制、機構、理論や論争、現実や実態を明らかにし、検討していきます。これを通して、私たちにってはあたりまえで意識することもないような、学校教育を中心とした公教育システムのしくみやはたらきについて理解します。
到達目標	例えば「何をどう教えるのか」という内容的・技術的な事柄も実はさまざまな制度やその運用の仕方などによって規定されている様子がわかるなど、教育の環境や条件についての関心が高まり、直接的な行為だけに回収されない教育の奥行きや広がり理解できるようになります。
授業方法と留意点	プレゼンテーションソフトを用いた講義のほか、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション(LTD; Learning Through Discussion)等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。ウェブ上で資料配布、課題提示・レポート提出をするほか、掲示板機能を使用しディスカッションもします。「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。
科目学習の効果(資格)	教員免許取得上選択必修であり、可能な限り修得することが望ましい科目 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎理論に関する科目 各科目に含める必要事項：教育に関する社会的、制度的又は経営的事項

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 公教育とは	授業概要、方法としてのLTD、「未来ポートフォリオ」の使用について説明 公教育の成立前史 教育における「公」と「私」	「未来ポートフォリオ」のリマインダを設定しておく。
2	教育権の構造	「教育をする権利」「教育を受ける権利」 「学習する権利」 教育権論争について簡単なグループワーク	テキスト第3章1節を読んでくる。
3	教育を受ける権利の保障	教育の制度原理 「義務制」「無償制」にかかわって簡単なグループワーク	テキスト第3章2節を読んでくる。
4	学校体系のしくみ	段階性、系統性 学校体系の類型 学校の種類と設置者	テキスト第7章1・2節を読んでくる。
5	学校体系の現代的課題	選別・分離と接続・統合 「選抜・選別」について簡単なグループワーク	テキスト第3章3節を読んでくる。 学校の機能に関する配布資料を読んでくる。
6	教育条件整備の法制度と新しい動向	公教育を支える諸条件とは 条件整備はどのようになされるか 学校の「適正規模」「適正配置」にかかわって簡単なグループワーク	テキスト第7章2・3節を読んでくる。 学校統廃合に関する配布資料を読んでくる。
7	学校の組織管理	教職員配置と組織編制	テキスト第4章1・2節を読んでくる。
8	学校経営の新しい動向	「開かれた学校」 学校評議員制度、学校運営協議会制度 地域運営学校について簡単なグループワーク	テキスト第4章3・4節を読んでくる。 コミュニティスクールまたは学校参加に関する配布資料を読んでくる。
9	教育課程経営	学習指導要領の性質と特徴の変遷 学力論争と教育評価論 学力低下論争をめぐって簡単なグループワーク	テキスト第10章1・2節を読んでくる。 学力低下論争に関する配布資料を読んでくる。
10	教科書制度と指導行政	教科書検定 教科書採択 制度をめぐって簡単なグループワーク	テキスト第10章3・4節を読んでくる。 教科書検定または教科書採択制度に関する配布資料を読んでくる。
11	社会教育行政	社会教育と生涯学習 社会教育の理念と展開	テキスト第8章1・2節を読んでくる。
12	生涯学習社会への移行と生涯学習振興	社会教育行政の運営原則 社会教育の諸制度 社会教育不要論をめぐって簡単なグループワーク	テキスト第8章3・4節を読んでくる。 社会教育不要論に関する配布資料を読んでくる。
13	教育行政のはたらきと地方教育行政組織	教育行政の原則 教育委員会のしくみとはたらき 教育委員会制度論の新動向に関して簡単なグループワーク	テキスト第2章1節を読んでくる。 教育委員会制度の動向に関する配布資料を読んでくる。
14	国の教育行政と地方との関係	国の教育行政を動かす組織のしくみとはたらき 教育行政関係の新しい動向	テキスト第2章2・3節を読んでくる。
15	教育費と教育財政	教育財政の考え方 国・地方の教育費と教育財政 義務教育費国庫負担制度とその改革 学校財務	テキスト第6章を読んでくる。

関連科目 教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育社会学」「教師論」「教育課程論」に関連する事項を含みます。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	教育行政学 改訂版	勝野正章・藤本典裕編	学文社
	2			
	3			

教職科目

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1		適宜指示します。	
	2			
	3			
評価方法 (基準)	定期試験 60%、レポート内容 30%、受講に係る積極的姿勢 10%の割合で総合的に評価します。定期試験を受験しなかった場合は成績評価をしません。			
学生への メッセージ	教員採用試験で頻出の教育法規については授業中に折に触れ解説しますが、採用試験ではそれを基本としてさらに幅広い知識、深い理解と応用力が要求されます。本科目は採用試験対策のための講義ではありませんので、各自が自主的に採用試験受験準備に取り組んでください。遅刻・早退等は厳禁です。専門職業人・教師としての資質が問われます。			
担当者の 研究室等	7号館3階 朝日研究室			
備考	「未来ポートフォリオ」のリマインダを、すべてを受信するよう設定し、情報を確実に受け取ることができるようにしておきましょう。			

科目名	教育原理	科目名(英文)	Educational Principles
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小山 裕樹
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教職に関する科目(中学校・高等学校) 【施行規則に定める科目区分】教育の基礎理論に関する科目 【各科目に含めることが必要な事項】・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 【教員免許状取得のための履修区分】必修	

授業概要・目的	「そもそも、「教育」とはいったい何なのだろう」、このような問いを立てたことはありませんか。例えば、「教育を受けることで、自分は本当に「善く」なったのだろうか。」「いやむしろ、教育を受けることで、何らかの「型」にはめられてしまったのではないか。」「教育には、今あるいわゆる「学校教育」のようなあり方しか存在しないのだろうか」……などなど。この授業では、以上のような素朴な、とはいえ重要な問いを大切にしながら、「教育」という営みについてももう一度丁寧に考え直してみることを目的とします。なお、その際に参考にするのは、「教育」に対して真摯に向き合った思想家たちの思索や、「教育」の歴史です。これらの思索や歴史を踏まえることで、受講者たちがそれぞれに「教育」について自分なりの考えを深めることができますようにします。
到達目標	「教育」をめぐる思想や歴史に関する基礎的な知識や考え方を身に付けたうえで、受講者たちがそれぞれに「教育」について自分なりの考えを深めることを目標とします。
授業方法と留意点	授業のスケジュールはおおよそ下記の通りで、基本的には講義形式で行います。なお、授業では、折に触れて受講者にコメントペーパーを書いてもらって皆で関心を共有し合うとともに、その都度のテーマに対して多角的な視点から検討し合えるように配慮します。
科目学習の効果(資格)	(1) 高等学校教諭1種免許状 (2) 中学校教諭1種免許状の取得 (3) 学芸員資格の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎理論に関する科目 各項目に含める必要事項：教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス:教育を原理的に考察すること	教育を原理的に考察することの意味を考える。	「自分にとって教育とは何か」を考えておく。
2	動物と人間の違い①	「野生児」の例から教育について考える。	授業の内容を踏まえたうえで、「野生児」は教育されるべきであったかについて、考える。
3	動物と人間の違い②	「野生児」の例から教育について引き続き考察を深める。	二回分の授業の内容を踏まえたうえで、もう一度「野生児」は教育されるべきであったかについて、改めて考える。
4	教育をめぐる諸論①:「教える」と「学ぶ」	①教育という営みを構成している二大要因である「教える」と「学ぶ」の関係について考える。 ②ヘレン・ケラーの「学び」を事例として、「学び」を形成している諸側面について検討する。	「教える」と「学ぶ」の違いや関係について、授業後にもう一度整理しておく。
5	教育をめぐる諸論②:「子ども」観の歴史の変遷と「子どもの権利」	①「子ども」観や親子関係に対する見方が、古代から現代まで歴史的にどのように変遷してきたのかを概観する。 ②「子ども」観の歴史の変遷を踏まえたうえで、「子どもの権利条約」が制定されるまでの経緯を確認する。	自分の「子ども」一般に対するイメージを思い起こしておく。さらに、授業の内容を踏まえたうえで、もう一度自分の「子ども」観について考えてみる。
6	教育をめぐる諸論③:「発達」と「生成」	いわゆる「発達」論と「生成」論に含まれている「教育」(あるいは「人間形成」)観の質的な違いについて考える。	「発達」と「生成」の考え方の違いを、授業後にもう一度整理しておく。
7	教育の思想の歴史①	ロック、ルソーらの教育思想について概観し、考察を加える。	授業のなかで扱った教育思想の特色を、授業後にもう一度整理しておく。
8	教育の思想の歴史②	カント、ペスタロッチらの教育思想について概観し、考察を加える。	授業のなかで扱った教育思想の特色を、授業後にもう一度整理しておく。
9	教育の思想の歴史③	ヘルバルト、デューイらの教育思想について概観し、考察を加える。	授業のなかで扱った教育思想の特色を、授業後にもう一度整理しておく。
10	日本の教育の歴史①	明治期の日本における近代学校制度の成立と展開の過程について概観する。	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。
11	日本の教育の歴史②	大正自由教育運動から、大戦中の教育、そして戦後教育改革へという歴史の展開過程について概観する。	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。
12	教育と権力①	ミシェル・フーコーの規律訓練論について概観し、教育を権力論との関わりから捉え直す。	教育と権力との関わりについて、授業後にもう一度考えてみる。
13	教育と権力②	①権力論の新たな展開の例として「環境管理型権力」の問題について扱う。 ②いわゆる「教育空間論」について考えを深める。	「教育空間論」の可能性について、授業後にもう一度考えてみる。
14	媒介者としての教師	様々な困難のなかに立たされつつも、極めて重要な役割を与えられる教師のあり方を、「過去と未来の媒介者」という観点から考える。	「自分がどのような教師になりたいか」を考えておく。
15	まとめと補足	授業に関してまとめの考察を行う。	授業時に指示する。

関連科目 教職科目全体と関連がありますので、他の授業で学習した内容と関連づけて考えてみるのが大切です。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	教科書は特に指定せず、授業中にレジュメと資料を配布します。		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	参考書に関しては、授業中に適宜紹介します。		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業中に折に触れて書いてもらうコメントペーパーや、学期末試験の結果などをもとに、総合的に評価します。			
学生への メッセージ	受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。			
担当者の 研究室等	7号館3階(小山研究室)			
備考				

科目名	教育実習 I	科目名 (英文)	Teaching Practice I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	林 茂樹
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教職に関する科目 (中学校・高等学校) 【施行規則に定める科目区分】教育実習 【教員免許状取得のための履修区分】必修	

授業概要・目的	(1) 教育実習の実際についての情報を提供し、これらにもとづく討議ならびに演習を交えて授業を展開する。(2) 教育実習の現状と課題についての認識を深めるとともに教育実習生としての基本的心がまえについての理解を深める。
到達目標	教育実習校における実習に必要な教育実践の基本を理解して、教科指導、生徒指導等の実際について有効な指導計画を立案し、授業が効果的に展開できるようになる。
授業方法と留意点	テキストや視聴覚教材等を用いながら演習方式を進める。授業構想等に関するレポートや各自の中学校・高等学校時代の経験発表などにより理解を深める。
科目学習の効果 (資格)	教員免許 (中学校・高等学校) 取得上必修科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 教育実習

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	教育実習の意義	オリエンテーション、教育実習の目的と意義、免許制度の概要	教科書該当箇所の予習、学習内容の振り返りと整理
2	教育実習の内容・形態	事前準備、心構え、留意事項	教科書該当箇所の予習、学習内容の振り返りと整理
3	教育実習への準備	生徒理解、授業づくり	配布プリントの予習、学習内容の振り返りと整理
4	教育実習の実際 (中学校)	ビデオ教材を通して中学校での実習への理解を深め、意見交換を行う	視聴内容の振り返り、討議内容の整理
5	教育実習の実際 (高等学校)	ビデオ教材を通して、高等学校での実習への理解を深め、意見交換を行う	視聴内容の振り返り、討議内容の整理
6	学習指導案の作成 (1)	授業の準備と配慮事項・学習指導案の書き方、教科指導の学習指導案の作成、板書計画	教科書該当箇所の予習、学習指導案の作成 (提出)、意見交換の振り返り
7	学習指導案の作成 (2)	学級 (ホームルーム) 活動等の指導案作成、学習指導上の留意事項	教科書該当箇所の予習、学習指導案の作成 (提出)、意見交換の振り返り
8	模擬授業 (1)	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	模擬授業の準備、学習指導案の提出
9	模擬授業 (2)	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	模擬授業の準備、学習指導案の提出
10	模擬授業 (3)	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	模擬授業の準備、学習指導案の提出
11	模擬授業 (4)	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	模擬授業の準備、学習指導案の提出
12	人権教育の現状と課題	中学校・高等学校における人権課題の現状と人権教育の指導方法の改善充実に向けた課題	配布プリントの予習、学習内容の振り返りと整理
13	特別支援教育の現状と課題	特別支援教育の理念及び中学校・高等学校における特別支援教育の現状と課題	配布プリントの予習、学習内容の振り返りと整理
14	自己課題の発見と解決	授業の振り返り、記録と評価、研究協議に臨む準備	模擬授業の振り返り (振り返りシート提出)、学習内容の振り返りと整理
15	教育実習中の勤務の要領	学校の1日、1週間の流れ、学校の組織と運営の概要	教科書該当箇所の予習、学習内容の振り返り

関連科目 すべての教職科目と関連がある。これまでに学習した内容について、復習し整理しておくことが大切である。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	『新編教育実習の常識』	教育実習を考える会	蒼丘書林
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準) 期末レポート、模擬授業、学習指導案の作成等に関わる評価を行う。

学生へのメッセージ 教職科目の特質をよく理解し、「学ぶこと」を通して「教えること」への実践的理解を深めるとともに、教師としての役割を自覚することが大切である。また、「教育実習」はこれまでの学習の総まとめであることから、これまで学習した内容を振り返り、構造的な理解に努めた上で、実習に備えること。

担当者の研究室等 7号館3階(林研究室)

備考



科目名	教育実習Ⅱ	科目名(英文)	Teaching Practice II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田 佐治子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教職に関する科目(中学校・高等学校) 【施行規則に定める科目区分】教育実習 【教員免許状取得のための履修区分】選択必修	

授業概要・目的	「教育実習Ⅱ」では、教育実習校において2週間以上の実習を行う。(1)教育実習校において、教科、特別活動、生徒指導などの実習を行う。大学において事前及び事後の指導を行う。(2)事前指導では、教育実習講義と個別指導を行う。(3)教育実習は所定期間内に実習校の指導教諭の下で行う。(4)事後指導では、教育実習体験報告及び反省を行い、指導のまとめとして、総括を行う。
到達目標	学生は、学校教育の実情を理解し、教職に対する自らの適性に気づき、適切な進路を選択できるようになる。
授業方法と留意点	(1)教育実習校での実習を行う。(2)大学での事前・事後指導は「教育実習Ⅲ」と合同で行う。(3)事前指導等への積極的参加をもって実習を許可する。実習を許可されない場合があることに留意すること。
科目学習の効果(資格)	教員免許取得上選択必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 教育実習

教職科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	教育実習特別個人指導(4月)	教育実習予定者のうち、教育実習の履修に特に努力を要すると判断される履修者について行う。	個別の呼び出しに速やかに応じること
	2	教育実習事前指導(4月～5月)	教育実習上の心がまえ・諸注意 教育実習ビデオの視聴 先輩教師の体験談 教師の仕事と責任について講義・討論	申請書類等の記入・提出
	3	教育実習個人指導(4月～5月)	教科書、教材、指導案の作成などについて、個別の質問にこたえ指導する。	教材・学習指導案を作成して提出(必要な者のみ)
	4	前期教育実習開始(5月～6月)	実習校において授業を行ったり、クラブ活動の指導を担当するなど、教育活動に携わる。実習中、本学教員による訪問指導を行う。	教材研究、学習指導案作成
	5	教育実習体験発表会(6月～7月)	教育実習終了後、体験発表を行う。発表方法の詳細は、掲示による。	体験レポートの提出 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しの提出
	6	後期教育実習開始(9月～10月)	後期教育実習予定者の実習を行う。実習中、本学教員による訪問指導を行う。	教材研究、学習指導案作成
	7	教育実習体験発表会(10月)	後期教育実習生について、体験発表を行う。発表方法の詳細については、掲示による。	体験レポートの提出 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しの提出
	8	教育実習総括講義(10月)	教育実習のまとめとして、その意義を確認する。	教育実習記録の提出
	9	教育実践指導(1月～3月)	教員採用選考試験合格者に対する指導を行う。	指示された課題
	10	――	――	――
	11	――	――	――
	12	――	――	――
	13	――	――	――
	14	――	――	――
	15	――	――	――
	16	――	――	――
	17	――	――	――
	18	――	――	――
	19	――	――	――
	20	――	――	――
	21	――	――	――
	22	――	――	――
	23	――	――	――
	24	――	――	――
	25	――	――	――
	26	――	――	――
	27	――	――	――
	28	――	――	――
	29	――	――	――
	30	――	――	――

関連科目	教職関連科目全般
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法(基準)	事前指導ならびに事後指導への積極的参加、事後指導における体験発表、実習校での実習成績、及び各種提出物による総合評価を行う。いずれか不十分なものは、単位を認定しない。
----------	--

学生へのメッセージ	『学生便覧』『教職課程履修ガイド』を必読、その指示を十分に理解しておくこと。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階
----------	-------

備考	中学校教諭免許状取得希望者には、別途、介護等体験が義務化されている。
----	------------------------------------

科目名	教育実習Ⅲ	科目名(英文)	Teaching Practice III
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田 佐治子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教職に関する科目(中学校・高等学校) 【施行規則に定める科目区分】教育実習 【教員免許状取得のための履修区分】選択必修	

授業概要・目的	「教育実習Ⅲ」では、教育実習校において4週間以上の実習を行う。(1)教育実習校において、教科、特別活動、生徒指導などの実習を行う。大学において事前及び事後の指導を行う。(2)事前指導では、教育実習講義と個別指導を行う。(3)教育実習は所定期間内に実習校の指導教諭の下で行う。(4)事後指導では、教育実習体験報告及び反省を行い、指導のまとめとして、総括を行う。
到達目標	学生は、学校教育の実情を理解し、教職に対する自らの適性に気づき、適切な進路を選択できるようになる。
授業方法と留意点	(1)教育実習校での実習を行う。(2)大学での事前・事後指導は「教育実習Ⅱ」と合同で行う。(3)事前指導等への積極的参加をもって実習を許可する。実習を許可されない場合があることに留意すること。
科目学習の効果(資格)	教員免許取得上選択必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 教育実習

教職科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	教育実習特別個人指導(4月)	教育実習予定者のうち、教育実習の履修に特に努力を要すると判断される履修者について行う。	個別の呼び出しに速やかに応じること
	2	教育実習事前指導(4月～5月)	教育実習上の心がまえ・諸注意 教育実習ビデオの視聴 先輩教師の体験談 教師の仕事と責任について講義・討論	申請書類等の記入・提出
	3	教育実習個人指導(4月～5月)	教科書、教材、指導案の作成などについて、個別の質問にこたえ指導する。	教材・学習指導案を作成して提出(必要な者のみ)
	4	前期教育実習開始(5月～6月)	実習校において授業を行ったり、クラブ活動の指導を担当するなど、教育活動に携わる。実習中、本学教員による訪問指導を行う。	教材研究、学習指導案作成
	5	教育実習体験発表会(6月～7月)	教育実習終了後、体験発表を行う。発表方法の詳細は、掲示による。	体験レポートの提出 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しの提出
	6	後期教育実習開始(9月～10月)	後期教育実習予定者の実習を行う。実習中、本学教員による訪問指導を行う。	教材研究、学習指導案作成
	7	教育実習体験発表会(10月)	後期教育実習生について、体験発表を行う。発表方法の詳細については、掲示による。	体験レポートの提出 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しの提出
	8	教育実習総括講義(10月)	教育実習のまとめとして、その意義を確認する。	教育実習記録の提出
	9	教育実践指導(1月～3月)	教員採用選考試験合格者に対する指導を行う。	指示された課題
	10	-----	-----	-----
	11	-----	-----	-----
	12	-----	-----	-----
	13	-----	-----	-----
	14	-----	-----	-----
	15	-----	-----	-----
	16	-----	-----	-----
	17	-----	-----	-----
	18	-----	-----	-----
	19	-----	-----	-----
	20	-----	-----	-----
	21	-----	-----	-----
	22	-----	-----	-----
	23	-----	-----	-----
	24	-----	-----	-----
	25	-----	-----	-----
	26	-----	-----	-----
	27	-----	-----	-----
	28	-----	-----	-----
	29	-----	-----	-----
	30	-----	-----	-----

関連科目	教職関連科目全般
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法(基準)	事前指導ならびに事後指導への積極的参加、事後指導における体験発表、実習校での実習成績、及び各種提出物による総合評価を行う。いずれか不十分なものは、単位を認定しない。
----------	--

学生へのメッセージ	『学生便覧』『教職課程履修ガイド』を必読、その指示を十分に理解しておくこと。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階
----------	-------

備考	中学校教諭免許状取得希望者には、別途、介護等体験が義務化されている。
----	------------------------------------

科目名	教職実践演習 (中・高)	科目名 (英文)	Practicum in Prospective Teachers
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	吉田 佐治子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教職に関する科目 (中学校・高等学校) 【施行規則に定める科目区分】教職実践演習 【教員免許状取得のための履修区分】必修	

授業概要・目的	<p>○教育実習を終え、各自の問題点を明確化しながら今後の自らの実践課題をグループワーク等を通して再認識し、教員としての適性や実践的な力量について確認する。</p> <p>○中学・高校での現場体験学習を基に、現職・元教員、教育委員会指導主事等と研究交流し、生徒理解を通して生徒指導・進路指導ができることを確認する。</p> <p>○教科に関する科目の担当者や科目の指導主事・現職教員と連携協議し、専門科目・教職科目の学習を深め、授業実践ができることを確認する。</p> <p>○教員としての適性や力量、特に「授業を創造する意欲と能力」「対人関係能力と社会性・協調性」「使命感・責任感」「学校教育活動におけるリーダーシップ」等を有していることを確認する。</p>
到達目標	免許教科に関する学習、中学校での学習、今日的な教育問題に関する学習など、様々な学習を通して自身の課題を見つめ直し、教員としての適性や力量について確認することができる。
授業方法と留意点	<p>○教職課程の専任教員5名による全体指導と、各専任教員毎のグループ学習を中心に進める。1グループは15～20名。さらに、長年の実践経験を有する教員から実践を通して見えてくる学校現場の諸課題を知り、自己の実習経験と重ねる中で、新たな課題を探り、かつ全体でも共有していく。</p> <p>○大学の教科に関する科目の担当者・指導主事・現職教員と連絡協議し、教科指導・生徒指導・進路指導等ができることを確認していく。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>○教職実践演習は、当該演習を履修する者の教科に関する科目及び教職に関する科目 (教職実践演習を除く) の履修状況を踏まえ、教員として必要な知識技能を修得したことを確認するもの。</p> <p>○教職課程の必修科目。免許資格取得と同時に即学校現場で生かせる実践力を身に付けることが求められる。</p>

教職科目

	授業計画		
	回数	授業テーマ	内容・方法等
	1	「教職実践演習」のガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・科目の目的、内容方法についての確認</li> <li>・各自の教育実習後の課題についての確認</li> <li>・3回以降のグループ学習の各課題の確認</li> </ul>
	2	専攻科目に於ける実践上の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専攻科目ごとに分かれ、その科目の専門分野に関する個々の課題について教科担当教員が指導。</li> </ul>
	3	専攻科目に於ける実践上の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専攻科目ごとに分かれ、その科目の専門分野と実践上の課題について、教科担当教員が指導。その上で、研究交流する。</li> </ul>
	4	生徒指導・進路指導 (中学校現場での実地学習)	地元市教委との連携協力を基に、中学校現場を全体で参観し、生徒指導・進路指導上の実践課題を知る。
	5	生徒指導・進路指導 (中学校現場での実地学習)	地元市教委との連携協力を基に、中学校現場をグループ毎に参観し、教科指導上の実践課題を知る。
	6	いじめの現状	問題行動のなかから特に「いじめ」を取り上げ、その多様性、メカニズム、深刻さを理解する。 配布資料の事前学習に基づき、グループワークを行う。
	7	いじめ問題への取り組み	日常の些細な出来事がどのように「いじめ」に発展するのか、教師がいじめを見抜くのはどうして困難なのかを考える。 配布資料の事前学習に基づき、グループワークを行う。
	8	ジェンダーと教育	近現代社会は「個人の尊重」という理念のもと成り立っている。しかしながら、その背後には伝統的な価値規範を内包していることも忘れてはならない。 近代国家によって制度化されてきた学校教育も現在では自由や個性の尊重を掲げながら、一方では伝統的な価値観を強制している部分があるのではないかと。そうしことを考えるきっかけとして「ジェンダー」という視点をを用い、学校教育を改めて考えてみたい。 特に、身近なところからジェンダーについて考え、学校教育や社会について検討していく。
	9	学校の中のマイノリティ: 外国にルーツをもつ子どもたち	1990年代以降、日本の入国管理政策の転換により、多くの外国人が家族とともに渡日するようになった。 それに伴い多くの外国人の子どもたちは日本の学校へ通うことになったが、彼らは日本語の問題や日本特有の学校文化など様々な問題に直面することとなった。 ここでは外国にルーツをもつ子どもたちの視点から日本の学校教育制度について講義、およびディスカッションを通して考えていく。
	10	教師の「自律性」、あるいは「市民」としての教師	皆さんは、教師という職業について、どのように生きていきたいだろうか。教師は、職業人としては教師であるが、同

			時に「人間」であり、「自律した市民」でもある。ここでは、こうした二重の生を送ることになる教師のあり方を、哲学的に考えていく。																	
	11	「学び続ける教員像」再考	昨今、社会の急激な変化に伴い、知識・技能の絶えざる刷新が不可欠であることから、政府の側からも「学び続ける教員像の確立」が求められてきている。ここでは、教師が学び続けることの意味、さらには、学ぶこと一般の意味について、改めて考えていく。	(事前) 自分にとって学ぶことの意味とは何かを考えてみる。 (事後) 小レポートの提出。																
	12	生活背景を視野に入れた生徒支援	貧困や虐待等、生活背景に課題のある生徒に対する支援のあり方について事例研究及びグループ討議を行う。	「子供の貧困対策に関する大綱」を一読しておくこと。授業後にミニレポートを課す。																
	13	コミュニケーション能力のとらえ方とその育成	生徒間の相互関係を深め、共感しながら人間関係やチームワークを形成する方策についての事例研究及びグループ討議を行う。	文部科学省コミュニケーション教育推進会議審議経過報告「子どもたちのコミュニケーション能力を育むために」を一読しておくこと。授業後、ミニレポートを課す。																
	14	カウンセリングマインドと生徒対応	カウンセリングの技法を生徒への対応、保護者への対応に応用する。	(事前) カウンセリングマインドについての復習。中学生あるいはその親のもつ“悩み”を3つあげる。 (事後) 小レポート																
	15	「自分」を知る	教育職における「自己を知る」ことの重要性を知り、そのための1方法としてのエゴグラム作成を行う。	(事前) 「自分」について考える。 (事後) 小レポート																
関連科目	全ての教職課程必修科目、取得予定免許状に関わる各教科毎の必修科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	グループ学習が中心であり、それぞれについて課題が出される。それらの評価を総合し、最終的な評価とする。																			
学生への メッセージ	教育実習を終えた時点で各自が自らの実習を省察すること。その中で、問題点を見出し、諸課題を自ら設定し、この科目を軸にしなが、全体講義やグループワークを通して課題克服を目指しながら、さらなる実践的力を身に付けること。																			
担当者の 研究室等	7号館3階 朝日素明、大野順子、小山裕樹、林茂樹、吉田佐治子																			
備考																				

科目名	教育社会学	科目名(英文)	Sociology of Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	大野 順子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教職に関する科目(中学校・高等学校) 【施行規則に定める科目区分】教育の基礎理論に関する科目 【各科目に含めることが必要な事項】・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 【教員免許状取得のための履修区分】 選択必修	

授業概要・目的  
近年、学校教育現場では様々な問題を抱えるようになってきました。一般的に私たちはそうした問題に対し、学校教育内部のみで対処し解決しようとする傾向があります。しかしながら、そうした問題の多くは、時に関係のないような社会的、経済的、政治的、そして文化的なシステムと密接な関係をもっていることが多々あります。そこで本講義では、教育現場で生じている諸問題を、特に社会学的観点からとらえ、検討していくことを目標とします。皆さんがこれまでの学校生活で直接経験してきた身近な教育問題から地域や国の政策レベルでの取り組み、そして海外における事例等を扱いながら、体系的に現代社会と教育の関係性を学び、教育社会学の理論や概念を学んでいきます。

到達目標  
本講義の到達目標は以下の通りです。  
1. 教育社会学の基礎理論と概念について学習する。  
2. 現代社会における様々な教育問題について理解する。  
3. 教育に関わる諸問題を社会学的観点からとらえ、論理的に思考し、分析し、検討する力が養える。  
4. 様々な教育問題に対して、それぞれ意見を表現し、他者と議論し、解決の方向を見出せる力をつける。

授業方法と留意点  
講義形式を中心としますが、適時、受講生全員で講義で取り扱う教育問題についてどのように考えているかそれぞれ発表してもらい、問題解決に向け議論する手法を取り入れるなど、演習(ゼミ)方式を取り入れ、受講生の皆さんの主体的な参加の機会を多く提供します。そこで、よりよい議論の時間を保証するためにも、毎時、取り扱うテーマに関する文献等を読み(事前配布かテキスト使用)、それを講義日までに要約してきてもらいます(毎回それを提出してもらうこととなります。提出が不十分な学生は成績対象から外す。)  
○準備学習の具体的な方法

科目学習の効果(資格)  
(1) 高等学校教諭1種免許状 (2) 中学校教諭1種免許状の取得に必要です。  
【免許法施行規則に定める科目区分】  
科目: 教育の基礎理論に関する科目  
各科目に含める必要事項: 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション 教育社会学とは	教育社会学という学問の特質、及び、その課題を知る。	事前課題: 教科書の序章を読み、疑問点についてまとめてくる。
2	近代学校教育制度	近代国民国家が求めた「学校教育制度」の意義や性格について考える。	事前課題: 教科書の第1章、第2章の要約。
3	教師と子ども	「教師-生徒の関係性」という視点から学校における教育活動全般を考えていく。	事前課題: 教科書の第3章、第4章の要約。
4	校則・体罰・校内暴力	学校が抱える諸問題(体罰等)が発生する背景や要因について考える。	事前課題: 事前に配布する論文資料を読み、要約する。
5	いじめ	学校病理問題の一つである「いじめ」について社会学的観点からいじめが発生する構造について明らかにする。	事前課題: 事前に配布する論文資料を読み、要約する。
6	不登校	学校病理問題の一つである「不登校」問題について社会学的観点から迫り、解釈する。	事前課題: 事前に配布する論文資料を読み、要約する。
7	教育格差・階層問題Ⅰ	貧困と格差が子どもたちにもたらす影響について考える。	事前課題: 教科書の第7章の要約。
8	教育格差・階層問題Ⅱ	格差解消に向けた学校、家庭、地域社会等の取り組みについて。	事前課題: 事前に配布する論文資料を読み、要約する。
9	国の教育政策: 海外との比較	教育政策、教育費、制度等の観点から日本の教育と海外の教育について比較検討する。	事前課題: 事前に配布する論文資料を読み、要約する。
10	地域と学校Ⅰ	地域社会の変容、それに伴う、学校のあり方について検討する。	事後課題: 事前に配布する論文資料を読み、要約する。
11	地域と学校Ⅱ	地域連携、学社融合の取り組みについての事例研究を行う。	事後課題: 事前に配布する論文資料を読み、要約する。
12	ジェンダーと教育	学校や家庭、社会に潜むジェンダーに関わる問題について考える。	事後課題: 事前に配布する論文資料を読み、要約する。
13	国家と教育	教育の政治化と学校現場において子どもたちや教師たちが直面する問題について考える。	事後課題: 教科書の第9章、及び事前に配布する論文資料を読み、要約する。
14	在日外国人の子どもたち	学校の中におけるマイノリティとしての「外国にルーツのある子どもたち」の状況について考える。	事後課題: 事前に配布する論文資料を読み、要約する。
15	総括	「教育改革」をキーワードにこれからの教育のあり方について考える。	事後課題: 教科書の第10章の要約。

関連科目  
「教育原理」「教育社会学」「道徳教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教育実習Ⅰ」「教職実践演習」「各教科教育法」

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	『(教師教育テキストシリーズ5) 教育社会学』	久富善之・長谷川裕編	学文社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	出席・授業参加度、試験、課題・ノートにより総合的に評価(予定) ※欠席が80%に満たない場合は成績評価の対象外とします。
学生への メッセージ	本講義を履修する者は、学校現場での活動経験(学習支援、授業支援、部活指導等内容は問わない無償・有償ボランティア活動)をしている(過去に長期間にわたり経験したことがある)ことが望ましい。活動経験のない者、現在、学校等において活動していない者は活動することを義務づけることがあるのでよく考えて履修することを決めること。
担当者の 研究室等	7号館3階(大野順子研究室)
備考	



科目名	教育心理学	科目名(英文)	Educational Psychology
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	吉田 佐治子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教職に関する科目(中学校・高等学校) 【施行規則に定める科目区分】教育の基礎理論に関する科目 【各科目に含めることが必要な事項】・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程(障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。) 【教員免許状取得のための履修区分】必修	

授業概要・目的	学校での教育活動において、教師の果たす役割は大きい。学習の質を高めるために、教師が学習者を理解し、様々な形で援助していくためにはどうすればよいのか、それを考えていくにあたって必要な、基礎的な知識を身につけることを目標とし、特に、認知的な側面に焦点を当てて議論していく。具体的には、教育について考える際に、ある意味基本となる「発達と学習」、学習者が主体的に学ぶための「学習意欲」、個人差の理解、障害の理解と特別支援教育について考える「個に応じた教育」を中心とする。また、学校を学習の場としてとらえたときの「人間関係」についてもふれることとする。
到達目標	教育心理学の基本的な考え方や、基礎的な知識を得ることができる。そのことにより、日常生活の中で行われている学習活動や学校等における問題について、心理学的に説明し、考えることができるようになる。
授業方法と留意点	講義形式で行う。

科目学習の 効果(資格)	教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「教育の基礎理論に関する科目」6単位のうち2単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎理論に関する科目 各科目に含める必要事項：幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程(障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。)
-----------------	--

教職科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	発達と教育と心理学と	教育に対して心理学ができること、発達と教育	
2	教育を支える認知機能1	思考(1)……人間の思考の特徴	テキスト第8章、第9章を読む
3	教育を支える認知機能2	思考(2)……思考の発達、メタ認知	テキスト第7章の1、第8章、第9章を読む
4	教育を支える認知機能3	言語(1)……言語の機能、言語の発達	テキスト第9章の2、第11章を読む
5	教育を支える認知機能4	言語(2)……文章理解	テキスト第11章を読む
6	教育を支える認知機能5	記憶(1)……記憶のメカニズム	テキスト第4章、第5章を読む
7	教育を支える認知機能6	記憶(2)……記憶の発達	テキスト第4章、第5章を読む
8	こどもの学び1	様々な学習(1)……学習とは何か、古典的条件づけ	テキスト第1章を読む
9	こどもの学び2	様々な学習(2)………道具的条件づけ、観察学習	テキスト第1章を読む
10	学習を支える動機づけ1	意欲とは何か……動機づけ過程、期待×価値理論、学習性無力感	テキスト第2章、第3章を読む
11	学習を支える動機づけ2	さまざまな学習意欲(1)……外発的動機づけ	テキスト第2章、第3章を読む
12	学習を支える動機づけ3	さまざまな学習意欲(2)……内発的動機づけ	テキスト第2章、第3章を読む
13	学習を支える動機づけ4	学習意欲を育むために……報酬と罰、評価、目標、教師の対応	テキスト第0章の2、第2章、第3章を読む
14	個に応じた教育1	個人差の理解と教育……ATI、学習方略	テキスト第0章の3、第6章を読む
15	個に応じた教育2	「障害」の理解と特別支援教育	テキスト第13章を読む

関連科目	心理学
------	-----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	絶対役立つ教育心理学—実践の理論、理論を实践—	藤田哲也(編著)	ミネルヴァ書房
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	小テスト30% 期末試験70%
----------	-----------------

学生へのメッセージ	これまで受けてきた教育を思い出してください。また心理学の用語の中には、日常的に遣われているのとやや異なる意味で用いられるものがあることに留意してください。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館3階(吉田研究室)
----------	--------------

備考	
----	--

科目名	教育相談	科目名(英文)	School Counseling
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	吉田 佐治子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教職に関する科目(中学校・高等学校) 【施行規則に定める科目区分】生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目 【各科目に含めることが必要な事項】教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法 【教員免許状取得のための履修区分】必修		

授業概要・目的	教育相談の考え方や進め方についての理解を深め、生徒が成長する過程に生じるさまざまな課題や問題に対処するための援助の考え方や実際、カウンセリングの基礎知識と教育相談の技法を身につけることを目標とする。学校における教育相談に焦点を当て、教師が行う教育相談活動の基本的な考え方や教育相談に必要なスキルを身につけるために、教育相談のもつ今日的な意義を解説し、カウンセリングの基礎知識およびその実践的な手法を紹介する。併せて、「問題」に悩む児童・生徒への実践的な取り組み方を考える。
到達目標	教育相談の基本的な考え方や、カウンセリングの基礎、生徒理解と「問題」への対応についての知識を得ることができる。その上で、生徒を援助するための具体的な方法について考えることができる。
授業方法と留意点	講義と演習を組み合わせで行う。

科目学習の 効果(資格)	教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目」4単位のうち2単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目 各科目に含める必要事項：教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法
-----------------	---

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業内容、授業の進め方、評価基準等について	—————
2	カウンセリングの基礎	カウンセリングの基本的な考え方や、教師としての立場、カウンセリングマインド	テキスト第1章、第2章を読む
3	グループ発表の準備	グループワーク	—————
4	学校教育相談の全体像	校内での役割分担と協力体制、専門機関との連携とその方法	テキスト第12章、第13章を読む
5	学校におけるカウンセリング活動1	カウンセリング活動のいろいろ(1)……治療的カウンセリング活動、予防的カウンセリング活動	テキスト第10章を読む
6	学校におけるカウンセリング活動2	カウンセリング活動のいろいろ(2)……開発的カウンセリング活動	テキスト第10章を読む
7	パーソナリティ理解	パーソナリティを理解するために、パーソナリティ理解をゆがめるもの	—————
8	問題の理解と対応1	問題とは何か、その原因・背景と対応、適応過程	テキスト第3章を読む
9	問題の理解と対応2	ストレス、欲求不満、葛藤	テキスト第3章、第4章を読む
10	心の発達と危機	認知の発達、自己意識の発達、道徳性の発達、仲間関係の発達	教育心理学の復習
11	相談援助活動の実際1	不登校……その理解と対応(学生グループ発表)	テキスト第5章を読む
12	相談援助活動の実際2	いじめ……その理解と対応(学生グループ発表)	テキスト第6章を読む
13	相談援助活動の実際3	学級崩壊・授業崩壊……その理解と対応(学生グループ発表)	テキスト第7章を読む
14	相談援助活動の実際4	反社会的行動……その理解と対応(学生グループ発表)	テキスト第8章を読む
15	教員のメンタル・ヘルス	教員自身が健康であるために、教員への対応	テキスト第14章を読む

関連科目	教育方法論、生徒指導論、教育心理学、教育社会学など。
------	----------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	学校教育相談	一丸藤太郎・菅野信夫	ミネルヴァ書房
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	グループ発表 50% 期末試験 50%
----------	---------------------

学生へのメッセージ	これまでの学校での「困った」経験を思い出してみてください。
-----------	-------------------------------

担当者の研究室等	7号館3階(吉田研究室)
----------	--------------

備考	
----	--

科目名	教育方法論	科目名(英文)	Studies of Educational Method
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	林 茂樹
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教職に関する科目(中学校・高等学校) 【施行規則に定める科目区分】教育課程及び指導法に関する科目 【各科目に含めることが必要な事項】教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。) 【教員免許状取得のための履修区分】必修	

授業概要・目的	(1) 自己の被教育体験を出発点に、学習観・授業観・学校観を問い直す作業を経て、今日の教師に求められる多様な資質・能力についての理解を深める。 (2) 生徒の生活背景を把握し、生徒の声を聴き取り、生徒どうしをつなぎ、教室での出来事に柔軟かつ的確に対処しつつ、教室を学びの場に変えていくことをめざす授業を構想、構成する。 (3) 教育実践の質を向上させるためには、個々の教師の専門性を向上させることだけでなく、相互に学び合うことを可能にする同僚性を構築すること、及び教育学研究の新しい知見を摂取し続けることが重要であることを理解する。
---------	--

到達目標	(1) 指導目標を適切に設定し、多角的な視点から教材研究を行い、学習指導案を作成するとともに、チーム内での協議を踏まえて指導案を改善することができる。 (2) 豊富な事例研究を通して、教育実践を対象として分析、批判、省察、再構成できる力を養う。
------	---

授業方法と留意点	講義が中心となるが、インタラクティブな授業となるよう努める。また、学習指導案の作成に向けて、個人ワーク、グループワーク、グループ討議を適宜織り交ぜる。
----------	---

科目学習の効果(資格)	教員免許(中学校・高等学校)取得上必修科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各項目に含める必要事項：教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)
-------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 教育方法の実践的探求にむけて	学習観・授業観・学校観の問い直し、教育方法論の学際的性格、多様な学びのあり方、学校教育における教師の役割	教科書第1章を読んでおく。学習内容を振り返り整理する。
2	学校とは何か	学校観の変遷、教室の観察、授業の会話分析、なぜ勉強するのか、現代社会における学校の役割	教科書第2章及び配布プリントを読んでおく。学習内容を振り返り整理する。
3	学習の再定義	学習の理論、新しい学力観、学びのメカニズム、学習の方法、客観主義的知識観と構成主義知識観	配布プリントをよく読んでおく。学習内容を振り返り整理する。
4	教室という空間	教師・生徒関係、授業のルール、授業のめあてと流れ、隠れたカリキュラム、生徒の生活背景・文化的背景を視野に入れる	第5章、第8章4以下をよく読んでおく。学習内容を振り返り整理する。
5	カリキュラムの編成	学習指導要領と教育課程、カリキュラムの構造と類型、教科学習と総合的な学習、トラッキングと社会的再生産	教科書第3章を読んでおく。学習内容を振り返り整理する。
6	情報化社会と教育	デジタル教材、ICTを活用した授業、情報活用能力の育成、情報リスクへの対応、校務事務処理の情報化	教科書第4章を読んでおく。学習内容を振り返り整理する。
7	学習の組織化	学習のスタイル、教授のスタイル、教材とメディアの活用	配布プリントをよく読んでおく。学習内容を振り返り整理する。
8	授業の設計	生徒の実態把握、目標の設定、授業方法の決定、指導案の作成、授業、評価活動	配布プリントをよく読んでおく。学習内容を振り返り整理する。
9	学力調査と学力の構造	学力低下論争、学力調査の実施、学力格差の拡大、キー・コンピテンシー	配布プリントをよく読んでおく。学習内容を振り返り整理する。
10	教育評価	教育測定、相対評価と絶対評価、診断的評価、形成的評価と総括的評価、指導と評価の一体化、授業評価アンケート	教科書第6章を読んでおく。学習内容を振り返り整理する。
11	対話的・協同的な学びと学級づくり	学習意欲低下の背景、授業崩壊、不登校・高校中退、関係づくり、学び合い	配布プリントをよく読んでおく。学習内容を振り返り整理する。
12	教育思想の歴史と教育方法	コメンテュスからエンゲストロームまで近代学校に影響を与えた教育思想を振り返る	教科書第8章3までを読んでおく。学習内容を整理する。
13	授業研究の現状と課題	公開授業・研究授業、授業観察、校内授業研究、校種間連携、キャリア・アップ	配布プリントをよく読んでおく。学習内容を振り返り整理する。
14	教員間の協力協働	課題意識と実践の共有、協同的同僚性、バーンアウト、教員文化・学校組織文化の変革	配布プリントをよく読んでおく。学習内容を振り返り整理する。
15	学び続ける教員像	教師のライフサイクル、情報技術の革新、反省的实践家、学びの専門家、各種研修	教科書第7章を読んでおく。学習内容を振り返り整理する。

関連科目 教職科目全般と関連性をもつ。特に、「教師論」「教育原理」「教育心理学」での既習内容と関連させて理解を深めることが大切である。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	教育の方法・技術	岩川直樹編	学文社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	子どもに向き合う授業づくり	生田孝至	図書文化
	2			
	3			

評価方法 (基準)	定期試験 (50%)、レポート (30%)、コメントペーパー (20%) により総合的に評価する。
学生への メッセージ	「授業に出席するだけ」という受動的な構えを取るのではなく、日々、メディアで取り上げられる教育諸課題に敏感に反応し、教育の方法的視点でどのように対処すべきかを常に考える癖をつけるようにしてください。
担当者の 研究室等	7号館3階(林研究室)
備考	

科目名	教師論	科目名(英文)	Teacher Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日 素明
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教職に関する科目(中学校・高等学校) 【施行規則に定める科目区分】教職の意義等に関する科目 【各科目に含めることが必要な事項】・教職の意義及び教員の役割 ・教員の職務内容(研修、服務及び身分保障等を含む。) ・進路選択に資する各種機会の提供等 【教員免許状取得のための履修区分】必修		

授業概要・目的	教職に関する理解を深め、自己の適性を見つめ直し、最終的に教職をめざすことについて主体的な進路選択を行うための判断材料を提供します。具体的には、「教職の意義とは何か」「教師の役割や責任は何か」「教師の職務とはどのようなものか」「教師として生きるとはどのようなことか」などについて基礎的な知識を講義し、これに基づいてグループワークを行います。
到達目標	学生は、教職に関する基礎的な知識を獲得し、「自分は教師に向いているのか」「自分はどのような教師をめざすのか」などについて判断できるようになります。また、グループワークを通じ、視野を広め、コミュニケーション力を向上させることができます。
授業方法と留意点	講義を中心に、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション(LTD; Learning Through Discussion)等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。 課題提示・レポート提出をするほか、掲示版機能を使用しディスカッションもします。 「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。
科目学習の効果(資格)	教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教職の意義等に関する科目 各科目に含める必要事項：教職の意義及び教員の役割・教員の職務内容(研修、服務及び身分保障等を含む。)・進路選択に資する各種の機会の提供等

教職科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	教職の成立とその意義	公教育の成立 教職の誕生 戦前の教員養成	テキスト第1章
3	教師教育と教職の専門性(1)	教員への道 戦後教員養成の原則と制度 教員免許制度の確立	テキスト第10章
4	教師教育と教職の専門性(2)	教員免許制度の新たな展開 教員採用の動向と採用試験	テキスト第4章・第12章
5	教師教育と教職の専門性(3)	教員の研修の意義 教員の研修の種類と体系	テキスト第3章
6	教師教育と教職の専門性(4)	法定研修 教員の自己研修	教員研修体系に関する配布資料 テキスト第11章
7	さまざまな教師像(1)	戦前・戦後の教師像 憧れの教師	テキスト第2章・終章
8	さまざまな教師像(2)	「不良教師」(文献・映像に基づく教師像の探究) レポートに基づくグループワーク	「不良教師」に関する配布資料を読みレポート提出
9	さまざまな教師像(3)	「熱血教師」(文献・映像に基づく教師像の探究) レポートに基づくグループワーク	「熱血教師」に関する配布資料を読みレポート提出
10	さまざまな教師像(4)	「人間教師」(文献・映像に基づく教師像の探究) レポートに基づくグループワーク	「人間教師」に関する配布資料を読みレポート提出
11	さまざまな教師像(5)	「プロ教師」(文献・映像に基づく教師像の探究) レポートに基づくグループワーク	「プロ教師」に関する配布資料を読みレポート提出
12	教員の役割・職務(1)	教室における指導者の視点からみた教員の役割・職務	テキスト第5章・第8章
13	教員の役割・職務(2)	学校組織の構成員の視点からみた教員の役割・職務	テキスト第7章 教職員の構成と校務分掌に関する配布資料
14	教員の役割・職務(3)	教員の任用と身分 教員の服務と身分保障 教員の勤務条件	教員の任用・服務等に関する配布資料
15	教員の役割・職務(4)	教員のメンタルヘルス、バーンアウト 教育改革と教員	テキスト第9章

関連科目 教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育経営論」「教育課程論」「教育方法論」「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新版 教職論―「よい教師」への扉を開く―	佐島群已・小池俊夫編	学文社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1		適宜指示します。	
	2			
	3			

評価方法 (基準)	定期試験を実施します。その他、レポートの内容、受講に係る積極的態度も成績判定の資料とします。
学生への メッセージ	教職について考えることは教育について考えることであり、「教え」「学び」「育ち」を含む「生き方」について考えることとなります。教養をもとに、広い視野で物事を捉える習慣を身につけましょう。 遅刻・早退等は厳禁です。教師を目指す者としての資質が問われます。
担当者の 研究室等	7号館3階 朝日研究室
備考	「未来ポートフォリオ」のリマインダを、すべてを受信するよう設定し、情報を確実に受け取ることができるようにしておきましょう。



科目名	工業科教育法	科目名(英文)	Engineering Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択必修科目
学期	通年	授業担当者	福岡 優
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教職に関する科目(高等学校) 【施行規則に定める科目区分】教育課程及び指導法に関する科目 【各科目に含めることが必要な事項】各教科の指導法 【教員免許状取得のための履修区分】選択必修	

授業概要・目的	前期では、工業教育の意義・役割・目標や教育関連法規、歴史と現状などについて学び、工業高等学校教員として必要な基礎的知識の修得を図ります。 後期では、工業教育における学習指導、学習指導計画の作成から授業の進め方と成績評価、授業改善、さらに進路指導や学校運営について学び、工業高等学校教員として必要な基礎的知識の修得を図ります。
到達目標	工業高等学校において技術教育を行うために必要な基礎的知識を修得することです。
授業方法と留意点	教科書中心で行い、随時にプリントの配布、教材掲示装置、プロジェクター等も使用します。
科目学習の効果(資格)	工業高等学校の教員1種免許を得るために必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

教職科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	工業教育の意義・歴史・法令関係<工業教育の意義・役割・目標・内容>	工業教育の役割について、適正年齢などに基づき説明する。	教科書による予習
2	工業教育の意義・歴史・法令関係<工業教育の意義・役割・目標・内容>	工業教育の目標やその内容を取り扱う。	教科書による予習
3	工業教育の意義・歴史・法令関係<教育関係法令>	教育関係法令の種類と法令のおもな部分を取り扱う。	教科書による予習
4	工業教育の意義・歴史・法令関係<工業高校発展の歴史と現状>	日本の工業高校発展の明治以来の歴史と現在の状況について取り扱う。	教科書による予習
5	工業教育の意義・歴史・法令関係<工業高校発展の歴史と現状>	数種類の工業高校発展の具体例を挙げて歴史について考える。	教科書による予習
6	外国の技術・工業教育の紹介	外国の技術・工業教育の具体例を紹介する。	教科書による予習
7	教科・工業の内容関係<教科・工業の共通科目>	教科・工業の共通科目の考え方とねらいについて説明する。	教科書による予習
8	教科・工業の内容関係<教科・工業の共通科目>	教科・工業の共通科目の課題研究について説明する。	教科書による予習
9	教科・工業の内容関係<専門学校などの工業教育について>	専門学校などの工業教育の内容について説明する。	教科書による予習
10	教科・工業の内容関係<工業科の主な学科の実験・実習の内容紹介>	工業科の主な学科の実験・実習を紹介する。	教科書による予習
11	教科・工業の内容関係<工業科の主な学科の実験・実習の内容紹介>	工業科の主な学科の実験・実習について説明する。	教科書による予習
12	教科・工業の内容関係<実践的工業教育>	就業体験学習の指導計画、就業資格について説明する。	教科書による予習
13	教科・工業の内容関係<実践的工業教育>	実践的工業教育の活動計画・実際・展開などについて具体例を紹介する。	教科書による予習
14	教育課程・授業設計・教育評価・教育実習関係<教育課程の編成から単元の計画まで>	教育課程の意義・目標・役割などについて説明する。	教科書による予習
15	教育課程・授業設計・教育評価・教育実習関係<教育課程の編成から単元の計画まで>	教育課程の編成から単元計画までの手順や配慮事項について説明する。	教科書による予習
16	教育課程・授業設計・教育評価・教育実習関係<授業設計、学習指導案、授業改善および教育実習>	授業構造や学習指導案について説明する。	教科書による予習
17	教育課程・授業設計・教育評価・教育実習関係<授業設計、学習指導案、授業改善および教育実習>	授業改善および教育実習について説明する。	教科書による予習
18	教育課程・授業設計・教育評価・教育実習関係<教育評価>	新しい学力観に基づく教育評価などについて説明する。	教科書による予習
19	教育課程・授業設計・教育評価・教育実習関係<教育評価>	評価・認定の実例を説明する。	教科書による予習
20	学習理論関係<学習と授<	学習と授業理論の歴史的展開を説明する。	教科書による予習

	業理論														
21	学習理論関係<学習と授業理論>	授業の方法や形態について説明する。	教科書による予習												
22	学習理論関係<自作教具の勧め>	教具の種類と具体例について説明する。	教科書による予習												
23	模擬授業と評価および意見交換（導入を中心に）	模擬授業と評価および意見交換（導入を中心に）	教科書による予習												
24	模擬授業と評価および意見交換（展開を中心に）	模擬授業と評価および意見交換（展開を中心に）	教科書による予習												
25	模擬授業と評価および意見交換（まとめ）	模擬授業と評価および意見交換（まとめ）	教科書による予習												
26	進路指導・学校運営・工業高校の展望<工業教育と進路指導>	工業教育と進路指導を説明する。	教科書による予習												
27	進路指導・学校運営・工業高校の展望<工業教育と進路指導>	工業教育と進路指導の具体例を紹介する。	教科書による予習												
28	進路指導・学校運営・工業高校の展望<学校運営と教員研修>	学校運営と教育力向上への取り組み。	教科書による予習												
29	進路指導・学校運営・工業高校の展望<工業高校の展望>	工業教育の現状と今後の発展について取り扱う。	教科書による予習												
30	創造性教育と課題研究	問題解決学習について説明する。	教科書による予習												
関連科目	特になし														
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新しい観点と実践に基づく工業科教育法の研究</td> <td>池守滋、佐藤弘幸、中村豊久 共著</td> <td>実教出版株式会社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新しい観点と実践に基づく工業科教育法の研究	池守滋、佐藤弘幸、中村豊久 共著	実教出版株式会社	2			
番号	書籍名	著者名	出版社名												
1	新しい観点と実践に基づく工業科教育法の研究	池守滋、佐藤弘幸、中村豊久 共著	実教出版株式会社												
2															
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>高等学校学習指導要領解説工業編</td> <td>文部科学省</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	高等学校学習指導要領解説工業編	文部科学省					
番号	書籍名	著者名	出版社名												
1	高等学校学習指導要領解説工業編	文部科学省													
評価方法（基準）	レポート評価(40%)、および小テストなど(60%)により評価する。														
学生へのメッセージ	工業科教育関係に必要な科目です。														
担当者の研究室等															
備考	なし														



科目名	工業科教育法 I	科目名 (英文)	Engineering Education I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	福岡 優
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教職に関する科目 (高等学校) 【施行規則に定める科目区分】教育課程及び指導法に関する科目 【各科目に含めることが必要な事項】・各教科の指導法 【教員免許状取得のための履修区分】選択必修	

授業概要・目的	工業科教育法 I では、工業教育の意義・役割・目標や教育関連法規、歴史と現状などについて学び、工業高等学校教員として必要な基礎的知識の修得を図ります。
到達目標	工業高等学校において技術教育を行うために必要な基礎的知識を修得することです。
授業方法と留意点	教科書中心で行い、随時にプリントの配布、教材掲示装置、プロジェクター等も使用します。
科目学習の効果 (資格)	工業高等学校の教員 1 種免許を得るために必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

教職科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	工業教育の意義・歴史・法令関係<工業教育の意義・役割・目標・内容>	工業教育の目標やその内容を取り扱う。	教科書による予習
3	工業教育の意義・歴史・法令関係<教育関係法令>	教育関係法令の種類と法令のおもな部分を取り扱う。	教科書による予習
4	工業教育の意義・歴史・法令関係<工業高校発展の歴史と現状>	日本の工業高校発展の明治以来の歴史と現在の状況について取り扱う。	教科書による予習
5	工業教育の意義・歴史・法令関係<工業高校発展の歴史と現状>	数種類の工業高校発展の具体例を挙げて歴史について考える。	教科書による予習
6	外国の技術・工業教育の紹介	外国の技術・工業教育の具体例を紹介する。	教科書による予習
7	教科・工業の内容関係<教科・工業の共通科目>	教科・工業の共通科目の考え方とねらいについて説明する。	教科書による予習
8	教科・工業の内容関係<教科・工業の共通科目>	教科・工業の共通科目の課題研究について説明する。	教科書による予習
9	教科・工業の内容関係<専門学校などの工業教育について>	専門学校などの工業教育の内容について説明する。	教科書による予習
10	教科・工業の内容関係<工業科の主な学科の実験・実習の内容紹介>	工業科の主な学科の実験・実習を紹介する。	教科書による予習
11	教科・工業の内容関係<工業科の主な学科の実験・実習の内容紹介>	工業科の主な学科の実験・実習について説明する。	教科書による予習
12	教科・工業の内容関係<実践的工業教育>	就業体験学習の指導計画、就業資格について説明する。	教科書による予習
13	教科・工業の内容関係<実践的工業教育>	実践的工業教育の活動計画・実際・展開などについて具体例を紹介する。	教科書による予習
14	教育課程・授業設計・教育評価・教育実習関係<教育課程の編成から単元の計画まで>	教育課程の意義・目標・役割などについて説明する。	教科書による予習
15	教育課程・授業設計・教育評価・教育実習関係<教育課程の編成から単元の計画まで>	教育課程の編成から単元計画までの手順や配慮事項について説明する。	教科書による予習

関連科目	特になし
------	------

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法 (基準)	レポート評価(40%)、および小テストなど(60%)により評価する。
-----------	------------------------------------

学生へのメッセージ	工業科教育関係に必要な科目です。
-----------	------------------

担当者の研究室等	
----------	--

備考	なし
----	----

科目名	工業科教育法Ⅱ	科目名(英文)	Engineering Education II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	福岡 優
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教職に関する科目(高等学校) 【施行規則に定める科目区分】教育課程及び指導法に関する科目 【各科目に含めることが必要な事項】各教科の指導法 【教員免許状取得のための履修区分】選択必修	

授業概要・目的	工業科教育法Ⅱでは、工業教育における学習指導、学習指導計画の作成から授業の進め方と成績評価、授業改善、さらに進路指導や学校運営について学び、工業高等学校教員として必要な基礎的知識の修得を図ります。
到達目標	工業高等学校において技術教育を行うために必要な基礎的知識を修得することです。
授業方法と留意点	教科書中心で行い、随時にプリントの配布、教材掲示装置、プロジェクター等も使用します。
科目学習の効果(資格)	工業高等学校の教員1種免許を得るために必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	教育課程・授業設計・教育評価・教育実習関係<授業設計, 学習指導案, 授業改善および教育実習>	授業改善および教育実習について説明する。	教科書による予習
3	教育課程・授業設計・教育評価・教育実習関係<教育評価>	新しい学力観に基づく教育評価などについて説明する。	教科書による予習
4	教育課程・授業設計・教育評価・教育実習関係<教育評価>	評価・認定の実例を説明する。	教科書による予習
5	学習理論関係<学習と授業理論>	学習と授業理論の歴史的展開を説明する。	教科書による予習
6	学習理論関係<学習と授業理論>	授業の方法や形態について説明する。	教科書による予習
7	学習理論関係<自作教具の勧め>	教具の種類と具体例について説明する。	教科書による予習
8	模擬授業と評価および意見交換(導入を中心に)	模擬授業と評価および意見交換(導入を中心に)	教科書による予習
9	模擬授業と評価および意見交換(展開を中心に)	模擬授業と評価および意見交換(展開を中心に)	模擬授業と評価および意見交換(展開を中心に)
10	模擬授業と評価および意見交換(まとめ)	模擬授業と評価および意見交換(まとめ)	教科書による予習
11	進路指導・学校運営・工業高校の展望<工業教育と進路指導>	工業教育と進路指導を説明する。	教科書による予習
12	進路指導・学校運営・工業高校の展望<工業教育と進路指導>	工業教育と進路指導の具体例を紹介する。	教科書による予習
13	進路指導・学校運営・工業高校の展望<学校運営と教員研修>	学校運営と教育力向上への取り組み。	教科書による予習
14	進路指導・学校運営・工業高校の展望<工業高校の展望>	工業教育の現状と今後の発展について取り扱う。	教科書による予習
15	創造性教育課題研究	問題解決学習について説明する。	教科書による予習

関連科目	特になし
------	------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新しい視点と実践に基づく工業科教育法の研究	池守滋、佐藤弘幸、中村豊久 共著	実教出版株式会社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	高等学校学習指導要領解説工業編	文部科学省	
2			
3			

評価方法(基準)	レポート評価(40%)、および小テストなど(60%)により評価する。
----------	------------------------------------

学生へのメッセージ	工業科教育関係に必要な科目です。
-----------	------------------

担当者の研究室等	
----------	--

備考	なし
----	----

科目名	職業指導	科目名(英文)	Vocational Guidance
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択科目
学期	通年	授業担当者	水野 武
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教科に関する科目(高等学校 工業)【施行規則に定める科目区分】「職業指導」【教員免許状取得のための履修区分】必修	

授業概要・目的	職業教育や進路指導においては、職業構造や職種・業種内容について学んだり資格取得や技能訓練などを促進したりするばかりでなく、社会や産業構造の変化の中で自分はいかに生きていくかという「生き方の設計」について学ぶことが重要です。本科目を通して学生は、キャリア教育の理論と実践について理解を深めるとともに、経済社会・産業界の変化と職業指導に与える影響などについて知見を広め、「生き方の設計」の指導者としての資質能力の基礎を身につけます。
到達目標	職業教育の理論、面談する際の技法への理解を深めることを講義の目標とします。
授業方法と留意点	講義と受講生による報告・討議を織り交ぜて進めます。  講義では都度課題を提示し、その内容を元に受講者間で話し合いを行って頂きます。 尚、遅刻等は厳禁です。
科目学習の効果(資格)	工業科における職業指導に関する基礎知識が身に付く

教職科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・授業概要の説明、職業の定義、職業指導の概念整理	本科目のシラバスを熟読すること。
2	職業指導の基礎理論	・職業指導における基本的な考え方、手法	職業指導に関する資料を熟読すること。
3	職業指導の歴史①	・アメリカ・ヨーロッパを中心に職業指導の経緯を知る	欧米の職業指導に関する資料を熟読すること。
4	日本の産業構造の変化	・日本の産業、雇用事情の変化を知る	日本の産業史に関する資料を熟読すること。
5	職業指導の歴史②	・日本の戦後の教育改革について	日本の戦後の教育改革についての資料を熟読すること。
6	日本型雇用と職業指導	・日本における雇用システムの変容と職業指導の関わり	日本型雇用の見直しについて考えること。
7	新規高卒就職システム	・新規高卒労働市場の変容と現状	高卒労働市場に関する資料を熟読すること。
8	高等学校における職業指導	・各種学校における職業指導の在り方について	職業指導の事例を調査すること。
9	「労働すること」を考える	・仕事をするごとの意義を考える	授業後は自らの労働観を持つようにすること。
10	職業指導の領域	・学校、家庭、地域コミュニティ、公的機関等職業指導がなされる「場」について考える	職業指導領域に関する資料を熟読すること。
11	キャリア教育の基礎理論①	・キャリアデザインにおける基礎理論を知る	キャリアデザイン理論についての資料を熟読すること。
12	キャリア教育の基礎理論②	・キャリアデザインにおける基礎理論を知る	キャリアデザイン理論についての資料を熟読すること。
13	授業内容立案	・高校生向けの職業指導・キャリア教育に関する授業内容を立案する	模擬授業の準備をすること。
14	模擬授業①	・講義13で立案した内容で模擬授業を実施	模擬授業の準備をすること。
15	講義の振り返り	・講義の振り返り、前期の中間レポートの提出	前期のレポートを提出できるようにすること。
16	オリエンテーション	・後期授業概要の説明	本科目のシラバスを再度熟読すること。
17	商業教育と職業指導	・商業高校における職業指導について	商業高校の職業指導事例に関する資料を熟読すること。
18	工業教育と職業指導	・工業高校における職業指導について	工業高校の職業指導事例に関する資料を熟読すること。
19	普通科高校と職業指導	・普通科高校における職業指導について	提示する資料を熟読すること。
20	フリーターとニートについて	・グループ(またはペア)でフリーター・ニート対策を考える	フリーター・ニート問題に関する資料を熟読し、ディスカッションできるように準備すること
21	職業指導・キャリア教育の実例	・地方も含めた職業指導の事例紹介	発表の準備をすること。
22	高校生の就業力について	・新規高卒者が求められる就業力について	就業力育成のための企画を考えること。
23	職業適性とは何か	・職業適性、各種アセスメントについて	自らの適性の活かし方を考えること。
24	人権教育としての職業指導	・職業指導の国際基準、ハンディキャップがある生徒への職業指導	配布資料を精読すること。
25	未来の働き方を考える	・日本の課題、それにより想像される未来における働き方を考える	配布資料を精読すること。
26	就業力向上企画を立案①	・高校生の就業力向上のための企画・授業を考える	発表の準備をすること。
27	就業力向上企画を立案②	・26回目まで考えた内容を発表する	発表の準備をすること。
28	キャリアカウンセリング理論①	・自己概念・環境との相互作用・学習理論からのアプローチ	配布資料を精読すること。
29	キャリアカウンセリング理論②	・カウンセリングマインドを知る	配布資料を資料を精読すること。
30	まとめ/講義の振り返り	・提出物の確認、授業内容に関する質疑応答	自らの労働観について考えること。

関連科目 教職科目全般。特に「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。また「特別活動論」にも近接します。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
評価方法 (基準)	講義内での課題、提出物、レポート、授業への積極的参加、レポートの提出状況およびその内容、報告や討議の内容も加味して、成績を判定します。 また、前期最終時に中間レポートを実施します。			
学生への メッセージ	「職業指導」について学ぶとともに、自らの勤労観・職業観を養い、経済社会・産業界の状況に対応して自らの進路を切り開いていってください。特に後期は就職活動と並行しての受講となるので、自らの経験と照らし合わせながら、高校生に対する指導について考えてみてください。			
担当者の 研究室等	7号館3階 キャリア教育推進室(水野)			
備考				

科目名	職業指導 I	科目名 (英文)	Vocational Guidance I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	水野 武
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教科に関する科目 (高等学校 商業) 【施行規則に定める科目区分】職業指導 【教員免許状取得のための履修区分】必修	

授業概要・目的	職業教育や進路指導においては、職業構造や職種・業種内容について学んだり資格取得や技能訓練などを促進したりするばかりでなく、社会や産業構造の変化の中で自分はいかに生きていくかという「生き方の設計」について学ぶことが重要です。本科目を通して学生は、キャリア教育の理論と実践について理解を深めるとともに、経済社会・産業界の変化と職業指導に与える影響などについて知見を広め、「生き方の設計」の指導者としての資質能力の基礎を身につけます。
到達目標	職業教育の理論への理解を深めることを講義の目標とします。
授業方法と留意点	講義と受講生による報告・討議を織り交ぜて進めます。 講義では都度課題を提示し、その内容を元に受講者間で話し合いを行って頂きます。 尚、遅刻等は厳禁です。
科目学習の効果 (資格)	商業科における職業指導の基礎知識が身に付きます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	・授業概要の説明、職業の定義、職業指導の概念整理	本科目のシラバスを熟読すること。
	2	職業指導の基礎理論	・職業指導における基本的な考え方、手法	職業指導に関する資料を熟読すること。
	3	職業指導の歴史①	・アメリカ・ヨーロッパを中心に職業指導の経緯を知る	欧米の職業指導に関する資料を熟読すること。
	4	日本の産業構造の変化	・日本の産業、雇用事情の変化を知る	日本の産業史に関する資料を熟読すること。
	5	職業指導の歴史②	・日本の戦後の教育改革について	日本の戦後の教育改革についての資料を熟読すること。
	6	日本型雇用と職業指導	・日本における雇用システムの変容と職業指導の関わり	日本型雇用の見直しについて考えること。
	7	新規高卒就職システム	・新規高卒労働市場の変容と現状	高卒労働市場に関する資料を熟読すること。
	8	高等学校における職業指導	・各種学校における職業指導の在り方について	職業指導の事例を調査すること。
	9	「労働すること」を考える	・仕事をすることの意義を考える	授業後は自らの労働観を持つようにすること。
	10	職業指導の領域	・学校、家庭、地域コミュニティ、公的機関等職業指導がなされる「場」について考える	職業指導領域に関する資料を熟読すること。
	11	キャリア教育の基礎理論①	・キャリアデザインにおける基礎理論を知る	キャリアデザイン理論についての資料を熟読すること。
	12	キャリア教育の基礎理論②	・キャリアデザインにおける基礎理論を知る	キャリアデザイン理論についての資料を熟読すること。
	13	授業内容立案	・高校生向けの職業指導・キャリア教育に関する授業内容を立案する	模擬授業の準備をすること。
	14	模擬授業	・講義 13 で立案した内容で模擬授業を実施	模擬授業の準備をすること。
	15	講義の振り返り	・講義の振り返り、最終レポートの提出	レポート提出の準備をすること。

関連科目 教職科目全般。特に「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。また「特別活動論」にも近接します。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準) 講義内での課題、提出物、レポート、授業への積極的参加、レポートの提出状況およびその内容、報告や討議の内容も加味して、成績を判定します。  
また、前期最終時にレポートを実施します。

学生へのメッセージ 「職業指導」について学ぶとともに、自らの勤労観・職業観を養い、経済社会・産業界の状況に対応して自らの進路を切り開いていってください。特に後期は就職活動と並行しての受講となるので、自らの経験と照らし合わせながら、高校生に対する指導について考えてみてください。

担当者の研究室等 7号館3階 キャリア教育推進室 (水野)

備考

教職科目

科目名	職業指導Ⅱ	科目名(英文)	Vocational Guidance II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	水野 武
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教科に関する科目(高等学校 商業) 【施行規則に定める科目区分】職業指導 【教員免許状取得のための履修区分】必修	

授業概要・目的	職業教育や進路指導においては、職業構造や職種・業種内容について学んだり資格取得や技能訓練などを促進したりするばかりでなく、社会や産業構造の変化の中で自分はいかに生きていくかという「生き方の設計」について学ぶことが重要です。本科目を通して学生は、キャリア教育の理論と実践について理解を深めるとともに、経済社会・産業界の変化とそれが職業指導に与える影響などについて知見を広め、「生き方の設計」の指導者としての資質能力の基礎を身につけます。
到達目標	職業教育の理論、面談の際の技法への理解を深めることを講義の目標とします。
授業方法と留意点	講義と受講生による報告・討議を織り交ぜて進めます。 講義では都度課題を提示し、その内容を元に受講者間で話し合いを行って頂きます。 尚、遅刻等は厳禁です。
科目学習の効果(資格)	商業科における職業指導の基礎知識が身に付く

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	・授業概要の説明	本科目のシラバスを熟読すること。
	2	商業教育と職業指導	・商業高校における職業指導の事例を知る	商業高校の職業指導事例に関する資料を熟読すること。
	3	工業教育と職業指導	・工業高校における職業指導の事例を知る	工業高校の職業指導事例に関する資料を熟読すること。
	4	普通科高校と職業指導	・普通科高校における職業指導について	・提示する資料を熟読すること。
	5	フリーター・ニートについて	グループ(またはペア)でフリーター・ニート対策を考える	フリーター・ニート問題に関する資料を熟読し、発表できるよう準備
	6	職業指導・キャリア教育の実例	・地方も含めた職業指導の事例紹介	発表の準備をすること。
	7	高校生の就業力について	・新規高卒者に求められる基本的な能力	就業力育成のための企画を考えること。
	8	職業適性とは何か	・職業適性、アセスメントについて	自らの適性の活かし方について考えること。
	9	人権教育としての職業指導	・職業指導の国際基準、ハンディキャップがある生徒への職業指導	配布資料を精読すること。
	10	未来の働き方を考える	・日本の課題、それにより想像される未来における働き方を考える	配布資料を精読すること。
	11	就業力向上企画を立案①	高校生の就業力向上のための企画・授業を考える	・発表の準備をすること。
	12	就業力向上計画立案②	11回目で考えた内容を発表する	・発表の準備をすること。
	13	キャリアカウンセリング理論①	自己概念・環境との相互作用・学習理論からのアプローチ	配布資料を精読すること。
	14	キャリアカウンセリング理論②	カウンセリングマインドについて	配布資料を熟読すること。
	15	まとめ/講義の振り返り	提出物の確認、授業内容に関する質疑応答	自らの労働観について考えること。

関連科目 教職科目全般。特に「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。「特別活動論」にも近接します。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	レポートを実施します。その他、授業への積極的参加、その他課題の提出状況およびその内容、報告や討議の内容も加味して、成績を判定します。
学生へのメッセージ	「職業指導」について学ぶとともに、自らの勤労観・職業観を養い、経済社会・産業界の状況に対応して自らの進路を切り開いていってください。後期は就職活動と並行しての受講となるので、自らの経験と照らし合わせながら、高校生に対する指導について考えてみてください。
担当者の研究室等	7号館3階 キャリア教育推進室(水野)
備考	

教職科目



科目名	数学科教育法 I	科目名 (英文)	Method of Mathematics Teaching I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	寺本 恵昭
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教職に関する科目 (中学校・高等学校) 【施行規則に定める科目区分】教育課程及び指導法に関する科目 【各科目に含めることが必要な事項】各教科の指導法 【教員免許取得のための履修区分】選択必修	

授業概要・目的	数学科教育法 I では、高等学校数学科教員を目指す学生の意識を高め、実際に教育を担当できるようにするための基礎的な実践能力の育成をめざす。「カリキュラム・教育目標・目的・方法・内容・評価・教授及び学習に関する理論」をとらえ、数学教育における教育の方法や技術の修得に重点を置く。また、問題発見力と解決のための「情報活用法」を体得するべく、グループ学習を重視し、マイクロティーチング・プレゼンテーションをとおして「教えるもの」と「学ぶもの」の相互の立場を経験し、自己の教育観・教育力の基礎的基盤の確立を目指す。
到達目標	(1) 現行の学習指導要領を踏まえて、学習目標をたて、指導案を作成し、高等学校数学科の科目内容に関する15分程度のマイクロティーチングを行うことができる。 (2) 相互評価・自己評価を通じて、現在の自分を見つめ直し、教育観・教育力を育むことができる。
授業方法と留意点	グループ学習・活動で実施する。自らが発見した課題に積極的に取り組むことにより学ぶ「メタ学習」を根本におく。レポートの提出を求める。ビデオ、教材提示装置等視聴覚教材を用いて講義を進める。
科目学習の効果 (資格)	「創造型人材育成教育 (数学教育) を実践しうる教育者」となるための基礎・基本の確立ができる。(高等学校一種免許 (数学))

教職科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	本授業のねらいと展開	本教科科目の内容、特徴、学び方、ガイダンス、全体の展望、学習の進め方	課題レポート
2	教育と評価(1)	「評価」観の変遷から新しい「学力」観におけるメタ認知・メタ学習における評価について考える。	課題レポート
3	教育と評価(2)	教育における指導と評価を一体化させる方法を考え、「教育改善のための評価法」に統合する。	課題レポート
4	数学教育の目的と目標	教授の概念を学び、教授論の歴史的展開から教授メディアの発展及び学習理論について学ぶ。	課題レポート
5	新しい学力観	数学的な見方・考え方に関わる教授法に関する知識を、学習理論に結びつけ、新しい「学力」観について考える。	課題レポート
6	生きる力(1)	近接校種等の総合的な学習の時間における教育のあり方を学び、先進的な実践校の内容と、その分析をおこなう。	課題レポート
7	生きる力(2)	教授法・学習理論をメタ学習・数学教育の観点から教育の現場で役立つ力とする。	課題レポート
8	学級崩壊・学力崩壊	近接校種の教育の現場の状況を知り、各自の目指す校種に至るまでの現状を知る。特に小学校低学年における学級崩壊の実状を考察して、各自の教育観をたてる。	課題レポート
9	学習指導要領(1)	学習指導要領制定の経緯、変遷の経過に、それぞれの時代の求められた教育観がいかに反映されたかを学ぶ。	課題レポート
10	学習指導要領(2)	高等学校の学習指導要領について学び、その目標や内容について知り、教科書の分析法や、授業・指導の組織化の方法について学ぶ。	課題レポート
11	数学科教授計画	授業の設計法を体系的に学ぶ。目標の分析法や、授業・指導の組織化の方法について学び、その知識を援用して学習指導案にまとめる。	課題レポート
12	マイクロティーチングの方法	教育機器と教授メディア、教授メディアの発展と現状、チャート・カード・OHPなどの活用	課題レポート
13	マイクロティーチング(プレゼンテーション)・グループ学習(1)	各自の求める数学教育について、「15分間のマイクロティーチング」にまとめ、実践する。	課題レポート
14	マイクロティーチング(プレゼンテーション)・グループ学習(2)	グループ員各々のマイクロティーチングを「学ぶもの立場」、「同僚(教えるもの)としての立場」で相互評価し、「教えるもの」としての自己評価を加えて総合的にまとめる。	課題レポート
15	マイクロティーチング(プレゼンテーション)・グループ学習(3)	マイクロティーチングの相互評価と自己評価の発表と検討により、自己の教育力・評価力育成のための方法を体得する。	課題レポート

関連科目 本科目を学ぶまでに開講されている他の教職関連科目、一般教養科目を予め履修しておくことが望ましい。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	高等学校学習指導要領解説—数学編・理数編		
2	高等学校学習指導要領解説—総則編		
3	中学校学習指導要領解説—数学編		

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	バズ式セッションを中心に展開(グループ員との連携が必須・特に欠席時)。マイクロティーチング(模擬授業)は必須。レポートの提出を求める。マイクロティーチングと評価のまとめで50%、レポートと日常学習状況(出席状況を含む)の評価が50%とする。			
学生への メッセージ	将来教員をめざす学生の切磋琢磨の場として、プレゼンテーション能力の育成をはかり、グループを中心に、新しい教材開発など積極的な活動を求める。			
担当者の 研究室等	3号館3階 数学研究室			
備考				



科目名	数学科教育法 II	科目名 (英文)	Method of Mathematics Teaching II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	小林 俊公
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教職に関する科目 (中学校・高等学校) 【施行規則に定める科目区分】教育課程及び指導法に関する科目 【各科目に含めることが必要な事項】各教科の指導法 【教員免許状取得のための履修区分】選択必修	

授業概要・目的	数学科教育法 II では、高等学校数学科教員を目指す学生が実際に教育を担当できるようにするための基盤となる実践力の育成をめざす。数学科教育法 I でまとめあげた各自の「教える立場に立ったときの心構え・知識」と、体験したマイクロティーチングを礎にして、生きる力を知的な側面から支える「確かな学力」を育成し、生徒の学習意欲を高め、自ら学び自ら考える力を育成できるプロジェクトをたて、教育コースウェアを研究・開発し、バズ式セッション・グループ活動・他者評価・自己評価、相互評価などで実践的な学びを展開する。学科の学習・教育目標との対応：[IV]
到達目標	高等学校数学科の科目内容に関して、学習目標・内容・評価を含む指導計画をたて、学習指導案(指導細案)を作成し、約50分の模擬授業を行うことができる。
授業方法と留意点	学ぶ意欲を維持し自分で課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題解決し、プレゼンテーションする資質や能力の涵養
科目学習の効果(資格)	「創造型人材育成教育(数学教育)を実践しうる教育者」となるための基盤力が涵養できる。(高等学校一種免許(数学)) 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

教職科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	生きる力と確かな学力、学力観(1)	高等学校教科「数学」や専門教科「理数」において、生徒の学習意欲をたかめ、生きる力を支える「確かな学力」について考える。	課題レポート
3	生きる力と確かな学力、学力観(2)	「生徒が数学的な見方・考え方が好きだと思うこと」とは、また「授業以外に学ぶ習慣を体得できる種々の方策」とはについて考える。	課題レポート
4	生きる力と確かな学力、学力観(3)	「生活の中での数学の有効性を体験し論理的に考える態度の育成」とは、また「人やものに関わる力をたかめるための体験」とはどのようなものであるかを考える。	課題レポート
5	生きる力と確かな学力、学力観(4)	身近な事象から、どのような数学的知識がひきだされているか具体例を挙げ、数学的思考の構成過程を振り返って、当初の事象にどのように活用されているかを考える。	課題レポート
6	高等学校の数学教育開発プロジェクト(1)	高等学校普通教科数学「I・II・III、A、B、C、数学活用」や専門科目「理数」の各々について、その理念と意義及び目標・内容について理解する。	課題レポート
7	高等学校の数学教育開発プロジェクト(2)	理解の過程で各自が持った問題意識でテーマをたて「自分が求める数学教育」を設定し、各自のたてた学力観から教授モデルや評価のあり方についてさらに考えをすすめる。	課題レポート
8	高等学校の数学教育開発プロジェクト(3)	自ら学び自ら考える力や表現力を身につけさせることができる「各自のおこないたい教育コースウェア」を開発するプロジェクトを考察する。	課題レポート
9	高等学校の数学教育開発プロジェクト(4)	教育目標・目的、内容・方法、評価について考え、教育課程、年間指導計画、単元計画、本時の学習についての学習指導案・学習指導細案・ワークシート・板書計画・評価法をまとめ上げる。	課題レポート
10	バズ式セッション、模擬授業・評価(1)	グループ活動として、各自の開発した教育コースウェアについてバズ式セッションで討議する。	課題レポート
11	バズ式セッション、模擬授業・評価(2)	討議の結果をフィードバックして各自の考えた教育コースウェアを修正し、「50分間の模擬授業」をおこなう。	課題レポート
12	バズ式セッション、模擬授業・評価(3)	各自の考えた「評価規準」「評価基準」「ルーブリック」等で評価をおこない、観点別評価を実践する。	課題レポート
13	バズ式セッション、模擬授業・評価(4)	実践により各々のプロジェクト型問題解決学習を完結し、ひとりひとりの「Plan-Do-Check-Actionのサイクル」をシステムティックに組み上げる。	課題レポート
14	バズ式セッション、模擬授業・評価(5)	教育者としての基盤を確立し、自己の教育力(授業改善力・評価力等)育成のための方法を体得する。	課題レポート
15	まとめ	高等学校教科「数学」の学習指導要領について体系的な知識を身につけ、「生きる力」や「確かな学力」について考えをまとめ、各自の「学力観」を立てる。	課題レポート

関連科目	本科目を学ぶまでに数学科教育法 I を履修すること。他の教職関連科目、一般教養科目なども予め履修しておくことが望ましい。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	高等学校学習指導要領解説—数学編・理数編		
	2	高等学校学習指導要領解説—総則編		
	3	中学校学習指導要領解説—数学編		
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	観点別評価 実践事例集	北尾倫彦・鈴木彬・内海淳 編集	図書文化
	2			
	3			
評価方法 (基準)	マイクロティーチング(模擬授業)は必須。授業への参画(受講態度、平常点)、課題提出、課題解決の経過等の日常学習状況の評価が50%、マイクロティーチングと評価のまとめで50%とする。			
学生への メッセージ	生徒の自己実現を支援する高等学校数学科の教員を目指すという目的意識を持ち、常に問題を発見し問題解決・課題解決に情熱を傾け、日々の課題を着実に解決し、自ら継続的に問題(課題)解決のための取り組みを日常的におこなう学生の受講を希望する。			
担当者の 研究室等	3号館3階 数学研究室			
備考				

科目名	数学科教育法Ⅲ	科目名(英文)	Method of Mathematics Teaching III
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	大西 慶一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教職に関する科目(中学校・高等学校) 【施行規則に定める科目区分】教育課程及び指導法に関する科目 【各科目に含めることが必要な事項】各教科の指導法 【教員免許状取得のための履修区分】選択必修	

授業概要・目的  
 数学科教育法Ⅲでは、中学校数学科教員を目指す学生の意識を高め、実際に教育を担当できるための基礎的な実践能力の育成をめざす。中学生の実態を捉え、「カリキュラム・教育目標・目的・方法・内容・評価・教授及び学習に関する理論」に関する知識を展開し、数学教育における教育の方法や技術の修得に重点を置く。また、問題発見力と解決のための「情報活用法」を体得するべく、グループ学習を重視し、マイクロティーチング・プレゼンテーションをとおして「教えるもの」と「学ぶもの」の相互の立場を経験し、自己の教育観・教育力の基礎的基盤の確立を目指す。また、校種間の連携として小学校・高等学校の指導要領についても学ぶ。自己の学習に関するPDCAサイクル

到達目標  
 ・中学校学習指導要領(数学)の理解  
 ・数学的な活動の理解と体得  
 ・PISA型学力と生きる力の理解と育成法の体得  
 ・必須授業力の理解と自己の授業力の育成  
 ・マイクロティーチングの基礎力  
 ・評価と評定についての理解

授業方法と留意点  
 グループ学習・活動で実施する。自らが発見した課題に積極的に取り組むことにより学ぶ「メタ学習」を根本におく。レポートの提出を求める。ビデオ、教材提示装置等視聴覚器材を用いて講義を進める。

科目学習の効果(資格)  
 「創造型人材育成教育(数学教育)を実践しうる教育者」となるための基礎・基本の確立ができる。(中学校一種免許(数学))  
 【免許法施行規則に定める科目区分】  
 科目：教育課程及び指導法に関する科目  
 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	本授業のねらいと展開	本教科科目の内容、特徴、学び方、全体の展望、学習の進め方	課題レポート
2	中学校数学教育の歴史(1)	中学校運営全体の中で、数学教育体制がどのように始められ変遷してきたか学ぶ。	課題レポート
3	中学校数学教育の歴史(2)	中学校数学教育でなにが教えられてきたか、教科内容の取捨選択がいかに行われてきたかを学ぶ。	課題レポート
4	算数教育から数学教育へ(1)	小学校算数教育の内容の変遷を通じて、小中の算数数学教育の連携がどのように考えられてきたか学ぶ。	課題レポート
5	算数教育から数学教育へ(2)	現行算数教育と数学教育の間にどのような問題があるのか、その課題といかに改善すべきか考える。	課題レポート
6	数学教育の目的と目標	教授の概念を学び、教授論の歴史的展開から教授メディアの発展及び学習理論について学ぶ。	課題レポート
7	学級崩壊・学力崩壊	近接校種の教育の現場の状況を知り、各自の目指す校種に至るまでの現状を知る。特に小学校低学年における学級崩壊の実状を考察して、各自の教育観をたてる。	課題レポート
8	生きる力(1)	近接校種等の総合的な学習の時間における教育のあり方を学び、先進的な実践校の内容と、その分析をおこなう。	課題レポート
9	生きる力(2)	教授法・学習理論をメタ学習・数学教育の観点から教育の現場で役立つ力とする。	課題レポート
10	学習指導要領	中学校の学習指導要領について学び、その目標や内容について知り、教科書の分析法や、授業・指導の組織化の方法について学ぶ。	課題レポート
11	数学科教授計画	授業の設計法を体系的に学ぶ。目標の分析法や、授業・指導の組織化の方法について学び、その知識を援用して学習指導案にまとめる。	課題レポート
12	マイクロティーチングの方法	教育機器と教授メディア、教授メディアの発展と現状、チャート・カード・OHPなどの活用	課題レポート
13	マイクロティーチング(プレゼンテーション)・グループ学習(1)	各自の求める数学教育について、「15分間のマイクロティーチング」にまとめ、実践する。	課題レポート
14	マイクロティーチング(プレゼンテーション)・グループ学習(2)	グループ員各々のマイクロティーチングを「学ぶもの立場」、「同僚(教えるもの)としての立場」で相互評価し、「教えるもの」としての自己評価を加えて総合的にまとめる。	課題レポート
15	マイクロティーチング(プレゼンテーション)・グループ学習(3)	マイクロティーチングの相互評価と自己評価の発表と検討により、自己の教育力・評価力育成のための方法を体得する。	課題レポート

関連科目  
 本科目を学ぶまでに開講されている他の教職関連科目、一般教養科目を予め履修しておくことが望ましい。

教科書

教職科目

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領解説 数学編 (最新版)	文部科学省	
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>バス式セッションを中心に展開(グループ員との連携が必須・特に欠席時)。マイクロティーチング(模擬授業)は必須。レポートの提出を求める。マイクロティーチングと評価のまとめで50%、レポートと日常学習状況(出席状況を含む)の評価が50%とする。</p>			
学生への メッセージ	<p>将来教員をめざす学生の切磋琢磨の場として、プレゼンテーション能力の育成をはかり、グループを中心に、新しい教材開発など積極的な活動を求める。</p>			
担当者の 研究室等	<p>当該講義内での対応が中心となります。</p>			
備考				

科目名	数学科教育法Ⅳ	科目名(英文)	Method of Mathematics Teaching IV
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	大西 慶一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教職に関する科目(中学校・高等学校) 【施行規則に定める科目区分】教育課程及び指導法に関する科目 【各科目に含めることが必要な事項】各教科の指導法 【教員免許状取得のための履修区分】選択必修	

授業概要・目的	数学科教育法Ⅳでは、中学校数学科教員を目指す学生が実際に教育を担当できるための基盤となる実践力の育成をめざす。数学科教育法Ⅰ、Ⅱ、Ⅲでまとめあげた各自の「教える立場に立ったときの心構え・知識」と、体験したマイクロティーチングを礎にして、生きる力を知的な側面から支える「確かな学力」を育成するための教育コースウェアを研究・開発する。バズ式セッション・グループ活動を学習形態に取り入れ、生徒の学習意欲をたかめ、自ら学び自ら考える力を育てるという課題を持ってプロジェクトをたてる。各自がたてた課題解決プロジェクトを互いに他者評価し、自己評価して実践的な学びを展開する。教育職としてのPDCA策定。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校学習指導要領(数学)の内容(単元の学年配当、4領域+1分野)の体得</li> <li>・数学的な活動を含んだ教育課程の編成についての理解</li> <li>・PISA型学力と生きる力を育成する教育課程の体得</li> <li>・学習指導案の作成力</li> <li>・マイクロティーチングの実践力</li> <li>・他者評価法の理解と実践力</li> </ul>
授業方法と留意点	学ぶ意欲を維持し自分で課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題解決し、プレゼンテーションする資質や能力の涵養

科目学習の 効果(資格)	「創造型人材育成教育(数学教育)を実践しうる教育者」となるための基盤力が涵養できる。(中学校一種免許(数学)) 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法
-----------------	---

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	生きる力と確かな学力、学力観(1)	中学校教科「数学」において、生徒の学習意欲をたかめ、生きる力を支える「確かな学力」について考える。	課題レポート
3	生きる力と確かな学力、学力観(2)	「生徒が数学的な見方・考え方が好きだと思ふこと」とは、また「授業以外に学ぶ習慣を体得できる種々の方策」とはについて考える。	課題レポート
4	生きる力と確かな学力、学力観(3)	「生活の中での数学の有効性を体験し論理的に考える態度の育成」とは、また「人やものと関わる力をたかめるための体験」とはどのようなものであるかを考える。	課題レポート
5	中学校の数学教育開発プロジェクト(1)	教育目標・目的、内容・方法、評価について考え、教育課程、年間指導計画、単元計画、本時の学習についての学習指導案・学習指導細案・ワークシート・板書計画・評価法をまとめ上げる。	課題レポート
6	中学校の数学教育開発プロジェクト(2)	理解の過程で各自が持った問題意識でテーマをたて「自分が求める数学教育」を設定し、各自のたてた学力観から教授モデルや評価のあり方についてさらに考えをすすめる。	課題レポート
7	中学校の数学教育開発プロジェクト(3)	第1学年での数学教科について、その理念と意義及び目標・内容について理解する。	課題レポート
8	中学校の数学教育開発プロジェクト(4)	第2学年での数学教科について、その理念と意義及び目標・内容について理解する。	課題レポート
9	中学校の数学教育開発プロジェクト(5)	第3学年での数学教科について、その理念と意義及び目標・内容について理解する。	課題レポート
10	バズ式セッション、模擬授業・評価(1)	グループ活動として、各自の開発した教育コースウェアについてバズ式セッションで討議する。	課題レポート
11	バズ式セッション、模擬授業・評価(2)	討議の結果をフィードバックして各自の考えた教育コースウェアを修正し、「50分間の模擬授業」をおこなう。	課題レポート
12	バズ式セッション、模擬授業・評価(3)	各自の考えた「評価規準」「評価基準」「ルーブリック」等で評価をおこない、観点別評価を実践する。	課題レポート
13	バズ式セッション、模擬授業・評価(4)	実践により各々のプロジェクト型問題解決学習を完結し、ひとりひとりの「Plan-Do-Check-Actionのサイクル」をシステムティックに組み上げる。	課題レポート
14	バズ式セッション、模擬授業・評価(5)	教育者としての基盤を確立し、自己の教育力(授業改善力・評価力等)育成のための方法を体得する。	課題レポート
15	まとめ	高等学校教科「数学」の学習指導要領について体系的な知識を身につけ、「生きる力」や「確かな学力」について考えをまとめ、各自の「学力観」を立てる。	課題レポート

関連科目	本科目を学ぶまでに数学科教育法Ⅲを履修すること。他の教職関連科目、一般教養科目なども予め履修しておくことが望ましい。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領解説 数学編（最新版）	文部科学省	
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	バズ式セッションを中心に展開(グループ員との連携が必須・特に欠席した場合はグループ員から内容を聞き取り次週までに実践しておくこと)。マイクロティーチング(模擬授業)は必須。レポートの提出を求める。マイクロティーチングと評価のまとめで50%、レポートと日常学習状況(出席状況を含む)の評価が50%とする。			
学生への メッセージ	生徒の自己実現を支援する中学校数学科の教員を目指すという目的意識を持ち、常に問題を発見し、問題解決・課題解決に情熱を傾け、日々の課題を着実に解決し、自ら継続的に問題(課題)解決のための取り組みを日常的におこなう学生の受講を希望する。			
担当者の 研究室等	当該講義内での対応が中心となります。			
備考				

科目名	生徒指導論	科目名(英文)	Studies of Guidance and Counseling
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日 素明
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教職に関する科目(中学校・高等学校) 【施行規則に定める科目区分】生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目【各科目に含めることが必要な事項】・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導の理論及び方法【教員免許状取得のための履修区分】必修		

授業概要・目的	生徒指導、進路指導は、学校教育をすすめるうえで重要な役割を占めています。非行、いじめ、不登校、学級崩壊、受験競争、進路のミスマッチなど、生徒指導・進路指導上の諸問題については、その解決の重要性が認識されています。本科目では、多くの具体的な問題事象に通底する基本的で普遍的な原理について学びます。
到達目標	学生は、生徒指導、進路指導の意義や指導の方法に関する基本的な事柄について必要最低限の知識を獲得し、さまざまな問題事象を適切に捉え対処する基礎力を身につけることができます。
授業方法と留意点	プレゼンテーションソフトを用いた講義を中心に、内容をめぐるディスカッション等も織り交ぜて授業を進めます。また時折、レポートを課します。「事前・事後学習課題」はすべて事前課題です。事後課題については別途、指示します。
科目学習の効果(資格)	教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：生徒指導、教育相談及び進路指導に関する科目 各科目に含める必要事項：生徒指導の理論及び方法、進路指導の理論及び方法

教職科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	生徒指導の実践	生徒指導の実践課題と領域	テキスト pp. 10-24
3	生徒指導の理論(1)	理論の重要性 発達に関する理論	テキスト pp. 32-39
4	生徒指導の理論(2)	生徒指導における治療的支援に関する理論 相談理論など	テキスト pp. 39-42
5	生徒理解の進め方(1)	生徒理解の意義と目的	テキスト pp. 43-46
6	生徒理解の進め方(2)	生徒理解の方法 生徒の自己理解の支援	テキスト pp. 46-56
7	生徒理解の進め方(3)	教師の生徒認知のありよう	テキスト pp. 56-61
8	中間試験	これまでの授業内容についての試験	前回までの復習
9	学級経営の進め方(1)	学級経営の意義 学級集団の役割・機能	テキスト pp. 63-68
10	学級経営の進め方(2)	学級集団の力学 学級経営の方法	テキスト pp. 68-74
11	学級経営の進め方(3)	教師のリーダーシップ	テキスト pp. 74-79
12	生徒指導上の諸問題の理解と対応	生徒指導上の諸問題とは 最近の諸問題の動向 諸問題にどう対応するか	生徒指導上の諸問題に関する配布資料
13	進路指導の意義と課題	進路指導の意義と課題 進路指導に関する諸理論	テキスト pp. 135-159
14	勤労観・職業観の形成と変容	青少年の勤労観・職業観 勤労観・職業観の形成と変容	テキスト pp. 176-195
15	学校教育における進路指導の実践展開	進路指導における「ガイダンスの機能」 進路指導実践の展開モデル	テキスト pp. 215-234

関連科目 教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教師論」「教育心理学」「特別活動の理論と方法」「教育経営論」に関連する事柄を含みます。

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法(基準)	中間試験、定期試験の得点の他、レポートの内容、受講に係る積極的態度により、総合的に成績を判定します。定期試験を受験しなかった場合、成績判定はしません。
学生へのメッセージ	生徒指導、進路指導を学ぶ原資になる自らの体験は大事です。さらに自らの体験を対象化して考える習慣をつけましょう。そのために、基礎的な知識をしっかりと身につけてください。授業への遅刻、無断欠席・早退等は厳禁です。生徒指導を行おうとする者としての適格性が問われます。
担当者の研究室等	7号館3階 朝日研究室
備考	「未来ポートフォリオ」のリマインダを、すべてを受信するよう設定し、情報を確実に受け取ることができるようにしましょう。



科目名	道徳教育の研究	科目名(英文)	Studies of Moral Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小山 裕樹
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教職に関する科目(中学校) 【施行規則に定める科目区分】教育課程及び指導法に関する科目 【各科目に含めることが必要な事項】・道徳の指導法 【教員免許状取得のための履修区分】必修 【科目】教科又は教職に関する科目(高等学校) 【施行規則に定める科目区分】教科又は教職に関する科目 【教員免許状取得のための履修区分】選択	

授業概要・目的	この授業では、日本の道徳教育に関する基礎的な知識や考え方(日本の道徳教育の歴史、道徳教育の内容を構成する諸概念、道徳性の発達理論、等)について解説を加え、実際に学校でどのように道徳教育を行えばよいのかを考えていきます。
到達目標	受講者が日本の道徳教育に関する基礎的な知識や考え方を身に付けながら、道徳教育に関する具体的な授業計画を立案することができるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	授業のスケジュールはおおよそ下記の通りで、基本的には講義形式で行います。なお、授業では、折に触れて受講者にコメントペーパーを書いてもらって皆で関心を共有し合うとともに、その都度のテーマに対して多角的な視点から検討し合えるように配慮します。
科目学習の効果(資格)	中学校教諭1種免許状の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目:教育課程及び指導法に関する科目 各項目に含める必要事項:道徳の指導法

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス:道徳教育をどのように考えるか	①現在、道徳教育がどのように考えられているかを、確認する。 ②読み物教材の分析を通して、道徳教育に対するアプローチ法を考える。	自分が受けてきた道徳教育がどのようなものだったか思い出しておく。
2	日本の道徳教育の歴史①:戦前の道徳教育	①明治から昭和初期にかけての道徳教育の歴史を概観する。 ②「個人主義」について多角的に考える。	授業の内容を踏まえたうえで、「個人主義」についてより深く考える。	
3	日本の道徳教育の歴史②:戦後の道徳教育	道徳教育に関する戦後すぐの教育改革の動向と、それに対するいわゆる保守反動的な動きについて考える。	政治的・経済的状況との関わりから、道徳教育の歴史の変遷を整理する。	
4	日本の道徳教育の歴史③:現代の道徳教育	①近年の道徳教育をめぐる教育改革の動向を概観する。 ②道徳教育推進論の論拠の一つともなっている「いじめ」問題について考えを深める。	自分の周囲で起こった「いじめ」体験について思い出しておく。さらに、その体験について授業の内容を踏まえたうえで再考する。	
5	諸外国の道徳教育	①諸外国の道徳教育の状況について概観する。 ②諸外国の道徳教育を事例として、道徳教育と「宗教教育」との関係について考える。	諸外国の道徳教育と自分の受けてきた道徳教育とを比較検討し、共通点と相違点を整理する。	
6	道徳教育の内容①:自我	学習指導要領において道徳教育の内容の一つを成すとされている「主として自分自身に関すること」をめぐり、「自我」(＝「私」)について道徳教育の視点から考える。	普段の生活や授業の内容を振り返り、「私」のあり方についてより深く考える。	
7	道徳教育の内容②:他者	学習指導要領において道徳教育の内容の一つを成すとされている「主として他人とのかわりに関すること」をめぐり、道徳教育の視点から「他者」との関わりをなかで「私」を捉え直す。	普段の生活を振り返り、そこでの「私」と「他者」との関わりについて考えておく。さらに、授業を踏まえたうえで、それについて再考する。	
8	道徳教育の内容③:自然	学習指導要領において道徳教育の内容の一つを成すとされている「主として自然や崇高なものとのかわりに関すること」をめぐり、道徳教育(とりわけ「いのちの教育」)の実践例を検討する。	「いのちの教育」の実践例について、授業の内容を踏まえたうえで、より深く考える。	
9	道徳教育の内容④:美と崇高	学習指導要領において道徳教育の内容の一つを成すとされている「主として自然や崇高なものとのかわりに関すること」をめぐり、道徳教育をいわゆる「情操教育」との関わりをなかで考える。	自分が受けてきた「情操教育」について思い出しておく。さらに、授業の内容を踏まえたうえで、「情操教育」の可能性について再考する。	
10	道徳教育の内容⑤:社会	①学習指導要領において道徳教育の内容の一つを成すとされている「主として集団や社会とのかわりに関すること」をめぐり、道徳教育の視点から「社会」との関わりをなかで「私」を捉え直す。 ②いわゆる「スクールカースト」について考える。	自分の周囲に生じた「スクールカースト」の体験について思い出しておく。さらに、その体験について授業の内容を踏まえたうえで再考する。	
11	道徳性の発達	①コールバーグおよびギリガンによる道徳性の発達理論を検討する。 ②道徳性の発達理論を応用したいいわゆる「モラル・ジレンマ授業」について理解を深める。	「モラル・ジレンマ授業」について構想するための準備をする。	
12	道徳の授業の位置づけ	①教育課程編成上の道徳教育の位置づけを確認する。 ②教科教育のなかで行われた道徳教育の実践例をもとに、道徳教育の幅広い可能性について考える。	各教科教育と道徳教育との関わりについて整理する。	
13	学習指導案の作成と授業の展開①	①学校における道徳教育の「要」とされている「道徳の時間」の位置づけについて	授業時に指示する。	



			て考える。 ②「道徳の時間」を計画的に進めるための学習指導案の書き方について具体的に考えていく。																	
	14	学習指導案の作成と授業の展開②	「道徳の時間」の学習指導案の書き方について、引き続き具体的に考えていく。	授業時に指示する。																
	15	まとめ:道徳教育と教師の責任	①道徳教育についてまとめとして考えるために、ある実験授業の記録を扱う。 ②この実験授業において生じた結果から、道徳教育が有する「可能性」や「限界」等について考察する。	授業時に指示する。																
関連科目	教職科目全体と関連がありますので、他の授業で学習した内容と関連づけて考えてみるのが大切です。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>教科書は特に指定せず、授業中にレジュメと資料を配布します。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	教科書は特に指定せず、授業中にレジュメと資料を配布します。			2				3						
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	教科書は特に指定せず、授業中にレジュメと資料を配布します。																			
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>中学校学習指導要領解説：道徳編</td> <td>文部科学省</td> <td>日本文教出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>その他の参考書に関しては、授業中に適宜紹介します。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	中学校学習指導要領解説：道徳編	文部科学省	日本文教出版	2	その他の参考書に関しては、授業中に適宜紹介します。			3						
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	中学校学習指導要領解説：道徳編	文部科学省	日本文教出版																	
2	その他の参考書に関しては、授業中に適宜紹介します。																			
3																				
評価方法 (基準)	授業中に折に触れて書いてもらうコメントペーパーや、学期末試験の結果などをもとに、総合的に評価します。																			
学生への メッセージ	受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。																			
担当者の 研究室等	7号館3階(小山研究室)																			
備考																				

科目名	特別活動の理論と方法	科目名(英文)	Theories and Methods for Special Activities
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	林 茂樹
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教職に関する科目(中学校・高等学校) 【施行規則に定める科目区分】教育課程及び指導法に関する科目 【各科目に含めることが必要な事項】・特別活動の指導法 【教員免許状取得のための履修区分】必修	

授業概要・目的	(1)学級活動(ホームルーム活動)、生徒会活動、学校行事についての指導目標や内容に関する基礎的・基本的な知識を整理する。(2)学校現場では、望ましい集団活動が生徒の個人的な資質と社会的な資質を育むとともに、学習活動を統合し補完する役割をも果たしていることについて理解を深める。(3)「学級づくり」に焦点をあてて、教師と生徒の関係づくり、生徒どうしとの関係づくりが課題の解決にどのように作用しているかについて、事例をもとに考察する。
到達目標	学級担任として、集団活動を育て、教育諸課題に対応するとともに、安心して学校生活を送ることができる学級をつくる実践的な方法を身に付ける。
授業方法と留意点	テキストやプリント教材、視聴覚教材をもとに講義をすすめる予定である。特別活動は「自主的実践的な態度を育む場づくり」を目標とし、「為すことによって学ぶ」スタイルが求められている。そのことを踏まえ、集団をファンリテートすることができるよう、自身の「自己存在感」「共感的な人間関係」「自己決定」の充実を図るために、グループワークやグループ討議への積極的な参加を求める。
科目学習の効果(資格)	教員免許(中学校・高等学校)取得上必修科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：特別活動の指導法

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 特別活動の意義と課題	特別活動とは何か、特別活動の教育的意義、社会の変貌と子どもたちの状況、学級担任の役割	教科書第1章をよく読んでおく。学習事項を整理し感想をまとめておく。
2	特別活動と学級づくり	学級づくりとは何か、なぜ学級づくりなのか、「いじめ」「子どもの荒れ」「学級崩壊」「進路の壁」について	教科書第9章をよく読んでおく。学習事項を整理し感想をまとめておく。
3	特別活動の歴史、領域、方法	学習指導要領における位置づけの変遷、課題の変化、目標の変化、学校種別の目標のちがひ	教科書第2・3章をよく読んでおく。学習事項を整理し感想をまとめておく
4	特別活動と生徒指導	生徒指導との関連、積極的生徒指導に果たす役割、自己指導能力の育成	教科書第10章をよく読んでおく。学習事項を整理し感想をまとめておく。
5	学級活動	学級活動の目標・内容、年間計画、課題、実践的手法	教科書第4章をよく読んでおく。学習事項を整理し感想をまとめておく。
6	生徒会・学校行事	生徒会活動の歴史・目標・内容、学校行事の歴史・種類・内容・視点	教科書第5・6章をよく読んでおく。学習事項を整理し感想をまとめておく。
7	学習指導要領における位置づけと改定の要点	教育課程における位置づけ、現行学習指導要領における課題、改定の要点、言語能力の重視について	教科書資料編をよく読んでおく。学習事項を整理し感想をまとめておく。
8	特別活動の評価	評価の対象、機能、方法、評価結果の活用	配布プリントをよく読んでおく。
9	特別活動と総合的な学習の時間・道徳教育	総合的な学習の時間・道徳教育との関連とそれぞれの教育的意義	教科書第7・8章をよく読んでおく。学習事項を整理し感想をまとめておく。
10	特別活動と教育課題①いじめ・不登校	事例をもとにグループワーク、グループ討議を行う。	当該教育課題に関する報道内容等をチェックしておく。ミニレポートを作成し提出する。
11	特別活動と教育課題②体罰・非行	同上	同上
12	特別活動と教育課題③ジェンダー・マイノリティ	同上	同上
13	特別活動と教育課題④キャリア教育・進路選択支援	同上	同上
14	指導計画・指導案の作成	全体計画・年間指導計画の作成と内容の取り扱い、配慮事項等、指導案の作成	配布プリントをよく読んでおく
15	まとめ～子どもの自尊感情を高めるということ	集団的な自尊感情を育むことの重要性について	全学習事項について再度振り返り整理する。

関連科目 すべての教職科目と関連するが、特に、「教師論」「教育原理」「教育心理学」で学習したことと関連づけるとともに、「教育方法論」「生徒指導論」「教育社会学」などの学習につなげることが大切である。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新しい時代の特別活動	相原次男・新富康央・南本長徳	ミネルヴァ書房
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	担任力をみがく!	磯野雅治	雲母書房
2			
3			

評価方法(基準) 定期試験(50%)、レポート(30%)、コメントペーパー及び授業への参加状況(20%)を総合的に評価する。

学生へのメッセージ 学級はもともと「ある」ものではなく、つくって「なる」ものだと言われる。学級づくりには多様な方法論が存在するが、要は子どもどうしがつながりあって、心地よい関係の中で育つことができる環境をつくり、維持するために努力するというところに尽きる。それは、どのような時代にあっても教師であることの醍醐味である。

担当者の研究室等 7号館3階(林研究室)

備考